

平成13・14年度

国立情報学研究所年報

文部科学省

NII 国立情報学研究所
National Institute of Informatics

はじめに



国立情報学研究所は、文部省(現 文部科学省)の大学共同利用機関として平成 12 年 4 月に創設され、3 年が経過しました。

今回、研究所として 2 冊目に当たる年報をお届けすることになりました。本研究所の「情報学」は、情報科学・工学のみならず、自然科学から人文・社会科学まで、幅広い分野を研究の対象としています。そのため、外部の方々からは非常にわかりにくい面があったと思われれます。しかし、この 3 年の間に、研究所も量・質ともに着実に充実してきており、種々の成果が生み出されております。この間の特筆すべき出来事としては、平成 14 年 1 月のスーパーSINET の開設があります。これは世界最高速の学術情報ネットワーク

で、これにより、先端的な学術研究が大きく進展するものと期待しております。また、平成 14 年 4 月から、総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻の大学院生(後期博士課程)の受入を開始しました。次代を担う情報学分野の人材を育成するとともに、研究所の研究・事業に刺激を与えてくれるものと考えております。

現在、日本社会は経済の停滞や少子化高齢化などに伴う多くの課題を抱えています。学術・科学技術はそれらを解決する重要な要因の一つです。特に、情報通信分野の研究・技術開発に対する期待は大きいものがあります。IT 戦略本部では、平成 15 年 7 月に「e-Japan 戦略 II」を、8 月には「e-Japan 重点計画—2003」をそれぞれ取りまとめ、IT の利用・活用を一層進めるという基本理念が示されています。また、総合科学技術会議においても、情報通信分野を重点 4 分野の一つと位置づけ、研究開発に政府の予算・資源を重点的に配分すべきとしています。

このような背景の下、国立情報学研究所が担うべき役割は、一層重要になっていると認識しております。本研究所の研究成果が、本研究所の事業を通じて、広く社会に還元され、学術や科学技術のみならず、産業・経済の発展、ひいては国民生活や文化の向上に貢献するものとなるよう、努力を積み重ねてまいりたいと考えています。また、本研究所も平成 16 年春には大学共同利用機関法人となり、組織・体制も大きく変わることが予測されます。皆様方の益々のご支援とご鞭撻をお願いします。

平成 16 年 2 月

国立情報学研究所長

末 松 安 晴

目 次

はじめに

1. 概 要	1
(1) 沿 革	1
(2) 組 織	3
2. 研 究	10
(1) 研究活動の総括	10
(2) プロジェクト研究	17
(3) 共同研究	18
(4) 科学研究費補助金による研究	38
(5) 民間等との共同研究	70
(6) 受託研究	75
(7) 奨学寄附金	80
(8) 個人業績	84
(9) 研究成果の普及	252
3. 教 育	263
(1) 総合研究大学院大学情報学専攻の設置及び受入実績	263
(2) 特別共同利用研究員の受入	267
(3) 他大学院教育への協力	268
4. 大型プロジェクト	269
(1) スーパーSINET	269
(2) 超高速コンピュータ網形成プロジェクトNAREGI	269
5. 開発・事業	271
(1) 開発・事業活動の総括	271
(2) 科学技術振興事業団との情報関係事業の連携・協力	272
(3) コンピュータシステムの概要	274
(4) 学術情報ネットワーク (SINET) / スーパーSINET	275
(5) 目録所在情報サービス	278
(6) 情報検索サービス	282
(7) 電子図書館サービス	288
(8) オンラインジャーナル編集・出版システム (NACSIS-OLJ)	289

(9) 研究者公募情報提供サービス (NACSIS-CIS)	289
(10) 学協会情報発信サービス	289
(11) GeNii (ジーニイ : NII学術コンテンツ・ポータル)	289
(12) 学術研究活動等に関する調査/研究活動資源ディレクトリ (NACSIS-DiRR)	290
(13) 事業の国際展開	292
(14) 研修事業	303
6. 広 報	313
7. 図書室	315
8. 予 算・決 算	319
9. 施 設	322
(1) 学術総合センター	322
(2) 千葉分館	322
(3) 国際高等セミナーハウス	322
10. 会 議 等	323
(1) 参与会	323
(2) 評議員会	324
(3) 運営協議員会	325
(4) 各種委員会等	328
11. 記 録	397
(1) 人事異動	397
(2) 国際交流	401
(3) 表彰・受賞	403
(4) 活動記録	404

【図】

組織図・定員機構	7
スーパーSINETの構成	269
超高速コンピュータ網形成プロジェクト	270
国立情報学研究所コンピュータシステム	275
学術情報ネットワーク回線構成図	276
大学等の研究活動を総覧する情報提供サービス利用状況	
月別WWW検索トップページアクセス回数	291
月別データベース別（計）表示回数	292
各種委員会等	328

【表】

定員	9
国立情報学研究所公開講演会開催状況	252
軽井沢土曜懇話会開催状況	253
「デジタル・シルクロード」東京シンポジウム	255
NII国際シンポジウム	258
NII定例研究会開催状況	259
総合研究大学院大学情報学専攻の設置及び受入実績	
平成14年度大学院担当教官氏名一覧	264
平成14年度情報学専攻入学状況	264
外国人留学生出身国別内訳	265
国立情報学研究所外国人留学生奨学金（NII奨学金）受給者	265
平成14年度情報学専攻委員会開催状況	265
平成14年度大学院教育連絡調整委員会開催状況	265
特別共同利用研究員受入状況	267
他大学院教育への協力	268
開発・事業活動	271
科学技術振興事業団との情報関係事業の連携・協力	273
学術情報ネットワーク加入機関数	277
目録所在情報サービス参加機関数の推移	279
総合目録データベース収録件数	279
参照ファイル(MARC)収録件数	280
学術雑誌総合目録欧文編2002年版データ更新の参加組織数	281
ILLシステム(NACSIS-ILL)	281

データベースサービス一覧	283
利用状況	287
データベース作成協力機関への電子化データ提供	287
パーソナルコンピュータ用電子図書館プラグイン・ソフトウェア	288
学協会情報発信サービス収録状況/利用状況	289
大学等の研究活動を総覧する情報提供サービス利用状況	
トップページアクセス回数	291
学術情報データベース実態調査の実施/データベースディレクトリ	292
海外からの目録所在情報サービス利用機関	293
海外からの情報検索サービス利用機関	295
海外提供データベース一覧	296
海外からの電子図書館サービス利用機関	298
アジア情報調査活動/平成13年度の文献複写依頼	301
在日海外機関へのサービス	301
海外モニター	302
国立情報学研究所セミナー	303
情報ネットワーク担当職員研修	303
情報セキュリティ担当職員研修	304
情報処理軽井沢セミナー	304
総合目録データベース実務研修	305
NACSIS-IRデータベース実務研修	305
目録システム講習会	305
目録システム地域講習会	306
ILLシステム講習会	307
ILLシステム地域講習会	307
NACSIS-IR利用説明会	307
大学等主催講習会支援事業	308
国際研修事業	311
定例記者会見	313
図書所蔵冊数・雑誌所蔵タイトル数	315
購入雑誌　プリント版・オンライン版タイトル数	316
出版社別オンラインジャーナル一覧	316
施設・設備現況	317
図書館間相互貸借サービス件数	317
ISBN/ISSN発行状況	317

平成13年度事業費予算事項別の概要	319
平成14年度事業費予算事項別の概要	320
平成13年度決算額の概要	321
平成14年度決算額の概要	321
人事異動	397
外国人研究員の受入れ	401
主な海外からの来訪者	402
海外渡航実績	402
国際交流協定締結状況	403
表彰・受賞	403

1. 概要

(1) 沿革

国立情報学研究所は、「情報学に関する総合研究並びに学術情報の流通のための先端的な基盤の開発及び整備」(国立学校設置法施行令第6条)を行うことを目的とする大学共同利用機関として、学術情報センターの廃止・転換により、平成12(2000)年4月1日に創設された。国立情報学研究所の創設に至る経緯は以下のとおりである。

平成8年12月、学術審議会は、情報に関する研究分野の推進方策を審議するため、特定研究領域推進分科会の下に「情報学部会」を新たに設置した。

平成9年5月、日本学術会議は、「計算機科学研究の推進について」の勧告を行い、計算機科学研究の中核となる研究所の設立を提案した。

(抜粋)総合的な計算機科学の各分野の研究、学際的な研究体制による先端的な計算機科学の研究を推進する研究所の設置は将来の科学・技術の発展を促し、研究の空洞化を防ぐためにも極めて重要である。これらの分野において有為な人材を育成するためにも、計算機科学の中核的組織としての大規模な研究所が必要である。

平成9年7月、内閣総理大臣は、近時の情報科学技術を取り巻く急速な環境の変化に適切に対処し、情報科学技術の戦略的な推進方策の在り方を明確にするため、「未来を拓く情報科学技術の戦略的な推進方策の在り方について」を科学技術会議に諮問した。

平成9年12月、文部省は、中核的研究機関の研究体制の在り方等について検討を行うため、「情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議」を設置した。

平成10年1月、学術審議会は、「情報学研究の推進方策について」の建議を行い、情報研究の中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することを提言した。

(抜粋)情報分野の学術研究の深化の重要性にかんがみ、この分野の中核的な研究機関を大学共同利用機関として設置することが重要である。

情報科学・計算機科学を中心とした基礎研究から実証的な研究まで重層的な研究が可能な体制を持つ機関として整備する。

平成10年3月「情報分野における中核的な学術研究機関の在り方に関する調査協力者会議」において報告書が取りまとめられた。

(抜粋)改組の母体となる研究機関については、学術審議会建議においても、大学共同利用機関とする方向が出されていることもあり、既存の大学共同利用機関のうち唯一情報関係の研究開発を行っている学術情報センターを想定することが最も適切である。

平成10年4月、情報研究の中核的研究機関の準備調査に関する事務を処理するため、学術情報センターに準備調査室が設置され、準備調査に関する重要事項を審議する機関として、準備調査委員会が設置された。

平成11年3月、準備調査委員会において、中核的研究機関の名称を「国立情報学研究所(仮称)」とし、学術情報センターを母体として改組・拡充し、大学共同利用機関として設置する旨の報告を取りまとめた。

平成11年4月、準備調査委員会における検討結果を踏まえ中核的研究機関の創設に必要な諸準備を行うため、学術情報センターに創設準備室が設置され、創設準備に関する重要事項を審議する機関として、創設準備委員会が設置された。

平成11年6月、科学技術会議が、諮問第25号「未来を拓く情報科学技術の戦略的な推進方策の在り方について」に対する答申を行った。

(抜粋)大学においては、情報分野の学術研究及び人材育成の強化等のため、各大学の情報関係の学科・専攻等を拡充するとともに、大学共同利用機関として情報分野の中核的な研究機関を設置することが適当である。その機関は、大学間の連携に留まらず、大学以外の機関とも密に連携するものとして体制整備を進める必要がある。

平成11年7月、創設準備委員会において、国立情報学研究所(仮称)の具体的な組織等を内容

とする中間まとめが取りまとめられた。

平成 12 年 2 月、創設準備委員会において、最終的な報告が取りまとめられた。

平成 12 年 2 月、文部省事務次官裁定により国立情報学研究所(仮称)設置準備協力者会議が設置され、同会議において、所長候補者の選考が行われた。

平成 12 年 3 月、第 2 回国立情報学研究所(仮称)設置準備協力者会議において、教官候補者の選考が行われた。

平成 12 年 4 月、国立学校設置法施行令の一部改正により、国立情報学研究所が設置され、初代所長には猪瀬博前学術情報センター所長が就任した。

平成 12 年 10 月、大島理森文部大臣(当時)などを来賓として迎えて、国立情報学研究所創設記念式典を学術総合センターにおいて挙行了した。

平成 12 年 10 月に猪瀬所長が急逝し、11 月 27 日にその功績を偲んで研究所葬を行った。

平成 13 年 4 月に、末松安晴前高知工科大学長(元東京工業大学長)が所長に就任した。平成 13 年 8 月 31 日に、総務庁「科学技術に関する行政監察結果に基づく勧告(第一次)」(平成 12 年 12 月)を受け、文部科学省、国立情報学研究所及び科学技術振興事業団(JST)の三者の協議により、今後の本研究所と JST の協力の基本的な方針が「国立情報学研究所と科学技術振興事業団の情報関係事業の連携協力の基本的なあり方について」として取りまとめられた。平成 14 年 1 月には、10Gbps の世界最高速の学術情報ネットワーク「スーパーSINET」の運用が開始された。

平成 14 年 4 月には、総合研究大学院大学数物科学研究科に情報学専攻が開設され、大学院生(博士後期課程)の受入を開始した。また、新たな情報提供サービスとして GeNii(NII 学術コンテンツ・ポータル)の公開が開始されたほか、日米ドキュメント・デリバリー・サービスの運用を開始した。6 月には、米国 RLG との目録システム間リンクの運用を開始した。7 月に坂内正夫前東京大学生産技術研究所長が企画調整官(副所長)に就任し、その指導の下、9 月に研究プロジェクト等の企画・立案、産学官連携協力、競争的研究資金の獲得方策等を戦略的に推進するため、「研究企画推進室」(室長坂内副所長)が設置された。10 月には、総合研究大学院大学国際大学院コース(情報学専攻)が開設されたほか、メタデータ・データベース共同構築事業が開始された。平成 15 年 1 月には、研究協力・事業に関する国際的な推進を図ることを目的として「グローバル・リエゾンオフィス」(室長 根岸国際・研究協力部長, アクティング・ディレクター アンジェリーノ客員教授)が設置された。

国立情報学研究所では、情報関連分野の研究開発を基礎から応用まで総合的に進めるため 7 つの研究系と 2 つの研究センターを設置し、広範な領域に関わる総合的な研究を行うとともに、学術情報ネットワーク、目録所在情報サービス、情報検索サービス等の学術情報に関する事業の実施、また、総合研究大学院大学における教育・指導により、情報学研究の拡充・強化を図っているところである。



スーパーSINET 開通式(平成 14 年 1 月 9 日)



総合研究大学院大学情報学専攻ガイダンス
(平成 14 年 4 月 22 日)



総合研究大学院大学国際大学院コース(情報学専攻)
(平成 14 年 10 月 7 日)



研究企画推進室(平成 14 年 12 月 11 日)
左より 末松所長、坂内副所長、千葉管理部長

(2) 組織

本研究所の構成組織は、7 研究系(情報学基礎研究系、情報基盤研究系、ソフトウェア研究系、情報メディア研究系、知能システム研究系、人間・社会情報研究系、学術研究情報研究系)、2 研究施設(実証研究センター、情報学資源研究センター)、3 部(管理部、国際・研究協力部、開発・事業部)、9 課(総務課、会計課、研究協力課、広報調査課、成果普及課、企画調整課、ネットワークシステム課、コンテンツ課及びアプリケーション課)、1 室(研究成果普及推進室)、定員 159 名で構成されている。また、研究所の管理運営に関する助言、諮問機関として、評議員会(森亘日本医師会長他 19 名で構成)と、運営協議員会(坂内正夫副所長他 19 名で構成)がある。

さらに、情報学に関する研究及び学術情報流通のための基盤の開発等に関する諸問題について所長の諮問に応じるために参与会が置かれているほか、学術情報システム等に関する専門的事項を審議するために研究所内外の委員で構成する各種委員会が設けられている。

また、平成 14 年 9 月 20 日付けで、研究プロジェクト等の企画・立案、産学官の連携協力、競争的研究資金の獲得方策等に関する事項について審議を行う研究企画推進室、平成 15 年 1 月 15 日付けで、国際研究協力協定、国際交流・事業に関する事項について審議を行うグローバル・リエゾンオフィスを設置した。

① 研究系

平成 13 年度は 7 研究系 31 研究部門、平成 14 年度は 7 研究系 33 研究部門により構成。

情報学基礎研究系 計算機、情報数理、記号・メディア論、認知、生命科学など様々な視点から、情報学についての基礎的な研究を多面的かつ総合的に進め、情報学の基本的な概念や理論を作り上げることを目指す。さらに、これらの概念や理論を実用システムとして応用するために、新しい計算機の構成法や情報処理法を提案する。

情報基盤研究系 情報技術の基盤的な要素である計算機システムと計算機ネットワークの実現法について研究する。最先端の研究活動を通して、従来の計算機では実現できなかった複雑な情報処理を可能にする高性能な計算機システムの開発や、情報を円滑かつ安全に流通する高機能な計算機ネットワークの構築を行い、情報社会を支える情報基盤の新しい姿を追求する。

ソフトウェア研究系 情報処理の中核を成すソフトウェアの諸概念について研究する。ソフトウェアについて記述言語、処理系、開発法などの側面から、系統的に考究することによって、新しいソフトウェアコンセプトの創出を目指す。このような研究を通して、ソフトウェアの能力、生産性、信頼性を飛躍的に高め、より複雑で高度なシステムの構築を可能にする。

情報メディア研究系 情報学研究で扱う情報は、テキスト、画像、音声などの多様なメディアの情報

- を対象として、表現・解析・検索などの有効な処理方式を提案する。これらの活動を通して、人間と情報メディアとの関わり方を技術的側面から考究する。
- 知能システム研究系** 人間の活動を始めとして自然界に見られる各種の知的活動を分析することによって、知的な振る舞いが可能なシステムや、計算機と人間が適切に協調して問題に対処できるシステムの構築方法についての研究を行う。これらの研究を通して、人間の知的な活動を支援、代行するためのシステムの構築を目指す。
- 人間・社会情報研究系** 社会環境における情報の問題について研究する。社会における人間と情報との関わり、情報の流通・管理・利用の在り方、情報に関する社会的・制度的問題などについて研究を行い、人文・社会科学的観点から情報学研究の体系化を目指す。
- 学術研究情報研究系** 学術研究には、各分野でさまざまな情報が必要とされ、また、研究の中から新たな学術情報が生産・発信されている。こうした情報の役割や、それを効果的に流通させるようなシステムについて研究する。これにより、「学術情報基盤の高度化」を進めて、学術情報のための情報学の確立を目指す。

② 開発・事業部

4 課、13 係によって構成。

- 企画調整課** 企画調整課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 開発・事業部の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
 - 二 研究組織との連絡調整に関すること。
 - 三 開発事業計画の企画・立案及び作成に関すること。
 - 四 コンピュータシステムの企画・立案及び導入に関すること
 - 五 コンピュータシステムの運転、管理及び保守に関すること
 - 六 コンピュータシステムの統計及び調査に関すること
 - 七 コンテンツ、アプリケーションソフトウェアのコンピュータシステムへの登録、保存、運用及び保守に関すること。
 - 八 コンテンツ、アプリケーションソフトウェアの利用相談、利用申請(学術情報ネットワークに関するものを除く。)に関すること。
 - 九 コンテンツ、アプリケーションソフトウェアの利用に係る課金に関すること(会計課の所掌に属することを除く。)
 - 十 コンテンツ、アプリケーションソフトウェアの利用に係る広報に関すること。
 - 十一 その他、開発・事業部の他の課の所掌に属さない事務を処理すること。
- ネットワークシステム課** ネットワークシステム課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 ネットワークの開発企画・立案及びその連絡調整に関すること。
 - 二 ネットワークの整備運用及び管理に関すること。
 - 三 ネットワークの共同利用に関すること。
 - 四 ネットワークの統計及び調査に関すること。
 - 五 ネットワークの技術支援に関すること。
 - 六 実証研究センターとの連携に関すること。
 - 七 他の研究ネットワーク等との連絡調整に関すること。
- コンテンツ課** コンテンツ課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 多言語データベースの構築、運用管理及び技術動向の調査に関すること。
 - 二 画像コンテンツの形成の企画、標準化及び著作権処理に関すること。
 - 三 各種コンテンツを対象とした調査及び統計に関すること。
 - 四 コンテンツ流通支援データベースの構築に関すること。
 - 五 図書目録所在情報データベースの構築及び運用管理に関すること。

- 六 雑誌目録所在情報データベースの構築及び運用管理に関すること。
- 七 電子図書館システムの運用管理に関すること。
- 八 ILL(図書館間相互貸借)システムの運用管理に関すること。
- 九 総合目録データベース WWW 提供システムの運用管理に関すること。
- 十 図書館情報システムの運用支援に関すること。
- 十一 情報学資源研究センターとの連携に関すること。
- 十二 各種コンテンツの構築及び運用管理に関する連絡調整に関すること。

アプリケーション課

- アプリケーション課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 各種コンテンツを提供する大規模情報システムの開発・管理及び高度化に関すること。
 - 二 データ処理技術を応用したアプリケーションソフトウェアの開発及び実証テストに関すること。
 - 三 ネットワークソフトウェア技術を応用したアプリケーションソフトウェアの開発及び実証テストに関すること。
 - 四 導入データベースの形成及び管理に関すること。
 - 五 受入データベースの形成及び管理に関すること。
 - 六 作成データベース(他課の所掌に係るものを除く。)の形成及び管理に関すること。
 - 七 データベースの著作権処理に関すること。
 - 八 オンラインジャーナルシステムの運用管理及びコンテンツの整備に関すること。
 - 九 研究者公募情報提供システムの開発及び管理に関すること。
 - 十 実証研究センターとの連携に関すること。
 - 十一 アプリケーションソフトウェアの開発に関する連絡調整に関すること。

③ 管理部

2 課、9 係によって構成

総務課

- 総務課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 研究所の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
 - 二 公印(会計機関の公印を除く。)の管守に関すること。
 - 三 評議員会、運営協議員会及びその他の会議(他の係の所掌に属する会議を除く。)に関すること。
 - 四 公文書の接受、発送及び整理保存に関すること。
 - 五 職員の出張に関すること。
 - 六 研究所の組織に関すること。
 - 七 規則等の制定及び改廃に関すること。
 - 八 自己点検・評価に関すること。
 - 九 情報公開に関すること。
 - 十 職員の定員、職制定数及び級別定数に関すること。
 - 十一 職員の任免、分限、懲戒及び服務に関すること。
 - 十二 職員の給与及び諸手当に関すること。
 - 十三 退職者の退職手当及び共済組合の長期給付に関すること。
 - 十四 栄典及び表彰に関すること。
 - 十五 その他、研究所の他の課の所掌に属さない事務を処理すること。

会計課

- 会計課においては、次の事務をつかさどる。
- 一 会計事務に関し、総括及び連絡調整すること。
 - 二 予算及び決算に関すること。
 - 三 収入、支出及び計算証明に関すること。

- 四 会計の監査に関すること。
- 五 会計機関の公印の管守に関すること。
- 六 債権の管理に関すること。
- 七 国有財産及び物品の管理に関すること。
- 八 公務員宿舎に関すること。
- 九 共済組合(長期給付に関するものを除く。)に関すること。
- 十 警備取締りに関すること。
- 十一 施設の整備に関すること。
- 十二 その他会計及び施設に関すること。

④ 国際・研究協力部

3課、9係、1室によって構成。

研究協力課

研究協力課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 研究協力及び国際交流に係る企画・調整に関すること。
- 二 共同研究に関すること。
- 三 受託研究、奨学寄附金及び科学研究費補助金(経理事務を除く。)に関すること。
- 四 大学院教育に関すること。
- 五 学術研究の奨励及び助成に関すること。
- 六 各種研究員の受入に関すること。
- 七 在外研究員、国際研究集会派遣研究員等に関すること。
- 八 外国人研究者等の受入れに関すること。
- 九 国際シンポジウムに関すること
- 十 国際学術協力協定等に関すること。
- 十一 その他、国際・研究協力部の他の課の所掌に属さない事務を処理すること。

広報調査課

広報調査課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 広報活動に関すること。
- 二 学術研究活動等の調査に関すること。
- 三 図書資料の収集、整理、保存及び利用に関すること。
- 四 図書室の管理運営等に関すること。
- 五 国際事業に係る事務の企画及び連絡調整に関すること。
- 六 国際事業の展開に関する調査、分析等に関すること。

成果普及課

成果普及課においては、次の事務をつかさどる。

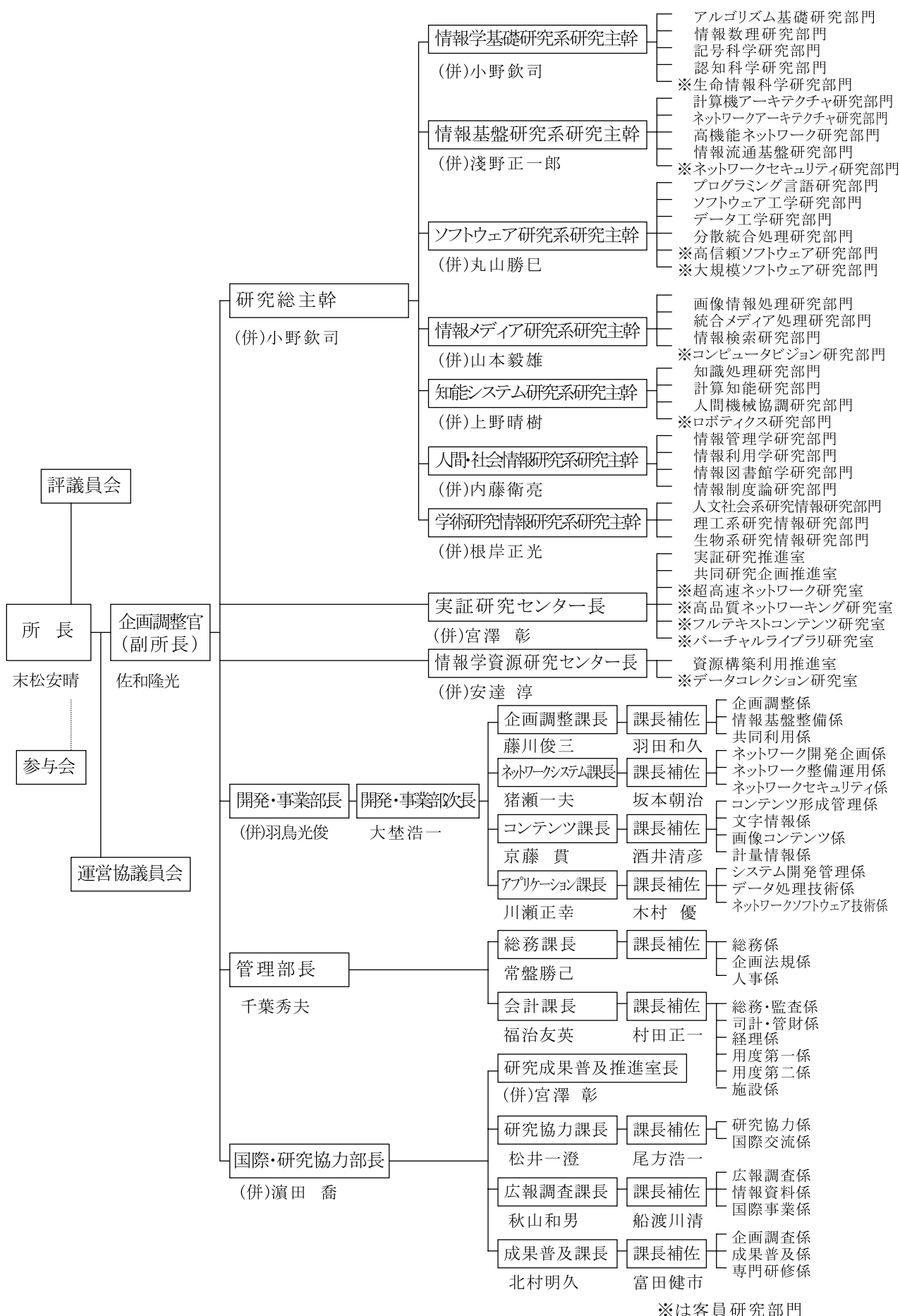
- 一 成果普及の企画及び実施に関すること。
- 二 研修事業の企画及び実施に関すること。
- 三 セミナーの企画及び実施に関すること。
- 四 公開講演会の企画及び実施に関すること。
- 五 学術講演会等の企画及び実施に関すること。
- 六 国内シンポジウムの企画及び実施に関すること。
- 七 成果普及並びに研修の統計及び調査に関すること。

研究成果普及推進室

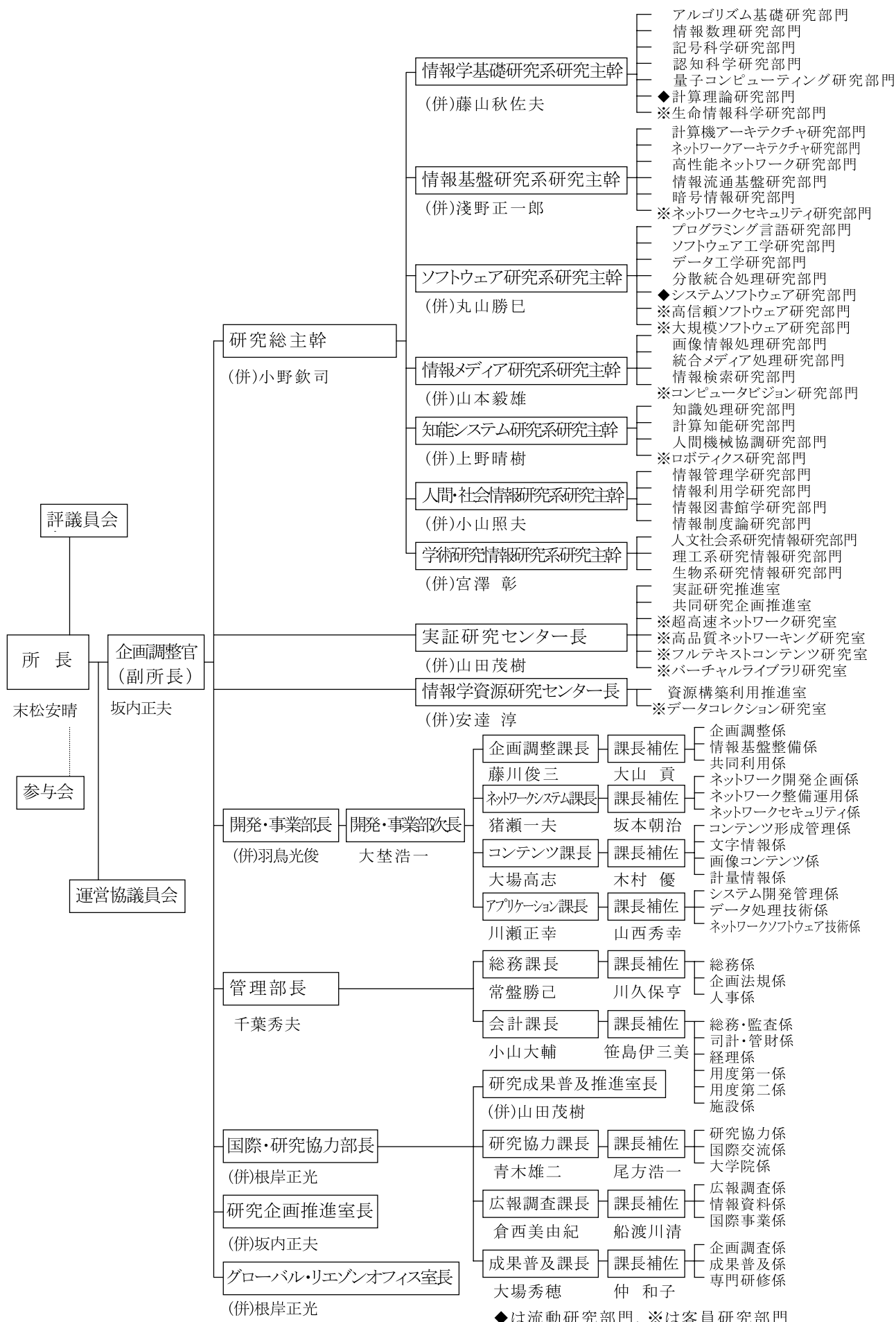
研究成果普及推進室においては、次の業務をつかさどる。

- 一 普及計画の立案及び普及における指導・助言に関すること。
- 二 海外学術情報サービスの調査活動に関わる連絡調整に関すること。
- 三 国内学術情報サービスの海外提供に係わる連絡調整に関すること。
- 四 専門家の知識更新の企画・実施のための指導・助言に関すること。
- 五 専門研修カリキュラム企画のための指導・助言に関すること。

組織図・定員機構（平成14年3月31日現在）



組織図・定員機構 (平成 14 年 3 月 31 日現在)



⑤ 研究施設

2 研究施設 8 研究室により構成。

実証研究センター 大学、国立研究機関や企業との交流を基にした実証的な共同研究の核として、様々な研究機関がプロジェクトに参加できる場を提供する。ネットワークや情報システムなどのテストベッド(現実規模に近い実験環境)を利用した実験やプロトタイプの開発を通じて基礎的な研究を実用可能な形にまで展開し、先端的な研究成果を学術情報基盤において実用化する。

情報学資源研究センター 実際に扱われている情報に立脚した研究を行うために、デジタルコンテンツ、ソフトウェア、電子化教材や資料など、様々な情報資源を継続的に開発・収集して情報学研究者の共同利用に供する。特に、大規模なデータコレクションの開発や情報の標準化などを第一線の研究者と協力して行うことにより、最先端の研究開発をサポートする。

定員

区 分	所 長	企画調整官 (副所長)	教 授	助教授	助 手	事務官	技 官	一般職員	計
平成13年度定員	1	1	② (11) 28	(10) 28	17	34	33	10	② (21) 152

区 分	所 長	企画調整官 (副所長)	教 授	助教授	助 手	事務官	技 官	一般職員	計
平成14年度定員	1	1	② (11) 32	(10) 32	17	34	32	10	② (21) 159

()書は客員分で外数

○書は外国人客員分で外数

2. 研究

(1) 研究活動の総括

研究活動に関しては、平成 13～14 年度も引き続き情報学に関する総合的研究を行うと同時に、研究成果を活用した先端的な学術情報システムを形成・運用する事業への貢献をしている。研究と事業を車の両輪のように連携させ、情報学に関する基盤的研究・総合的研究と我国における学術情報基盤確立のベースとなる研究も推進している。

7つの研究系及び2つの研究施設において情報学の様々な研究分野にわたる研究を行っているが、分野横断的な研究も実施した。

・ソフトウェアの研究

分散 OS、生産性・信頼性向上を旨とする開発技法など総合的な視点での研究を進めた。

・スーパーSINET/SINET

平成 14 年 1 月には、最先端のテクノロジーである光波長多重化装置と光クロスコネクタを用いた世界最高速の研究用インターネット、スーパーSINET の運用を開始し、観測実験・シミュレーション等で大容量のデータを扱い、超高速・広帯域のネットワークを必要とする高エネルギー・核融合科学、宇宙・天文科学、遺伝子情報解析(バイオインフォマティクス)、スーパーコンピュータ等を連動する分散コンピューティング(GRID)及びナノテクノロジー等先端の学術分野における研究の基礎を整備した。

・モバイルエージェント

エージェント技術の研究を進め、ソフトウェア自体がネットワークを移動し、情報検索や電子取引、機器制御などの様々な処理を行う自立的なソフトウェアを開発した。

・ユビキタス・コンピューティング・ネットワーク

ユビキタスコンピューティング研究を開始し、次世代のネットワーク環境やユーザ嗜好を意識した研究を進めた。

・大学別論文数と引用文献

大学等各機関の活動度や研究水準を測るための指標の一つとして、引用索引データベースの集計分析を行った。具体的には、各大学の論文数と引用の国際的な状況を観測するため、米国の ISI の引用索引データベースの分析を行った。また、ISI に収録されない、主として和文の論文についても同様の分析が必要で、データベースの作成と分析を進めた。

・その他新聞発表・国際シンポジウム等

クラスタ PC 間 OS、Webcat Plus、E-learning、Digital Silk Roads などの研究成果を新聞発表等を通じて公開した。また本研究所の研究者が代表者となった国際シンポジウム(NTCIR、デジタルシルクロード等)を開催し、国内外の多くの研究者に開かれた研究交流を行った。

情報学基礎研究系において従来のコンピュータ科学の基礎分野に加えて、量子コンピューティング部門を新たに設置し量子情報処理の研究を開始する体勢を整えた。暗号情報研究部門を設置して高度情報社会におけるセキュリティ基盤を確立するための研究を開始した。

① 情報学基礎研究系

情報数理研究部門では、偏微分方程式の差分近似やマルコフ連鎖の解析などで生じる特異な線形系に対する共役残差法(CR法)、一般化共役残差法(GCR(k)法)、一般化残差最小化法(GMRES法)の研究、Jacobi-Davidson法の精度保証計算および理論研究(速水)を展開すると共に、コミュニティ形成型遠隔教育システムに関する研究を開始した(新井)。また、奈良(平成 14 年 1 月～15 年 3 月まで在籍)は、脳磁図逆問題などに応用される 3 次元ポアソン方程式のソース項同定逆問題において、領域内のソース分布に応じた効率的な直接解法を構築した。

アルゴリズム基礎研究部門では、前年度に引き続き古典的論理に対応する型理論に関する研究を行った(龍田)。また、宇野は高速離散アルゴリズムとその応用に関する研究を行い、グラフの極大クリークを全て見つけるアルゴリズムの高速化により、大規模で現実的な問題に対して理論的かつ実験的に、既存の手法よりも計算時間を大幅に短縮できた。この成果により、web ページや辞書データ、文書

データなどの大規模なデータを機械的に分類したり、関連する項目を自動的に纏め上げることが可能になった。また、データマイニングの基礎的な問題の解法へも応用し、既存の手法より大幅に高速化できた。平成 14 年 1 月に着任した照井は、構成的論理、型理論、計算量理論に関する研究を実施した。

記号科学研究部門においては、通信が不完全な場合に先行投機的処理を行うエージェントに対する理論的な意味論ならびに実装手法、デフォルト論理を用いた極小性検査を用いない完全かつ健全な極小変更仕様、宇野助教授と共同で従来のアルゴリズムよりも格段に計算オーダの低いデータマイニングのアルゴリズムの研究開発を行った(佐藤)。また、自然言語処理の為の機械学習、情報抽出、オントロジー工学の研究(コリア)、節集合を導入した叙述論理の知識ベース推論に関する研究(兼岩)を行っている。

認知科学研究部門では前年度に引き続き、Web コミュニティ、発見システム、図による推論に関する研究を行った(村田)。また、発話と身振りの個人内及び個人間における協調を可能にする機構を生態力学という観点から明らかにし、特に発声の下位系である呼吸運動に着目して発話と身振りの協調を生態力学的に制約する情報を特定することを目的とした研究を行った(古山)。

計算理論研究部門(流動)では、極限集積化のパイプラインアーキテクチャに関する研究(日比野)、コンポーネント技術のソフトウェア工学への応用に関する研究(鈴木)が行われている。

平成 14 年度に設置された量子コンピューティング研究部門には山本がスタンフォード大学から、松本が科学技術振興事業団から着任し、研究を開始した。また、当部門には暗号情報研究部門に 14 年度に着任した根本も共同で研究を行っている。

生命情報研究部門(客員)では、大規模生命情報データベース(菅原)、大規模ゲノム情報処理研究(森下)を実施した。

② 情報基盤研究系

情報基盤研究系では、情報技術の基盤的要素であるコンピュータとネットワークの実現法について、高性能化と高品質化を念頭に置きつつ、基礎から実装にいたる一貫した研究を行うことにより、社会の要請に応えることを目標としている。平成 14 年度には暗号情報研究部門が整備されており、さらに幅広い活動が予定されている。

(ア) 高性能組込マイクロプロセッサの開発

周辺専用回路と効率良く協調動作可能な低消費電力の組込マイクロプロセッサを開発している。このプロセッサとネットワーク回路、暗号回路、マルチメディア処理回路等の専用回路から成る機能分散型の制御回路を採用することにより、最小限の電力で必要とされる機能が実現される。平成 13 年度には回路線幅 $0.25 \mu\text{m}$ の CMOS LSI により協調動作のための機構を搭載した RISC プロセッサ JSTEP-1 (80MHz 動作)を試作した。この成果を受けて、動作周波数 200MHz 程度で周辺回路を内蔵した実用レベルのシステム LSI を開発中である。

(イ) 次世代オペレーティングシステムの開発

安価な PC クラスタに対して、高可用性、無停止ノード保守機能、動的クラスタ再構成能力、並列処理によるアプリケーションの性能向上をもたらす次世代オペレーティングシステム SSS-PC を研究開発している。ワークステーションクラスタ用 OS である SSS-CORE の研究開発成果を引き継いで研究開発を行い、平成 14 年度にはプロトタイプが PC クラスタ上で動作した。平成 15 年度には完成度を実用レベルに高めた SSS-PC をリリースする予定である。

(ウ) 非同期式システムの設計と検証に関する研究

非同期式システムの設計および検証を支援するために、高位仕様記述言語からの回路自動合成システム、非同期式システム向け形式モデル、および非同期式システム用形式的検証システムの開発および拡張に取り組んでいる。特に、結果の正しさを保証しつつ、必要な状態空間のみを選択的に探索する partial order reduction 技術の開発を行い、良好な結果を得た。

(エ) 光ネットワーク・アーキテクチャの開発

TDM、ATM、MPLSなどの各種ネットワークのパス構成要素に加えて、光波長パスをも統合して制御を可能とするアーキテクチャと実現手段の開発を行っている。GMPLS(汎用 MPLS 制御)と呼ばれる方式を利用するものであるが、研究者の要求に応じて瞬時かつ経済的に超高速通信路を設定することを目標としており、産学協同開発により基本機能の評価が行われている。将来のスーパーSINET に採用するべく、機能の高度化を続けている。

また GMPLS の応用として、DoS 攻撃をはじめとしたコンピュータ犯罪者の攻撃を局所化してネットワークの耐力を高めるサーバー分散技術の検討を実施している。

(オ) 高機能ネットワーク制御技術の開発

IPv6 は次世代インターネット技術であるが、その運用のために必要なアドレス割当、ルーティング処理を高速化するための対策を中心に、独自の運用方式を開発した。また、分散自立的ルーティング制御が、瞬間的に発生するトラフィックの集中や、障害による迂回路の検出のために有効であることを明らかにし、その実用化に向けた開発を続けている。

(カ) 高品質ネットワーク制御技術の開発

インターネット通信の品質保証を実現するために、通信容量の設計・トラフィック制御・品質推定までを一貫した研究開発を進めている。これまでに、トラフィックの自己相関が強い超高速インターネットを対象として通信品質推定法を考案し、これをネットワーク設計に活用するために、実トラフィックから品質推定に必要なパラメータを抽出し、これによる品質推定の有効性を明らかにした。今後は、ネットワーク設計を容易にするために、設計ツールの開発を進めていく。

(キ) ユビキタス・コンピューティング・ネットワーク制御技術に関する研究

ユビキタス・コンピューティング・ネットワークにおいて、ユーザの状態やユーザの環境に関する情報(ユーザ・コンテキスト)をネットワークが自動的に取得し、ユーザ・コンテキストを解釈してユーザが欲する形の通信サービスや情報配送サービスを自動的に提供する方式の研究を進め、プロトタイプシステムによる検証を進めた。

③ ソフトウェア研究系

ソフトウェア研究系では、情報処理の中核をなすソフトウェアの諸概念、諸技術について基礎から応用まで一貫した研究を行うことにより、新たなソフトウェアコンセプトとソフトウェア技術を創出することを目標に研究を進めている。

(ア) プログラミング言語

プログラミングのモデル、分散システムのオブジェクトモデル、ミドルウェア、制約プログラミングについて研究している。また成果の応用にも留意し、情報の類似性を高速計算する汎用連想計算エンジンの開発とそのNIIの図書情報検索サービス Webcat Plus の連想検索への応用、制約プログラムのソースコード公開などを行った。

(イ) マルチメディア情報の特徴抽出と検索

ビデオ、音声、テキストなどを含む複合情報の効果的な情報処理や検索付与法、各種メディアのソフトウェアコンポーネントの複合などの研究を行っている。平成 13、14 年度は、大規模なニュース映像アーカイブを対象として、映像中から抽出した人物の顔情報の高精度の照合手法、多次元マルチメディア情報の近接点の有意性に基づく近接検索の高度化、映像シーンの自動分類、撮影者の意図の解析による映像中の着目物体の抽出などについて検討を行った。

(ウ) データ工学

大量不均質情報を有機的に蓄積・管理し、多様なニーズに応じて適切な情報を適切な時に適切

な形で提供するために、データ収集からデータ分析、DB 設計管理、データマイニング、データ提供までの手法を探求している。平成 13～14 年度は、下記の研究を進めた。

- ・分散情報の効率的な活用法の研究：P2P システムにおける効率的な情報発見法に関する研究。
- ・分散情報資源の統合的な活用法に関する研究：大学院生による小型人工衛星開発・運用プロジェクトに参画し、設計情報の収集・蓄積から活用までを支援するシステムの開発と実験を行った。
- ・マルチメディアアーカイブの研究：芸術に関する情報を対象として、動画・音声などを含むマルチメディアアーカイブの構築および活用に向けて、コンテンツ収録・作成と閲覧手法に関して検討を行った。

(エ) 分散処理

ネットワーク上に分散して存在する計算機資源・装置や情報資源を統合し活用するために、分散 OS 技術、分散協調処理システム、広帯域通信のサポートなどを研究している。組込みシステム、制御システム等は OS に対する要求が用途によって大幅に異なるため、要求に応じて拡張可能で、融通性に富み、プログラム開発を容易化する OS が望まれる。13、14 年度は、マイクロカーネルの上にユーザーモードで走るサービスタスクを要求に応じて載せるだけで自在に機能を拡張できるマイクロカーネル＋マルチサーバー型 OS “L4minix”の検討と試作を行った。

ソースコードと資料は、<http://research.nii.ac.jp/H2O/>上で公開している。

(オ) マルチメディア情報配送サービスシステム

地理情報、デジタルシルクロードおよび教育分野を目標とするマルチメディア情報エンジンの研究を行った。鍵となる技術は、イメージ学習によるオントロジー、マルチリンガルデータ構造、クラスター計算機である。

(カ) 統合サービス網のサービス品質制御

情報通信および分散処理の分野において、統合サービス網における情報伝達の品質に注目し、自己相似性を含むさまざまな特性が伝送品質に対する影響、ならびにそれらを制御し、有効に伝送を行うための方法について検討した。さらに、超高速な次世代光通信ネットワークにおける品質制御方式の研究について取り組んだ。

④ 情報メディア研究系

情報メディア研究系は、テキスト・画像・音声などの多様なメディアの情報を対象として、その入力・蓄積・解析・検索・通信・表示などの処理方法を研究するのが目標である。最近の動向は、大量のマルチメディア情報の統合、大規模なアーカイブの構築およびヒューマンインターフェースの開発等の研究である。以下に、特徴ある研究成果をあげる。

(ア) 実時間処理に適した多次元画像情報の研究(児玉助手[当時])

複数の画像から、任意の位置に焦点のある画像、多数の位置に焦点のある画像等を、実時間処理に適する高速度で生成する方法を研究した。また、多数の画像から立体画像を構成する方法を研究した。さらにこれらのアルゴリズムと、センサやカメラ等のハードウェア、分散協調型組込 OS の統合により、実時間で種々な品質調整を可能とする映像システムの研究開発を行った。

(イ) マルチメディア・アーカイブの構築の研究(片山助教授、北本助手、山本教授、神内教授)

片山助教授は、佐藤真一助教授(当時)とともに、画像情報等のマルチメディア情報の多次元検索に適するアルゴリズムの研究を行い、これを利用した大規模映像アーカイブの構築を行っている。北本助手は衛星画像の大規模なアーカイブの解析により、台風に関する情報の抽出を行い、これを利用して Web 上に台風情報のポータルサイトを作成・運営している。山本教授、神内教授、北本助手は、小野教授のデジタル・シルクロード共同研究に参加し、シルクロード関連情報の大規模アーカイブを

構築している。

(ウ) RFID(高周波を用いる非接触メモリ)の利用によるグループ活動支援システムの研究(橋爪教授)

RFIDを用いて、多数の位置情報を同時に認識できるインタラクションボードを製作し、これを教育現場に利用した学習システム、思考支援システムなど、新しいヒューマンインターフェースにより人間のグループ活動を支援する研究を行った。

その他、ユビキタス情報提供システムの研究(上岡助手)、デジタル放送・放送政策の研究(羽鳥教授)等を行っている。

⑤ 知能システム研究系

知能システム研究系では、人の知的活動を支援し、人に代わって知的作業を代行するような知能システムの実現を目指した、様々な基礎研究を進めている。以下に主な研究の概要を述べる。

福祉サービス等を対象としたヒューマノイド型共生ロボットの知的機構に関する研究、および高等教育向け汎用遠隔教育環境の研究を行った。共生ロボットに関しては、様々な知的機能を統合化する仕組みが不可欠であるという考えに基づき、分散型知識処理環境 SPAK の研究開発を行い、ビジョン、音声対話、知的判断行動を統合した実証実験を行った。遠隔教育環境に関しては、ウェブによる教材開発利用環境 WebLS の開発を行い、共同利用環境としてウェブ上で公開した(<http://webls.ex.nii.ac.jp/WebLS/index.html>)。

携帯電話上で記述・動作でき、サーバ上や、他の携帯電話を自由に動き回ることが出来るスクリプトエージェント Flipcast を公開した(<http://flipcast.ex.nii.ac.jp/>)。東芝との共同研究の一環として実施したものである。さらに、コンテンツをエージェント化し自律性を持たせることで、コンテンツ自らがコンテンツの氾濫を回避することを可能とするアクティブコンテンツのコンセプトを提案した。なお、本研究は、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度からの受託研究として実施した。

インターネットを通じた知識共有を実現するためにオントロジーとコミュニティ支援に関する研究を行った。前者としては概念体系の類似性を意味的方法、構造的な方法から発見する方法についての研究を行った。後者としては人のネットワークの発見と最適化についての研究、エージェントによるコミュニティにおけるコミュニケーション支援などについての研究を行った。

身につけた視覚センサからの映像情報によって、その人の意図や行動の意味を機械に理解させることを目指して、視線測定装置とコンピュータ制御可能な 2 台の首振りカメラで構成される装着型ビジョンセンサを開発した。このセンサは、カメラが装着者と視点を共有することで、装着者の視線情報を獲得することができる。そして、周囲の奥行きが場所毎に大きく変わる日常生活環境でも、正確にその視線情報を検出する手法を考案した。

化学情報の数値的表現および規範的コード化表現と検索、化学情報の体系化と知識化による化学反応予測ならびに核磁気共鳴(NMR)スペクトル予測の研究を行っている。平成 13、14 年度は、分子特性値化法 FRAU が、一定の空間範囲における立体化学環境の類似と相違を数値的に表現できることを示した。また、NMR スペクトル予測システム CASTCNMR のパフォーマンスの向上とデータの拡充をはかるとともに、本システムを用いた NMR スペクトルの帰属と立体化学決定法について検討し、その有効性を示した。

個別遠隔学習の問題点の分析を進め、個別適応的なコミュニケーション情報視覚化によるネットワーク上の社会関係構築支援の研究を行った。さらに個別ではない遠隔学習として、ネットワーク上での連句学習システムの研究開発を行った。教育学習環境の他方の要素である教師側環境については、デジタル教育コンテンツの分析による授業実施プロセス支援の研究を進めている。以上の成果は学術誌、国際会議等で発表した。

計算機による機械の知的な制御を行うために、制御プログラムの自動構築に関する研究を行った。そのための技術として、人間が機械を制御する手法の観察を通して、計算機が自動的に制御プログラムを構築する機械学習の手法を提案した。提案手法を評価するために、シミュレーションで得られたデータを用いて、自動車の運転プログラムを自動構築する実験を行い、その性能の評価を行った。

⑥ 人間・社会情報研究系

人間・社会情報研究系では、「社会における人間と情報との関わり、情報の流通・管理・利用の在り方、情報に関わる社会的・制度的問題等について研究を進め、人文社会科学的観点から情報学研究の体系化を目指す」ことを系の目的としている。

研究活動は、実際に情報を生成し、活用する観点から、言語、知識、情報、メディアなどの概念とその生成・管理・利用の諸様相を対象とすると同時に、実社会の中で情報技術が制度としてどのように定着していくのかに関する研究を行っている。

平成 13、14 年度には語彙・語形成研究の基本データ作成を目指して、学術論文抄録を形態素に分割し、各要素に品詞相当カテゴリーを付与したコーパスの作成を進めるとともに、データを公開する準備も行ってきた。

専門用語の形態的／概念的構造の解明、用語の自動抽出を多言語(日・仏・英)に関連づけて研究している。統計的手法に加えて、語彙意味構造や用語構成パターン等のモデルに基づいた用語構造の解析と解明を進めてきた。また、これと並行して、テキストからの用語抽出、多言語シソーラス自動構築等の研究を進めている。

情報学資源研究センターが推進している NTCIR プロジェクトの中で、情報検索とその評価方式の研究を進めている。ネットワーク上のメディアの多様化を考慮して、新聞、Web 情報、特許情報など、多彩な情報に対して、多言語の観点も視野にいれながら、評価用データの収集、検索課題の設定、課題難易度や検索システム性能を評価する手法を開発してきた。また、これらの情報を生成、管理するための構造化文書の在り方や、利用、管理のためのシステムに関する研究を進めている

情報技術を活用した、将来の社会インフラの観点から、電子商取引のための制度的プラットフォームに関する研究を進めている。諸外国における技術適用動向ならびに法整備状況に関する調査および比較研究を行うとともに、電子地域通貨の構築と交換に関する研究を行った。また、大学における情報システムセキュリティポリシーの策定と運用に関する研究を行った。

⑦ 学術研究情報研究系

学術研究情報研究系は、学術研究と学術情報との関係を分析して、学術研究を効果的に実施するための体系について研究する研究系であり、効果的な研究情報の生成・利用や、研究システムのあり方等が研究テーマである。従ってその研究は広範囲にわたるが、当面次のような問題関心を軸に研究を進めている。

国立大学法人化など大学環境の変革期を迎え、有効な研究評価システムの構築は、学術・科学技術政策における重要課題となってきた。このためには数量的指標の必要性が指摘されているが、ISI 社のデータベースを応用したインパクトファクターのみが有名になる一方、真に有効な指標の整備は進んだとは言えない状況である。この問題を解決すべく、幅広く我が国の各種の文献抄録・引用索引データベースをも利用し、統計的処理を加え、国・機関・分野・年次等、属性別の論文数・引用度数を算出分析するというビブリオメトリックス的研究をさまざまな視点から行っている。

これらの研究をまとめ、実用的な研究評価指標の開発を行うことが、近々の課題となっている。

一方、国内における研究評価にとどまらず、学術研究成果の国際的流通状況を検証し、我が国の学術研究が国際的にどのような位置にあるかを客観的に示すことは、我が国全体の学術発展にとっても、また今後の学術・科学技術政策の展開にとっても重要である。このため、各種データベースや、調査をもととした学術研究成果流通の国際的比較を行っている。この研究では、単に論文数や論文の引用数などの分析にとどまらず、国際共同研究、国際的産官学連携の分析などを展開してきた。過去の成果の静的捕捉だけでなく、研究体制及び研究成果流通の動態解明を目標としている。

研究体制や、研究支援体制が研究成果にどのように結びつくかも、学術発展のために重要な研究課題である。とくに独創的研究がどのように生まれるかは多くの人の関心事ではあるが、研究としては困難な課題である。この課題に取り組むために、企業内研究開発チームにおける集団的毒性の発現に関する研究などを行ってきたが、これらをふまえ、創造性の概念の分析、心理学的視点などを取り入れてさらに研究を進める。

評価や国際比較に使用する研究手法は、学術分野の間の動態解明にも応用できるものである。広

く複合的な分野である情報学の体系化のために情報関連分野を主対象とした類似度測定などの統計的手法により、情報学関連分野間の関連性の解明などを行ってきたが、さらにこれをゲノム研究など生命情報学の分野に広げている。最終的には全学問領域の再編成をめざす研究である。

これらの研究にあたっては、当研究所で作成・サービスしている各種の学術データベースを有効な研究資源・手段として応用しており、こうした環境的特性を生かした実証的研究を主軸として、今後も研究を進めていく。

⑧ 実証研究センター

本センターは、大学、国立研究機関や企業との交流を元にした実証的な共同研究の核として、ネットワークや情報システムなどのテストベッドを利用した実験や、先進的なシステムのプロトタイプの開発を通じて、基礎的な研究を実用可能な形にまで展開するとともに、先端的な研究成果を学術情報基盤において実用化することを目標としている。

本センターにおけるプロジェクトは、(a)センターが主体的に企画するもの、(b)所内からの提案に基づくもの、(c)開発・事業の要請に基づくもの、の3種類に大別される。平成13、14年度にはそれぞれについて以下のようなプロジェクトを行った。

(a)のプロジェクトとしては、1. 高品質ネットワークの開発、2. デジタルコンテンツ統合プラットフォームの2つを行ってきた。1. はQoS制御に基づくネットワークを実現するための実証試験であり、情報基盤研究系等と共同で研究を進めた。2. はインターネット上の情報群から適切な情報のみを選別・抽出して組織化し、提供するシステムの研究であり、所内各研究系・研究センターから約20名の研究者が参加して研究を進め、成果の一部は「学術コンテンツ・ポータル GeNii」として学術情報基盤において実用化された。

また、情報学資源研究センターの「大規模テストコレクション・プロジェクト (NTCIR)」の一翼を担い、広く外部から参加する共同研究者のためのテストベッドとして、検索システムや判定システムなどの開発、オープンラボラトリーの整備・運営などを行った。

(b)のプロジェクトは上記2. のサブプロジェクトとして所内公募により選定し、平成13年度は、A. 学術情報の関連専門分野推定、B. 移動エージェントによるデータ検索統合システムの実証・開発研究、C. Web データからの学術情報の抽出と利用に関する研究、D. 統合プラットフォームにおけるスキーマ統合、E. NACSIS-ELS の一次情報のPDF化、F. 統合データベース検索システムの実装、G. 図書連想検索システムの研究、H. Semantic Web Services for Scientific Information、I. NII WebSearchの統合プラットフォームへの適用、の9件、平成14年度は、J. アクティブコンテンツによるコンテンツ流通プラットフォームの研究開発、K. 書誌情報の統合に関する研究、L. デジタル和独辞典 WadokuJTの運用システム開発、M. Ontology Learning from Images、N. デジタルコンテンツのための問い合わせ言語および並列画像検索エンジンの設計、O. 電子ジャーナルサーバシステムに適した類似検索機能の検討と実装、P. コンテキストウェアネスを用いたデジタルコンテンツ提供システムの実証研究、の7件を行った。また、所内からの個別提案プロジェクトとして、Q. 連想に基づく情報空間との対話技術の研究を行った。G.はGeNiiにおいて「図書情報ナビゲータ Webcat Plus」として実用化されており、C.、D.、H.は今後 GeNii に追加される構成要素として実用化が期待される。なお、その他一般的な研究成果は各研究分野に記述されている。

(c)のプロジェクトとしては、引用文献同定方式の開発を行った。開発・事業として行っている引用リンク作成システムにおける要請に基づくものであり、人間による確認・編集作業量の軽減と総合的な同定精度の向上とを同時に実現することを目標とし、民間との共同研究により、機械学習技術を用いた人間・機械混在系における判別処理の最適化を研究した。その成果は段階的に引用リンク作成システムに組み込まれて実用化されている。なお、上記(b)K.は本プロジェクトから発展したものである。また、E.およびO.も学術情報基盤を構成する既存の情報システムの高度化の要請を反映して提案されたものであり、E.は既に実用化された。

以上、実証研究センターの研究プロジェクトは、研究系における基礎研究成果の実用化を促進し、開発・事業における課題を研究系に還元するという役割を果たした。

⑨ 情報学資源研究センター

情報学資源研究センターでは、デジタルコンテンツ等の情報資源の形成・活用等に関わる共同研究を推進している。実施する研究は、すべて当研究所の共同研究の枠組みに沿って企画運営されたもので、研究所内部のみならず、広く外部に共同研究者を求め、様々なコンテンツの利用に係る研究を展開している。また、作成されたコンテンツは研究目的に公開されることを原則としている。平成 13 および 14 年度は、前年度からの継続および新規を含めて、次の共同研究を実施した。

神門典子助教授を代表とする「大規模テストコレクションの構築と情報検索システムの比較評価」は、2001 年 3 月の第 2 回 NTCIR (NACSIS/NII Test Collection for Information Retrieval) ワークショップを成功裏に完了したのを受けて、第 3 回のワークショップの企画、運営を開始した。今回は、タスクとしては、新聞記事を用いた日本語・英語・韓国語・中国語の言語横断検索、日本語文書の要約と質問応答、Web 検索、特許検索の 5 つのタスクで構成するとした。国内外の共同研究者の尽力もあり、無事に 2002 年 10 月 8 日から 10 日に渡る成果報告会を開催することができた。

影浦峽助教授を中心とするグループによる「語彙・語構成研究を考慮した言語コーパス作成と評価」プロジェクトでは、タグ付きコーパスを開発し計算言語学研究の共通のコーパスとして提供を目指してきた。

佐藤真一助教授を中心とする「映像メディア高度解析処理の評価を可能にするメタデータ付き映像コレクションの構築」では、電子情報通信学会ワーキンググループとの共同研究としてメタデータを付与した映像データを作成した。これを研究目的とするグループに配布する事業を 2002 年に開始することができた。

相原健郎助手を中心として「ものプロジェクト」という名称で、東京芸大等と共同して芸術表現活動のマルチメディアアーカイブ化とアーカイブ構築支援・提供システムに関する研究を開始して、芸術作品に関する解説等のマルチメディア情報のデータベース構築が進んでいる。

さらに、2001 年 10 月 22 日から 26 日にNIIを主催者としてダブリンコアメタデータおよびその応用に関する国際会議を学術総合センターにて開催した。この会議には 27 カ国から 267 人の参加があり、特に国外からは 88 人の参加があった。基調講演は京都大学総長長尾真先生にお願いした。

当研究センターには、オリア氏(米)、ダイユ氏(仏)、コドニエ氏(仏)が外国人客員研究員として滞在し、研究所内外の研究者との研究交流を行い成果を得た。

(2) プロジェクト研究

日仏共同研究

「日仏自動専門用語・異形抽出と構造化」(Loria/INRIA 及び Nants 大学 IRIN との共同研究)
影浦 峽、竹内孔一、辻 慶太

英語以外の言語に関する言語ペアについては、言語学習者用の辞書・専門翻訳者用の辞書・言語処理用の辞書を含め、全てにおいて、10 年以上、言語資源整備状況は遅れている。一方で、ネットワークの発展により、「外国語学習」というよりも気軽な「言語リテラシー」として、母語以外の言語に対する操作性を身につける感覚は社会的にどんどん広まってきている。

本研究では、こうした状況から、現在翻訳や言語学習に携わる人間にとって必要でありながらカバーされていない語彙資源として(1)分野に依存した語彙、とりわけ、現代的文脈では当たり前に使われているが辞書を見てもないような新語をカバーすること、(2)文脈に依存した表現の言い替えやバリエーション、句などについてカバーすることを目的に、日仏の非公式な共同研究として開始したものである。

2002 年度後半から、この一環として竹内孔一がフランスの Loria 研究所に滞在し、とりわけ、対訳語彙のマッチングに必須の、言語間での単語単位の並列規定の問題を中心に研究を進めている他、日本語の新語に多いカタカナ語を翻字規則によりフランス語と直接対応づける可能性についても検討がなされた。システムの一部はウェブで公開する予定である。

(3) 共同研究

平成 13 年度

「CFS を用いた情報検索システムに関する研究」

研究代表者：相澤 彰子

本研究は、情報検索システムにおけるソフトコンピューティング手法の適用可能性を探るものである。本年度は、「概念的ファジー集合 (Conceptual Fuzzy Set, CFS)」の形で表現した類義や共起のルールを、RBF (Radial Bases Function) によるネットワーク表現を用いて局所的に活性化して検索・文書ベクトルを生成するという高木らの手法の評価について検討を行った。具体的には、概念的ファジー集合および情報検索に関して情報交換を行い、情報検索 Web ナビゲーション、情報検索、有害情報フィルタリング等のアプリケーションへの適用可能性や、辞書やコーパスに基づく概念的ファジー集合の生成法等について議論をした。また、情報検索の評価ワークショップである TREC (Text Retrieval Conference) について、概念的ファジー集合の適用可能性や必要となる資源について検討を行った。

「二言語コーパスからの日英対訳辞書自動構築と評価に関する研究」

研究代表者：安達 淳

本研究では、国立情報学研究所で作成した日英の二言語コーパスを対象として、専門用語の対訳辞書を計算機処理によって自動生成する手法について研究した。専門用語は日々更新されており、人手でタイムリーに対訳を収集することは困難である。対訳辞書自動構築の研究としては従来より、並行 (aligned) コーパスから辞書構築がさかんに行われてきたが、本研究はこれを、必ずしも並行でない二言語コーパスからの対訳辞書構築に拡張するものである。

自動構築した辞書の評価ではまず、インターネット上で公開されている専門用語辞書 e-Words を用いて、対訳が見出された用語に関して、複数の訳語がある場合、どの程度曖昧さが解消できるかを実験的に評価した。この結果、日英で 90% 程度、英日で 70% 弱の精度で第一順位の訳語が正解であった。さらに、生成した対訳辞書を言語横断検索にも適用して、評価を行った。NTCIR-2 の言語横断検索タスクでの評価は必ずしもよくなかったが、これは、言語横断検索では、複合語の翻訳に主眼のあるこのシステムの結果より、むしろ単名詞などの語基を対訳する方がよい結果を与えるからではないかと考察された。

今後は、語基レベルでの精密な形態素解析、対訳辞書の利用方法の工夫によって精度、再現率を向上する必要がある。

「高等教育を対象とする Internet を用いた遠隔教育の研究」

研究代表者：上野 晴樹

Internet を利用した遠隔教育は、教育の一形態として実用化が国際的に急速に広まりつつあり、日本においても研究や実用化が活発化しているが、基本技術が要求レベルに達しているわけではない。本共同研究は、国内で遠隔教育の研究開発に携わる研究者らが個別に研究を進めるのみならず、研究者間での多様な視点からの情報・意見交換を通じて、各自の問題を捉え、またその問題意識を共有することを目的としたものである。それらは、

- ・教科「技術・家庭」技術分野を対象とした教員研修支援システム
- ・暗黙知と技術者教育に関する一考察
- ・生涯技術教育のための遠隔教育
- ・大学改革と情報技術
- ・遠隔教育システムによる大学発ベンチャー
- ・図書館業務支援システム自習システムの評価

といった幅広い視点からの議論や検討がなされた。

研究成果は以下の通りである：

1. 井上智雄, 上野晴樹, “図書館業務遠隔研修システムの利用者ログ分析”, 情報処理学会研究

報告, Vol. 2002, No. 6, pp. 43-48, 2002年1月.

2. 上野晴樹, “Intelligent システムとしての e-learning ー経験から学んだことを中心にして” 人工知能学会研究会資料 SIG-J-A102-1(12/07), pp. 1-6, 2001年12月.
3. Tomo'o Inoue and Haruki Ueno, “A Web based distance learning system to support professional training for librarians”, Proceedings of WebNet2001, pp. 574-579, 2001年10月.

「連想計算エンジン GETA による大規模文書分析手法の研究」

研究代表者：高野 明彦

IPA 独創的情報技術育成事業の一環として「汎用連想計算エンジンの開発と大規模文書分析への応用(研究代表者:高野)」(1999.4~2002.3)という研究開発を実施した。その中で、文書群間あるいは単語群間の類似性計算(連想計算)に基づく文書連想検索や文書群要約機能など、次世代情報検索技術の実現・評価に広く利用可能な高速の汎用連想計算エンジンを開発した。2002年2月には、このGETAシステム(Generic Engine for Transposable Association)のPCクラスタ対応版を開発した。

本共同研究では、GETA 開発者と GETA の利用者である文書分析研究者が共同利用できる研究用サーバー(PCクラスタ)を国立情報学研究所内に立ち上げ、両者の緊密な連携により、大規模データに適用可能な新しい文書分析手法の研究を行った。GETA システムが提供する連想計算の有効性が検証できた。

「古典論理に対する型理論」

研究代表者：龍田 真

古典論理に対する型理論の基礎理論に関する研究、および、基礎理論に関する研究成果をプログラミング言語設計へ応用する研究を、行った。このテーマに関して活発な研究活動を行っている研究者が集まって、新しい型理論の提案および型理論に関する新しい定理の証明に関して研究討論を行った。特に、 λ μ 計算、Catch/Throw 計算に関連する型理論および論理体系に対して、CPS 変換との関係、強正規化可能性、並行簡約、合流性に関する新しい知見が得られた。

[1] K. Nakazawa and M. Tatsuta, Strong Normalization Proof with CPS-Translation for Second Order Classical Natural Deduction, submitted.

[2] K. Baba, S. Hirokawa and K. Fujita, Parallel Reduction in Type Free lambda/mu-Calculus, Electronic Notes in Theoretical Computer Science 42 (2001).

[3] Yuki Yoshi Kameyama and Masahiko Sato, Strong Normalizability of the Non-deterministic Catch/Throw Calculi, Theoretical Computer Science 272 (1-2) (2001) 223-245.

[4] H. Nakano, Fixed-point logic with the approximation modality and its Kripke completeness, Theoretical Aspects of Computer Software, LNCS 2215 (2001) 165-182.

「社会コミュニケーション(ビジネス情報基盤)の研究」

研究代表者：内藤 衛亮

平成13年7月から3年計画として着手したもので、社会コミュニケーションの研究として、ビジネス・モデルとしてとらえ得る社会的行為と情報および情報基盤との関係を、ビジネス情報基盤ととらえ、その概念枠組みと方法論を探求することを目的として、下記のようなテーマに取り組んだ。

- ービジネス情報基盤研究の概念枠組みと方法論、事例研究
- ービジネス情報基盤の制度要因
- ー情報利用行動、情報探索プロセス
- ー情報政策(国家情報政策、リテラシー政策、図書館・情報サービスなど)
- ー地域研究(国内、ASEAN、東アジア、欧米)
- ービジネス情報基盤と人材

平成13年8月24日、同9月7日には国立情報学研究所において研究会を開催し、同11月29日には東京大学総合図書館において「学術コミュニケーション活動の構成要素(制作、制度、技術)」

と題する公開講演会を開催、平成 14 年 1 月 12～13 日には軽井沢国際高等セミナーハウスにおいて「社会コミュニケーションの研究」ワークショップを開催した。

いずれも社会コミュニケーションの研究について、方法論と対象についての検討を強く意識した活動となったが、全体像を求めるあまりに、研究の枠組みが拡散した印象を残した。しかし経営情報学会「ビジネス情報基盤」研究会との連携もあり、参加者には今後の研究活動の契機をもたらした討議となった。

成果は平成 14 年度として細部博史編「社会コミュニケーションの研究」2002 年 3 月 152 p. (ISBN4-86049-008-8)として刊行し、URL <http://www.nii.ac.jp/publications/kyodo/soc-com-01.pdf>からもアクセスできる。

「進化型ソフトウェア・アーキテクチャの研究」

研究代表者：本位田 真一

仕様の拡充／変化に対して動的かつ継続的に追従できるソフトウェアのためのアーキテクチャ(進化型ソフトウェアアーキテクチャ)への期待が高まっている。そうしたソフトウェアでは、環境の変化や仕様の変化に対して(過渡状態においても)ソフトウェアが暴走することなく適応できることがなによりも要求される。ここでは、それを進化安定性とよび、従来の安全性(safety)の概念を拡張したものと位置付ける。しかしながら、この性質に対する研究は従来十分に行なわれていない。そこで、この研究プロジェクトでは、この性質を進化型アーキテクチャに付与することを目的とした。本研究プロジェクトでは、まず進化型アーキテクチャのモデル化を行なった上で、プロセス代数に基づいて進化安定性の概念の形式化ならびにその性質の解明を図り、さらに制約解消系を用いた進化安定性の解決処理を実現するというアプローチをとった。実問題への適用検討が今後の課題である。

「移動エージェントによるデータ検索統合システムの実証研究」

研究代表者：本位田 真一

様々な移動エージェントによる情報検索システムの研究開発が進むと予想されるが、個々の移動エージェントごとの情報検索システムを統合することにより、個々のシステムの特長を活かし、かつ検索範囲や情報収集能力を補完しあう情報検索システムの実現が期待できる。なお、本研究組織では、既に、異なる移動エージェントプラットフォームの相互運用を目指し、「移動エージェント相互運用ミドルウェア」の研究開発を実施した。本研究では、「移動エージェント相互運用ミドルウェア」の研究成果をベースとし、移動エージェントによる情報検索統合システムの実現を目指した。その結果、本システムの実現により、様々なデジタルコンテンツのデータベースや情報源を検索の対象とできるだけだけでなく、情報端末側において、携帯電話、PDA、ノートパソコンなど端末の様々な特性等に合わせた複数の検索端末ソフトウェアからのアクセスが可能となることを確認した。たとえば、デジタルコンテンツ統合プラットフォームにアクセス可能な情報検索システムを、ある移動エージェントを使って開発した場合、その情報検索システムを本情報検索統合システムに接続・統合することにより、他の移動エージェントによる情報検索システム用の端末からもデジタルコンテンツ統合プラットフォームにアクセスすることが可能となることがわかった。

「学会関連データの関連分野推定」

研究代表者：山本 毅雄

図書館情報大学において、研究会を 5 回開催した。現在、論文を執筆中である。

「世論調査・社会調査のデータマイニングおよび共同利用に関する研究」

研究代表者：山本 毅雄

東京大学において、研究会を 2 回開催し、意見交換の後、共同研究を終了した。

「コミュニティ創造型遠隔教育の研究と実践」

研究代表者：新井 紀子

日本におけるWBTの可能性、特にオンライン上に学習支援者と学習者がオンラインコミュニティを形成することで、学習者の学ぶインセンティブを掘り起こす教育方法の開拓に取り組んだ。主として掲示板システムとチャットを活用することで、マルチ方向の意見交換(クラスルーム)とリアルタイムの質疑応答(オフィスアワー)を仮想的に構築し、全国から公募によって集められた約250名の中高校生に対して、カリキュラムを超える新しい遠隔教育の試み「e-教室」を行った。ここで重要なのは、参加者は特に学ぶ必然性や興味があるものではなく、学習コミュニティに参加することの楽しさから発するコミュニティへのロイヤリティによってより深く、前向きに学習に取り組んだということである。

この実践を経て、(1)OSや通信環境に依存せず、いつでも、どこからでもアクセス可能、参加可能であり、(2)専用ブラウザなど別途ソフトウェアの開発・メンテナンス・インストールが不必要であり、(3)学習者と学習支援者が「学び」に集中できるよう、ユーザフレンドリーなインタフェイスを持ち(4)理数科教育に不可欠な図(図、グラフ、表、モデル等)、数式、解説ビデオ等の教材のアップロード、ファイル共有がWebを通じて実現できる、遠隔教育のためのポータルアプリケーションソフトウェアNetCommonsVer1.0を開発した。

「離散アルゴリズムと組合せ最適化に関する研究」

研究代表者：宇野 毅明

この共同研究の目的は組合せ最適化に関わる研究者間の交流と、最新の理論や結果の情報交換、ディスカッションを通じてより深い知見を得ること、および各研究者の現在の研究をより深く進めていくことである。

そのために、4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月に情報学研究所所内にて研究会を開催した。毎回、メンバーの興味のある話題を発表、および国際会議出席者の報告により、最新の理論と結果を情報交換し、ディスカッションにより、それらに対する知見を深めることができた。発表内容は、整数計画多面体に対する高次元カットや、列挙アルゴリズム高速化の研究、IPCO、SODA、ISAACなどの国際会議出席の報告であった。

また、各メンバーが、メンバー自身の最近の研究を、研究途中、研究終了後に関わらず発表した。内容は、動的計画法の感度分析、最適列挙区割りを求める問題など。それらに対するディスカッションにより、個々の研究での問題点を解決したり、研究の幅を広げたりと、研究の質を高めることができた。

「大規模テストコレクションの構築と情報検索システムの比較評価」

研究代表者：神門 典子

情報検索技術、テキスト要約、質問応答などの情報アクセス技術の高度化には、多くの研究者が共通して利用できる、大規模な有効性評価の基盤が必要不可欠である。本研究では、情報アクセス技術の大規模評価基盤を提供することを目的として、(1)多くの研究者が繰り返し評価実験に使用できる大規模テストコレクションNTCIRの構築、(2)NTCIRテストコレクションを用いた検索および関連技術の研究と評価、(3)研究アイデアの自由な交換、システム間比較評価、技術移転促進のためのワークショップの開催、(4)評価手法と評価指標について研究を進めている。

本年度は、新聞記事を用いた日本語・英語・韓国語・中国語の言語横断検索、日本語文書の要約と質問応答、Web検索、特許検索を取り上げ、これらの技術を評価するための大規模テストコレクションNTCIR-3の設計と構築を進めた。また、第3回NTCIRワークショップのプロセスを開始し、参加グループである共同研究員と協調してテストコレクションを用いて研究を行った。評価の基盤として、対応する評価手法、評価指標、大規模テストコレクションの効果的構築戦略、検索課題の難易度予測などの研究を行なった。

国内外の多数の共同研究グループによる共通基盤上での特定課題の集中的研究という共同研究による当該技術の発展への効果も大きい。

「パターン認識及びメディア理解に関する研究」

研究代表者：佐藤 真一

パターン認識及びメディア理解は、ロボティクス・人間機械協調・映像処理・メディア検索などを支える基盤技術として、大変重要である。本共同研究では、映像インデクシング技術の研究の一層の高度化を目指し、パターン認識及びメディア理解の援用を推進することを目的とした。本共同研究の共同研究者である奈良先端科学技術大学院大学横矢直和教授は、この分野の第一人者であり、電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会の前委員長である。本共同研究では、年間10回程度研究打ち合わせを持ち、主として映像インデクシング研究におけるパターン認識及びメディア理解研究の援用法、今後のパターン認識及びメディア理解研究の方向性について討論を行った。

「バーチャルメディアスペースグリッドに関する研究 (Virtual Media Space Grid)」

研究代表者：Frederic Andres

本共同研究では、今後バーチャルメディアスペースプラットフォーム (VMSP) の一部として効率よくバーチャルメディアプラットフォームを管理するクラスタソフトウェアツールである SCE ルール、スケラブルクラスタ環境の拡張及び完成を目指した。VMSP プラットフォームのクラスタ自動生成という新たな機能を開始させその整備を図った。SCE は、クラスタ管理システム及びバッチスケジュールを VMSP に与え、その後のバージョンであり幅広く使われている MPI の実装である MPICH は PHASME 情報エンジンによる次段階でサポートされた。そのミドルウェアは、グローバル処理、クラスタメンバーシップ管理や分散されたイベント及び名称を与える等の多くのサービスを用意しおよそ 30API を提供した。更に、MPI に対しバグ除去をサポートした。そのクラスタ管理システムは、双方向であり、多くのコマンドツールを持つ強力なグラフィックユーザインタフェースを使った管理タスク、リアルタイムモニタサブシステム及びウェブに基づいたインタフェースを実行することが可能となった。このクラスタは現在タイの研究者との間で共同研究を進めているグリッドの一部として今後連動させる予定である。

「多言語マルチメディア文書管理における研究」

研究代表者：Frederic Andres

主な研究成果として、多言語情報検索システム機能を持つジオメディアツールの統合に向けた初期段階に到達した。マルチメディアアノテーション及び MPEG-7 の現段階の記述に従いドキュメントコンテンツ記述に基づく XML エンコードドキュメントのための意味論的索引付け手法を取り入れた。その知識は意味論的類義語辞典において 2 種類に定義づけられる。まず、概念型と関連型からなる領域知識である。これらの型は、ドキュメントとクエリ表示を比較するために使われるピボット言語を定義する。もう一つは述語知識であり 1 言語につき 1 つにおいていくつかの語彙の中で組織される。述語知識は領域知識に関連するものでいくつかの言語における領域知識を視覚化するために使われる実在する言語からなる。多次元索引を加工するため意味論上のグラフに命名された知識モデルは XML トピックマップアプローチへと拡張した。このモデルは領域知識と述語知識が異なることで強化された概念的グラフである。なお、プロトタイプはオープンソースとして利用可能となる。

平成 13-14 年度

「スーパーSINET における超高速ネットワークの開発」

研究代表者：浅野 正一郎

国立情報学研究所では、平成14年1月から「スーパーSINET」の運用を開始している。これは、光伝送を大幅に取入れ、研究機関相互間を光通信による超高速接続することを目的としたものであり、波長多重伝送、光伝送路の切替えスイッチ(光クロスコネク)並びに超高速ルータを採用する世界初の試みである。その実現にあたり、日本テレコム社と共同研究を行っており、成果をスーパーSINET に活用している。

「映像メディア高度解析プロジェクト」

研究代表者：安達 淳

期間：平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日

本プロジェクトでは、映像メディア解析のために広く自由に利用しうる映像メディアコンテンツの在り方について検討し、実際にそのようなコンテンツを制作・頒布し、映像メディア解析研究の振興を図ることを目的とした。本プロジェクトの参加研究者らは、平成 11 年 10 月より、電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会のもとに評価用映像メディア DB 作成に関する検討部会を設立し、映像解析研究評価用映像の作成方針、映像メディア向きグランドトゥールース、評価用映像の入手方策、コンテンツ解析のためのメタデータなどについて検討を行ってきた。その検討成果も受け、本プロジェクトの成果物として、映像解析研究に広く利用可能な、ニュース・ドラマ・ドキュメンタリー・料理・情報という 5 種類の映像を含み、合計 2 時間分の映像を制作するとともに、映像メディア解析研究向けのメタデータを付与し、研究目的に広く配布した。これまでに、30 以上の研究拠点に配布し、数々の研究発表に利用されているなど、国内の映像メディア高度解析研究の振興を実現した。なお、本プロジェクトに関する参考文献として、以下のものがある。

(1)「映像処理評価用映像データベースについて」

馬場口 登、栄藤 稔、佐藤真一、安達 淳、阿久津 明人、有木 康雄、越後 富夫、柴田 正啓、全 炳東、中村裕一、美濃導彦、松山隆司

(2)「パターン認識・メディア理解研究専門委員会活動報告：ビデオデータベース及び研究会発表受付システムの作成」

佐藤真一、斎藤英雄、馬場口登

(3)「映像解析研究のためのアーカイブ」

研究代表者：佐藤 真一

「共生型自律ロボットの研究」

研究代表者：上野 晴樹

本共同研究の長期目標は、生活の中で人と共存する共生型自律ロボットの実現であり、そのために不可欠となる基礎的な概念、理論、技術の研究開発を行うことである。我々は、Internet に代表される IT の急速な進歩によって高度情報社会が訪れようとしているが、一方では人口の高齢化と若年層の減少が重大な社会問題となりつつあり、人に代わって福祉サービスを行う共生ロボット技術に関する社会の需要が増大しているという背景があり、本研究は国内外の社会的要望に応える極めて重要な基礎研究テーマであると認識している。

具体的には、千葉分館のロボット研究設備を活用して、LAN や Internet の分散環境における共生型自律ロボットに関する様々な基礎研究を行うことであり、自律行動型システム開発用の分散プラットフォーム SPAK をシステム構築上の中核とし、共生ロボットに関する重要な要素技術である、ロボットビジョン、人間－ロボット対話、協調システム、自律分散エージェント、知的計画・制御等の研究を分担して進めた。また、本研究の成果は、シンビオティック情報システム(SIS)の実現技術としても有用なものとなる。研究は長期的視点の下に進められているが、短期的な研究成果も出すことが出来た。主なものは、1) 人間－ロボットインタフェースとしての人物の顔の特定、視線の認識、および簡単な音声コマンドによるロボット操作システム、および、2) 分散環境での様々なエージェントプログラムを統合化するための知識型分散プラットフォームの仕様設計と一部実装実験である。研究成果は、ビジョン分野の国際会議や NII ジャーナル等で公表した。

「物理学分野における分散型オンラインジャーナルの研究」

研究代表者：大山 敬三

大山 敬三 国立情報学研究所・実証研究センター・教授

五神 真 国立情報学研究所・実証研究センター・客員教授

東京大学大学院・工学系研究科・教授

岡部 豊 東京都立大学・理学研究科・教授

鹿児島 誠一 東京大学大学院・総合文化研究科・教授

近年、学術雑誌のオンライン化が進んでいるが、これは原著論文を通じた学術情報公開の形態の歴史的な転換であり、学術研究に大きな変化をもたらしている。この状況の下で、我が国の学術研究情報の発信力と情報収集力を一層強化することは、科学技術分野における国際的競争力を高める上で重要な課題である。

このために、オンラインジャーナルの高度化に向けた基礎的検討を進めることが本研究の目的である。ここでは、国際的英文の学術誌の刊行において実績のある、物理学系分野を取り上げ、具体例をもとに検討を進めた。英文学術誌の中で、JJAP および JPSJ を対象とした。

検討課題は、

(1) 学術情報のオンライン公開のコンテンツ作製における技術的問題

(2) オンラインジャーナルの公開と研究活動度評価

(1)については、過去に別の目的で電子化されたデータの活用法について検討を進めた。また、投稿閲読編集作業における電子データの扱いについて検討を行った。(2)については近年普及が著しい論文引用データについて上記 2 つの雑誌について検討を行った。論文データは研究活動度の数値評価化という副産物をもたらしたが、技術的な問題も含めて多くの検討課題があることが明らかになった。多面的な研究評価に役立つようなデータベースの設計について研究を進める必要があると考えられる。

「デジタル・シルクロード国際共同研究」

研究代表者：小野 欽司

デジタル・シルクロード・プロジェクトは平成 13 年度より UNESCO の協力のもと、国立情報学研究所が中核機関となって日立製作所試作開発センタおよび内外関連機関と共同して展開している国際共同研究プロジェクトである。

先端情報技術と文化の融合を目指して、文化遺産のデジタルアーカイブとネットワークコラボレーションによるデジタル・シルクロードのコンセプト GMR(Global Multimedia Repository)のコンセプトを提案し、内外数 10 名の研究者が参加する国際的規模の研究計画をまとめた。

平成 13 年 12 月には東京シンポジウムを開催し、330 名の参加とシルクロード文化遺産をデジタル技術により、後世へ継承すべきであるとする「東京宣言」を行った。ここでの議論をベースに共同研究推進のため、ユネスコと MOU を締結した。

平成 14 年 3 月には破壊が進むバーミヤンバーチャルミュージアムのプロトタイプを構築した。第 2 回デジタル・シルクロード国際シンポジウムを奈良で開催する準備をすすめている。

「ネットワークを用いた大規模衛星データの準リアルタイム転送実験」

研究代表者：小野 欽司

本研究の目的は、ACRoRS/AIT で受信する TERRA 衛星 MODIS センサーおよび NOAA 衛星 AVHRR センサーデータという大量の衛星データを対象とした、インターネットを用いた準リアルタイムデータ配信/データ検索システムの実現である。

本研究グループでは、このような大量のデータ転送を準リアルタイムで実現するためのネットワーク基盤を、国立情報学研究所が提供する SINET のタイ回線および研究基準情報サーバを中心とした枠組で実現する計画である。具体的には、研究基準情報サーバ上に、衛星データミラーサーバや衛星データ検索サーバなどを設置することで、衛星データ転送と衛星データ検索をより高速かつ高度にすることを目標とする。またこうしたネットワーク基盤の実現と同時に、解像度が最大で 4 倍、チャンネル

数が 7 倍以上に高精度化した衛星データを用いた環境モニタリング、特に時系列災害モニタリングなどへの応用を進めていく計画である。

まず 2001 年 12 月に研究基準情報サーバの利用を開始し、継続的なデータ転送を目的としたシステム構築に取り組んだ。その結果、2002 年 3 月までには、継続的なデータ転送を開始することができた。またデータ転送速度も、約 130kbit/sec すなわち約 11.2Gbit/day にまで向上した。1 日単位の受信データ量が数ギガバイト程度に収まるならば、ネットワークを経由した準リアルタイムの衛星データ交換も十分に可能であることを実証した。これによって、日本の研究者がタイでの衛星受信データを入手するのに要する時間が、従来よりも大幅に短縮することになった。

このデータ交換は、その後も DMSP 衛星のデータ交換などへとその対象を広げ、日本とタイとの間での地球環境データの共有に大きく貢献している。またネットワークを用いた大規模衛星データの準リアルタイム交換を目的とした実証実験として、継続して取り組んでいる。

「音楽の類似性に関する研究」

研究代表者：佐藤 健

本研究では、音楽認知心理学の分野で、音楽的深層構造についての成果である Jackendoff と Lerdahl による調性音楽の生成理論 GTTM(“Generative Theory of Tonal Music”)を計算機上に実装し、楽曲から音楽的な深層構造を自動的に取り出し、その構造を利用した音楽の類似性尺度の提案を行うことを目的としている。

平成 13 年度においては、音楽認知心理学の分野で、音楽的深層構造についての成果である Jackendoff と Lerdahl による調性音楽の生成理論(“Generative Theory of Tonal Music”)について月 1 回程度研究打ち合わせを開催し、その議論に基づいて、基礎的な音楽解析理論の計算機上の実装が行われた。これにより楽曲の構文的解析の可能性が開き、それに基づいた類似検索への準備ができたといえる。

平成 14 年度においては、楽曲の (i) グルーピングに関する類似性検索のプログラム開発と (ii) 和音列の整合性認識のための文法規則を実装した。(i) においてはメロディーラインの共通なところを探索するために DP マッチングによる方法を用いた。しかしながら本手法はそのままでは計算量の著しい増大を招き、長い楽曲の中で似たフレーズを探す際には困難であることがわかった。

さらに本システムは特定の楽曲に依存して作ったために汎用性を欠いているのが現状である。(ii) では、自然言語の文法理論を和音列に適用し、カデンツ認識を行った。実装した文法規則は和声学の初歩的な規則に限られるため、高度な和声の問題には対処できないものの、基本的な機能と和声のシーケンスを認識することを示すとともに、音楽知識の表現としての有用性も主張できた。

「適用分野に応じて拡張できる実時間分散 OS 構成法の研究」

研究代表者：丸山 勝巳

実時間システムのプログラム開発は、ユーザモードで動く一般の応用プログラム開発に比べて非常に難しい。一般の応用プログラムはユーザモードで動作するのに対し、システムプログラムはカーネルモードで動作し、またハードウェア制御を伴うことが、その困難な理由の一つである。

本研究では、従来カーネルコードであった OS 機能やドライバをユーザモードコードとして書けるようにし、かつこれらのモジュールを追加することで容易に機能拡張が可能な OS を研究している。

今期の主要な進捗は以下の通りである。

- (1) マイクロカーネルには、ドイツの Karlsruhe 大学で設計された L4-ka を採用し、その上に論理メモリ管理機構、ファイル機能、ネットワーク機能など(サービスタスク)を独立ユーザレベルプロセスとして構築し、プログラム開発の容易化と拡張性を実現した。
- (2) サルビスタスクは独立の論理空間とユーザモードとで保護されているので、OS サルビスタスクの耐障害性を向上した。
- (3) 制御プログラムやドライバをユーザモードタスクにすることにより、プログラム開発の容易化を実現した。
- (4) 高いモジュラリティにも関わらず、オーバヘッドは少ないことを確認した。ソースプログラムは、

<http://research.nii.ac.jp/H2O/>で公開している。

「インターネット分散コンピューティングネットワークに関する研究」

研究代表者：山田 茂樹

概要：

現在と桁違いの数のコンピュータが人間に装着され、あらゆる情報機器や場所に埋め込まれ、これらがモバイル環境のもとで互いに分散協調処理を行う「インターネット分散コンピューティングネットワーク」に関して、取り組んでいる研究内容と検討課題を議論し、今後の研究方向性の検討を行った。

このうち、平成 13 年度はネットワークプラットフォームからのアプローチとしてコンテキストを活用した環境適用型パーソナル通信方式と、それを拡張、一般化したコンテキストウェア型情報配送方式、コンテンツのキャッシュサーバを効率良く探索するための新しい分散ネットワークキャッシュサーバ協調方式、オークションによる通信帯域割当方式などのネットワーク技術を、モビリティ環境に適した IPv6 の適用法と検証、ネットワーク構成法等を、また、モバイルコンピューティングからのアプローチとして無線アドホックネットワークを用いた位置推定システム、モバイル用省電力指向符号化アルゴリズムなどの研究成果の紹介と、これらの相互関係を議論し、今後、取り組むべき重要課題について明確化した。

平成 14 年度は、ユビキタス環境におけるコンテキストウェアコンピューティングネットワーク構成方法とプライバシー／セキュリティ技術、網管理運用法(市場メカニズムを用いた検討、他クラス優先制御に関する検討)、ネットワーク制御法(コンテンツ配信におけるマルチキャスト・バッファ蓄積適応切換え制御法)、アドホックネットワーク(チャンネル予約プロトコル、移動性による端末グルーピング、再接続時間の短縮)、マルチホップ無線ネットワークとインターネットの接続、無線LANによる測位等、ネットワークの上位レイヤから下位レイヤまで幅広く検討し、これらの技術を統合した「ユーザ指向タイムクリティカルネットワーク」の構成案と、ユーザ指向タイムクリティカルネットワーク実現に向けた研究の進め方を議論した。

「全光通信ネットワーク実現技術の研究」

研究代表者：阿部 俊二

全光通信ネットワーク実現に向け、キー技術および応用技術を双方で検討し、その検討結果の議論・意見交換を通して、研究の活性化ならびに全光通信ネットワーク実現の研究を推進することを狙いに平成 13 年度から共同研究を進めている。これまで年 1 回の研究会を開催することで意見交換を進めてきた。これまでの研究会を通して次のような成果が得られている。大阪大学では、かねてより光波長をまとめてスイッチングする波長群スイッチング方式による光スイッチング方式を検討しており、連続する波長を一まとめとして群スイッチングする方式の実現手法とその有効性を検討し、波長連続割り当てする方法ならびにその有効性として、3 割程度の波長数の削減効果があることが確認できた。NII からは、光パスに行き先が異なる複数のトラフィックフローを多重する場合のトラフィック多重方式についての検討を行い、大きなフロー(帯域)を持つトラフィックに対しての帯域を留保させることで、各フローの呼損を均一にできることを示した。さらに、応用技術として、高スループットを狙うルータバッファ制御方式、GMPLS を用いた高信頼ネットワークアーキテクチャ、モバイルエージェントに基づいた自律分散サービス制御アーキテクチャ、長期依存性トラフィックを考慮した通信品質推定手法などの研究成果報告があった。今後、さらに活発な議論・意見交換を通して、全光通信ネットワーク実現の研究の活性化ならびに推進していく予定である。

「語彙・語構成研究を考慮した言語コーパス作成と評価」

研究代表者：影浦 峯

共同研究「語彙・語構成研究を考慮した言語コーパス作成と評価」は、2001 年度には東京大学情報基盤センターの中川裕史教授及び北海道大学工学部の吉岡真治助教授と、2002 年度には、さらに国立国語研究所の加藤安彦研究員及び通信総合研究所の内山将夫研究員を加えて行ってきた。

2001 年度には、人工知能分野及び情報処理分野抄録につき語基・形態素分割とカテゴリー付与

を行なう作業を進めると同時に、そのための品詞相当カテゴリーの見直しを行なった。これらについては、Defining Principled and Practically Manageable Lexical Units in Japanese Textual Corpora (NLPRS2001 Workshop on Asian Language Resources)で報告している。また、人工知能分野抄録を用いた専門用語抽出について、共同研究者の中川教授・内山研究員等も参加し、Terminology 誌の特集号で報告している。

2002 年度には、コーパス作成の基準について、原理的なレベルではなく各論を検討する段階になり、データ作成レベルとしては一応の安定を見たため、利用の可能性の予備的な検討を進めることとなった。現在、コーパスの公開準備と共同利用を介した研究の枠組みの設定を進めているところであり、これらについては、ウェブページを介して情報が公開される予定である。

「ドメインおよび言語間移植可能情報アクセスシステムの研究のための共同研究プロジェクト」

研究代表者：Nigel Collier

本研究は Web ページの内容を自動的にタグ付け(アノテーション)するシステムの開発を目的とする。このシステムは Semantic Web と呼ばれる次世代 Web への情報アクセスを支援するものであり、専門家が作成するオントロジーとタグ付けの例に基づいた機械学習を使用するシステムである。

本研究では、PIA (Portable Information Access)と呼ばれる高性能タグ付けサーバの構築を行っている。タグ付けサーバは固有名や照応関係や語間関係をどのようにテキストにタグ付けするかを、例から学習する。このタスクに適した自動学習アルゴリズムを決定するため、決定木、隠れマルコフモデル、サポートベクターマシン等について分析・実験を行った。

今年度から JSPS ポスドクフェローとして我々のグループに加わったマレンが現在、最大エントロピーモデルについて調査中である。

また、オントロジーサーバはオントロジーエディタの中心となるものであり、これにより、データベース内のオントロジーとタグ付けデータを多くのクライアントが相互利用することが可能になる。これまでに、ポスドク研究員、川添と共同で、オントロジーエディタ、自動タグ付けのメタデータの構築、アノテーションガイドライン、実用オントロジーサーバの設計開発を行った。現在、Open Ontology Forge というオントロジーエディタ・タグ付け支援ツールの第一版を無料で配布している。

SELECTED PUBLICATIONS

- [1] Collier, N., Takeuchi, K., Kawazoe, A., Mullen, A. and Wattarujeeekrit, T. (2003), "A Framework for Integrating Deep and Shallow Semantic Structures in Text Mining", in proceedings of the Seventh International Conference on Knowledge-based Intelligent Information and Engineering Systems (KES'2003), University of Oxford, UK, 3-5 September.
- [2] Collier, N., Takeuchi, K. and Kawazoe, A. (2003), "Open Ontology Forge: An Environment for Text Mining in a Semantic Web World", in proceedings of the Semantic Web Foundations and Application Technologies Workshop (SWFAT), Nara, Japan, March 12th, 2003.
- [3] Takeuchi, K. and Collier, N. (2002), "Use of Support Vector Machines in Extended Named Entity Recognition", in proceedings of the Sixth Conference on Natural Language Learning (CoNLL-2002), Taipei, Taiwan, August.
- [4] Collier, N., Takeuchi, K., Nobata, C., Fukumoto, J. and Ogata, N. (2002), "Progress on Multi-lingual Named Entity Annotation Guidelines using RDF(S)", in proceedings of the Third International Conference on Language Resources and Evaluation, Las Palmas, Spain, 29th - 31st May, pp. 2074-2081.

「The GLOGERREQ プロジェクト(GLObal GEographical Resource for Query)分散型地理画像における多次元データ表現とアクセス方法に関する研究」

研究代表者：Frederic Andres

平成 13 年度

本プロジェクトではセミナー開催に関する合意及びデータセットツールに関する作業について検討した。また、研究パートナーである NAIIST/カセサート大学(タイ)、ナント大学ポリテクニクススクール(フラ

ンス)、ニューヨーク州立大学バッファロー校、ミシガン大学(アメリカ)と東京都立大学および NII(日本)間の協力体制を強化した。本研究では自動的に合成されたメディアに集約された斬新なモデル、つまりピラミッド型マルチメディアアノテーションに関する研究を行った。目標とするデータセットとは National Geography Society(112 年間)及び 85 本の多言語 DVD ビデオの多言語マルチメディアドキュメントセットである。また、そのモデルの主要な目標とはマルチメディアの要約及びマルチメディアの分類を完成させることでありその中でその要約は概略及び方向性を模索するのに役立った。ピラミッド型マルチメディアはその要約が決まった次元(領域・状態・尺度)から生成される、という事実に言及する。ピラミッド型マルチメディアアノテーションの要約は、一つの構造として定義される。我々の生成したモデルはその原理を有効に要約された大容量マルチメディアコンテンツの為に活用し進化してできた習得物は概略的かつ意義のある特長によってマルチメディアコンテンツを要約することができる。

マルチメディアドキュメントを見るには、マルチメディアセグメントの大きさに応じて階層を与える長いセグメントやサブセグメントがあり、マルチメディアドキュメントのセグメントの大きさ全てに係っている。マルチメディアドキュメントのどのセグメントも潜在的に要約の基本であり、多くの複雑な意味上の関係と関連性をもっていると推察される。今後手法をまとめるにあたって、大きさを把握しそのドキュメントから意味論を抽出する必要がある。本共同研究に関してJSPS及びNSF間における研究助成が2件決定した。

平成 14 年度

主な成果は、地理画像のようなデジタル・コンテンツ用の意味抽出及び意味理解用ツールの一部として新しい機能性について研究し、開発した。その結果、メタデータ抽出及び索引付けを網羅し、また、分散処理用テストベッド、及びデジタル地理コンテンツの大きなデータセットの収集にも力を注いだ。レベルの問題に関しては、仮想インタフェース・アーキテクチャー・プロトコルに基づいたアーキテクチャーをクラスタに分け、処理を拡張するために使用した。それは、レジストリ・アーキテクチャー及び浸透している情報管理上の研究協力を含むものである。地理画像用のメタデータ・レジストリの役割、概観、ツール及びプロトタイプについて調査研究した。研究はプロトタイプがどのようにメタデータ・レジストリのアプリケーション・スコープ、機能の必要条件及び技術解決策を実証し評価し使用されているかをアウトラインとしてまとめた。

「Papillon: Multi-lingual lexical databases パピヨンプロジェクトー多言語語いデータベース」

研究代表者 : Frederic Andres

平成 13 年度

主な成果として、日本語、英語及びフランス語における単一言語辞書の為に 150 の単語の詳細記述を完成させた。パピヨンDTD文書においては、パピヨン単一辞書を使用する辞書の構造は、昨年以降改良が重ねられた。また、いくつかの項目は、まだ言語財産に関して未決定状態である。例えばある 1 単語が英語の単数あるいは複数形に依存する場合である。また、フランスの辞書については単語の性表示が文法によるものではなく単語自体の情報によるため、男性名詞、女性名詞の表示が必要になってくる。現在のパピヨンDTD文書は、術語学に関する分野の表示は今後の課題となった。本年度の研究では、パピヨン記述構造の<言語レベル>分野において<ジェンダー>、<領域>、及び<定量>が加えられた。3ヶ国語パピヨンDTD文書の最新バージョンが作成され使用された。また、語彙の変換の際に起こる発音を重視し単語構成によって異なる発音を持っている漢字処理も行われた。

平成 14 年度

主な成果は、2002 年にパピヨンワークショップがNIIにて行われ、各言語の担当者による成果及び進捗状況が報告された。また、国際協力の一部としてデータ・レポジトリ機構及び多言語語いデータベースの回復プロセスに焦点を当てた。語いデータ回復プロセスの分野において以前の研究から発展させ、新たなアプローチ方法を開発し、新たな多言語語いのデータ・ベースを構築し、デジタル

辞書を格納し操作するために評価された。それは様々な辞書が使用されるという事実に基づくことによるものである。更に、それらの辞書は、データを目標とするXMLデータ図表に適切に処理するために持って来られた修正から発展させたものである。また、本共同研究は、実践的な研究協力として多言語データ・ベース研究領域内の最先端技術の役割を担うものとなった。

「芸術表現活動のマルチメディア・アーカイブ化とアーカイブ構築支援・提供システムに関する研究」

研究代表者：相原 健郎

本研究では、従来の静止画や2次情報などの「目録の電子化」に近いデジタルアーカイブでは十分には達成できなかった「モノ作りの本質に迫ることのできるアーカイブ」の構築と、その構築・提供・利用を支援する計算機環境に関して研究を行っている。

ここでは東京芸術大学に収蔵されている国宝や重要文化財を含む多くの美術工芸品を対象とし、東京芸術大学、岩手県立大学との共同研究として推進している。

本アーカイブの特徴は、エンドユーザが「モノ作りの本質」に迫り「芸術の理解」を支援できるような充実したコンテンツの作成とその利用法(ユーザインタフェース)にある。つまり、コンテンツそのものに魅力があり、「知」や「匠」の継承にも利用できるほどのコンテンツを目指している。そのためには、美や価値あるいは歴史への理解と、それが作られた背景や環境、さらにその制作の詳細なプロセスが情報として表現されていなければならない。

また、記録された情報の見方をさまざまな観点から発見あるいは学習、思考することのできるインタラクションを提供することが必要となる。

さらに、マルチメディア情報システムの研究開発用テストコレクションとして、ここで作成されたコンテンツの整備も目指している。

平成13年度に共同研究を開始し、14年度までに以下の成果を得た。

- ・ データ形式の整備
インタビュー音声の書き起こしを行い、映像ファイル、音声ファイル、テキストとの関連づけ作業に着手した。
- ・ データ作成
漆工芸を中心に、作家、素材、技法、時代背景など、それぞれの専門家にインタビューを行い、それらの映像をデータ化した。
- ・ 閲覧インタフェースのプロトタイプ構築

[図：閲覧インタフェースのプロトタイプ]



「統合メディア処理とその基礎技術に関する研究」(平成 12 年度より継続)

研究代表者：井手 一郎

統合メディア処理的手法による映像処理システムの構築及び、そのための基礎的技術となる単一メディア処理(特に音響処理及び画像処理)について共同で研究を推進した。そのために、定期的に打ち合わせを開催して意見交換を行い、成果に関して学会等で発表を行った。

[発表文献(平成 13 年度)]

・井手一郎,浜田玲子,坂井修一,田中英彦:「ニュース映像における人物の分離による背景の場面推定」,電子情報通信学会論文誌(D-II),vol.J84-D-II, no.8, pp.1856-1863 (Aug. 2001).

・Ichiro Ide, Koji Yamamoto, Reiko Hamada, Hidehiko Tanaka: "An automatic video indexing method based on shot classification", Systems and Computers in Japan, vol.32, no.9, pp.32-41 (Aug. 2001).

・内海慎久,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「サッカー映像からのオブジェクト抽出・追跡に関する研究」,第 63 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, 57- 58(Sep. 2001).

・Ichiro Ide, Reiko Hamada, Shuichi Sakai, Hidehiko Tanaka: "An attribute based news video indexing", Proc. ACM Multimedia 2001 Workshops -Multimedia Information Retrieval-, pp.70-73 (Oct. 2001).

・浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「料理テキスト教材における調理手順の構造化」,電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J85-D-II, no.1, pp.79-89 (Jan. 2002).

・内海慎久,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「色頻度・局所エッジ成分を総合的に用いた物体検出手法とサッカー映像における選手検出への応用」,電子情報通信学会パターン認識とメディア理解研究会技術報告, PRMU2001-241 (Feb. 2002).

・須場康貴,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「料理映像の索引づけのための音響解析手法の検討」,第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.17-18 (Mar. 2002).

・八木裕司,内海慎久,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「サッカー映像におけるカメラパラメータの推定」,第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.161-162 (Mar. 2002).

・三浦宏一,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「動き検出による料理映像の解析」,第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.165-166 (Mar. 2002).

・内海慎久,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「色情報とエッジ情報を総合的に用いたサッカー画像からの物体検出」,第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.167-168 (Mar. 2002).

[発表文献(平成 14 年度)]

・三浦宏一,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「料理映像の特徴を利用した要約手法の検討」,電子情報通信学会パターン認識とメディア理解研究会技術報告, PRMU2002-22 (June. 2002).

・井手一郎,浜田玲子,坂井修一,田中英彦:「テレビニュース字幕の語義属性解析のための辞書作成」,電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J85-D-II, no.7, pp.1201-1210 (July 2002).

・浜田玲子,三浦宏一,井手一郎,佐藤真一,坂井修一,田中英彦:「動きに基づく料理映像の自動要約手法」,画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2002)論文集, vol.2, pp.203-208 (Aug. 2002).

・Okihisa Utsumi, Koichi Miura, Ichiro Ide, Shuichi Sakai, Hidehiko Tanaka: "An object detection method for describing soccer games from video", Proc. 2002 IEEE Intl. Conf. on Multimedia and Expo (ICME2002), vol.1, pp.45-48 (Aug. 2002).

・Koichi Miura, Reiko Hamada, Ichiro Ide, Shuichi Sakai, Hidehiko Tanaka: "Motion based automatic abstraction of cooking videos", Proc. ACM Multimedia 2002 Workshop on Multimedia Information Retrieval (Dec. 2002).

・高野 求,三浦宏一,浜田玲子,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「テキストからの制約に基づく料理映像中の物体検出」,第 65 回情報処理学会全国大会講演論文集 vol.2, pp.255-256 (Mar. 2003).

・田内 学,井手一郎,坂井修一,田中英彦:「ユーザの行動履歴を利用した画像検索エンジン」,第 65 回情報処理学会全国大会講演論文集 vol.3, pp.53-54 (Mar. 2003).

「アニメ画像、CG画像を対象とした著作権保護技術に関する研究」

研究代表者：日高宗一郎

平成 13 年度

自然画像を主な対象とした電子透かし方式では、変形、拡大縮小、切り取り、ぼかし処理等の攻撃が総合的に想定されるが、アニメ画像/CG画像においては、ぼかし処理は画質劣化が著しいため、処理後の画像の利用価値は低いと考える。一方、アニメ画像は自然画と比較してオブジェクトが明確であり、人物の顔等の有意な部分切り取りによる再利用の価値は高いと思われ、切り取りに配慮した透かし方式が必要となる。また、背景と人物等の別々の作成者から供給されたコンテンツを組み合わせる協調処理も想定され、透かし処理もオブジェクト単位に適用出来ることが望ましい。我々はこのような背景のもと、オブジェクト分割に基づく透かし方式を提案し、試験実装を行なった。透かしは画像の特徴を生かして分割されたオブジェクト単位で挿入される。オブジェクトの分割には輝度勾配の情報を用いている。試作システムによる予備的な評価の結果、オブジェクトの認識/分割に際して自然な分割が出来ない場合も判明している。また提案方式では、透かしそのものの方式は単純な画素値を用いたものを採用しており、色数の削減による攻撃への耐性を考慮するとオブジェクトの形状情報も透かしの対象にすることが望ましい。運用に際しては、オブジェクト分割の際のパラメータ等、埋め込みの際に公開する情報と秘密にする情報の区別を明確にする必要もある。

[発表文献]

- ・高橋、木村、加藤、日高、青木：切り取り耐性を考慮した電子透かし方式の実現、電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集・情報・システム、pp.188(2001年8月)
- ・日高、高橋、木村、加藤、青木：CG/アニメ画像に適した電子透かし方式の一検討、情報処理学会第63回全国大会講演論文集、Vol.3, 2001年9月, pp.557-558
- ・青木、高橋、日高、木村、加藤、安田：アニメ画像を対象とした電子透かし技術の一検討、情報処理学会研究報告 EIP 電子化知的財産・社会基盤、Vol. 2001, No. 85, pp.11-16(2001年9月)
- ・高橋、木村、加藤、日高、青木：画像オブジェクト型電子透かし方式の評価、電子情報通信学会総合大会講演論文集(2002年3月)

平成 14 年度

我々は背景と人物等の別々の作成者から供給されたコンテンツを組み合わせる協調処理も想定した、オブジェクト単位に適用出来る透かし方式を NEDO プロジェクトと相俟って提案、プロトタイプ実装をしており、本年度はプロトタイプの評価とその改善、および個々のオブジェクトに適用される透かし方式、透かしに埋め込む情報等の研究を引き続き月 1 回ベースの打ち合わせを通して行った。

プロトタイプは、透かしの入っていない自然画像と提案方式による透かしの入ったアニメ画像を合成した画像に於いて、透かし情報を検出することができた。また、本方式の利点として、矩形でなくてもオブジェクトの総面積が十分とれば透かしを挿入出来るという利点もあることが明らかになった。本共同研究では、デジタルコンテンツ流通と構成員各自の専門分野の関連性という観点から、コンテンツ管理方式(含メタデータ)、問い合わせ、分散処理(含 Grid)、セキュリティを考慮したモバイル環境への適用等幅広く議論を行った。

平成 14 年度

「大規模テストコレクションの構築と情報検索システム・テキスト自動要約・質問応答システムの比較評価」

研究代表者：安達 淳

情報検索技術、テキスト要約、質問応答などの情報アクセス技術の高度化には、多くの研究者が共通して利用できる、大規模な有効性評価の基盤が必要不可欠である。本研究では、情報アクセス技術の大規模評価基盤を提供することを目的として、(1) 多くの研究者が繰り返し評価実験に利用できる大規模テストコレクション NTCIR の構築、(2) NTCIR テストコレクションを用いた検索および関連技術の研究と評価、(3) 研究アイデアの自由な交換、システム間比較評価、技術移転促進のためのワークショップの開催、(4) 評価手法と評価指標について研究を進めている。

本年度は、前年度に引き続き、新聞記事を用いた日本語・英語・韓国語・中国語の言語横断検索、日本語文書の要約と質問応答、Web 検索、特許検索に取り組み、これらの技術の評価するための大規模テストコレクション NTCIR-3 を構築し、研究目的で公開した。第 3 回 NTCIR ワークショップのプロセスを組織し、参加グループである共同研究員と協調して研究を行い、8 つの国と地域の 65 グループが結果を提出し、2002 年 10 月 8～10 日に成果報告会を開催した。また、評価の基盤として、要約・質問応答・Web 検索・特許検索に適した評価手法と評価指標、大規模テストコレクションの効果的構築戦略、検索課題の難易度予測、異種文書ジャンル間における各種検索モデル・戦略の分析的比較などの研究も行なった。

主要研究成果:

- Kando, N., Oyama, K., Ishida, E. (eds), "NTCIR Workshop 3: Proceedings of the Third NTCIR Workshop on Research in Information Retrieval, Automatic Text Summarization, and Question Answering", Tokyo, Japan, October 2002 - October 2003 (to appear) (オンライン版は <http://research.nii.ac.jp/ntcir/workshop/OnlineProceedings/>)
- Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kando, N., Kuriyama, K. "Evaluation methods for web retrieval tasks considering hyperlink structure", IEICE Transactions on Information and Systems, Vol.E86-D, No.9, pp.1804-1813 (in press).
- Iwayama, M., Fujii, A., Kando, N., Marukawa, Y. "An empirical study on retrieval models for different document genres: Patents and newspaper articles", In Proceedings of the 26th ACM-SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval (SIGIR 2003), pp. 251-258

「RS モデルに基づく情報検索システムの応用に関する研究」

研究代表者：安達 淳

本研究は、我々が昨年度まで行ってきたRS (Relevance Superimposition)に基づく情報検索システムの性能評価とプロトタイプソフトウェア作成を基礎として、実用化するための様々な方策を検討するものである。RSモデルは、ベクトル空間モデルに基づく検索方式であるが、対象文書のクラスタを作りその間での文書関連性を評価し、これを使って検索することにより、従来方式よりも高い検索性を発揮する。本研究では、このモデルで動作する実用システムを実現すべく、昨年度にプロトタイプソフトウェアを作成し、実験室レベルでの検索性能を実現した。現在の課題は、検索速度の向上、データベース規模の拡張への対応、Webページ検索に対応した機能の実現、などである。本共同研究は RSモデルに基づく実用的なソフトウェアを作成することである。その設計および実装の検討を行った。

その成果としては、NTCIR-3 の Webタスクのデータをソースデータとして使用し、索引切り出しのバッチ処理と、PCクラスタ上で複数プロセッサを用いて動作するソフトウェアのプロトタイプを完成した。このソフトウェアは NII のオープンハウスにてデモを行った。現在のところ、索引切り出しの時間がかかること、検索時間がまだ長いので実用的な高速化手段を導入する必要があること、ふつうのブリーアン検索も実装しなければ実用的な応用には向かないことなどの課題が残っている。これらに関して引き続き研究開発を実施したいと考えている。

「アドレスジオコーディング手法を用いた大規模 Web コンテンツと空間コンテンツの結合に関する研究」

研究代表者：安達 淳

本共同研究は平成 14 年度に、国立情報学研究所(安達淳教授、大山敬三教授、江口浩二助手)と東京大学(有川正俊助教授、相良毅助手)との間で開始されたものである。文字情報である住所から緯度・経度のような直接的な位置情報を特定するアドレスジオコーディング手法を、大規模 Web コンテンツに対して適用することで、Web コンテンツにおける空間情報の記述特徴を明らかにし、空間サーチエンジンを構築するための基礎研究および実証研究を行なう。さらに、大規模データコレクションの使用を前提に、アドレスジオコーディングをはじめとした地理情報処理の評価手法についても考究する。

平成 14 年度においては、アドレスジオコーディング手法の基本性能の改善を図るとともに、Webコン

コンテンツの大規模性および不均質性を勘案した実験用データの自動収集を行なった。従来、Webコンテンツ処理の実験を行なう場合には、既存のサーチエンジンの検索結果の利用、あるいは限定的な自動収集によって得られたデータを対象とされることが多かったが、本研究では実験の再現性やWebコンテンツの特性を鑑みて、JPDメインの任意のサイトから、種々の形式のWebコンテンツを収集することで、1テラバイトの大規模なデータコレクションを構築した。また、地理情報処理に適した評価手法の基本的な要件を明らかにした。

発表文献：藤森史生、有川正俊、森田喬、「SVG 地図を対象とした空間関係抽出とその応用」、電子情報通信学会データ工学研究専門委員会、第 14 回データ工学ワークショップ(DEWS2003)、石川県加賀市、2002 年 3 月 3-5 日。

「交通映像の高次理解とITS応用に関する研究」

研究代表者：坂内 正夫

動画認識をベースとした、車のトラッキングと交通状況の認識技術の開発と実証を行い、一ツ橋交差点・神田駿河台交差点等の 3 つの交差点での交通映像分析と、交通状況の面的関連を解析した。

【発表文献】

S.Kamijo, T.Nishida, M.Sakauchi: "A Supervisory System for Safe and Efficient Drives based on Behavior and Statistical Analyses from Traffic Images", IV2002, Versailles, 2002

S.Kamijo, T.Nishida, M.Sakauchi: "An Intelligent Agent for Traffic Images Understanding based on Spatio-Temporal Markov Random Field Model", SCI2002, Orland, 2002

S.Kamijo, M.Sakauchi: "Illumination Invariant Segmentation of Spatio-Temporal Images by Spatio-Temporal Markov Random Field Model", ICPR2002, Quebec, 2002

Takeshi Matsushita, Shunsuke Kamijo, Masao Sakauchi: Vehicle-type Classification based on Symbolic Representation, 9th World Congress on ITS, 2002

「楽曲類似検索技術に関する研究」

研究代表者：佐藤 健

本共同研究では、音楽理論 Generative Theory of Tonal Music (GTTM) に基づき楽曲の深層構造を顕在化させるような音楽知識表現手法を利用し、楽曲の類似検索手法を開発し、個人的な嗜好を反映させた音楽検索のアルゴリズムの設計と実装を行った。本共同研究において、NIIは主に個人的な嗜好に基づく検索機構の実現及び検証を分担し、NTTは主に音楽構造に基づく最近傍類似手法の開発を分担した。本最近傍類似手法では、まずGTTMを利用してメロディを適切に分節し、その分節されたメロディどうしを最小上界(least upperbound, lub)で比較する。このlubの計算結果の項のサイズをある評価式によって求め、それをもって類似度としている。この内、本年度は特にメロディを適切に分節するアルゴリズムについて検討と改良を加えた。その結果、音程・時間差比の導入によりポリフォニーへの対応（声部分離）が可能となった。また、GTTMの規則中、並列(GPR6)をDPで、強度(GPR4)を成立した規則の個数の線型和でトライアル的な実装を行った所、あまり良い結果が出なかった。

その原因の究明は今後の課題である。

「連想に基づく情報空間との対話技術に関する研究」

研究代表者：高野 明彦

申請者らは JST 戦略的基礎研究推進事業の一環として「連想による情報空間との対話技術(研究代表者:高野)」(2001. 12~2006. 10)という研究開発を実施している。膨大な電子情報と人の創造的相互作用を基礎づける「連想の情報学」の体系化を目指して、文書情報空間に奥行きと安心感を与える対話技法を追究している。本研究テーマは、NII 実証研究センターの研究プロジェクトとして推進している。

本共同研究では、実証研究センター内に新書 7000 冊と電子情報の新しい結びつきを模索する実

験施設を構築した。また、昨年度導入した PC クラスタを利用して、1000 万件以上の文書群を対象とする連想計算を可能とする連想計算サーバを NII 内に立ち上げた。GETA を利用して文書の類似性に基づく連想検索エンジンを作成し、それを国立情報学研究所が公開する図書情報ナビゲータ Webcat Plus (<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)に適用して実用性を証明した。

「漢籍総合目録と NACSIS-CAT 総合目録のリンクに関する研究」

研究代表者：宮澤 彰

当共同研究は、全国漢籍データベース協議会の推進する、漢籍総合目録データベースと、国立情報学研究所の目録所在情報サービスにおける総合目録データベース(NACSIS-CAT データベース)とのアスペクトの異なる 2 つの総合目録の間で、データのリンクを行って総合的な利用を可能にするための方策を検討する。全体としては、アスペクトの異なりについてのモデル論的研究、関連情報の発見に関する研究、それらの間のリンクに関する研究などが必要となる。今年度においては、京都大学人文科学研究所漢字情報研究センター所蔵分の漢籍総合目録データベースを、NACSIS-CAT データベースにエンタリして、双方からリンクするための方式を研究した。研究会は主として京都において 6 回開催した。この中で、特に、エンタリのためのデータ変換方式は、細かいレベルで双方の目録慣習等をつきあわせ、記述単位の取り方から記述方法の異なりにいたるまで分析し、方式設計を行った。この方式による開発および運用、また、NACSIS-CAT から漢籍総合目録へのエンタリ方式設計などが課題として残っている。

発表文献:MIYAZAWA, Akira, "Modern library catalog and Chinese classic catalog: two union catalogs of Japanese academic community", PNC Annual Conference and Joint Meetings 2002, Osaka, 2002.9.20

「新聞記事テキストからの類義語辞書自動構築に関する研究」

研究代表者：相澤 彰子

本研究は、新聞記事をコーパスとして類義語辞書を自動構築する手法に関する基礎的な検討を行うものである。具体的には、新聞記事のテキスト部分を解析して得られる形態素情報を手がかりに、共起関係グラフを抽出し、そのグラフ構造に注目することで、類義関係にある「語」やそれらの語に共通する「観点」を自動抽出する手法の開発を目的とする。

研究の初年度である本年度は、基本的な手法の検討および予備的な評価を中心に研究を行った。まず、毎日新聞 1 年分の記事に形態素解析ツールを適用し、2 単語から構成される複合名詞を抽出した。次に、抽出した語の前接・後接関係に基づき 2 部グラフを構成し、国立情報学研究所・宇野毅明助教授の開発による高速な極大クリーク発見アルゴリズムを適用して、類義語の抽出を試みた。最後に、得られた類義関係を人手により分析し、既存の国語辞書の語義との比較を行った。この予備的実験を通して、提案手法を用いることで、国語辞典では定義されていない語義の発見や語義の詳細化が可能となる場合があることがわかった。一方で、現状のコーパスや 2 単語複合語に基づく適用方法では網羅性の点が問題となることから、手法面ではさらに工夫が必要である。

類義語抽出の問題は一般に評価がむずかしく、有用な結果を示すためには、手法の詳細化とともに、問題設定を慎重に行ってゆくことが不可欠である。今後は、手法に関する形式的な議論を深めるとともに、語の接続関係や対象コーパス等についても考慮して行きたい。

「離散アルゴリズムと組合せ最適化に関する研究(その 2)」

研究代表者：宇野 毅明

4 月、5 月、6 月、7 月、10 月、11 月、12 月、1 月に研究会を開催した。毎回、メンバーから 1 名が発表を行い、列挙アルゴリズム、分枝切除法、サブモジュラー関数最小化などの研究テーマでそれぞれの研究成果を発表した。また、IPCO、ISAAC、SODA などの国際会議に参加したメンバーが、会議で発表された結果から、興味深いものを発表し、最新の知識の共有を行った。研究会で得られた成果、ハブネットワーク最適化問題の緩和法、ゲーム理論でのオークションの構造解析などの研究成果を、日本オペレーションズ・リサーチ学会にて発表した。

「宇宙機の開発・運用における情報の共有・管理・活用に関する研究」

研究代表者：高須 淳宏

本研究は、東京大学航空宇宙工学専攻で行われている小型人工衛星開発プロジェクト(CubeSatプロジェクト)での設計・製造・試験・運用過程を支援する情報環境の構築を通して、多様な情報を体系化し、活用するための情報処理技術を確立することを目的とする MIMIR プロジェクトの一環として、音声データの活用法についての研究を進めた。MIMIR プロジェクトは、人工衛星の開発から運用までの過程で作成・収集される文書や音声などの様々な情報を蓄積し、また外界の情報資源と有機的に統合することで、運用時や次の設計時に情報を活用する環境を構築し、さらに、プロジェクト内での知識の共有や継承、異常時の問題解決の支援をめざしている。人工衛星設計の過程で行われるミーティングでの設計者等の会話の中には、衛星の設計方針や長所、その衛星に関する問題点など、貴重な情報が含まれている。本研究では、設計者等の会話情報と関連文書を結び付けることによって、これらの情報を活用することをねらっている。本年度は、音声認識の過程で得られる音素データを使って関連文書との近似マッチングを行うための高速アルゴリズムを考案し、マッチング精度についての検討を行った。その結果ある程度の精度を実現することができたが、実用化のためには、さらにマッチング精度の向上が必要であることが判明し、精度向上の研究を引き続き進めている。

「教育用コンテンツを対象とした検索・推薦技術に関する研究<14 年度>」

研究代表者：加藤 弘之

現在、e-learning システムに加え、教育用コンテンツが次々に開発され、教育用コンテンツの形式の標準化も ISO SC36 などで進められている。しかし、今後、教育用コンテンツが増加するにつれ、その中から、利用者が必要とするコンテンツを見つけ出すことが難しくなることが予想されるが、この問題を解決するための有効な手段が用意されているとは言い難い。そこで、ユニシス社が開発し私大で運用されている e-learning システムに蓄積されている教育用コンテンツを対象にした場合の適切なマイニング技術についての基礎的な調査及び、本研究参加者の各個人の技術的な興味からのソリューションについての意見交換を定期的に行なった。

「語彙意味論に基づく複合語解析システムの構築に関する基礎研究」

研究代表者：竹内 孔一

平成 14 年度に東北大学と共同で自然言語理解に必須となる複合名詞解析システムについて語彙意味論をもとにしたモデル構築の可能性について共同で研究する機会を設け議論を行った。従来、語彙意味論は言語学を中心に言語の意味構造について理論的な考察を進めてきたが、本共同研究では、こうした理論を利用した実際の処理システムの構築に向けて記述形式をどうすべきか実装面についての議論を目標とした。意味論にはいくつかの手法があり国立情報学研究所では動詞の意味記述を中心とした語彙概念構造を利用した処理モデルを構築しており、一方東北大学側は名詞の意味記述を中心とした生成語彙意味論を基にした処理モデルを構築している。まずお互いの実装法についてそれぞれ意見交換を行い、各々の記述の妥当性について理論重視ではなく、処理モデルとして現実的な観点から議論を行った。その結果、記述的な枠組みの見通しとしては語彙概念構造が強く、扱う範囲の広さでは生成語彙意味論の方が勝っていることを確認し、アスペクト分析に関してはどちらも理論も扱ってはいるが記述の粒度に異なりがあることなどが明らかになった。さらに、お互いの理論に対する利点、問題点について処理モデルの観点から互いに検討を行い統合モデルの可能性について議論した。この議論の成果は平成 14 年度の英語学会のワークショップで言語学理論の場で同時に発表を行った。

司会:今泉志奈子、日高俊夫、大月敦子、高橋幸、竹内孔一：語彙意味論とコンピュータへの応用：日本英語学会ワークショップ、青山学院大学、東京、(11 月、2002)

平成 14 年度（公募型）

「共生型自律ロボットの研究」

研究代表者：上野 晴樹

本公募型共同研究は、“共生型自律ロボットの研究 <13-14 年度>”に、外部から個人としての参加希望者を公募するために採られた形態であり、実質的な研究は、これと一体化して行われた。重複するが、要点は以下の通り。本研究の長期目標は、生活の場で人と共存する共生型自律ロボットの実現であり、そのために不可欠となる基礎的な概念、理論、技術の研究および一部実験システムを開発し、有効性を検証することである。具体的には、自律行動型システム開発用の分散プラットフォーム SPAK をシステム構築上の中核とし、共生ロボットに関する重要な要素技術である、ロボットビジョン、人間-ロボット対話、協調システム、自律分散エージェント、知的計画・制御等の研究を分担して進めた。主な研究成果は、1) 人間-ロボットインタフェースとしての人物の顔の特定、視線の認識、および簡単な音声コマンドによるロボット操作システム、および、2) 分散環境での様々なエージェントプログラムを統合化するための知識型分散プラットフォームの仕様設計と一部実装実験である。研究成果は、ビジョン分野の国際会議や NII ジャーナル等で公表した。なお、我々は、Internet に代表される IT の急速な進歩によって高度情報社会が訪れようとしているが、一方では人口の高齢化と若年層の減少が重大な社会問題となりつつあり、人に代わって福祉サービスを行う共生ロボット技術に関する社会の需要が増大しているという背景があり、本研究は国内外の社会的要望に応える極めて重要な基礎研究テーマであると認識している。

「Internet を利用した学習システムにおけるドロップアウトの軽減方策の開発に関する研究」

研究代表者：上野 晴樹

近年、大学入学者の学力レベルが低下しており、入学後の授業について来れない、いわゆるドロップアウトが起こっており、重大な社会問題となっている。本研究の目的は、最近急速に発展し普及し始めている Internet を利用した学習システムを活用することによって、このようなドロップアウトの軽減方策を開発するための基礎研究である。具体的には英語の個人学習システムの開発と有効活用のための調査研究、およびシステム仕様の研究を行った。ここで研究した成果を基にして、ドロップアウト救済に有用な個人学習システムの開発および運用を目指す。

「東南アジア インタラクティブアトラス 西暦 500~1500 年の構築」

研究代表者：小野 欽司、河野 泰之

本共同研究は、東南アジアの社会と文化に関連する歴史的な諸事象を、時間軸を考慮した地理情報システムをプラットフォームとして集積して、その基盤となる時空間や生態環境とヴィジュアルに関連づけることにより、ダイナミックで多面的な歴史考察を展開することを目的とした。さらに、関連研究者がこのようなデータ集積のプラットフォームを共有することにより、個々の研究者が蓄積してきた情報をより多くの研究者間で共有することも目指した。情報学を、歴史研究や人文科学研究に応用する新しい試みである。

本共同研究は、京都大学東南アジア研究センター、国立情報学研究所、カリフォルニア大学バークレー校、シドニー大学 Archaeological Computing Laboratory が共同して実施してきた。カリフォルニア大学バークレー校の GIS センターが主催する ECAI (Electronic Cultural Atlas Initiative) や東南アジアの現地研究者と緊密に連携をとりながら、地理情報システムの開発とデータの収集・整理・公開を進めてきた。

平成 14 年度には、京都大学東南アジア研究センターは、共有するプラットフォーム情報を強化するために、所蔵する地図や人工衛星画像、写真などの生態資源情報のデジタル化を進めた。シドニー大学 Archaeological Computing Laboratory は、時間軸を考慮した地理情報システムの開発・改良を進めるとともに、東南アジア大陸部の古代政治権力の盛衰史に関するデータベースを作成し、それをアニメーションで表示する作業を進めた。また、カリフォルニア大学バークレー校は、歴史的な交易ルートや都市形成史に関するデータベースの作成を進めた。

今後も、4つの組織が共同して、歴史事象や生態資源に関するデータベースの作成を進めるとともに、これらの情報を統合する情報学的な工夫を積み重ねていく予定である。

「オントロジー/セマンティックウェブ研究フォーラム」

研究代表者：武田 英明

本共同研究の目的はオントロジーとセマンティック Web に関する広範な議論の場をつくることにある。この目的にそって国際ワークショップを主催開催した。このワークショップ (INTERNATIONAL WORKSHOP ON SEMANTIC WEB FOUNDATIONS AND APPLICATION TECHNOLOGIES、略称 SWFAT) は3月11日と12日に大阪大学と奈良県新公会堂で開催された。このワークショップは日本で行われる最初のセマンティック Web に関する国際研究ワークショップである。このワークショップではとくにセマンティック Web の理論 (オントロジーなど) と応用をいかに結び付けていくかという点とアジア太平洋地区でいかにセマンティック Web を普及していくかをテーマとした。このワークショップでは招待講演、パネル討論、一般投稿論文発表、ポスター発表が行われた。招待講演者およびパネル討論参加者は、セマンティック Web をまさに推進している核となる人物であり、このような人物が一同に会することは極めて有意義である。一般投稿論文募集では通常論文に13件の応募があり、査読のうえ、8件を採択した。他にショートおよびポスター論文として7件を採択した。応募者はアメリカ、ヨーロッパ、アジアからであった。欧米とアジアの研究者が集うことで目的にひとつは達せられたといえる。実際の開催においては100人を超える多数の参加者があった。参加者の分野は多岐にわたり、大学関係者だけでなく、企業などからの参加者も目立ち、この分野の広がりを見せている。この点でも基礎と応用をむすびつけるという目的にかなっている。発表者および参加者は極めて積極的に意見を交わした。とくにパネル討論ではアメリカおよびヨーロッパの発表者がセマンティック Web の方向性に関してまさに今行われている活動と背後にある概念を示して熱心に討論していた。これは公開された文書や論文ではわかりえない事柄であり、参加者にとって価値ある時間であったと思われる。このように国際ワークショップを開催することは海外の研究者と交流する機会をつくるという意味でも重要であるが、むしろ国内の研究者が一同に会する機会を提供したということも重要である。この分野はいままさに始まろうとする分野であり、さまざまな背景をもつ人々が興味をもっている。本共同研究はこれらの人々を結びつけるのにおおいに貢献しているといえる。

「半構造データからの高速な意味構造発見アルゴリズムの研究開発とセマンティックウェブへの応用」

研究代表者：武田 英明

本研究では、インターネットサービスにおけるセマンティックウェブの実現のための新しい技術として、半構造データからのデータマイニングを用いた新しい意味情報獲得技法 (セマンティックウェブマイニング) に取り組み、そのための新しいマイニング技術を研究開発することを目指して、研究を行なった。

本年度は、列挙問題における強力なアルゴリズム設計手法である逆探索手法を、データマイニング問題に適用することで、さまざまなデータマイニング問題を高速に解くアルゴリズムの開発に成功した。また、半構造データマイニングへの拡張や、成果のセマンティックウェブへの適用について、議論を進めることができた。

具体的には、次の成果を得た：

武田は、セマンティックウェブにおける半構造データの利用形態を分析した。さらに、必要な数理モデルとデータマイニング問題の定式化を行なった (宇野・佐藤・有村・浅井)。基盤技術として、宇野は、逆探索技法に基づいて極大頻出パターンを高速に列挙するアルゴリズムを開発した。さらに、宇野が先に開発した極大2部クリーク列挙アルゴリズムを、閉頻出集合マイニング発見問題に適用し、効率の良いアルゴリズムを与えた (宇野・有村)。佐藤、宇野は、ブール式の双対化技法と質問学習技法を用いて、極大頻出パターンを列挙するもう一つのアルゴリズムを開発した。これは、無駄のない双対化を行なうことで、従来のアルゴリズムより効率よく極大頻出パターンを列挙する。有村と浅井は、半構造データを無順序木としてモデル化し、宇野と中野が最近開発した無順序木の高速な枚挙アルゴリズムを元に、頻出無順序木パターンの高速な発見法を研究した。さらに、開発したアルゴリズムの有効性を検証す

るための予備実験として、人工データを用いた計算機実験を行なった(宇野・佐藤)

「生物学的実験を通じてミスマッチ耐性度の高いプライマ・オリゴマの有効性の実証に関する研究」

研究代表者：藤山秋佐夫

平成14年度の研究においては、ヒトのY性染色体配列をモデルとしてオリゴマの設計を行った。このうち、ヒト配列上でほぼ等間隔に配置した300オリゴマについて、50ヌクレオチド長のオリゴヌクレオチドを実際に化学合成し、さらにハイブリダイゼーション実験を実施すべくマイクロアレイ100枚を作成した。次年度は、DNA側の調製を進め、ハイブリダイゼーション実験を実施して実証する予定である。

(4) 科学研究費補助金による研究

平成13年度

①基盤研究(A)(2)

「科学・文化情報のデジタル資産のグローバル共有に関する実証研究」

研究代表者：小野 欽司

本研究では科学・文化デジタル資産のグローバル共有に関して内外の研究者とネットワークコラボレーション、相互訪問、国際ワークショップ等を通じて実証的な研究を行った。

平成13年度からデジタルシルクロードの研究を開始し、科学と文化の融合の具体的ターゲットを定め、研究推進している。12月には、デジタルシルクロードに関する国際シンポジウムをユネスコとの共催で行い、海外からの30名の参加者を含む330名の参加を得、成功裏に終えた。ここでは文化と情報技術の融合するシルクロード研究を幅広い視点から議論し、デジタルシルクロードとよぶ新プロジェクトについて討論を行った。会議は3日にわたって行われ、初日は基調講演、招待講演が行われた。2日目は、本研究に関連する現状報告、デモ、ポスターセッション、3日目は将来展望とエキスパートによるパネル討論が行われた。

タイの大学と平成7年度より毎年行っている国際ワークショップWAINSについては、平成13年度はタイ王国のKassetsart大学でWAINS7を開催し、より緊密な議論をした。平成14年には軽井沢でWAINS8をMMA (MultiMedia Anotation) Workshopと共催し、国際共同研究の現況報告と今後の進め方について議論した。米国、フランス、タイ王国、ベトナムなど海外との研究協力の成果、TAO(通信放送機構)の基金で招聘した米国ミシガン大学Grosky教授によるマルチメディア情報のアノテーション(注釈)の研究について議論を深めた。

オンライン多言語語彙辞書DB Papillonの開発を日仏共同研究として開始した。日、英、仏、タイ語を対象とした取り組みについてもフランスのグルノーブルでPappilonワークショップを開催し、基本アーキテクチャを固めるなど研究の進展があった。

本研究はInter Disciplinary研究で、成果は文化と情報技術の融合した「デジタル・シルクロード・プロジェクト」へ発展的に継承された。

「電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究」

研究代表者：根岸 正光

電子図書館、電子ジャーナルなどに象徴される、学術的情報活動のネットワーク化と学術コンテンツの電子化は、国際的に急速に進展し、これは、学術論文等の学術系コンテンツの形成・利用の方法に多大の変貌をもたらしている。本研究は、こうした状況における学術情報システムの国際的動向に着目し、各国の研究開発・標準化に関する動向調査、学術情報の利用形態、研究評価への応用、学術研究体制の変容等に関する比較調査を行い、わが国の学術情報システムの将来的な方向性を見定め、政策的提言も含めて、その高度化・国際化に資することを目的とするものである。

研究は、(1)電子図書館・電子ジャーナルの動向、(2)情報通信技術の動向と学術情報への適用、(3)研究評価情報と学術情報政策の3方向に大別される。

- (1)では、ITの進展・普及による学術情報環境の変容を分析し、電子図書館システム、電子ジャーナル、書誌ユーティリティの国際的動向を、海外機関への実地訪問調査の結果を踏まえて検討した。
- (2)では、主として関連国際会議での発表・討論を整理・分類するという方法で動向の分析を行った。すなわち、ゲートウェイ、情報検索システム、人間・計算機インターフェース、XMLによる文書処理・通信技術、モバイル/ユビキタス・ネットワーク技術等の動向分析である。
- (3)では、学術研究のあり方に関する昨今の社会的要請を念頭に、学術雑誌の発行状況や国際共著論文の動向に基づく、国際的な情報発信の状況分析、情報学研究の日米比較分析、中国での研究評価体制、研究評価情報と独創性の関連、大学所在の学術情報を事業創出に結実する方策等を論じた。

なお、本研究の成果の一部は、国立情報学研究所における各種情報システムの研究開発に適用され、また、科学技術・学術審議会情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤WGの議論に反映され、すでに政策的展開が図られている。

②基盤研究(B)(2)

「ネットワークにおけるコミュニケーション支援のための知識ライフサイクルの研究」

研究代表者：武田 英明

本年度は最終年度であるので、前年度までの構築したシステムの検証と研究全体の総合評価を行う。まず、コミュニティシステムにおいてはインタフェースエージェントを用いたコミュニティ活動支援システムTelMeAの被験者実験を行い、評価を行った。この評価においては本システムはこれまでのテキストだけのシステムに比べてマルチモーダルな会話が行えることが確認できた。また主観評価ではすべての面でテキストによるシステムの評価を上回り、ユーザに受け入れやすいシステムであることが確認できた。また個人的知識を獲得するシステムにおいても被験者実験を行い、十分な効果があることが確認できた。このシステムにおいてシステムが提案してくる過去のメモ(リンク)はユーザに受け入れやすいものであったこと、またこのメモに基づく要約においてもよい性能があることがわかった。

まとめとしては、これまでの研究を総括して「メディアとしての知識」という概念を提起した。ここでは知識は個別の人や計算機(エージェント)の内部にあるのではなく、コミュニケーションを可能としているものが知識であるという概念である。このように考えるとき知識は閉じたものではなく開いたものになり、個々の人や計算機の内部でなくそれらの中間にあることになる。メディアとしての知識を再定義することで、本研究の各研究は体系的に位置付けられる。すなわち、オントロジーはエージェント間で共通性の高い知識であり、コミュニティの知識、環境の知識は中間であり、身体性に基づく知識は個別性の高い知識である。また人と計算機・機械という軸で考えると、オントロジーと身体性に基づく知識は共通性を目指すの対して、コミュニティの知識、環境の知識は人や機械の特質を取り込む知識であるといえる。

③基盤研究(C)(2)

「インデクス構造化による多言語情報検索の実現」

研究代表者：安達 淳

本研究では、情報検索システムにおいて従来の単語単位のキーワード索引ではなく、たとえば論文表題や梗概などを構成する文の単語間の係受け関係に着目し、二分木状の構造を持つ索引を用意することを検討する。それにより検索性能を向上し、質問者の意図に一層適合した的確な答えを得るような方式が提案できる。さらにそれを概念の検索に応用することにより、言語を越えた情報検索に適用する方式を実現することを目的としている。

まず、基本的な手法を確立するために、日本語論文表題の形態素解析、表題に用いられる係り受け関係の用語の分析を行った。その結果を受け、(1)インデクスの構造化の手法、(2)検索処理の方式の概要について検討してきた。これを基礎に、本格的な実証用ソフトウェア構築を行うことを意図し

ている。具体的には、大規模なテストコレクションであるNTCIRのデータに対して、表題と梗概について構造化インデックスを作成し、提案手法の有効性を示した。そして、日本語で得られた手法を基礎に、多言語に適応することを考え、英語に対して同様のインデックス構成法を行うための検討を行った。

言語横断検索に関しては、並行して研究を進めてきた関連性の重ね合わせ(RS)モデルによる検索の方が効果的であることが評価結果から出てきたため、主にこれに沿って言語横断検索の性能比較と性能改善の手法を見いだすための実験を進めた。その結果、日英の両言語で良好な性能を発揮できる見込みが得られた。

主な研究成果

松村敦、安達淳、情報検索における単語間の関係の効果、情報処理学会 DBS 研究会、125-34, pp.683-691,2001.

④奨励研究(A)

「マルチメディア情報の高次処理のための大規模多次元データベースシステム」

研究代表者：片山 紀生

高次元の特徴量空間は、マルチメディア情報の検索手法のひとつとして広く使われているが、近年の研究から、高次元空間では、低次元空間では想像できないような興味深い現象が起こることが明らかになっている。高次元空間の自由度があまりにも高いために点が散在してしまい、データ分布に激しい偏りが見られるようになるのである。そのような分布の偏りを考慮することによって検索処理を効率化する手法として、平成 12 年度には「示差性感応型最近接点探索法 (distinctiveness-sensitive nearest neighbor search)」を考案した。この手法の評価を進めるに従い、特徴量空間におけるデータの分布特性は、簡単にモデル化できるものではなく、偏りの激しいものであることが明らかになってきた。そのため、マルチメディア情報検索の効率化手法を吟味するためには、実世界のデータを使い、実世界の具体的な用途に対して、提案手法を評価・改良する必要があることが明確になった。そこで平成 13 年度には、実世界の具体的なアプリケーションとして、放送映像を対象とした映像データベースを構築した。放送映像の中でも特に情報価値の高いニュース映像に焦点を絞り、同日の複数チャンネルのニュース映像を対象とした。このデータベースに対して高次元特徴量空間に基づく類似検索システムを実装し、特徴量空間におけるデータの分布特性について検証した。その結果、特徴量空間における実世界データの分布特性が明らかになるとともに、マルチメディア情報検索の効率化には、示差性感応型最近接点探索法のようなデータ分布の偏りに適合した手法が有効であることが明らかになった。

「焦点画像処理に基づき画質制御を実現する画像通信方式に関する研究」

研究代表者：児玉 和也

本研究では、実時間処理を実現する任意焦点画像の生成手法、およびこれに基づき画質制御を行う画像通信方式を検討した。本年度は主として、昨年度に構築した実時間処理システムを用い、大きく分けて 2 つ、すなわち送信側あるいは受信側で焦点画像処理に基づき画質制御を実現する画像通信方式をそれぞれ具体的に検討した。

まず、受信側から指定された重要性に応じ送信側で画像中の領域ごとに鮮鋭度を調整しながら画像圧縮を行うことで、低レートにおいても注目領域の品質が維持可能となる適応的な画像符号化通信を検討した。設備品として購入した画像処理装置により高速な画像生成処理が必要となる適応的動画像圧縮通信を実現し、MPEG2符号化等を用いた通信にこのような画質調整処理を適用した場合の効果を実証した。

さらに受信側で画質制御を行う画像通信方式として、マルチキャスト等を前提にし、複数枚の焦点画像を送信し複数の受信側でそれぞれ適切な焦点ぼけを与えて画像生成を行うことにより、各ユーザごとに独立に視点の移動に加え焦点合わせの移動も実現する仮想空間共有通信への応用を検討した。消耗品として購入した大容量メモリや蓄積用ディスクにより、仮想空間共有通信のような大容量の画像情報やその転送を必要とするシステムの実現が可能となり、実際に仮想環境構築における映像

生成に有効な画質制御機能を与えることが可能であることを実証した。

以上のように、本研究では取得から生成までを対象とする新たな画像モデルを提案し、適応的動画像圧縮や3次元仮想空間共有を実現する画像通信方式といったような広範囲の応用において、それらに有効な画質制御機能を与えることが可能であることを示した。

「多眼動画像からポリゴン表現モデルを抽出するための実時間処理システムに関する研究」

研究代表者：後藤田 洋伸

三次元形状の表現方法には様々なものが知られているが、中でもその簡便さゆえに広く使われているのが、ポリゴンモデルである。ポリゴンモデルは、多くのグラフィックスアプリケーションの基礎を成しており、ポリゴンモデルを可視化するための専用ハードウェアも数多く存在する。本研究では、こうしたポリゴンモデルを多眼動画像から高速に抽出するためのシステムを試作した。

抽出の基礎となるのは、次のようなアルゴリズムである。まず空間中に平面をランダムに配置し、続いてその上に多眼動画像を投影する。投影された画像を比較し、一致度の高い部分を抜き出せば、テクスチャの貼り付けられたポリゴンを得ることができる。この操作を何度も繰り返すことにより、三次元形状のポリゴン近似を抽出する。以上のアルゴリズムは、隠れ面処理などにおいて多少の問題点はあるものの、機械的な操作の繰り返しから構成されており、その一部は、広く市販されている汎用のレンダリングハードウェアを使って、高速に処理することも可能である。

試作したシステムは、このようなアルゴリズムを、PCクラスタの上に実装したものである。レンダリングハードウェアを活用することにより、4台のビデオカメラから得られる映像の中から、毎秒数フレームを処理し、ポリゴンモデルを実時間で抽出することに成功した。

「大規模並列離散事象シミュレーションにおけるプロセッサ割り当て支援方式」

研究代表者：日高 宗一郎

- ・利用可能なプログラミングパラダイムについて

並列処理技術一般の分野で最近広まってきた負荷分散ツールについて調査した。

ネットワーク経由のサービスのためのサーバの負荷分散機構は商用ベースでも多数見受けられたが、米国 Sandia 国立研究所で開発されている Zoltan はデータ構造の移送ツールを含めた総合的な動的負荷分散ツールであり、本研究に最も関連性のあるツールとして調査を行った。Zoltan もオブジェクト指向であり、汎用性の高い分、ユーザがデータ構造の直列化と展開のコードを提供する必要がある。

- ・各コンポーネントの設計と評価について

データ構造の移送の際に必要なコストの重要な位置を占めるオペレーティングシステムレベルでの通信機構に関連して、割り込み処理機構やDMA機構について調査を行った。割り込み処理については身近でテストのしやすいインテル社のチップセットを対象にし、割り込みコントローラの制御自体にもかなりのCPUサイクルが費やされてしまうことに注意する必要があることが判明した。

また本研究の主な実験環境のひとつである共有メモリ型並列計算機 SR8000 について、ユーザレベルでの自由度がもっとも高いリモートDMA転送機構について調査を行ない、メッセージの送信順到着を保証する機構など、コンポーネントの設計に注意すべき点が明らかになった。

- ・統合開発環境の構築について

上述のSR8000はバッチシステムで管理されており、インタラクティブな処理が非常に制限されているため普段TSSシステムに慣れているユーザには馴染まないと思われる。インタラクティブコマンドと同一インタフェースのコマンドでスクリプトを記述することなしにジョブを直接投入出来るインタフェースを作成した。

「参照の共起性に基づく知識発見に関する研究」

研究代表者：村田 剛志

概要：

本研究では、(1)サーチエンジンの収録内容の特徴発見 (2)ハイパーリンクによる結合関係に基づくコミュニティ発見 の二つを目標としたが、サーチエンジンにおけるページ収集アルゴリズムやその収

録内容については外部に公開されていない部分が多く、収録内容の特徴の変化も速いことから、主として(2)についての研究を実施することにした。Web ページのハイパーリンクによって構成されるグラフ構造に基づいて、興味を共有する Web ページ集合である Web コミュニティを発見するシステムを前年度に構築しており、今年度はそのシステムをさらに発展させて、当該トピックにおける中心的なページ集合を見出すような洗練手法を考案した。重要な内容をもつ中心的な Web ページは他のページとのリンクが密であると考えられることから、2 部グラフで表される Web コミュニティにおいて、グラフが密になるようなページの選択を反復的に繰り返すように発見手法の改良を行なった。この手法に基づいたシステムを実現し、数十のトピックについてそのトピックに関するランキングの下位のページ集合を入力とし、洗練によって上位のページ集合が得られるかどうか実験を行なった。対象とする Web コミュニティのトピックによって効果に差はあるが、いくつかのトピックについて、そのトピックの中心的なページ集合を発見することに成功している。今年度の研究発表は上述のシステムに関するものを中心に行なった。その中の「Web コミュニティにおけるコアメンバーの発見」の口頭発表に対して、2001 年度人工知能学会大会優秀論文賞の受賞が決定している。また、人工知能学会誌に投稿した論文の採録も決定している。

「情報検索支援を目的としたユーザ適応型クラスタリング法に関する研究」

研究代表者：江口 浩二

ユーザを中心に据えた情報検索支援技術、とくに検索結果をユーザに効果的に提示する技術について、以下の二つの観点から検討を行なった。

- (1) Web 情報検索の出力結果をユーザに提示する機能の改善を目的とした、対話型クラスタリングによる情報提示方式について研究を行なった。ユーザが検索結果のブラウジングを行なう過程において漸次的に拡張・洗練化されたクエリの情報を、クラスタリングにおける分類視点と見なし、それを活用することでユーザの興味に適応可能な文書クラスタリング処理を実現した。さらに、提案手法を Web サーチエンジンの試作システムに適用し、実験による評価を行なうことで、その有効性を検証した。
- (2) Web 上に分散する図書情報、とくに書評を対象として、自動編集に基づいた情報提示方式を提案した。提案した方式は、大量の非定型な Web コンテンツの中から利用者が示した図書に関するものを特定し、自動編集を施した上で利用者に対して適切に提示するものである。ここでいう自動編集とは、該当部分の切り出し、情報抽出、フィルタリング、ランキングなどにより、Web コンテンツを自動的に整形する処理を指す。提案手法に基づき、目録データベースと連携した試作システムを構築した。当該システムは目録データベース中の特定の書誌事項から、該当する Web 上の書評情報へのリンク付けを可能にするものである。これを用いた実験により提案方式の有効性を確認した。

「拡張可能データベース管理システムの問合せ最適化に関する研究」

研究代表者：加藤 弘之

拡張可能データベースシステムの拡張データ型として XML データを扱型に着目し、問合せの書き換えによる問合せ最適化機構について研究を行なった。まず XML データを従来の関係データやオブジェクト指向データベースで用いられてきた述語論理に基づいてモデル化した。ここで XML データのエレメント名が述語名として内容データがその定義域として自然にモデル化される。XML データに関する問合せ言語は W3C でその標準化が進められており、その問合せ記述能力としてエレメント名に対する問合せが要求されている。これは上記のモデルにおいて、問合せを述語論理表現した場合高階論理となる。このような記述能力を有する問合せの書き換え方式として、マジックに基づく書き換え方式を採用した。これまでマジックは再帰問合せの不動点計算に対して有効に働くと見られてきたが、近年になって非再帰問合せにたいしてもその有効性が見い出されてきたからであり、その有益性は商用の関係データベースに採用されるほどである。この書き換え規則を適用するにあたって、問合せが高階論理となる点に留意した。そこで、構文規則は公開であるがその意味が一階であり、健全で完全な証明手続きを有する論理として HiLog をで記述することにした。これによりマジックに基づく問合せ最適化が可能

となった。但し、書換えコストの効率化と実際の間合せ言語であるXQueryとの対応付けは今後の課題となっている。

「気象衛星画像を用いた台風の形態解析及び台風画像データベースの構築」

研究代表者：北本 朝展

本研究の特徴は、情報学の視点から台風という気象現象を眺めることで、大規模気象データに潜む統計的性質を明らかにするという点にある。特に気象衛星画像に出現する台風雲パターンに対して、パターン認識、画像解析、機械学習等の情報学的手法を適用することで、従来気象学では知られていなかった知識を発見することを目指している。このような目標に向けて、本研究では以下のような研究成果を得た。

(1)大規模台風画像データコレクションの構築および公開

本研究では北半球および南半球の台風画像を蓄積した 34,000 件規模の画像データベースを構築した。このデータベースは世界的にもユニークな画像データベースであり、さらにアメダス気象データなどを統合することで、さらに有用なデータベースに発展する可能性がある。また上記の画像データベースを <http://www.digital-typhoon.org/>においてWWWを用いて一般に公開することで、広く一般の人々がこのデータにアクセスすることを可能にした。

(2)台風データマイニング

大量の台風雲パターンデータコレクションに潜む統計的性質を明らかにするための、多様なパターン認識手法をこの画像コレクションに適用した。例えば主成分分析、クラスタリング、自己組織化マップ、カオス時系列解析、等の手法である。これによって、特に台風の性質を可視化するという点で従来にない新たな視点を提供することができた。

(3)台風に関する予兆の発見

台風の単なる予測ではなく、台風これから重大な変化が起きようとしているときに、その予兆を発見するというテーマにも取り組んだ。まずは解決すべき問題を明らかにし、それに対して種々の情報学的手法を適用した。例えば、サポートベクトルマシンなどの手法によって、重大な変化が起こりそうなケースとそうでないケースとの識別を試みた。

「大規模グラフィカルユーザーインターフェースのための軽量制約プログラミング技術」

研究代表者：細部 博史

大規模なグラフィカルユーザーインターフェースの制約プログラミングによる効率的な実現を可能にするための要素技術として、制約解消の軽量化に関する研究を行った。平成 13 年度の成果は、(1)制約プログラミング手法の効率向上によるさらなる軽量化と、(2)グラフィカルユーザーインターフェースへの適用による提案手法の実証的評価である。研究成果(1)は、不等式を含む線形制約の系を解消する、平成 12 年度に提案した制約プログラミング手法の効率をさらに向上したというものである。平成 12 年度の手法は、数千個の制約からなる系を実時間に解消することはできたが、これは不等式制約の個数が少ないという条件のもとでの結果であった。平成 13 年度はこの条件を緩和することを目標の 1 つとし、不等式制約処理方式の改善を試みた。その結果、制約系内のほとんどの変数とその領域に関する不等式制約を持つような極めて不等式制約が多い状況でも、数千個の制約からなる系を実時間で解消することが可能となった。研究成果(2)は、本研究で提案した制約プログラミング手法を用いて制約解消系を実装し、さらにそれをグラフィカルユーザーインターフェースに適用することで、本研究の提案手法の応用性の実証と性能の評価をしたというものである。その結果、本研究の提案手法によって、大規模なグラフィカルユーザーインターフェースを実際に構築可能であり、また従来手法に比べても十分に高速であることが確認された。

⑤研究成果公開促進費

「データベース 大学等研究組織が保有する電子化文書総合データベース」

研究代表者：高須 淳宏

大学等の研究機関においては、学術研究を進める過程で多くの文書が発生している。これらの文書には学術的にも重要であるものが多く含まれている。このデータベースはこれらの学術的文書の内、電子的媒体により生成されたもので、ネットワークを通じて大学単位で個別に流通している電子化文書を、ネットワーク上の情報記述技法として新たに考案したメタデータを手がかりにして網羅的に編成し、データベースとして公開するものである。

科学研究費研究成果公開促進費の重点データベースとして平成 11 年度から作成を開始し、平成 13 年度は新たに 20000 件のデータを作成した。

⑥特定領域研究(C)(2)

「映像の知的構造化による大規模ニュース映像コーパスからの検索・情報発見に関する研究」

研究代表者：佐藤 真一

本研究では、ニュース映像の大規模なコーパスを対象として、その中から必要な情報を自由に呼び出す映像検索技術、およびコーパスを解析して利用者が必要とする情報や知識を発見する映像データマイニング技術の検討を行った。研究の遂行においては、画像解析、自然言語処理、データマイニング、情報検索などの分野の技術を総合し、計算機によるニュース映像の「理解」の実現を第一の目的とした。当該年度は、多数のニュース映像の処理結果を総合することにより、個別のニュース映像の表す断片的な知識を首尾一貫した知識に対応した映像に再構成したり、断片的な知識間の関連から新たな知識を発見したりという、いわば映像データマイニングの実現に向け、画像解析及び自然言語処理に基づく映像解析技術、並びにマルチメディアデータの分布の偏りに基づくデータマイニング技術に向けての基礎的な検討を行った。本研究に関する主たる成果を以下に示す。

Norio Katayama and Shin'ichi Satoh, "Distinctiveness-Sensitive Nearest-Neighbor Search for Efficient Similarity Retrieval of Multimedia Information," International Conference on Data Engineering (ICDE2001), pp.493-502, Heidelberg, Germany, Apr.2-6, 2001.

Shin'ichi Satoh, Yuichi Idehara, Hiroshi Mo, and Takashi Hamada, "Subject Region Segmentation in Disparity Maps for Image Retrieval," International Conference on Image Processing (ICIP2001), Vol.-II, pp.725-728, Thessaloniki, Greece, October 7-10, 2001.

Reiko Hamada, Shin'ichi Satoh, Shuichi Sakai, and Hidehiko Tanaka, "Detection of Important Segments in Cooking Videos," IEEE Workshop on Content-based Access of Image and Video Libraries, in conjunction with CVPR-2001, Kauai, Hawaii, USA, 2001.

「電子商取引の制度的プラットフォーム構築に関する研究」

研究代表者：岡田 仁志

電子商取引の制度的なプラットフォームを構築するため、欧州連合における電子社会構築に向けた域内ルール策定の動向に関して、主として金融部門と流通部門における電子化の状況を調査したほか、米国における電子商取引ビジネスの動向およびアジア各国における電子決済ビジネスの普及状況について現地調査を実施した。

電子商取引の普及において発展途上にある電子決済の分野においては、韓国における中央銀行を機軸とした電子通貨体制の構築状況を調査し、貨幣の電子化がもたらす社会的コスト減少などの効果と通貨発行量操作への影響を分析した。韓国や香港における非接触型 IC カードの普及状況や、携帯電話端末を電子財布として利用した決済システムなどの高度技術事例を調査し、先端システムを支援する法制度のあり方を検討した。

情報社会インフラである個人情報保護の問題に関しては、欧州連合の方針をふまえた国際統合的なコンプライアンス計画の策定とプライバシーポリシーの制定を試みた。携帯電話などのモバイル端末

を使った決済ビジネスに関しては、民間研究機関における電子決済に関する研究会にリーダーとして参加するなど、民間のコンソーシアムや公的機関における制度設計に参画した。

研究成果の刊行においては、電子情報通信学会等の学会における報告を複数回行ったほか、電子商取引論の基本書として丸善より『サイバー社会の商取引—コマース&マネーの法と経済』を国立情報学研究所監修の情報学シリーズ第4巻として刊行した。また、著書に関連して大学および学会ならびに公的機関における学術講演を実施するなど研究成果の社会還元に努めた。

大学等の高等教育機関における情報制度設計として、電子情報通信学会が内閣官房および文部科学省に提出した高等教育機関におけるネットワーク運用ガイドラインの策定作業に参加し、電子情報通信学会会長より感謝状を授与された。

平成 13—14 年度

①基盤研究(A)(1)

「先行投機的処理機能を持つマルチエージェントシステムの構築」

研究代表者：佐藤 健

インターネットの普及にともない、ネットワークを用いた新規・既存ソフトウェアの統合や異種データベースの同時使用などによる新しい分散協調問題解決手法が多く研究されているが、そのような手法の研究において、通信遅延や計算機故障などによる情報の不完全性に関する処理は、ほとんど考慮されていない。また、たとえ通信が完全に保証されていたとしても、現在では、計算機処理速度に比べて通信速度が格段に遅いため、他エージェントからの情報を受信してから次の処理を行うのでは、計算機の処理能力を十分に引き出せない。

本研究の目的は、以下の3点である。

- ・平成 11 年度および 12 年度に行った以前の不完全通信に対処するエージェントモデルの機能を拡張し、すべてのエージェントが、効果 vs 費用のトレードオフを見積もりつつ先行投機的処理を行うようにできる手法を開発する。
- ・企業で実際に使われているエージェントシステムを参考にして、上記の拡張エージェントモデルを実装し、高度で大規模な分散協調問題解決が可能なシステムを構築する。
- ・企業側の研究者から供給される実在する大規模問題を解くことにより、本システムの有効性を検証する。

平成 13 年度の成果は以下である。

- ・すべてのエージェントが先行投機的処理を行いつつ分散協調問題解決ができる手法の検討を行った。具体的には、各エージェントは、あらかじめ他エージェントへの質問に対するデフォルトの信念を蓄えておき、現在の信念に矛盾しない仮定を使うプロセスに関してのみ処理を行い、信念に矛盾する仮定を使おうとしたときには、そのプロセスを中断させる。そして、他エージェントからの回答が来た場合には、信念を更新し、新しい信念に矛盾しない仮定を使っているプロセスに関して新たに処理を行うという繰り返して実行を行う。
- ・このような実行方式に対して、論理プログラミングの完全モデルを用いた意味論を与え、提案手法の健全性を証明した。

平成 14 年度の成果は以下である。

- ・エージェントがプランニングをする際に必要なアブダクションと上記先行投機的処理を行うアブダクションの2種類のアブダクションを考え、それらに対して、拡張安定モデルに基づいた意味論および手続きを与え、健全性を証明した。
- ・マルチエージェントシステムにおけるデフォルト推論の意味論とその計算手続きについて検討した。
- ・投機的計算についてゲーム論的評価を行った。
- ・複数のエージェントが自由にメッセージ通信を行い、すべてのエージェントが投機的計算を行うためのシステムを開発した。

- SOL 導出を拡張し、より動的な環境に適した SOL-S(Γ) 導出を実現した。具体的には、マルチエージェントシステムの情報の不完全性を、部分的デフォルトと暫定的回答でモデル化し、その合理的な計算を目的として、投機的計算を実現する条件付き解計算メカニズムを開発した。また極小解の性質とその計算メカニズムを明らかにした。
- 先行投機計算におけるリスク計算とその管理法を会合交渉問題を対象に議論した。またリスク軽減の手段として、先行投機計算と通常計算を切り替えるハイブリッド法、状況の不確実さに対応する段階的契約法を提案した。
- SAT ソルバの投機的実行による SAT プランニングの高速化に関する研究を行った。また、効率の良い先行投機的計算のために、最新の枝刈り手法を実装した結論発見システム SOLAR を開発した。
- プラン作成、アクション実行、知識更新、プラン修正を組み合わせたエージェント用動的証明手続き(動的プラナー)を開発した。

②基盤研究(B)(1)

「デジタル・ミュージアムにおける参加型造作学習システム」

研究代表者：橋爪 宏達

近年、博物館・美術館などで展示方式を工夫し、デジタル・ミュージアムを実現する動きが見られるようになった。しかし、現在のデジタル・ミュージアムは利用者に一方的に情報提供するものがほとんどであり、利用者の積極的な参加を前提としたものではなかった。

これに対し、本研究「デジタル・ミュージアムにおける参加型創造学習システム」(科学研究費一般研究 B2000 年～2002 年度) では、最近のハードウェア素子利用技術、ソフトウェアエージェント技術、ならびに、グループ学習理論を取り入れた新しい参加型創造学習システムを提案し、その有効性を実証した。

ここで我々の使用したのは、すでに他研究で開発していた RFID タグを用いたボードゲームとシミュレーションシステムである。これは RFID タグをセンサーに使用し、アンテナアレイを数 100 ヶグリッド状に並べた装置である。環境問題や国際理解を課題とする小学生むけの教科教育において実験したところ、使用者の熱烈な指示を得たため、今回はこれらの実験的成果をさらに展開し、デジタル・ミュージアムを対象とする参加型創造学習システムに発展させたものである。

本研究では、博物館を、見学者が展示に参加し、創造的な学習と情報発信する場と考えて、そこで利用する枠組みとして「デジタル・ミュージアム」を想定した。

実験ではフランス・ラバル市で開催されたバーチャルリアティエー展に出展して好評を博しつつ実験データを採取した。また科学技術館の館内ガイドシステムに応用する機会も得た。

研究で得た知見を学会に報告した論文をまとめ、最終報告とした。

③基盤研究(B)(2)

「超高速インターネットルータに適用するスケーラブル IP ルーティング制御」

研究代表者：浅野 正一郎

光伝送によるインターネットを実現するためには、単に超高速性能を求めるだけでなく、光伝送からインターネット制御、さらには GRID 応用からの要求を一体化した統合制御を実用化することが目標となる。このための制御を広域規模で実用化する方式を開発し、実証することにより、その実効性の確認を行っている。当研究は、平成 15 年度まで継続する。

「高次情報ネットワークによる高等教育を対象とした適応型遠隔教育システムの研究」

研究代表者：上野 晴樹

21 世紀の高等教育は、多様化する社会の要求に応えるために、生涯教育の比重が高くなり、教育に変革が生じつつある。高機能次世代 Internet を高等教育へ活用することによって、教育機会の拡

大、生涯教育の促進、個別要求への対応を、経済的に実現すべきである。一方、高等教育の重要な特徴は背景知識や学習目的が受講者によってかなり異なる点であり、適応型学習機能が不可欠である。更に、教育は単に新しい技術を用いて実現できるというものではなく、理念および概念の構築、実現技術、実験を通しての多角的な評価、のスパイラルによって方向づけをすべきであるとする。本研究では、情報ネットワークを高度に活用した遠隔教育システムに関して多角的に研究し、概念形成、モデリング、理論および手法の研究、教育支援環境、実験システム試作、および評価までを行い、高次情報インフラの高等教育および生涯教育への適用のあり方を明らかにすることによって、“いつでも、どこでも、だれでも”型高等教育環境の実現を目指している。この目標に向けて行った本年度の主な研究実績は以下の通りである。1) サーベイおよび既に開発して運用している遠隔教育システムの評価に基づき、高等教育向き遠隔教育システムのフレームワークを考察した。2) 知的教育支援環境のソフトウェアプラットフォームとして、汎用フレーム型知識工学環境 ZERO++の動作の安定性および速度を高める工夫を行った。また、より汎用性を高めるために SUN WS 以外に近年普及が進んでいる Linux への移植も行った。3) 非同期型遠隔教育システムに不可欠の Web コンテンツの開発・編集・利用環境の設計をし、基本部分のインプリメンテーションを行った。4) 現在、ZERO++を用いて、中学校教員(技術科)を対象とした遠隔現職教員研修システムの中核となる題材に関する知識モデリングを検討している。この知識は、研修内容の学習指導案に基づき構成され、単元構想、教授項目に関する知識、背景知識から構成され、対象モデルの考え方により構成されている。その一部を使い教員研修システムを構築中である。

「ネットワーク分散知識システムのための知識共生モデルの構築に関する研究」

研究代表者：本位田 真一

本年度は初年度として、知識共生の概念について考察し、問題と目標、および解決の方法を明らかにした。次に個別の研究としてはインターネットディレクトリにおける統合方法について研究を行い、統計的手法による方法を開発した。知識共生概念の検討においてまず次のような仮説を設定した。知識をもつ担体、知識主体(knowledgeable entity)というものを仮定する。この知識主体は知識を利用して問題を解決したりすると同時に自らの知識を拡張する。

知識主体は計算機によるプログラム(いわゆるソフトウェアエージェント)であってもよいし、人間、あるいは人間のグループであってもよい。インターネットにおける情報流通はこの知識主体間の関係を用いて再定義される。インターネットに存在するそれぞれの情報源もここでいう知識主体であり、またインターネットの利用者も同様である。

このような利用者と情報源の関係も知識主体間の関係として再定義される。これにより問題のクラスを次の4つに分けた。(A)知識主体の静的関係の構築:ここでは知識の統合や alignment など複数の知識間の関係をいかに表現して発見できるかが課題である。(B)知識主体の動的関係の構築:知識の変化する過程に注目して、この過程をモデル化、システム化することが課題である。(C)知識主体の自律的形成:一定の目的をもった知識主体が人間やエージェントの関係からいかに形成されるかについての問題。(D)知識主体の自律的拡張:さらに知識主体がいかに自らの知識を拡張していくかの問題。次に上記の(A)の問題の一つとしてインターネットディレクトリにおける統合方法を取り上げて研究を行った。ここでは共有インスタンス(URL)の分布を κ 統計量で比べることで異なるディレクトリのカテゴリの類似を計算した。この対応関係を用いて一方にしかないインスタンスを他方のディレクトリにマップさせることが可能になった。

「多様な機器のネットワーク上の協調的統合を実現する機能拡張型実時間分散 OS 構成法の研究」

研究代表者：丸山 勝巳

プログラム開発のネックが、しばしば新ネットワークサービス開始を遅延させている。

実時間システムのプログラム開発は、ユーザモードで動く一般の応用プログラム開発に比べて非常に難しいからである。一般の応用プログラムはユーザモードで動作するのに対し、システムプログラムはカーネルモードで動作し、またハードウェア制御を伴うことが、その困難な理由の一つである。

本研究では、従来カーネルコードとして実現していたOS機能やドライバをユーザモードコードとして

書けるようにし、かつこれらのモジュールを追加することで容易に機能拡張が可能なOSを研究している。

今期の主要な進捗は以下の通りである。

- (1) マイクロカーネルには、ドイツのKarlsruhe大学で設計されたL4-kaを採用し、その上に論理メモリ管理機構、ファイル機能、ネットワーク機能など(サービスタスク)を独立ユーザレベルプロセスとして構築し、プログラム開発の容易化と拡張性を実現した。
- (2) サルビスタスクは独立の論理空間とユーザモードとで保護されているので、OSサービスタスクの耐障害性を向上した。
- (3) 制御プログラムやドライバをユーザモードタスクにすることにより、プログラム開発の容易化を実現した。
- (4) 高いモジュラリティにも関わらず、オーバヘッドは少ないことを確認した。
ソースプログラムは、<http://research.nii.ac.jp/H2O/>で公開している。

「ジオメディア情報資源の発見及び検索に関するプロジェクト」

研究代表者：Frederic Andres

平成 13 年度

ジオメディア・テストベッドを立ち上げた。このテストベッドはメタデータ抽出の研究のための資源を提供するものである。具体的な研究活動は以下の通りである。

- (1) 大規模地理的マルチメディアコンテンツ(10 億枚の地理画像や、300 巻のビデオ、数テラバイトの地理データなどから構成される)を蓄積した包括的なジオメディアデータベースへのアクセスを確保した。これらのデータは日本(岐阜大学)、米国(ウェスト・バージニア大学)、ヨーロッパ(フランス:ラバル・マイエヌ・テクノポール、ノルウェー:オスロ・サイエンス・パーク)、タイ(カセサート大学)において収集しているものである。
- (2) 地理画像に適した多重スケールのデータ表現手法を研究した。この手法によって、大規模ジオメディアデータセットに対する新しい索引付けアルゴリズムを設計した。

平成 14 年度

メタサーバの最初のバージョンを立ち上げた。このメタサーバは情報資源選択のためのプラットフォームを提供するものである。具体的な研究活動には以下の通りである。

- (1) 多次元ジオメディアに基づくメタデータベースにおける「テンプレート」の管理と設定を研究した。ここでテンプレートとは、キーワード、注釈、テキストパターン、色パターン、形状パターンなどを指すものである。このようなテンプレートに基づくアプローチを適用することにより、ジオメディアデータベースの特徴ベクトルはテンプレートの集合に対する類似度に基づいてクラスタに分割され、またメタサーバはテンプレートと統計的情報の両方に基づいて群化された。
- (2) メタサーチエージェントのための資源選択手法を設計するとともに、ジオメディアデータベースのクラスタを表現する際の、テンプレートやメタデータの有効性を評価した。このタスクでは、ジオメディアデータベースとテンプレートとの間の視覚的な関係を表現する統計的情報を収集することが鍵であった。ある特定の問い合わせに関して重要なジオメディアデータベースは「2レベルプロセス」で決定した。すなわち、まずテンプレートと問い合わせとの類似度を決定し、次にこれらの視覚的な関係に基づいてジオメディアデータベースサイトを順番づけ同時に、ジオメディアデータベースの索引づけアルゴリズムも、各データベースに実装した。
- (3) ジオメディア情報資源の選択という文脈に基づく WaveCluster 法の拡張について研究を進めた。また多重解像度クラスタリングコンポーネントの第 1 バージョンを配布した。

④基盤研究(C)(2)

「共進化メカニズムに基づく語-文書クラスタリングに関する研究」

研究代表者：相澤 彰子

本研究では、「クラスタ指向インデキシング」と呼ぶ情報検索の枠組みを提案し、代表的ないくつかの文書コレクションへの適用による実証面での評価を行った。

提案手法は、申請者の提案による「確率重み付き情報量」を評価基準として語や文書の同時クラスタリングを行うもので、関連文書や語のマイニングによるグループ化を情報検索におけるインデキシング操作と対応付けて、検索用資源の自動構築および活用を目指す点が特徴である。また、現実的な規模の文書コレクションに対応するために、確率的に生成した初期クラスタに対して局所的な最適化を適用しており、遺伝的アルゴリズムにおける「共進化的な」アプローチを情報検索分野に適用したものであるといえる。

本研究ではまた、NTCIR1 から抽出した学会発表論文の抄録、毎日新聞・日経新聞の CD-ROM 版、海外の新聞記事である Reuters や Financial Times 等、数万件から数十万件の規模の文書コレクションに対して提案手法を適用して有効性を調べた。テキスト分類問題の枠組みを用いた評価によって、分類の再現率は、やや落ちるものの優れた機械学習法として知られるサポートベクタマシンとほぼ互角であり、従来の自動分類では扱いがむずかしかったカテゴリ境界上の文書のグループ化が可能であることを確認した。

「構成的集合と余帰納的定義を用いたプログラム合成」

研究代表者：龍田 真

本研究の目的は、構成的集合と余帰納的定義をもつ構成的論理を構築し、この論理体系を用いて、余帰納型を用いたプログラムの性質を明らかにし、また、構成的集合と余帰納的定義を用いたプログラム合成システムを試作することであった。特に、(1)余帰納型に内在する計算の本質は何か明らかにする、(2)余帰納的定義の証明論的強さを調べることにより余帰納型により表現できる関数を分類する、(3)構成的集合と余帰納的定義を用いたプログラムの検証、合成を行うための論理体系の構築、(4)構成的集合と余帰納的定義を合わせもつ論理に対する実現可能性解釈の定義、(5)一般的余帰納型による既存プログラミング言語の拡張、(6)構成的集合と余帰納的定義を用いたプログラム検証、合成システムの実現、(7)ストリームプログラム、並行プログラム、セキュリティプロトコルの検証および合成実験、の研究を行うことを目的とした。

平成 13、14 年度では次の研究を行った。(1)二階古典自然演繹の強正規化性に関して CPS 変換をもちいた Parigot の証明の誤りを指摘し、その原因である CPS 変換の継続消滅について論じ、オグメンテーションの概念を用いて証明を完成させた。(2)古典論理における q -実現可能性解釈を、新しい実現可能性解釈を定義することにより構成的論理において特徴付けた。(3)型理論の強正規化可能性および正規化可能性から対応するシーケントによる論理体系のカット除去定理を導く方法が一階述語論理に対して知られていたが、これを二階述語論理に拡張し、同様の結果が成り立つことを証明した。(4)例外処理計算系の強正規化可能性定理に対して CPS 変換およびオグメンテーションを用いた証明方法を検討した。(5)ストリームプログラム、並行プログラム、セキュリティプロトコルの検証、合成の可能性を検討した。

「境界要素法的高速化と逆問題への応用」

研究代表者：速水 謙

1. 境界要素法による大振幅定在波の直接シミュレーション

2 次元境界要素法を用いて液体自由表面の運動の時間変化の直接シミュレーションを行う手法を開発し、従来困難であった大振幅定在波の直接シミュレーションに成功した。

2. 逆問題

脳磁図逆問題などに応用される 3 次元ポアソン方程式のソース項同定逆問題において、領域内のソース分布に応じた効率的な直接解法を構築した。ソースが 1)領域内で比較的一様に分布するとき、

2)領域表層に集中して存在するとき、各場合に対し、場の多重極展開の 1)低次モーメント、2)高次モーメントの無限級数を用いることにより、ソースを 1)xy 平面、2)リーマン球面に射影した位置に関する再構成公式を得た。特にリーマン球面に射影する方法においては、領域境界上で局所的重みをかけた境界積分、もしくは境界上の一点における場の高階微分を観測データとしてソースが同定可能であることを示した。

3. 特異な系に対する反復法の収束性の理論解析

特異な係数行列をもつ連立一次方程式や最小二乗問題に対するクリロフ部分空間反復法の振る舞いを理論的に解析した。具体的には、CR 法(共役残差法)、GCR(k)法(一般化共役残差法)、GMRES 法(一般化残差最小法)が破綻することなく最小二乗解を与えるための必要十分条件を求めた。手法として、アルゴリズムを係数行列の像空間とその直交補空間の成分に分離する手法を用いた。

また、優決定な最小二乗問題に対して、不完全 QR 分解による前処理を施してから GMRES 法を適用する手法を提案し、その有効性を検証した。

4. 固有値問題の反復解法に関する研究

Jacobi-Davidson 法の修正方程式に解が存在するための必要十分条件を導き、その解によって拡張される部分空間と係数行列の不変部分空間の関係を明らかにし、効率的な初期ベクトルの生成法を提案した。また、同手法の精度保証計算法を提案した。

「ユービキタスコンピューティングネットワークにおけるコンテンツシームレス通信方式」

研究代表者：山田 茂樹

通信の到達性向上と通信に関わる複雑な設定・操作の排除を目的としたユービキタスコンピューティング・ネットワークの実現に向け、時々刻々変化するユーザの通信環境(通信コンテキスト)に関する情報を自動的に取得し、それをもとに受信者がメッセージを受信するために最適な送信端末と通信サービス/メディアを自動的に選択し、それに合わせた通信サービス/メディアの自動変換を行なう新しい通信方式「環境適応型パーソナル通信 EAPEC: Environment-Adaptive Personal Communications」の実現方法を明らかにした。

平成 13 年度は、通信コンテキストを 5 つの構成要素(ユーザの位置、利用可能な通信端末、通信サービス、通信メディア、ユーザプレファレンス)に分類し、EAPECの実現には 5 つの機能モジュール(Location Server, Terminal Profile Database, User Profile Database, Universal Communication Navigator, Media Processing Server)が必要であることを明らかにした。

次にこれらの機能モジュールを収容するネットワークアーキテクチャとして、第 3 世代移動通信技術の標準化団体である 3GPP(Third Generation Partnership Project)が提唱する all IP ネットワークアーキテクチャを拡張することにより実現できることを示した。

更に、EAPEC をネットワーク的視点から性能評価するため、テレコム系サービスの重要な性能指標である呼設定遅延時間に着目して、M/M/1タンデム型評価モデルと M/D/1タンデム型評価モデルとを構築し、性能評価シミュレーションによって呼設定遅延時間の平均値と 95パーセンタイル値を求めた。これにより SIP サーバ処理時間や IP ネットワーク遅延が呼設定遅延に与える影響が明らかになり、all IP ネットワークの設計指針を得ることができた。

平成 14 年度は、EAPEC を拡張、一般化して、ユーザコンテキスト(時々刻々変化するユーザの情報環境に関する情報)を自動的に取得し、ユーザが必要としている情報を適切な形態で送り届けるコンテキストウェア・コンテンツデリバリサービスとシステムを提案した。

更にコンテキストウェア・コンテンツデリバリシステムを実現するネットワークアーキテクチャとして、第 3 世代移動通信網内の設備にコンテキストを取り扱うコンポーネントを配置するネットワーク中心型アーキテクチャ(NCA)とエンドユーザの設備にコンテキストを取り扱うコンポーネントを配置するエンドユーザ中心型アーキテクチャ(ECA)を提案した。両アーキテクチャを技術面から比較するために、ユーザコンテキスト獲得から、対応するコンテンツサーバ情報をユーザに通知するまでのレスポンスタイムに関して、その平均値及び 95パーセンタイル値を、性能評価シミュレーションによって求めた。その結果、ネットワークのトラフィック特性やシミュレーションパラメータの値に応じて両アーキテクチャのレスポンスタイムの優劣が変動することを明らかにした。

「命題論理の証明の複雑さに関する研究」

研究代表者：新井 紀子

平成 11 年度に提案した、simple combinatorial reasoning が類似の体系である symmetry つきの resolution よりも体系として優れていることを証明した。すなわち、symmetry つきの resolution は backward search ができないという自動証明機向けの体系としての大きな欠点があるばかりでなく、simple combinatorial reasoning では線形時間で解決可能であるような問題にたいして、指数時間かかることがあることを示した。このことで、simple combinatorial reasoning の優位性を証明したといえる。

一方、simple combinatorial reasoning を C 言語を使って自動証明機 Godzilla として実装した。そして、この自動証明機が初等的組み合わせ問題に対してどれだけ短時間で大規模な問題を自動的に解くことができるのかを(1)鳩ノ巣問題(2)部分集合問題(3)k分割問題(4)クリーク色分け問題などを例にとり、実験を行う。その結果、今回開発された Godzilla が最先端の各種の自動証明機よりも高速で問題解決することが確認された。

上に挙げられた問題に関しては Godzilla の計算時間は入力の一乗程度のオーダーであった。ただし、この結果は入力となる命題論理式を元の述語論理式からシステムティックに変換して得た場合であり、入力をシャッフルすると、計算時間は指数時間かかってしまう。このことを改善するため、さまざまなヒューリスティクスを検討して、好結果が得られるものをさらに選りすぐり、改良型 Godzilla に発展させた。

「トラヒックの実測データを利用した情報伝達品質の制御手法に関する研究」

研究代表者：計 宇生

本研究では、高速情報通信ネットワーク上に流れるトラヒックに対する実測や分析を行い、実測されたトラヒックデータを利用して、品質制御方法の有効性を検証し、より現実に即したトラヒック記述、品質制御の手法を見出すことが目的である。

平成 13 年度ではまず、学術情報ネットワーク(SINET)と国立情報学研究所の LAN 上に流れるトラヒックに対して観測を行い、いわゆる自己相似性や、長期依存性の存在が確認された。また、ネットワークの負荷が高い状態では、キューイング遅延が著しく大きくなり、このような特性の品質に対する影響が大きいことが実データを使ったシミュレーションによって確かめられた。

さらに、個々のパケットの到着時間、ヘッダー情報に基づき分析を行い、ネットワークに流れるファイル長の分布が Log-Normal や Pareto 分布に近いことがわかった。このようなファイル長の分布は、トラヒックの長期依存性ができる原因の一つであることが実証された。

平成 14 年度では、観測されたトラヒックのデータを用いて、トラヒック特性と、サービス品質に対する影響に関する理論解析とシミュレーションを進めた。統計解析により、インターネットトラヒックは、一般に、時間スケール上における相関特性の変化が厳密な自己相似性よりも複雑な形態を有することが明らかになった。

このような複雑な相関特性を持つトラヒックの性能と品質への影響を予測することが必要であり、そのための近似解析方法が検討され、相関特性の異なる複数の時間スケールのそれぞれに対して、別々な FBM 過程をあてはめ、それぞれの FBM 過程による解析の結果を合成して元のトラヒックの性能として近似する方法を提案した。

「移動オブジェクトと分散トランザクションを統合する分散システムの設計と実装」

研究代表者：佐藤 一郎

分散処理における通信遅延及びトラフィックを削減する方法として分散トランザクション技術と移動オブジェクト技術が注目されている。しかし、その実現方法は大きく異なる。前者はオブジェクトのコンピュータ間移動性を利用して、一つのオブジェクトを動的に再配置してコンピュータ間通信を局所化するのに対し、後者はオブジェクトの複製を各コンピュータ上に事前に配置してコンピュータ間通信を削減し、複製オブジェクトの一貫性はトランザクションを用いて解決する。ただし、両技術の優劣はネットワーク性能や計算内容に依存することから、この研究では両者の違いを隠蔽し、両方式の利点を活かすことができる新しい分散オブジェクトの枠組みを提案する。まず両技術に対応したミドルウェアとして実装するが、具体的には移動オブジェクト技術を利用した新しい分散トランザクションアルゴリズムを提案し

た。これは既存の分散トランザクションにおいて、コンピュータ間通信として実現されてきた処理を移動オブジェクトに内包し、そのオブジェクトごと通信相手側に移動・実行することにより、コンピュータ間通信を削減して、通信失敗の影響をオブジェクト移動時に最小化し、分散トランザクション処理の単純化・効率化が図れるなど画期的なものとなった。また、提案手法に対応したオブジェクトリクエストブローカ(ORB) 機構も導入した。これは移動オブジェクト内に実装する ORB であり、オブジェクトの利用側からは両方式の実装を隠蔽し、分散オブジェクトの実装においても統一的な方法でプログラミング可能にすることが確認できた。

⑤萌芽研究

「リンクの共引用・書誌結合分析による分野構造分析」

研究代表者：神門 典子

リンク分析を側面から支える枠組みとして、ページとリンクの類型化について検討を行い、ファセット分類とグラデッドセオリに基づく分類記述枠組みについて考察を進めた。分類構造と効果の対応の検証は不十分である。認知的側面および、検索、テキスト要約等の情報活用技術への有効性について、さらなる検討の必要性が明らかになった。

分担研究者は、Web ページのハイパーリンクによって構成されるグラフ構造に基づいて、興味を共有する Web ページ集合である Web コミュニティを発見するシステムを既に構築しており、そのシステムをさらに発展させて当該トピックにおける中心的なページ集合を見出すような洗練手法を考案した。興味を共有する Web ページ集合である Web コミュニティを、ハイパーリンクによるグラフ構造に基づいてモデル化する手法についての考察を進めた。関連研究としては、固定した二部グラフ構造を探索する Kumar らの手法と、ネットワーク理論を適用した Flake らのグラフ分割手法の二つがあるが、二部グラフ以外の基本要素について、構造と意味の対応を立証する研究は不十分である。実際の Web コミュニティを構成している基本要素や、その組み合わせによる構造変化の可能性について、さらなる検討の必要性が明らかになった。

⑥奨励研究(A)

「WWW 型遠隔学習における効率的な質疑応答伝播のための柔軟な学習者グループ構成支援」

研究代表者：井上 智雄

本研究が対象とした、WWW を利用した分散非同期型の遠隔学習環境は、地理的制約だけでなく時間的制約からも自由で各学習者が自分のペースで学習できる利点がある。

一方、個別学習を基本とするこの学習環境においては、教材の理解に行き詰まった時に適切な指導・助言を得ることが対面授業に比較して困難であり、これが学習の継続を難しくしている原因の一つであると考えられている。学習者が個別に学習を進めており、疑問点を質問する場合に、適切な回答が迅速に得られることが問題の解決に必要である。

本研究では、学習活動の不可欠な一部である質問とその回答をより一般的にコミュニケーションとして捉えた。学習者が発する質疑応答をはじめとするコミュニケーションに基づいて、柔軟に学習者グループを構成・制御する方法を提案し、またこれに並行して協調学習を整理分類も行った。提案手法をウェブ掲示板に応用し、学習者グループを掲示板の個別適応インタフェースとして視覚化した。本インタフェースでは、一覧画面で表示される議論スレッドのリストが、ユーザとの関係の深さに応じて 3 種類に自動的に分類され、関係の深いものから順に並べられる。これによりユーザに関連のある情報へのアクセス性の向上が確認された。そして円滑な質疑応答が望めるだけでなく、自分の周囲に所属グループのメンバがいる感覚を視覚的にも持てるため、個別学習で発生し易い孤独感の解消につながることも期待される。

さらに学習者同士で動的にグループを構成することにより、どのような効果が生じるかについて、学習者行動をモデル化してマルチエージェントシミュレーションを行った。グループ形成・解消に関する閾値を適当に設定することにより、ユーザの関連情報へのアクセス性を全体として向上できることを示

した。

「列挙アルゴリズムの高速化手法の一般化とその適用」

研究代表者：宇野 毅明

この課題では、全張木やマッチングといった基礎的な部分グラフ族の列挙アルゴリズムに対する共通の高速化手法の開発と、この高速化手法を適用し、既存の列挙アルゴリズムの高速化を行うことを目的とした。この課題では、離散アルゴリズムの分野で用いられている、ならし解析を列挙アルゴリズムの分野に導入し、あたらしい計算量解析手法と、その解析手法を応用して縮約平衡法という高速化手法を開発した。これにより、マッチング、2部グラフの完全マッチング、一般グラフの極大マッチングの列挙問題に対して、既存のアルゴリズムの計算量を減少させることに成功した。これらは10年以上改善のなされてこなかったアルゴリズムである。

また、そのほかにも列挙アルゴリズムの改良を行い、平面3角形分割、極小集合被覆などの高速列挙アルゴリズムを開発した。これらの性能は、既存のアルゴリズムを大きく上回るものである。

「情報科学分野の分野分類と他分野とのかかわりに関する調査研究」

研究代表者：西澤 正己

情報技術は社会においてますます重要な役割を演じるようになってきている。その情報技術を支えるのが情報科学であるが、その実態は必ずしも明らかではない。この実態を明らかにし、国際比較や他分野との関連性と研究成果等の関係を調べることは今後のこの分野の発展のための重要な資料となる。これまでの関連研究で問題となったのは日米双方における分野分類の違いのために国際比較が困難であること、研究者ディレクトリ等での分析では、データベースの調査目的の違いにより、研究分野に対してあいまいな表現が多く利用が難しい点などである。よってこれまでの研究をふまえ、以下の調査項目についてアンケート調査をおこなった。

1. 専門分野、研究課題に対するキーワード、および分野分類について
2. 投稿する論文や、世界の中での日本の情報科学研究のレベルについて
3. 学協会について
4. 他分野との連携について

調査対象は情報科学に関係の深い1800名を無作為抽出し、平成14年度初旬までに約400名からの回答が得られた。記述式回答において、論文誌名、学協会名などにはアクロニムが多く、記述式の名寄せ作業にやや時間がかかったが、これらの作業はほぼ終了した。

主な結果としては、研究者が「権威がある」として挙げた論文誌とISI社のJCRによるインパクトファクター(IF)の関係において特にIFが高い雑誌のみが選ばれているわけではないこと、採録論文の分野の広がりやIFの間に相関があるものが多く、雑誌の評価をIFによって判断するのは注意が必要であること等である。その他、情報学研究者の詳細な分野分布と他分野との関連、投稿雑誌や発表会議等の関連を明らかにすることができ、情報知識学会や、ISSI2003等の国際会議で発表する予定である。また、貴重な分野に関するキーワードが得られたので、新しい科学研究費の分野分類との対応など多方面への適用を予定している。

「実映像情報に基づく事例型映像索引付け手法に関する研究」

研究代表者：孟 洋

本研究では、ニュース、スポーツ、ドラマなど実際に放送されている映像に対し、その映像内容をあらわすキーワードの自動的な付与を可能とする映像索引付け手法の設計・開発を行うことを目的としている。平成14年度までに、実放送映像からの獲得情報に基づいて映像索引付けを実現する、事例型映像索引付け方式の設計、及び実放送映像からの索引付け知識の獲得手法の検討を行い、映像索引付けシステムのプロトタイプの開発を行った。具体的には、以下のように、映像内容をあらわすキーワードと映像から得られる映像特徴の対応関係をデータベース化し、対象映像の映像特徴とデータベースに蓄積された映像特徴の“類似”関係の評価を行うことで、対象映像の内容に対応したキーワードの付与を実現する方式の検討を行った。

- (1) ニュースなどの実放送映像、及びそれら映像に付随するテキスト情報(テロップや文字放送等)を自動的に取得するシステムを構築し、テキスト情報からのキーワードの抽出法、映像からの映像特徴の抽出法などとともに、キーワードと映像特徴の対応関係をデータベース化する手法の検討を行った。
- (2) 対象映像の映像特徴とキーワードに対応付けられた映像特徴の“類似”や“包含”関係の評価法、またキーワードと映像特徴の“共起”関係の評価法など、対象映像とデータベースに蓄積されたキーワードに対応付ける手法の検討を行った。

⑦特定領域研究(C)(2)

「不均質コンテンツに対する情報活用システムに関する研究」

研究代表者：安達 淳

本研究では、平成13年度から5年間の予定で実施するものであり、不均質性を特質とするインターネット上のコンテンツを活用するシステムの実現を目指し、大きく以下の四つのモジュールに研究を分けて、相互に連絡を取りつつ研究を進めた。

- (1) 社会・利用分析: インターネット・コンテンツの導入が社会における情報利用活動をどのように変えたかを検討し、その知見に基づいて情報活用システムのあり方の大枠を定義する。不均質性は一定の情報ユニットを前提とした上での不均質性に留まらず、情報ユニットの規定不能性に至ることを明らかにした。これにより、インターネット情報資源における情報活用と情報編集の不可分性を確認した。
- (2) Web 構造解析: 情報活用・編集のためには、(a) ページ相互の関係の分析と(b) ページ内の処理とが必要になる。本年度は、リンク構造に基づく効率的なページ・グループ化の手法および言語表現に基づくページ・クラスタリング手法を提案するとともに、HTML テーブルを利用した情報抽出技術を開発した。
- (3) メディア処理: Web 上の多メディア情報環境に関しては、各メディア特性に応じた処理の高度化と統合処理とが必要になる。言語・音声・視覚メディアの結節点としての映像を対象に、アーカイブ構造化をはかり画像検索法を開発した。
- (4) これらの諸研究を有機的に関連づけながら進めるために必要な基盤として、また、他の研究グループとの交流のために、Web 情報をプールしたテストベッドを構築し、諸研究者が参加する情報活用のワークショップを行った。

主な研究成果は以下の通り

- ・金沢輝一、相澤彰子、高須淳宏、安達淳、「日英言語横断検索における関連性の重ね合わせモデルの効果」、情報処理学会論文誌「データベース」、No.13, Vol.43, 2002.
- ・Akiko Aizawa, An Information-Theoretic Perspective of Tf-idf Measures, Information Processing and Management, Vol.39, No.1, pp. 45-65, 2003.
- ・Atsuhiko Taksu, Statistical Analysis of Bibliographic Strings for Constructing an Integrated Document Space, Proceedings of ECDL2002, pp. 75-90, 2002.

「宣言的プログラミングにおけるソフトウェア発展の研究」

研究代表者：佐藤 健

ソフトウェア発展はソフトウェア科学およびソフトウェア工学における重要なテーマである。佐藤は、以前、特定領域研究「発展機構を備えたソフトウェアの構成原理の研究」において極小変更の考えを用いたソフトウェア仕様の変更の研究を行い、仮説論理プログラミングによるプロトタイプシステムの開発も行った。本研究は、その研究をさらに発展させ、論理型プログラミングや関数型プログラミングのような宣言的なプログラミングに通用するより一般的なソフトウェア発展の理論を構築することを目的とするものである。

平成13年度の成果は以下である。

基礎的な準備として以下の研究を行った。佐藤は、関数のない論理仕様に対する極小変更の自

動化にむけて論理仕様を拡張論理プログラムに変換し、その上での処理系で極小変更が自動的に
行えるクラスの同定を行った。さらに、論理仕様に矛盾が生じたときに、その矛盾の一般化を用いてよ
り適切な更新ができるように、PAC learning の枠組みに基づいた極大矛盾除去の手法の検討を行っ
た。龍田は、直観主義論理に基づく構成的なプログラム合成の研究において、二階古典自然演繹の
強正規化性に関して CPS 変換をもちいた Parigot の証明の誤りを指摘し、その原因である CPS 変換
の継続消滅について論じ、オグメンテーションの概念を用いて証明を完成させた。新井は、命題論理
の証明の複雑さについて、自動証明で頻繁に用いられる resolution システムと tableaux システムの効
率比較を理論的に行い、さらに、両システムを融合し新しい推論規則(symmetry rule)を導入したシス
テムの実装を行い、ここで初等的な組み合わせ論の問題を短時間で解くことに成功した。

平成 14 年度の成果は以下である。

- ・ 論理型言語での極小変更仕様の導出のために従来必要だった変更の極小性チェックを省略
でき、かつ完全性を持つ手法を開発した。具体的には、論理仕様からデフォルト理論(default
theory)への変換を用いることにより、デフォルト理論での拡張が極小変更プログラムに 1 対 1 対
応することを示すことで、上記性質を持つ手法の提案を行った。さらに、佐藤が以前提案したデ
フォルト理論での証明系の単純化した手続きが極小変更プログラムの計算に使用できることを示
した。
- ・ 多項式時間で実行可能なプログラムに正確に対応する素朴集合論(軽アフィン集合論)の考
案および、その集合論における構成的証明から多項式時間プログラムを自動的に抽出するプロ
グラム抽出法の考案、考察を行った。

「連想計算の代数に基づく並列連想計算方式の研究」

研究代表者：高野 明彦

本研究の目的は、膨大な情報に基づく連想過程に計算的な基礎づけを与え、「連想の情報学」の
基盤となる情報処理技術を提供することである。申請者らが開発中の「連想計算エンジン GETA
(Generic Engine for Transposable Association)」が高速実行する連想計算の数学的構造を「連想計
算の代数」として定式化し、その代数構造に基づくプログラム変換により汎用性の高い並列連想計算
方式を提案する。提案方式は GETA を用いて PC クラスタ上に実装し、その実用上の有効性を検証す
る。

平成 13-14 年度は、主に次の研究を行った。

- ・ GETA でサポートされている各種類似性計量による連想計算を一般化し、連想計算の代数モデ
ルを構築した。インデックス行列の基本操作を抽象化し、代数的なデータ構造としてモデル化し、
GETA で高速処理可能な類似性計量の数学的特徴について考察した。
- ・ 連想計算の代数モデルに基づき、計算的に等価な並列連想計算方式をいくつか定式化した。
各並列方式がどのような類似性計量の連想計算に適用可能かについて検討した。特に、インデ
ックス・データの均一な分割により、各計算ノードでの計算に逐次処理と同一の類似性計量を使
用する場合を中心に検討した。
- ・ GETA のサポートする基本ライブラリを利用して、昨年度導入した PC クラスタ(16CPU 規模)上に、
上記で検討した並列連想計算方式を実装し、各種類似性計量に関する連想計算の性能比較
を行った。

「セマンティックウェブコンピューティングのための概念体系の収集と統合」

研究代表者：武田 英明

平成 13 年度

Semantic web が浸透した後には必ず現れる膨大な意味タグセットとそれを用いてタグ付けされたドキュ
メントの氾濫の時代において期待される真に知的な情報処理技術として、次世代 Web ベース知識処
理システムのインフラストラクチャとその利用システムの開発を行う。本研究の目標は概念体系としての
異なる意味タグセットを自由に組み合わせて活用できるような機構を開発することである。個々の個人
や組織が作り出す概念体系をひとつに纏め上げるのではなく、それぞれの視点において他の概念体

系を必要に応じて組み合わせることで、創造的な情報流通を可能にする。具体的な達成目標は(1)異なる概念体系の調停アルゴリズムの開発、(2)概念体系レポジトリの開発、(3)個人の知識流通を支援するツールの開発、である。

本年度はまず(1)の問題をテーマとして研究を行った。

ここでは異なる概念体系間を比較して概念間の関係を発見するアルゴリズムを開発した。またこのアルゴリズムに基づくシステムを構築した。ここではインターネットディレクトリを対象として複数のディレクトリを統合するようなアルゴリズムの開発とその実装を行った。その結果、2つのインターネットディレクトリ間の相互変換が80%以上の精度で可能なことがわかった。

平成 14 年度

Semantic web が浸透した後に必ず現れる膨大な意味タグセットとそれを用いてタグ付けされたドキュメントの氾濫の時代において期待される真に知的な情報処理技術として、次世代 Web ベース知識処理システムのインフラストラクチャとその利用システムの開発を行う。本研究の目標は概念体系としての異なる意味タグセットを自由に組み合わせ活用できるような機構を開発することである。個々の個人や組織が作り出す概念体系をひとつに纏め上げるのではなく、それぞれの視点において他の概念体系を必要に応じて組み合わせることで、創造的な情報流通を可能にする。具体的な達成目標は(1)異なる概念体系の調停アルゴリズムの開発、(2)概念体系レポジトリの開発、(3)個人の知識流通を支援するツールの開発、である。

本研究は前年度からの継続的な課題であり、前年度は主に(1)の問題をテーマとして研究を行った。

ここでは異なる概念体系間を比較して概念間の関係を発見するアルゴリズムを開発した。またこのアルゴリズムに基づくシステムを構築した。そこで本年度は(2)および(3)についての研究を行った。

(2)の研究としては、概念体系の収集と統合という仕組みを提案した。ここでは、さまざまな領域の概念体系を概念の階層的関係と例(インスタンス)として表現し、これらの概念体系間の構造の類似性を利用することで関係を機械的に発見する。関係性の発見アルゴリズムについては、前年度まで行ってきた構造の類似性に基づく発見方法に加え、インスタンス(ページ)の内容を補足的に利用する方法を提案した。この提案システムにおいては概念体系はまず、RDF(Resource Description Framework)による記述に変換されて統一的に扱われる。次に、インスタンスであるページについてページを取得して語の出現頻度によるページの特徴づけを行う。この結果から類似するページの同定を行う。同一および類似ページの共有度合いから複数の概念体系における概念の類似性を発見する。

(3)の研究としては、協調的個人資源管理(Personal Resource Management)という概念を提案した。これはスケジュールなどの複数人で共有すべき個人の情報を総合的に取り扱う枠組みである。この概念の特徴は組織によるトップダウン型管理ではない、個人レベルからのボトムアップ型管理を実現することにある。本年度はまず、個人のスケジューリング問題に限定して、個人によるタスクの認識・同定・決定という一連のプロセスを支援するシステムを携帯電話を端末とするシステムで実現した。

「仕様/環境の変化に対応するソフトウェアのためのエージェント指向開発方法論の構築」

研究代表者：本位田 真一

仕様/環境への変化に対応するために、機能的要求と非機能的要求の両面に関して振る舞いを動的に変化させるためのソフトウェアの基本的アーキテクチャならびにそのアーキテクチャに基づくソフトウェア開発方法論を研究開発する。

そのアーキテクチャは、機能面に関しては機能をエージェントと呼ぶコンポーネントによって管理し、その入れ替えによって、変化に対応する。非機能面に関しては、それをプログラムコードとは独立したポリシーとして記述し、それを局所的もしくは大域的に分析することで競合解消を図るようふるまうものである。

その開発方法論は、従来のエージェント指向方法論に対して、ポリシーの抽出、ポリシー記述、競合解消方式の設計、ならびに統合といったフェーズを追加したものとなっている。ポリシー解析は、義務論理やペトリネット(色付きペトリネット)等を基礎とし、それらの表現へ対応付けたり変換するようなルールを、

ポリシ記述言語と合わせて記述する。

平成 13 年度は、方法論の基本的な考え方の確立と、対象とするエージェント・アーキテクチャの明確化と洗練化、ならびにポリシ記述言語関連のツールの試作、義務論理に基づくポリシの部分的な検証系の試作を行った。これを踏まえて、平成 14 年度は、ポリシ記述言語の洗練化と、ペトリネット(色付きペトリネット)に基づくポリシ解析と強制のための基礎の構築をおこなった。

「モバイルソフトウェアコンポーネントに関する研究」

研究代表者：佐藤 一郎

平成 13 年度

コンピュータ間移動性をもつソフトウェアであるモバイルエージェント技術を利用したソフトウェアコンポーネント及び複合ドキュメントフレームワークを提案し、能動的かつネットワークを移動可能な文書データを開発し、文書データ主体の新しい分散処理を実現する。具体的には①関連研究の調査、②ネットワーク移動性をもつソフトウェアコンポーネントの設計、③コンポーネント合成手法の提案を行った。①OLE/COMやOpenDocなどの既存複合ドキュメント向けコンポーネント技術の構造及び機構を調査した。②は一つのコンポーネントが一つのモバイルエージェントに対応づけるものであり、これは研究代表者が過去に設計・実装した階層型モバイルエージェントシステム(MobileSpaces)を拡張することにより実現した。この結果、各コンポーネントは能動的に動作し、さらにコンピュータ間を移動し、移動先では移動前の状態、つまり変数内容などを保持して処理を継続することができる。一方、③はコンポーネントを階層的に合成することにより複合ドキュメント構成するものであり、具体的にはGUI操作により、各種コンテンツに対応したコンポーネント群はそれらが埋め込まれた文書上でシームレスに表示可能とし(seamless-layout)、さらに文書に埋め込まれたままでも編集可能にする(in-place editing)。文書コンポーネントの移動ではそれが内包するコンポーネントはその配置やサイズなどを保持したまま移動し、さらに内包コンポーネントもコンピュータ間移動性を失わないことから、文書内の配置移動とコンピュータ間の移動を区別することなく実現することができる。

平成 14 年度

前年度に引き続き、コンピュータ間移動性をもつコンポーネント技術について研究を進め、特に次の3点について研究した。①ネットワーク移動性をもつソフトウェアコンポーネントの実現システムを設計・実装した。これは前年度に実装したプロトタイプシステムを拡張したものであり、コンポーネントの能動的実行とコンピュータ間移動性を実現する。また、コンポーネントは構造的関係として階層的な含有関係を導入することにより、複合ドキュメントの実現ではコンポーネントの中に他のコンポーネントを入れ子状に組み合わせ、多様なコンテンツを作れることが示された。②コンポーネント結合関係の実装及び結合関係による分散処理記述環境の開発。先述の階層関係を利用することにより、従来のコンポーネント技術でも提案されてきた、含有、集約、参照などの構造的な関係を実現する。さらにコンポーネントの移動性に対応した新しい関係を導入していく。これには例えば、コンポーネント間通信機構、遠隔コンピュータにコンポーネントを転送する機構(forwarding)、ある条件が整うまで移動中のコンポーネントを待機させる同期機構(synchronization)などがある。これらの合成関係を組み合わせることにより、分散処理における文書の移動や協調を制御できるようになる。例えば各ページに対応したコンポーネントを移動・集約させることにより、一つの文書データを動的に合成することもできる。なお、この研究ではコンポーネントの配置やサイズ変更に加えて、コンポーネント合成をドラッグアンドドロップなどのGUI操作により操作できる。これにより、コンポーネントの合成・配置という非プログラミング的な方法により、複数の情報(文書)の流れである分散処理全体を記述できるようになる。

「発話、身振り、呼吸の個人内・個人間での協調を生態力学的に制約する情報に関する研究」

研究代表者：古山 宣洋

本研究は、発話と身振りの個人内・個人間における協調を可能にする機構を生態力学という観点から明らかにすること、特に発声の下位系である呼吸運動に着目して発話と身振りの協調を生態力学的に制約する情報を特定することを目的に実施され、現在尚進行中である。人は発話する際しばしば

発話内容と意味的に関連する身振りをする。発話と身振りの共起に関する説明は、伝統的には、命令系である脳で両者の共起関係・意味的関連を全て特定するプランを作成し、それを実行系である運動器官で実行するとするものが主流である。ところが、最近の研究では空間的な情報を教示する場面等で教示者-学習者間でも発話と身振りの意味的に関連する部分が共起することが報告されており、全てが機械的に繋がった命令系-実行系を前提とする理論では十分ではなく、個人間に存在する情報を介して成立する協調系に関するデータの蓄積と理論化が必要であると考えられる。このようなことを背景に、本研究では、伝統的な理論の代替案として、運動の制御が当該の運動に直接的・間接的に関与する下位の系間の結合と競合の結果として自己組織的に創発する協調によるのであり、身体運動間の協調はこのような生態力学的に自己組織化する系と意図的な制御との緊張関係の中で成立するとする生態力学の観点から、特に発話-身振りの協調において発話の下位系である呼吸運動に着眼して実験・観察データを蓄積しつつある。本年度は、手首の伸展・屈曲運動と/a/という音声の発声運動を、屈曲時に発声し、伸展時に発声しないモード A、屈曲時に発声せず、伸展時に発声するモード B という2つのモードで、段階的に周波数が高くなるように設定されたメロノーム音と同期させるように被験者に求める個人内協調に関する実験を行い、発話と手首運動の協調パターンが質的に転換する際に、呼吸運動のパターンにも変化が起こっていることを示唆する結果が得られた。この他、個人間における発話と身振りの協調についての予備的な実験を実施したり、自然会話場面で同様の現象が観察されるかどうかを確かめるためのデータを集録し、得られたデータの解析を現在進めている。今後もこのような研究を続けることで、発話-身振り協調系の総合的な記述と理論化を更に進め、コミュニケーションにおける人間の情報処理の理解、並びに情報学の深化に貢献していきたいと考えている。

「ハイパーリンクのグラフ構造に基づく Web コミュニティに関する研究」

研究代表者：村田 剛志

平成 13 年度

本研究では、(1)Webコミュニティにおける構造のモデル化 (2)Webコミュニティにおける動的変化の検出 の二つを目標とした。今年度は、今後実験を進めていくための準備作業や、設備備品を用いずに行なえる実験を進めることによって研究を行なった。前者としては、NTCIRのテストコレクションとして収集している Webデータのリンク情報を利用するために、その大きさやデータ構造等についての調査を行なった。後者としては、Webページのハイパーリンクによって構成されるグラフ構造に基づいて、興味を共有する Webページ集合である Webコミュニティを発見するシステムを既に構築しており、そのシステムをさらに発展させて当該トピックにおける中心的なページ集合を見出すような洗練手法を考案した。重要な内容をもつ中心的なWebページは他のページとのリンクが密であると考えられることから、二部グラフで表される Webコミュニティにおいて、グラフが密になるようなページの選択を反復的に繰り返すように発見手法の改良を行なった。この手法に基づいたシステムを実現し、数十のトピックについてそのトピックに関するランキングの下位のページ集合を入力とし、洗練によって上位のページ集合が得られるかどうか実験を行なった。対象とする Webコミュニティのトピックによって効果に差はあるが、いくつかのトピックについて、そのトピックの中心的なページ集合を発見することに成功している。今年度の研究発表は上述のシステムに関するものを中心に行なった。その中の「Webコミュニティにおけるコアメンバーの発見」の口頭発表に対して、2001 年度人工知能学会大会優秀論文賞の受賞が決定している。また、人工知能学会誌に投稿した論文の採録も決定している。

平成 14 年度

膨大なWeb情報の有効活用を目指し、ハイパーリンクのグラフ構造に基づいてWebページ間の関連性を見出すWeb構造マイニングの研究を引き続き行なった。平成 14 年度は、興味を共有するWebページ集合であるWebコミュニティを、ハイパーリンクによるグラフ構造に基づいてモデル化する手法についての考察を進めた。まずWebコミュニティ発見の関連研究を詳しく調べ、その課題と今後の方向性について検討した。Webコミュニティ発見の関連研究としては、固定した二部グラフ構造を探索する

Kumarらの手法と、ネットワーク理論を適用したFlakeらのグラフ分割の手法の二つに大きく分類できる。前者は、二部グラフという構造だけでしかWebコミュニティをとらえられないことが欠点であり、後者は適用方法によって結果にかなり差が出るのが指摘されている。また、二部グラフ以外の基本要素について、構造と意味の対応を十分に立証している研究は見受けられなかった。実際のWebコミュニティを構成している基本要素や、その組み合わせによる構造生成の可能性について、さらなる検討の必要性が明らかになった。

また、Webコミュニティにおいては、グラフ構造が密な部分が中心的なページであるとの仮定の基に、Webコミュニティを洗練する手法についての論文をまとめた。実験の結果、いくつかのトピックについて、そのトピックにおけるランキングが上位のページを発見している。この手法をさらに発展させるためには、Webコミュニティの境界や中心などの概念について検討し明確な定義を与える必要があり、それについても検討を進めた。

⑧研究成果公開促進費

「電子図書館原文書データベース」

研究代表者：安達 淳

この科研費は、NACSIS-ELSで提供するフルテキストデータを作成することを目的として平成6年度から継続的に交付されているものである。本科研費では、理工学から人文・社会科学に渡る広領域の諸学会が発行する学術文献のページをデジタルデータとして読み込むとともに、必要な索引情報を作成し統合データベースとするものである。

特に平成11年度から15年度までは重点データベースとして採択されている。平成13年度の実績は60,700千円、14年度の実績は59,800千円である。レコード数でそれぞれ39万件、194万件となっている。近年、入力単価の急激な低下のため、事業計画変更を行いつつ、できるだけ多くのデータ入力を行おうとしている。従来は学会の学術雑誌を主体としたものであったが、平成14年度からは、日本学術振興会の許諾を得て、大学等の紀要データの作成を行っている。

「臨床症例データベース」

研究代表者：小山 照夫

本データベースは、現在、極めて細分化された各専門領域の関係学協会の臨床症例報告を、迅速かつ的確に見つけて利用することを目的に、関係学協会の協力を得て、一元的かつ大量にデータベース化したものである。

内容としては、臨床医学関連学協会の学術雑誌、学術集会報告等に収録された症例報告の文献情報、全文情報を収録した。

医学は、過去に経験した病人の診断・治療のうえに進歩してきたものであり、全ての医師が経験することが困難であるような症例の記録は、学術的にも価値が高く、医学研究及び医学教育において意義がある。

「学会発表プレプリント電子ファイル」

研究代表者：根岸 正光

我が国の学術研究の成果の公表は、主に学会主催の大会研究会等での発表及び学会誌・学術雑誌等の定期行物より行われているが、その中で最も早い形で公表されるのは大会・研究会等のプレプリントである。

「学会発表プレプリント電子ファイル」データベースでは、これらのプレプリントを収集し、標題、著者、キーワード等の情報および本文イメージ画像を作成し、本研究所の「電子図書館サービス」を通じて公開している。これにより、研究者は、検索と本文情報の閲覧によって研究に不可欠な対象分野の最新動向を得ることが可能となり、研究活動における情報収集の利便性を飛躍的に向上させることが可能となっている。

平成13年度には69,800論文、同14年度には65,000論文について、データベース化を行い、公

開した。

「経済学文献データベース」

研究代表者：根岸 正光

経済学および関連分野に関して、国内で刊行される主要な和文・欧文雑誌 1,000 種類を選定し、これに掲載された研究論文や学会、シンポジウム報告など、学術的または資料的価値のある掲載記事について、標題、著書、掲載雑誌、巻・号、刊行年月日、ページ、さらに本文内容を表現する語として付与したキーワードなどの項目を網羅的に収集して、和文と欧文による文献索引型のデータベースを作成し、本研究所の情報検索サービスを通じて公開している。

これにより、我が国の経済関連諸分野の主要学術雑誌に掲載された記事について網羅的な検索が可能となり、経済学の専門研究者のみならず、広い範囲の研究者において、経済関連情報の収集の利便性、効率性が向上するものとなっている。

本データベースは経済資料協議会との協力の下に作成され、平成 13 年度には、8,470 件、同 14 年度には 7,957 件の論文・記事についてデータベース化を行い、公開した。

⑨特別研究員奨励費

「辞書抽出、多言語データベース」

研究代表者：Frederic Andres

平成 13 年度

本研究では、多言語辞書データベースの理論面及び実装面について焦点をあてた研究を行った。理論面では研究分担者であるマチュ マンジョ研究員(日本学術振興会 外国人特別研究員)が博士号取得時からの研究テーマである語彙データベース環境に関する研究を拡張した。また、XMLの中でコード化された自動統合を辞書及びそれらを構成するドキュメントに記述するためのメタデータファイルの定義及び語彙データベースを問題提起した。統合は、一種のメタデータ処理によりなされることが必要であり、さらにマンジョは、語彙データベースを記述可能な汎用言語用コンパイラに関する研究を開始した。即ちコンパイラは、自動的に辞書管理のソフトウェアプラットフォームだけでなくデータベースをも定義するXML構造を生成する。実装面では、今までに蓄積された成果を運用するために語彙データベースにおけるフレームワークの実装を来年度に向け開始した。それは、あらゆる辞書構造に対し利用可能な汎用フレームワークとなる。また、ウェブサーバ用として、Enhydra(Java オブジェクトダイナミックウェブサーバ)をHTML及びスタイルシート用プレゼンテーションレイヤー、データ管理用ビジネスレイヤー及びデータベースを利用したコミュニケーション用データレイヤーの 3 つのアーキテクチャとして利用した。データベース用に、UNICODE, UTF-8 encoding V3 に変換可能な PostgreSQL を使用した。今後は、国立情報学研究所にて研究が進められている PHASME 情報エンジンを活用する方向への研究拡張を予定している。

平成 14 年度

分担者である Mathieu Mangeot 研究員が行っているパピヨンプロジェクトは辞書抽出の為に多言語語彙データ・ベースを構築することを目的としている研究プロジェクトである。既存の辞書を興しパピヨン(構造をパピヨン独自の構造に変換する)へそれらを統合することを計画し遂行した。それが XML の中でコード化され、パピヨン辞書を管理するために使用されるプラットフォームは更に他の辞書も管理することができるようになった。また、2002 年 4 月及び 2003 年 3 月に自動的に既存の XML 辞書を網羅するためフレームワークを定義し実装しそれらの構造を修正せずに統合した。方法論としては、XML の中でコード化された辞書メタデータファイルを使用した。更に、それらの構造について記述する XML 図式からの既存のエントリを編集するための HTML インタフェースを半自動的に生成するために同じく日本学術振興会 外国人特別研究員である D.Thevenin 研究員と共同研究を始めた。本研究は GDEF プロジェクトまで拡張された。GDEF プロジェクトとは、使用法として新しいエストニアのフランス語 2 ヶ国語辞書の構築に係るプロジェクトである。辞書は約 50,000 のエントリを可能にした。領域は一

般的なものを中心とした。本プロジェクトは、INALCO の Antoine Chalvin 教授によって指示され、技術的プロジェクトにより生成された辞書はパピヨンプラットフォームの使用により構築された。編集及びツールは、新しい辞書マクロ組織およびエントリー構造に適合された。

平成 14 年度

①基盤研究(B)(1)

「創造的アブダクションによる設計支援の研究－Universal Abduction Studio の開発－」

研究代表者：武田 英明

本研究で提案する Universal Abduction Studio とは、設計者の創造的な思考を支援するために、目的指向の知識操作を可能にする環境である。ここで知識操作とは、様々な領域知識を新しい設計目的の元に関係性を発見し、再構成する操作である。本研究では、設計問題で見られるような実世界の問題を解決するような創造的アブダクションのモデル化を行う。研究の方針として以下の 4 項目を基本として研究を行う。

1. 既存のアブダクションの手法の整理
2. 様々な領域知識を融合するアブダクション手法の開発
3. 提案したアブダクション手法を計算機上で実現する環境である Universal Abduction Studio の作製
4. 設計問題への適用による提案手法の検証と応用可能性の検討

本年度はとくに 1 と 2 について研究を行った。

1. 既存のアブダクションの手法の整理

平成 14 年度では、従来、主に計算機科学の分野で行われてきた計算的アブダクション、設計の創造的側面に対するアブダクション適用に関する研究など、様々な分野で行われている関連する先行研究に対する調査を行うとともに、これら先行研究において提案されているアブダクション手法を体系的に整理する。ここではアブダクションを 1 階のアブダクションと 2 階のアブダクションに大別する。設計におけるアブダクションとは 1 階としては人工物創造のアブダクション、2 階としては理論統合のアブダクションを同時に行うことであることを示した。

2. 様々な領域知識を融合するアブダクション手法の開発

異なる領域知識を融合させるアブダクションの手法について検討するために、今年度はアナロジーに注目して、アナロジーに基づく理論統合の手法について検討、実装した。ここでは、二つの設計知識間の構造的類似性を発見することで概念のマッピングを行う。この方法によって一見関係なさそうな二つの概念に共通の視点を与えることができる。このシステムを例題に適用して手法の可能性について考察を行った。

②基盤研究(B)(2)

「装着型能動視覚センサを用いた 3 次元物体の形状と表面情報の復元に関する研究」

研究代表者：杉本 晃宏

視線測定装置とコンピュータ制御可能な 2 台の能動カメラで構成される装着型能動視覚センサを開発した。このセンサは、カメラが装着者と視点を共有することで、装着者の視線情報を獲得することができる。構築したセンサは、計算機とヘッド部に大別される。ヘッド部には、視線測定装置とコンピュータ制御可能な 2 台の能動カメラが装備されている。2 台のカメラの投影中心と左右の眼球中心は全て、ほぼ同一直線上に並ぶように設計されている。視線測定装置は、非接触型で、瞳孔/角膜反射法を実装した Nac 製 EMR-8 を用い、右眼の視線情報を獲得する。また、カメラは Sony 製 EVI-G20 を用いている。EVI-20 は、内部にモータを 2 個搭載していて、コンピュータ制御によって、パン、チルト方向に、カメラの撮像系全体を物理的に回転することができる。また、駆動系の回転中心とカメラの投影中心とが一致するように設計されている。一方、計算機は PC(Pentium III 750MHz)を用いている。

まず、2 台のカメラによってステレオ視を実現させることによって、見ている点までの奥行きを算出し、その奥行きに応じて、画像上に重ね書きされた装着者の視線を表す点を補正する自動キャリブレーションアルゴリズムを考案した。この補正により、装着者が見ている点の奥行きが変わるような現実的な環境下でも、正確にその視線情報を検出することが可能になった。

一方、装着型能動視覚センサを用いた、把持物体の3次元形状復元では、対象までの距離が近いため、復元された部分的な形状を張り合わせて、物体の全体形状を復元する必要がある。従来、特徴点の位置情報のみを利用して形状の張り合わせが行われていたが、本研究では、位置情報に加えて明度情報を用いることで、ノイズや特徴点の誤検出が存在する場合でも、頑健に形状の張り合わせを実現するアルゴリズムを検討した。

③基盤研究(C)(2)

「擬人化エージェントと人間の相互読心ゲームによる感情マッピングの相互学習」

研究代表者：山田 誠二

近年、WWWのWebページ上に現れて、商品説明などの人間と同じようなタスクをする擬人化エージェントが活発に研究されている。一般に、人間と同様の挙動を示す方が信頼感が高まるため、エージェントにいかにか人間らしい挙動をさせるかが、研究のメインテーマの一つである。そして、人間らしい挙動の重要な要因のひとつが、感情である。

このような背景から、擬人化エージェントに感情を持たせる研究が始まっており、そこでの感情を持った擬人化エージェントと人間のインタラクションでは、お互いの表情から相手の感情を推定する(感情同定と呼ぶ)という、人間社会では自然なことが実現される必要がある。しかし、ユーザと擬人化エージェント間の感情同定は、人間同士のそれよりもはるかに困難である。なぜなら、例えば、鳥などの人間以外の動物の外観やデフォルメされた表情をもつ擬人化エージェントが多く、しかも、満足、喜びのような感情と表情との対応関係が、擬人化エージェントごとに異なるからである。

このような感情同定の問題を無視して、従来研究では、擬人化エージェントとユーザは、互いに感情同定が可能という仮定のもとでシステムが設計されているために、ユーザと擬人化エージェントのコミュニケーションが円滑に行なわれないという問題点があった。

そこで本研究では、表情と感情の対応を感情マッピングと呼び、ユーザと擬人化エージェントが、有意義で楽しい相互読心ゲームを通じて互いが相手の感情マッピングを学習していく枠組みを設計し、期間内に学習アルゴリズムの開発、システム実装、実験的評価を完遂する。

研究の進捗状況は、現在擬人化エージェントとユーザのインタラクションの枠組みの設計、感情マッピング、相互読心ゲームの設計が完成しており、予備実験を行った結果、複数のユーザに対し、感情マッピングの相互学習が可能であることが確認されている。

「超高速非同期式システムのための設計および検証ツールに関する研究」

研究代表者：米田 友洋

本研究の主要な目的は、3値2線式符号に基づく設計法の確立と「データパスは(ランダムデータに基づき)確率的に、制御部は網羅的に」検証を行うことで、人手による単純化・抽象化を不要とした検証手法の開発である。昨年度は、後者を一般化したレベル指向モデルに基づく検証方式について主に検討し、そのモデルの解析に partial order reduction 手法を適用するためのアルゴリズムを形式的に記述した。本年度は、このアルゴリズムを本格的に実装し、いくつかのベンチマーク回路に適用して効率を評価した。その結果、partial order reduction 手法の効果は非常に大きいことを確認するとともに、レベル指向モデルを用いることにより、モデルが大幅に簡単になることがあり、そのような場合には、従来の遷移指向モデルで記述した場合よりも検証自体の高速化が図れることがわかった。また、アルゴリズムの正しさに関する証明のスケッチを得た。

一方、高位仕様記述言語による仕様記述に関しては、ハードウェア記述言語である VHDL のサブセットをレベル指向モデルに変換する変換器を作成した。また、これを用いて、非同期式プロセッサ TITAC2 の命令キャッシュ制御回路の一部を記述、変換し、その動作を確認した。この実装では、

VHDL のサブセットを対象としたが、核となる部分は言語に大きく依存しないため、今後、他の仕様記述言語についても検討し、記述能力、可読性などを検討した上で、適当な仕様記述言語を決定し、本格的なツールとして完成させる予定である。

「情報理論的アプローチによる専門語彙構造の特徴解析とモデル化」

研究代表者：影浦 峽

本科研は、情報理論的観点から、日本語の語彙構造の特徴を、とりわけ語種に注目して記述分析するものである。2002 年度には、次のような作業と研究とを進めた。

- (1) 日本語専門語基データの語基分割作業
- (2) LNRE モデルを用いた漢語・外来語の成長予測の基本的なモデル化と記述
- (3) テキスト空間から語彙空間の語基特性を復元するためのモデルの定式化
- (4) Kullback-Libler 情報量を用い、標本量の差異を相殺した語彙間距離の最小化に基づく専門語彙の近さの測定
- (5) 記述量最小化原則を用いた語種間差異の測定のためのモデルの定式化

このうち(1)は研究のための基本的なデータ整備であり、(2)から(5)が研究の中核に相当する。具体的な成果が記述レベルで得られたのはこのうち(2)と(3)であり、それらについては、Kyo Kageura: The Dynamics of Terminology: A Descriptive Theory of Term Formation and Terminological Growth (Amsterdam: John Benjamins)の一部及び国際会議・論文誌で発表している。

全体として、(2)と(5)とが同一語彙内での語基の役割を、(3)がテキスト空間と語彙空間の関係を、(4)が異なる語彙の比較の問題を扱っており、(3)から(2)、(5)から(4)へと、一次的言語データであるテキストを起点とした単一語彙の構造モデル、語彙間の比較モデルを統合的に構築するための基盤を整備することができた。

④若手研究(A)

「Semantic Web におけるすべての人のための高速内容タグ付け」

研究代表者：ナイジェル コリアー

本研究は Web ページの内容を自動的にタグ付け(アノテーション)するシステムの開発を目的とする。このシステムは Semantic Web と呼ばれる次世代 Web への情報アクセスを支援するものであり、専門家が作成するオントロジーとタグ付けの例に基づいた機械学習を使用するシステムである。

本研究では、PIA (Portable Information Access)と呼ばれる高性能タグ付けサーバの構築を行っている。タグ付けサーバは固有名や照応関係や語間関係をどのようにテキストにタグ付けするかを、例から学習する。このタスクに適した自動学習アルゴリズムを決定するため、決定木、隠れマルコフモデル、サポートベクターマシン等について分析・実験を行った。

今年度から JSPS ポスドクフェローとして我々のグループに加わったマレンが現在最大エントロピーモデルについて調査中である。

また、オントロジーサーバはオントロジーエディタの中心となるものであり、これにより、データベース内のオントロジーとタグ付けデータを多くのクライアントが相互利用することが可能になる。これまでに、ポスドク研究員の川添と共同で、オントロジーエディタ、自動タグ付けのメタデータの構築、アノテーションガイドライン、実用オントロジーサーバの設計開発を行った。現在、Open Ontology Forge というオントロジーエディタ・タグ付け支援ツールの第一版を無料で配布している。

SELECTED PUBLICATIONS

[1] Collier, N., Takeuchi, K., Kawazoe, A., Mullen, A. and Wattarujeekrit, T. (2003), "A Framework for Integrating Deep and Shallow Semantic Structures in Text Mining", in proceedings of the Seventh International Conference on Knowledge-based Intelligent Information and Engineering Systems (KES'2003), University of Oxford, UK, 3-5 September.

[2] Collier, N., Takeuchi, K. and Kawazoe, A. (2003), "Open Ontology Forge: An Environment for Text Mining in a Semantic Web World", in proceedings of the Semantic Web Foundations and

⑤若手研究(B)

「実時間での品質調整に適した多次元画像情報の構造化とその分散共有通信方式の研究」

研究代表者：児玉 和也

本研究では、大規模空間の高品質画像情報への適用を目的として対象シーンをおおまかに遠景・中景・近景の3層程度に分割する画像モデルを提案し、それぞれに適した構造化手法の詳細な検討を行っている。本年度は主として、現有設備である多焦点カメラおよび輝度情報も同時取得可能な距離画像センサを用いることによって取得された実画像データを対象とし、多次元画像情報の階層的構造化手法の検討を行った。

まず、シーンをおおまかに遠景・中景・近景の3層程度に分割し、それぞれの範囲で適切な構造化を行いこれらを統合して表現することで、各対象ごとに適切な品質を効率的に与えることが可能となるような画像モデルを提案した。具体的には、多焦点カメラにより取得された複数の焦点画像を用い、遠景から中景の範囲に対し疑似3次元的な表現であるレイヤ構造に基づいた焦点画像処理を行うことで、必要十分かつ効率的な品質調整が可能となる手法を確立した。

つぎに、近年開発された輝度情報も同時取得可能な距離画像センサを用いれば、より精細な情報が必要となる中景から近景の範囲の対象についても比較的容易に画像情報を取得することが可能であることを利用し、実時間レベルで連続的にその形状情報の品質を増減させることを可能とする、階層的近似表現に基づく3次元画像情報の構造化手法を検討した。

以上は、次年度以降に考察する予定である、広範な画像情報を対象として柔軟な品質調整を可能とする分散共有通信環境の構築のために必要不可欠の要素技術となる。

「実写映像を利用した三次元形状の変形モデリングシステムに関する研究」

研究代表者：後藤田 洋伸

本研究は、実写映像を使って、三次元形状をモデル化し、動的な環境下における変形過程のシミュレーションを、映像ベースで行なうことを目指すものである。通常、物体の変形過程のモデル化するときには、有限要素法等を利用して、物理法則に基づくシミュレーションを行なうのが一般的である。しかし、このような方法は、対象物体の物理的な性質が正確に把握できている場合においてのみ適用可能であり、複雑な構造を持つ物体の場合には、必ずしも使用できるわけではない。本研究では、物体の振る舞いを記録した映像群を基にして、それに何らかの変換や合成操作を施し、近似的なシミュレーション映像を生成する方法を追求する。これは、実写ベースのレンダリング(Image-based rendering)として広く知られている方法を、モデリングやシミュレーションにも適用できるよう拡張しようとするものでもある。

研究計画としては、まず三次元形状の変形過程を計測するためのシステムの設計と構築し、次に変形過程を支配している制約条件や形状固有の性質を抽出するための手法の開発し、最後に抽出された制約条件や性質に基づく変形過程の再現するという、三段階からなるものを想定している。平成14年度には、このうちの第一段階(計測システムの設計と構築)を終えた。平成15年度以降は、残る第二、第三段階の課題に、順次取り組んでいく予定としている。

「ネットワーク環境における情報間の関係知識の学習とその流通モデルに関する研究」

研究代表者：市瀬 龍太郎

本研究の目的は、ネットワーク環境において円滑な情報交換が行えるようにするための知識流通モデルを構築することにある。そのための具体的な目標として、以下の2点に絞って研究を行っている。

1. ネットワーク環境における知識学習アルゴリズムの構築
2. 知識流通手法のモデル化

2002年度は、研究期間の初年度であるため、研究のためのデータの収集、収集したデータ間の関係をどのように表現するか、および、その表現からどのような知識が学習できるかについて研究を行っ

た。インターネットで公開されているデータは、生成、消滅の周期が早いため、データを動的に収集、解析すると共に、実験で使用できるような情報に加工して、即時に保存するような機構が本研究を遂行する上で欠かせない。そのようなことを機械が自動的に行うプログラムの開発を行い、インターネット上の情報を即時に収集して利用できるような環境の整備を行った。

次に、このプログラムを利用してインターネットから収集した情報をグラフとして表現することで、それぞれの情報間の関係性を分析した。この分析を通して得られた知見から、情報の分類の類似関係に着目した。異なる分類体系において、分類同士の類似した関係性を発見することができれば、ある分類体系によってすでに行われた情報の分類を、別の分類体系によって利用することが可能となる。この性質を利用して情報の分類をすると、従来手法に比べて高い精度で分類が行えるということを本研究では明らかにした。また、本研究では分類体系が持つ階層性に着目することで、計算コストを削減できることも示し、今後の応用可能性を大きく広げた。

これらの研究成果は、アルゴリズムとしての理論的な有効性を示しているのみならず、本研究で開発したプログラムを使って収集した情報で実験的な有効性も示しており、国内外の学会論文誌等で幅広く報告を行った。

「Web 情報管理を目的とした情報検索と Web マイニングに関する研究」

研究代表者：江口 浩二

本研究では、Web情報の特徴を勘案した管理技術と評価モデルの両面について検討している。それぞれに関して平成 14 年度に実施した研究は以下の通りである。

- (1) Web ページに含まれるアンカーテキストに着目した検索手法について検討した。その実現可能性について大規模テストコレクションを用いて吟味したところ、アンカーテキストに基づく当該手法は主題検索には必ずしも有効でないことを示唆する結果が観察された。また、既知のページの発見を目的とした検索に対しては当該アプローチが有効であるとの見通しを得た。
- (2) 実際の Web の特徴を考慮して、リンク構造を考慮した文書モデル、利用状況を勘案したクエリモデル、ユーザの閲覧行動のモデルなどを設計し、それら種々のモデルを組み合わせることによって、Web 情報検索システムの評価モデルを構築した。さらに、これらに基づき、大規模テストコレクションを用いて、種々のアプローチによる Web 情報検索システムの有効性に関する比較評価を行なった。その結果、簡潔で曖昧性を含むクエリを使用し、上位 10 件程度の検索結果のみの閲覧を前提とした評価モデルにおいては、リンク構造解析を用いた Web 情報検索システムが有効であり、それ以外の評価モデルでは Web 情報検索システムにおいてリンク構造が考慮されていてもそれほど効果は現れないことを確かめた。

「カジュアルなデータベース問合わせの最適化手法に関する研究」

研究代表者：加藤 弘之

W3C で制定中の XML データに対する問合せ言語 XQuery を用いて、仮想ビューに対する問合せ最適化手法を開発し、実験によりその有効性を確認した。一般に、選択条件を早期に評価することで中間結果のデータ量が削減でき最適化につながる。この選択条件がビュー定義によって新に導入された要素に対するものである場合、ビュー定義のための問合せブロックの内側へ選択条件を移動すると該当する要素が定義されておらず、等価な問合せにするためには問合せ全体を書き換える必要がある。この書き換えのためのアルゴリズムを開発した。米国ルーセント研究所で開発された XQuery インタプリタ Galax を用いて本研究で開発した問合せ最適化手法の有効性を確認した。本実験を通じて選択率が高ければ高いほどこの最適化手法が有効に働くことが確認された。また、本手法のデータサイズに対するスケーラビリティについても確認された。

本研究を通じて XML データのスキーマである DTD を木表現した際の lowestcommon ancestor を XML 問合せ処理時に適切な計算量で求める必要があることが判明した。

「オントロジー指向による論理体系の研究」

研究代表者：兼岩 憲

本研究の目的は、オントロジーの記述と推論に重点を置いた論理体系を実現することである。そのために、概念階層を扱うことのできる順序ソート論理や記述論理(Description Logic)の研究を基礎にして、オントロジー記述に適した論理的な表現とその推論メカニズムを理論的かつ形式的に整備する。そうしたアプローチは、言語の構文と意味論を厳密に与えることで実際にオントロジーを構築・運用する場合に知識の安全性を保障してくれる。平成14年度における主な研究成果は、以下の通りである。

(1) 構造的ソートを導入した順序ソート論理

従来の順序ソート論理をオントロジーに応用するために、否定的なソートを含んだソート階層の論理を定式化するとともに、ソート述語を導入した論理プログラミングの推論メカニズムを提案した。これらの論理の拡張では、これまでの単純なソートの階層に否定と構造的な表現を新たに導入して、ソート述語を介して知識ベース上での階層的な知識と言明的な知識の融合を可能にしている。

(2) 記述論理と論理プログラミングの融合

論理プログラミング言語の特徴であるルールと事実による推論に、記述論理の推論を組み合わせる方法を提案した。例えば法律知識の推論では、法令文などの汎用的なルール表現と実際の事例を記述するだけでなく、法律の語彙を定義する法律オントロジーのような異なるタイプの知識を扱わなくてはならない。本研究では、そのような概念階層およびルールと事実の3つに分類される知識上での推論を可能にしている。

「日本語複合語解析における語彙の概念構造の構築」

研究代表者：竹内 孔一

平成14年度から科学研究費若手研究(B)を獲得し日本語の動詞に対して語彙概念構造を付与する研究を行っている。語彙概念構造とは動詞の意味を概念的に表したもので、言語学の理論では特に語構成ならびに文の構造(構文構造)を説明するために用いられてきた。国立情報学研究所ではこの理論をもとに日本語の複合名詞の意味解析を自動的に行うシステムについて研究している。本研究では、複合名詞を構成する基本単語の意味表現を語彙概念構造を使って表現し電子的な辞書として利用できるようにする研究を行っている。平成14年度では理論に基づいて語彙概念構造の付与手順書をまとめあげ、言語学の専門家との共同作業を立ち上げて日本語のサ変名詞(漢語動詞)と動詞(和語動詞)について語彙概念構造の付与を行った。本年度もこの作業は続いている。この作業を通して付与のゆれや判断が難しい場合などの事例を調査して、理論的な枠組みに対する考察を行っている。こうした理論に基づく概念辞書の構築は目的とする複合名詞解析モデルに役立つだけでなく、理論に対する実データからの検証という形で寄与を行うことができる。また理論的手法だけでなく、統計的な機械学習を利用した言語処理モデルにも有効であると考えている。作成した語彙概念構造辞書は整備した後、広く一般に利用できるように公開する予定である。本研究に関する成果は代表的なものとして以下のものがある。

竹内孔一、内山清子、吉岡真治、影浦峽、小山照夫：語彙概念構造を利用した複合名詞内の係り関係の解析，情報処理学会論文誌，Vol.43，No.5，pp. 1446-1456，2002.

K.Takeuchi, K.Kageura, and T.Koyama: Building Disambiguation System for Compound Noun Analysis Based on Lexical Conceptual Structure, In Proceedings of the Second International Workshop on Generative Approaches to the Lexicon, pp. 146-153, University of Geneva, Geneva Switzerland, (May 15-17, 2003).

「文書蓄積・検索等の非数値計算向け並列非同期入出力処理の高速化に関する研究」

研究代表者：日高 宗一郎

非数値計算処理は計算機、通信システム等の設計に用いられる離散シミュレーションや推論システム、また近年盛んになっているインターネット上の大量の文書の検索処理の索引付けなど、幅広い応用範囲を持っている。このような計算処理は数値計算処理と同様に並列処理による高速化が期待さ

れる。一方、前述の非数値計算分野では、数値計算分野ほど汎用な機構がほとんど提供されていない。

本研究では、非数値計算においてハードウェアの投資(プロセッサ数や相互結合網の通信方式)に見合う性能を引き出すためにアプリケーションとハードウェアに介在する各階層でどのような仕組みが必要となるかを明らかにする。

本年度は、アプリケーションとハードウェアに介在する言語処理系、OS等各階層での並列入出力処理の性能決定要因を調査した。また、各階層での既存のプログラミングパラダイムや開発ツールの調査を行った。

プログラム開発用 PC 上で、性能の予備評価を行い性能決定要因を定量評価した。東京大学情報基盤センターの並列計算機上での予備評価環境構築の準備も行った。

既存のプログラミングパラダイムとしてのスレッドライブラリの調査では、SR8000、AT互換機、Sun ワークステーションと、異なる環境での共有メモリスレッド並列処理の調査を行った。PThreadを用いた対称、非対称並列処理ライブラリを構築し、対称並列呼び出し、バリア同期、スレッド間通信の予備的インタフェースを実装し、性能評価を行った。特にSR8000では、プロセス間同期に比べて、スレッド間同期の取り方によっては性能を得るのが非常に難しいことが明らかになった。

また、入出力処理についても同様にさまざまなアーキテクチャの比較を行い、特に SR8000 上ではファイルシステムの問い合わせ機構、I/O 性能、I/O 担当ノード問い合わせ機構等について調査を行った。またバッチ処理環境の中での会話型的な操作インタフェース実装の改善を行った。

「力学的アプローチによる柔らかい制約システムの研究」

研究代表者：細部 博史

本研究では、コンピュータ上の大規模なネットワーク構造を持つ情報を効果的に視覚化し、ユーザに対して直感的に働きかける「柔らかい」インタラクション方式を新たに確立し、そのための効率的な実現技術を開発することを目的とする。その基盤として制約プログラミングを採用することで様々なシステムで容易に利用可能な技術とすることを目指し、それを可能にする形式的枠組みとして力学的アプローチに基づく新しい制約システムを構築する。初年度である平成14年度においては、本研究の基盤となるべき柔らかい制約システムに関する基礎研究を行った。具体的には、最初に、柔らかい制約システムの性質に関する理論的考察を行った。その際の重点として、制約の集合を効率的に解消できるようにするために望ましい条件を、可能な限り一般的な観点から明らかにすることに努めた。これによって、従来の制約解消法に対して、理論的な観点から裏付けを与えることが可能になった。次に、制約の集合を実際に解消するためのアルゴリズムに関する研究開発を行った。このアルゴリズムでは、非線形制約が含まれる集合を処理できるようにすることで、対話型3次元グラフィクスのように高度な表現力を有するアプリケーションの構築を可能にした。このアルゴリズムは制約解消系ソフトウェアとして応用性の高い形で実装を行っており、平成15年度以降もさらなる改良を加えていく予定である。

⑥特定領域研究(2)

「文献資料の組織化を支援するコミュニティ形成のための情報通信構成法の研究」

研究代表者：浅野 正一郎

文献資料を組織的に収集し、グループにて活用することで新たな知見を獲得するための活動が科学博物館を中心として始められている。このような活動は現在広く認められているが、インターネットの上で、機関相互間にVPN(閉域網)を形成することにより、より発展的な活動が期待されている。このため、MPLS-VPNと称する方式をグループ形成に容易に活用するために開発を行っている。当研究は、平成15年度まで継続する。

「WWWにおけるメタ情報源の獲得」

研究代表者：山田 誠二

本研究課題の目標は、WWW などの膨大な情報空間に存在するメタ情報源を(半)自動的に収集

し、それを利用することにより、従来手法よりも質と量、そして効率において飛躍的に向上するような情報収集を実現することである。これまでの WWW における情報収集とは、“Web ページの収集”を意味していた。これに対し本研究では、有用な Web ページの所在や質に関する情報源であるメタ情報源の収集を研究目的とする。メタ情報源には、情報の所在についての情報を提供する「LI 情報源」とコンテンツに関するメタデータを提供する「MD 情報源」がある。最終的には、以上のようなメタ情報源による情報収集を医療データの収集に適用する。また、メタ情報源の獲得のための基盤技術として、対話的文書検索、文書集合のクラスタリングを開発する。研究の進捗状況は以下の通りである。

- ・ サポートベクターマシンによる対話的文書検索

LI 情報源の収集のために、インデックスページなどの特定を用いて、メタ情報源の判別学習が必要である。我々は、ユーザの意図に依存してこの判別学習を実現する枠組みとして適合フィードバックを採用し、昨年度は、LI 情報源判定のための制約である判別ルールを学習する対話的文書検索システムの開発を開発した。本年度は、さらに判別の精度を向上させるために、学習アルゴリズムとしてサポートベクターマシンを用いてシステムを改良した。新聞記事データベースによる情報検索実験により、良好な結果を得ている。

- ・ 対話的文書検索システムの MedLine への応用

広く利用されている大規模医学文献データベース MedLine のフロントエンドに、我々の開発した対話的文書検索を応用したシステムを開発した。MedLine の検索結果において、文献のランキングをユーザからのフィードバックを基に更新することにより、ユーザは容易に関連文献を検索することが可能になる。本システムは、Windows、Linux 両方のマルチプラットフォームで実行可能であり、ユーザは GUI を通して簡単に文献を評価することができ、また、分類学習アルゴリズムとして、サポートベクターマシンと Rocchio ベースの従来法が選択可能である。現在、プロトタイプが稼働しており、今後は、その性能評価と性能向上を図ることにより、実用システムを目指す。

「電子商取引の制度的プラットフォーム構築に関する研究」

研究代表者：岡田 仁志

電子商取引の制度的なプラットフォームを構築するため、欧州連合における電子社会構築に向けた域内ルール策定の動向に関して、主として金融部門と流通部門における電子化の状況を調査したほか、米国における電子商取引ビジネスの動向およびアジア各国における電子決済ビジネスの普及状況について現地調査を実施した。

電子商取引の普及において発展途上にある電子決済の分野においては、韓国における中央銀行を機軸とした電子通貨体制の構築状況を調査し、貨幣の電子化がもたらす社会的コスト減少などの効果と通貨発行量操作への影響を分析した。韓国や香港における非接触型 IC カードの普及状況や、携帯電話端末を電子財布として利用した決済システムなどの高度技術事例を調査し、先端システムを支援する法制度のあり方を検討した。

情報社会インフラである個人情報保護の問題に関しては、欧州連合の方針をふまえた国際統合的なコンプライアンス計画の策定とプライバシーポリシーの制定を試みた。携帯電話などのモバイル端末を使った決済ビジネスに関しては、民間研究機関における電子決済に関する研究会にリーダーとして参加するなど、民間のコンソーシアムや公的機関における制度設計に参画した。

研究成果の刊行においては、電子情報通信学会等の学会における報告を複数回行ったほか、電子商取引論の基本書として丸善より『サイバー社会の商取引—コマース&マネーの法と経済』を国立情報学研究所監修の情報学シリーズ第 4 巻として刊行した。また、著書に関連して大学および学会ならびに公的機関における学術講演を実施するなど研究成果の社会還元を努めた。

大学等の高等教育機関における情報制度設計として、電子情報通信学会が内閣官房および文部科学省に提出した高等教育機関におけるネットワーク運用ガイドラインの策定作業に参加し、電子情報通信学会会長より感謝状を授与された。

「拡張・適応可能ソフトウェアのセキュアな構成方式」

研究代表者：渡部 卓雄

以下 1～3 に挙げる、ソフトウェアの安全な構成・実行方式に関する研究を行っている。

1. セキュリティポリシーの実行時強制による、ソフトウェアの安全な実行方式

必ずしも信頼できないプログラムを安全に実行する技術の研究である。これはネットワークなどを通じて様々な形で導入されるプログラムを無害化し、安全性に関する要求事項(セキュリティポリシー)に合致した実行のみを許すことで、利用者の計算機やデータを保護することが目的である。具体的には、セキュリティポリシーの記述にしたがって外部から導入されるプログラムを実行前に変換し、ポリシーに違反する動作を実行時に検出する。この手法を利用した、Java 仮想機械を対象とする安全な実行システム Taurus-1 の設計と実装を行っている。Taurus-1 では、プログラムの実行時の情報を用いることで、従来のアクセスコントロールに基づいたセキュリティ機構ではカバーできない、詳細なセキュリティポリシーを扱うことができる。

また、プログラムを変換する際にプログラムの解析を同時に行うことで、実行時検査の際のオーバーヘッドを低くおさえている。

2. 安全な動的適応の機構

ハードウェアやネットワークを含めたソフトウェアの実行環境は常に一定とは限らないため、現在のソフトウェアシステムには、変化する環境に動的に適応できる能力が求められる。その際、設計時に意図していない変化に対して、適応動作が破壊的な結果を招かないようにする必要がある。我々は、個々の適応動作の原子性(途中の状態が観測できたり、外部から干渉されることがないこと)を仮定した上で動的適応を安全に行うための条件を定式化した。その条件を保証するための実行モデル Safe DAS を提案し、Java のクラスライブラリ LampJ として実装している。

3. ソフトウェアモジュール(アスペクト)の安全な結合方式

現在のソフトウェアは、独立して開発された複数のモジュールから構成されることが普通である。しかし個々は正常に動作するモジュールでも、他と組み合わせた際の不整合によってバグやセキュリティホールが生じることがある。本研究の目的は、ある種のソフトウェアモジュールを組み合わせた際の不整合を実行前に検出できることにある。対象とするのは、アスペクトと呼ばれる、複数の機能モジュールにまたがってしまう要件を記述するモジュールである。我々は、独立して開発されたアスペクトが安全に結合できるための条件を定式化し、その検査方法を提案した。具体的には、契約による設計と振る舞いに基づくサブタイプの考え方をを用いて、モジュールがダイヤモンド継承の形で構成される場合に関する4通りの規則を一階述語論理の形で定式化している。

「デジタルコンテンツを活用する教師の授業実施プロセス総合支援の研究」

研究代表者：井上 智雄

学校教育における教師の作業のうち、授業実施プロセスの支援を研究した。ここで、授業実施プロセスは、年間学習指導計画およびさらに詳細な学習指導計画の立案・作成、学習指導計画に基づいた授業準備、授業の実施、授業実施後の評価から成る一連の作業であり、現実には授業の実施までに大半の時間を割いている。教育用デジタルコンテンツの広がり背景に、その有効活用の方法を検討し、教師支援システムの設計開発を行った。

まず、教師の一連の作業(授業実施プロセス)を、知的かつシームレスに支援するために、一連の作業に必要な文書・教材等について、それらの間の連携を考慮したメタデータを設計した。学習指導計画表、教科書、指導書の連携を検討の結果、デジタル指導書のためのメタデータを出版社間の差異は吸収し、教科別に作成した。加えて、上記のデジタルコンテンツを利用して、授業実施プロセス支援を実現するシステムを開発した。このシステムは教科によらず各種メタデータを持つコンテンツを利用することができる。本システムにより、年間学習指導計画および詳細な学習指導計画の立案・作成、学習指導計画に基づいた授業準備という、授業実施までの作業において、教師が自由にデジタルコンテンツを利用することができる。さらに、作成した学習指導計画に従って、授業教材準備のための素材が提供される。授業教材の準備は、解説を含む教師用教材とそれを含まない生徒用教材を同時に作成できる。さらに生徒用教材を他の PC に表示して教師側と連動させて授業を実施できる。

⑦特別研究員奨励費

「多言語語いデータベース及びマルチメディアドキュメントへのマルチアクセス」

研究代表者：Frederic Andres

本研究はグラフィック・ユーザ・インタフェースのマルチターゲット・ユーザ・インタフェース生成及び適応について研究することが目的である。目的遂行のための第一段階は博士課程在学中での ARTStudio プロジェクトにおける課題、GUI ジェネレーターについてであった。それは、ワークステーションと PlamPilot 用ユーザ・インタフェースを生成することが可能とした。また、多言語語彙データベースプロジェクト(パピヨンプロジェクト)のためのインタフェース生成の為にこのジェネレーターを使用した。更に HTML サイト及び WAP/iMode サイトを生成するための新しい世代技術を開発しユーザ・インタフェースの適応に関し Java アプリケーションあるいはウェブページの動的なグラフィックアプリケーションを実現するためにリアル・タイム強制を解決するシステムを開発した。研究の根幹をなす多言語語彙データベースプロジェクトにおいては、ユーザ及びプラットフォームに特徴を与える辞書用ユーザ・インタフェースを生成する方法に関する研究に従事した。本プロジェクトに関しては、研究リーダーである M.Mangeot 研究員と共同研究を行った。

まず、データ仕様書からのユーザ・インタフェースを生成する為の技術開発を行った。グラフィックユーザの生成が接続するドライブの為にパピヨン辞書(XML 表示)のデータ仕様書を作成した。これらのユーザ・インタフェースは WML(また iMode)ページ及び HTML ページとして出来る限り早くパピヨンサーバーを通過してアクセス可能とするものである。

また、HTML 及び WML(部分的)ジェネレーターの開発を行った。ウェブページを生成するためのアルゴリズム、また機能的部分をまとめた。

(5) 民間等との共同研究

平成 13 年度

「国際電子商取引ガイドラインに関する調査研究」

教 官：浅野 正一郎

民間機関：株式会社 プロコムインターナショナル

OECD(経済協力開発機構)に設けている ICCP(情報コンピュータ通信政策委員会)では、電子商取引を国際的に推進するための政策を情報通信技術の発展動向を踏まえて審議している。この審議に参加し、将来動向の分析を行っている。

「モバイル通信サービスの研究」

教 官：山田 茂樹、上岡 英史

民間機関：日本電気株式会社第三ネットワークソリューション事業部

概要：

通信の到達性向上と通信に関わる複雑な設定・操作の排除を目的としたユービキタスコンピューティング・ネットワークの実現に向け、時々刻々変化するユーザの通信コンテキストを自動的に取得し、その情報をもとに受信者がメッセージを受信するために、最適な通信端末と通信サービス/メディアを自動的に選択し、それに合わせた通信サービスや通信メディアの自動変換を行う新しい通信方式「環境適応型パーソナル通信(EAPEC (Environment-Adaptive Personal Communications))の実現方式として 3GPP の all IP ネットワークアーキテクチャに基づく 5 つの機能モジュール(LS(Location Server)、TPD(Terminal Profile Database)、UPD(User Profile Database)、UCN(Universal Communication Navigator)、MPS(Media Processing Server))を用いた通信サービス変換方法を明らかにした。

具体的にはIP系サービスの一つである電子メールサービスをテレコム系サービスあるいは他のIP系サービスに変換するために、受信側のサーバで電子メールのメッセージをインターセプトし、UCN から事前に受け取った変換方法をもとにMPSに変換を指示する方式により、オーバーヘッドの少ないIP系サ

ービス変換方法を明らかにした。以上の検討の結果、今回対象とするテレコム系、IP系サービス間の変換方法として最終的に3種類の変換手順に集約できることを明らかにした。

また、EAPECの今後の発展形態として、EAPECにおける通信コンテキストを、より一般的なユーザコンテキスト(ユーザを取り巻く状況に関する情報)に拡張し、通信サービスを、より一般的な情報配送サービスに拡張した「コンテキストウェア型情報配送サービス」を提案し、今後、この方向の研究の重要性を指摘した。

さらに、コンテキストウェア型情報配送サービスを実現するには、ネットワークにおいて、多種多様なコンテキストの登録、コンテキストの検索、過去のコンテキストも含めたコンテキストの保存、コンテキスト共有メカニズムなどをユーザに提供するコンテキストマネジメントシステムの必要性についても提案した。

「個人情報保護に関する国内外の制度に関する研究」

教 官：岡田 仁志

民間機関：株式会社シー・アイ・シー

個人情報の利用と保護に関する法制度整備の状況を比較法的に研究した。OECDによるプライバシー原則および欧州連合政府によるデータ保護法に関する法整備指令などの一般法の動向を調査した。イギリスにおけるデータ保護法に関して、英国の国際法律事務所勤務経験のある法曹実務家から専門情報を得て、法体系の分析と企業等の組織における運用の実態について調査した。

日本において制定作業が行なわれていた個人情報保護法について、法制審議会における審議の内容を時系列的に分析し、最終的な議論の到達点を予測することにより、同法制定後の企業等における対応のあり方を議論した。あわせて個人信用情報機関としてのパブリックコメントの基礎資料を提供した。特に、制定途上において法案が欧州の基準を満たす可能性の有無を中心に分析をすすめた。その結果、個人情報を取り扱う企業としては、同法案の内容に関わらず、欧州の基準をみたす内部規程を置き、これを前提としたコンプライアンスプログラムを制定することが、国際的な経済活動を展開するうえで不可欠であることが明らかとなった。

このような視点から、個人情報取扱事業者のなかでもとりわけ高いレベルの情報取扱基準が要求される個人信用情報機関として、今後どのようなコンプライアンスプログラムを制定することが法的に必要とされ、また社会的信頼をより高めていくうえで適切であるかについて、法曹実務家の専門的知見を取り入れながら具体的に検討した。なお、共同研究の完了後に個人情報保護法が制定されたことにより、この問題は研究段階から社会実装の段階へと進展を遂げ、上記のような視点の重要性が改めて確認された。

平成 13-14 年度

「オプティカルネットワークの構成と運用に関する研究」

教 官：浅野 正一郎

民間機関：ケイディーディーアイ株式会社

光ネットワークの高度運用に関する基礎研究を実施している。平成13年度から3年間の研究である。

「エージェントを用いたインターネット上の実用的サービス構築・運用技術の研究」

教 官：本位田 真一

民間機関：株式会社東芝研究開発センター

インターネットやイントラネットといった広域開放型ネットワーク環境が発展するのに伴い、変化が激しく、多種多様な要求が与えられるような分散システムへの需要がますます高まりつつある。そのようなシステム開発のための技術として、エージェントが期待されている。エージェントとは、自律性・移動性・知性・協調性・即応性といった特徴により、環境の変化や多種多様な要求に対応するソフトウェアである。さらに、エージェントを用いたインターネット上の実用的サービス構築・運用が考えられるようになって

てきたため、そのための基礎技術の研究も出始めている。しかしそれらの従来手法では、開発効率、汎用性、拡張性、および理解容易性といった、サービス構築・運用技術に必要と考えられる要素において問題点が多く、実用的なものとは言い難い。また、ほとんどの手法は移動性を持たない常駐エージェントの協調機能のみサポートしているため、実用性が期待されるモバイルエージェントシステム開発への適用は困難である。そこで我々は、エージェントを用いたインターネット上の実用的サービス構築・運用技術の研究開発を目的として活動を行った。活動の結果として、以下の成果を得た。

- ・ 開発支援ツール IPEditor と仕様記述言語 Mobile UNITY を用いたモバイルエージェントセキュリティの実現
- ・ パターンを利用したセキュアかつ効率的なモバイルエージェントアプリケーション開発手法
- ・ モバイルエージェントアプリケーションのための仕様記述言語 Pigeon
- ・ ユビキタス環境における Context-Aware なパーソナルエージェントの構築とその実証実験
- ・ ユビキタスパersonライズエージェントによる買物支援サービスの実証実験

「インターネット資源の利用性を高める知的システムの研究」

教 官：本位田 真一

民間機関：日本テレコム株式会社情報通信研究所

近年、携帯電話や PDA などの携帯端末が広く普及し、利用場所を選ばずに、様々なアプリケーションを利用することが可能となった。また、個人利用に限らず、企業の情報システムにおいても携帯端末を利用する事例が増えており、携帯端末の重要性は年々高まりつつある。しかしながら、携帯端末はバッテリーの持続時間や小型化のため、アプリケーションで利用できる計算リソース(CPU、メモリ、通信帯域幅など)に制約がある。このため、デスクトップ型コンピュータなどの固定端末が利用するような、リソースを多く使うアプリケーションを携帯端末で利用した場合、リソース不足や過負荷などにより十分な性能が得られない場合がある。

これらの課題を解決するため、本研究では、モバイル環境においてリソースが限られた携帯端末がネットワーク上の情報資源や計算機資源を有効に活用するための「モバイルエージェントを基盤とするミドルウェア」を開発し、その有効性を明らかにした。具体的には、モバイルエージェントを基盤とするミドルウェアは、(i)他端末の豊富なリソースを利用してアプリケーションの処理を効率的に実行する機構、(ii)利用可能な計算リソースや通信環境の変化を検出し最も効率的に処理を実行できる端末を適応的に選択する機構を携帯端末に提供する。本研究では、これらの機構を実現するにあたり、モバイルエージェント(移動制御を含む)を採用することにより、C/S システムを始めとする従来の固定的なコンピューティングモデルでは実現困難な環境適応性・拡張性を有するシステムを実現した。

なお、本研究成果は、次世代ネットワークの基盤技術として、特にモビリティ制御プラットフォームの高度化を目指した研究開発に活用する予定である。

「認知科学に基づいたユーザインタフェース開発方法論の研究」

教 官：本位田 真一

民間機関：株式会社東芝デザインセンター

対話型のシステムや製品の高機能化・ネットワーク化により、ユーザインタフェースはますます複雑になってきている。システムや製品のユーザだけでなく、開発者であってもユーザインタフェースの全容を把握することが難しくなりつつある。製品の操作性を保証し、かつ、製品開発の生産性を高めるには、複雑なユーザインタフェースを効率よく漏れなく評価し、評価結果を速やかに開発にフィードバックして改善することが必要である。複雑なユーザインタフェースの可視化と効率的な評価を目的として、対話の仕様を形式的に記述して行なうユーザビリティ評価の一手法を研究した。この手法は、ユーザインタフェースの仕様を拡張状態遷移図で記述し、その記述から操作の完全性、一貫性、柔軟性、可達性と操作に対するメンタルモデル形成の容易性を検査・分析するものである。この手法を用いることによりユーザインタフェースの評価精度と評価効率を向上させることができる。この手法を携帯電話やWebサイトのユーザビリティ評価に用い有効性を確認した。また、複雑なユーザインタフェースを精度良くかつ効率的に評価するために、拡張状態遷移図を用いて対話仕様を記述し分析する手法を導入し、

記述の方法、具体的な評価の方法、有効性と適用上の問題点をまとめた。今後は手法を洗練するとともに、さらに精度が高く、効率の良い評価法として確立したい。

「ユビキタスコンピューティングネットワークにおける環境適応型パーソナル情報通信方式の研究」

教 官：山田 茂樹、上岡 英史

民間機関：株式会社NTTドコモ

通信の到達性向上と通信に関わる複雑な設定・操作の排除を目的としたユビキタスコンピューティング・ネットワークの実現に向け、時々刻々変化するユーザの通信コンテキストを自動的に取得し、その情報をもとに受信者がメッセージを受信するために、最適な通信端末と通信サービス/メディアを自動的に選択し、それに合わせた通信サービスや通信メディアの自動変換を行う新しい通信方式「環境適応型パーソナル通信 (EAPEC (Environment-Adaptive Personal Communications))」の実現方式として 3GPP の all IP ネットワークアーキテクチャに基づく 5 つの機能モジュール (LS(Location Server)、TPD(Terminal Profile Database)、UPD(User Profile Database)、UCN(Universal Communication Navigator)、MPS(Media Processing Server)) のネットワーク配置法と通信コンテキストの自動取得手順を明らかにした。

具体的には平成 13 年度は、テレコム系サービスと IP 系サービスの変換制御に必要なネットワークリソース、具体的には、UCN、MPS、LS、TPD、UPD などの EAPEC 機能モジュール、及びそれらの間の制御情報の送受用に SIP の presence 系プロトコル (SUBSCRIBE/NOTIFY) を用いることにより、ネットワーク全体でのリソースの共用化、経済化を図る方法を示した。

性能評価の一例として呼接続遅延の平均値及び 95 パーセンタイル値を、ネットワーク性能評価シミュレーションツール OPNET を用いて求め、今後の all IP ネットワーク設計時の指針を得た。

平成 14 年度は、EAPEC のプロトタイプシステム構築に関して、3 つのサービスシナリオ (電話から電子メールへの変換、電子メールフォワーディング、電子メールから FAX への変換) を想定し、EAPEC の 5 つの機能モジュールを 2 台の SIP サーバに分散配置した SIP ネットワークシステム構成を明らかにした。

さらに EAPEC を拡張、一般化して、具体的には時々刻々変化するユーザの情報環境に関する情報を自動的に取得し、ユーザが必要としている情報 (マルチメディアコンテンツあるいはユーザの記憶、判断、行動を支援するための情報コンテンツ) を適切な形態で送り届けるコンテキストウェア・コンテンツデリバリサービスとシステムを検討した。

具体的にはコンテキストウェア・コンテンツデリバリシステムを実現するネットワークアーキテクチャとして、第 3 世代移動通信網内の設備にコンテキストを取り扱うコンポーネントを配置するネットワーク中心型アーキテクチャ (NCA) とエンドユーザの設備にコンテキストを取り扱うコンポーネントを配置するエンドユーザ中心型アーキテクチャ (ECA) を提案した。

両アーキテクチャを技術面から比較するために、ユーザコンテキスト獲得から、対応するコンテンツサーバ情報をユーザに通知するまでのレスポンスタイムに関して、その平均値及び 95 パーセンタイル値を、ネットワーク性能評価シミュレーションツール OPNET を用いて求めた。その結果、ネットワークのトラヒック特性やシミュレーションパラメータの値に応じて両アーキテクチャのレスポンスタイムの優劣が変動することを明らかにした。

さらに、ユビキタスコンピューティングに適したプライバシー保護/セキュリティ技術の研究動向を調査した。その結果、プライバシー保護を実現するセキュリティ技術としてプライバシーポリシとプライバシーデータを一体化して管理、制御するオブジェクト指向的アプローチの有効性を示唆した。

平成 14 年度

「大規模疎線形等式系に対する高速前処理アルゴリズム」

教 官：宇野 毅明

民間機関：株式会社アライドエンジニアリング

一般的に、線形不等式系を解くためにはガウスの消去法が用いられる。この方法は単純でかつ精度が良く、現在でも工学・産業の分野で多く用いられている。ガウスの消去法は、変数の添え字の付

け方によりその計算時間が変化する。そのため、なるべく速く計算が終了するような添え字付けを行う前処理アルゴリズムの研究が盛んに行われてきた。

本研究では近傍探索を用いた局所探索を使った前処理アルゴリズムの開発を行った。その結果、既存のアルゴリズムよりも1割から2割、精度の良い解(ガウスの消去法が1-2割短時間で終了するような添え字付け)を得るアルゴリズムが開発できた。今後は、既存の線型方程式求解システムに組み込み、システムの効率化を図っていく予定である。

「ホームネットワークのためのフレームワークに関する研究」

教 官：佐藤 一郎

民間機関：富士通エルエスアイソリューション株式会社

情報家電製品を含む組み込み機器は計算能力に制約が多く、ソフトウェアが巨大化や複雑化することはコストと安定性の両面で適さない。このため、個々の機器で行う処理と外部サーバで行う処理を適切かつ柔軟にわけける手法を提案する。また、ハードウェア化すべき処理とソフトウェアで行うべき処理を明らかにした。具体的には最も普及しているネットワーク識別子であるURLに着目し、URLに家電製品の制御機能を導入した拡張URL技術を提案した。これはURLの構文規則を守りながら、特定家電製品の特定に加えてその電源のオンオフ制御から、テレビであればチャンネルやボリュームを変更することも可能にする。また、家電製品の制御だけでなくインターネット上のサービスとの統合を実現するため、次世代Web技術の基盤となるSOAPとWSDLを情報家電に導入可能か否かを調査し、またその応用可能性を示した。このほか、UPnPやJiniなどの情報家電向けサービス発見プロトコルが乱立しているが、その統合や相互結合に関する研究・開発事例は少ない、このため上述の拡張URLを利用して、UPnPからJini、そしてJiniからUPnPへ対応機器同士がそれぞれ通信可能とする枠組みについても設計を行った。これはサーバ上で家電機器への要求を一括管理し、要求をそれぞれの家電機器に転送するための集中型サービス(フォワーディングサーバ)に関する研究も行なう。また、個々の家電製品側ではSOAPを利用した統一的な機能が備わっているだけでフレームワークへの統合が可能になるため、多様な家電機器で汎用的に利用可能なネットワーク家電用システムLSIの実現に道を開く。

「高性能組込マイクロプロセッサの開発」

教 官：松本 尚

民間機関：科学技術振興事業団

周辺専用回路と効率良く協調動作可能な低消費電力の組込マイクロプロセッサの研究開発を行っている。このプロセッサとネットワーク回路、暗号回路、マルチメディア処理回路等の専用回路から成る機能分散型の制御回路を機器に採用することにより、最小限の電力で必要とされる機能が実現される。このプロセッサの用途は、高速ネットワークを活用する必要があるエッジサーバや光ファイバ接続されたホームサーバであり、これらの装置のCPUとしてファンレスで使用することが可能なプロセッサを開発している。周辺回路と協調動作の効率を上げるための機構として、キャッシュ制御命令、エラスティックブリフエッチ機構、OSを介さずに周辺装置の仮想化する機構を新規に考案した。これらの機構の他に、開発中のプロセッサは、割り込み処理への切替オーバーヘッドをほとんどゼロにする割り込み専用レジスタセットや複雑な通信プロトコルに対応可能な大容量命令キャッシュを有している。平成14年度には回路線幅0.25 μ mのCMOS LSIとしてこれらの機構を搭載したRISCプロセッサJSTEP-1(80MHz動作)を試作した。この成果を受けて、動作周波数200MHz程度で周辺回路を内蔵した実用レベルのシステムLSIを開発中である。なお、本研究開発は科学技術振興事業団との共同プロジェクトである。

(6) 受託研究

平成 13 年度

「ネットワークに基づく分散型地球環境データベースの構築」

研究代表者：小野 欽司

受託者：通信・放送機構

本研究は、地球観測衛星データを中心とした地球環境データの有効活用に必須となる大規模情報基盤における基幹要素技術、すなわちネットワーク技術およびデータベース技術に関する研究を進めた。特に、ネットワーク技術としては、大容量の地球観測データをネットワーク上で効率的に配信・検索するための技術、またデータベース技術については、大容量の地球観測データから必要な情報を効率的に発見するための技術、などを中心にテーマを設定した。これらの技術は、地球環境データという文脈ではまだ課題も多く、特にデータサイズの巨大さ、分散したデータベースの連携、地球環境データのデータマイニング、などの観点に残された研究課題は多い。

本研究では最初に述べた2本柱の研究テーマに関して、地球環境データ交換のためのネットワーク、地球環境データ定義・検索言語の開発、地球環境データへのアクセスパターンのモデル化、台風画像内容検索システムの構築、台風画像コレクションのデータマイニング、などに関する成果を得た。これら個々のテーマはレイヤ構造で表される関係を持っており、各レイヤにおける技術的課題の解決には複数レイヤにまたがる視点が必要である。

以下では個々のレイヤに関する成果の概要を述べる。まず画像解析層については、地球観測衛星画像の統計的分類法に関する研究を中心に進めた。次にデータマイニング層は、台風画像コレクションの構築、およびその大量データを対象とした時空間データマイニングにより、台風の分類などの問題に成果を得た。

また上記の研究をさらに補強する成果には、地球環境データを対象とするデータ操作言語 GRQL の提案がある。上記のデータ操作言語はグルーピングおよびランキングを基本とする点が特徴的な言語であり、また類似画像検索のような類似性に基づく検索を意識したデータ検索言語となっている。さらに地球環境衛星データベースの検索に対話的な検索方法を導入することにより、進化的計算に基づく対話的画像散策法を提案した。

これらすべての成果を具体的な形とするために、ウェブサイト「デジタル台風」を構築し、データ検索言語を実装した画像特徴探索エンジンを用いた画像データベースを一般に広く公開している。以上、本受託研究では地球環境データに関する総合的な研究成果を得た。

「科学研究費補助金による研究成果の国際的評価方法」

研究代表者：根岸 正光

受託者：日本学術振興会

文部科学省科学研究費補助金の研究成果について、その国際的位置付けを極力客観的な指標により評価する方法について、本研究所にて作成している「科学研究費補助金研究成果概要データベース」により実証的検討を試みた。すなわち、同データベース収録の各研究課題の発表文献リストに着目し、各論文の掲載雑誌を米国 ISI 社発行の JCR(Journal Citation Report)と突き合わせ、JCR 収録誌について、各誌のインパクト・ファクター(雑誌ごとの論文当たり平均引用度数)を調査、集計して、全般的傾向について知見を得るものとした。

調査は 1993、1996、1999 年の 3 年分の研究について、研究種目ごとの研究課題数、平均的発表論文数、平均的インパクト・ファクターなどの分析を行い、結果として、それらが経年的に増加しているという傾向が得られた。

「ITS 分野の展望とビジネス展開への提言」

研究代表者：羽鳥 光俊

受託者：NTT インフラネット株式会社

ITS(Intelligent Transport Systems、高度道路交通システム)は、カーナビや道路交通情報提供、ETC(Electric Toll Collection、ノンストップ通行料金収受)、安全運転援助、観光・ショッピング案内、ビジネス援助等高度なサービス、援助を提供する道路交通システムであり、近未来の移動通信システムとして関心の高いシステムであり、ITS分野におけるビジネス展開のあり方について研究を行い、社会への提言を行おうとするものである。

研究成果の概要:担当教官が会長代理を務める ITS 情報通信推進協議会における推進活動と連携をとり、DSRC(Dedicated Short Range Communication Systems)の標準化と実用化、円滑な普及の推進活動を行った。担当教官がプロジェクトリーダーを務める通信・放送機構の ITS 横須賀リサーチセンターと連携をとり、電波による変調された光波による通信の研究、移動通信に適したエージェントソフトの研究、デバックやグレードアップが可能な ITS 情報通信端末の研究等を行った。

「化学反応のニューラルモデル化による定量的反応予測の実現」

研究代表者：佐藤 寛子

受託者：科学技術振興事業団

本受託研究は、平成 10 年 10 月より開始した科学技術振興事業団さきがけ研究 21「情報と知」領域における研究に相当する。研究テーマは「化学反応のニューラルモデル化による定量的反応予測の実現」であり、反応物と反応条件から何がどれだけの量で生成するか？ という問いに答える定量的反応予測のためのコンピュータシステムを実現することが目的である。研究の構想は化学者の記憶と思考の仕組みをコンピュータ上で形式的に模倣した反応の表現・分類・モデル化から成り、いわば分子の持つ物理化学的な性質に立脚した化学反応の体系化による「化学反応の地図」を描くことに通じる。本研究では反応を汎用的に分類するための表現の方法の開発、分子の立体的な構造をコンピュータに理解しやすい方法で表現するコード化法の開発と核磁気共鳴スペクトルの予測への応用、数値的に表現した反応試薬の分類とモデル化による反応試薬機能の予測と実証について研究構想の実現に向けた種々の研究を行っている。

本年度は、反応試薬の機能予測モデルの予測結果の化学実験による検証結果のモデルへのフィードバックによる予測精度の向上と、化学反応分類のための汎用的な指標 ReacSim ベクトルの開発、および、分子の立体化学の規範的コード化法 CAST を分子構造-NMR(核磁気共鳴)スペクトルデータベース記述の基盤として用いた NMR 化学シフト予測システム CAST/CNMR を天然有機化合物などの複雑な立体化学を有する化合物に対して適用し、種々の重要な成果を得た。

平成 13-14 年度

「連想に基づく情報空間との対話技術」

研究代表者：高野 明彦

受託者：科学技術振興事業団

本委託研究は、JST 戦略的基礎研究推進事業の一環として推進中の「連想による情報空間との対話技術(研究代表者:高野)」(2001. 12~2006. 10)という研究開発の一部である。本研究では、情報空間における関連情報の探索・分析・提示と、脳における記憶の連想的探索・無意識的想起という、創造的相互作用を基礎づける「連想の情報学」の体系化を目指して、文書情報空間に奥行きと安心感を与える対話技法を構築する。また、ユーザーが理解度に応じて平易な入門的解説から高度な専門的記述までを自在に渡り歩く手段の実現を目指している。

本年度は、異分野にまたがる参加研究者間の新しい連携の可能性を探るため、共通の研究対象として広い意味での情報技術関連書籍を選定して電子化を行った。XML化された7冊の辞典を対象にXML電子辞典利用環境の構築に着手した。編集意図の異なる辞典を連想的に結びつけることにより、斬新な電子リファレンス環境を提供できる見通しを得た。共用実験環境としてPCクラスタ装置を導入し、

汎用連想計算エンジンGETAの並列処理版(第3版)をその上で稼働させた。現在、GETAの提供する連想計算は世界的にも最高水準にあるが、その実用性を実証するため、GETAを活用して連想検索機能を実装した。これは国立情報学研究所の新サービス「NII図書情報ナビゲータWebcat Plus (<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)」に採用され、250万件の図書情報を連想的に探索できるインタフェースとして注目された。

「自律的通信パケットによる動的ネットワーク」

研究代表者：佐藤 一郎

受託者：科学技術振興事業団

通信プロトコルの動的変更を可能にするネットワークアーキテクチャを提案する。従来のアクティブネットワーク技術では通信ノード内の通信プロトコルを変更可能にするアクティブノード方式と、通信パケットに経路制御プログラムを埋め込むアクティブパケット方式に二分されていたが、この研究では両方式を統一的に実現する方法を提案した。具体的には通信パケットと通信プロトコルを同一のプログラム単位として実現し、さらに通信プロトコルまたは通信パケットが、他の通信プロトコルまたは通信パケットを first-class オブジェクトとして処理可能とする。これは含有構造を利用したものであり、内包する側は内包される側を制御可能とすることにより実現され、例えば内包する側は内包される側の通信プロトコルまたはパケットを他の通信ノードへの転送や複製、さらに他のノードへの移送も可能にする。これにより OSI などのネットワーク参照モデルにおけるプロトコル階層を含有関係により実現することが可能であり、さらにプロトコル階層における通信パケットの含有関係も本方式の含有関係により、通信プロトコルと通信パケットを区別することなく実現できることがわかった。これにより本研究で提案した方式は既存の通信プロトコル体型を含むものであり、さらに通信対象である通信パケットと通信処理をする通信プロトコルを統一的に扱えることから、柔軟性の高い通信を実現することができる。

「自律的通信パケットによる動的ネットワーク」

研究代表者：佐藤 一郎

受託者：科学技術振興事業団

これまで新しいアクティブネットワーク技術として通信プロトコルと通信パケットの統一する方式を提案してきたが、本年度はその応用可能性を確認した。具体的には他の通信パケットまたは通信プロトコルを転送する転送用パケット(forwarding)、他のパケットをそれ自身の移動で搬送する移送パケット(carrier)、他のパケットを複製する複製パケット(duplicator)、ある条件を満足するまでパケットをブロックする同期パケット(synchronizer)などの通信プロトコルを実現するうえで必至な4つの方法を本方式で実現し、それらを組み合わせることにより、タイムアウト付き再送信可能プロトコルなど基本的なプロトコルからマルチキャスト通信まで多様なプロトコルが実現できることがわかった。また、移送パケットは内包するパケットの移送経路に対する高階関数として経路の変更を行うことができる。これは経路制御を一つの計算過程として扱えることを意味しており、ネットワーク制御だけでなく計算理論的にも重要な知見を提供している。また、経路記述用の専用言語を設計・実装した。これはプロセス代数(またはプロセス計算)を利用した体系であり、形式的な意味定義をもつと同様に、低コストな実行及びアクティブパケットの選択というアクティブネットワーク技術における重大な課題に対する解決策となり得るものである。

「Web におけるコミュニティの発見」

研究代表者：村田 剛志

受託者：科学技術振興事業団

本研究では、膨大な Web 情報を有効活用することを目標として、興味を共有する Web ページのコミュニティやユーザのコミュニティに関する以下の三つの研究項目に取り組んでいる。

- Web コミュニティのモデル化

Web コミュニティにおけるリンクのグラフ構造をモデル化し、その構造を発見するシステムを構築する。

- Web 視聴率データからのユーザコミュニティ発見
Web 視聴率データのアクセスパターンを基に、興味の類似したユーザを発見するシステムを構築する。
- Web コミュニティとユーザコミュニティとの相互作用の解明
一方のコミュニティにおける動的変化が他方に及ぼす影響について分析する。

平成 14 年度においては、ハイパーリンクによるグラフ構造に基づく Web コミュニティのモデル化についての考察を行ない、Web 視聴率データの分析を本格的に進めるための準備作業を行なった。具体的には、リンク構造に基づいた関連研究について集中的な調査を進めた。また前年度から進めていた、Web コミュニティにおけるリンクの密な部分を探索する実験を検証し、それによってコミュニティにおける中心的なページ集合を見出していることを確認して結果をまとめた。後者の Web 視聴率データについては、視聴率調査会社とコンタクトを取り、データ利用の具体的な方法について契約を行なった。

平成 14 年度

「光波長チャンネルルータを用いた次世代アプリケーション提供におけるルーティング・品質制御・信頼性確保に関する実験及び解析」

研究代表者：浅野 正一郎

受託者：日本テレコム株式会社

GRIDを始めとする次世代超高速アプリケーションに対してネットワーク資源を確保し用意する(プロビジョニング)ための手法を開発し、実証を通して評価・解析を実施した。

「次世代分散ネットワークアーキテクチャに関する研究」

研究代表者：浅野 正一郎

受託者：日本電信電話株式会社

光ルータの実現と、これにより光ネットワークを広域分散制御する手法に関する検討を実施した。

「モバイル向け知識処理の研究」

研究代表者：上野 晴樹

受託者：株式会社NTTドコモ

モバイルターミナルを使って情報検索を行おうとするユーザにとっての重大な障害の一つとして、“自分の知りたい情報をどのようにして探しているかわからない”という問題がある。これは、ユーザが適切なキーワードを思いつかないこと、検索の目的があいまいで意図を正確に表現できないこと、モバイル用コンテンツが不十分なこと、などがある。本研究の目的は、知識処理技術の適切な応用によって、検索のベテランが助けるようにして、一般のユーザの情報検索を助ける“賢いモバイルターミナル”の実現を目指す基本技術の研究である。本年度は、概念的な問題認識や知識処理の考え方、および実現方法を中心として検討し、グルメアドバイザーが適切な研究事例であるという判断のもとに、実験システムを試作した。具体的には、当研究室で開発した分散汎用知識システム研究開発環境 SPAK を使ってサーバ型知識ベースを開発し、ユーザターミナルとしては i-MODE 端末に小型のインタフェースソフトを組み込んで、サーバとの通信によってユーザの検索を支援する実験システムを研究開発し、本アプローチの有効性を検証した。

「グループ学習支援システム操作ボードの設計」

研究代表者：橋爪 宏達

受託者：東海ソフト株式会社

ユービキタスコンピューティングで注目されている RFID タグであるが、従来の 130kHz 帯を使った低周波型のほかに、近年は 13.6MHz 帯の高周波(短波)帯を使うものも実用化されている。タグの量産性に優れることから、今後の本命は後者と見られているが、比較的高い周波数で通信することから、安定な通信のためには注意深く設計された送受信回路を必要とする。特にグループ学習支援システムで

使用される数 100 の送受信回路をグリッド型に集積した高密度装置では、特殊な設計を必要とする。

この受託研究は、オムロン社製の RFID タグを安定に読み出すための高集合型回路設計を、そのシステム設計を担当している東海ソフト社から受託したものであり、実質的にはオムロン社からの設計委託である。

高集合型ということから、周辺干渉と感度を両立させるアンテナ形状の決定、分離のよい送受信スイッチ、小型にできる少部品点数の回路という条件を考えた。回路としては Dual-gate MOS FET を使ったゲート変調型送信回路、トランジスタのベース・エミッタ間非直線性を利用したホモダイン型受信回路で上記条件を満足できることを見つけ、研究報告とした。なお本回路を採用した製品は 2003 年度中に実用化予定である。

「新情報セキュリティ技術の動向について」

研究代表者：羽鳥 光俊

受託者：NTT インフラネット株式会社

研究目的及び内容：新情報セキュリティ技術の諸外国ならびに日本国内の現状調査と今後の技術動向について報告した。

研究成果の概要：コンピュータディスプレイからの情報漏洩、キーボードから入力したパスワード等の情報漏洩を論じた。

「自由でかつ安全なコンテンツ流通を実現するためのエージェントフレームワークの研究開発」

研究代表者：本位田 真一

受託者：総務省

目標を達成するために、平成 14 年度は具体的には、以下の副目標を計画した。

- (目標 1) 移動エージェントのプラットフォーム構造の検討、
- (目標 2) コンテンツ変換方式の検討、
- (目標 3) 交渉方式の検討、
- (目標 4) 認証と暗号化アルゴリズムの検討、
- (目標 5) 特許申請と国内、国外研究会、シンポジウムへの論文投稿、参加による調査研究。

これらの目標をそれぞれ達成するために、以下の項目について研究を実施した。

- (実施 1) プラットフォームのフレームワークを設計
- (実施 2) 流通経路選択方式の検討
- (実施 3) 製作者や編集者のポリシーからエージェントの振舞いを自動生成する機構の考案
- (実施 4) 不特定多数者向け認証技術
- (実施 5) 認証技術を利用した耐故障性向上技術
- (実施 6) 国内外研究会、シンポジウムへの論文投稿と参加による調査研究

この中で、(実施 2)の流通経路選択方式の検討は、(目標 1)のプラットフォームの構造を明らかにするために、まずそのコアとなる部分である流通の仕組みを詳細化するために実施した。また、当初の目標であった(目標 2)と(目標 3)に先立ち、その基盤技術となるポリシーとエージェントの振舞いに関する研究を優先して実施した(実施 3)。(実施 4)、(実施 6)は、それぞれ(目標 4)、(目標 5)を達成するために行った。また、(実施 5)は、(実施 2)と(実施 4)を行っている中で、安全な配信を実現するための基盤要素として高信頼性が不可欠であることが判明し、新たに研究を行った項目である。

目標の達成状況(総括)

全体のフレームワークを固め、必要となる基礎技術(流通、ポリシー、認証・暗号、信頼性)の創出を行った。これにより、最も重要となる基盤要素技術の研究の目途がついた

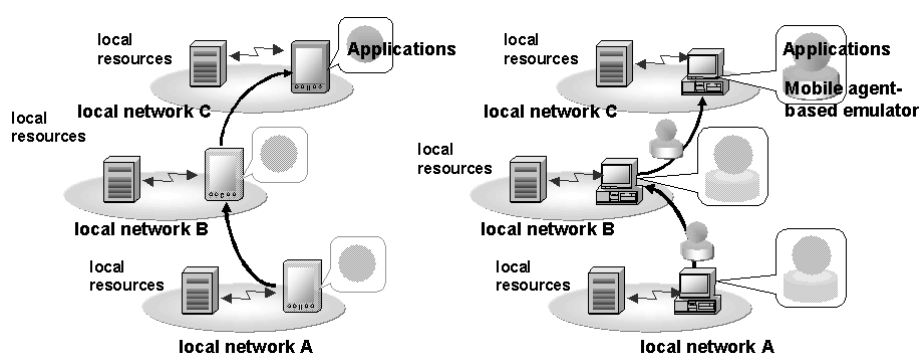
「携帯端末向けソフトウェアの開発・試験システム」

研究代表者：佐藤 一郎

受託者：総務省

携帯端末向けアプリケーションソフトウェアの開発・試験環境を提案・実装し、ソフトウェア生産性の

向上及びサービスの高次化を可能にする。IEEE802.11b などの小範囲無線 LAN を利用した局所的通信サービス(ホットスポットサービスなど)が急速に普及している。今後はインターネットなどの広域ネットワークだけでなく、接続先の局所ネットワーク上のデータベースやプリンタなどを利用したサービスが重要となる。しかし、そのソフトウェアの開発では携帯端末の移動先となる局所ネットワークに接続して動作を確かめる必要があり、容易ではない。そこで端末の物理的なネットワーク間移動をソフトウェアの論理的なネットワーク間移動に再現する方法を提案する。この研究の独創性は、モバイルエージェントと呼ばれるコンピュータ間を移動するソフトウェア技術を利用して、携帯端末の物理的な移動・ネットワーク接続をソフトウェアの移動を通じて模倣することにある。一般にノート PC や PDA、携帯電話などの携帯端末がもつプロセッサやメモリは十分ではないことから、その端末をソフトウェアレベルで再現したエミュレータを使うことが多い。ただし、既存のエミュレータはスタンドアロン型ソフトウェアが対象であり、ネットワーク上の各種情報やサービスを利用したソフトウェアの開発は困難である。そこで携帯端末の移動とそれに基づくネットワーク変化を正確に再現するために、モバイルエージェントによりエミュレータを実現する。本年度は提案手法の有効性を調べるため、そのプロトタイプシステムを実現した。



(7) 奨学寄附金

平成 13 年度においては、以下のとおり奨学寄附金の受入を行った。

- 情報図書館学に関する研究助成(江口浩二助手) 寄付者：財団法人電気通信普及財団 研究経費：800 千円
- 学術情報に関する研究助成(本位田真一教授) 寄付者：株式会社日立製作所システム開発研究所 研究経費：360 千円
- 工学研究のため(佐藤健教授) 寄付者：(北海道大学からの移し替え) 研究経費：1,601 千円
- 国際研究集会(外国)出席旅費助成(Nigel Collier 助教授) 寄付者：財団法人電気・電子情報学術振興財団 研究経費：222 千円
- 学術研究助成のため(佐藤一郎助教授) 寄付者：(お茶の水女子大学からの移し替え) 研究経費：8,139 千円
- 国際研究集会(外国)出席旅費助成(竹内孔一助手) 寄付者：財団法人電気・電子情報学術振興財団 研究経費：105 千円
- 海外渡航旅費援助(Nigel Collier 助教授) 寄付者：財団法人電気通信普及財団 研究経費：200 千円
- 「次世代知識処理技術」助成のため(本位田真一教授) 寄付者：株式会社東芝研究開発センター 研究経費：500 千円
- 研究教育振興のため(羽鳥光俊教授) 寄付者：株式会社NTTドコモ 研究経費：3,000 千円
- マルチエージェントシステムの理論的定式化に関する研究助成(佐藤健教授) 寄付者：株式会社富士通研究所 研究経費：1,000 千円
- 学術研究助成のため(浅野正一郎教授) 寄付者：三菱電機株式会社通信システム開発センター 研究経費：500 千円

- 学術研究助成のため(浅野正一郎教授)寄付者：東日本電信電話株式会社 研究経費：700千円
- 学術研究助成のため(羽鳥光俊教授)寄付者：東日本電信電話株式会社 研究経費：1,000千円
- 「デジタル・シルクロード東京シンポジウム」に関する研究助成(小野欽司教授)寄付者：デジタルアーカイブ推進協議会 研究経費：100千円
- 「個人的な嗜好に基づいた楽曲検索」に対する研究助成(佐藤健教授)寄付者：財団法人大川情報通信基金 研究経費：1,000千円
- 「連想の情報学の研究」に対する研究助成(高野明彦教授)寄付者：株式会社日立製作所中央研究所 研究経費：3,000千円
- 学術研究助成のため(武田英明教授)寄付者：関西 TLO 株式会社 研究経費：500千円
- 学術情報に関する研究助成(本位田真一教授)寄付者：株式会社アルゴ 21 研究経費：1,000千円
- 留学生に対する助成(羽鳥光俊教授)寄付者：日本電信電話株式会社 研究経費：3,000千円
- モバイルコンピューティングのためのエージェントプラットフォームの研究開発に関する研究助成(本位田真一教授)寄付者：株式会社三菱総合研究所 研究経費：1,000千円
- 学術研究助成のため(浅野正一郎教授)寄付者：株式会社航空システムサービス 研究経費：300千円
- 実世界指向インターフェースに関する研究助成(細部博史助手)寄付者：財団法人情報科学国際交流財団 研究経費：400千円
- 工学研究に関する研究助成(浅野正一郎教授)寄付者：株式会社NTTドコモ 研究経費：2,000千円
- 学術情報に関する研究助成(羽鳥光俊教授)寄付者：株式会社NTTドコモ 研究経費：2,000千円
- 情報の意味を記述するために構造表現を導入した論理言語の研究に関する研究助成(兼岩憲助手)寄付者：財団法人栢森情報科学振興財団 研究経費：800千円
- 国際的貢献に寄与するため(研究教育振興基金)寄付者：株式会社日立製作所 研究経費：3,000千円
- 研究教育振興のため(羽鳥光俊教授)寄付者：株式会社 KDDI 研究所 研究経費：3,000千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者：株式会社NTTデータ 研究経費：3,000千円
- 航空管制及び保安の技術とシステムに関する研究のため(浅野正一郎教授)寄付者：日本電気株式会社 研究経費：500千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者：松下電器産業株式会社 研究経費：4,500千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者：住友電気工業株式会社 研究経費：3,000千円
- 研究助成のため(佐藤一郎助教授)寄付者：株式会社東芝研究開発センター 研究経費：250千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者：松下通信工業株式会社 研究経費：1,500千円

平成 14 年度においては、以下のとおり奨学寄附金の受入を行った。

- 電子図書館に関する研究助成(安達淳教授)寄付者：東海ソフト株式会社 研究経費：200千円
- 人類遺伝研究部門への研究助成およびヒト染色体分離に関する研究助成(藤山秋佐夫教授)寄付者：(国立遺伝学研究所からの移し替え)研究経費：142千円

- 学術情報に関する研究助成(本位田真一教授)寄付者：株式会社日立製作所システム開発研究所 研究経費：480 千円
- 「階層的優先度を伴った非線形制約システムの解析と視覚的インターフェースへの応用」に関する研究助成(細部博史助手)寄付者：財団法人稲盛財団 研究経費：1,000 千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者：日本電気株式会社 研究経費：3,000 千円
- LREC2002(第3回言語資源評価国際会議)に関する研究助成(Nigel Collier 助教授)寄付者：財団法人吉田科学技術財団 研究経費：250 千円
- 総合的 WWW 遠隔協調学習環境の構築に関する研究助成(井上智雄助手)寄付者：財団法人国際コミュニケーション基金 研究経費：1,500 千円
- 学術情報に関する研究助成(井上智雄助手)寄付者：財団法人日本科学協会 研究経費：480 千円
- 教育・学術研究助成のため(山田誠二教授)寄付者：(東京工業大学からの移し替え)研究経費：2,473 千円
- 国際研究集会(外国)出席旅費助成(江口浩二助手)寄付者：財団法人電気・電子情報学術振興財団 研究経費：250 千円
- 研究教育振興のため(羽鳥光俊教授)寄付者：日本電信電話株式会社 研究経費：3,000 千円
- 学術研究助成のため(坂内正夫副所長)寄付者：(東京大学生産技術研究所からの移し替え)研究経費：20,000 千円
- 光通信に関する研究助成(末松安晴所長)寄付者：株式会社東芝 研究経費：500 千円
- 次世代移動通信に関する研究助成(羽鳥光俊教授)寄付者：株式会社東芝 研究経費：500 千円
- エージェント技術に関する研究助成(本位田真一教授)寄付者：株式会社東芝 研究経費：500 千円
- 海外渡航旅費援助(北本朝展助手)寄付者：財団法人電気通信普及財団 研究経費：230 千円
- 次世代情報通信に関する研究助成(阿部俊二助教授)寄付者：株式会社富士通研究所 研究経費：500 千円
- マルチエージェントシステムの理論的定式化に関する研究助成(佐藤健教授)寄付者：株式会社富士通研究所 研究経費：1,000 千円
- 学術情報に関する研究助成(浅野正一郎教授)寄付者：三菱電機株式会社情報技術総合研究所 研究経費：500 千円
- 逆問題の情報数理学に関する研究助成(奈良高明助手)寄付者：財団法人大川情報通信基金 研究経費：1,000 千円
- 学術研究助成のため(浅野正一郎教授)寄付者：東日本電信電話株式会社 研究経費：700 千円
- 学術研究助成のため(羽鳥光俊教授)寄付者：東日本電信電話株式会社 研究経費：1,000 千円
- 研究教育振興のため(羽鳥光俊教授)寄付者：株式会社 KDDI 研究所 研究経費：3,000 千円
- 教育・研究助成のため(渡部卓雄助教授)寄付者：(北陸先端科学技術大学院大学からの移し替え) 研究経費：687 千円
- 「大規模台風画像データベースに基づく台風に関する知識発見の研究」への助成(北本朝展助手)寄付者：財団法人栢森情報科学振興財団 研究経費：800 千円
- 学術情報に関する研究助成(浅野正一郎教授)寄付者：株式会社航空システムサービス 研究経費：300 千円
- 光通信に関する研究助成(末松安晴所長)寄付者：株式会社東芝 研究経費：500 千円
- 次世代移動通信に関する研究助成(羽鳥光俊教授)寄付者：株式会社東芝 研究経費：500 千円
- エージェント技術に関する研究助成(本位田真一教授)寄付者：株式会社東芝 研究経費：500 千円

- 学術情報に関する研究助成(浅野正一郎教授)寄付者:株式会社NTTドコモ 研究経費:1,500千円
- 学術情報に関する研究助成(羽鳥光俊教授)寄付者:株式会社NTTドコモ 研究経費:1,500千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者:株式会社NTTデータ 研究経費:3,000千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者:パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社 研究経費:1,500千円
- 国際的貢献に寄与するため(研究教育振興基金)寄付者:株式会社日立製作所 研究経費:3,000千円
- 研究教育振興のため(研究教育振興基金)寄付者:住友電気工業株式会社 研究経費:3,000千円
- 研究教育振興のため(羽鳥光俊教授)寄付者:株式会社NTTドコモ 研究経費:3,000千円
- 航空管制及び保安の技術とシステムに関する研究のため(浅野正一郎教授)寄付者:日本電気株式会社 NEC ソリューションズ 研究経費:500千円
- 「モバイル・ユビキタスコンピューティングのための表示技術」調査研究のため(細部博史助手)寄付者:財団法人情報科学国際交流財団 研究経費:200千円
- 「大規模放送映像アーカイブ型ホームサーバに関する研究」に関する助成(佐藤真一助教授)寄付者:財団法人放送文化基金 研究経費:1,250千円
- 「次世代移動通信」に関する研究助成(羽鳥光俊教授)寄付者:株式会社富士通研究所 研究経費:3,000千円
- 学術研究助成のため(武田英明教授)寄付者:関西TLO株式会社 研究経費:300千円

(8) 個人業績

氏名 末松 安晴 (すえまつ やすはる)
博士号 工学博士
所属・役職 国立情報学研究所 所長
電話番号 03-4212-2001
ファクシミリ 03-4212-2004
専門分野 光通信ネットワーク、光エレクトロニクス、光伝送路、半導体レーザ、光集積回路

学歴

昭和 30 年 3 月 東京工業大学 理工学部 電気工学コース卒業
昭和 35 年 3 月 東京工業大学 大学院理工学研究科博士課程
電気工学専攻修了(工学博士)

主要経歴

昭和 35 年 4 月 東京工業大学 理工学部 電気工学科 助手
昭和 36 年 9 月 東京工業大学 理工学部 電気工学科 助教授
昭和 42 年 10 月～43 年 9 月 米国オハイオ州立大学 電子科学研究所
文部省在外研究員
昭和 48 年 8 月～平成 2 年 3 月 東京工業大学 工学部 電子物理工学科 教授
昭和 54 年 デンマーク工業大学 学外学位審査員
昭和 55 年 9 月～10 月 英国電気通信研究所 客員教授
昭和 61 年 4 月～63 年 3 月 東京工業大学 工学部長
昭和 61 年 12 月～平成元年 3 月 東京工業大学草津白根火山観測所 所長
平成元年 3 月～4 月 スイス連邦工科大学 客員教授
平成元年 10 月～平成 5 年 10 月 東京工業大学 学長
平成 3 年 4 月 中国・清華大学 客座教授
平成 5 年 10 月 東京工業大学名誉教授
平成 5 年 11 月～平成 7 年 3 月 工学院大学特別専任教授
平成 6 年 4 月～5 月 イタリア・パピア大学 客員教授
平成 6 年 4 月～平成 7 年 3 月 日本学術振興会 監事
平成 7 年 4 月～平成 9 年 3 月 産業技術融合領域研究所所長
平成 9 年 4 月～平成 13 年 3 月 高知工科大学 学長
平成 13 年 5 月 高知工科大学 名誉教授
平成 12 年 6 月～平成 13 年 3 月 東日本旅客鉄道株式会社取締役(社外)
平成 13 年 4 月～現在 国立情報学研究所 所長

教育活動歴

平成 13 年 5 月 高知工科大学 名誉教授

学協会活動

映像情報メディア学会会長(平成 13 年 5 月～平成 14 年 4 月)
電気学会電気技術史研究専門委員会委員長 平成 13 年～

社会貢献活動

平成 9 年～平成 13 年 通商産業省産業技術審議会委員 委員
平成 9 年～現在 日本学術会議 会員
平成 10 年～平成 13 年 文部省学術審議会 委員
平成 11 年～現在 科学技術庁政策研究所 顧問
平成 13 年 4 月～現在 文部科学省 科学技術・学術審議会 委員
平成 13 年 4 月～現在 内閣府 総合科学技術会議 評価調査専門委員会委員
平成 14 年 5 月～ 神奈川県科学技術会議議長
現在下記大学の運営諮問会議委員:電気通信大学、香川大学、横浜国立大学、福井大学、高

知大学、筑波大学

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

上記に含まれない論文・記事・著作物等

「光エレクトロニクスへの期待」, 末松安晴, 応用物理 Vol71, No.11, 2002, (2002.11)

「学会活動の視点」, 映像情報メディア学会誌 Vol.56, No.11, pp.1703-1706, (2002.11)

講演・口頭発表等

「産学連携の新潮流」, 21世紀大学フォーラム(日経新聞社)2002年12月2日

「大学の研究と教育」, 第24回学術シンポジウム(日本学術会議)2002年12月10日

氏名 坂内 正夫 (さかうち まさお)

博士号 工学博士

所属・役職 副所長

電話番号 03-4212-2002

ファクシミリ 03-4212-2014

専門分野 マルチメディアシステム

研究概要

(1)マルチメディア情報媒介システムの研究(ITS や屋外活動をターゲットとする実世界型媒介システム、デジタル放送やコンテンツ形成などをターゲットとするストリーム型媒介システム等)を開発。
(2)画像検索手法の研究(全自動の意味内容検索方式等を開発)、(3)地理情報システムの研究(新しい構造のGISシステムを提案)、(4)ITSの研究(交通事故検出方式等を開発)、(5)多次元データ構造の開発とその応用方式の研究、特に、過去1年では(1)のプロジェクト(学術創成研究約11億円)を完成させた。

学歴

昭和40年4月 東京大学教養学部理科I類入学

昭和42年4月 東京大学工学部電気工学科進学

昭和44年5月 東京大学工学部電気工学科卒業

昭和44年6月 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門課程 修士課程入学

昭和46年3月 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門課程 修士課程修了

昭和46年4月 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門課程 博士課程進学

昭和50年3月 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門課程 博士課程修了

主要経歴

昭和50年4月 東京大学工学部電気工学科専任講師

昭和51年4月 横浜国立大学工学部情報工学科助教授

昭和53年10月 東京大学生産技術研究所助教授

昭和53年10月～昭和54年3月 横浜国立大学工学部情報工学科助教授併任

昭和54年4月～平成3年3月 横浜国立大学工学部非常勤講師

昭和62年3月～昭和63年1月 米国カリフォルニア大学文部省在外研究員

昭和63年7月 東京大学生産技術研究所 第3部教授に昇任

平成6年7月 東京大学概念情報処理工学研究センター長併任

平成10年4月～平成14年3月 東京大学生産技術研究所所長併任

平成14年4月 東京大学生産技術研究所教授

平成14年7月 国立情報学研究所教授、副所長

平成14年7月 東京大学生産技術研究所教授併任

受賞等

平成14年6月 電波の日総務大臣個人表彰

教育活動歴

昭和50年4月 東京大学工学部電気工学科学部担当

昭和51年4月～昭和54年3月 横浜国立大学情報工学科学部 大学院担当

昭和 53 年 10 月～平成 13 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科担当(電子工学、電子情報工学、情報工学)

平成 13 年 4 月～現在 東京大学大学院情報理工学研究科担当(電子情報学)

学協会活動

所属する学会及び地位(1990 年以降)

ITS Japan 副会長(2002～現在)

工学アカデミー会員(国際委員会委員)(1992～現在)

International Journal, “Multimedia Tools and Applications (Kluwer Academic Pub.)”, Editorial board member (1996～2002)

学会の役員・座長等の経験

(国際会議)

国際会議出版委員長、広報委員長/及び約 20 回のプログラム委員、session chairman 多数

社会貢献活動

審議会等の委員(1990 年以降)

文部科学省情報委員会委員(2000～現在)

文化庁キトラ古塚委員会委員(2000～現在)

宇宙開発事業団改革委員会委員(2000～2001)

郵政省電気通信技術審議会専門委員(1991～2001)

その他

日本学術振興会未来開拓プロジェクト領域アドバイザー(1999～現在)

科学技術振興事業団 CREST 情報生活領域アドバイザー(1999～現在)

ニューテクノロジー財団次世代ネットワーク委員会委員長(2001～2002)

ニューテクノロジー財団評議員(1990～現在)

セコム財団評議員(1999～現在)

財団法人気象業務支援センター評議員(1994～現在)

放送文化基金「製作者知的支援研究プロジェクト委員長」(1999～2001)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書 等

坂内正夫(分担): “大学の自律と自立ム組織・運営・財政”、大学の研究教育を考える会編、丸善、2001.5

坂内正夫編著: マルチメディアシリーズ「マルチメディアデータベース」、昭晃堂、2002

坂内正夫: “年頭所感 2002 年-国際総合工学研究所の定着へ”、生産研究、vol.54, no.1・2, pp.1-2.2002

Ng S. T. Chong and Masao Sakauchi: “Discussing Web Pages with Chat-pointers in E-coBrowse”, Journal of Multimedia Tools and Applications, Special Issue on Internet and Multimedia Systems and Applications, Kluwer Academic Publishers, 17:1, 2002

Hiroshi Kawasaki and Katsushi Ikeuchi and Masao Sakauchi: “Arbitrary View Synthesis of Real-World Environment”, Proceedings of the Asian Conference on Computer Vision, Melbourne, Australia, 2002

Ryo Furukawa and Hiroshi Kawasaki and Katsushi Ikeuchi and Masao Sakauchi: “Acquiring Bidirectional Texture Function for Image Synthesis of Deformed Objects”, Proceedings of the Asian Conference on Computer Vision, Melbourne, Australia, 2002

Yunyun Cao, Yoshitomo Yaginuma, Masao Sakauchi: “Partial Image Retrieval Using Color Regions and Spatial Relationships”, Proceedings of the 6th IFIP Working Conference on Visual Database Systems, Brisbane, Australia, 2002

S.Kamijo, T.Nishida, M.Sakauchi: “A Supervisory System for Safe and Efficient Drives based on Behavior and Statistical Analyses from Traffic Images”, IV2002, Versailles, 2002

S.Kamijo, T.Nishida, M.Sakauchi: “An Intelligent Agent for Traffic Images Understanding based on Spatio-Temporal Markov Random Field Model”, SCI2002, Orland, 2002

S.Kamijo, M.Sakauchi: "Illumination Invariant Segmentation of Spatio-Temporal Images by Spatio-Temporal Markov Random Field Model", ICPR2002, Quebec, 2002
Takanori Miyake, Shunsuke Kamijo, Masao Sakauchi: "Forecasting Travel Time by Adapting Data Mining Method to Traffic Data of an Expressway", 9th World Congress on ITS, 2002
Takeshi Matsushita, Shunsuke Kamijo, Masao Sakauchi: "Vehicle-type Classification based on Symbolic Representation", 9th World Congress on ITS, 2002
Tsunetoshi NISHIDA, Shunsuke KAMIJO, Masao SAKAUCHI: "Interactive System of Analyzing Traffic Event Statistics based on Occlusion Robust Vehicle Tracking Method", 9th World Congress on Intelligent Transport System, 2002
S.Kamijo, M.Sakauchi: "Illumination Invariant and Occlusion Robust Vehicle Tracking by Spatio-Temporal MRF Model", 9th World Congress on ITS, Chicago, 2002
S.Kamijo, M.Sakauchi: "Classification of Traffic Events based on the Spatio-Temporal MRF Model and the Bayesian Network", 9th World Congress on ITS, Chicago, 2002 他

特許・公開ソフトウェア・作品等

「移動物体識別装置並びに移動物体に対する自動警告方法及び装置」番号：特願 2001-142375
出願日：2001.05.11

“Mobile unit identification apparatus and method and Apparatus for automatically warning to mobile unit” 01-00258/FF0114 Masao Sakauchi, et. al 2001-142375 2001/05/11

「移動体を含む画像の処理方法及び装置」番号：特願 2001-187502 出願日：2001.06.21

“Method and apparatus for processing pictures of mobile object” 01-00257/FF0116 Masao Sakauchi, et. al 2001-187502 2001/06/21

「画像における移動体追跡方法及び装置」番号：特願 2002-062439 出願日：2002.03.07

上記に含まれない論文・記事・著作物等

NHK 総合テレビジョン 2002.3.13 ニュース 9「交差点映像認識技術」

朝日新聞 2002.3.29「交差点カメラで車の流れを認識」

毎日新聞 2002.3.14「東大生産研が画像認識新技術」

日本工業新聞 2002.3.14「個々の車を完全追跡 東大生産技研が監視システム」

日刊工業新聞 2002.3.14「車同士の重なり 影響受けずに追跡、東大生研がシステム、事故発見など即応」

日刊工業新聞 2001.6.8「本は未来を考えるモチベーション」

日刊工業新聞 2001.6.8 レーザー「新しい中身」

東大新報 2002.2.5 「新しい価値を創造 - あらゆる工学分野融合」

■情報学基礎研究系

◆アルゴリズム基礎研究部門

氏名 龍田 真 (たつた まこと)
博士号 1993年、東京大学博士(理学)
所属・役職 教授
電話番号 03-4212-2552
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 理論計算機科学、数理論理学

研究概要

理論計算機科学と数理論理学を研究している。特に、プログラム理論と、それに関連した数理論理学を研究している。プログラム理論では、特に、プログラム意味論、プログラム検証、プログラム合成、プログラム変換、計算モデル、型理論を研究している。また、数理論理学では、プログラム理論に関連した論理、特に、証明論と構成的論理を研究し、また、その成果をプログラム理論へ応用する研

究を行っている。

学 歴

1983年3月 東京大学法学部卒業
1985年3月 東京大学理学部情報科学科卒業
1987年3月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了
1993年3月 東京大学博士(理学)

主要経歴

1989年4月 東北大学 電気通信研究所 助手
1994年10月 東北大学 電気通信研究所 助教授
1996年4月 京都大学 理学研究科 数学教室 助教授
2001年4月 国立情報学研究所 教授
2002年4月 総合研究大学院大学 教授(併任)

教育活動歴

東京大学大学院 情報理工学研究科 非常勤講師

大学院担当講義

情報論理学(総合研究大学院大学)
情報基盤科学概論(総合研究大学院大学)

学協会活動

日本ソフトウェア科学会 会員 (1989～)
日本数学会 会員 (1995～)
Association for Symbolic Logic 会員 (1997～)
情報処理学会会員 (2002～)
情報処理学会の論文誌編集委員 (2002.5～)
日本数学会の数学基礎論サマースクールの講師 (2001)
国際会議 Fourth International Symposium on Theoretical Aspects of Computer Software (2001)
の Program Committee および session chairman

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

龍田 真 (分担執筆)、日本数学会編、岩波数学辞典第4版、型理論とλ計算、岩波書店、出版予定。

氏 名 宇野 毅明 (うの たけあき)

博士号 博士(理学)

所属・役職 情報学基礎研究系・アルゴリズム基礎研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2544

ファクシミリ 03-4212-2544

専門分野 数理計画、離散アルゴリズム、データ構造、組合せ最適化

研究概要

データマイニングや生産計画等の現実の問題に現れる大規模な最適化問題を解くための効率良いアルゴリズムやデータ構造の開発、およびそれらの構築法の研究、また離散アルゴリズムや列挙アルゴリズムの理論的側面の研究

学 歴

平成元年3月 東京学芸大学附属高等学校 卒業
平成5年3月 東京工業大学理学部情報科学科 卒業
平成7年3月 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻 修了
平成10年3月 東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士課程 修了 博士(理学)を取得

主要経歴

1998年 東京工業大学システム科学専攻 博士(理学)を取得

1998年 東京工業大学経営工学専攻 助手 就任

2001年 国立情報学研究所 助教授 就任

現在に至る

教育活動歴

1999年より東京商船大学商船学部流通情報工学課程 非常勤講師に着任。「プログラミング演習」にてC言語の授業を行っている。

2001年より東京工業大学大学院情報理工学研究科数理・計算科学専攻 非常勤講師に着任。「計画数学第2」にて数理計画法とその応用の授業を行っている。

大学院担当講義

アルゴリズム

学協会活動

日本オペレーションズ・リサーチ学会

1998年～2001年、数理計画研究部会(RAMP シンポジウム)幹事

2001年～IAOR 委員

情報処理学会

2001年 アルゴリズム研究会連絡委員

2002年 アルゴリズム研究会幹事

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Hiroshi Iida, Takeaki Uno, A Short Note on the Reducibility of the Collapsing Knapsack Problem, Journal of Operations Research Society of Japan, Vol.45, 2002

Hiroshi KONNO, Jun-ya GOTO, Takeaki UNO, A Cutting Plane Algorithm for Semi-Definite Programming Problems with Applications to Failure Discrimination and Cancer Diagnosis, to appear in Journal of Computational and Applied Mathematics.

Sheung-Hung Poon, Chan-Su Shin, Tycho Strijk, Takeaki Uno, and Alexander Wolff, Labeling points with weights, to appear Algorithmica.

宇野毅明, 重み付き投票ゲームにおける投票力指数の計算の高速化, 情報処理学会アルゴリズム研究会, 広島大学, 2001年9月25日

宇野毅明, 極小集合被覆を列挙する実用的高速アルゴリズム, 情報処理学会アルゴリズム研究部会 83, 東京, pp. 9-16, 2002年3月15日

宇野毅明, 「列挙アルゴリズムの遅延時間減少法」, 東北大学大学院情報科学研究科 学術振興ワークショップ「離散システムとアルゴリズム」, 東北大学, 仙台, 2002年3月18日

中野眞一 (群馬大), 宇野 毅明, 平面三角分割グラフを列挙するアルゴリズムの改良, 電子通信情報学会コンピューテーション研究会, pp. 39-46, 群馬大学, 2002年6月24日

宇野毅明, An Algorithm for Enumerating All Maximal Matchings of a Graph, 情報処理学会アルゴリズム研究会 86, 福井大学, pp. 42-49, 2002年9月18日

宇野毅明, 大規模ネットワークに対する実用的クラスタ発見アルゴリズムの開発, 情報処理学会アルゴリズム研究会 88, 情報学研究所, pp. 1-8, 2003年1月20日

宇野毅明, 大規模2部グラフに対する極大クリーク列挙アルゴリズムの改良と実装, 情報処理学会アルゴリズム研究会 89, 富士通研究所, pp. 1-8, 2003年3月14日

宇野毅明, “一定間隔で出力を行う列挙アルゴリズムの構築,” 日本オペレーションズ・リサーチ学会 最適化とアルゴリズム研究会, 筑波大学, 2002年11月9日

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成13年度科学研究費補助金 若手研究(B) (平成13～平成14年度:170万円)「列挙アルゴリズムの高速化手法の一般化とその適用」(13780207):

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

平成14年(2002年)度 共同研究(アライドエンジニアリング株式会社):65万円

氏名 照井 一成 (てるい かずしげ)
博士号 2002年 哲学博士(慶應義塾大学)
所属・役職 情報学基礎研究系アルゴリズム基礎研究部門 助手
電話番号 03-4212-2590
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 論理学、理論計算機科学

研究概要

線形論理、証明論、計算量理論およびそれらのプログラミング言語への応用。特に現在取り組んでいるのは、(i)構成的論理における正規化手続き(プログラム実行)の複雑さの研究、および(ii)実際のプログラミング(多項式時間で実行可能なプログラム作成)のための論理的・型理論的基盤作りである。

学歴

1995年 慶應義塾大学文学部卒業
1997年 慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了
2002年 慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了

主要経歴

1998年～2001年 日本学術振興会特別研究員
2001年～2002年 リュミニ数学研究所(フランス)ポストドクトラルフェロー
2002年～ 国立情報学研究所助手

受賞等

クリーネ賞(最優秀学生論文賞)、the 16th Annual IEEE Conference on Logic in Computer Science(2001年)にて

教育活動歴

1999年～ 慶應義塾大学文学部非常勤講師

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

K. Terui. Light affine lambda calculus and polytime strong normalization, Proceedings of the 16th Annual IEEE Conference on Logic in Computer Science, pp.209-220, 2001.
照井一成:Light logic and polynomial time computation, 博士論文, 慶應義塾大学, 2002
K. Terui. Light Affine Set Theory: A Naive Set Theory of Polynomial Time, Studia Logica, to appear.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

K. Terui. On the expressivity of naive set theory based on substructural logics, Proceedings of the 36th MLG meeting, pp. 31-32, December 2002.

講演・口頭発表等

K. Terui. Light Affine Lambda Calculus and Polytime Strong Normalization, 16th Annual IEEE Symposium on Logic in Computer Science, Boston University, June 2001.
K. Terui. Light linear logic, polytime strong normalization and polyspace, Logic & Interaction Weeks, CIRM Marseille, March 2002.
Invited Talk:K. Terui. On the complexity of cut-elimination in linear logic, Linear Logic 2002 (LICS2002 affiliated workshop), Copenhagen, July 2002.
提題:照井一成, 軽論理に基づく素朴集合論と計算の複雑さ, ワークショップ『ラッセルのパラドクス100年(2) - circularity の論理の現在』, 日本科学哲学会第35回大会, 新潟大学, 2002年11月.

◆情報数理研究部門

氏名 速水 謙 (はやみ けん)
博士号 1991年 Ph.D. (Wessex Institute of Technology, CNAA, U.K.)

1993年 博士(工学)(東京大学)

所属・役職 情報学基礎研究系 情報数理研究部門・教授

電話番号 03-4212-2000

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 数値解析、数理工学

研究概要

数値解析アルゴリズムの設計と解析。特に、数値線形代数(連立一次方程式のクリロフ部分空間反復解法の特異な系に対する振る舞いの理論解析、GMRES(k)法の最小二乗問題への適用、固有値問題の反復解法(Jacobi-Davidson法))、逆問題解法など。

学歴

1979 東京大学 工学部 計数工学科 卒業

1981 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専門課程(修士) 修了

1991 Ph.D., Wessex Institute of Technology, Council for National Academic Awards, U.K.

主要経歴

1981~1993 日本電気株式会社 研究所

1986~1988 英国 Wessex Institute of Technology 客員研究員

1991~1993 日本電気株式会社 C&C 情報研究所 研究課長

1993~2000 東京大学 工学部 計数工学科 助教授

1995~2000 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専攻 助教授

1997~1998 ドイツ キール大学数学科 客員助教授(文部省 在外研究員)

2001~ 国立情報学研究所 情報学基礎研究系 教授

2002~ 総合研究大学院大学 数物科学研究科 情報学専攻 教授(併任)

教育活動歴

2001~2002 東京大学 工学部 計数工学科 非常勤講師

2001~2002 東京大学 大学院工学系研究科 計数工学専攻:非常勤講師、研究指導受託

2001~ 東京大学 大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻:非常勤講師、研究指導受託

2002~ 総合研究大学院大学 数物科学研究科 情報学専攻 教授(併任)

大学院担当講義

数理情報学(総合研究大学院大学、冬学期)

情報基盤科学概論(総合研究大学院大学、夏学期)

学協会活動

情報処理学会会員(1985~)、日本シミュレーション学会会員(1986~)、日本計算数理工学会会員(1988~)、SIAM(Society for Industrial and Applied Mathematics)会員(1989~)、日本応用数理学会会員(1990~)、日本計算工学会会員(1995~)、COMPUMAG1989(Local Organization Committee)、日本計算数理工学会運営委員(1993~)、応用数理国際評議会(International Council for Industrial and Applied Mathematics: ICIAM)委員(1995~2003)、International Conference on Boundary Elements & BETECH(International Scientific Advisory Committee: 1997~2003)、International Symposium on Inverse Problems in Engineering Mechanics (ISIP, Local Organizing Committee 1998, 2000, 2001, 2003)、日本応用数理学会論文誌編集委員(1998~2003)、日本応用数理学会論文誌編集委員会幹事(1999~2001)、日本応用数理学会監事(2000~2002)、日本応用数理学会理事(2002~)

社会貢献活動

共立出版 工系数学講座 編集委員(1995~)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

濱野健二, 村重 淳, 速水 謙, 大振幅定在波の境界要素法による直接シミュレーション, 京都大学数理解析研究所講究録 1209, 非線形波動現象のメカニズムと数理, 2001年5月, pp.105-114, 2001.

速水 謙, 特異な系に対する GCR(k)法の収束性について(招待講演), 京都大学数理解析研究

所講究録 1265, 微分方程式の離散化手法と数値計算アルゴリズム, 京都大学数理解析研究, 2002年5月, pp.129-139.

Hayami, K., On the behaviour of the conjugate residual method for singular systems, (Invited talk), Proceedings of Fifth China-Japan Seminar on Numerical Mathematics, Shanghai, 2000, Science Press, Beijing/New York, pp. 117-126, 2002.

速水 謙, 反復法の数理, 数理科学, 特集/数理工学の地平, 2002年12月号, pp. 36-42.

特異な系に対する共役残差法の収束性について, 日本応用数学会論文誌, Vol. 13, No. 1, pp. 1-33, 2003.

Hayami, K., On the behaviour of the conjugate residual method for singular systems, NII Technical Reports, National Institute of Informatics, Tokyo, NII-2001-002E, pp. 1-14, July, 2001.

速水 謙, 特異な系に対する共役残差法の収束性について (On the convergence of the conjugate residual method for singular systems), NII Technical Reports, National Institute of Informatics, Tokyo, NII-2001-003J, pp. 1-33, August, 2001 (in Japanese).

Hamano, K., Murashige, S. and Hayami, K., Boundary element simulation of large amplitude standing waves in vessels, NII Technical Reports, National Institute of Informatics, Tokyo, NII-2002-004E, pp. 1-21, September, 2002. (<http://research.nii.ac.jp/TechReports/index-j.html>)

速水 謙, 書評: 波動解析と境界要素法, 応用数理, Vol. 12, No.3, September, 2002, p. 105.

速水謙, 特異な系に対するクリロフ部分空間法の収束性について, 日本応用数学会 2002年度年会講演予稿集, <http://pjsiam.jstage.jst.go.jp/jp>, 2002.

伊藤徳史, 速水 謙, GMRES(k)法の線形最小二乗問題への適用, 日本応用数学会 2002年度年会講演予稿集, <http://pjsiam.jstage.jst.go.jp/jp>, 2002.

伊藤徳史, 速水 謙, 不完全 QR-GMRES(k)法による線形最小二乗問題の解法, 情報処理学会第65回全国大会講演論文集, pp. (1-117)-(1-118), 2003.

速水謙, 特異な系に対する共役残差法の収束性について, ワークショップ「特異線形系の反復解法」, 2000年11月, 電気通信大学, 講演資料集, pp. 43-44, 2001.

Hayami, K., On the convergence of conjugate residual and related methods for singular systems, Abstracts of Talks, ICRACM2001, International Conference on Recent Advances in Computational Mathematics, October, 2001, Matsuyama, pp. 24-25, 2001.

Hayami, K., On the convergence of the GCR(k) method for singular systems (特異な系に対するGCR(k)法の収束性について), (招待講演), 微分方程式の離散化手法と数値計算アルゴリズム研究集会, 2001年11月, 京都大学数理解析研究所, pp. 31-33.

講演・口頭発表等

速水 謙, 特異な系に対するクリロフ部分空間法の収束性について, ワークショップ「特異線形系の反復解法, その2」, 2001年12月, 電気通信大学.

Hayami, K., On the convergence of the GCR(k) method for singular systems, Latsis Symposium 2002: Iterative Solvers for Large Linear Systems(celebrating 50 years of the conjugate gradient method), February, 2002, ETH Zuerich, Abstracts, pp. 22-23.

Hayami, K., On the convergence of Krylov subspace methods for singular systems, MYLOVY 2002, Computational Linear Algebra with Applications August, 2002, Milovy, Czech Republic, Book of Abstracts, pp. 36-37.

伊藤徳史, 速水 謙, GMRES 法による線形最小二乗問題の解法, LA 研究会 第26回研究会, 2003年3月, <http://phase.hpcc.jp/la/SLIDES/0303-ito/index.htm>

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成12年度 科学研究費補助金(基盤研究(C)(2)): 「境界要素法の高速度化と逆問題への応用」(12650060)(平成12~14年度)

氏名 新井 紀子 (あらい のりこ)
博士号 博士(理学)
所属・役職 情報学基礎研究系 助教授
専門分野 数理論理学、遠隔教育(システム開発、教育)

研究概要

証明および計算の複雑性の研究(特に命題論理の証明の複雑さによる階層の研究)
定理の自動証明の理論およびその実装に関する研究
遠隔教育システム、および大学等高等教育機関で用いるポータルアプリケーションの開発
Webを用いたコミュニティ形成型遠隔教育の実践および方法論の研究

学歴

イリノイ大学数学科博士課程修了
一橋大学法学部卒業
東京工業大学より博士(理学)取得

主要経歴

広島市立大学情報科学部助手
フィールズ研究所客員研究員
トロント大学情報科学部客員研究員

受賞等

MAGNA CUM LAUDE 賞 (イリノイ大学)

教育活動歴

総合研究大学院大学数物科学研究科 情報学専攻 (2002～)
東京工業大学大学院数理科学研究科 (2002) 非常勤講師

大学院担当講義

数理論理学 (情報基盤科学)

学協会活動

TABLEAUX'2000, Program Committee
科学技術学習支援事業推進委員会普及促進分科会委員、2003～
日本数学会 教育委員 2003～
日本数学協会 理事および編集委員 2003～

社会貢献活動

コミュニティ形成型遠隔教育「e-教室」主宰 <http://www.e-kyoshitsu.org/>
「NetCommons100 本プロジェクト」プロジェクトリーダー <http://www.net-commons.org/>

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

経験知と学問知の統合を目的とする学習コミュニティの構築、日本科学教育学会第 26 回年会論文集、2002.9. p.73-74
電子討論を中心とする問題解決型学習コミュニティのためのシステム開発;日本教育工学会第 18 回大会講演論文集、2002.11
E-Classroom Project; How can we effectively use digital contents in a distance education system?; LoRwi2003
コミュニティ形成型遠隔教育用ポータルアプリケーションソフトウェア「e-教室」ver.1(株)NTT データポケットと共同開発
新井紀子著「数学にときめく」(2002)講談社ブルーバックス

講演・口頭発表等

Logic and Real World Interaction, invited talk 2003

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費
平成 13 年度～ 科学研究費補助金 基盤研究(C) (2)「命題論理の証明の複雑さに関する研究」
(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

平成 13 年度 COE プロジェクト経費 「コミュニティ形成型遠隔教育システムの構築」

氏名 奈良 高明 (なら たかあき)
博士号 2000 年 東京大学(博士(工学))
所属・役職 情報学基礎研究系 情報数理研究部門・助手
電話番号 03-4212-2593
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 数理工学、システム情報学

研究概要

システム情報学において広汎に現れる逆問題の数理工学的研究を行っている。脳波・脳時図逆問題に 응용されるポテンシャル逆問題において、電流双極子の 3 次元位置、モーメント、個数を境界データにより陽に表現する再構成公式を導出することにより、高精度で高速なソース推定逆問題解法を構築している。また本手法に適した、局所的感度をもつ磁気センサの開発を行っている。

学歴

1995. 3 東京大学工学部計数工学科卒業
1997. 3 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了
2000. 3 博士(工学)、東京大学

主要経歴

2000. 4 日本学術振興会特別研究員
2002. 4 国立情報学研究所情報数理研究部門助手

受賞等

2001 日本計測自動制御学会学術奨励賞
2001 IEEE Virtual Reality Best Paper Award
2002 The Society of Instrument and Control Engineers Annual Conference Award

学協会活動

計算数理工学会、委員(2002～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

奈良 高明, 安藤 繁: ローラン係数を介した 2 次元ポアソン方程式ソース項同定逆問題の解法, 日本応用数学会論文集, Vol.12, No.2, pp.79-102(2002)
奈良 高明, 安藤 繁: 多重極展開に基づく 3 次元ポアソン方程式ソース推定逆問題の代数解法”, 日本機械学会論文集(A 編), Vol.68, No.667, pp. 407-414(2002)
T. Nara, S. Ando: Projection Method for an Inverse Source Problem of the Poisson Equation, Proceedings of the society for instrument and control engineers annual conference, SICE2002, pp. 1590-1597, (Osaka, 2002).
奈良 高明, 安藤 繁: リーマン球面への射影によるポアソン方程式のソース項同定, 数理解析研究所講究録 1320(微分方程式の数値解法と線形計算), pp. 101-111, (京都, 2002)

講演・口頭発表等

奈良 高明, 安藤 繁: リーマン球面への射影によるポアソン方程式のソース項同定, 日本応用数学会 2002 年度年会, (2002).
奈良 高明, 安藤 繁: 局所的計測によるソース項推定逆問題の代数解法, 第 19 回センシングフォーラム予稿集, pp.341-336 (2002)
奈良 高明, 安藤 繁: ポアソン方程式ソース項同定逆問題の射影解法, 計算数理工学会論文集, Vol.2, pp.21-26 (2002)

競争的研究資金獲得状況

2002 年度 大川情報通信基金研究助成金(2002 年 9 月～2003 年 8 月: 100 万円)「逆問題の情報数理学に関する研究」(2002～03)

◆記号科学研究部門

氏名 佐藤 健 (さとう けん)
博士号 博士(理学)東京大学
所属・役職 情報学基礎研究系 記号科学研究部門・教授
電話番号 03-4212-2000
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 人工知能基礎

研究概要

研究としては、一貫して人工知能に関する理論的な基礎を与え、それに基づいた実装や応用の研究を行ってきた。特に人間の推論の機械化について興味があり、非単調推論、仮説推論や機械学習に関する理論的基礎、応用、ならびに実装について研究している。

非単調推論においては、とくに論理的解釈間の順序付けに基づいた推論の性質の検証、実装、応用についての研究を行っている。性質の検証においては、確率推論や信念翻意との関係を明らかにし、さまざまな推論がこの枠組みで表現されることを明らかにした。実装においては、階層制約論理型言語を用いた極小モデルの計算、論理式の拡張論理プログラムへの変換による極小限定定理の導出、整数計画法を用いた極小モデルの計算などの手法を提案している。応用においては、柔軟な制約の定式化や自然言語におけるあいまい性の処理に上記枠組みを用いることを明らかにしている。

仮説推論においては、仮説論理プログラミングに対する証明系の提案および仮説を用いたマルチエージェントシステムにおける投機的計算の理論および実装、仮説論理プログラミングによるソフトウェア発展の研究を行ってきた。

学習においては、事例ベース推論による概念学習および相関ルールで用いる極大頻出集合の列挙の研究を行っている。事例ベース推論による概念学習では、集合差をベースにした類似度関数を用いたときに命題論理の論理関数を表現するための極小な事例の集合のサイズの理論的な上限およびそのような極小事例集合を近似するアルゴリズムの開発を行った。極大頻出集合の列挙では、冗長性のない極小非頻出集合の列挙を用いることで、既存のアルゴリズムの質問複雑度の大幅な改善を行った。

学歴

1981年3月 東京大学理学部情報科学科卒業

主要経歴

1981年4月 富士通研究所入社
1987年6月 新世代コンピュータ技術開発機構出向
1992年6月 富士通研究所帰社
1995年7月 北海道大学工学部助教授
2001年4月 国立情報学研究所情報学基礎研究系教授(現在に至る)

教育活動歴

1995年～2000年度 電気回路(北海道大学工学部情報エレクトロニクス系2年生対象)
1995年～2000年度 知能ソフトウェア工学(北海道大学工学部電子工学科3年生対象)
1995年～2000年度 計算機アーキテクチャ工学特論(北海道大学大学院工学研究科博士前期課程)
1995年～2000年度 計算機情報通信工学特別演習(北海道大学大学院工学研究科博士前期課程)
1995年～2000年度 計算機情報通信工学特別研究第一(北海道大学大学院工学研究科博士後期課程)
1995年～2000年度 計算機情報通信工学特別研究第二(北海道大学大学院工学研究科博士後期課程)
1998年～2002年度 情報科学特別講義 3(東京大学理学部情報科学科)

大学院担当講義

知能システム科学概論(総合研究大学院大学博士課程)

推論科学(総合研究大学院大学博士課程)

学協会活動

情報処理学会会員(1982～)

人工知能学会会員(1993～)

ソフトウェア科学会会員(1998～)

2002年 Annals of Mathematics and AI マルチエージェントシステム特集号共同ゲストエディタ

2002年 ICML2002(機械学習国際会議 2002)プログラム委員

2002年 DS2002(発見科学国際会議 2002)共同プログラム委員長

2002年 IEEE ICDM2002(IEEE データマイニング国際会議)プログラム副委員長

2002年～2003年 IJCAI'02(人工知能合同国際会議'02)プログラム委員

2002年～2003年 AAMAS'03(マルチエージェント合同国際会議'03) シニアプログラム委員

2003年 DS2003(発見科学国際会議 2003)プログラム委員

2000年～ 人工知能学会誌編集委員

2001年～ 人工知能学会評議員

2002年～ ソフトウェア科学会理事

2002年～ ソフトウェア科学会誌編集委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Satoh, K., "Speculative Computation and Abduction for an Autonomous Agent", Proceedings of the Ninth International Workshop on Non-Monotonic Reasoning, pp. 191 - 199, Toulouse, France (2002).

Satoh, K., Yamamoto, K., "Speculative Computation with Multi-Agent Belief Revision", Proceedings of the First International Conference on Autonomous Agents and Multi-Agent Systems, pp. 897 - 904, Bologna, Italy (2002).

Satoh, K., "Constructing a Critical Casebase to Represent a Lattice-Based Relation", Setsuo Arikawa, Ayumi Shinohara (Eds.), Progress in Discovery Science 2002, LNCS 2281 pp. 214 - 223 (2002).

Satoh, K., "Nonmonotonic Reasoning and Consistency Management in Software Engineering", Shi-Kuo Chang (ed.), Handbook of Software Engineering and Knowledge Engineering, Vol. 2, World Scientific, pp. 629 - 644 (2002).

佐藤 健, 認知科学辞典(共同執筆), 日本認知科学会編, p.208, p.400, p.428, p.590, p.641, p.691, p.739, p.756, p.809, p.864(2002).

佐藤 健, 極小性チェックを必要としない極小変更ソフトウェア仕様の導出, Proc. of FOSE02, pp. 143 - 150 (2002).

佐藤 健, 井上 克己, 岩沼 宏治, 坂間 千秋, エージェント間通信におけるアブダクションによる投機的計算, コンピュータソフトウェア, Vol. 20 No.1, pp. 27 - 35 (2003).

Satoh, K., Formalizing Retrieval Goal Change by Prioritized Circumscription - Preliminary Report - Cooperative Information Agents VII, LNAI 2872, pp. 324 - 335 (2003).

Satoh, K., Computing Minimal Revised Specifications by Default Logic Proc. of Workshop on Intelligent Technologies in Software Engineering (WITSE2003) pp. 7 - 12 (2003).

Satoh, K., Uno, T., Enumerating Maximal Frequent Sets using Irredundant Dualization, Proc. of 6th International Conference on Discovery Science (DS2003), LNAI 2843, to appear (2003)

Satoh, K., Codognet, P., Hosobe, H., Speculative Constraint Processing in Multi-agent Systems, Proc. of Sixth Pacific Rim International Workshop on Multi-Agents (PRIMA2003), LNAI, to appear (2003)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

兼岩 憲, 佐藤 健, DL: Description Logics 人工知能学会誌 Vol 18 No 1 pp. 73 - 82 (2003)

佐藤 健, 記号処理の現在-論理による知識表現と推論-計測と制御 Vol 42 No 6 pp 463 - 467 (2003).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13 年度科学研究費補助金基盤研究A(1)(平成 15 年度まで, 3536 万円)「先行投機的処理機能を持つマルチエージェントシステムの構築」(13358004)

平成 13 年度科学研究費補助金特定領域研究C「IT の深化の基盤を拓く情報学研究」公募研究(500 万円)「宣言的プログラミングにおけるソフトウェア発展の研究」(13224088)

平成 14 年度科学研究費補助金特定領域研究「IT の深化の基盤を拓く情報学研究」公募研究(540 万円)「宣言的プログラミングにおけるソフトウェア発展の研究」(14019084)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

平成 14 年度 日本学術振興会日豪科学協力事業・共同研究(平成 15 年度まで, 490 万円)

(3) その他の研究費

平成 10~14 年度 民間との共同研究/委託研究: 総額 450 万円

氏名 Collier, Nigel (こりあー ないじえる)

博士号 1996 年、Ph.D. (UMIST 英国)

所属・役職 情報学基礎研究系・記号科学研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2536

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 自然言語処理、機械学習、情報抽出

研究概要

主要テーマは自然言語処理の為の機械学習、コンピュータによる高度な言語理解である。PIA プロジェクトは、情報抽出技術を用いて掌握可能なレベルの意味表示を、オントロジーの形態をとる、より深いレベルでの意味表示と結合させることを目指す。

学歴

1992 年 7 月 英国 Leeds 大学コンピュータ科学学士課程卒業

1994 年 11 月 英国 UMIST 大学言語工学専攻修士課程修了

1996 年 11 月 英国 UMIST 大学言語工学専攻博士課程修了

主要経歴

1996 年 11 月 株式会社東芝 研究開発センター 東芝フェロー

1998 年 11 月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻 日本学術振興会研究員

2000 年 11 月 国立情報学研究所 基礎研究系 助教授(現在に至る)

教育活動歴

総合研究大学院大学教官 (2002~現在)

大学院担当講義

自然言語処理(総合研究大学院)、2003

学協会活動

ACM 正会員

IEEE Computer Society 正会員

ACL (Association for Computational Linguistics)正会員

情報処理学会正会員

ヨーロッパ人工知能学会(ECAI), Semantic Authoring, Annotation and Knowledge Markup Workshop(SAAKM)組織委員(2002 年)

社会貢献活動

2001 年 EU Workshop on Mobility of Researchers 委員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

Takeuchi, K. and Collier, N. (2002), "Use of Support Vector Machines in Extended Named Entity

Recognition”, in proceedings of the Sixth Conference on Natural Language Learning (CoNLL-2002), Taipei, Taiwan, August.

Kawtrakul, A., Collier, N., Takeuchi, K., Ono, K., Suktarachan, M., Chanlekha, H. and Waiyamai, K. (2001), Collaboration on Named Entity Discovery in Thai Agricultural Texts, in proceedings of the 8th International Workshop on Academic Information Networks and Systems (WAINS-8), National Institute of Informatics, Karuizawa, 10-12th October, pp. 77-82.

講演・口頭発表等

“PIA Project Overview” given at the National Institute of Informatics on the occasion of Professor Shapiro’s visit, 10th October, 2001.

“Information Extraction from Molecular Biology Journal Articles” given at the National Institute of Genetics, 8th November, 2001.

“A Portable Information Extraction System for the Semantic Web” given at the National Institute of Informatics, 19th December 2001.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 14 年度科学研究費補助金若手研究(A)(平成 14~15 年度)「Semantic Web におけるすべての人の為の高度な内容タグ付け」(14701020)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

平成 13 年度日本学術振興会外国人特別研究員(Kitsana Waiyamai, タイ・カセサート大学)

平成 13 年度日本学術振興会外国人特別研究員(Gareth Jones, 英国エクセター大学)

(3) その他の研究費

平成 13 年度電気・電子情報学術振興財団国際研究集会(外国)出席旅費助成

平成 13 年度電気通信普及財団海外渡航旅費援助

平成 14 年度吉田科学技術財団国際研究集会派遣研究者

氏名 兼岩 憲 (かねいわ けん)

博士号 2001 年 3 月博士(情報科学)(北陸先端科学技術大学院大学)

所属・役職 情報学基礎研究系 記号科学研究部門・助手

電話番号 03-4212-2591

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 順序ソート論理、型付き論理プログラミング、知識表現、記述論理

研究概要

研究テーマ「記述論理と論理プログラミングの融合に関する研究」

知識表現と推論の研究では、記述論理を使うと、例えば法的推論で扱われる概念「殺人者」を「人であり、人を殺害した個体」として定義することができる。一方、論理プログラミング言語は、「A が B にある行為を行い B が死に到ったならば、A は B を殺害した」というような一般的なルールを記述できる。本研究では、これらの記述論理と論理プログラミングを融合した推論体系を構築する。

学歴

1998 年 3 月 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了

2001 年 3 月 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了

主要経歴

1993 年 4 月～1996 年 3 月 富士通株式会社

2001 年 4 月～ 国立情報学研究所 情報学基礎研究系 助手

2002 年 4 月～ 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助手(併任)

教育活動歴

2002 年 4 月～ 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助手(併任)

学協会活動

The Association for Logic Programming(ALP)、ソフトウェア科学会、電子情報通信学会、情報処

理学会、人工知能学会、Association for Symbolic Logic(ASL) 各会員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

兼岩 憲, 東条 敏, 「否定的意味が内在するソートを含んだソート階層の論理」, 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.5, pp.1505-1517, 2002.

兼岩 憲, 「ソート述語を導入した論理プログラミングの完全性」, 電子情報通信学会論文誌 Vol.J85-D-I, No.7, pp.662-671, 2002.

K. Kaneiwa, A Logic with Multi-purpose Labels for Hierarchical Representation, Proceedings of the Fifth International Workshop on Computational Semantics (IWCS-03), 461 - 463, 2003.

兼岩 憲, 佐藤 健, レクチャーシリーズ「哲学と AI における対象世界モデリング」[第 6 回]DL: Description Logics, 人工知能学会誌, Vol. 18, No.1, pp. 73 - 82, 2003.

兼岩 憲, 「節集合を導入した Description Logic の知識ベース推論」, 日本ソフトウェア科学会第 19 回大会論文集, 2002.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 14 年度科学研究費補助金若手研究(B) (平成 16 年度まで)「オントロジー指向による論理体系の研究」

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

栢森情報科学振興財団助成金(平成 14 年 1 月～平成 15 年 11 月末)「情報の意味を記述するために構造表現を導入した論理言語の研究」

◆認知科学研究部門

氏 名 村田 剛志 (むらた つよし)

博士号 博士(工学)(東京工業大学)

所属・役職 情報学基礎研究系・助教授

電話番号 03-4212-2555

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 人工知能、認知科学

研究概要

人間の知的活動のプロセスを解明し、それをコンピュータ上で実現することを目標に、人工知能および認知科学の研究を行なっている。具体的な研究テーマとしては、Web マイニング、平面幾何定理の発見システム、図による推論などであり、最近数年間はハイパーリンクのグラフ構造に注目した Web 構造マイニングの研究を中心に取り組んでいる。

学 歴

1990 年 3 月 東京大学理学部情報科学科 卒業

1992 年 3 月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻 修士課程修了

1997 年 2 月 博士(工学)取得 (東京工業大学)

主要経歴

1992 年 4 月 東京工業大学工学部情報工学科 助手

1998 年 11 月 群馬大学工学部情報工学科 助手

2000 年 4 月 群馬大学工学部情報工学科 講師

2001 年 1 月 国立情報学研究所情報学基礎研究系認知科学研究部門 助教授

2001 年 11 月 科学技術振興事業団さきがけ研究 21 研究員 (兼任)

現在に至る

受賞等

2001 年 5 月 2000 年度人工知能学会研究奨励賞

2001 年 5 月 2000 年度人工知能学会全国大会優秀論文賞

2002年5月 2001年度人工知能学会全国大会優秀論文賞

大学院担当講義

総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻「機械学習」

学協会活動

人工知能学会 (1990～)

情報処理学会 (1990～)

電子情報通信学会 (1998～)

日本ソフトウェア科学会 (1990～)

人工知能学会全国大会プログラム委員 (2001～2003)

情報処理学会会誌編集委員(2002～)

Program Committee Member of IEEE International Conference on Data Mining (2002～2003)

Program Committee Member of IEEE International Workshop on Active Mining (2002)

第5回情報論的学習理論ワークショップ(IBIS2002)オーガナイズドセッション企画委員 (2002)

ベイジアンネットセミナーBN2002 実行委員 (2002)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

村田 剛志:参照の共起性に基づく Web コミュニティの発見, 人工知能学会誌, Vol.16, No.3, pp.316-323 (2001)

山田 誠二, 村田 剛志, 北村 泰彦:知的 Web 情報システム, 人工知能学会誌, Vol.16, No.4, pp.495-502 (2001)

T. Murata: A Method for Discovering Purified Web Communities, Proceedings of the Fourth International Conference on Discovery Science (DS2001), Lecture Notes in Artificial Intelligence 2226, pp.282-289, Springer (2001)

村田 剛志:ハイパーリンクのグラフ構造に基づく Web コミュニティの洗練, 人工知能学会誌, Vol.17, No.3, pp.322-329 (2002)

T. Murata, H. Kato, M. Shimura, M. Numao: DIPS: Diagrammatic Arithmetic Problem Solver, Systems and Computers in Japan, Vol.33, No.6, pp.112-120 (2002)

T. Murata: Toward the Discovery of Web Communities from Input Keywords to a Search Engine, in H. Motoda eds., Active Mining, pp.95-101, IOS Press (2002)

T. Murata: Finding Related Web Pages Based on Connectivity Information from a Search Engine, Poster Proceedings of the Tenth International World Wide Web Conference (WWW10), pp.18-19 (2001)

村田 剛志: Web コミュニティにおける構造モデル, 情報処理学会研究報告, 2001-ICS-124, pp.41-45 (2001)

武田英明, 市瀬龍太郎, 村田剛志, 本位田真一:知識共生プロジェクト -ネットワーク情報の自律的生態系を目指して-, 情報処理学会研究報告, 2001-ICS-124, pp.25-32 (2001)

村田 剛志:Web コミュニティにおけるコアメンバーの発見, 人工知能学会全国大会(第15回)論文集 CD-ROM (2001)

村田 剛志:Cocitation Algorithm に基づく Web コミュニティ発見, 人工知能学会研究会資料, SIG-KBS-A102, pp.25-29 (2001)

村田 剛志:サーチエンジンの入力キーワードからの Web コミュニティの発見, 人工知能学会研究会資料, SIG-FAI/KBS-J, pp.141-145 (2001)

村田 剛志:サーチエンジンを利用した知識発見のための視覚化, 人工知能学会研究会資料, SIG-KBS-A201, pp.117-122 (2002)

武田英明, 市瀬龍太郎, 村田剛志, 本位田真一:知識共生 -新しい知識流通の基盤を目指して-, 人工知能学会全国大会(第16回)論文集 CD-ROM (2002)

村田 剛志:ハイパーリンクの結合関係に基づく Web コミュニティの構造分析, 人工知能学会全国大会(第16回)論文集 CD-ROM (2002)

村田剛志:用語解説「PageRank」, 日本ファジィ学会誌, Vol.14, No.2, p.38 (2002)

村田剛志: Web 視聴率データからの Web ユーザコミュニティ発見に向けて, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.102, No.710, pp.1-4 (2003)

講演・口頭発表等

村田剛志: Web におけるコミュニティの発見, 日本ファジィ学会セミナー「データの発見と活用のための技術」講演 (2002)

村田剛志: Web におけるコミュニティの発見, 第 5 回情報論的学習理論ワークショップ(IBIS2002) 講演, pp.125-132, (2002)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

2001 年度 科研費特定領域(C)(2) (2001 年度:700 万円)「ハイパーリンクのグラフ構造に基づく Web コミュニティに関する研究」(13224091)

2002 年度 科研費特定領域(2)(2002 年度:660 万円)「ハイパーリンクのグラフ構造に基づく Web コミュニティに関する研究」(14019088)

2002 年度 科研費基盤研究(B)(2)(2002 年度~2003 年度:840 万円)「ネットワーク分散知識システムのための知識共生モデルの構築に関する研究」(13480100)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

2001 年 科学技術振興事業団さきがけ研究 21 研究助成(2001 年~2003 年:3350 万円)

氏名 古山 宣洋 (ふるやま のぶひろ)
博士号 2001 年、Ph.D.(心理学) (シカゴ大学)
所属・役職 情報学基礎研究系・認知科学研究部門・助教授
電話番号 03-4212-2545
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 心理言語学・認知心理学・生態心理学

研究概要

人は発話する際にしばしば肢体や頭部を動かして身振りをするが、このような身振りは、それが荷う意味という点でも、生起するタイミングという点でも、共起する発話と無関係に産出されているわけではない。このような身振りを共起する発話とともに分析することによって、発話を産出する際の思考過程とともに談話がどのように構造化されるかに関してよりよく理解できるのではないかと考えられ、現在心理言語学、ダイナミカル・システムズ・アプローチ等の観点から発話と身振りの協調に関して研究している。

学歴

早稲田大学人間科学部人間基礎科学科卒業 (1991)
早稲田大学人間科学研究科健康科学専攻修士課程修了(1993)
早稲田大学人間科学研究科健康科学専攻博士課程中途退学(1994)
シカゴ大学社会科学部心理学科認知・コミュニケーション専攻博士課程修了(2001)

主要経歴

国立情報学研究所情報学基礎研究系認知科学研究部門助教授 (2001~至現在)
総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻助教授(併任)(2002~至現在)

受賞等

ウィリアム・レイニー・ハーパー博士論文フェローシップ(2000~2001)

教育活動歴

総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻「心理言語学」担当 (2002~至現在)
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院言語聴覚学科非常勤講師(「心理学概論」担当)
(2002~至現在)
お茶ノ水女子大学大学院人間文化研究科・人文学専攻・非常勤講師(「表現行動科学特論」担当)
(2003~至現在)
心理言語学

学協会活動

- 日本認知科学会会員 (2000～至現在)
- 日本生態心理学会会員 (2000～至現在)
- 日本生態心理学会理事 (2002～至現在)
- 日本心理学会会員 (2001～至現在)
- 日本発達心理学会特別企画委員(2003～至現在)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- 古山宣洋:発話と身振りの記号論:個人内及び個人間での発話と身振りの協調による談話の構造化, 齊藤洋典・喜多壮太郎(編), ジェスチャー・行為・意味, 55-79 頁, 共立出版, 2002.
- 古山宣洋:発話と身振りの協調に観るコミュニケーション行動の発達, 稲垣佳世子・岩田純一・近藤邦夫・高橋恵子・内田伸子・湯川隆子(編), 児童心理学の進歩 2002 年度版, 金子書房, pp.51-77, 2002
- N. Furuyama: Prolegomena of a theory of between-person coordination of speech and gesture, to appear in International Journal of Human-Computer Studies, 57/4 pp. 345-372, 2002.
- N. Furuyama: A review of theories of speech-gesture coordination, NII Journal No. 5, pp.49-63, 2003.
- 古山宣洋「言語コミュニケーションの十全たる記述と理論化へ向けて」文化人類学研究, 第 3 巻, pp.44-75, 2002.
- N. Furuyama and H. Takase: A Study on Coordination of Speech, Gesture and Breathing Movements. A paper presented at First Congress of the International Society for Gesture Studies, held at University of Texas at Austin, June 5-8, 2002
- 高瀬弘樹・古山宣洋・三嶋博之・春木豊:二者間の体肢運動と呼吸の協調, 日本心理学会第 66 回大会大会論文集, 於:広島大学教育学部, 2002 年 9 月 25~27 日.
- 古山宣洋・高瀬弘樹:発話・身振り・呼吸の協調」日本心理学会第 66 回大会大会論文集, 於:広島大学教育学部, 2002 年 9 月 25~27 日.
- N. Furuyama, H. Takase and K. Hayashi: An ecological approach to intra- and inter-personal coordination of speech, gesture and breathing movements. Proceedings of the First International Workshop on Man-Machine Symbiotic Systems, pp.169-199, November 25-26, 2002.
- 菅原和孝・三嶋博之・古山宣洋・大村敬一:特集討論「二元論への挑戦:人類学と心理学の新しいアプローチ」文化人類学研究第 3 巻, pp. 101-119, 2002.

講演・口頭発表等

- 古山宣洋:協調システムとしての発話と身振り, 第3回早稲田大学文化人類学会総会シンポジウム「経験とは何か? -心身二元論への挑戦:人類学と心理学の新しいアプローチ-」於:早稲田大学大隈小講堂(招待講演)2002 年 1 月 12 日(土)
- N. Furuyama, D. McNeill and M. Park-Doob: Is speech-gesture production ballistic or interactive? A paper read at First Congress of the International Society for Gesture Studies, University of Texas at Austin, June 5 - 8, 2002.
- S. Maruyama and N. Furuyama: Functional variations and organization of gestures by a classical orchestral conductor. A paper read at First Congress of the International Society for Gesture Studies. University of Texas at Austin, June 5 - 8, 2002.
- 古山宣洋:心理学に於けるパース流記号論の可能性, 日本心理学会第 66 回大会小講演 於:広島大学教育学部 2002 年 9 月 25-27 日
- 古山宣洋:「発話と身振りの協調 -ダイナミカル・システムズ・アプローチの観点から-」(招待講演)於:富士温泉病院研究会;2002 年 11 月 17 日(日)
- 古山宣洋:「言語コミュニケーションの十全たる記述と理論化へ向けて-生態心理言語学への試み」『21 世紀 COE 『心の文化・生態学的基盤』一般公開ワークショップ『心の社会性の探求』』(招待講演)於:北海道大学ファカルティハウス・エンレイソウ第一会議室;2003 年 2 月 20 日(木)
- 古山宣洋:「言語の詩的機能:コミュニケーションにおける「不変項」を探る」『公開シンポジウム『ヒト

とロボット:共同性とその発達の起源を探る』(招待講演)於:国際電気通信基礎技術研究所(ATR);2003年3月15日(土)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

文部科学省科学研究費補助金特定領域(C)(平成13年度:570万円)研究領域「情報学・A03 人間情報処理の理解とその応用に関する研究」(課題番号13224095)

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究(2)(平成14年度:280万円)研究領域「情報学・A03 人間情報処理の理解とその応用に関する研究」(課題番号14019090)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

国立情報学研究所長リーダーシップ支援経費(平成14年度:400万円)

◆計算理論研究部門

氏名 日比野 靖 (ひびの やすし)
博士号 1995年10月、博士(工学)(東京工業大学)
所属・役職 情報学基礎研究系 計算理論研究部門・教授
電話番号 03-4212-2564
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 計算機アーキテクチャ、マルチメディア通信

研究概要

極限集積下のパイプラインアーキテクチャの研究

- 1)遅延モデルの精密化によるウェーブパイプライン設計法の確立を目的とし、より精密な回路モデル、配線モデルの導入により、遅延差最小の論理設計法の確立を目指す。
- 2)ウェーブパイプライン原理の低消費電力プロセッサへの適用を図る。
- 3)楕円暗号プロセッサの設計・実装による評価をする。パイプラインアーキテクチャの採用により数10Mバイト/秒のスループットの達成を目指す。

学 歴

昭和45年3月 東京工業大学工学部電子物理工学科卒業
昭和47年3月 東京工業大学大学院理工学研究科電子物理工学専攻修士課程修了
平成7年10月 工学博士(東京工業大学)

主要経歴

昭和47年4月 日本電信電話公社入社
昭和47年5月 同社 武蔵野電気通信研究所 基礎研究部第一研究室
昭和49年9月 同 上 基礎研究部第一研究室研究主任
昭和52年3月 同 上 池野特別研究室研究主任
昭和54年2月 同 上 基礎研究部第一研究室研究専門調査員
昭和56年2月 同 上 電子部電子装置研究室研究専門調査員
昭和58年2月 同 上 基礎研究部第二研究室研究専門調査役
昭和60年2月 同社 横須賀電気通信研究所 宅内部入力装置研究室研究専門調査役
昭和61年1月 日本電信電話株式会社 基礎研究所 情報通信基礎研究部第二研究室長
昭和62年7月 同社 ヒューマンインターフェース研究所 言語メディア研究部主幹研究員
(研究グループリーダー)
平成5年4月 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授
平成5年11月 同大 附属図書館長(平成9年10月まで)
平成14年4月 国立情報学研究所情報学基礎研究系教授(現在に至る)
平成14年4月 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科客員教授(併任)(現在に至る)

教育活動歴

平成 14 年 4 月 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授(併任)(現在に至る)
同大設立準備段階からカリキュラム編成等に参加
平成 5 年 4 月より情報科学研究科博士前期課程の指導に当たる。
平成 6 年 4 月より博士後期課程発足とともにその指導に当る。

大学院担当講義

計算機アーキテクチャ特論 H5～現在
集積回路特論 H6～8
高機能アーキテクチャ特論 H6～現在
デジタル論理と計算機構成 H6～現在
平成 9 年 10 月 金沢学院大学経営情報学部 非常勤講師(平成 15 年 3 月まで)
担当講義 オペレーティングシステム
総合研究大学院大学 数物理科学研究科(情報学専攻)
高機能アーキテクチャ

学協会活動

昭和 47 年 4 月 電子情報通信学会会員(現在に至る)
昭和 47 年 4 月 情報処理学会会員(現在に至る)
昭和 60 年 6 月 情報処理学会論文査読委員(現在に至る)
平成 10 年 10 月 IEEE Computer Society 会員(現在に至る)
平成 10 年 10 月 ACM 会員(現在に至る)
平成 10 年 10 月 電子情報通信学会北陸支部評議員(平成 14 年 5 月まで)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

清野 貴博, 緒方 和博, 二木 厚吉, 日比野 靖:実時間制約を考慮したマルチタスキングのモデル化。第 8 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ(FOSE 2001)論文集 日本ソフトウェア科学会ソフトウェアの基礎研究会, Vol.26, pp.143-146, (2001.11)
日比野 靖:特集 知られざる計算機 通研 ELIS, 情報処理学会誌 Vol.43, No.02 pp.118-120 (2002.3)

特許・公開ソフトウェア・作品等

パイプラインキャッシュの更新回路 特許第 3259728(特願 2000-00164, 公開 2001-195301)
平成 14 年 4 月(登録)

講演・口頭発表等

山野 智久, 日比野 靖:CATV 網における双方向サービスの研究, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-5) p.181 (2001.10.13)
大石亮介 松居昭宏 日比野靖:厳密な遅延評価による準同期パイプラインプロセッサの設計, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-6) p.182 (2001.10.13)
松居昭宏 大石亮介 日比野 靖:ウェーブ・パイプラインによる低消費電力プロセッサの設計と試作による性能実証, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-7) p.183 (2001.10.13)
芝山達哉 日比野 靖:パストランジスタ論理を用いたウェーブパイプラインプロセッサの低消費電力化, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-8) p.184 (2001.10.13)
岡部和幸 日比野 靖:QoS の動的変化に対応した時変仮想回線通信方式に関する研究, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-9) p.185 (2001.10.13)
渋谷暁信 日比野 靖:移動体通信基地局からの電波を用いた移動体の位置測位システムに関する研究, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-10) p.186 (2001.10.13)
井関亮介 日比野 靖:無線アドホックネットワークにおけるルーティング法とトラフィック特性の解析, 平成 13 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-11) p.187 (2001.10.13)
大石 亮介, 松居 昭宏, 日比野 靖:“厳密な遅延評価によるフィードバックを持つ準同期パイプラインプロセッサの設計” 情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会, 01-ARC-145-10 pp.63-66 (2001.11.28)

宮前 義範, 日比野 靖: ウェーブパイプライン設計のための論理回路レベルでの遅延均衡化手法, 平成 14 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (E-10) p.223 (2002.9.18)

白瀬 政明, 日比野 靖: 楕円曲線暗号のためのハードウェアの設計, 平成 14 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (E-9) p.222 (2002.9.18)

千本 和治, 日比野 靖: Pure P2P システムの高信頼ネットワークプロジ, 平成 14 年度電気関係学会北陸支部連合大会, (C-47) p.183 (2002.9.19)

氏名 鈴木 正人 (すずき まさと)

博士号 博士(工学) 東京工業大学 1992.

所属・役職 情報学基礎研究系 助教授

電話番号 03-4212-2625

ファクシミリ

専門分野 ソフトウェア工学(ソフトウェア設計方法論/環境)

研究概要

ソフトウェアの高信頼化の一環として従来からコンポーネントを利用したソフトウェアの構成方法の研究に従事している。現在はコンポーネント自体の高信頼化のための形式的仕様記述と、コンポーネント接続の際の高信頼化のための検査機構の論理的構成、および支援環境の構成が主なテーマである。具体的にはコンポーネントの接続情報(メタ情報)の XML による形式的仕様記述 CSD とドメインの半順序関係に注目した検証機構を設計、実装し、誤った接続を排除しアプリケーションの信頼性を向上させる機構を提唱した。

学歴

1982.3 静岡県立静岡高等学校卒業

1987.3 東京工業大学工学部情報工学科卒業 工学士

1989.3 同大学院理工学研究科情報工学専攻 修士課程修了 工学修士

1992.3 同大学院理工学研究科情報工学専攻 博士後期課程修了 博士(工学)

主要経歴

1992.4 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助手

1998.4 東京工業大学大学院情報理工学研究科 助教授

2002.3 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授

2002.4 国立情報学研究所情報学基礎研究系 助教授(現職)

2002.4 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授(併任)

2002.10 東京工業大学大学院情報理工学研究科 客員助教授(併任)

2002.10 総合研究大学院大学 助教授(併任)

教育活動歴

2000-2002 新潟大学工学部 非常勤講師

学協会活動

2002.4-2002.12 電子情報通信学会/IEEE共催 アジア太平洋耐故障計算国際シンポジウム (PRDC2002) プログラム委員

社会貢献活動

2001. 財団法人ソフトウェア工学研究会 「ソフトウェア工学の戦略的推進に関する調査研究」研究委員

2002. 財団法人ソフトウェア工学研究会 「コンポーネント技術の確立に関する調査研究」研究委員長

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

上記に含まれない論文・記事・著作物等

1. 落合竜一, 鈴木 正人: リファクタリングとコンポーネント化による既存ソフトウェアの拡張機構, 日本ソフトウェア科学会 第18回 大会論文集, 6A-1, 2001.

2. 岡井 祐矢, 鈴木 正人: コンポーネント接続の整合性の実現機構, 日本ソフトウェア科学会 第

18回 大会論文集, 6A-2, 2001.

3. 原 昌宏, 鈴木 正人: 分散環境におけるネットワーク効率向上のためのオブジェクト複製機構, 日本ソフトウェア科学会 第18回 大会論文集, 7C-2, 2001.

4. 鈴木正人, 青木利晃, 丸山勝久, 鷺崎弘宣, 青山幹雄: "コンポーネントウェア技術の確立に関する調査研究", (財) ソフトウェア工学研究会 2003.

5. 鈴木正人: "位置透過性を持つコンポーネント構成手法とフレームワーク", 情報処理学会ソフトウェア工学研究会, SE-138-17, 2002.

◆生命情報科学研究部門

氏 名 菅原 秀明 (すがわら ひであき)
博士号 工学博士
所属・役職 情報学基礎研究系 生命情報科学研究部門・客員教授
教官室所在
電話番号
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 生命情報学

研究概要

新世代バイオポータルの開発研究。バイオデータは、塩基配列データが依然として指数関数的に増加するとともに、アミノ酸配列、蛋白質立体構造、遺伝子発現、パスウェイなどますます多様化の一途をたどっている。これらのデータ資源がさまざまな形式でインターネットで公開されている。新世代バイオポータルサイトは、Web サービスなどを活用して、分散したデータ資源を目的に応じて簡易に組み合わせて利用できる情報環境を提供する。

学 歴

1968 東京大学工学部物理工学科卒業

1973 同上大学院工学系博士課程修了

主要経歴

1977 理化学研究所ライフサイエンス研究情報室

1996 国立遺伝学研究所生命情報研究センター教授

教育活動

総合大学院大学遺伝学専攻教授

学協会活動

情報処理学会、日本バイオインフォマティクス学会、日本情報知識学会、日本微生物資源学会、極限微生物学会

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Miyazaki S. and Sugawara, H.: Networking of biological resource centers: WDCM experiences, Data Science Journal, 1(2), 102-107, 2002

Fumoto, M., Miyazaki, S. and Sugawara, H.: Genome Information Broker (GIB): data retrieval and comparative analysis system for completed microbial genomes and more, Nucleic Acid Research, 30(1), 66-68, 2002

Tateno, Y., Imanishi, T., Fukami-Kobayashi, K., Saitou, N., Sugawara, H. and Gojobori, T.: DNA Data Bank of Japan (DDBJ) for genome scale research in life science, Nucleic Acid Research, 30(1), 27-30, 2002

Goto, K., Miyazaki, S. and Sugawara, H.: Genome Information Broker for Data Retrieval and Comparative Analysis of Microbial Genomes, Journal of Japan Society of Information and Knowledge 10(4), 4-13, 2001

Miyazaki, S. and Sugawara, H.: Visualization of features in the Flat File by use of DDBJ-XML, Currents in computational molecular biology, 249-250, 2001

上記に含まれない論文・記事・著作物等

生体の科学 52(4):347-353 (2001),

”バイオインフォマティクス:「ツール」から「学」へ生体の科学”

Sugawara H.: What can the public database of DDBJ provide ? (in Japanese), Genome-igaku, 2(3), 61-69, 2002

Sugawara H.: Agglomeration of Life Sciences and IT - Bioinformatics (in Japanese), Biological resources access (Watanabe M. and Nimura, S (ed)), Toyo-keizai-shinpou-sha (Tokyo), 205-238, 2002

Sugawara H.: Concept and progress of biological resource centers in OECD (in Japanese), Microbiol. Cult. Coll, 17(2), 81-87, 2002

あなたにも役立つバイオインフォマティクス(共立出版、2002)編著

生物資源アクセス(東京経済新報社、2002)分担執筆

競争的研究資金獲得状況

ナショナルバイオリソースプロジェクト病原微生物研究班分担、振興調整費先導的研究「新世代バイオポータルの開発研究」分担

■情報基盤研究系

◆計算機アーキテクチャ研究部門

氏名 米田 友洋 (よねだ ともひろ)

博士号 工学博士(東京工業大学 1985年3月)

所属・役職 情報基盤研究系計算機アーキテクチャ部門・教授

電話番号 03-4212-2557

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 非同期式システム、リアルタイムシステムの設計・検証

研究概要

安全で信頼性の高いハードウェア・ソフトウェアを設計するための支援システムについて研究している。特に、ハードウェア・ソフトウェアを含めたリアルタイムシステムは、その動作時間や応答時間に対する制約から、設計・検証には支援ツールが必須であり、そのようなシステムを対象とした設計・検証支援ツールの開発を目指している。

学歴

1976年4月 東京工業大学工学部入学

1980年3月 東京工業大学工学部情報工学科卒業

1980年4月 東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程入学

1982年3月 東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程修了

1982年4月 東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻博士後期課程進学

1985年3月 東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻博士後期課程修了

工学博士(東京工業大学 1985年3月)

主要経歴

1985年4月 東京工業大学工学部助手

1989年1月 東京工業大学工学部講師

1990年10月～1991年8月 米国カーネギーメロン大学客員研究員

1991年3月 東京工業大学工学部助教授

1994年6月 東京工業大学情報理工学研究科助教授

2002年4月 国立情報学研究所情報基盤研究系教授

現在に至る

教育活動歴

フォールトトレラントシステム論(東京工業大学大学院情報理工学系研究科)
計算機構成第一(東京工業大学工学部情報工学科)
オートマトンと言語(東京工業大学工学部情報工学科)
スイッチング回路理論(東京工業大学工学部情報工学科)
フォールトトレラントコンピュータ(一橋大学特別講義)
計算機・ソフトウェア科学特論 II(大阪大学大学院特別講義)

大学院担当講義

フォールトトレラントシステム論(東京工業大学大学院情報理工学系研究科)

学協会活動

IEEE 会員(1984～)
電子情報通信学会、会員(1982～)
電子情報通信学会、査読委員(1996～)
電子情報通信学会、和文論文誌 D 編集委員会委員(1998～2001)
電子情報通信学会、和文論文誌 D 編集委員会副委員長(2000～2001)
電子情報通信学会、フォールトトレラントシステム専門委員会委員(1999～)
情報処理学会、会員(1982～)
情報処理学会、査読委員(1989～)
International Symposium on Advanced Research in Asynchronous Circuits and Systems、プログラム委員(1996、2000～)
Asian Test Symposium、プログラム委員(1992～1994, 1997～1998, 2001～)
Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing、プログラム委員(2000～)
Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing、組織委員(2002)
International Conference on Application of Concurrency to System Design、プログラム委員(1998、2001)
Symposium on Reliable Distributed Systems、プログラム委員(2002)
Symposium on Advanced Computing Systems and Infrastructures、組織委員(2002)
日本ソフトウェア科学会理事(2003～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

森広, 米田: シミュレーションを利用した形式的検証システム, 電子情報通信学会和文論文誌 D-I, Vol. J84-D-I, No.4, pp.367-377 (2001).
T.Yoneda, E.Mercer, C.Myers : Modular Synthesis of Timed Circuits using Partial Order Reduction, Proc. of The 10th Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Technologies, pp.151-158 (2001).
E.Mercer, C.Myers, T.Yoneda : Improved poset timing analysis in timed Petri nets, Proc. of The 10th Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Technologies, pp.127-134 (2001).
B.Zhou, T.Yoneda, C.Myers : Framework of Timed Trace Theoretic Verification Revisited, Proc. of 10th Asian Test Symposium, pp.437-442 (2001).
T.Kitai, T.Yoneda : Partial order reduction in verification of wheel structured parameterized circuits, Proc. of 2001 Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing, pp.173-182 (2001).
E.Mercer, C.Myers, T.Yoneda, H.Zheng : Modular Synthesis of Timed Circuits using Partial Orders on LPNs, Proc. of The Workshop on Theory and Practice of Timed Systems (2002).
Y.Morihiro, T.Yoneda : Formal Verification of Data-Path Circuits based on Symbolic Simulation, IEICE Trans., Vol.E85-D, No.6, pp.965-974 (2002).
T.Yoneda, T.Kitai, C.Myers : Automatic Derivation of Timing Constraints by Failure Analysis, Proc. of Computer Aided Verification, pp.194-206 (2002).
B.Zhou, T.Yoneda, C.Myers : Framework of Timed Trace Theoretic Verification Revisited,

IEICE Trans., Vol.E85-D, No.10, pp.1595-1604 (2002).

T.Yoneda, E.Mercer, C.Myers : Modular Synthesis of Timed Circuits using Partial Order Reduction, IEICE Trans., Vol.E85-A, No.12, pp.2684-2692 (2002).

T.Kitai, Y.Oguro, T.Yoneda, C.Myers, E.Mercer : Level Oriented Formal Model for Asynchronous Circuit Verification and its Efficient Analysis Method, Proc. of 2002 Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing , pp.210-218 (2002).

上記に含まれない論文・記事・著作物等

米田:(解説)有限幅遅延モデルに基づく非同期式回路検証方式とその効率化, システム/制御/情報, Vol.45, No.8, pp. 461-469 (2001).

小黒, 米田:非同期式回路検証のためのレベル指向モデルとその効率的解析法について, 電子情報通信学会技術研究報告, DC-2002, [7], pp.37-42 (2002).

Tomohiro Yoneda and Chris Myers : Synthesizing Timed Circuits from High Level Specification Languages, NII Technical Report NII-2003-003E (2003).

講演・口頭発表等

北井, 米田 : timed システムの検証における failure trace の解析に関する研究, FTC 研究会資料 (2002).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12 年度科学研究費補助金基盤研究(C) (平成 12~14 年度:370 万円)「超高速非同期式システムのための設計および検証ツールに関する研究」

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

平成 13 年度日本学術振興会日米共同研究(平成 12~15 年度:500 万円)「遅延情報を用いた超高速回路設計法のための合成と検証に関する研究」

氏名 松本 尚 (まつもと たかし)

博士号 博士(理学)

所属・役職 情報基盤研究系 計算機アーキテクチャ研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2675

ファクシミリ 03-4212-2676

専門分野 計算機アーキテクチャ、並列処理

研究概要

1. 数十万台までの任意台数の計算機を一つのシステムとして使用可能にするスケーラブルオペレーティングシステム SSS-PC (IBM-PC 互換機および Sun WS 用)の研究開発。
2. 高速ネットワーク網に対応可能な低消費電力の高性能組込マイクロプロセッサの研究開発。
3. 計算機クラスタ用の高速ネットワークインターフェース用ハードウェアおよびソフトウェアの研究開発。
4. スケーラブルオペレーティングシステムの高信頼化およびディペンダブルオペレーティングシステムへの展開研究。

学歴

1981 年 4 月 東京大学理科一類入学

1983 年 4 月 東京大学工学部計数工学科数理コース進学、1985 年 3 月 同卒業

1985 年 4 月 大阪市立大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程入学

1987 年 3 月 同修士課程修了

2001 年 9 月 東京大学大学院理学系研究科より論文博士取得

主要経歴

1987 年 4 月 日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所入所

1991 年 11 月より 東京大学理学部情報科学科 助手(後に、東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻に改組)

1998年10月より 科学技術振興事業団さきがけ研究 21 研究員(兼任)(2001年9月末まで)
2000年10月より 情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造プロジェクト開発者(兼任)(2001年2月末まで)
2001年7月より 情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造プロジェクト開発者(兼任)(2002年2月末まで)
2001年10月より科学技術振興事業団平成13年度新規事業志向型研究開発成果展開事業「高性能組込マイクロプロセッサ」チームリーダー(兼任)(2004年9月末まで)
2002年4月より国立情報学研究所情報基盤研究系計算機アーキテクチャ部門 助教授
2002年12月より株式会社情報科学研究所副社長(成果活用兼業)

教育活動歴

東京大学理学部情報科学科「情報科学実験 II」(1992年～2001年)
東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻 大学院生指導(1992年～2001年)

学協会活動

情報処理学会会員(1987～)、電子情報通信学会会員(1988～)、
日本ソフトウェア科学会会員(1990～)、ACM 会員(1993～)
情報処理学会論文誌査読委員(1997～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

丹羽 純平, 松本 尚, 平木 敬: ソフトウェア DSM 機構を支援する最適化コンパイラ. 情報処理学会論文誌 Vol.42, No.4, pp.879-897 (April 2001).
松本 尚: スケーラブルな分散サーバー環境の研究 - SSS-CORE のサーバー向け機能拡張 -. (招待論文). ITX2001 論文集 (CDROM), 情報処理振興事業協会, (November 2001).
松本 尚: ネットワーク RAID ファイルシステム. (招待論文). ITX2002 Summer 論文集 (CDROM), 情報処理振興事業協会, (June 2002).
松本 尚: 次世代オペレーティングシステム SSS-PC の開発 - IA32 用カーネルアーキテクチャ -. (招待論文). ITX2002 Summer 論文集 (CDROM), 情報処理振興事業協会, (June 2002).
松本 尚: 高性能組込マイクロプロセッサ. (招待論文). 化学工業, Vol.53, No.7, 化学工業社, pp.29-37 (July 2002).
松本 尚: 次世代オペレーティングシステム SSS-PC の開発 - IA32 向け最適化と機能拡張 -. (招待論文). IPA2003 Spring 論文集 (CDROM), 情報処理振興事業協会, (May 2003).
松本 尚: Linux 版ネットワーク RAID ファイルシステム. Linux 用低コスト高信頼ファイルシステム NRFS, <http://www.ssspc.org/nrfs/index.html> (2001-).
松本 尚: 次世代オペレーティングシステム SSS-PC. PC・WS 両サポート汎用スケーラブルオペレーティングシステム, <http://www.ssspc.org/ssspc/index-j.html> (2001-).
松本尚, 田中清史, 相原 治: 高性能組込マイクロプロセッサ JSTEP-1. 0.25 μ m 11mm 角 ASIC(ゲートアレイ) 80MHz 動作 高速 DMA 協調機能 超高速割込み切替 64Kbyte 命令キャッシュ 16Kbyte データキャッシュ 等の特徴を持つ試作 RISC プロセッサ (September 2002).
松本 尚: メモリベース通信ファシリティの評価. 電子情報通信学会技術研究報告, CPSY, Vol.101, No.329, pp.31-40 (October 2001).
松本 尚: 自律最適化を支援する資源割り当て方式の研究. さきがけ研究 21 研究報告『情報と知』領域(2期生), 科学技術振興事業団, pp.971-980 (March 2002).

講演・口頭発表等

松本 尚: 市場メカニズムに基づく計算資源割り当て方式. さきがけ研究 21 研究終了報告会, 科学技術振興事業団 (December 2001).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

共有メモリ並列プログラムの通信最適化に関する研究. 平成 11 年度科学研究費補助金奨励研究 (A)、1999.4～2001.3

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

自律最適化を支援する資源割り当て方式の研究。科学技術振興事業団さきがけ研究 21『情報と知』領域、1998.10～2001.9

次世代オペレーティングシステム SSS-PC の開発。情報処理振興事業協会『IPA 情報技術開発支援事業』、2001.4～2003.2

Linux 版ネットワーク RAID ファイルシステムの実用化。情報処理振興事業協会『未踏ソフトウェア創造事業』、2001.7～2002.2

高性能組込マイクロプロセッサ。科学技術振興事業団『新規事業志向型研究開発成果展開事業』、2001.10～2004.9

◆ネットワークアーキテクチャ研究部門

氏名 浅野 正一郎 (あさの しょういちろう)
博士号 工学博士
所属・役職 情報基盤研究系 ネットワークアーキテクチャ研究部門 教授
情報基盤研究系 研究主幹
電話番号 03-4212-2505
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 通信工学

研究概要

スーパーSINET プロジェクトに関する次世代光ネットワークの構成手法に関する研究を行っている。全光ネットワークの実現は、e-Japan 構想等の時流を得て5年計画として開始されたが、全光ネットワーク至る技術開発課題は多い。当研究所の研究者、及び共同研究の相手方である日本テレコムに加えて、国内外の開発組織・企業との連携を深める必要があり、このためのプロジェクト研究と研究管理を担当している。

学 歴

1970.3 東京大学工学部電子工学科卒業
1972.3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻修士課程修了
1975.3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了(工学博士)

主要経歴

1975.4 東京大学助手(大型計算機センター)
1977.2 東京大学講師(宇宙航空研究所)
1981.7 東京大学助教授(工学部)
1986.4 学術情報センター助教授(東京大学工学部助教授兼任)
1987.4 学術情報センター教授(東京大学工学系研究科教授併任)
1996.4 学術情報センター教授・研究主幹(東京大学工学系研究科教授併任)
2000.4 国立情報学研究所教授・研究主幹(東京大学工学系研究科教授併任)
2001.4 国立情報学研究所教授・研究主幹(東京大学情報理工学系研究科教授併任)

受賞等

情報処理学会標準化功績賞(2002年 7月)
電子情報通信学会フェロー(2002年 9月)

教育活動歴

1978.4 東京大学大学院工学系研究科(現在まで)
2001.4 東京大学大学院情報理工学系研究科(現在まで)
「ネットワーク・アーキテクチャ」東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻
「博士演習」東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻
「修士実験」東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻
他

学協会活動

現在

電子情報通信学会正会員

電子情報通信学会フェロー(2002年)

電子情報通信学会フェローノミネーション委員会委員

情報処理学会正会員

情報処理学会情報規格調査会委員

情報処理学会情報規格調査会技術委員会委員

情報処理学会情報規格調査会技術委員会幹事会委員

電気学会正会員

電気学会論文委員会委員

IEEE, Communication Society

過去の主な活動

電子情報通信学会評議員

電子情報通信学会交換システム研究専門委員会委員長

電子情報通信学会交換システム研究専門委員会副委員長

電子情報通信学会第三種研究専門委員会委員長

電子情報通信学会論文委員会委員

電子情報通信学会会誌編集委員会委員

電子情報通信学会企画幹事

情報処理学会会誌編集委員会委員

電気学会論文編集委員会委員

IEEE, Communication Society, Conference Committee Member

COMPUTER NETWORKS and ISDN SYSTEMS 編集委員

社会貢献活動

経済協力開発機構(OECD)情報コンピュータ通信政策委員会(ICCP)副議長(1989年～2002年)

経済協力開発機構(OECD)情報コンピュータ通信政策委員会(ICCP)日本政府代表(1989年～2002年)

メディア教育開発センター運営協議員(1999年～2001年)

電気通信技術審議会専門委員(1999年～2001年)

日本工業標準化調査会委員(1999年～2001年)

メディア教育開発センター運営協議員(2001年～2003年)

九州大学情報基盤センター全国共同利用運営委員会委員(2002年～2004年)

独立行政法人評価委員会臨時委員(財務省)(2003年～)

独立行政法人評価委員会臨時委員(国土交通省)(2003年～)

産業構造審議会臨時委員(2003年～)

産業構造審議会臨時委員 産業情報小委員会委員長(2003年～)

産業構造審議会臨時委員 セキュリティ小委員会委員(2003年～)

その他、現在務めているもの

日本学術会議情報学研究連絡委員会委員

日本工業標準調査会標準部会情報技術専門委員会専門委員

(社)日本ネットワークインフォメーションセンター理事

(社)電子情報通信学会評議員

(財)電気通信端末機器審査協会評議員

(財)電気・電子情報学術振興財団評議員

(財)航空保安無線システム協会評議員

航空交通管制情報処理システムのフェールセーフのあり方などに関する技術検討委員会委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

M. TATIPAMULA, S. ASANO: "Deployment of 10Gb/s IP/Optical Backbone in SuperSINET: Network Architecture, Technologies and Applications", APRICOT 2003, Taipei, pp.1-19, (February 2003).

浅野正一郎, 松方 純, 漆谷重雄: "次世代インターネット技術の動向", NII Journal, No.3, pp.7-12, (Nov. 2001).

講演・口頭発表等

S. ASANO: "SuperSINET", Global Research Networking Summit, The European Commission, <http://www.dante.net/conference/globalsummit2002/html/2-6asano/>, (May 2002).

浅野正一郎, 末松安晴: "超高速学術情報ネットワーク SuperSINET", 第 84 回微小光学研究会基調講演, Vol.20, No.2, pp.1-4, (June 2002).

Nie KUNKUN, S. ASANO: "A Time-based Batch One-way Function Tree Method for Group Key Management", ISEC, (March 2002).

沈 恒偉, 浅野正一郎: "アントエージェントを用いた経路制御方式の検討", 電子情報通信学会技術報告, 人工知能と知識処理研究会資料, AI2001-86, (March 2002).

滝田大介, 計 宇生, 浅野正一郎: "MPLS トラヒックエンジニアリングにおける複数経路の設定方法とバランシングに関する検討", 電子情報通信学会技術報告, 情報ネットワーク研究会資料, IN2001-203, (March 2002).

計 宇生, 藤野貴之, 阿部俊二, 趙 偉平, 松方 純, 浅野正一郎: "適正時間スケールを利用した長期依存性トラヒックの近似解析", 電子情報通信学会技術報告, 情報ネットワーク研究会資料, IN2002-185, (February 2003).

磯部隆史, 浅野正一郎: "残存通信容量の測定に基づく Domain 間 QoS ルーティングに関する研究", 電子情報通信学会技術報告, 情報ネットワーク研究会資料, IN2002-212, (March 2003).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

基盤研究(B)(2)(平成 12~15 年度:1,480 万円)「超高速インターネットルータに適用するスケラブル IP ルーティング制御」(12450159)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

共同研究費:300 万円

受託研究費:136 万円

委任経理金:650 万円

氏 名 藤野 貴之 (ふじの たかゆき)
博士号 1994 年、工学博士(明治大学)
所属・役職 情報基盤研究系ネットワークアーキテクチャ研究部門助手
電話番号 03-4212-2575
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 計算機科学、情報通信工学

研究概要

「インタードメインルーティングにおける情報収集と応用に関する研究」

現在、インターネットにおけるインタードメインルーティングには BGP が使用されている。本研究では、情報の収集機能を強化した BGP の実装を作成し、そこから得られた情報を応用することにより、インタードメインルーティングの運用管理コストを低減する方法を開発する。

学 歴

1989 年 3 月 明治大学工学部電子通信工学科卒業

1991 年 3 月 明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程修了

1994 年 3 月 明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程修了

主要経歴

1994年4月 東京理科大学情報処理センター
1995年10月 学術情報センター助手 システム研究系
2000年4月 国立情報学研究所 情報基盤研究系 助手

教育活動歴

2002年 情報セキュリティ担当職員研修(国立情報学研究所)講師

学協会活動

電子情報通信学会会員(1990～)
情報処理学会会員(1996～)

社会貢献活動

2000～2001年 (社)日本ネットワークインフォメーションセンター運営委員 システム検討部会主査
2001～2002年 大学の情報セキュリティポリシーに関する研究会委員
2002年～ 航空振興財団情報処理方式小委員会委員
2003年～ 電気学会ブロードバンド時代のネットワーク運用管理調査専門委員会幹事補佐

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

阿部俊二, 藤野貴之, 計宇生, 松方純, 浅野正一郎: 学術ネットワークにおける自己相関トラフィックの解析, Proceedings of IC-2001, pp.151-158 (Nov.2001).

特許・公開ソフトウェア・作品等

藤野貴之, 浅野正一郎, 阿部俊二, 計宇生, 趙偉平, 松方純, 他3名: 情報提供システム及び情報提供方法, 特願 2003-033940, 平成15年(2003年)2月12日出願

上記に含まれない論文・記事・著作物等

藤野貴之, 上岡英史, 阿部俊二, 計宇生, 松方純, 山田茂樹, 浅野正一郎: 学術情報ネットワークへのIPv6導入と今後の展開, 電子情報通信学会研究報告, NS2001-253, pp.217-222 (Mar.2002)

松方純, 藤野貴之, 浅野正一郎: スーパーSINETにおけるMPLS及びGMPLSの展開, 電子情報通信学会技術研究報告, IN2002-45, pp.19-24 (Jul.2002)

計宇生, 藤野貴之, 阿部俊二, 趙偉平, 松方純, 浅野正一郎: 適正時間スケールを利用した長期依存性トラフィックの近似解析, 電子情報通信学会技術研究報告, IN2002-185, IA2002-41, pp.13-18 (Feb.2003)

大学における情報セキュリティポリシーの考え方, 大学の情報セキュリティポリシーに関する委員会, 2002年3月.(共著)

講演・口頭発表等

浅野正一郎, 山田茂樹, 松方純, 計宇生, 趙偉平, 阿部俊二, 藤野貴之, 上岡英史: 次世代ネットワークアーキテクチャの研究, 国立情報学研究所オープンハウス(Feb.2002)

浅野正一郎, 山田茂樹, 米田友洋, 松方純, 計宇生, 趙偉平, 阿部俊二, 松本尚, 藤野貴之, 上岡英史: 次世代ネットワークと計算機アーキテクチャの研究, 国立情報学研究所オープンハウス (Jul.2002)

氏名 児玉 和也 (こだま かずや)
博士号 1999年 博士(工学) (東京大学)
所属・役職 実証研究センター 実証研究推進室 助教授
電話番号 03-4212-2588
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

「実時間での品質調整に適した多次元画像情報の構造化とその分散共有通信方式の研究」
画像処理アルゴリズムとセンサやカメラといったハードウェアや分散協調型組込 OS の統合により、実時間での様々な品質調整を可能とする映像システムの研究開発を行っている。現在はとくに焦

点画像処理のセンサ上への実装や分散メディア通信に適した OS 構成法を検討している。

学歴

1994.3 東京大学 工学部 電気工学科 卒業(工学士)

1996.3 東京大学大学院 工学系研究科 電気工学専攻 修士課程 修了(修士(工学))

1999.3 東京大学大学院 工学系研究科 電子情報工学専攻 博士課程 修了(博士(工学))

主要経歴

1999.4～2000.3 文部省学術情報センター システム研究系 超高速画像処理研究部門 助手

2000.4～2003.4 国立情報学研究所 情報基盤研究系 ネットワークアーキテクチャ研究部門 助手

2000.8～2002.9 通信・放送機構「空間共有コミュニケーションプロジェクト」研究フェロー

2002.4～2003.4 総合研究大学院大学 数物科学研究科 情報学専攻 助手(併任)

2003.5～ 国立情報学研究所 実証研究センター 実証研究推進室 助教授

教育活動歴

2000.9～ 芝浦工業大学 工業経営学科・情報工学科 非常勤講師(担当講義「パターン認識」)

2001.4～ 東京理科大学 電気工学科 非常勤講師(担当講義「計算機システム」)

学協会活動

1994～ 電子情報通信学会、映像情報メディア学会 正会員(1999 まで学生員)

2002.8～ 映像メディア処理シンポジウム 実行委員会委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

椿 泰範, 久保田 彰, 児玉 和也, 相澤 清晴 : “多数の昆虫顕微鏡画像からの全焦点画像と 3 次元画像の生成”, 映像情報メディア学会誌, Vol.56, No.2, pp.263-270, 2002-2

日高 宗一郎, 児玉 和也, 丸山 勝巳, 橋爪 宏達 : “マルチサーバー型制御用 OS の構成とタスク間通信性能”, 電子情報通信学会論文誌, Vol.J86-B, No.3, pp.376-384, 2003-3

Kenji Mochizuki, Kunio Yamada, Shoichiro Iwasawa, Kazuya Kodama, Kiyoharu Aizawa, Shigeo Morishima, and Takahiro Saito : “Novel 3D Image Structure, Processing and Communications Technology based on hyper-Realistic Image for Multi-media Ambiance Communication”, The 21st International Display Research Conference / The 8th International Display Workshops (Asia Display/IDW'01), 3D1-3, pp.1353-1356, 2001-10

Conny Riani Gunadi, Hiroyuki Shimizu, Kazuya Kodama, and Kiyoharu Aizawa : “Construction of large-scale virtual environment by fusing range data, texture images and airborne altimetry data”, International Symposium on 3D Data Processing, Visualization and Transmission, pp.772-775, 2002-6

Soichiro Hidaka, Kazuya Kodama, Yusheng Ji, and Katsumi Maruyama : “A File Server Optimization Using Scatter/Gather IPC on L4 Based Multi-Server Operating System”, Proc. the 6th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI2002), Vol.I, pp.184-189, 2002-7

Katsumi Maruyama, Kazuya Kodama, Soichiro Hidaka, and Hiromichi Hashizume : “Extensible Distributed Operating System for Reliable Control Systems”, Proc. the Tenth ACM SIGOPS European Workshop (EW2002), 2002-9 (to appear)

Hiroyuki Shimizu, Conny Riani Gunadi, Kazuya Kodama, and Kiyoharu Aizawa : “Three Dimensional Modeling of Large-Scale Real Environment by Fusing Range Data, Texture Images, and Airborne Altimetry Data”, IEEE 2002 International Conference on Image Processing(ICIP 2002), Vol.II, pp.537-540, 2002-9

日高 宗一郎, 児玉 和也, 丸山 勝巳 : “実時間制御システム用のマルチサーバー型分散 OS の検討”, 情報処理学会 システムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会, 情処研報, 2001-OS-87-6, Vol.2001, No.65, pp.41-48, 2001-6

柏山 英輝, 浜本 隆之, 児玉 和也 : “単画素の輝度値変化に基づく高速合焦判定”, 映像メディア処理シンポジウム(IMPS 2001), I-2.19, pp.63-64, 2001-11

児玉 和也, 望月 研二, 相澤 清晴, 齋藤 隆弘 : “距離画像の領域分割に基づく 3 次元構造の階層的近似表現の検討”, 映像メディア処理シンポジウム(IMPS 2001), I-3.01, pp.67-68, 2001-11

講演・口頭発表等

Conny Riani Gunadi, Hiroyuki Shimizu, Kazuya Kodama, Kiyoharu Aizawa, Kenji Mochizuki, and Takahiro Saito : “3D Model Reconstruction using Region Segmentation of Range Data”, 映像メディア処理シンポジウム(IMPS 2001), I-4.06, pp.83-84, 2001-11

柏山 英輝, 浜本 隆之, 児玉 和也 : “スマートイメージセンサへの実装に適した高速合焦判定方式の検討”, 映像メディア処理シンポジウム(IMPS 2002), I-4.19, pp.117-118, 2002-11

Conny Riani Gunadi, Hiroyuki Shimizu, Kazuya Kodama, Kiyoharu Aizawa, Kenji Mochizuki, and Takahiro Saito : “Segmentation and Integration of Range Images and Texture Images for Creating Realistic Models”, 日本バーチャルリアリティ学会 第 6 回大会, pp.477-480, 2001-9

Conny Riani Gunadi, Hiroyuki Shimizu, Kazuya Kodama, Kiyoharu Aizawa, Kenji Mochizuki, and Takahiro Saito : “Fusing Multi-View Range Data and Texture Images for Large-Scale Virtual Environment”, '02 電子情報通信学会総合大会, 情報・システム 2, D-12-136, p.312, 2002-3

柏山 英輝, 浜本 隆之, 児玉 和也 : “スマートセンサを用いた画素単位での高速合焦方式”, '02 映像情報メディア学会年次大会, 18-5, 2002-8

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 14 年度 科学研究費補助金 若手研究(B) (平成 14 年度-平成 16 年度: 350 万)「実時間での品質調整に適した多次元画像情報の構造化とその分散共有通信方式の研究」(課題番号 : 14750328)

◆高機能ネットワーク研究部門

氏名 山田 茂樹 (やまだ しげき)
博士号 1991 年 博士(工学)(北海道大学)
所属・役職 国立情報学研究所・実証研究センター長、
情報基盤研究系高機能ネットワーク研究部門教授、
国際・研究協力部研究成果普及推進室長
電話番号 03-4212-2512
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報通信ネットワーク

研究概要

ユビキタス/コンテキストウェアコンピューティングネットワークに関する研究を進めています。
具体的にはユーザの居場所、時刻、行動状態、行動履歴など、ユーザを取り巻く環境に関するいろいろな情報(ユーザコンテキスト)をコンピュータが自動取得し、ユーザがどのような情報を必要としているかを認識し、必要な情報をコンテンツサーバーから取り出し、ユーザの受信環境やユーザの望む形態に適合した形式に変換して自動的にユーザの情報機器に送り届ける「コンテキストウェア型情報提供ネットワークシステム」の実現方法を研究しています。

学歴

1972 年 3 月 北海道大学工学部電子工学科卒業
1974 年 3 月 北海道大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了

主要経歴

1974 年 4 月 日本電信電話公社(現 NTT)武蔵野電気通信研究所入社。以来、交換ノード用 VLSI プロセッサ、交換用超並列システム、ネットワーク分散処理システム、分散ネットワークアーキテクチャ等の研究実用化に従事。

1981 年 2 月-1982 年 1 月 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)客員研究員。

1997年7月 NTT光ネットワークシステム研究所分散ネットワークシステム研究部長。
1999年7月 同社未来ネット研究所ネットワークインテリジェンス研究部長。
1999年11月 学術情報センター研究開発部教授。
2000年4月 国立情報学研究所情報基盤研究系教授。
2002年4月 国立情報学研究所実証研究センター長併任、研究成果普及推進室長併任、
総合研究大学院大学数物科学研究科教授併任。

教育活動歴

1996年4月～2003年3月 東京理科大学工学部電気工学科非常勤講師(情報基礎論担当)
1998年12月～2002年3月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科併任教授(情報システム学専攻並列分散システム客員講座担当)
2001年4月～2002年3月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科併任教授(情報処理学専攻認知科学客員講座担当)
2002年4月～ 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科非常勤講師
2002年4月～ 総合研究大学院大学情報学専攻教授併任

大学院担当講義

情報通信ネットワーク(総合研究大学院大学)

学協会活動

2000年4月～ 電子情報通信学会論文誌常任査読委員
2002年6月～ 電子情報通信学会東京支部会計幹事

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

S. Yamada and E. Kamioka: Design of Environment-Adaptive Personal Communication Architecture for Next Generation Wide-Area Mobile Computing Networks, Proceedings of International Conference on Internet and Multimedia Systems and Applications 2001 (IMSA2001), pp. 371-376, Hawaii, USA, (Aug., 2001).
E. Kamioka and S. Yamada: Environment-Adaptive Personal Communication Architecture toward Ubiquitous Computing Networks, Proceedings of Asia-Pacific Conference on Communications (APCC2001), IEICE Trans. on Communications, Vol.E84-B, Vo.11, pp.189-192 Tokyo, Japan, (Sept., 2001)
E. Kamioka and S. Yamada: Performance Evaluation of a Seamless Communication on 3GPP-based IP Networks, Proceedings of the Huntsville Simulation Conference 2001 (HSC2001), pp. 59-64 (Oct., 2001).
上岡英史, 山田茂樹: ユービキタスコンピューティングネットワーク実現に向けた環境適応型パーソナル通信, 電子情報通信学会論文誌 B, Vol.J85-B, No.5, pp.755-767 (2002).
E. Kamioka and S. Yamada: A Context-Aware Personal Communication System in Ubiquitous Environments, Proceedings of the International Conference on Communications, Internet, and Information Technology (CIIT2002), pp. 124-131 (2002)
山田茂樹, 上岡英史, "ユビキタスコンピューティングネットワークの研究動向", NII Journal, No.5, 2003, pp.41-47。
山田茂樹: インターネット分散コンピューティングネットワークに関する研究, 国立情報学研究所ニュース, No.5, p.7, (June 2001).
山田茂樹: ユビキタス・コンピューティングの世界, ネーチャーインターフェース, No. 6, pp. 71-73 (2002).
山田茂樹: ユビキタスコンピューティングの可能性-シナリオが示す技術的課題-, Cyber Security Management, Vol. 3, No.31, pp.42-45 (2002).
藤野貴之, 上岡英史, 阿部俊二, 計宇生, 松方純, 山田茂樹, 浅野正一郎: 学術情報ネットワークへの IPv6 導入と今後の展開, 電子情報通信学会ネットワークシステム・情報ネットワーク合同研究会, NS2001-253, pp. 217-222 (2002)。

講演・口頭発表等

山田茂樹:モバイルからユビキタスへ:ネットワークの進化, 日本セキュリティ・マネジメント学会第15回学術講演会, 専修大学 (2001.11)。

E. Kamioka and S. Yamada: EAPEC, Environment-Adaptive Personal Communication Architecture Using SIP, Proceedings of SIP2002 (Jan., 2002).

S. Yamada and E. Kamioka, Context-Aware Information Delivery Service Using SIP and 3GPP All-IP Network Architecture, Invited Talk, SIP Summit Spring 2002, Las Vegas (May 7-9, 2002).

山田茂樹:モバイルからユビキタスへ:ネットワークの進化, 電子情報通信学会北陸支部総会特別講演(招待講演), 金沢工業大学 (2002.5)。

S. Yamada and E. Kamioka, Context-Aware Information Delivery Service Using SIP and 3GPP All-IP Network Architecture, Invited Talk, Nokia Japan Research Center, Tokyo (2002.7.19).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成13年(2001年)度 科学研究費補助金基盤研究C(2)(平成13-15年度:340万円)「ユビキタスコンピューティングネットワークにおけるコンテンツシームレス通信方式」(13650442)

氏名 松方 純 (まつかた じゅん)

博士号

所属・役職 情報基盤研究系高機能ネットワーク研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2523

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報工学

研究概要

インターネットの高速通信を実現する peer モデルの一般解析と運用:

ATM 網上の IP 通信の高速化を図るためのサブネットワーク間のカットスルー通信の研究

IP 網におけるトラフィック流通を最適化するための MPLS 通信方式の研究

光ネットワークにおける光経路を最適化するための GMPLS 通信方式の研究

学歴

1979年3月 東京大学教養学部基礎科学科卒業

1981年3月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程(修士)修了

1984年3月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程(博士)単位取得退学

主要経歴

1984年4月 東京大学助手(大型計算機センター)

1989年4月 国文学研究資料館助教授

1991年7月 宇宙科学研究所助教授

1995年7月 学術情報センター助教授

1995年10月～ 宇宙科学研究所客員助教授

2000年4月 国立情報学研究所助教授

学協会活動

情報処理学会(1981～)、電子情報通信学会、IEEE、ACM

情報処理学会学会誌編集委員(1989年頃)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

J. Matsukata, T. Hashimoto, J. Kawaguchi, K. Ninomiya, and R. Akiba: International Edition of IAA Multilingual Dictionary Coordinated Through Computer Network, Acta Astronautica Vol.50, No2, pp.95-101 (2002)

藤野、浅野、阿部、計、趙、松方他: 情報提供システムおよび情報提供方法、特願 2003-033940号

浅野正一郎、松方純、漆谷重雄: 次世代インターネット技術の動向、NII Journal, No. 3, pp.7-12

(Nov., 2001)

藤野貴之、上岡英史、阿部俊二、計宇生、松方純、山田茂樹、浅野正一郎: 学術情報ネットワークへの IPv6 導入と今後の展開、電子情報通信学会研究報告、NS2001-253, pp.217-222 (March 2002)

松方純、藤野貴之、浅野正一郎: スーパーSINETにおける MPLS 及び GMPLS の展開、電子情報通信学会情報ネットワーク研究会、信学技報 IN2002-45, pp.19-24 (2002)

講演・口頭発表等

松方純: スーパーSINET:全体計画、宇宙科学研究所 PLAIN センターシンポジウム (January 2002)

Jun Matsukata: Super SINET, APAN2002 Conference (January 2002)

Jun Matsukata: Super SINET, KOREN/APAN-KR 2002 Next Generation Internet Workshop (May 2002)

◆情報流通基盤研究部門

氏名 小野 欽司 (おの きんじ)
博士号 1983年 東京大学(工学博士)
所属・役職 情報基盤研究系 情報流通基盤研究部門・教授(研究総主幹)
電話番号 03-4212-2502
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報システム学、分散マルチメディア、デジタルアーカイブ

研究概要

情報学を新しい視点から捉え、その体系化を目指す研究を行っている。マルチメディア情報流通におけるコンテンツ、ネットワーク、アプリケーションの研究を総合的に推進している。具体的には「デジタルシルクロード」国際共同研究を推進し、文化遺産の保存と継承のために、東京シンポジウムで提案した新しいコンセプト GMR(Global Multimedia Repository)に基づいたデジタルシルクロードの構築を進めている。

また現在フランスとの間で進行中の多言語辞書 Papillon プロジェクトやマルチメディアに関する研究を進展させ、情報学を中心とする日仏国際共同研究センターの基盤作りをしている。

学 歴

1962.3 東京大学理学部物理学科卒業
1972.3 スタンフォード大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了
1983.9 工学博士(東京大学)

主要経歴

1962.4 国際電信電話株式会社入社
1978.8 国際電信電話株式会社研究所情報処理研究室室長
1987.8 国際電信電話株式会社上福岡研究所所長
1987.10 オーエスアイプラス代表取締役副社長兼務(-1991,9)
1990.4 国際電信電話株式会社研究所所長
1993.4 学術情報センターシステム研究系教授
1995.4 学術情報センター研究開発部長併任
2000.4 国立情報学研究所情報基盤研究系教授(現在に至る)
2000.4 国立情報学研究所研究総主幹併任(現在に至る)
2000.11 国立情報学研究所情報学基礎研究系研究主幹併任(-2002,3)
2002.4 総合研究大学院大学情報学専攻教授併任(現在に至る)

受賞等

2001.10 電子情報通信学会フェロー
2002.3 情報処理学会フェロー
2002.11 紫綬褒章

教育活動歴

早稲田大学非常勤講師(1998～2001)
総合研究大学院大学情報学専攻教授併任(2002～)

大学院担当講義

分散マルチメディア情報システム
ソフトウェア科学概論

学協会活動

電子情報通信学会正会員、フェロー
電子情報通信学会通信学会生涯教育委員会委員長(1998～2003)
情報処理学会正会員、フェロー
情報処理学会欧文誌編集委員会委員
人工知能学会正会員
Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)正会員, フェロー
International Council of Computer Communications (ICCC)理事(1987～)
NECTEC Journal 編集委員(1999～)
Tokyo Symposium for Digital Silk Roads 運営委員長(2001)

社会貢献活動

日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会委員(1995～2001)
ストックホルム市 Challenge Award 国際委員(1999～)
日本学術振興会未来開拓推進事業推進委員会委員(1999～)
文部科学省科学技術・学術研究審議会専門委員(1997～)
科学技術振興調整費研究推進委員会委員(1997～2002)
総合研究大学院大学評議会評議員(2002～)
総合研究大学院大学数物系研究科運営委員会委員(2002～)
文部科学省学術革新技术活性化委員会「評価部会」委員(2002～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

F.Andres and K.Ono: The Distributed Management Mechanism of the Active HYpermedia Delivery System platform, The Trans. on IEICE. VolE84-D, No.8, pp1033-1038 (2001)
K.Ono, S.Satoh, F.Andres, Y.Ji and N.Katayama: Creating a Global Multimedia Repository Framework for Cultural Heritage with Advanced Information Technology, Proc. of Tokyo symposium for Digital Silkroads, (Dec., 2001) [Invited]
F. Andres, K. Fukiya, E. Loisant, K. Nagao, and K. Ono: Culture Heritage and Multimedia Annotation: Case Study, in Proc. of Tokyo Symposium For Digital Silk Road, National Center of Sciences, Tokyo, December 11th -13th, (2001)
小野 欽司, 上野晴樹, 根岸正光, 坂内正夫, 安達淳: 情報学とは何か, 丸善, (2002)
Kinji Ono: Proceedings of the Tokyo Symposium for Digital Silk Roads (2002)
小野, 丸山: 情報プラットフォームの概念とその課題, NII Journal No.3, pp1-5 (Nov., 2001)
F.Andres, K.Ono and H.Takeda: Multimedia Device Information Engine for Symbiotic Applications, NII Journal No.3, pp45-52, (Nov., 2001)
Jerome Godard, Frederic Andres, Kinji Ono: Advanced Storage and Retrieval of XML Multimedia Documents, Databases in Networked Information Systems, LNCS2544, Springer, pp. 64-73, Second International Workshop, DNIS 2002, Aizu, Japan (December, 2002)
F.Andres, K.Ono: Cultural Heritage Content Annotation, EVA 2002 Beijing, April 12-14, (2002)
Frederic Andres, Asanee Kawtrakul, Kinji Ono: XTM Support: Sharing addressable Multi-lingual Resources, WAINS 8 (2002)
F. Andres, J. Godard, and K. Ono: Annotation Management for Cultural Heritage Documents, EVA2002 Beijing, China, April 12th -14th, (2002)
F. Andres, K. Ono, E. Loisant, and N. Mouaddib: MISE:The Medicinal Plant Image Search: Case

Study for Medical Cultural Content, in Proc. of EVA-2002 Conference, Florence, Italy, March 18th -22nd, (2002)

講演・口頭発表等

K.Ono: Linking Culture and Digital Technology: A New Attempt of Informatics, International Workshop of Mlabnet & WAINS, (October, 2001)

K.Ono: Virtual Laboratory for Multi-Disciplinary Study through Digital Bridge, APAN2002, Pheket, Thailand, (January, 2002)

Kinji Ono, Heritage of Historical Resources in Digital Age, PNC Annual Conference and Joint Meetings 2002- PNC/ECAI/IPSJ-SIGCH/EBTI -pp15-16, Sept, 2002 [Invited]

Kinji Ono: Digital Silk Roads Project Overview, Seminar of NSF/JSPS US-Japan research collaboration, Hawaii, (March, 2003) [Invited]

Kinji Ono: Digital Silk Roads and Cultural Preservation, Workshop of Geomedia, Nikko, (March, 2003) [Invited]

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 11 年度 科学研究費補助金(基盤研究 A2)(平成 11 年度—平成 13 年度:2,316 万円)「科学・文化知的資産のグローバル共有に関する調査研究」(課題番号 11694185)1999—2001 研究代表者:小野欽司

氏名 相澤 彰子 (あいざわ あきこ)

博士号 1990 年、工学博士(東京大学)

所属・役職 情報学資源研究センター・資源構築利用推進室・教授

電話番号 03-4212-2524

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報工学、知識工学

研究概要

テキスト情報の分析と利用をテーマとして、(1)クラスター指向情報検索システム、(2)発信者情報付きコーパスの分析と利用、(3)反復文字列に基づくテキスト情報の同一性判定、(4)テキストからの辞書資源の自動構築、等の課題について研究を進め、国内外で発表を行った。

学歴

1985 年東京大学電子工学科卒業

1987 年東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了

1990 年東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了

主要経歴

1990 年 学術情報センター助手

1990 年～1992 年 イリノイ大学アーバナシャンペイン校客員研究員

1995 年 学術情報センター助教授

2000 年 国立情報学研究所助教授

2002 年 総合研究大学院大学助教授(併任)

2003 年 国立情報学研究所教授

2003 年 総合研究大学院大学教授(併任)

受賞等

2002 年度人工知能学会全国大会優秀論文賞

教育活動歴

2002 年 4 月～ 総合研究大学院大学・数物科学研究科・情報学専攻

大学院担当講義

ソフトウェア工学(総合研究大学院大学)

学協会活動

1993年～ 電子情報通信学会査読委員

2002年～ 人工知能学会全国大会プログラム委員

2003年～ 情報処理学会情報学基礎研究会運営委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Akiko Aizawa and Kyo Kageura: Calculating Associations between Technical Terms Based on Co-occurrences in Keyword Lists of Academic Papers, *Electronics and Communications in Japan*, 34(3), 85-95 (2003).

Akiko Aizawa and Kyo Kageura: An Approach to the Automatic Generation of Multilingual Keyword Clusters, in "Recent Advances in Computational Terminology," edited by Bouligault, D., Jacquemin, C. and l'Homme, M-C., John Benjamins, pp.1-27 (2001).

Vuthichai Ampornaramveth, Akiko Aizawa, Tasanee Metapisit: SAIKAM: Collaborative Japanese-Thai Dictionary Development on the Internet, *Asian Association for Lexicography Biennial Conference (ASIALEX)* (2001).

Teruhito Kanazawa, Akiko Aizawa, Atsuhiko Takasu, and Jun Adachi: The Effects of the Relevance-based Superimposition Model in Cross-Language Information Retrieval, *Proceedings of the 5th European Conference on Digital Libraries (ECDL 2001)*, pp.312-324 (2001).

Akiko Aizawa: Linguistic Techniques to Improve the Performance of Automatic Text Categorization, *Proceedings of the Sixth Natural Language Processing Pacific Rim Symposium (NLPRS2001)*, pp.307-314 (2001).

金沢輝一, 相澤彰子, 高須淳宏, 安達淳: 日英言語横断検索における関連性の重ね合わせモデルの効果, *情報処理学会トランザクション「データベース」*, Vol.43, No.SIG02, 003 (2002).

Akiko Aizawa: A Co-evolutionary Framework for Clustering in Information Retrieval Systems, *Proceedings of the IEEE 2002 Congress on Evolutionary Computation (CEC2002)*, pp.1787-1792 (2002).

Akiko Aizawa: An Approach to Microscopic Clustering of Terms and Documents, *PRICAI 2002: Trends in Artificial Intelligence, Proceedings of the 7th Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence*, Mitsuru Ishizuka, Abdul Satter (Eds), LNAI2417 Springer, pp.404-413 (2002).

Akiko Aizawa: A Method of Cluster-Based Indexing of Textual Data, *Proceedings of the 19th International Conference on Computational Linguistics (COLING 2002)*, 1-7 (2002).

Akiko Aizawa: An Information-Theoretic Perspective of Tf-idf Measures, *Information Processing & Management*, Vol.39, No.1, pp.45-65 (2003).

Akiko Aizawa: Designed Sampling with Crossover Operators, in *Theory and Application of Evolutionary Computation: Recent Trends*, edited by A. Ghosh and S.Tsutsui, Chapter 16, 413-439, Springer (2003).

講演・口頭発表等

金沢輝一, 相澤彰子, 高須淳宏, 安達淳: 関連性の重ね合わせモデルを用いた日英言語横断検索, *情報処理学会情報学基礎研究会報告 2001-FI-63*, pp.73-80 (2001).

相澤彰子: Naive 手法によるテキスト分類問題へのアプローチ, *2001年情報論的学習理論ワークショップ予稿集*, pp.123-128 (2001).

相澤彰子: Naive 手法による大規模テキスト分類問題へのアプローチ, *情報処理学会研究会報告 自然言語処理*, NL147-7, pp.41-46 (2002).

相澤彰子: 情報空間における双対的クラスタリングの試み, *人工知能学会人工知能基礎論研究会資料(第48回)*, SIG-FAI-A104, pp.85-90 (2002).

相澤彰子: 双対的クラスタリングによる情報空間のモデル化, *2002年度人工知能学会全国大会* (2002).

相澤彰子: テキスト文書のマイクロクラスタリングに関する検討, *情報処理学会研究報告 自然言語*

処理, NL-150, pp.111-117 (2002).

Ryosuke Ohgaya, Tomohiro Takagi, Kouta Fukano, Koji Taniguchi, Akiko Aizawa, and Masoud Nikravesh: Conceptual fuzzy sets-based navigation system for Yahoo!, Proceedings of NAFIPS 2002 (Annual Meeting of North American Fuzzy Information Processing Society) (2002).

Akiyoshi Shinmura, Koji Taniguchi, Kazuyosi Kawahara, Tomohiro Takagi, Akiko Aizawa, and Masoud Nikravesh: Exposure of Illegal Web Sites Using Conceptual Fuzzy Sets-Based Information Filtering System, Proceedings of NAFIPS 2002 (Annual Meeting of North American Fuzzy Information Processing Society) (2002).

相澤彰子: テキスト文書のクラスタ指向インデクシングとマイニング, 日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, pp.16-19 (2002).

Kyung-Soon Lee, Kyo Kageura, Akiko Aizawa: TREC-11 Experiments at NII: The Effects of Virtual Relevant Documents in Batch Filtering, Text Retrieval Conference (TREC 2002), 2002.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

科学研究費補助金 基盤 C2:「共進化メカニズムに基づく語-文書クラスタリングに関する研究」
(平成13年度～平成14年度:410万円)

◆ネットワークセキュリティ研究部門

氏名 長谷川 亨 (はせがわ とおる)

博士号 2000年11月 情報学博士 (京都大学)

所属・役職 情報基盤研究系 ネットワークセキュリティ研究部門 客員教授

電話番号

ファクシミリ

専門分野 超高速 IP ネットワーク、IP 品質、ネットワークセキュリティ

研究概要

超高速リアルタイム VLBI を実現する OC-48c IP 接続装置を開発するとともに、国立天文台と共同で SuperSINET を用いた筑波～三鷹～臼田の 2.4Gbps の VLBI 実験を世界で初めて成功した。さらに、SINET ギガビットバックボーンのトラフィック収集法の検討を進めた。

学歴

1982年3月 京都大学工学部情報工学科卒業

1984年3月 京都大学大学院工学研究科終了

主要経歴

1984年4月 国際電信電話株式会社 (現 KDDI) 入社

2002年1月 国立情報学研究所情報基盤研究系客員教授

学協会活動

2002年2月～電子情報通信学会アクティブネット時限研究会

2002年6月～電子情報通信学会 CQ 研究会専門委員

2002年～2003年 Active Network Technologies and Applications (ANTA) プログラム委員

2003年 International Working Conference on Active Networks (IWAN) 2003 プログラム委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

1. Toru Hasegawa, Shigehiro Ano and Fumito Kubota, "Programmable Remote Traffic Monitoring Method for Internet Management," in proc. of International Working Conference on Active Networks (IWAN) 2001, October 2001.
2. Teruyuki Hasegawa, Toru Hasegawa, Yutaka Miyake and Koji Nakao, "TCP Gateway for Satellite-based Internet Service Accommodating Multiple Subscribers," in proc. IEEE Wireless Communications and Networking Conference (WCNC) 2002, March 2002.
3. Teruyuki Hasegawa, Tomohiko Ogishi and Toru Hasegawa, "A Framework on Gigabit Rate

Packet

Header Collection for Low-cost Internet Monitoring System,” in proc. of IEEE International Conference on Communications (ICC) 2002, April 2002.

4. Hidetoshi Yokota, Akira Idoue, Toru Hasegawa and Toshihiko Katao, “Link Layer Assisted Mobile IP Fast Handoff Method over Wireless LAN Networks,” in proc. of ACM Mobicom 2002, September 2002.

氏名 米田 進 (よねだ すすむ)

博士号 1984年 The Johns Hopkins 大学 工学博士

所属・役職 国立情報学研究所 情報基盤研究系 ネットワークセキュリティ研究部門
客員助教授

電話番号 03-5540-8493

ファクシミリ 03-5540-8485

専門分野 オペレーションズリサーチ、ネットワークシステム

研究概要(当該年度における研究活動の概要を200字程度)

今後更に高度化・高速化が必要となる通信網における制御・管理技術に関する研究並びにその支援。

—先端的な光ネットワーク制御技術の実証実験及び光ネットワーク構成要素間相互接続検証をスーパーSINET 関連研究の一つとして支援、—国際標準化機関 (ITU) において、ベストエフォート型 IP 網におけるトラフィック制御・リソース管理技術を確立することにより品質を確保し得る IP 網実現へ向けた研究。

学 歴

1981年3月31日 慶應義塾大学工学部電気学科卒業

1981年5月31日 The Johns Hopkins 大学大学院工学研究科システム工学専攻修士課程修了

1984年5月31日 The Johns Hopkins 大学 工学博士

主要経歴

1984年6月 Bell Communications Research

1993年10月 日本テレコム(株)技術開発室

1993年12月 日本テレコム(株)情報通信研究所

2002年1月 国立情報学研究所 客員助教授

受賞等

2001年 日本テレコム(株) 社長賞

教育活動歴

2003年 日本鉄道電気技術協会 ネットワーク技術普通課・高等課 講師

学協会活動

電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究専門委員

社会貢献活動

鉄道電気テクニカルフォーラム選考委員

ITU SG13 ラポーター

査読付き論文あるいはそれらに相当する論文、著書等

2001年4月、ITU 主催 IP ネットワーキングと MEDIACOM2004、マルチメディア QoS セッション集、「IP Transfer Capabilities」

2001年6月、NETWORK+INEROP、IP over WDM の展開とそのインパクトセッション集、「光波長網によるビット・フォーマット・プロトコルフリーネットワークの提供：標準化動向とその展開」

2001年8月、日本光学会(応用物理学会)、第35回サマーセミナー「ITを支える光技術」

論文集(pp50-55)、「Simple, Flexible, Manageable Optical Network」

2002年1月、日本鉄道技術協会誌、Vol.45, No.1(pp31-33)、「光波長網が照らす 21世紀コミュニケーションの展望」

2002年3月、日本インターネットフォーラム、IP マネジメントセミナー集、「QoS から見たインターネットの今後：光インフラの視点」

特許・公開ソフトウェア・作品等

特許公開 2002-057703 データ交換処理装置

■ソフトウェア研究系

◆プログラミング言語研究部門

氏名 高野 明彦 (たかの あきひこ)
博士号 東京大学 博士(理学)
所属・役職 ソフトウェア研究系プログラミング言語研究部門・教授
電話番号 03-4212-2556
ファクシミリ 03-4212-2702
専門分野 プログラミングの代数、連想の情報学

研究概要

「連想計算の代数に基づく並列連想計算方式の研究」

膨大な情報に基づく連想過程に計算的な基礎づけを与える連想計算方式について、数学的構造を明らかにし、それに基づくプログラム変換を用いる汎用性の高い並列連想計算方式を提案する。プロトタイプを PC クラスタ上に実装して実用性を検証する。

学 歴

1975年(昭和50年)4月 東京大学理科I類入学
1977年(昭和52年)4月 東京大学理学部数学科進学
1980年(昭和55年)3月 東京大学理学部数学科卒業

主要経歴

1980年(昭和55年)4月 (株)日立製作所入社 日立研究所入所
1983年(昭和58年)3月 (株)日立製作所 システム開発研究所
1989年(平成元年)8月 (株)日立製作所 基礎研究所
1995年(平成7年)2月 (株)日立製作所 基礎研究所 主任研究員
1996年(平成8年)1月 (株)日立製作所 基礎研究所 主任研究員・研究グループリーダー
1999年(平成11年)4月 (株)日立製作所 中央研究所 主任研究員・研究ユニットリーダー
2001年(平成13年)1月 国立情報学研究所ソフトウェア研究系・教授、現在に至る
1993年(平成5年)8月～1994年(平成6年)8月 オランダ国立数学・情報科学研究所(CWI) 客員研究員
1999年(平成11年)10月～2000年(平成12年)3月 工業技術院電子技術総合研究所 COE 特別研究員
2000年(平成12年)4月～2001年(平成13年)3月 早稲田大学ソフトウェア生産技術研究所 客員研究員
2002年(平成14年)4月～現在 東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻・教授(併任)

教育活動歴

2001年度：東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻・非常勤講師。
2001～2002年度：東京大学理学部情報科学科・非常勤講師。
「コンピュータ科学特別講義 IV」(東大大学院情報理工学系研究科)

学協会活動

日本ソフトウェア科学会理事 (1997～2001)
情報処理学会学会誌編集委員(FWG) (1996～2000)
International Symposium on Functional and Logic Programming (FLOPS)、プログラム委員 (1996、

1998, 2001).

社会貢献活動

京都大学数理解析研究所外部評価委員(2002)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- 1, 高野明彦:20世紀の名著論 “Y. Futamura: Partial Evaluation of Computation Process”, 情報処理, Vol.43, No.12, p.1395, 2002.
- 2, 土屋俊, 安達淳, 高野明彦, 坂上光明, 増田豊:電子ジャーナルで図書館が変わる(情報学シリーズ 6), 丸善, 2003.
- 3, 高野明彦, 丹羽芳樹, 西岡真吾, 岩山真, 今一修, 久光徹:汎用連想計算エンジン GETA, <http://geta.ex.nii.ac.jp/>, July 2002.
- 4, 岩山真, 丹羽芳樹, 西岡真吾, 久光徹, 今一修, 櫻井博文, 藤尾正和, 高野明彦:対話的文書検索における文書クラスタリングの役割, 情報処理学会第 124 回データベースシステム研究会, May 2001.
- 5, 岩山真, 藤井敦, 高野明彦, 神門典子:特許コーパスを用いた検索タスクの提案, 情報処理学会第 63 回情報学基礎研究会, 2001-FI-63. Vol.2001, No.74, pp.49-56, July 2001.
- 6, 神門典子, 安達淳, 岸田和明, 栗山和子, 岩山真, 藤井敦, 高野明彦, 福本淳一, 加藤恒明, 梶井文人, 奥村学, 福島孝博, 難波英嗣, 江口浩二, 大山敬三:「評価ワークショップによるテキスト処理研究:NTCIR-3 を例として」, 人工知能学会誌 17 巻 3 号, May 2002.
- 7, 西岡真吾, 丹羽芳樹, 久光徹, 岩山真, 今一修, 藤尾正和, 高野明彦:分散計算を用いた文書連想検索, 並列処理シンポジウム JSPP2002, ポスター・デモ, May 2002.
- 8, Akihiko Takano, Shingo Nishioka, Osamu Imaichi, and Yoshiki Niwa: Association Computation for Information Access, Asian Workshop on Programming Languages and Systems (APLAS02), November 2002.

講演・口頭発表等

- 1, A. Takano. Hylomorphism in Triplet Form (Invited Lecture). Workshop on Software Theory and Technology, Shanghai, April 2001.
- 2, 高野明彦:WWWによる情報検索技術の新しいトレンド, 専門図書館協議会全国研究集会, June 2001.
- 3, 高野明彦:連想的文書検索システム DualNAVI について, ACM SIGMOD 日本支部第 19 回大会, July 2001.
- 4, 高野明彦:電子ジャーナル利用技術の研究動向, 国立情報学研究所公開講演会, November 2001.
- 5, 高野明彦:連想に基づく文書情報アクセス(招待講演), 人工知能学会第 48 回人工知能基礎論研究会(SIGFAI), March 2002.
- 6, 高野明彦:連想に基づく情報空間との対話技術-連想の情報学を目指して(招待講演), 人工知能学会第 16 回全国大会, May 2002.
- 7, 高野明彦:連想に基づく情報空間との対話技術, 第 1 回 情報科学技術フォーラム FIT, September 2002.
- 8, 高野明彦:連想に基づく情報空間との対話技術(招待講演), 平成 14 年度日本データベース協会年末講演会, December 2002.
- 9, 高野明彦:連想に基づく情報空間との対話技術(招待講演), 2003 年情報学シンポジウム, January 2003.
- 10, 高野明彦:連想に基づく情報空間との対話技術, 言語処理学会第 9 回年次大会併設ワークショップ「メディア/モダリティ統合における言語処理」, March 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13 年度科学研究費補助金特定領域研究

「情報学」公募研究「連想計算の代数に基づく並列連想計算方式の研究」(13224094)。

平成 14 年度科学研究費補助金特定領域研究

「情報学」公募研究「連想計算の代数に基づく並列連想計算方式の研究」(14019085)。

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

科学技術振興事業団戦略的創造研究推進事

業(平成 13~18 年度) 研究領域「高度メディア社会の生活情報技術」:「連想に基づく情報空間との対話技術」。

氏名 佐藤 一郎 (さとう いちろう)
博士号 博士(工学)
所属・役職 助教授
電話番号 03-4212-2546
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 分散システム、プログラミング言語、ネットワーク

研究概要

分散システムのオブジェクトモデルやミドルウェア、プログラミング言語に関する研究に従事している。具体的にはコンピュータ間移動しながら処理を行うモバイルオブジェクト(エージェント)の実現システムの設計・実装及びその応用を行うとともに、次世代の分散システム向けミドルウェアとして動的にシステム構成を変化できる分散システムモデル・理論及びその設計・実装を行っている。

学歴

1987 年 4 月 慶應義塾大学理工学部入学
1991 年 3 月 慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業
1991 年 4 月 慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻修士課程入学
1993 年 3 月 慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻修士課程修了
1993 年 4 月 慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻後期博士課程入学
1996 年 3 月 慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻後期博士課程修了

主要経歴

1996 年 4 月 お茶の水女子大学理学部情報科学科助手
1998 年 4 月 お茶の水女子大学理学部情報科学科助教授
1999 年 4 月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科数理・情報専攻助教授(兼担)
1999 年 4 月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較社会文化学専攻助教授(兼担)
1999 年 10 月 科学技術振興事業団「さきがけ研究 21(「情報と知」領域)」研究員(兼業)
2000 年 4 月 国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授
2001 年 4 月 総合研究大学院大学情報学専攻系助教授
備考
1993 年~1996 年 日本学術振興会特別研究員
1994 年~1995 年 Rank Xerox Reserach Centre, Grenoble Laboratory 客員研究員

教育活動歴

「計算モデル特論」慶應義塾大学大学院理工学研究科前期博士課程
「計算理論」慶應義塾大学理工学部情報工学科 3・4 年生
「微分積分」お茶の水女子大学理学部情報科学科 1 年生
「計算システム序論」お茶の水女子大学理学部情報科学科 1 年生
「オペレーティングシステム」お茶の水女子大学理学部情報科学科 3・4 年生
「システムプログラミング実習」お茶の水女子大学理学部情報科学科 2 年生
「情報科学特別講義第 4」お茶の水女子大学理学部情報科学科 2 年生
「計算機システム論第 1」東京工業大学情報科学科 4 年生
「プログラミング言語」総合研究大学院大学情報学専攻

大学院担当講義

プログラミング言語

学協会活動

日本ソフトウェア科学会編集委員(2002～)
日本ソフトウェア科学会企画委員会委員(1998～)
日本ソフトウェア科学会オブジェクト指向研究会プログラム委員(1998～)
日本ソフトウェア科学会プログラミング言語研究会(2001～2002)
日本ソフトウェア科学会平成 13 年度全国大会プログラム委員
日本ソフトウェア科学会平成 14 年度全国大会プログラム委員
情報処理学会規格調査室形式仕様記述 WG 委員(1997～)
情報処理学会論文誌編集委員会編集委員(1999～)
情報処理学会「マルチメディア通信と分散処理研究会(DPS)」運営委員(2000～)
情報処理学会「モバイルコンピューティング研究会(MBL)」運営委員(2001～)
電子情報通信学会「新世代ネット研究専門委員会」専門委員(2001～)
情報処理学会「オブジェクト指向シンポジウム (OO'2001)プログラム委員(2001～)
Internet Conference プログラム委員(2001～)
Joint Symposium on Parallel Processing (JSPP'2000)プログラム委員(1999～)
International Conference on Technology of Object-Oriented Languages and Systems (TOOLS)
プログラム委員(2000～)
International Conference on Mobile Agents (MA'2002)プログラム委員(2002)
International Conference Artificial and Computational Intelligence (ACI 2002)プログラム委員
(2002)
IEEE International Symposium on Object-oriented Real-time distributed Computing
(ISORC'2003) プログラム委員
International Conference on Real-Time and Embedded Computing Systems and Applications
(RTCSA'2003) プログラム委員
IEEE International Conference on Pervasive Computing and Communication (PerCom'2003)プロ
グラム委員(2002)
英文ジャーナル NewGeneration Computing 編集委員(2001～)

社会貢献活動

1996～2001 年 ISO/JIS 形式的仕様記述言語ワーキンググループ委員
2001 年度経済産業省／新エネルギー産業技術総合開発機構「どこでもネット／誰でも IT 促進調
査委員会他

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Ichiro Satoh, "Adaptive Protocols for Agent Migration", Proceedings of IEEE International
Conference on Distributed Computing Systems (ICDCS'2001), pp.711-714, IEEE Computer
Society, April, (2001)
Ichiro Satoh, "Application-Specific Routing for Mobile Agents", Proceedings of International
Conference on Software Engineering, Artificial Intelligence, Networking & Parallel/
Distributed Computing, pp.299-305, the International Association for Computer and Information Series,
August, (2001)
Ichiro Satoh, "Network Processing of Mobile Agents, by Mobile Agents, for Mobile Agents",
Proceedings of 3rd International Workshop on Mobile Agents for Telecommunication
Applications (MATA'2001), Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Vol.2146, Springer,
pp.81-92, August, (2001)
Ichiro Satoh, "Mobile Agent-based Compound Documents", Proceedings of ACM Symposium on
Document Engineering (DocEng'2001), pp.76-84, ACM Press, November, (2001)
Ichiro Satoh, "Flying Emulator: Rapid Building and Testing of Networked Applications for Mobile
Computers", Proceedings of 5th International Conference on Mobile Agents (MA'2001), Lecture
Notes in Computer Science (LNCS), Vol. 2240, pp.103-118, Springer, December, (2001)

Ichiro Satoh, "Dynamic Configuration of Agent Migration Protocols for the Internet", Proceedings of International Symposium on Applications and the Internet (SAINT'2002), IEEE Computer Society, pp.119-126, January, (2002)

Tatuo Nakajima, Ichiro Satoh, Hiroyuki Aizu, "A Virtual Overlay Network for Integrating Home Appliances", Proceedings of International Symposium on Applications and the Internet (SAINT'2002), IEEE Computer Society, pp.246-253, January, (2002)

Tatuo Nakajima and Ichiro Satoh, "Naming Management in a Web-based Home Computing System", Proceedings of IASTED International Conference Applied Informatics International Symposium on Parallel and Distributed Computing and Networks, pp. 137-142, IASTED, (2002)

Ichiro Satoh, "A Framework for Building Reusable Mobile Agents for Network Management", Proceedings of Network Operations and Managements Symposium (NOMS'2002), pp.51-64, IEEE Communication Society, April, (2002)

Ichiro Satoh, "Building Reusable Mobile Agents", Proceedings of International Conference on Artificial and Computational Intelligence (ACI'2002), September, (2002)

D. Ueno, E. Tokunaga, H. Ishikawa T. Nakajima, and I. Satoh, "Connecting Object-Oriented Middleware for Home Computing with Virtual Overlay Networks", 5th IEEE International Symposium on Object-Oriented Real-Time Distributed Computing, pp.163-168, IEEE Computer Society, (2002)

Takeshi Umezawa, Ichiro Satoh, Yuichiro Anzai, "A Mobile Agent-based Framework for Configurable Sensor Networks", 4th International Workshop on Mobile Agents for Telecommunication Applications (MATA'2002), LNCS, Vol.2521, pp. 128-140, Springer, October, (2002)

Ichiro Satoh, "Physical Mobility and Logical Mobility in Ubiquitous Computing Environments", Proceedings of 6th International Conference on Mobile Agents (MA'2002), LNCS, Vol.2535, pp. 186-202, Springer, October, (2002)

Ichiro Satoh, "Network Protocols for Mobile Agents by Mobile Agents", Journal of Information Processing Society of Japan, Vol.44, No.3, pp. 760-770, (2003)

Ichiro Satoh, "Reusable Mobile Agents for Managing Networks", 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.11, pp. 3448-3457, November (2002)

佐藤一郎: "Flying Emulator: 携帯端末用ソフトウェアの開発試験環境", 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.12, pp. 3765-3774, December (2002)

谷澤 佳道, 佐藤一郎, 安西祐一郎: "ユビキタスコンピューティング環境構築のためのモバイルエージェントフレームワーク", 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.12, pp.3774-3784, December (2002)

Ichiro Satoh, "Software Testing for Ubiquitous Computing Devices", Proceedings of Interfactual Conference on Applied Informatics, pp.553-558, February 2003

Ichiro Satoh, "Network Protocols for Mobile Agents by Mobile Agents", 情報処理学会論文誌, Vol.44, No.3, pp.760-770, March (2003)

梅澤猛, 佐藤一郎, 安西祐一郎: "モバイルエージェントを用いたセンサネットワーク向けフレームワーク", 情報処理学会論文誌, Vol.44, No.3, pp.779-788, March, (2003)

特許・公開ソフトウェア・作品等

特許(申請中) 佐藤一郎(発明者)「モバイル・エミュレータ・システム」科学技術振興事業団(権利者)特願 2001-365830 平成 13 年 11 月 30 日

特許(申請中) 佐藤一郎(発明者)「機器統合のためのネットワーク構築装置」特願 2002-8358 号 平成 14 年 1 月 30 日

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12~14 年度科学研究補助費基盤研究(C)(平成 14 年度まで)「移動オブジェクトと分散トランザクションを統合する分散システムの設計と実装」(500 万円)

平成 13 年度科学研究費補助金特定領域研究「モバイルソフトウェアコンポーネントに関する研究」
(350 万円)

平成 14 年度科学研究費補助金特定領域研究「モバイルソフトウェアコンポーネントに関する研究」
(330 万円)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

平成 12～14 年度科学技術振興事業団:個人研究推進事業(さきがけ研究 21)「自律的通信パケットによる動的ネットワーク」(3600 万円)

平成 13 年度情報処理振興事業協会:高度情報化支援ソフトウェアシーズ育成事業「アプリケーションレベル仮想ネットワークに関する研究」(300 万円)

平成 14～16 年度総務省戦略的情報通信研究開発推進制度(研究主体育成型研究開発)「携帯端末向けソフトウェアの開発・試験システム」(2400 万円)

(3) その他の研究費

400 万円

氏名 細部 博史 (ほそべ ひろし)
博士号 博士(理学)
所属・役職 ソフトウェア研究系 プログラミング言語研究部門 助手
電話番号 03-4212-2587
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 計算機科学

研究概要

情報学における重要課題であるソフトウェアに関する研究を行っており、特に制約を宣言的に記述することでプログラムを構築する手法である制約プログラミングを主要なテーマとしている。具体的な研究内容としては、制約解消法を中心とする基礎研究を行い、さらにその成果をもとにユーザインターフェースや対話型グラフィクス、情報視覚化を対象とした応用研究を行っている。

学歴

1993 年 3 月 東京大学 理学部 情報科学科 卒業

1995 年 3 月 東京大学 大学院理学系研究科 情報科学専攻 修士課程 修了

1998 年 3 月 東京大学 大学院理学系研究科 情報科学専攻 博士課程 修了

主要経歴

1997 年 4 月～1998 年 3 月 日本学術振興会 特別研究員-DC (東京大学 大学院理学系研究科)

1998 年 4 月～1999 年 3 月 日本学術振興会 特別研究員-PD (東京大学 大学院理学系研究科)

1999 年 4 月～2000 年 3 月 学術情報センター 学術情報研究系 助手

2000 年 4 月～現在 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 助手

教育活動歴

2001 年 4 月～現在 法政大学 兼任講師

2002 年 4 月～現在 総合研究大学院大学 数物科学研究科 情報学講座 助手 (併任)

学協会活動

1993 年～現在 日本ソフトウェア科学会 正会員 (1998 年 3 月まで学生会員)

1999 年～現在 情報処理学会 正会員

1999 年～現在 Association for Computing Machinery (ACM) 正会員

社会貢献活動

2001 年～2002 年 情報科学国際交流財団 産学戦略的研究フォーラム 平成 13 年度調査研究「実世界指向インターフェースにおける大スクリーン表示と携帯端末との連携技術」メンバー

2002 年～2003 年 情報科学国際交流財団 産学戦略的研究フォーラム 平成 14 年度調査研究「モバイル/ユビキタスコンピューティングのための表示技術-大画面表示と小画面表示の連携技

術」メンバー

2002年～2003年 新エネルギー・産業開発総合開発機構(NEDO) (委託先:財団法人日本システム開発研究所) 平成14年度調査「次世代ヒューマンインターフェース技術に関する調査」「体験を豊かに」WG 委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

細部博史, 「対話型インターフェースのための幾何制約解消の枠組み」, 情報処理学会論文誌, Vol. 42, No. 6, pp. 1424-1434, 2001.

Hiroshi Hosobe, "A Hierarchical Framework for Integrating Constraints with Graph Layouts," in Michitaka Hirose (Ed.), Human-Computer Interaction--INTERACT'01 (Proceedings of the 8th IFIP TC.13 Conference on Human-Computer Interaction), pp. 704-705, IOS Press, 2001.

Hiroshi Hosobe, "A Modular Geometric Constraint Solver for User Interface Applications," in Proceedings of the 14th Annual ACM Symposium on User Interface Software and Technology (UIST'01), CHI Letters, Vol. 3, Issue 2, pp. 91-100, ACM Press, 2001.

細部博史, 「ユーザインターフェースのための線形等式・不等式制約解消系」, 第5回プログラミングおよび応用のシステムに関するワークショップ・オンライン論文集, 8 pp., 日本ソフトウェア科学会ソフトウェアシステム研究会, 2002.

Hiroshi Hosobe, "A Geometric Constraint Library for 3D Graphical Applications," in Proceedings of the 2nd International Symposium on Smart Graphics, ACM International Conference Proceedings Series, pp. 94-101, ACM Press, 2002.

細部博史, 「ユーザインターフェースのための線形等式・不等式制約解消系」, コンピュータソフトウェア, Vol. 19, No. 6, pp. 13-20, 日本ソフトウェア科学会, 2002.

Hiroshi Hosobe and Satoshi Matsuoka, "A Foundation of Solution Methods for Constraint Hierarchies," in Constraints, Vol. 8, No. 1, pp. 41-59, Kluwer Academic Publishers, 2003.

細部博史, 「対話型3次元アプリケーションのための幾何制約解消法」, 情報処理学会論文誌, Vol. 44, No. 2, pp. 486-495, 2003.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

アンディ・ドナン(著), 松田晃一, 細部博史, 由谷哲夫(訳), 携帯通信とモバイルの世界, 312 pp., セレンディップ・小学館, 2002.

内藤衛亮, 細部博史(編), 社会コミュニケーションの研究 2001年度研究報告書, 152 pp. 国立情報学研究所, 2002.

細部博史, 「ビジネス情報基盤におけるシステム要件-ユーザインターフェースを対象とした制約プログラミング」, 社会コミュニケーションの研究 2001年度研究報告書, pp. 133-138, 国立情報学研究所, 2002.

徳田英幸他(分担執筆), 次世代ヒューマンインターフェース技術に関する調査-平成14年度調査報告書, 174 pp., 新エネルギー・産業開発総合開発機構(NEDO) (委託先:財団法人日本システム開発研究所), 2003 (担当箇所:「4.3.2. トランスコーディング」, pp. 73-75).

講演・口頭発表等

細部博史, 「Chorus3D: 対話型3次元アプリケーションのための幾何制約解消系」, 日本ソフトウェア科学会第19回大会論文集, 4 pp., 2002 (高橋奨励賞受賞).

Hiroshi Hosobe, "CO-EXIST-SEA Training Course," 4th Workshop of the Cooperative Program for the Exchange of Experiences, Expertise, and Information on Science and Technology in Southeast Asian Countries (4th CO-EXIST-SEA Workshop), 7 pp., 2002.

Hiroshi Hosobe, "Status Report: National Institute of Informatics," 4th Workshop of the Cooperative Program for the Exchange of Experiences, Expertise, and Information on Science and Technology in Southeast Asian Countries (4th CO-EXIST-SEA Workshop), 4 pp., 2002.

細部博史, 「ユーザインターフェースを対象とした制約プログラミング」, 第23回NII定例研究会, 国立情報学研究所, 2002.

細部博史, 「高次元配置を用いたグラフの視覚化」, 情報処理学会第65回全国大会講演論文集,

Vol. 4, pp. 63-64, 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12 年度科学研究費補助金 奨励研究(A) (平成 12~13 年度:220 万円)「大規模グラフィカルユーザーインターフェースのための軽量制約プログラミング技術」(12780252)

平成 14 年度科学研究費補助金 若手研究(B) (平成 14~16 年度:320 万円)「力学的アプローチによる柔らかい制約システムの研究」(14780248)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

稲盛財団 平成 14 年度研究助成金 (平成 14~15 年度:100 万円)「階層的優先度を伴った非線形制約システムの解析と視覚的インターフェースへの応用」

◆ソフトウェア工学研究部門

氏名 浜田 喬 (はまだ たかし)

博士号 工学博士

所属・役職 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 教授

電話番号

ファクシミリ

専門分野 情報通信工学

研究概要

データベース

並列処理

ユーザインターフェース

学歴

東京大学工学部電子工学科 1964 卒業

東京大学大学院数物系研究科電子工学専門課程修士課程 1966 修了

東京大学大学院工学系研究科電子工学専門課程博士課程 1969 修了

主要経歴

1969.04 東京大学生産技術研究所助教授

1986.04 学術情報センター教授

1988.04 学術情報センター システム研究系研究主幹 併任

1996.04 学術情報センター 教育研修部長 併任

2000.04 国立情報学研究所教授

2000.04 国立情報学研究所 国際・研究協力部長 併任

教育活動歴

1971.04 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻併任

2001.04 東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻併任

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Shin'ichi Satoh, Yuichi Idehara, Hiroshi Mo, and Takashi Hamada, "Subject Region Segmentation in Disparity Maps for Image Retrieval," International Conference on Image Processing (ICIP2001), Vol.-II, pp. 725-728, Thessaloniki, Greece, October 7-10, 2001.

孟 洋, 出原優一, 佐藤 真一, 濱田 喬, "視差画像を用いた画像検索のための注目物体領域切り出し手法," 電子情報通信学会論文誌, Vol. J85-D-II, No. 6, pp. 1006-1015, 2002.

山岸史典, 佐藤真一, 濱田 喬, "大規模映像アーカイブのための映像断片照合の高速化," 情報技術レターズ, 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), 2002.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

山岸 史典, 佐藤 真一, 浜田 喬, "大規模放送映像アーカイブにおける映像断片照合の提案と

高速化,” 電子情報通信学会技術研究報告, PRMU, 2002.

佐藤真一, 出原 優一, 孟 洋, 浜田 喬, “視差画像を用いた注目物体領域切り出し手法 - 実物体による画像検索への応用 -, ” 画像ラボ, Vol.14, No.1, pp.17-20, 2003.

講演・口頭発表等

山本光慶, 孟 洋, 佐藤真一, 浜田 喬, “顔特徴点の位置情報を用いた高精度の顔照合手法の検討,” 2001年電子情報通信学会総合大会, D-12-20, 2002.

于 川, 佐藤真一, 浜田 喬, “時空間映像を用いた新たなシーンチェンジ検出手法の提案,” 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), I-67, 2002.

瀧本政雄, 佐藤真一, 浜田 喬, “動画像検索のための着目領域発見手法の検討,” 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), I-55, 2002.

于 川, 佐藤真一, 浜田 喬, 浅野正一郎, “時空間映像中の平面パターンの抽出によるシーンチェンジ検出手法,” 電子情報通信学会総合大会, 2003.

山岸史典, 佐藤真一, 浜田 喬, 坂内正夫, “正規化輝度ヒストグラムによる映像断片照合の効率化,” 電子情報通信学会総合大会, 2003.

瀧本政雄, 佐藤真一, 浜田 喬, 坂内正夫, “時間変化パターンの同一性に基づく映像照合,” 電子情報通信学会総合大会, 2003.

氏 名 佐藤 真一 (さとう しんいち)

博士号 1992年工学博士(東京大学)

所属・役職 ソフトウェア研究系・助教授

電話番号 03-4212-2620

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報学

研究概要

画像・映像のデータベース化のための解析手法、管理手法、解析結果から情報発見を行うためのデータマイニング手法、およびその結果をメタデータとして利用した映像データベース構築に関する研究を行っている。

学 歴

1987年3月 東京大学工学部電子工学科卒業

1987年4月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程入学

1989年3月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程修了

1989年4月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程入学

1992年3月 東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了

主要経歴

1992年4月 学術情報センターシステム研究系ソフトウェア工学研究部門助手

1995年4月 文部省在外研究員として米国カーネギーメロン大学へ出張(1997年4月まで)

1998年4月 学術情報センターシステム研究系ソフトウェア工学研究部門助教授

2000年4月 国立情報学研究所ソフトウェア研究系ソフトウェア工学研究部門助教授

受賞等

2001年1月 The 4th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI2000) and the 6th International Conference on Information Systems Analysis and Synthesis (ISAS2000), Best Paper Award

教育活動歴

1992～現在 浜田教授の指導補助として東京大学電気電子工学科の大学院学生の指導

2000～現在 RAの研究指導

2002～現在 総合研究大学院大学情報学専攻兼任

大学院担当講義

画像処理(総合研究大学院大学)

学協会活動

- 1992年～ 電子情報通信学会論文誌査読委員
2001年 電子情報通信学会パターン理解とメディア理解研究会幹事補佐
2002年 電子情報通信学会パターン理解とメディア理解研究会幹事
2001年 International Conference on Multimedia and Expo, Program committee
2001年 The Second IEEE Pacific-Rim Conference on Multimedia, Tutorial/Special Session Chair
2002年 International Workshop on Multimedia Information Retrieval, Program committee
2002年 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2002) プログラム委員
2002年 International Conference on Pattern Recognition, Program committee
2003年 AAI-03 Spring Symposium on Intelligent Multimedia Knowledge Management, Organizing Committee

社会貢献活動

- 1998～2002年 文部省学術調査官(併任)
1999年～現在 画像情報教育振興協会委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

- Norio Katayama and Shin'ichi Satoh, Distinctiveness-Sensitive Nearest-Neighbor Search for Efficient Similarity Retrieval of Multimedia Information, International Conference on Data Engineering (ICDE2001), pp. 493-502, Heidelberg, Germany, Apr. 2-6, 2001.
Shin'ichi Satoh, Yuichi Idehara, Hiroshi Mo, and Takashi Hamada, Subject Region Segmentation in Disparity Maps for Image Retrieval, International Conference on Image Processing (ICIP2001), Vol.-II, pp. 725-728, Thessaloniki, Greece, October 7-10, 2001.
孟 洋, 出原優一, 佐藤 真一, 濱田 喬, 視差画像を用いた画像検索のための注目物体領域切り出し手法, 電子情報通信学会論文誌, Vol. J85-D-II, No. 6, pp. 1006-1015, 2002.
山岸史典, 佐藤真一, 濱田 喬, 大規模映像アーカイブのための映像断片照合の高速化, 情報技術レターズ, 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), 2002.
Shin'ichi Satoh, News Video Analysis Based on Identical Shot Detection, International Conference on Multimedia and Expo (ICME2002), Lausanne, Switzerland, 2002.
Ichiro IDE, Norio KATAYAMA, Shin'ichi SATOH, Visualizing the Structure of a Large Scale News Video Corpus Based on Topic Segmentation and Tracking, International Workshop on Multimedia Information Retrieval (MIR2002), in conjunction with ACM Multimedia 2002, 2002.
佐藤真一, 画像検索, 映像検索, in AI 事典, 共立出版, 2003年.
Shin'ichi Satoh and Norio Katayama, Indexing Video Archives: Analyzing, Organizing, and Searching Video Information, in Boriko Furht and Oge Marques eds., Handbook of Video Databases, CRC Press, Boca Raton, Florida, to appear in 2003.
Ichiro IDE, Hiroshi Mo, Norio KATAYAMA, Shin'ichi SATOH, Topic-Based Structuring of a Very Large-Scale News Video Corpus, AAI-03 Spring Symposium on Intelligent Multimedia Knowledge Management, Stanford University, Palo Alto, CA, USA, Mar. 24-26, 2003.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

- 片山 紀生, 孟 洋, 佐藤 真一, 映像インデクシング研究のための大規模放送映像アーカイブシステムの試作, 情報処理学会研究会, SIGDBS, SIGFI, 2002.
片山 紀生, 佐藤 真一, 映像断片照合を用いた大規模ニュース番組映像アーカイブの構造化, 電子情報通信学会技術研究報告, PRMU, 2002.
馬場口 登, 栄藤 稔, 佐藤真一, 安達 淳, 阿久津 明人, 有木 康雄, 越後 富夫, 柴田 正啓, 全 炳東, 中村裕一, 美濃導彦, 松山隆司, 映像処理評価用映像データベースについて, 電子情報通信学会技術研究報告, PRMU, 2002.
山岸 史典, 佐藤 真一, 浜田 喬, 大規模放送映像アーカイブにおける映像断片照合の提案と高速化, 電子情報通信学会技術研究報告, PRMU, 2002.

佐藤真一, 斎藤英雄, 馬場口登, パターン認識・メディア理解研究専門委員会活動報告: ビデオデータベース及び研究会発表受付システムの作成, 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ誌, Vol.-6, No.-4, pp.-8-9, 2002.

佐藤真一, 出原 優一, 孟 洋, 浜田 喬, 視差画像を用いた注目物体領域切り出し手法 - 実物体による画像検索への応用 -, 画像ラボ, Vol.-14, No.-1, pp.-17-20, 2003.

佐藤真一, 「研究最前線」映像・マルチメディア処理, 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ誌, Vol.-8, No.-1, pp.-8-9, 2003.

講演・口頭発表等

山本光慶, 孟 洋, 佐藤真一, 浜田 喬, 顔特徴点の位置情報を用いた高精度の顔照合手法の検討, 2001年電子情報通信学会総合大会, D-12-20, 2002.

于 川, 佐藤真一, 浜田 喬, 時空間映像を用いた新たなシーンチェンジ検出手法の提案, 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), I-67, 2002.

瀧本政雄, 佐藤真一, 浜田 喬, 動画像検索のための着目領域発見手法の検討, 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), I-55, 2002.

柳瀬健吾, 孟 洋, 佐藤真一, 坂内正夫, 複数のビューを用いた対話的な映像検索手法の提案, 第一回情報科学技術フォーラム(FIT2002), D-25, 2002.

于 川, 佐藤真一, 浜田 喬, 浅野正一郎, 時空間映像中の平面パターンの抽出によるシーンチェンジ検出手法, 電子情報通信学会総合大会, 2003.

山岸史典, 佐藤真一, 浜田 喬, 坂内正夫, 正規化輝度ヒストグラムによる映像断片照合の効率化, 電子情報通信学会総合大会, 2003.

瀧本政雄, 佐藤真一, 浜田 喬, 坂内正夫, 時間変化パターンの同一性に基づく映像照合, 電子情報通信学会総合大会, 2003.

柳瀬健吾, 孟 洋, 佐藤真一, 坂内正夫, VideoFrontPage: ニュース映像アーカイブの代表ページの自動構築, 電子情報通信学会総合大会, 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13 年度科学研究費補助金特定領域研究(C) (平成 13 年度:480 万円)「映像の知的構造化による大規模ニュース映像コーパスからの検索・情報発見に関する研究」

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

放送文化基金(平成 14~15 年度:250 万円) 「大規模放送映像アーカイブ型フォームサーバーに関する研究」

氏 名 孟 洋 (もう ひろし)
博士号 1997 年 博士(工学)(東京大学)
所属・役職 ソフトウェア研究系 ソフトウェア工学研究部門 助手
電話番号 03-4212-2582
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

映像情報処理技術を中心に、マルチメディア情報の高度な利用を実現するため、下記のような研究を行っている。

(1) 「事例型映像索引付け手法」

映像内容と映像特徴の共起性に着目した映像索引付け手法の検討

(2) 「大規模映像アーカイブシステム」

実証的かつ統計的な映像解析を可能とする大規模放送映像アーカイブシステムの構築

(3) 「映像の知的構造化」

意味的あるいは画像的な類似性に基づく映像情報の関連性の抽出及び構造化の検討

学 歴

1990年03月 武蔵工業大学 工学部 電気電子工学科 卒業
1992年03月 武蔵工業大学大学院 工学研究科 電気工学専攻 修士課程 修了
1997年03月 東京大学大学院 工学系研究科 電子工学専攻 博士課程 修了

主要経歴

1997年04月 日本学術振興会 特別研究員 PD(東京大学生産技術研究所)
1998年10月 学術情報センター 研究開発部 システム研究系 助手
2000年04月 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 助手
2001年04月 メディア教育開発センター 共同研究員(併任)
2002年04月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助手(併任)
2002年04月 学習院大学 計算機センター 非常勤講師(兼任)

教育活動歴

2002年04月～ 学習院大学 計算機センター 非常勤講師(担当講義: 初等情報処理 I & II)

学協会活動

電子情報通信学会(1993年～)、情報処理学会(1995年～)、日本ファジィ学会(1989年～)、映像情報メディア学会(2001年～)各正員
映像情報メディア学会出版委員会委員(2002年～)
電子情報通信学会 PRMU 映像処理評価用映像データベース MPEG7 メタデータ記述担当(2001年12月～2002年06月)
電子情報通信学会 PRMU 若手プログラム実行委員(2002年07月)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

S.Satoh, Y.Idehara, H.Mo, and T.Hamada: Subject Region Segmentation in Disparity Maps for Image Retrieval, Proc. of 2001 International Conference on Image Processing (ICIP2001) (Oct. 2001)
孟洋, 出原優一, 佐藤真一, 浜田喬: 視差画像を用いた画像検索のための注目物体領域切り出し手法, 電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J85-D-II, no.6, pp.1006-1015 (Jun. 2002)
佐藤真一, 出原優一, 孟洋, 浜田喬: 視差画像を用いた注目物体領域切り出し手法, 画像ラボ, vol.14, no.1, pp.17-20 (Jan. 2003)
I.Ide, H.Mo, N.Katayama, and S.Satoh: Topic-Based Structuring of a Very Large-Scale News Video Corpus, AAAI 2003 Spring Symposium on Intelligent Multimedia Knowledge Management (Mar. 2003)

上記に含まれる論文・記事・著作物等

孟洋, 佐藤真一: 映像コーパスに基づく映像フィルタリングシステム, 画像電子学会第186回研究会講演予稿, pp.9-14 (Jun. 2001)
片山紀生, 孟洋, 佐藤真一: 映像インデクシング研究のための大規模放送映像アーカイブシステムの試作, 情報処理学会研究報告, 02-DBS-127, pp.17-23 (May 2002)

講演・口頭発表等

山本光慶, 孟洋, 佐藤真一, 浜田喬: 映像中から検出された顔の照合における前処理の検討, 2001年電子情報通信学会情報・システムソサイエティ大会講演論文集, D-12-25, pp.200 (Sep. 2001)
于川, 孟洋, 佐藤真一, 浜田喬: 放送映像アーカイブにおけるブラウジング機能の検討, 2001年電子情報通信学会情報・システムソサイエティ大会講演論文集, D-12-41, pp.216 (Sep. 2001)
孟洋, 佐藤真一: 映像特徴の出現パターンの共起性とその利用に関する予備的検討, 2001年電子情報通信学会情報・システムソサイエティ大会講演論文集, D-12-42, pp.217 (Sep. 2001)
佐藤貴, 孟洋, 柳沼良知, 坂内正夫: 放送ストリームからの実世界関連映像の取得, 2001年電子情報通信学会情報・システムソサイエティ大会講演論文集, D-11-85 (Sep. 2001)
山本光慶, 孟洋, 佐藤真一, 浜田喬: 顔特徴点の位置情報を用いた高精度の顔照合手法の検討, 2002年電子情報通信学会総合大会講演論文集, D-12-20 (Mar. 2002)

佐藤貴, 孟洋, 柳沼良知, 坂内正夫: 地図に基づく実世界関連映像提供システムの構築に関する一検討, 2002年電子情報通信学会総合大会講演論文集, D-11-131 (Mar. 2002)

柳瀬健吾, 孟洋, 佐藤真一, 坂内正夫: 複数のビューを用いた対話的な映像検索手法の提案, 第1回情報科学技術フォーラム講演論文集 (FIT2002), D-25 (Sep. 2002)

柳瀬健吾, 孟洋, 佐藤真一, 坂内正夫: VideoFrontPage: ニュース映像アーカイブの代表ページの作成, 2003年電子情報通信学会総合大会講演論文集, A-16-33 (Mar. 2003)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成13年度科学研究費補助金奨励研究(A)(2001年04月～2003年03月: 170万円)「実映像情報に基づく事例型映像索引付け手法に関する研究」(13780346)

◆データ工学研究部門

氏名 計 宇生 (けい うせい)
博士号 工学博士
所属・役職 ソフトウェア研究系 助教授
電話番号 03-4212-2525
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報通信工学

研究概要

情報通信ネットワークと分散処理に興味をもっており、現在、以下のようなテーマについて研究を行っている:

- ・サービス品質を保証するためのトラフィック制御方式の研究
- ・マルチメディア通信トラフィック特性の解析と応用の研究
- ・次世代通信ネットワークのスイッチングアーキテクチャの研究
- ・分散処理システムにおける資源管理方式の研究

学 歴

1984年3月 東京大学工学部電子工学科卒業
1986年3月 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了
1989年3月 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了 工学博士

主要経歴

1990年4月 学術情報センターシステム研究系助手
1995年7月 学術情報センター学術情報研究系助教授
2000年4月 国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授
2000年4月 国立情報学研究所国際・研究協力部研究成果普及推進室併任(2002年4月まで)
2002年4月 総合研究大学院大学数物科学研究科助教授併任

教育活動歴

2000年～ 国際基督教大学非常勤講師
2002年～ 総合研究大学院大学数物科学研究科助教授併任

大学院担当講義

通信プロトコル

学協会活動

電子情報通信学会会員(1984年～)
情報処理学会会員(1984年～)
Institute of Electrical and Electronics Engineers 会員(1994年～)
論文誌等の査読委員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

計 宇生, 「情報流通プラットフォームにおける QoS 保証のためのトラフィック制御」, NII Journal No.3,

pp.23-33 (2001).

丸山勝巳, 児玉和也, 日高宗一郎, 橋爪宏達, 計 宇生, 井手一郎, 中村 明, 「高信頼制御システムのための拡張型分散 OS」, NII Journal, No.3, pp.35-44 (2001).

阿部俊二, 藤野貴之, 計 宇生, 松方 純, 浅野正一郎, 「学術情報ネットワークにおける自己相関トラヒックの解析」, インターネットコンファレンス 2001 論文集, pp.151-158 (2001).

K. Ono, S. Satoh, F. Andres, Y. Ji and N. Katayama, "Creating a Global Multimedia Repository Framework for Cultural Heritage with Advanced Information Technology," Proc. of the Tokyo Symposium for Digital Silk Roads, pp.179-188 (2001).

S. Hidaka, K. Kodama, Y. Ji and K. Maruyama, "A File Server Optimization Using Scatter/Gather IPC on L4 Based Multi-Server Operating System," Proc. 6th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI2002), Florida (2002).

特許・公開ソフトウェア・作品等

藤野, 浅野, 阿部, 計, 趙, 松方他, 「情報提供システムおよび情報提供方法」, 特願 2003-033940 号.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

計, アドレス, 北本, 「高速通信ネットワークを用いた没入型仮想シンビオティック情報システムのための 3 次元データの実時間伝送」, COE プロジェクト「シンビオティック情報システムの概念形成と実現技術」平成 12 年度報告書, pp.25-27 (2001).

滝田, 計, 浅野, 「MPLS トラヒックエンジニアリングにおける複数経路の設定方法とバランシングに関する検討」, 電子情報通信学会技術研究報告, NS2001-247, pp.171-176 (2002).

藤野, 上岡, 阿部, 計, 松方, 山田, 浅野, 「学術情報ネットワークへの IPv6 導入と今後の展開」, 電子情報通信学会技術研究報告, NS2001-253, pp.217-222 (2002).

丸山, 児玉, 日高, 橋爪, 計, 井手, 中村, 「高信頼制御システムのための拡張型分散 OS」, CoE プロジェクト「シンビオティック情報システムの概念形成と実現技術」平成 13 年度報告書, pp.1-10 (2002).

計, 藤野, 阿部, 趙, 松方, 浅野, 「適正時間スケールを利用した長期依存性トラヒックの近似解析」, 電子情報通信学会技術研究報告, IN2002-185, IA2002-41, pp.13-18 (2003).

講演・口頭発表等

計 宇生, 「3 次元動画像の実時間転送に向けて」COE 支援プログラム「シンビオティック情報システムの概念形成と実現技術」月例発表 (2001).

浅野, 山田, 松方, 計, 趙, 阿部, 藤野, 上岡, 「次世代ネットワークの研究」, NII オープンハウス (2002).

浅野, 山田, 米田, 松方, 計, 趙, 阿部, 松本, 藤野, 上岡, 「次世代ネットワークと計算機アーキテクチャの研究」, NII オープンハウス(2002).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

基盤研究(C) (平成 13 年度~15 年度, 3100 千円)「トラヒックの実測データを利用した情報伝達品質の制御手法に関する研究」(13680502)

氏 名 高須 淳宏 (たかす あつひろ)
博士号 1989 年 工学博士(東京大学)
所属・役職 実証研究センター 実証研究推進室・教授
電話番号 03-4212-2519
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 データ工学

研究概要

統計モデルに基づいた記号列の解析法と情報統合への応用に関する研究を行っている。この研究では、記号列対の類似度の計算や記号列の構造を抽出をできるように隠れマルコフモデルを拡張

し、複数のデータベースにあるレコードの文字列類似度に基づいて統合や、類似検索問題に応用している。また、最近は、時系列データの解析へと研究を展開している。

学 歴

- 1984年3月 東京大学工学部卒業
- 1986年3月 東京大学大学院修士課程終了
- 1989年3月 東京大学大学院博士課程終了(工学博士)

主要経歴

- 1989年4月 学術情報センター研究開発部助手
- 1993年7月 学術情報センター研究開発部助教授
- 2000年4月 国立情報学研究所助教授
- 2003年5月 国立情報学研究所教授(現在に至る)

教育活動歴

- 明治大学非常勤講師(1996～現在)
- 総合研究大学院大学数物科学研究科助教授(2002～2003)
- 総合研究大学院大学数物科学研究科教授(2003～現在)

大学院担当講義

- 総研大 データ工学

学協会活動

- 電子情報通信学会(1992～現在)
- 情報処理学会(1989～現在)
- 人工知能学会(1989～現在)
- 日本データベース学会(2002～現在)
- ACM(1997～現在)
- IEEE(2000～現在)
- 電子情報通信学会ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員(1995年～現在)
- 電子情報通信学会データ工学研究専門委員会専門委員(1998年～現在)
- 情報処理学会論文誌編集委員(1999年～2003年)
- 電子情報通信学会英文論文誌編集委員(2002年～現在)
- 情報処理学会データベースシステム研究運営委員会委員(1999年～2003年)
- データ工学ワークショッププログラム委員(1999～現在)
- ACM SIGMOD 日本支部幹事(2001～2003年)
- 情報科学技術フォーラムプログラム委員(2003)
- International Conference on Web Intelligence プログラム委員(2001～2003)
- IEEE International Conference on Data Mining プログラム委員(2001,2002)
- International Conference on Intelligent Data Engineering and Automated Learning プラグラム委員(2002,2003)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- Atsuhiko Takasu: Document Filtering for Fast Approximate String Matching of Erroneous Text, Proceedings of 6th International Conference on Document Analysis and Recognition (ICDAR), pp.916-920, Seattle, USA, 2001
- Teruhito Kanazawa, Akiko Aizawa, Atsuhiko Takasu, Jun Adachi: The Effects of the Relevance-Based Superimposition Model in Cross-Language Information Retrieval, Lecture Notes in Computer Science 2163 (ECDL), pp.312-324, 2001
- Atsuhiko Takasu: Classification of Object Sequences Using Syntactical Structure, Progress in Discovery Science, Lecture Notes in Artificial Intelligence 2281, pp.318-326, 2001
- Atsuhiko Takasu, Kenro Aihara: DVHMM: Variable Length Text Recognition Error Model, Proceedings of 16th International Conference on Pattern Recognition (ICPR), Vol.3, pp.110-114, Quebec City, Canada, 2002

金澤輝一, 相澤彰子, 高須淳宏, 安達淳: 日英言語横断検索における関連性の重ね合わせモデルの効果, 情報処理学会論文誌:データベース, Vol.43, No.SIG 2, pp.1-10, 2002
Atsuhiko Takasu: Statistical Analysis of Bibliographic Strings for Constructing an Integrated Document Space, Proceedings of European Conference on Research and Advanced Technology for Digital Libraries (ECDL), Rome, Italy, pp.75-90, 2002
Atsushi Matsumura, Atsuhiko Takasu, Jun Adachi: Information Retrieval Methods using Ordered Co-occurrence of Words and their Dependency Relationships, Proc. of NTCIR Workshop 2, 2001
高須淳宏, 金澤輝一, 安達淳: 音楽検索のための MIDI データの近似マッチング法, 情報処理学会 音楽情報科学研究会, 2001
松村敦, 高須淳宏, 安達淳: 情報検索における単語間の関係の効果, 情報処理学会 データベースシステム研究会, pp.257.264, 2001
Atsuhiko Takasu, Teruhito Kanazawa, Jun Adachi: Statistical Phrase Extraction and Indexing for Music Retrieval, Proceedings of International Workshop on Entertainment Computing, pp.278-285, Makuhari, Japan, 2002
Yoshikiyo Kato, Atsuhiko Takasu, Kenro Aihara: Retrieving Documents with Query by Time Series Data, Proceedings of 6th World Multi Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics, pp.136-139, Orlando, USA, 2002
小島秀一, 高須淳宏, 安達淳: Web ページ群の構造解析とグループ化, NII Journal, No.4, pp.23-35, 2002
正田備也, 高須淳宏, 安達淳: パラメタ化された連結成分分解に基づくクラスタリングとその応用, 日本データベース学会 Letters, Vol.1, No.1, pp.47-50, 2002
板井久美, 高須淳宏, 安達淳: HTML テブル情報の XML による統合, 日本データベース学会 Letters, Vol.1, No.1, pp.23-26, 2002
Kenro Aihara, Atsuhiko Takasu, Yoshikiyo Kato: "Supporting Collaborative Development and Operation Based on Integrated Heterogeneous Data with Temporal Information", Proceedings of ACM 2002 Conference on Computer Supported Cooperative Work (CSCW2002), pp.163-164, 2002
Kumi Itai, Atsuhiko Takasu, Jun Adachi: "Information Extraction from HTML Pages and its Integration", Proceedings of Workshop on AI Application of the Internet, The Symposium of Applications and Internet (SAINT2003), pp.276-281, 2003
相原健郎, 高須淳宏: オンライン化された文献に基づくドメインの視覚化, NII Journal, No.5, pp.1-8, 2003
高須淳宏, 相原健郎: テキスト分類における訓練データと性能の実験的考察, NII Journal, No.6, pp.1-8, 2003

講演・口頭発表等

Kenro Aihara, Atsuhiko Takasu: Category Based Customization Approach for Information Retrieval, Proceedings of International Conference on User Modeling, Sonthofen, Germany, 2001

競争的研究資金獲得状況

- (1) 科研費
- (2) 科研費以外の政府関係の研究費
- (3) その他の研究費

平成 10 年度科学技術振興調整費総合研究(平成 10 年度-平成 14 年度:26,523 千円)「分散情報資源の統合的活用に関する研究」

氏名 相原 健郎 (あいはら けんろう)
博士号 博士(工学)
所属・役職 ソフトウェア研究系 データ工学部門・助手
電話番号 03-4212-2577

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報工学 (ヒューマン・コンピュータ・インタラクション)

研究概要

人間が自らの知識や外界の情報源を活用して創造的な活動を行うことが可能な環境を、人間中心の視点で構築すること、「創造性支援」が大きなテーマである。具体的には、日々作り出される様々な種類の個人的な情報(作成文書やメールなどのテキスト類、発言などの音、画像など)を蓄積し、それらと情報空間のコンテンツを有機的に結合して、適切な表示法によってユーザに提示するインタラクティブなシステムの構築を目指している。これに関連して、大規模で多種のデータからなるアーカイブの構築および活用法についても取り組んでいる。

学歴

1992年3月:横浜国立大学工学部生産工学科卒業

1994年3月:東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程修了

1997年3月:東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了

主要経歴

1997年4月:文部省学術情報センターシステム研究系 助手

2000年4月:国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 助手(現在に至る)

2003年3月~2004年3月:コロラド大学計算機科学科 訪問研究員

教育活動歴

2002年4月:総合研究大学院大学 情報学専攻 併任

学協会活動

人工知能学会会員(1992年~)

情報処理学会会員(1994年~)

日本認知科学学会会員(1996年~)

ACM 会員(1999年~)

情報処理学会会誌編集委員(1999年~2003年)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書 等

K. Aihara, and A. Takasu: Category Based Customization Approach for Information Retrieval, Proceedings of the eighth International Conference on User Modeling, pp. 207-209, Sonthofen, Germany (Jul., 2001)

Y. Kato, A. Takasu, and K. Aihara: Retrieving Documents with Query by Time Series Data, the sixrth World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics, Orlando, USA (Jul., 2002)

A. Takasu, and K. Aihara: DVHMM: Variable Length Text Recognition Error Model, International Conference on Pattern Recognition 2002, Quebec City, Canada (Aug, 2002)

K. Aihara, A. Takasu, and Y. Kato: Supporting Collaborative Development and Operation Based on Integrated Heterogeneous Data with Temporal Information, Conference Supplement of ACM 2002 Conference on Computer Supported Cooperative Work, pp.163-164, New Orleans, USA (Nov. 2002)

相原 健郎, 高須 淳宏:オーソライズされた文献に基づくドメインの視覚化, NII Journal, No. 5, pp.1-8 (2003)

山田 太造, 相原 健郎, 高須 淳宏, 安達 淳:peer-to-peer システム上での評価の高い peer の発見, 電子情報通信学会 第 14 回データ工学ワークショップ(DEWS2003), (2003)

T. Yamada, K. Aihara, A. Takasu, and J. Adachi: A Distributed Index Mechanism for Efficient Query Processing in Peer-to-Peer Networks, 2003 IEEE Pacific Rim Conference on Communications, Computers and Signal Processing (PACRIM '03), to appear (2003)

山田 太造, 相原 健郎, 高須 淳宏, 安達 淳:プライベートネットワークでの peer-to-peer システムを利用したデータ共有, 第 2 回 情報科学フォーラム(FIT2003), 投稿中 (2003)

山田 太造, 相原 健郎, 高須 淳宏, 安達 淳:peer-to-peer システム上での評価の高い peer の

発見, 日本データベース学会 Letters, 投稿中 (2003)

相原 健郎:ワールドカップは IT が支える, 情報処理, Vol.43, No.5, pp.525-530 (2002)

◆分散統合処理研究部門

氏名 丸山 勝巳 (まるやま かつみ)

博士号 工学博士(東京大学) 1990 年

所属・役職 ソフトウェア研究系・分散協調処理研究部門・教授・研究主幹

電話番号 03-4212-2517

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 基盤ソフトウェア(OS、言語、オブジェクト指向、分散処理、実時間処理、通信ソフト)

研究概要

(1) 制御システムなどの開発を容易化する拡張型分散OS: 以下を特色とする分散 OS の研究 (資料とプログラムは <http://research.nii.ac.jp/H2O> にて公開)

拡張性: 適用分野の要求に応じて、自在に機能の拡張や性能の最適化を行える。

安全性・頑丈さ: 機能追加モジュールの障害やバグが他モジュールに影響しない。

先進的な分散処理のサポート: 高度の分散処理システムを非常に簡単に記述できる。

コンポーネントソフトウェアの実行基盤

第二世代マイクロカーネル+マルチサーバー型OS構成

(2) 分散能動オブジェクトライブラリ CAPE: Communicating Autonomous Programs Environment

分散モデルでは Client/Server モデルがよく知られているが、今後 Peer-to-Peer モデルが益々重要になる。

例えば、分散エージェントシステム、プロセス監視制御システム、通信制御システム等では、各分散オブジェクトが並行動作し、対等にメッセージを交換しあい、かつ相手の受信を待たずに自己の処理を継続しなければならない。

このような分散処理を実現するのが Java ライブラリー CAPE である。

このライブラリーを用いることにより、簡明かつ融通性に富む P2P 型分散処理を Pure Java で実現できる。

資料及びソースコードは(<http://research.nii.ac.jp/~maruyama/cape>)にて公開している。

(3) 日本学術振興会『基盤的ソフトウェア技術開拓のための研究開発委員会』

この委員会は『革新的な基盤ソフトウェア技術の開拓、信頼性・安全性の高いソフトウェアの効率的な開発、高度なソフトウェア設計者・技術者の育成』を目標に作られた産学官の共同研究委員会であり、その幹事として検討に当たっている。

学 歴

1964 年 4 月 東京大学理科一類 入学

1968 年 3 月 東京大学工学部電子工学科 卒業

1968 年 4 月 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門過程修士過程 入学

1970 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科電子工学専門過程修士過程 修了

1990 年 9 月 工学博士(東京大学)

主要経歴

1970 年 4 月 日本電信電話公社(現 NTT)入社

武蔵野電気通信研究所に勤務(1995,6 まで)

1977 年 2 月 // 研究専門調査員(主任研究員)

1981 年 2 月 // 調査役(主幹研究員)

1991 年 4 月 // 副理事、主席研究員

1995 年 7 月 国文学研究資料館(大学共同利用機関)教授, 情報メディア室長兼任)

1998 年 7 月 学術情報センター(大学共同利用機関)システム研究系・教授に転任

2000 年 4 月 国立情報学研究所教授・ソフトウェア研究系主幹に転任

教育活動歴

2002年 総合研究大学院大学 併任教授

大学院担当講義

分散情報処理
ソフトウェア概論

学協会活動

電気電子通信学会会員
情報処理学会会員
1998年～現在 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会委員
1998年～現在 電子情報通信学会通信ソフトウェア分科会委員

社会貢献活動

2001年～ 次期航空路管制システム検討委員会委員
2002年～ 電気電子情報学術振興財団 評議員
2002年～ 日本学術振興会:「基盤ソフトウェア技術開拓のための研究開発委員会」幹事
2003年～ 科学技術進行事業団「知的財産委員会」第4専門委員会委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

日高宗一郎、児玉和也、丸山勝巳、橋爪宏達: “マルチサーバー型制御用 OS の構成とタスク間通信、電子情報通信学会論文誌 Vol. No.3, pp.376-384 (2003,3)
Soichiro Hidaka, Kazuya Kodama, Yusheng Ji, and Katsumi Maruyama: “A File Server Optimization Using Scatter/Gather IPC on L4 Based Multi-Server Operating System” Proceedings of the 6th World Multiconference on Systems, Cybernetics and Informatics (SCI2002), Orlando, Florida, July 14-18, Vol. I, pp.184189(2002)
Katsumi Maruyama, Kazuya Kodama, Soichiro Hidaka, Hiromichi Hashizume: “Extensible Distributed Operating System for Reliable Control Systems” Proceedings of the Tenth ACM SIGOPS European Workshop (EW2002), (2002,9) 22-25

氏名 Andres, Frederic (あんどれす ふれでりっく)
博士号 1993年9月 Ph.D. (パリ第6大学計算機科学科、EUヨーロッパ連合)
2000年1月 HDR (フランス教授資格)
所属・役職 ソフトウェア研究系・助教授
電話番号 03-4212-2542
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 マルチメディアデータベース

研究概要

アプリケーション分野に関するジオメディア(地理情報)及びデジタルシルクロードにおける知的マルチメディア情報管理に焦点をあて研究する。大クラスタ情報エンジン、高度共同ポータル及び多言語訓練的オントロジー管理に関する特定の研究領域を含む高度プラットフォームにおける垂直的な研究を行う。特に、研究の一部として構築された学習オントロジーシステムにおいては、本年度の重要な研究成果の一つである。

学歴

1983.6 Lanion 技術短期大学卒業(DUT)
1989.9 グルノーブル大学計算機科学科修士課程修了
1990.9 パリ第6大学(仏)情報システム専門研究課程(DEA)修了
1993.9 Ph.D. (パリ第6大学計算機科学科)、ヨーロッパ博士号取得
2000.1 HDR(フランス教授資格)

主要経歴

1989.7 BULL データベース研究開発員
1991.10 パリ第6大学講師

- 1993.10 IFATEC 情報システム構築・データベース専門
1994.10 リコー・EU 研究員 (EU 奨学金)
1995.7 学術情報センター外国人客員研究員 (EU 奨学金)
1996.7 学術情報センター外国人研究員 (COE)
2000.4 国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授
2000.4 総合研究大学院大学 数物科学研究科助教授 (併任)

教育活動歴

- ナント大学 (フランス) ポリテクニックスクール / インフォメーションシステム客員講師
カセサート大学 (タイ) 工学部客員講師
サボア大学 (フランス) 客員講師

大学院担当講義

- 分散データベース (総合研究大学院大学)

学協会活動

- DEXA 1999~2002 プログラム委員
INFORSID 1999, 2002 プログラム委員
BDA 2001 プログラム委員
WORKSHOP ON MULTIMEDIA SEMANTICS 2002 プログラム委員
WORKSHOP on QPMIDS 1998~2001 プログラム委員

社会貢献活動

- The Alexandra David-Neel Foundation

査読付き論文 / それらに相当する論文・著書等

- F. Andres and K. Ono, The Distributed Management Mechanism of the Active HYpermedia Delivery System platform August, 2001, IEICE Transactions, Vol.E84-D, No.8, pp.1033-1038
F. Andres "Multimedia and Security", IEEE Multimedia magazine October-December (Vol. 8, No. 4), pp. 20-21, 2001
D.V. Sreenath, W.I. Grosky, and F. Andres, 'Metadata-Mediated Browsing and Retrieval in a Cultural Heritage Image Collection,' In Intelligent Virtual Worlds: Technologies and Applications in Distributed Virtual Environments, T. Shih (Ed.), World Scientific Publishing Company, Singapore, 2002.
Jérôme Godard, Mathieu Mangeot-Lerebours & Frédéric Andrés (2002) Data Repository Organization and Recuperation Process for Multilingual Lexical Databases. Proc. of SNLP-Oriental COCODA 2002, Hua Hin, Prachuapkirikhan, Thailand, 9-11 May 2002, pp 249-254.
Mathieu Mangeot-Lerebours & Frédéric Andrés (2002) An XML Markup Language Framework for Lexical Databases Environments: the Dictionary Markup Language. LREC Workshop on International Standards of Terminology and Language Resources Management, Las Palmas, Islas Canarias, Spain, 28 May 2002, pp 37-44.
Mathieu Mangeot-Lerebours, Gilles Sérasset & Frédéric Andrés (2002) Frameworks, Implementation and Open Problems for the Collaborative Building of a Multilingual Lexical Database. COLING Workshop on Building and Using Semantic Networks SEMANET02, Ed. Grace Ngai, Pascale Fung & Kenneth W. Church Taipei, Taiwan, 31 August 2002, pp 9-15.
Mathieu Mangeot-Lerebours, Christian Boitet, Gilles Sérasset & Frédéric Andrés (2002) The PAPILLON project: cooperatively building a multilingual lexical data-base to derive open source dictionaries & lexicons. COLING Workshop on NLP and XML (NLPXML-2002), Ed. Graham Wilcock, Nancy Ide & Laurent Romary, Taipei, Taiwan, 1st September 2002, pp. 93-96. COLING 02
Hiroko OMAE, Frederic ANDRES, Michita IMAI & Yuichiro ANZAI, Alignment Support for v Multi-lingual Humanity Corpus Retrieval Case Study: The Small Prince and the Tale of Genji,

Pacific Neighbourhood Consortium 人文科学分野における多言語コーパス検索のためのアライメント支援「星の王子さま」と「源氏物語」におけるケーススタディ(PNC2002), Osaka, Japan, 20-22 September, 2002, pp.253-256(only Japanese)

Jerome Godard and Frederic Andres, “ Mécanismes pour la prochaine génération de moteurs de gestion d’information dans un environnement multimédia” , Journées Science et Technologie 2002(JST 2002), P.42, Tokyo, Japan, November 2002

Jerome Godard, Frederic Andres, Kinji Ono, “ Advanced Storage and Retrieval of XML Multimedia Documents”, Databases in Networked Information Systems, LNCS2544, Springer, pp.64-73, Second International Workshop, DNIS 2002, Aizu, Japan, December, 2002

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13 年度科学研究費基盤研究B2「ジオメディア情報資源の発見および検索に関するプロジェクト」(13480108)(平成 13 年度～平成 15 年度)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

Joint-Research and Development project (August 2000-July 2003) supported by NSF project (9905603)

平成 13 年度日米科学協力事業セミナー「Mlabnet2000:高度マルチメディアシステムとその応用」(日本学術振興会)

平成 14 年度日米科学協力事業セミナー「分散型地理画像における多次元データ表現とアクセス方法に関する研究セミナー」(日本学術振興会)

平成 14 年度日米科学協力事業共同研究「マルチメディアデータコレクションのメタデータを介した検索と閲覧に関する研究」(平成 14 年度～平成 15 年度)(日本学術振興会)

氏名 井手 一郎 (いで いちろう)
博士号 2000 年 03 月 博士(工学)(東京大学)
所属・役職 ソフトウェア研究系・分散統合処理研究部門・助手
電話番号 03-4212-2000
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

統合メディア処理、とりわけニュース映像の知的構造化・自動索引付け手法及びそれを支える各メディアにおける要素技術(主に自然言語処理及び画像解析)に関する研究に従事している。現在は、所内で共同で構築している放送映像自動蓄積システムにより収集されたのべ数百時間規模の映像コーパスの知的構造化及び情報抽出に関する研究を行っている。また、東京大学との共同研究において、料理映像を対象とした統合メディア処理システム及び関連する要素技術に関する研究に取り組んでいる。

学歴

1994 年 03 月 東京大学 工学部 電子工学科 卒業(工学士)
1996 年 03 月 東京大学大学院 工学系研究科 情報工学専攻 修士課程 修了(修士(工学))
2000 年 03 月 東京大学大学院 工学系研究科 電気工学専攻 博士課程 修了(博士(工学))

主要経歴

2000 年 04 月 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 助手
2002 年 04 月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助手(併任)
2002 年 04 月 (学)五島育英会 東横学園女子短期大学 非常勤講師(兼任)

教育活動歴

2002 年 04 月～ 非常勤講師((学)五島育英会 東横学園女子短期大学)(担当講義:「ホームページデザイン」、「プログラム言語」)

学協会活動

IEEE Computer Society(2002年～)、ACM(2000年～)、電子情報通信学会(1993年～)、情報処理学会(1993年～)、人工知能学会(1995年～)各正員(2000年以前は学生員)

人工知能学会情報統合(第二種)研究会 連絡委員(2000年06月～)

Intl. Conf. on Dublin Core and Metadata Applications 2001, Local Arrangement Committee Member(2001年10月)

映像処理評価用映像データベース(電子情報通信学会パターン認識とメディア理解研究会作成)のMPEG-7メタデータ記述に従事(2001年12月～2002年06月)

電子情報通信学会 パターン認識とメディア理解研究会 テーマ担当(2002年06月)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Ichiro Ide, Koji Yamamoto, Reiko Hamada, Hidehiko Tanaka: An automatic video indexing method based on shot classification, Systems and Computers in Japan, vol.32, no.9, pp.32-41 (Aug. 2001)

井手一郎, 浜田玲子, 坂井修一, 田中英彦: ニュース映像における人物の分離による背景の場面推定, 電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J84-D-II, no.8, pp.1856-1863 (Aug. 2001)

Ichiro Ide, Reiko Hamada, Shuichi Sakai, Hidehiko Tanaka: An attribute based news video indexing, Proc. ACM Multimedia 2001 Workshops -Multimedia Information Retrieval-, pp.70-73 (Oct. 2001)

丸山勝巳, 児玉和也, 日高宗一郎, 橋爪宏達, 計 宇生, 井手一郎, 中村 明: 高信頼制御システムのための拡張型分散 OS, NII Journal, vol.3, pp.35-44 (Nov. 2001)

浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: 料理テキスト教材における調理手順の構造化, 電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J85-D-II, no.1, pp.79-89 (Jan. 2002)

井手一郎, 浜田玲子, 坂井修一, 田中英彦: テレビニュース字幕の語義属性解析のための辞書作成, 電子情報通信学会論文誌(D-II), vol.J85-D-II, no.7, pp.1201-1210 (July 2002)

Okihisa Utsumi, Koichi Miura, Ichiro Ide, Shuichi Sakai, Hidehiko Tanaka: An object detection method for describing soccer games from video, Proc. 2002 IEEE Intl. Conf. on Multimedia and Expo (ICME2002), vol.1, pp.45-48 (Aug. 2002)

浜田玲子, 三浦宏一, 井手一郎, 佐藤真一, 坂井修一, 田中英彦: 動きに基づく料理映像の自動要約手法, 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2002)論文集, vol.2, pp.203-208 (Aug. 2002)

Ichiro Ide, Norio Katayama, Shin'ichi Satoh: Visualizing the structure of a large scale news video corpus based on topic segmentation and tracking, Proc. ACM Multimedia 2002 Workshop on Multimedia Information Retrieval (Dec. 2002)

Koichi Miura, Reiko Hamada, Ichiro Ide, Shuichi Sakai, Hidehiko Tanaka: Motion based automatic abstraction of cooking videos, Proc. ACM Multimedia 2002 Workshop on Multimedia Information Retrieval (Dec. 2002)

Ichiro Ide, Hiroshi Mo, Norio Katayama, Shin'ichi Satoh: Topic-based structuring of a very large-scale news video corpus, AAAI 2003 Spring Symposium on Intelligent Multimedia Knowledge Management (Mar. 2003)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

井手一郎, 佐藤真一: 人物関係に基づくニュース映像の検索と閲覧, 電子情報通信学会パターン認識とメディア理解研究会技報, PRMU2001-48 (July 2001)

井手一郎, 佐藤真一: ニュース映像からの人物関係の抽出と索引付けへの利用, 第63回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.59-60 (Sep. 2001)

内海慎久, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: サッカー映像からのオブジェクト抽出・追跡に関する研究, 第63回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.57-58 (Sep. 2001)

内海慎久, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: 色頻度・局所エッジ成分を総合的に用いた物体検出手法とサッカー映像における選手検出への応用, 電子情報通信学会パターン認識

とメディア理解研究会技報, PRMU2001-241 (Feb. 2002)

三浦宏一, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: 動き検出による料理映像の解析, 第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.165-166 (Mar. 2002)

内海慎久, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: 色情報とエッジ情報を総合的に用いたサッカー画像からの物体検出, 第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.167-168 (Mar. 2002)

八木裕司, 内海慎久, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: サッカー映像におけるカメラパラメータの推定, 第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.161-162 (Mar. 2002)

須場康貴, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: 料理映像の索引付けのための音響解析手法の検討, 第 64 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.17-18 (Mar. 2002)

三浦宏一, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: 料理映像の特徴を利用した要約手法の検討, 電子情報通信学会パターン認識とメディア理解研究会技報, PRMU2002-22 (June 2002)

田内 学, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: ユーザの行動履歴を利用した画像検索エンジン, 第 65 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.3, pp.53-54 (Mar. 2003)

高野 求, 三浦宏一, 浜田玲子, 井手一郎, 坂井修一, 田中英彦: テキストからの制約に基づく料理画像中の物体検出, 第 65 回情報処理学会全国大会講演論文集, vol.2, pp.255-256 (Mar. 2003)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

2003 年～2006 年 若手研究(B)「大規模ニュース映像コーパスの知的構造化」(3,500 千円)

◆システムソフトウェア研究部門

氏名 井宮 淳 (いみや あつし)
博士号 工学博士昭和 60 年 3 月 東京工業大学
所属・役職 ソフトウェア研究系教授(流動部門)
電話番号 043-285-4866
専門分野 ロボットビジョン、離散幾何学

研究概要

パターン認識、画像科学の数理的再構築を基盤として、ロボットビジョン、および、ロボットの動作設計に関わる幾何情報処理を中心に研究している。最近の代表的成果として、ロボットが自分の周りを画像情報から理解、推論する場合に基本となる、多数の幾何モデルの同時当てはめを高速高精度に解決する手法をエネルギー最小化問題として定式化し、実際に計画数学の手法で効率よく解く手法を開発した。また、幾何情報処理としての、タンパク質の認識や分類にもこの手法が適用できると考えている。

学 歴

昭和 50 年 3 月 三重県立津高等学校卒業
昭和 51 年 4 月 東京工業大学工学部入学(第 5 類)
昭和 55 年 3 月 東京工業大学工学部電子物理工学科卒業
昭和 55 年 4 月 東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻修士課程入学
昭和 57 年 3 月 同上修了
昭和 57 年 4 月 東京工業大学大学院理工学研究科情報工学専攻博士課程入学
昭和 60 年 3 月 同上修了 工学博士(東京工業大学 工博第 1150 号)

主要経歴

昭和 60 年 4 月 金沢大学助手 工学部電気・情報工学科
昭和 61 年 4 月 金沢大学講師 工学部電気・情報工学科
昭和 63 年 12 月 金沢大学助教授 工学部電気・情報工学科
平成 1 年 4 月 千葉大学助教授に転任 工学部情報工学科 知識情報学講座

金沢大学非常勤講師

平成4年8月 スロバキア共和国 科学アカデミー招聘上級研究員

平成9年12月 ハンブルグ大学応用数学科(ドイツ)訪問研究員

平成10年4月 千葉大学教授

平成10年8月 オークランド大学 計算機科学科 (ニュージーランド)訪問研究員

平成13年4月 総合メディア基盤センター情報メディア教育研究部門

千葉大学環境リモートセンシング研究センターデータベース部門兼任(平14.3まで)

平成13年10月 東京工業大学工学部非常勤講師 担当授業 感性の評価と設計

平成14年4月 国立情報学研究所ソフトウェア研究系教授

千葉大学教授(併任)

平成14年10月 総合研究大学院大学教授(併任)

現在にいたる。

教育活動歴

昭和61年度より、講義を担当しており、以下の項目に関して大学設置審議会の審査を受けている。

平成13年8月 千葉大学大学院自然科学研究科(修士課程) 教授 授業担当 データ構造特論
人工知能論 特別研究I, II 特別演習I, II 判定結果 M○合

平成13年11月 千葉大学大学院自然科学研究科(修士課程) 教授 授業担当 理論計算機科学
判定結果 M合

千葉大学教授(併任)担当講義

工学部情報画像工学科 情報数学1、算法の設計と解析、グラフとネットワーク

自然科学研究科 修士課程 理論計算機科学、人工知能論、データ構造論

自然科学研究科 博士課程 図形表現論、知識支援処理

大学院担当講義

総合研究大学院大学 パターン認識論

千葉大学自然科学研究科 理論計算機科学、データ構造(修士課程)図形表現論(博士課程)

学協会活動

視聴覚情報研究会幹事(平15.5まで)

平成13年5月 電子情報通信学会論文誌編集委員

平成14年1月 IAPR(国際パターン認識連合)TC17(機械学習とデータマイニング技術委員会)
委員

社会貢献活動

DGCI特集号査読員

CAIP2003 プログラム委員

DGCI2003 プログラム委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

A.Imiya, T.Hada, K. Tatara, The Hough transform without accumulators, Lecutre Notes in Computer Science, 2002, Vol. 2396, 823-832.

A.Imiya, K.Iwawaki, K. Kawamoto, An efficient statistical method for flow field detection, Engineering Applications of Artificial Intelligence, Vo. 16, 169-176, 2002.

A.Imiya, T.Ueno, I. Fermin, Discovery of symmetry by voting method, Engineering Applications of Artificial Intelligence, Vol.16, 161-168, 2002

A. Imiya, K. Iwawaki, Voting method for subpixel flow detection, Pattern Recognition Letters, Vol. 24, 197-214, 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

平成 13 年度千葉大学総合メディア基盤センタープロジェクト研究:堅固なネットワークの構成法と運用に関する研究(研究代表)300 万円

平成 13 年度千葉大学重点経費事業 戦略的研究への助成:肢体障害者用電動自動車のための自動障害回避装置の遠隔操作機構の開発 (研究代表)300 万円

氏名 渡部 卓雄 (わたなべ たくお)

博士号 1991 年 東京工業大学(理学博士)

所属・役職 ソフトウェア研究系 システムソフトウェア研究部門(流動)・助教授

電話番号 03-4212-2563

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 ソフトウェア科学、プログラミング言語、分散システム

研究概要

ソフトウェアを安全に構成・実行するための技術に関する研究を行っている。具体的には、(1)プログラミング言語および実行系レベルで、安全性に関するポリシーを実行時に強制するための技術、および(2)独立して開発されたソフトウェアモジュールを安全に結合するための技術について、それぞれの理論的基礎、実現手法、応用に関する研究を進めている。また、ソフトウェアシステムが自分自身の構造と状態を認識しつつ動作する自己反映(reflection)に関する基礎的研究をおこなっている。

学歴

1986, 3 東京工業大学理学部情報科学科卒業

1988, 3 東京工業大学大学院理工学研究科情報科学専攻修士課程修了

1991, 3 東京工業大学大学院理工学研究科情報科学専攻博士課程修了

1991, 3 理学博士(東京工業大学)

主要経歴

1990, 4 日本学術振興会特別研究員(DC・東京工業大学)

1991, 4 日本学術振興会特別研究員(PD・東京大学)

1991, 9 イリノイ大学計算機科学科訪問研究員

1992, 4 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報システム学専攻助教授

2001, 1 東京工業大学大学院情報理工学研究科計算工学専攻助教授

2002, 4 国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授(現在に至る)

2002, 4 東京工業大学大学院情報理工学研究科計算工学専攻助教授併任(現在に至る)

教育活動歴

東京工業大学大学院情報理工学専攻助教授併任(2002～)

大学院担当講義

プログラム理論(東京工業大学)

学協会活動

日本ソフトウェア科学会正会員

情報処理学会正会員

Association for Computing Machinery (ACM) 正会員

IEEE Computer Society (IEEE-CS) 正会員

USENIX 正会員

情報処理学会論文誌編集委員

情報処理学会プログラミング研究会(PRO)幹事

日本ソフトウェア科学会ソフトウェアシステム研究会(SYS)運営委員

社会貢献活動

文部科学省科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

Etsuya Shibayama, Shigeki Hagihara, Naoki Kobayashi, Shin-ya Nishizaki, Kenjiro Taura, Takuo

Watanabe, AnZenMail: A Secure and Certified E-mail System, Software Security: Theories and Systems, pp. 201-216, Lecture Notes in Computer Science, 2609, Mar., 2003.

Noriki Amano and Takuo Watanabe, A Software Model for Flexible and Safe Adaptation for Mobile Code Programs, International Workshop on Principles of Software Evolution (IWPSE 2002), pp. 57-61, May, 2002.

Noriki Amano and Takuo Watanabe, Towards Constructing Component-based Software Systems with Safe Dynamic Adaptability, International Workshop on Principles of Software Evolution (IWPSE '01), pp. 176-180, Sep., 2001.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

Description Rules for Safely Composable Aspects, Technical Report, AIST01-J00002-4, AIST, Feb., 2003.

講演・口頭発表等

一杉裕志・田中哲・渡部卓雄, 拡張ルール:安全に結合可能なアスペクトの記述ルール, 日本ソフトウェア科学会, 第5回プログラミングおよびプログラミング言語ワークショップ(PPL 2003), pp. 58-73, Mar., 2003.

渡部卓雄・山田聖・永藤直行, コード書換えによるセキュリティポリシーの実行時強制機構, 日本ソフトウェア科学会第19回大会論文集, 4F-2, Sep., 2002.

一杉裕志・田中哲・渡部卓雄, 安全に結合可能なアスペクトを提供するためのルール, 日本ソフトウェア科学会第19回大会論文集, 3E-3, Sep., 2002.

Noriki Amano and Takuo Watanabe, SAMcode: A Software Model for Flexible and Safe Adaptation of Mobile Code Programs, ECOOP 2002 International Workshop on Mobile Object Systems (MOS 2002), Jun., 2002.

Noriki Amano and Takuo Watanabe, An Approach for Constructing Component-based Software Systems with Safe Dynamic Adaptability, OOPSLA 2001 International Workshop on Language Mechanisms for Programming Software Components, Technical Report of College of Computer Science, Northeastern University, NU-CCS-01-06, pp. 68-74, Oct., 2001.

移動コードの安全な実行のためのポリシー記述, 永藤直行・渡部卓雄, 日本ソフトウェア科学会第18回大会論文集, 7C-3, Sep., 2001.

Noriki Amano and Takuo Watanabe, A Software Model with Safe Dynamic Adaptability for Mobile Code Programs, ECOOP Workshop on Mobile Object Systems (MOS '01), Jun., 2001.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成12年度～13年度, 科学研究費補助金・基盤研究C2, 「非機能的要件を考慮した適応的移動コードのモジュール化手法」, 課題番号 12680340,

平成12年度 2,100千円, 平成13年度 1,700千円.

平成12年度～15年度, 科学研究費補助金(特定領域研究B:社会基盤としてのセキュアコンピューティングの実現方式の研究), 「拡張・適応可能ソフトウェアのセキュアな構成方式」, 課題番号 12133207,

平成12年度 10,600千円, 平成13年度 8,100千円, 平成14年度 9,400千円.

◆高信頼ソフトウェア研究部門

氏名 加藤 和彦 (かとう かずひこ)

博士号 1992年6月 東京大学大学院理学系研究科(理学博士)

博士論文:A Study of Designing Distributed and Persistent Computing Systems

所属・役職 ソフトウェア研究系 高信頼ソフトウェア研究部門客員助教授

電話番号 03-4212-2660

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 オペレーティング・システム、分散システム、セキュアコンピューティング、永続データ管理

研究概要

オープンネットワーク環境上でソフトウェアパッケージを安全に流通・実行することを可能にするシステム SoftwarePot の研究開発を行った。同システムは、従来のソフトウェアの開発・実行環境と高い互換性を保ちながら、自在に定義可能な仮想的な実行環境を、ソフトウェアパッケージのパッケージングの段階から仮想環境に封じ込め、封じ込めた状態でパッケージの配布・流通を行い、その仮想環境の中で実行を行うことを可能にする。ユーザの保有するローカル環境から隔離された実行と共に、ローカル環境と共生する機能を有する。

学歴

1985年 3月 筑波大学第三学群情報学類卒業
1987年 3月 筑波大学大学院工学研究科電子・情報工学専攻工学修士
1989年 10月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻中退

主要職歴

1989年 11月 東京大学理学部情報科学科助手
1993年 3月 筑波大学電子・情報工学系講師
1996年 12月～現在 筑波大学電子・情報工学系助教授
併任
1996年度 東京工業大学理学部非常勤講師
1997, 1999, 2001年度 千葉大学理学部非常勤講師
1997年 10月～2000年 9月 科学技術振興事業団「情報と知」領域研究員
2000年 10月～現在 科学技術振興事業団「協調と制御」領域研究員
2002年 4月～現在 国立情報学研究所客員助教授

受賞等

情報処理学会研究賞(1992年 6月)

教育活動歴

オペレーティング・システム、分散システム、システムプログラミング、オブジェクト指向プログラミング

大学院担当講義

システムソフトウェア特論

学協会活動

「論文誌:コンピューティングシステム」(ACS論文誌)編集委員(平成14年度～)
電子情報通信学会:データ工学研究会専門委員
日本ソフトウェア科学会:「コンピュータソフトウェア」編集委員(平成10年度～)
ACM, IEEE 各会員
情報処理学会:代表会員(平成12年度～平成14年度)、調査研究運営委員(平成10～13年度)、論文誌編集委員(平成10～13年度)
情報処理開発協会(JIPDEC):ヒューマンインタフェース技術委員会ユビキタス・セキュリティ分科会
主査(平成14年度)
産学戦略的研究フォーラム(SSR):戦略的調査研究(平成14年度)「Pervasive Computing のための基盤ソフトウェアに関する調査研究」主査
経済産業省審議会:産業構造審議会臨時委員(産業技術分科会)(平成13年度)

社会貢献活動

経産省産業構造審議会臨時委員(産業技術分科会)(平成13年 4月～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

International Conferences
K. Kato and Y. Oyama, SoftwarePot: An Encapsulated Transferable File System for Secure Software Circulation, Proc. of Int. Symp. on Software Security, Springer, LNCS-2609, 2003. pp. 112-132.

K. Kato, Y. Oyama, K. Kanda, and K. Matsubara, Software Circulation using Sandboxed File Space-Previous Experience and New Approach. Proc. of 8th ECOOP Workshop on Mobile Object Systems, June 2002, Malaga, Spain. .

K. Toumura and K. Kato, Intermediate Caching in the Internet Environment, Proceedings of the Twelfth IASTED International Conference on Parallel and Distributed Computing and Systems, pp. 584-591, Nov. 2001.

Japanese Journals

大山 恵弘, 神田 勝規, 加藤 和彦, 安全なソフトウェア実行システム SoftwarePot の設計と実装, コンピュータソフトウェア, 日本ソフトウェア科学会, Vol. 16, No. 6, pp.2-12, 2002年11月.

板橋一正, 松原克弥, 森山豊, 染谷裕一, 加藤和彦, 関口達郎, 米澤明憲: 仮想機械独立なアプレットシステムの実現, 電子情報通信学会論文誌 D-I, Vol. J84-D-I, No. 6, pp.639-649, 2001年6月.

特許・公開ソフトウェア・作品等

・特許

出願番号: 特願 2001-380629

発明者: 加藤和彦、大山恵弘

発明の名称: 安全なソフトウェア流通システム

出願人: 科学技術振興事業団

出願日: 2001年12月13日(2002年12月に、米国出願を含む PCT 出願中)

・ソフトウェアサーキュレーションシステム SoftwarePot

<http://www.osss.is.tsukuba.ac.jp/pot/>

・モバイルオブジェクトシステム Planet

<http://www.osss.is.tsukuba.ac.jp/planet/>

上記に含まれない論文・記事・著作物等

Technical Reports

K. Kato and Y. Oyama, SoftwarePot: An Encapsulated Transferable File System for Secure Software Circulation, Technical Report ISE-TR-02-185, Institute of Information Sciences and Electronics, University of Tsukuba, 2002 Jan.

Japanese Miscellaneous

加藤和彦, インターネット環境上で動作するモバイルソフトウェアロボット, テレコムフロンティア, 2002年2月, No. 34, pp. 21-29.

加藤和彦, 閉塞を打破しよう, 箱庭から飛び出そう, 情報処理学会「インタラクティブエッセイ」, 2001年6月. 学会版.

加藤和彦, モバイルオブジェクトシステム Planet, bit, 共立出版, 2001年4月.

競争的資金獲得状況

- ・科学技術振興事業団さきがけ研究 21「協調と制御」領域(平成12年10月～平成15年9月)

◆大規模ソフトウェア研究部門

氏名 米澤 明憲 (よねざわ ありのり)

博士号 PH. D. および 工学博士

所属・役職 東京大学情報理工学系大学院 コンピュータ科学専攻

電話番号 03-5841-4114

ファクシミリ 03-5689-4365

専門分野 計算機科学、並列分散計算、ソフトウェアセキュリティ

研究概要

ソフトウェアセキュリティ、P2P計算、

型理論、プログラムソース解析などの論文を数多く、執筆するとともに、同様の内容の文部科学省

の特定領域研究の代表者を務めた。

国情研の安達淳先生の中心的な役割をはたされている特定領域研究「情報学の深化」の評価推進委員長の責務をはたした。

学 歴

1977年MIT大学院博士課程計算機科学課終了

主要経歴

RWC評価推進委員、ドイツ国立情報学研究所科学顧問

受賞等論文賞:情報処理学会論文賞、日本ソフトウェア

科学会論文賞

教育活動歴

言語モデル論、計算機言語論の講義

大学院担当講義

ソフトウェアシステム論、ソフトウェア基礎論

学協会活動

日本ソフトウェア科学会評議委員

社会貢献活動

総合規制改革会議委員(教育部会会長)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

*Regular Expression Types for Strings in aText Processing Language,

IPSJ Transactionson Programming, vol.44, no.SIG2, pp.1-12,February, 2002.

*Fail-SafeANSI-C Compiler: An Approach to Making C Programs Secure (ProgressReport),

Proceedings of International Symposiumon Software Security (ISSS2002), vol.2609 of LNCS

pp.133-153, Tokyo,November 2002

* Solution Deployment on Multi-Provider Networks,

OPENSIG 2002 Conference Proceedings, Lexington, US, October 2002

* SupportingObjectsinRun-timeBytecodeSpecialization,

ACM SIGPLAN ASIAN Symposiumon Partial Evaluation and Semantics-BasedProgram

Manipulation (ASIA-PEPM2002), pp.50-60, Aizu, September 2002

* ReducingPauseTimeofConservativeCollectors

2002 International Symposiumon Memory Management (ISMM2002), Berlin, June 2002

*Virtual Private Grid: A Command Shell for Utilizing Hundreds of Machines Efficiently 2nd IEEE

Int. Symp. on Cluster Computing and the Grid (CCGrid), May 2002

講演・口頭発表等

「安全なソフトウェアシステムの構築技術ー 社会基盤のために」京都大学情報学シンポジウムH14年12月10日

「社会基盤としてセキュアコンピューティングの構築の研究」同名の公開シンポジウム H14年11月8日

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

文部科学省科学研究費特定領域研究(1)「社会基盤としてセキュアコンピューティングの構築の研究」

文部科学省科学研究費特定領域研究(2)「移動コードを基本とした安全なプログラミング言語の研究」

氏 名 吉川 正俊 (よしかわ まさとし)

博士号 1985年 京都大学(工学博士)

所属・役職 名古屋大学 情報連携基盤センター 学術情報開発研究部門・教授

電話番号 052-789-4383

ファクシミリ 052-789-4383

専門分野 データベースシステム

研究概要

XML を中心とする Web データベースに関し、XML データベース構築法 XRel(経路に基づき XML データを関係データベースに格納する方法および XPath から SQL への変換法)の開発、XML データ索引(逆経路、相対リージョン索引等)の開発、XML の論理構造を利用した情報検索システムの基礎研究を行った。

また、マルチメディアデータから抽出した特徴量を表現する大量の多次元ベクトルデータから、所望のデータを効率良く検索するための索引構造として相対近似の概念を木索引に導入した A-Tree(Approximation Tree)を提案し、さらに楕円距離関数のための索引構造を開発した。

学 歴

1980. 3 京都大学工学部情報工学科卒業

1982. 3 京都大学大学院工学研究科修士課程情報工学専攻修了

1983. 9 工学博士(京都大学)

主要経歴

1985. 4 京都産業大学 計算機科学研究所 講師

1988. 4 京都産業大学 計算機科学研究所 助教授

1989. 4 京都産業大学 工学部 情報通信工学科 助教授

1989. 4 南カリフォルニア大学 計算機科学科 客員研究員 (～1990,3)

1993. 4 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授 (併任、2002,6～2003,3)

1995. 4 学術情報センター研究開発部長併任(～1997,1)

1996. 4 ウォータルー大学 計算機科学科 客員准教授

2000.10 奈良先端科学技術大学院大学 附属図書館研究開発室 (兼任、～2002,5)

2000.11 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 助教授 (併任、～2003.3)

2002. 6 名古屋大学 情報連携基盤センター 教授(現在に至る)

2002. 6 名古屋大学 工学研究科 情報工学専攻 教授兼任(現在に至る)

2002. 6 名古屋大学 附属図書館 研究開発室 室員兼任(現在に至る)

学協会活動

情報処理学会論文誌:データベース(電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会共同編集)共同編集長 (2003～)

日本データベース学会 理事 (2002～)

Information Systems (Elsevier/Pergamon), Editorial Board Member (2001～)

The VLDB Journal (Springer-Verlag), Editorial Board Member (2003～)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書 等

羅 勇, 天笠 俊之, 吉川 正俊, 植村 俊亮: “地理情報の詳細度を考慮した移動オブジェクト群への情報配信”, 日本データベース学会 Letters, Vol.2, No.1, pp.7-10, (2003)

Kazunari Sugiyama, Kenji Hatano, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “Improvement in TF-IDF scheme for Web Pages and its Retrieval Accuracy”, 日本データベース学会 Letters, Vol.2, No.1, pp.23-26, (2003)

木村 文則, 前田 亮, 吉川 正俊, 植村 俊亮: “Web ディレクトリの階層構造を利用した言語横断情報検索”, 日本データベース学会 Letters, Vol.2, No.1, pp.71-74, (2003)

波多野 賢治, 絹谷 弘子, 吉川 正俊, 植村 俊亮: “キーワードを利用した XML 文書検索のための検索結果粒度決定法”, 日本データベース学会 Letters, Vol.2, No.1, pp.123-126, (2003)

兵 清弘, 天笠 俊之, 吉川 正俊, 植村俊亮: “ウェアラブルコンピューティング環境における MPEG-7 出版を利用した映像検索システム”, 日本データベース学会 Letters, Vol. 1, No. 2, pp. 28-31, (2003)

Junko Tanoue, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “The GeneAround GO viewer”, Bioinformatics, Vol. 18, No. 12, pp. 1705-1706, Dec. (2002)

江田 毅晴, 天笠 俊之, 吉川 正俊, 植村俊亮: “XML 木のための更新に強い節点ラベル付け手法”, 日本データベース学会 Letters, Vol. 1, No. 1, pp. 35-38, (2002)

Yasushi Sakurai, Masatoshi Yoshikawa, Shunsuke Uemura and Haruhiko Kojima: “Spatial Indexing of High-Dimensional Data Based on Relative Approximation”, The VLDB Journal, Vol. 11, No. 2, pp. 93-108, DOI 10.1007/s00778-002-0066-9, (2002)

Fatiha Sadat, Masatoshi Yoshikawa, Shunsuke Uemura: “Cross-Language Information Retrieval Using Multiple Resources and Combinations for Query Expansion”, Second International Conference on Advances in Information Systems (ADVIS2002), Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2457, pp.114-122, Izmir, Turkey, October 23-25, (2002)

Shunsuke Uemura, Masatoshi Yoshikawa and Toshiyuki Amagasa: “Heijo - A Video Database System for Retrieving Semantically Coherent Video Information”, in Nontraditional Database Systems (Editors: Yahiko Kambayashi, Masaru Kitsuregawa, Akifumi Makinouchi, Shunsuke Uemura, Katsumi Tanaka and Yoshifumi Masunaga, pp. 81-92, The Information Processing Society of Japan and Taylor & Francis Books Ltd., ISBN 0-415-30206-4, 2002.

Masatoshi Yoshikawa: “XML Databases”, in Nontraditional Database Systems (Editors: Yahiko Kambayashi, Masaru Kitsuregawa, Akifumi Makinouchi, Shunsuke Uemura, Katsumi Tanaka and Yoshifumi Masunaga, pp. 166-180, The Information Processing Society of Japan and Taylor & Francis Books Ltd., ISBN 0-415-30206-4, 2002.

Yu Suzuki, Masaki Takano, Kenji Hatano, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “Extraction and Integration of XML Documents Features on Wireless Environment”, The First International Workshop on Wireless Information Systems (WIS 2002) in conjunction the 4th International Conference On Enterprise Information Systems (ICEIS 2002), pp. 82-93, Ciudad Real, Spain, April 2002

絹谷 弘子, 波多野 賢治, 吉川 正俊, 植村 俊亮: “XML 文書の文書構造と内容を用いた部分文書の抽出手法”, 情報処理学会論文誌:データベース, 第 43 巻, 第 SIG2(TOD13)号, pp. 80-93.

櫻井 保志, 吉川 正俊, 植村 俊亮, 片岡 良治: “楕円体問合せのための空間変換を用いた類似探索アルゴリズム”, 電子情報通信学会論文誌, 第 J85-D-I 巻, 第 3 号, pp. 303-312, (2002)

鈴木 優, 波多野 賢治, 吉川 正俊, 植村 俊亮: “複数のメディアで構成された電子文書の検索手法”, 情報処理学会論文誌:データベース, 第 42 巻, 第 SIG10(TOD11)号, pp. 11-21, (2001)

Masatoshi Yoshikawa, Toshiyuki Amagasa, Takeyuki Shimura and Shunsuke Uemura: “XRel: A Path-Based Approach to Storage and Retrieval of XML Documents using Relational Databases”, ACM

波多野 賢治, 渡邊 正裕, 吉川 正俊, 植村 俊亮: “情報検索技術を用いた部分文書構造の自動抽出”, 情報処理学会論文誌:データベース, 第 42 巻, 第 SIG8(TOD10)号, pp. 36-46, (2001)

三宮 健, 岡安光彦, 吉川正俊, 植村俊亮: “考古学情報のデータモデルとその実装”, 日本情報考古学会論文誌「情報考古学」, 第 6 巻, 第 2 号, pp. 11-18, (2001)

前田 亮, 関 慶妍, 吉川正俊, 植村俊亮: “Web 文書の符号系および使用言語の自動識別”, 電子情報通信学会論文誌 D-II, 第 J84-D-II 巻, 第 1 号, pp. 150-158, (2001)

講演・口頭発表等

Akiyoshi Matono, Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: “An Indexing Scheme for RDF and RDF Schema based on Suffix Arrays”, First International Workshop on Semantic Web and Databases (SWDB) co-located with 29th International Conference on Very Large Data Bases (VLDB2003), pp. 151-168, Berlin, Germany, September 7-8, (2003)

Yu Suzuki, Kenji Hatano, Masaki Takano, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “An Information Filtering System for Portable Computers”, IEEE Pacific Rim Conference on

Communications, Computers and Signal Processing (PACRIM '03), Victoria, B.C. Canada, August 28-30, (2003)

Yong Luo, Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Broadcasting Geographic Information with Levels-of-Details to Moving Objects", IEEE Pacific Rim Conference on Communications, Computers and Signal Processing (PACRIM '03), Victoria, B.C. Canada, August 28-30, (2003)

Fuminori Kimura, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Cross-Language Information Retrieval using Web Directories", IEEE Pacific Rim Conference on Communications, Computers and Signal Processing (PACRIM '03), Victoria, B.C. Canada, August 28-30, (2003)

Kazunari Sugiyama, Kenji Hatano, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Refinement of TF-IDF Schemes for Web Pages using their Hyperlinked Neighboring Pages", The 14th Conference on Hypertext and Hypermedia (HT'03), Nottingham, UK, August 26-30, (2003)

Fatiha Sadat, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Enhancing Cross-language Information Retrieval by an Automatic Acquisition of Bilingual Terminology from Comparable Corpora" (poster), 26th Annual International ACM SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval (SIGIR 2003), Toronto, Canada, July 28 - August 1, (2003)

Fatiha Sadat, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Bilingual Terminology Acquisition from Comparable Corpora and Phrasal Translation to Cross-Language Information Retrieval" (Interactive Poster and Demonstration Session), 41st Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL 2003), Sapporo, Japan, July 7-12, (2003)

Fatiha Sadat, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Learning Bilingual Translations from Comparable Corpora to Cross-Language Information Retrieval: Hybrid Statistics-based and Linguistics-based Approach", The 6th International Workshop on Information Retrieval with Asian Languages (IRAL2003) in conjunction with the 41st Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL 2003), Sapporo, Japan, July 7, (2003)

Fuminori Kimura, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: "Cross-Language Information Retrieval Based on Category Matching Between Language Versions of a Web Directory" (poster), The 6th International Workshop on Information Retrieval with Asian Languages (IRAL2003) in conjunction with the 41st Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ACL 2003), pp.153-159, Sapporo, Japan, July 7, (2003)

Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: "QRS: A Robust Numbering Scheme for XML Documents" (poster), 19th International Conference on Data Engineering (ICDE 2003), pp. 705-707, Bangalore, India, March 5-8, (2003)

Fatiha Sadat, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Exploiting and Combining Multiple Resources for Query Expansion", IPSJ Transactions on Databases, Vol. 43, No. SIG9(TOD15), pp. 39-54, September (2002)

Fatiha Sadat, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura, "Exploiting Thesauri and Hierarchical Categories in Cross-Language Information Retrieval", 5th International Conference on Text, Speech and Dialogue (TSD2002), Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2448, pp.139-146, Brno, Czech Republic, September 9-10, (2002)

Kazunari Sugiyama, Kenji Hatano, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "A Method of Improving Feature Vector for Web Pages Reflecting the Contents of their Out-linked Pages", 13th International Conference on Database and Expert Systems Applications (DEXA2002), Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2453, pp. 891-901, Aix-en-Provence, France, September 2-6, (2002)

Takamasa Ueda, Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: "A System for Retrieval and Digest Creation of Video Data Based on Geographic Objects", 13th International Conference on Database and Expert Systems Applications (DEXA2002), Lecture

Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2453, pp. 768-778, Aix-en-Provence, France, September 2-6, 2002

Kenji Hatano, Hiroko Kinutani, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Information Retrieval System for XML Documents", 13th International Conference on Database and Expert Systems Applications (DEXA2002), Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2453, pp. 758-767, Aix-en-Provence, France, September 2-6, (2002)

Dao Dinh Kha, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Application of rUID in Processing XML Queries on Structure and Keyword", 13th International Conference on Database and Expert Systems Applications (DEXA2002), Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2453, pp. 279-289, Aix-en-Provence, France, September 2-6, (2002)

Fatiha Sadat, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: "A Combined Statistical Query Term Disambiguation in Cross-Language Information Retrieval", The Third International Workshop on Natural Language and Information Systems (NLIS2002), in conjunction with the 13th International Conference on Database and Expert Systems Applications (DEXA2002), pp. 251-255, Aix-en-Provence, France, September 2-3, (2002)

Junko Tanoue, Noboru Matoba, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: "GeneAround: A Browsing System for Gene Annotation Using XML Technologies", The Third International Conference on Web-Age Information Management (WAIM'02), regular paper, Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2419, pp. 236-246, Beijing, August 11 - 13, (2002)

Fatiha Sadat, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Statistical Query Disambiguation, Translation and Expansion in Cross-Language Information Retrieval", In Proceedings of the LREC 2002 Workshop on Using Semantics for Information Retrieval and Filtering: State of the Art and Future Research, Las Palmas, Spain, May-June (2002)

Takamasa Ueda, Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Digest Creation of Video Data Recorded by Wearable Cameras using Locational and Geographical Information", The First International Workshop on Wireless Information Systems (WIS 2002) in conjunction the 4th International Conference On Enterprise Information Systems (ICEIS 2002), pp.94-105, Ciudad Real, Spain, April (2002)

吉川 正俊: "データベースの観点から見た XML の研究" 日本学術会議(情報学研究連絡委員会, 情報工学研究連絡委員会), 情報処理学会, 人工知能学会, 日本医学会, 日本化学会, 日本数学会, 日本地理学会, 日本物理学会, 情報知識学会, 日本生物物理学会, 日本ソフトウェア科学会共同主催 2002 年情報学シンポジウム講演論文集, pp. 25-31, 1 月 17 日, 18 日 (2002)

吉川 正俊: "XML データベースのための基盤技術の展開" 情報処理学会第 27 回デジタル・ドキュメント 研究会研究報告, 2001-DD-27, 3 月 14 日 (2001)

Noboru Matoba, Junko Tanoue, Masatoshi Yoshikawa, Shunsuke Uemura: "A System for Integration of Heterogeneous Biological XML Data", The Twelfth International Conference on Genome Informatics (GIW 2001), pp. 473-474, Poster Presentation, Yebisu Garden Place, Tokyo, Japan, December 17-19, (2001)

Junko Tanoue, Noboru Matoba, Masatoshi Yoshikawa, Shunsuke Uemura: "Graphical representation of Gene Ontology in Scalable Vector Graphics" The Twelfth International Conference on Genome Informatics (GIW 2001), pp. 471-472, Poster Presentation, Yebisu Garden Place, Tokyo, Japan, December 17-19, (2001)

Kenji Hatano, Hiroko Kinutani, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: "Extraction of Partial XML Documents Using IR-based Structure and Contents Analysis", International Workshop on Data Semantics in Web Information Systems (DASWIS-2001), In conjunction with 20th International Conference on Conceptual Modeling ER 2001, Yokohama, Japan, November

29–30,(2001)

(A revised version of this paper appeared in Conceptual Modeling for New Information Systems Technologies, Lecture Notes in Computer Science (LNCS), Springer-Verlag, Vol. 2465, pp.334–347, September 2002.)

Dao Dinh Kha, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “A Structural Numbering Scheme for XML Data”, Proceedings of the Workshop on XML-Based Data Management (XMLDM)

held in conjunction with the 8th Conference on Extending Database Technology (EDBT2002), pp. 219–233, Prague, March 24 (2002) Yasushi Sakurai, Masatoshi Yoshikawa, Ryoji Kataoka and Shunsuke Uemura: “Similarity Search for Adaptive Ellipsoid Queries Using Spatial Transformation”, Proc. of the 27th International Conference on Very Large Data Bases (VLDB2001), pp. 231–240, Rome, Italy, September 11–14, 2001. (full version of this paper is available as a technical paper (cover, body))

Kenji Hanakawa, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “Social Writing and Individual Reading with Dynamic Documents”, Fifth International Conference on Knowledge-Based Intelligent Information Engineering Systems & Allied Technologies (KES2001), Osaka Educational University, September 6–8 (2001)

Fatiha Sadat, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “Query Expansion Technique for the CLEF Bilingual Track”, Working Notes for the CLEF 2001 Workshop, pp. 99–104, Darmstadt, Germany, Sep. 3–4, (2001)

Fatiha Sadat, Akira Maeda, Masatoshi Yoshikawa, and Shunsuke Uemura: “Cross-Language Information Retrieval Via Dictionary-based and Statistics-based Methods” In Proceedings of 2001 IEEE Pacific Rim Conference on Communications, Computers and Signal Processing (PACRIM’01), Vol. II, pp. 595–598, Victoria, Canada, Aug. 26–28 (2001)

Transactions on Internet Technology, Vol. 1, No. 1, pp. 110–141, August(2001)(The definitive copy in ACM’s Digital Library , An author-posted copy(pdf, PS; cCopyright 2001 by ACM, Inc. The copy is posted by permission of ACM and may not be redistributed.))

Junko Tanoue, Masatoshi Yoshikawa, Noboru Matoba, Shunsuke Uemura: “An XML document management system using XLink for an integration of biological data”, 9th International Conference on Intelligent Systems for Molecular Biology(ISMB2001) : Tivoli Gardens, Copenhagen, Denmark, July 21–25, poster presentation}(2001)}

Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “Realizing Temporal XML Repositories using Temporal Relational Databases”, Proceedings of The Third International Symposium on Cooperative Database Systems for Advanced Applications (CODAS’2001), pp. 63–67, Beijing, China, April 23–24, (2001)

Yu Suzuki, Kenji Hatano, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “A Unified Retrieval Method of Multimedia Documents”, Proc. of The 7th International Conference on Database Systems for Advanced Applications (DASFAA 2001), pp. 166–167, Hong Kong, China, April 18–20, (2001)

Yuu Morinaka, Masatoshi Yoshikawa, Toshiyuki Amagasa and Shunsuke Uemura: “The L-index: An Indexing Structure for Efficient Subsequence Matching in Time Sequence Databases”, International Workshop on Mining Spatial and Temporal Data, in Industrial Track and Workshops Proceedings of The Fifth Pacific-Asia Conference on Knowledge Discovery and Data Mining (PAKDD 2001), pp. 51–60, Kowloon, Hong Kong, April 16, (2001)

Dao Dinh Kha, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “An XML Indexing Structure with Relative Region Coordinate”, Proc. of the 17th IEEE International Conference on Data Engineering (ICDE2001), pp. 313–320, Heidelberg, Germany, April 2–6, (2001)(pdf at IEEE Digital Libraries, PS, abstract)

Takeshi Sannomiya, Toshiyuki Amagasa, Masatoshi Yoshikawa and Shunsuke Uemura: “A Framework for Sharing Personal Annotations on Web Resources using XML”, Workshop on

Information Technology for Virtual Enterprises (ITVE 2001), IEEE Computer Science Press, pp. 40-48, ISBN 0-7695-0960-6, Gold Coast, QLD, Australia, January 29-30, (2001)

■情報メディア研究系

◆画像情報処理研究部門

氏名 羽鳥 光俊 (はとり みつとし)

博士号 工学博士

所属・役職 情報メディア研究系・教授

電話番号 03-4212-2507

ファクシミリ 03-4212-2507

専門分野 通信工学・放送工学

研究概要

専門は、通信工学、放送工学。通信工学の分野では、移動通信(第3世代の移動通信(IMT(International Mobile Telecommunications)-2000)、第4世代の移動通信、ITS(Intelligent Transport Systems)、無線LANの電波電搬)、光無線通信、テンペスト、FTTH(Fiber to the Home)、適応デジタルフィルタ(マルチパスキャンセラ、アダプティブアンテナ)、電波干渉に強い通信方式の研究を行っている。

放送工学の分野では、放送のデジタル化(BSデジタル放送、地上デジタル放送、デジタルラジオ放送)、置局、デジタル放送に於ける著作権処理と著作権制御、画像の帯域圧縮符号化の研究を行っている。放送政策(規制の緩和、通信と放送の融合)の研究も行っている。

学歴

1963.3 東京大学工学部電気工学科卒業

1965.3 東京大学大学院数物系研究科電気工学専門課程修士修了

1968.3 東京大学大学院工学系研究科電気工学専門課程博士修了、工博

主要経歴

1968.4 東京大学工学部講師

1969.4 東京大学工学部助教授

1986.7 東京大学工学部教授

1999.4 学術情報センター システム研究系教授

1999.5 東京大学名誉教授

2000.4 国立情報学研究所情報メディア研究系教授(研究主幹、併任)

2000.4 国立情報学研究所開発・事業部長(併任)

2001.4 研究主幹併任解除

受賞等

2001.6 総務大臣表彰電波の日表彰(ITS情報通信システム推進会議として)

2002.5 電子情報通信学会平成13年度功績賞

2002.6 総務大臣表彰電波の日表彰(地上デジタル放送、東京パイロット実験実施協議会として)

教育活動歴

日本大学大学院非常勤講師(1988年～2001年)

中央大学大学院非常勤講師(2000年～)

国立情報学研究所大学院(総合研究大学院)教授(2002年～)

大学院担当講義

情報基盤科学概論

情報通信工学

学協会活動

電子情報通信学会会長(2002年～2003年)

社会貢献活動

- 1997. 11 日本学術会議基盤情報通信研究連絡委員会、モバイル・グローバル通信専門委員会委員長(～2003.10)
- 2001. 1 総務省情報通信審議会委員(～2002.12)
- 2001. 1 総務省政策部会部会長代理(～2002.12)
- 2001. 1 同技術分科会会長代理(～2002.12)
- 2001. 1 同 ITU-R 部会部会長(～2002.12)
- 2001. 1 同 ITU-T 部会部会長代理(～2002.12)
- 2001. 3 (財)データベース振興センター理事長
- 2001. 4 内閣府総合科学技術会議情報通信戦略プロジェクト専門委員(～2002. 4)
- 2002. 3 YRP 研究開発推進協会名誉会長
- 2003. 2 総務省独立行政法人評価委員会委員長代理
- 2003. 2 同情報通信・宇宙開発分科会会長
- 2003. 3 総務省情報通信技術研究開発評価会会長代理
- 2003. 3 (社)情報通信技術委員会理事長

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- 巻頭言「安定なインターネット接続, 安定なパソコン」羽鳥(単著)電子情報通信学会誌 Vol.86 No.1 p 目次前
- モバイル・グローバル通信-移動通信開発の国際戦略と展望-(共著, 羽鳥光俊, 服部武, 中嶋信生編著)コロナ社, 2001 年

講演・口頭発表等

- Info-Communication Stability and IT Terminal Stability Competent for Mission Critical, at the Institute of Electronics Engineers of Korea

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

- 平成 7 年度文部科学研究費基盤研究(A)(平成 9 年迄) 「メディア総合型多次元移動体情報ネットワークの構築の研究」(07305012)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

- 平成 13 年度受託研究費「ITS 分野の展望とビジネス展開への提言」委託者:NTT インフラネット株式会社
- 平成 14 年度受託研究費「新情報セキュリティ技術の動向について」委託者:NTT インフラネット株式会社

氏名 趙 偉平 (ちょう いへい)
博士号 1993 年 東京大学(工学博士)
所属・役職 情報メディア研究系 画像情報処理研究部門・助教授
電話番号 03-4212-2538 <- 2003, 7 まで
ファクシミリ 03-3556-1916 <- 2003, 7 まで
専門分野 情報通信工学、マルチメディア

研究概要

ネットワークにおけるトラフィックエンジニアリング(コレクション受付制御や波長パス最適経路計算、波長パス設定制御などの波長パス割当制御技術)の研究を行っている。

学歴

- 1982. 2 北京郵電大学工学部通信システム学科卒業
- 1984.10 中国郵政省科学研究院大学院画像通信専攻修士課程修了
- 1987. 7 英国エセックス大学大学院通信・情報システム専攻修士課程修了
- 1993. 3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了

主要経歴

- 1984.11 中国郵政省電信電送研究所入所
- 1989. 6 中国郵政省電信電送研究所退職
- 1993. 4 学術情報センターシステム研究系助手
- 1998. 4 学術情報センターシステム研究系助教授
- 2000. 4 国立情報学研究所助教授(現在に至る)

学協会活動

- 電子情報通信学会正会員
- The International Society for Optical Engineering 正会員

◆統合メディア処理研究部門

- 氏名 橋爪 宏達 (はしづめ ひろみち)
- 博士号 工学博士(東京大学)
- 所属・役職 情報メディア研究系・統合メディア処理研究部門・教授
- 電話番号 03-4212-2511
- ファクシミリ 03-3556-1916
- 専門分野 システム工学

研究概要

ヒューマンインターフェースデバイスの研究:コンピュータと人間の対話で必要となる画像、音響、マニピュレータなどの方式を総合的に研究しています。最近では RFID(高周波を利用した非接触メモリ)を応用した方式に注目しています。

学歴

- 1979年3月 東京大学工学部電子工学科卒業
- 1981年3月 東京大学院工学系研究科情報工学専門課程修士課程修了
- 1984年3月 東京大学院工学系研究科電気工学専門課程博士課程修了

主要経歴

- 1984年4月 東京大学助手 文献情報センター
- 1986年4月 学術情報センター助教授 システム研究系
- 1989~1990年 ペンシルバニア大学客員教授
- 1990年10月 文部省学術国際局学術調査官併任
- 1995年4月 学術情報センター教育研修部 学術情報システム教育室併任
- 1998年4月 学術情報センター教授 学術情報系
- 2000年4月 国立情報学研究所 情報メディア研究系 教授
- 2002年4月 総合研究大学院大学教授併任(現在に至る)

教育活動歴

- 1986~現在 上智大学理工学系大学院非常勤講師
- 1994~1998 東京大学教養学部非常勤講師
- 2003~現在 法政大学国際文化学部非常勤講師

大学院担当講義

ヒューマンインターフェース

学協会活動

情報処理学会

社会貢献活動

- 財団法人 電気・電子情報学術振興財団 評議員
- 国際原子力情報システム協議会 委員 (2002年6月1日から)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

Kusunoki,Fusako, Sugimoto,Masanori, Hashizume, Hiromichi: A Networked Board System for

Supporting Collaborative Learning In Proc. of European Conference on Computer Supported Collaborative Learning (Euro-CSCL), Maastricht, The Netherlands, pp. 714-715 (2001)

Sugimoto, Masanori, Kusunoki, Fusako, Hashizume, Hiromichi: E2board: An Electronically Enhanced Board for Games and Group Activity Support, In Proc. of Affective Human Factors Design, Singapore, pp.227-234 (2001)

Sugimoto, Masanori, Kusunoki, Fusako, Hashizume, Hiromichi: A User Interface for Accessing to Information on Spaces by the Manipulation of Physical objects, In Proc. of Human-Computer Interaction, New Orleans, LA, pp.56-60 (2001)

Sugimoto, Masanori, Kusunoki, Fusako, Hashizume, Hiromichi: A System for Supporting Group Activities with a Sensor-Embedded Board, In Proc. of European Conference on Computer Supported Cooperative Work (ECSCW2001) Bonn, Germany pp. 25-28 (2001)

Kusunoki, Fusako, Sugimoto, Masanori, Hashizume, Hiromichi: Symphony-Q: A Support System for Learning Music through Collaboration In Proc. of Computer Support for Collaborative Learning (CSCL2002) Boulder, CO (to appear in 2002)

楠 房子, 杉本 雅則, 橋爪 宏達:「思考の外化を支援することによるグループ学習支援システム」, 電子情報通信学会論文誌 D-II Vol.J88-Dj, No.6, pp.580-587 2002 年 6 月

Fusako Kusunoki, Masanori Sugimoto, Hiromichi Hashizume, Electronically Enhanced Board Games by Integrating Physical and Virtual Spaces, Entertainment Computing: Technologies and Applications, Kluwer Academic Publishers, 2002, 207-214.

楠房子, 杉本雅則, 橋爪宏達, 同時多入力デバイスを用いた電子ボードゲームの構築, 日本バーチャルリアリティ学会論文誌, 2002, 7(4), 487-494.

Masanori Sugimoto, Fusako Kusunoki, Hiromichi Hashizume, Design of an Interactive System for Group Learning Support, In Proc. of ACM Conference on Designing Interactive Systems (DIS2002), London, UK, pp.50-55, 2002.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12 年度科学研究費補助金(B) (1) (平成 14 年度まで)「デジタル・ミュージアムにおける参加型創造学習システム」(12558017)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

2000 年度財団法人大川情報通信基金研究助成金「利用者の動機付けを高メールことを目指した協調支援システムの構築」「A System for Supporting Collaboration that Raises Users' Motivation」(00-15)

氏 名 上岡 英史 (かみおか えいじ)
 博士号 1997 年, 博士(理学)(青山学院大学)
 所属・役職 情報メディア研究系情報検索研究部門助手
 電話番号 03-4212-2620
 ファクシミリ 03-3556-1916
 専門分野 情報通信工学、気球工学、宇宙線物理学

研究概要

「コンテキストウェアネスを用いたユビキタス情報提供システムの研究」
 ユビキタスコンピューティング環境において、ユーザを取り巻く環境に関するいろいろな情報(ユーザコンテキスト情報)をセンサやコンピュータ経由で取得し、それらをもとにユーザが必要としている情報を把握し、それらの情報をコンテンツサーバーから取り出し、ユーザの受信環境(利用可能な端末やサービス)に適合した形式に変換して自動的にユーザの情報機器に情報を送り届けるシステムを構築するための基本技術を研究する。

学 歴

- 1989年3月 青山学院大学理工学部物理学科卒業:理学士
- 1991年3月 青山学院大学大学院理工学研究科物理学専攻博士前期課程修了:修士(理学)
- 1997年3月 青山学院大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程修了:博士(理学)

主要経歴

- 1991年4月 シヤープ株式会社技術本部通信技術研究所入社(1993年9月まで)
- 1993年10月 青山学院大学大学院聴講生(1993年3月まで)
- 1994年4月 青山学院大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程(1997年3月まで)
- 1994年4月 日本学術振興会特別研究員(DC1:青山学院大学)
- 1997年4月 日本学術振興会特別研究員(PD:宇宙科学研究所システム研究系気球工学部門)
- 1998年7月 文部省学術情報センター研究開発部システム研究系超高速通信方式研究部門助手
- 2000年4月 国立情報学研究所情報メディア研究系統合メディア処理研究部門助手
- 2002年4月 総合研究大学院大学数物科学研究科助手(併任)

教育活動歴

- 1998年4月～2002年3月 神奈川県立衛生短期大学非常勤講師(「保健情報科学」担当)
- 2002年4月～ 日本大学大学院理工学研究科電子工学専攻非常勤講師(「通信方式特論」担当)
- 2002年4月～ 総合研究大学院大学数物科学研究科助手(併任)

学協会活動

- 日本物理学会正会員(1992年～)
- 宇宙線研究者会議(CRC: Cosmic Ray Researches Congress)会員(1996年～)
- 電子情報通信学会正会員(1998年～)
- 情報処理学会正会員(2000年～)
- IEEE 正会員(2002年～)
- 電子情報通信学会論文誌査読委員(2001年特集号)
- 電子情報通信学会論文誌査読委員(2002年特集号)
- 電子情報通信学会論文誌査読委員(2003年特集号)
- 電子情報通信学会英文論文誌 MoMuC 特集号編集委員(2003年)
- WTC2002 査読委員
- SACIS2003 査読協力者
- SACIS2003 開催協力者
- 電子情報通信学会モバイルマルチメディア通信研究専門委員会(MoMuC)委員(2003年～)
- CIIT2002 (International Conference on Communications, Internet and Information Technology 2002) 座長(2002年)
- CSN2003 (International Conference on Communication Systems and Networks 2003) 座長(2003年)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- Shigeki Yamada and Eiji Kamioka, "DESIGN OF AN ENVIRONMENT-ADAPTIVE ARCHITECTURE FOR PERSONAL COMMUNICATIONS", Proceedings of the Internet and Multimedia Systems and Applications (IMSA 2001), 13-16 August, Honolulu, Hawaii, USA, 2001, pp.371-376.
- Eiji KAMIOKA and Shigeki YAMADA, "Environment-Adaptive Personal Communication Architecture toward Ubiquitous Computing Networks", IEICE transactions on Communications, Vol.E84-B, No.11, 2001, pp.189-192; Proceedings of the 7th Asia-Pacific Conference on Communications (APCC 2001), 17-20 September, Tokyo, Japan.
- Eiji Kamioka and Shigeki Yamada, "Performance Evaluation of a Seamless Communication on 3GPP-based IP Networks", The Huntsville Simulation Conference (HSC 2001), 3-4 October, Huntsville, Alabama, USA, 2001.

Eiji Kamioka and Shigeki Yamada, "EAPEC: Environment-Adaptive Personal Communication Architecture using SIP", Invited Talk, Lecture Note of the International SIP Conference (SIP2002), 15-18 January, Paris, France, 2002.

Shigeki Yamada and Eiji Kamioka, "Context-Aware Information Delivery Service Using SIP and 3GPP All-IP Network Architecture", Proceedings of the Spring 2002 SIP Summit, 7-9 May, Las Vegas, 2002.

上岡英史, 山田茂樹, "ユビキタスコンピューティング・ネットワーク実現に向けた環境適応型パーソナル通信", 電子情報通信学会論文誌B, Vol.J85B, No.5, 2002, pp.755-767.

Eiji Kamioka and Shigeki Yamada, "A Context-Aware Personal Communication System in Ubiquitous Environments", Proceedings of the Communications, Internet and Information Technology (CIIT2002), 18-20 November, St. Thomas, Virgin Islands, USA, 2002, pp.124-131.

山田茂樹, 上岡英史, "ユビキタスコンピューティングネットワークの研究動向", NII Journal, No.5, 2003, pp.41-47.

上岡英史, "コンテキストウェアネスを用いたアプリケーションの研究動向", 情報処理学会誌, Vol.44, No.3, 2003, pp.265-269.

上岡英史, 山田茂樹, "SIP ネットワークにおける EAPEC (Environment-Adaptive Personal Communication) の性能評価に関する検討", 情報処理学会研究報告, Vol.2001 No.83, 2001-MBL-18, 2001-ITS-6, 2001, pp.113-119.

講演・口頭発表等

Eiji Kamioka and Shigeki Yamada, "Study on Environment-Adaptive Personal Communication (EAPEC) Realizing Ubiquitous Computing Network", NII Open House, NII, Tokyo, 27 February, 2002.

上岡英史, 山田茂樹, "ユビキタスコンピューティングネットワークにおける環境適応型パーソナル通信方式の研究と今後の展開:コンテキストウェア型情報配送サービスの提案と研究課題", NTT DoCoMo 招待講演, NTT DoCoMo in YRP (Yokohama Research Park), 2002年4月26日。

上岡英史, "ユビキタスコンピューティングネットワークにおける環境適応型パーソナル通信", NII 定例研究会, NII, Tokyo, 2002年7月17日。

Shigeki Yamada and Eiji Kamioka, "Context-Aware Information Delivery Service (CAIDS) Using SIP and 3GPP All-IP Network Architecture", Invited Talk in Nokia Japan, Nokia Research Center, Tokyo, 19 July, 2002.

Eiji Kamioka and Shigeki Yamada, "Study on Environment-Adaptive Personal Communication (EAPEC) Realizing Ubiquitous Computing Network", NII Open House, NII, Tokyo, 25 July, 2002.

競争的研究資金獲得状況

- (1) 科研費
- (2) 科研費以外の政府関係の研究費
- (3) その他の研究費

国立情報学研究所実証研究センター公募プロジェクト「コンテキストウェアネスを用いたデジタルコンテンツ提供システムの実証研究, 2002年度(4,000千円)

◆情報検索研究部門

氏名 山本 毅雄 (やまもと たけお)
博士号 理学博士(化学)
所属・役職 情報メディア研究系 研究主幹
情報検索研究部門 教授
電話番号 03-4212-2514
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報学(情報システムのヒューマンインターフェース、デジタル図書館)

研究概要

1. 電子テキスト読書システム:近年、多量の電子テキストが蓄積されつつある。これに適するヒューマン・インターフェースを求める。
2. 学術・文化資料の長期デジタル・アーカイビング:技術的・組織的・制度的な種々の課題がある。この問題を総合的に研究している。

学歴

1962年3月 東京大学理学部化学科卒
1964年3月 東京大学大学院化学系研究科化学専門課程 修士課程修了
1967年3月 東京大学大学院理学系研究科化学専門課程 博士課程修了

主要経歴

1967年4月～1972年11月 東京大学理学部助手(化学教室)
1967年9月～1969年9月 米国ノースカロライナ大学博士研究員
1971年3月～1972年11月 東京大学大型計算機センター助手併任
1972年11月～1981年3月 東京大学大型計算機センター助教授
1977年3月～1981年2月 東京大学情報図書館学研究センター助教授併任
1981年4月～1995年10月 図書館情報大学図書館情報学部教授
1995年10月～1999年10月 図書館情報大学副学長
1999年10月～2001年3月 図書館情報大学図書館情報学部教授
2001年4月 図書館情報大学名誉教授
2001年4月～現在 国立情報学研究所 情報メディア研究系研究主幹・情報検索研究部門教授

教育活動歴

1979年～1981年 東京大学大学院工学系研究科担当
1981年～1996年 図書館情報大学大学院図書館情報学研究科担当(修士課程)
1981年～1989年 東京大学非常勤講師(大学院理学系研究科情報科学専攻)
1981年～1989年 慶応大学非常勤講師(理工学部化学科)
1985年 中山大学(中国)計算機学科訪問教授(世界銀行専門家)
2000年～2001年 図書館情報大学大学院情報メディア研究科担当(博士課程)
2002年～ 総合研究大学院大学数物研究科担当(情報学専攻・博士課程)

大学院担当講義

情報環境科学概論 (宮澤彰教授と共同担当)
デジタルドキュメント

学協会活動

日本化学会会員(1961～現在)
情報処理学会会員(1970～現在)、同情報システム研究会主査(1994～1996)
日本分析化学会会員(1970～現在)
日本ドキュメンテーション協会(現:情報科学技術協会)会員(1971～現在)
日本図書館学会(現:日本図書館情報学会)会員(1985～現在)
人工知能学会会員(1986～現在)
情報知識学会会員(1988～現在)、同理事(2003～現在)
日本分類学会会員(1991～現在)
Association for Computing Machinery 会員(2000～現在)
American Society for Information Science and Technology 会員(2001～現在)

社会貢献活動

日本ユネスコ国内委員会コミュニケーション小委員会 IFA 分科会委員(2002～)
以上のほか、過去の諸時期において、国立民族学博物館・国文学研究資料館・学術情報センター・国立歴史民俗博物館・海上保安庁海洋情報センター・国土庁国土情報室・農水省農水研究計算センター等の諸委員会の委員として、主として情報処理・情報検索・データベース機能等の設計・運営について助言した。

講演・口頭発表等

Takeo Yamamoto: Research and Services at NII, A Seminar at Center for Research on Information Access, Columbia University (New York City, U. S. A., March 2003).

氏名 片山 紀生 (かたやま のりお)
博士号 1995年 博士(工学)(東京大学)
所属・役職 情報メディア研究系、情報検索研究部門、助教授
電話番号 03-4212-2526
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

現在、放送映像アーカイブシステムの試作に力を注いでいる。近年のハードウェア技術の進展により、大規模な映像アーカイブの構築が現実化しつつあり、特に、放送映像アーカイブは、日常生活に密着しているため実用性の高いアプリケーションであると考えられる。試作中の放送映像アーカイブを、これまでの研究成果を活用する対象としテーマた、新たなニーズを発掘する場として利用し、実応用でのニーズに即した実践的な検索手法の開拓を目指している。

学歴

1990年3月 東京大学工学部電気工学科卒業
1992年3月 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了
1995年3月 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了

主要経歴

1995年4月 学術情報センター システム研究系 助手
2000年4月 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 助手
2000年10月 国立情報学研究所 情報メディア研究系 助教授
2002年4月 文部科学事務官(研究振興局学術調査官)併任

受賞等

2002年 情報処理学会「山下記念研究賞」

教育活動歴

2002年4月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 併任

大学院担当講義

マルチメディア情報処理

学協会活動

電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会 幹事補佐 (2000年5月～2001年4月)
電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会 幹事 (2001年5月～2003年4月)
電子情報通信学会会員(1989年～)、情報処理学会会員(1993年～)、
IEEE 会員(1989年～)、ACM 会員(1996年～)

社会貢献活動

電気学会 電気技術史データベース体系化調査専門委員会 委員 (2001年4月～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Norio Katayama and Shin'ichi Satoh, "Experimental Evaluation of Disk-Based Data Structures for Nearest Neighbor Searching," Data Structures, Near Neighbor Searches, and Methodology: Fifth and Sixth DIMACS Implementation Challenges, AMS DIMACS Series, Vol. 59 (2002) pp.87-104.

Norio Katayama and Shin'ichi Satoh, "Distinctiveness-Sensitive Nearest-Neighbor Search for Efficient Similarity Retrieval of Multimedia Information," IEEE 17th International Conference on Data Engineering (ICDE2001) (Apr. 2001) pp.493-502.

片山紀生, 佐藤真一, 「類似検索のための索引技術」, 情報処理学会誌, Vol.42, No.10 (Oct. 2001) pp.958-964.

片山紀生, 佐藤真一, 「映像断片照合を用いた大規模ニュース番組映像アーカイブの構造化」, 電子情報通信学会技術研究報告(PRMU), Vol.102, No.155 (Jun. 2002) pp.21-26.

片山紀生, 孟洋, 佐藤真一, 「映像インデクシング研究のための大規模放送映像アーカイブシステムの試作」, 情報処理学会研究報告(DBS), Vol.2002, No.41 (May 2002) pp.17-23.

講演・口頭発表等

片山紀生, 「マルチメディア情報のための検索技術」, 情報処理学会 第 65 回全国大会, 特別トラック:マイニングとサーチングー情報洪水時代における情報発掘と情報検索-, 招待講演 (2003年3月).

◆コンピュータビジョン研究部門

氏名 神内 俊郎 (かみうち としろう)
博士号 工学博士(1996 東京大学)
所属・役職 情報メディア研究系 コンピュータビジョン研究部門・客員教授
電話番号 045-866-6178
ファクシミリ 045-866-5946
専門分野 電子工学 情報工学

研究概要

高度なデジタル画像処理技術及び高品位なデジタルコンテンツのネットワーク環境におけるバーチャルコラボレーション(ミュージアム)の研究

学歴

1966.3 東京大学工学部電気工学科卒
1968.3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻修士課程修了

主要経歴

1968.4 (株)日立製作所入社
1977.8 (株)日立製作所中央研究所 主任研究員
1983.8 (株)日立製作所マイクロエレクトロニクス機器開発研究所開発部長
1985.2 (株)日立製作所本社 研究開発部、技術管理部、システム事業部 副技師長を歴任。
1991.8 (株)日立製作所試作開発センタ センタ長(現在に至る)

受賞等

2003 第4回デジタルアーカイブ・アワード 二条城築城400年記念特別賞

教育活動歴

神戸芸術工科大学 特別講師(1991~8)
東京大学 学芸員専修コース講師(1996)
東京芸術大学非常勤講師(1999)
文部省大学共同利用機関国際日本文化研究センター客員教授(1999~2001)
東京大学総合研究博物館客員教授(2002~現在)

学協会活動

IEEE会員、日本機械学会会員

社会貢献活動

2001~2003 国立科学博物館バーチャルミュージアム開発特別委員会委員

査読付き論文あるいはそれらに相当する論文、著書等

- ・“The Digital Image System”
Proc of ICOM-CC (in Rio de Janeiro, Sep 22-27)Preprints,Volume1(2002, P281-286)
- ・“DIS(Digital Image System) Technology and Its application to the Digital Silk Roads Project”
Proc of the Tokyo Symposium for Digital Silk Roads(2002,P61-67)
- ・“デジタルイメージシステムの開発とその応用ーその(5)”
筑波大学感性評価構造モデル構築プロジェクト研究報告集(2003, P339-344)

- ・“DIS(Digital Image System)技術とデジタルアーカイブへの応用”
人工知能学会誌 特集 「デジタルアーカイブ」 第18巻 第3号(2003)
- ・“DIS(Digital Image System) Technology and Its application to Digital Archives”
EVA2003 Florence(2003)

特許・公開ソフトウェア・作品等

- ・戸隠神社中社天井絵「幻の龍デジタル復元」(2003)
- ・「荘厳の匠 二条城障壁画復元」
デジタルアーカイブ構想振興事業
新技術を駆使した産業関連技術の高精細デジタル映像ソフト制作事業
(財)デジタルコンテンツ協会(2002)

その他の著作物

- ・“DIS 技術による「月天」(真長寺蔵)の再現”
「日本画の伝統と継承」(東京芸術大学)(2002, P144-145)
- ・“DIS 技術とその応用”
NIRA 政策研究-9・11 後の世界における日露協力の展望(2002, P44-47)

講演・口頭発表等

- ・デジタル・シルクロード東京シンポジウム Tokyo Symposium for Digital Silk Roads
(2001.12.11-13)
- ・第2回日露フォーラム (2002.5.20-21)
- ・北京国際フォーラム(2002.8.26-27)
- ・ICOM Committee for Conservation (in Rio de Janeiro, 2002,9,22-27)
- ・EVA-GIFU2002(Electronic Imaging & the Visual Arts 2002 -GIFU-,2002,11,12-13)
- ・デジタルコンテンツ活用フォーラム e-Japan 計画促進を目指して (2002.12.9)

氏名 中村 裕一 (なかむら ゆういち)
 博士号 博士(工学)
 所属・役職 情報メディア研究系・客員助教授
 電話番号 029-853-5511
 ファクシミリ 029-853-5511
 専門分野 知能情報メディア、映像処理、画像理解

研究概要

ユーザの状況に応じて適切な情報を提示する対話的映像メディアを実現するための基礎的研究を行った。その一つの柱として、センサが人間の行動を観測し、複数のカメラが人物行動を知的に撮影する自動化撮影、人間の動作に合わせて最も伝えたい部分を強調する映像編集を実現するシステムの構築を行った。さらに、文書・映像をナビゲーションするための図的表現とその効果的利用、個人視点映像を用いた個人行動記録と共有手法等の要素技術について、基礎的な研究を行った。

学歴

1985年3月 京都大学工学部電気工学第二学科卒業
 1990年3月 京都大学大学院博士後期課程電気工学第二専攻修了

主要経歴

1990年4月 京都大学 工学部 助手
 1993年4月 筑波大学 電子・情報工学系 講師
 1996年3月～12月 米国カーネギーメロン大学 客員研究員
 1997年～1998年 京都大学大学院 情報学研究科 講師(併任)
 1998年～2001年 科学技術振興事業団 さきがけ21研究「情報と知」研究員(兼任)
 1999年4月～ 筑波大学 機能工学系 助教授
 2000年11月～ 国立情報学研究所 情報メディア研究系 客員助教授

受賞等

2002年 坂井記念特別賞(情報処理学会)

教育活動歴

筑波大学 工学システム学類、システム情報工学研究科、理工学研究科にて、情報処理(実習)、
計算機序論 II(グラフィックス基礎)、人工知能、コンピュータビジョン、その他 担当

学協会活動

情報処理学会、電子情報通信学会、人工知能学会、ACM、IEEE 会員
情報処理学会 CVIM 研究会幹事(1998-2002)

査読付き論文あるいはそれらに相当する論文、著書等

M.Ozeki, Y.Nakamura, Y.Ohta, Human Behavior Recognition for an Intelligent Video Production System, Proc. Pacific-Rim Conference on Multimedia, pp.1153-1160, 2002

S.Kubota, Y.Nakamura, Y.Ohta, Detecting Scenes of Attention from Personal View Records -- Motion estimation improvements and cooperative use of a surveillance camera, Proc. IAPR Workshop on Machine Vision and Applications, pp.209-213, 2002

Y.Nakamura, M.Ozeki, Y.Ohta, An Intelligent System for Capturing Presentation on Desktop Manipulations -- Supporting for Video Contents Production, "Virtual Environments for Teaching and Learning", Chapter 10, World Scientific Publishing Company, pp.363-393, 2002

M.Murayama, Y.Nakamura, Y.Ohta, Flexible Diagram Generation from Tagged Texts, Proc. Sixth Int'l Conference on Knowledge-Based Intelligent Information & Engineering Systems, pp.582-587, 2002

H.Izuno, Y.Nakamura, Y.Ohta, QUEVICO: A Framework for Video-based Interactive Media, Int'l Workshop on Intelligent Media Technology for Communicative Reality, pp.6-11, 2002

M.Ozeki, M.Itoh, Y.Nakamura, Y.Ohta, Tracking Hands and Objects for an Intelligent Video Production System, Proc. IAPR 16th Int'l Conference on Pattern Recognition, Vol.III, pp.1011-1015, 2002

Y.Sato, M.Takemura, I.Kitahara, J.Hoshino, Y.Nakamura, Y.Ohta, Visualizing the Focus of Attention in Mixed Reality Community Space, Proc. Int'l Conference on Artificial reality and Telexistence, pp.141-146, 2001

M.Murayama, Y.Nakamura, Y.Ohta, Diagram Generation From Tagged Texts Toward Document Navigation, Proc. Int'l Conference on Multimedia and Expo, pp.716-719, CD-ROM FP0.4, 2001

M.Ozeki, Y.Nakamura, Y.Ohta, Camerawork for Intelligent Video Production -- Capturing Desktop Manipulations, Proc. Int'l Conference on Multimedia and Expo, pp.41-44, CD-ROM TA1.5, 2001

上記に含まれない論文・記事・著作物等

中村裕一, 画像処理・理解・マルチメディアのブックマーク (HTML), 人工知能学会誌, Vol.18-2, pp.200-202, 2003

尾形涼, 尾関基行, 中村裕一, 大田友一, 遠隔サイト間で注目を共有するための映像撮影・選択・伝送システム, 第一回情報科学技術フォーラム, pp.K-42 (CD-ROM 出版), 2002

久保田敏司, 中村裕一, 大田友一, 個人行動記録システムにおける注目シーンの検出 -- 注目シーン検出の高精度化と環境カメラの利用 --, 信学技報 PRMU-2002-64, pp.47-52, 2002

伊藤雅嗣, 尾関基行, 中村裕一, 大田友一, 映像メディア取得のための手と把持物体の追跡と認識 -- 多種類の画像センサによるロバストな実時間追跡 --, 信学技報 PRMU-2002-26, pp.43-50, 2002

村山正司, 中村裕一, 大田友一, タグ付け文書からの多様な概念図の生成, 情処研報 DD32-4, 2002

Y.Nakamura, I.Kitahara, J.Hoshino, K.Sakaue, Y.Ohta, Augmenting Communication in a Shared Mixed-Reality Space -- Attention Sharing and Eye Contact Recovery, Proc. Int'l Workshop on

Pattern Recognition and Understanding for Visual Information Media, pp.63-74, 2002

中村裕一, 人間の行動を知的に撮影し伝えるシステム, さきがけ 21 「情報と知」研究成果報告会, 2001

久保田敏司, 中村裕一, 大田友一, 個人行動記録システムにおける注目対象検出 -動き推定モデルの検討-, 通信学会ソサエティ大会, 2001

伊藤雅嗣, 尾関基行, 中村裕一, 大田友一, プレゼンテーションにおける手と把持物体の認識と追跡, 通信学会ソサエティ大会, 2001

里雄二, 北原格, 中村裕一, 大田友一, 複合コミュニティ空間における注目の共有 -指示動作による注目の強調提示システム-, 日本バーチャルリアリティ学会第 6 回大会論文集, pp.235-238, 2001

尾関基行, 伊藤雅嗣, 中村裕一, 大田友一, 複合コミュニティ空間における注目の共有 -人物動作理解による物体への注釈付け, 日本バーチャルリアリティ学会第 6 回大会論文集, pp.239-242, 2001

村山正司, 伊津野英克, 中村裕一, 大田友一, ビデオアイコンダイアグラムによる映像内容の構造表現, 信学技報 PRMU2001-45, pp.47-54, 2001

講演・口頭発表等

中村裕一, 画像・映像の撮影・編集・提示から対話的映像メディアまで(招待講演), 言語処理学会第 9 回年次大会併設ワークショップ「メディア/モダリティ統合における言語処理」, 2003

競争的研究資金獲得状況

1998 年～2001 年, 科学技術事業団さきがけ 21 研究「情報と知」領域, 人物行動を伝えるための知的映像撮影と編集, 47,050 千円

2001～2003 年, 科学研究費補助金, 質問に対して適切な画像・映像を使って答えることのできる知的メディアの構築, 基盤 B, 7,200 千円, 課題番号 13480087

2001 年, 科学研究費補助金, 人物行動を伝えるための映像文法を用いた知的映像撮影・編集システムの構築, 特定領域 C, 3,400 千円, 課題番号 13224009

2002 年, 科学研究費補助金, 人物行動を伝えるための映像文法を用いた知的映像撮影・編集システムの構築, 特定領域, 3,900 千円, 課題番号 14019010

■知能システム研究系

◆知識処理研究部門

氏名 本位田 真一 (ほんいでん しんいち)

博士号 工学博士

所属・役職 知能システム研究系 知識処理研究部門・教授

電話番号 03-4212-2513

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 エージェント技術、ソフトウェア工学、オブジェクト指向

研究概要

エージェント技術を次世代ネットワークコンピューティングのソフトウェア技術として位置づけ、次の 3 分野の研究を行っている。(1)エージェント・アーキテクチャ、(2)エージェント・ソフトウェア工学、(3)エージェントを用いた斬新なアプリケーション

学歴

1976 年 3 月 早稲田大学理工学部卒業

1978 年 3 月 早稲田大学大学院理工学研究科博士前期課程修了

主要経歴

1978 年 4 月 (株)東芝(2000 年 1 月まで)

2000 年 2 月 学術情報センター 教授

2000年4月 国立情報学研究所 教授(現在に至る)

2001年4月 東京大学大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻教授併任(現在に至る)

教育活動歴

1991年4月:東京工業大学大学院総合理工学研究科非常勤講師(1991年9月まで)

1995年4月:早稲田大学理工学部非常勤講師(現在に至る)

1996年4月:大阪大学大学院工学研究科非常勤講師(2002年3月まで)

1996年4月:筑波大学第3学類非常勤講師(1999年3月まで)

1998年4月:大阪大学大学院基礎工学研究科非常勤講師(1999年3月まで)

1999年11月:お茶の水女子大学理学部非常勤講師(2003年3月まで)

2002年4月:東京大学大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻教授併任(現在に至る)

2002年4月:北陸先端技術大学院大学客員教授併任(現在に至る)

大学院担当講義

エージェントシステム特論(東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻)

学協会活動

日本ソフトウェア科学会 理事

ACM 日本支部会計幹事

IEEE Tokyo Section Computer Society Chapter Vice Chairman(1999年3月まで)

情報処理学会会誌編集委員

日本ソフトウェア科学会編集委員会委員

その他、多数の主要国際会議のプログラム委員を歴任

社会貢献活動

情報処理振興事業協会 先進情報技術開発委員会(1998年4月～2002年3月)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

吉田和樹, 本位田真一:コンポーネントベース・フレームワーク開発手法におけるコンポーネントの抽出・設計方法論 情報処理学会論文誌, Vol. 43, No. 1(平成14年1月号)

田原康之, 大須賀昭彦, 本位田真一 IPEditor 開発ツールとMobile UNITY 言語の適用によるモバイルエージェントセキュリティの実現 情報処理学会論文誌, Vol. 43, No. 6(平成14年6月号)

飯島正, 本位田真一, 土居範久 共生/寄生エージェントモデルによる発展的 P2P アプリケーション構築法 情報処理学会論文誌, Vol. 43, No. 6(平成14年6月号)

市瀬 龍太郎, 武田 英明, 本位田 真一 階層的知識間の調整規則の学習, 人工知能学会論文誌, Vol. 17, No. 3, pp. 230-238, (2002)

N. Yoshioka, T. Kawamura, A. Ohsuga, and S. Honiden Evaluation of A Multi Agent Framework for Open Distributed Systems IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications, and Computer Sciences, Vol.E85-A, No.11 (2002)

岡宅靖邦, 吉岡信和, 本位田真一 アドホックネットワークにおけるエージェント間共同作業のための認証機構 電子情報通信学会論文誌 2003年3月号

糸野文洋, 本位田真一 モバイルアプリケーションのためのエージェントプラットフォーム MolFie 電子情報通信学会論文誌 2003年3月号

本位田真一, 大須賀昭彦 増補改訂 オブジェクト指向からエージェント指向へ ソフトバンク, 2001年12月

上記に含まれない論文・記事・著作物等

金子平祐, 深澤良彰, 糸野文洋, 本位田真一, 携帯情報機器におけるアプリケーションソフトウェアの自律的サーバーイバル 2001年ソフトウェア技術に関するジョイントワークショップ JWST(Joint Workshop on Software Technology) 2001 October 18-19,2001

川上 憲治, 広重 一仁, 佐々木 宏, 岡宅 泰邦, 本位田 真一:モバイル環境向けエージェント移動制御, 情報処理学会 モバイルコンピューティングとワイヤレス通信研究会, SIG-MBL-20, pp. 123-129, (2002)

川上 憲治, 広重 一仁, 吉岡 信和, 本位田 真一: モバイル環境向けエージェント移動制御 (その 2), 情報処理学会 モバイルコンピューティングとワイヤレス通信研究会, SIG-MBL-21, pp. 89-94, (2002)

広重 一仁, 川上 憲治, 本位田 真一: モバイルミドルウェアにおけるエージェント移動制御, 情報処理学会 マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム, DICOMO 2002, pp. 405-408, (2002)

講演・口頭発表等

広重 一仁, 川上 憲治, 本位田 真一: モバイル環境を考慮したモバイルエージェント移動方式, 電子情報通信学会総合大会講演論文集 情報・システム[1], pp. 100, (2002)

武田英明, 市瀬龍太郎, 村田剛志, 本位田真一. 知識共生 - 新しい知識流通の? 基盤を目指して -. 人工知能学会全国大会(第 16 回)論文集, 2002. (CDROM).

川上 憲治, 広重 一仁, 吉岡 信和, 本位田 真一: リソース配分を考慮したエージェント移動制御, 情報処理学会 情報科学技術フォーラム, FIT 2002, (2002)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

制度: 科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)) 研究課題名: ネットワーク分散知識システムのための知識共生モデルの構築に関する研究 研究期間: 2001 年~2003 年 補助金額: 約 2000 万円

制度: 科学研究費補助金(特定領域研究 C) 研究課題名: 仕様/環境の変化に対応するソフトウェアのためのエージェント指向開発方法論の構築 研究期間: 2001 年~2005 年度 補助金額: 2500 万円

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

制度: 通産省, 次世代デジタル応用基盤技術開発事業 研究課題名: 移動エージェント相互運用ミドルウェアの開発 研究期間: 1998 年~2000 年 補助金額: 1 億 4 千万円

制度: SSR 産学戦略的研究フォーラム 研究課題名: ポリシー技術と電子商取引システムへの応用 研究期間: 2002 年 補助金額: 200 万円

制度: 総務省, 戦略的情報通信研究開発推進制度(研究主体育成型研究開発) 研究課題名: 自由でかつ安全なコンテンツ流通を実現するためのエージェントフレームワークの研究開発 研究期間: 2002 年~2006 年 補助金額: 約 2 億 5000 万円

(3) その他の研究費

総額: 1954 万円

氏名 武田 英明 (たけだ ひであき)
博士号 工学博士(東京大学)
所属・役職 知能システム研究系・知識処理部門・助教授
電話番号 03-4212-2543
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 人工知能、設計学

研究概要

知識共有システム、ロボティクス、設計学。知識共有システムの研究としてはオントロジー、コミュニティ支援システムなどに興味をもつ。ロボティクスでは身体性にもとづく知的沈香物に関心をもつ。設計学の分野では創造的アブダクションの研究に従事。

学歴

1986 年 3 月 東京大学 工学部 精密機械工学科 卒業
1988 年 3 月 東京大学 大学院 工学系研究科 修士課程 修了
1991 年 3 月 東京大学 大学院 工学系研究科 博士課程 修了

主要経歴

1991 年 4 月 財団法人日本システム開発研究所 嘱託研究員 (至 1992 年 1 月)
1992 年 2 月 ノルウエー工科大学 postdoctoral fellow(至 1993 年 3 月)

1993年4月 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助手(至1995年3月)
1995年4月 同 助教授(至2000年3月)
2000年4月 国立情報学研究所 助教授
1996、1997、1999年 通産省工業技術院 電子技術総合研究所 研究員(非常勤)
1999年11月 学術情報センター 助教授(併任)(至2000年3月)
2000年4月 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授(併任)(至2002年3月)
2002年4月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助教授(併任)

受賞等

人工知能学会全国大会 ベストプレゼンテーション賞(2001年)

教育活動歴

1993年4月～2002年3月 奈良先端科学技術大学院大学 助手、助教授、客員助教授
2002年4月～ 総合研究大学院大学 助教授
2002年 青山学院大学理工学部、早稲田大学理工学部、法政大学国際文化学部、東京工業大学理学部 非常勤講師

大学院担当講義

知識共有システム

学協会活動

人工知能学会評議委員(2000年～)
人工知能学会誌編集委員(1996年～)
電子情報通信学会論文誌編集委員(1997年～2001年)
第10回マルチエージェントと協調計算研究会プログラム委員長(2001年)
人工知能学会誌論文特集 Web Intelligence 編集委員長(2001年)
人工知能学会 AI チャレンジ研究会幹事(1996年～)
人工知能学会 セマンティックウェブとオントロジー研究会幹事(2002年～)
電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究専門委員会専門委員(1997年～)
人工知能学会 知識ベースシステム研究会連絡委員(1998年～)
International Conference on Artificial Intelligence in Design (AID'96, 98, 2000, 2002), Advisory Board Committee
First International Joint Conference on Autonomous Agents and Multi-Agent Systems (AAMAS2002), Program Committee
The Seventh Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence (PRICAI-02), Publicity Co-Chair, Local Arrangement Co-Chair, Program committee, Organizing committee
International Workshop on Semantic Web Foundations and Application Technologies (SWFAT), 2003, Co-Chair
人工知能学会、電子情報通信学会、情報処理学会、ロボット学会、精密工学会、AAAI、各会員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Kazunori Terada, Takayuki Nakamura, Hideaki Takeda, and Tsukasa Ogasawara. Embodiment based object recognition for vision-based mobile agents. *Journal of Robotics and Mechatronics*, 13(1):88-95, 2001.
Atsushi Ueno and Hideaki Takeda. Cooperation of categorical and behavioral learning in a practical solution to the abstraction problem. *New Generation Computing*, 19:257-282, 2001.
高橋徹, 武田英明. Telmea: 非同期コミュニティシステムにおける avatar-like エージェントの効果と web ベースシステムへの実装. *電子情報通信学会論文誌*, J84-D-I(8):1244-1255, 2001.
山城啓秀, 上野敦志, 武田英明. 遅れ報酬に基づく遺伝的アルゴリズムによる部分観測マルコフ決定問題の解決手法. *電子情報通信学会論文誌*, J84-D-I(12):1635-1647, 2001.
Toru Takahashi and Hideaki Takeda. TelMeA: An asynchronous community system with avatar-like agents. In *Human Computer Interaction INTERACT '01*, pages 190-197, Tokyo, July 2001.

Ryutaro Ichise, Hideaki Takeda, and Shinichi Honiden. Automated alignment of multiple internet directories. In Poster Proceedings, The Tenth International World Wide Web Conference, pages 194–195, 2001.

Hideaki Takeda, Masaharu Yoshioka, and Tetsuo Tomiyama. A general framework for modeling of synthesis – integration of theories of synthesis –. In 13th International Conference on Engineering Design – ICED 01, Design Research – Theories, Methodologies, and Product Modelling, pages 307–314, Glasgow, August 2001.

Akira Tsumaya, Yutaka Nomaguchi, Masaharu Yoshioka, Hideaki Takeda, Tamotsu Murakami, and Tetsuo Tomiyama. Verification of a model of synthesis – the methods for verification and results. In 13th International Conference on Engineering Design – ICED 01, Design Research – Theories, Methodologies, and Product Modelling, pages 229–236, Glasgow, August 2001.

Atsushi Ueno, Hiroaki Soeda, Hideaki Takeda, and Masatsugu Kidode. STNS-R: A learning method for seamless transplantation from a virtual agent to a physical robot. In The 2001 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2001), Oct 2001.

Masahiro Hamasaki and Hideaki Takeda. Experimental results for a method to discover of human relationship based on www bookmarks. In N. Baba, L. C. Jain, and R. J. Howlett, editors, In Proceedings of Fifth International Conference on Knowledge-Based Intelligent Information Engineering Systems & Allied Technologies (KES-2001), volume 2, pages 1291–1295, Osaka, 2001. IOS Press.

武田英明(編).第 10 回マルチエージェントと協調計算ワークショップ論文集, 日本ソフトウェア科学会研究会シリーズ.日本ソフトウェア科学会, 2002.

市瀬龍太郎, 武田英明, 本位田真一.階層的知識間の調整規則の学習.人工知能学会論文誌, 17(3):230–238, 2002.

濱崎雅弘, 武田英明, 松塚健, 谷口雄一郎, 河野恭之, 木戸出正継.Bookmark からの共通話題ネットワークの発見手法の提案とその評価.人工知能学会論文誌, 17(3):276–284, 2002.

Ryutaro Ichise, Hideaki Takeda, and Shinichi Honiden. An examination of the relationships between internet directories. In Proceedings of the EKAW-02 Workshop on Knowledge Management through Corporate Semantic Webs, 2002.

Ryutaro Ichise, Hideaki Takeda, and Shinichi Honiden. Rule induction for concept hierarchy alignment. In Proceedings of the IJCAI-01 Workshop on Ontology Learning (OL-2001), pages 26–29, 2001.

T. Nakamura, H. Takeda, T. Terada, M. Oohara, T. Yamamoto, , and M. Takeda. The robocup-naist. In Peter Stone, Tucker Balch, and Gerhard Kraetschmar, editors, RoboCup-2000: Robot Soccer World Cup IV, pages 591–594. Springer Verlag, Berlin, 2001.

Toru Takahashi, Hideaki Takeda, and Yasuhiro Katagiri. Script language for embodied agents as personal conversational media in online communities. In In Proceedings of the AAMAS 2002 Workshop on Embodied conversational agents – let’s specify and evaluate them!, July 2002.

Toru Takahashi and Hideaki Takeda. Proposal of a script language for embodied conversational agents as asynchronous conversational media. In In Proceedings of The First International Joint Conference on Autonomous Agents & Multiagent Systems (AAMAS 2002), pages 1387–1388, July 2002.

Tetsuo Tomiyama, Hideaki Takeda, Masaharu Yoshioka, and Yoshiki Shimomura. Abduction for creative design. In Hod Lipton, Erik K. Antonsson, and John R. Koza, editors, Working Notes for AAAI-2003 Spring Symposium Series on Computational Synthesis: From Basic Building Blocks to High Level Functionality. AAAI, 2003.

Masahiro Hamasaki and Hideaki Takeda. Find better friends? -- re-configuration of personal networks by the neighborhood matchmaker method --. In Proceedings of the International Workshop on Semantic Web Foundations and Application Technologies (SWFAT), pages 73–76,

2003.

Hideaki Takeda, Masahiro Hamasaki, and Ryutaro Ichise. Development of the prototype system for collection and integration of concept systems. In Proceedings of the International Workshop on Semantic Web Foundations and Application Technologies (SWFAT), pages 47-50, 2003.

Ikki Ohmukai, Hideaki Takeda, and Mitsunori Miki. A proposal of the person-centered approach for personal task management. Proceedings of 2003 Symposium on Applications and the Internet, pages 234-240, 2003.

Hideaki Takeda, Kazunori Terada, and Tatsuyuki Kawamura. Artifact intelligence: Yet another approach for intelligent robots. In Proceedings of the 11th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive Communication (ROMAN 2002), 2002.

特許・公開ソフトウェア・作品等

会議支援システム高岡良行, 浅野耕作, 井上健, 西田豊明, 武田英明特許特願平 11-356029号特開 2001-175720号

上記に含まれない論文・記事・著作物等

武田英明.知性のネットワークとしてのWWW -Web Intelligenceに関する一考察-.人工知能学会誌, 17(3):346-351, 2002.

和泉憲明・武田英明・山口高平.意味理解する Web を目指して -次世代 Web の方向性を探る-.人工知能学会誌, 17(4):384-391, 2002.

Ryutaro ICHISE, Hideaki TAKEDA, and Shinichi HONIDEN. An alignment algorithm between concept hierarchies. Technical Report NII-2001-001E, National Institute of Informatics, Tokyo, Japan, May 2001.

武田英明.人工知能におけるオントロジーとその応用.情報知識学会 第9回研究報告会講演論文集, pages 1-12, 2001.

市瀬龍太郎, 武田英明, 本位田真一.Www における情報源に関する知識の共生.情報処理学会研究報告「知能と複雑系」, (124):33-40, 2001.

武田英明.市瀬龍太郎.村田剛志.本位田真一.知識共生プロジェクト.情報処理学会研究報告「知能と複雑系」, (124):25-32, 2001.

武田英明, 吉岡真治, 富山哲男.シンセシスにおけるアブダクションの役割と定式化.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

岡孝明, 武田英明.論文のチャート化による論文理解支援システムの実装とその評価.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

市瀬龍太郎, 武田英明, 本位田真一.他者の持つ知識を利用した階層的分類知識の獲得.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

鷹城徹, 武田英明.ユーザの個人的知識に注目した知識獲得支援環境.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

高橋徹, 武田英明.Avatar-like エージェントを用いた web コミュニティ支援システム.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

濱崎雅弘, 武田英明, 河野恭之, 木戸出正継.ブックマークを用いた人の繋がりの発見手法.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

福原知宏, 河村竜幸, 松本文宏, 高橋徹, 寺田和憲, 松塚健, 武田英明.Ubiquitous memories: 実世界の物理的オブジェクトを用いた記憶外在化システム.人工知能学会全国大会(第15回)論文集, 2001. (CDROM).

太田衛, 高岡良行, 武田英明, 東郁雄, 井上健.技術文書のブラウジングを通じたオントロジーの獲得支援システム.人工知能学会知的教育研究会, 5月 2001.

Tatsuyuki Kawamura, Tomohiro Fukuhara, Hideaki Takeda, Yasuyuki Kono, and Masatsugu Kidode. Ubiquitous memories: Wearable interface for computational augmentation of human memory based on real world objects. Technical Report 2002012, Graduate School of Information Science, Nara Institute of Informatics, July 2002.

高橋徹, 武田英明, 片桐恭弘. オンラインコミュニティによる知識構造化のためのスクリプト言語の提案. 人工知能学会全国大会(第 16 回)論文集, 2002. (CDROM).

河村竜幸, 武田英明, 寺田和憲, 福原知宏, 近間正樹, 興石欣吾, 上岡隆宏, 濱崎雅弘. Agentbox: 人との新しいインタラクションのためのハードウェア. 人工知能学会全国大会(第 16 回)論文集, 2002. (CDROM).

武田英明, 市瀬龍太郎, 村田剛志, 本位田真一. 知識共生 - 新しい知識流通の基盤を目指して -. 人工知能学会全国大会(第 16 回)論文集, 2002. (CDROM).

濱崎雅弘, 武田英明. 仲介者を用いた人のネットワーク拡張手法の提案. 人工知能学会全国大会(第 16 回)論文集, 2002. (CDROM).

大向一輝, 濱崎雅弘, 武田英明, 三木光範. Social scheduler - p2p モデルを用いた協調的リソースプランナの提案. 人工知能学会全国大会(第 16 回)論文集, 2002. (CDROM).

Hideaki Takeda, Nigel Collier, and Riichiro Mizoguchi, editors. Proceedings of the international workshop on semantic web foundations and application technologies (swfat). National Institute of Informatics, 2003.

Masahiro Hamasaki and Hideaki Takeda. Proposal of the extension network model for personal human network by using neighborhood matchmaker. Technical Report NII-2002-005E, National Institute of Informatics, October 2002.

坂井宏充, 野間口大, 吉岡真治, 武田英明, 下村芳樹, 富山哲男. 人工物工学研究の展開 第 18 報 -universal abduction studio の提案-. 第 12 回設計工学・システム部門講演会講演論文集, number 02-31, pages 410-411. 日本機械学会, 2002.

下村芳樹, 坂井宏充, 野間口大, 吉岡真治, 武田英明, 富山哲男. Universal abduction studio の開発(第 1 報) -universal abduction studio の基本構想-. 2003 年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集, page 22, 2003.

坂井宏充, 野間口大, 下村芳樹, 吉岡真治, 武田英明. Universal abduction studio の開発(第 2 報) -構造的アナロジー推論に基づく設計支援-. 2003 年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集, page 23, 2003.

大向一輝, 武田英明, 三木光範. 多様かつ曖昧な個人タスクのための管理システムの提案と実装. エージェント合同シンポジウム(JAWS2002)講演論文集, pages 502-509, 2002.

濱崎雅弘, 武田英明. ネットワークの自律的構築のための近傍仲介法の提案とシミュレーションによる検証. エージェント合同シンポジウム(JAWS2002)講演論文集, pages 413-420, 2002.

武田英明. 論文特集「web インテリジェンス」にあたって. 人工知能学会誌, 17(3):345, 2002.

武田英明. 研究室紹介: 国立情報学研究所. 人工知能学会誌, 17(3):375, 2002.

武田英明. デジタル知識のマネージメント. 第 2 回 人工物工学コロキウム「デジタル価値工学を目指して- コンテンツのカスタム化」. 東京大学人工物工学研究センター, 6 月 2001.

武田英明. Semantic web: 人と機械のコミュニケーションの仕組みとしての web. 連続セミナー2001 -21 世紀のネットサービス社会- 「コンテンツ流通サービス」, pages 43-68. 情報処理学会, 11 月 2001.

武田英明. パネルディスカッション「ロボットデザイン: 人間社会への参加と共存」. チェア: 武田英明. パネリスト: 山羽和夫, 柳原望. 人工知能学会サマースクール. 人工知能学会. 2001.

武田英明. モノ, ロボット, AI, ヒトそして AI の二つのビジョン. 企画パネル「AI の夢と現実 -スクリーンのなかの AI-」. 2001 年ソサイエティ大会. 電子情報通信学会. 2001.

岡田光弘, 溝口理一郎, 加地大介, 武田英明. ワークショップ: フォーマル・オントロジーの工学と哲学. オントロジー工学の現在とその哲学的源泉. 日本科学哲学会第 34 回(2001 年)大会. 2001.

北村泰彦, 浦本直彦, 武田英明, 須栗裕樹. パネル討論「インターネット情報統合におけるエージェント技術の展望と課題」. 連続セミナー2001 -21 世紀のネットサービス社会- 「コンテンツ流通サービス」. 情報処理学会. 11 月 2001.

武田英明. Semantic web と知識コミュニティ. 平成 13 年度第 4 回生産経営知識学専門委員会. 精密工学会, 12 月 2001.

武田英明.Semantic web の目標と現状.サイバネティック・フレキシブル・オートメーション(CFA)研究分科会第 5 回例会「次世代生産システムを支える新技術の動向」.システム制御情報学会, 3 月 2002.

武田英明.Semantic web とオントロジーの課題.セマンティックウェブとオントロジー研究会, 東京, 2002 年 11 月 6 日 2002.人工知能学会.

武田英明.日常世界のための web.システム制御セミナー2002「人間と機械のコラボレーションを実現するための技術」, pages 45-52, 大阪, 2002 年 11 月 12 日 2002.システム制御情報学会

武田英明.Semantic web とオントロジー:現状と課題. ACM SIGMOD 日本支部 講演会「トピックマップとセマンティックウェブ」, 東京, 2002 年 10 月 23 日 2002.

武田英明.セマンティック web の方向性と課題.自然言語処理技術に関するシンポジウム 2002, 東京, 2002 年 10 月 16 日 2002.電子情報技術産業協会.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

ネットワークにおけるコミュニケーション支援のための知識ライフサイクルの研究 文部省科学研究費補助金 基盤研究(B)(11480078)研究期間:1999 年度～2001 年度

セマンティックウェブコンピューティングのための概念体系の収集と統合 文部省科学研究費補助金 特定研究(C)(13224092)研究期間:2001 年度

創造的アブダクションによる設計支援の研究 文部省科学研究費補助金 基盤研究(B)(14380170)研究期間:2002 年度～2004 年度(予定)

セマンティックウェブコンピューティングのための概念体系の収集と統合 文部省科学研究費補助金 特定研究 (14019089)研究期間:2002 年度

氏名 市瀬 龍太郎 (いちせ りゅうたろう)
博士号 2000 年 博士(工学) 東京工業大学
所属・役職 知能システム研究系 知識処理研究部門 助手
電話番号 03-4212-2000
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

関係知識の学習に関する研究

知識共有に関する研究

医療情報を用いたデータマイニングに関する研究

学歴

1995 年 3 月 東京工業大学 工学部 情報工学科 卒業

1997 年 3 月 東京工業大学 情報理工学研究科 計算工学専攻 修士課程修了

2000 年 3 月 東京工業大学 情報理工学研究科 計算工学専攻 博士課程修了 博士(工学)取得

主要経歴

2000 年 4 月 国立情報学研究所 知能システム研究系 知識処理研究部門 助手

2001 年 8 月 スタンフォード大学 言語情報研究所 客員研究員(併任、2002 年 5 月まで)

2002 年 4 月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 情報学専攻 助手(併任)

2002 年 9 月 武蔵工業大学 環境情報学部 情報メディア学科 非常勤講師

教育活動歴

武蔵工業大学 環境情報学部 情報メディア学科 非常勤講師 (2002～)

学協会活動

人工知能学会、日本認知科学会、電子情報通信学会、情報処理学会、各会員

情報処理学会 知能と複雑系研究会 運営委員 (2000～)

情報科学技術フォーラム 座長 (2002)

アクティブマイニングワークショップ プログラム委員 (2002)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

市瀬 龍太郎, 武田 英明, 本位田 真一:階層的知識間の調整規則の学習, 人工知能学会論文誌, Vol. 17, No. 3, pp. 230-238, (2002)

市瀬 龍太郎, パット ラングレー:適応的ユーザインターフェースと音声対話, 人工知能学会誌, Vol. 17, No. 3, pp. 291-294, (2002)

ICHISE Ryutaro, TAKEDA Hideaki and HONIDEN Shinichi: An Examination of the Relationships between Internet Directories, Proceedings of the EKAW-02 Workshop on Knowledge Management through Corporate Semantic Webs, pp. 23-36, (2002)

Ryutaro Ichise, Daniel Shapiro and Pat Langley: Learning Hierarchical Skills from Observation, Proceedings of the 5th International Conference on Discovery Science, pp. 247-258, (2002)

TuanNam Tran, Ryutaro Ichise, Masayuki Numao: Mining Hepatitis Data Set Using Information Gathered from Biomedical Literature, Proceedings of International Workshop on Active Mining, pp. 136-141, (2002)

Ryutaro Ichise, Hideaki Takeda, Shinichi Honiden: Integrating Multiple Internet Directories by Instance-based Learning, Proceedings of the 18th International Joint Conference on Artificial Intelligence, pp. 22-28, (2003)

特許・公開ソフトウェア・作品等

データマイニング 前処理支援システム TransX, (2003)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

武田 英明, 市瀬 龍太郎, 村田 剛志, 本位田 真一:知識共生 -新しい知識流通の基盤を目指して-, 第16回人工知能学会全国大会論文集, (2002)

市瀬 龍太郎, ダニエル シャピロ, パット ラングレー:他者の行動からの階層的行動プログラムの学習, エージェント合同シンポジウム論文集, pp. 1-8, (2002)

山田 有吉, 市瀬 龍太郎, 沼尾 正行:多属性データに対する前処理の木構造を用いたモデル化, 人工知能学会研究会資料, SIG-A2-KBS60/FAI52-J, pp. 69-74, (2003)

TuanNam Tran, Ryutaro Ichise, Masayuki Numao: Spiral Cycle of Active Mining by Using an Information Retrieval Approach, 人工知能学会研究会資料, SIG-A2-KBS60/FAI52-J, pp. 75-80, (2003)

濱崎 雅弘, 武田 英明, 市瀬 龍太郎:階層的知識と内容的類似性を用いたインターネットディレクトリの統合, 第17回人工知能学会全国大会, 1D4-07, (2003)

佐藤 慶宜, 市瀬 龍太郎, 沼尾 正行: ILP を用いた時系列データからの知識発見, 第17回人工知能学会全国大会, 1F5-05, (2003)

市瀬 龍太郎, 武田 英明:類似関係にある複数カテゴリの組み合わせの発見, 第17回人工知能学会全国大会, 3F2-04, (2003)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

ネットワーク環境における情報間の関係知識の学習とその流通モデルに関する研究、文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B)、(2002-2004)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

階層的分類手法の学習に関する研究、文部科学省在外研究員助成金、長期在外研究員(甲種)、(2001-2002)

◆計算知能研究部門

氏名 山田 誠二 (やまだ せいじ)
博士号 1989年、工学博士(大阪大学)
所属・役職 知能システム研究系 計算知能研究部門 教授
電話番号 03-4212-2562

ファクシミリ 03-4212-2562

専門分野 人工知能、WWW での情報収集、対話的知能ロボット

研究概要

「相互読心ゲームによる人間と擬人化エージェントの相互適応」

近年、人間と同じような挙動をするエージェントである擬人化エージェントの研究が活発にされている。人間と擬人化エージェントの協調作業において、お互いの感情の同定が重要なタスクである。エージェントはユーザの表情からユーザの感情を容易には同定できないし、逆にユーザもエージェントの表情からその感情を同定できない。そこで本研究では、ユーザと擬人化エージェント間の表情に基づくゲームを通じて、互いが相手の表情と感情の対応を学習して相互適応する枠組みを提案し、その相互適応を加速化する手法を開発した。と同時に、両者間でのコミュニケーションの精度を改善する枠組みを提案する。

学歴

1984年 大阪大学基礎工学部卒業

1986年 同大学院基礎工学研究科修士課程修了

1989年 同大学院基礎工学研究科博士課程修了

主要経歴

1989年 大阪大学基礎工学部 助手

1991年 大阪大学産業科学研究所 講師

1996年 東京工業大学大学院総合理工学研究科 助教授

2002年 国立情報学研究所 教授

受賞等

2001年 人工知能学会研究奨励賞

教育活動歴

1996年～2002年 東京工業大学大学院で講義「先端人工知能」、「知識システム論」を担当

大学院担当講義

ヒューマンエージェントインタラクション

学協会活動

情報処理学会会員(1986～現在)

人工知能学会会員(1986～現在)

American Association of Artificial Intelligence: member (1994～現在)

The Institute of Electrical and Electronics Engineers: member (1994～現在)

Journal of New Generation Computing 編集委員(1994～現在)

Association for Computing Machinery: member (1996～現在)

日本ロボット学会会員(1996～現在)

情報処理学会「知能と複雑系研究会(SIG-ICS)」研究会幹事(1997～2001)

電子情報通信学会会員(1999～現在)

人工知能学会企画委員(2000～現在)

人工知能学会「知識ベースシステム(SIG-KBS)」研究会幹事(2000～2002)

The First Asia-Pacific Conference on Web Intelligence プログラム委員(2001)

The 2002 World Congress on Computational Intelligence プログラム委員(2002)

Pacific Rim Knowledge Acquisition Workshop プログラム委員(2002)

IEEE International Workshop on Active Mining プログラム委員(2002)

The Second International Joint Conference on Autonomous Agents and Multiagent Systems (AAMAS03) プログラム委員(2003)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

M. Okabe and S. Yamada: Interactive Web Page Filtering with Relational Learning, Proceedings of the First Asia-Pacific Conference on Web Intelligence (WI-2001), pp.443-447, Maebashi, Japan (October, 2001)

- S. Yamada and Y. Osawa: Information Gathering of Web pages to Guide Concept Understanding, Proceedings of the Tenth International World Wide Web Conference (WWW10), Poster 1046, Hong Kong, China (May, 2001)
- S. Yamada and T. Yamaguchi: Acquireing Emotion Mappings Through the Interaction Between a User and a Life-like Agent, Proceedings of the 9th International Conference on Human-Computer Interaction, Vol.1, pp.993-997, New Orleans, USA (August, 2001)
- N. Nagino and S. Yamada: Assistance of Web browsing by indicating the future Web pages, Proceedings of the 9th International Conference on Human-Computer Interaction, Vol.1, pp.1140-1144, New Orleans, USA (August, 2001)
- M. Mase and S. Yamada:Development and Evaluation of an Information Retrieval System for User Groups and the WWW, Proceedings of the 9th International Conference on Human-Computer Interaction, Vol.1, pp. 1125-1129, New Orleans, USA (August, 2001)
- S. Yamada and R. Iwasaki: Integration of Operator Learning, Planning and Execution in a Heterogeneous Multi-Robot System, Proceedings of the International Symposium on Robotics (ISR-2001), pp.102-107, Seoul, Korea (April, 2001)
- D. Katagami and S. Yamada: Real Robot Learning with Human Teaching, Proceedings of the 4-th Japan-Australia Joint Workshop on Intelligent and Evolutionary Systems, pp.263- 270, Hayama, Japan (October, 2001)
- 山田誠二, 中井有紀:対話的分類学習による Web ページの部分更新モニタリング, 人工知能学会論文誌, Vol.17 No.5 (2002).
- 間瀬心博, 山田誠二:HERIS:ユーザグループと WWW の統合的情報検索システム, 人工知能学会論文誌, Vol.17 No.2 (2002).
- S. Yamada, N. Nagino: Constructing a personal Web map with anytime-control of Web robots, International Journal of Cooperative Information Systems, Vol.11 No.1 & 2, pp.1-19 (2002)
- S. Yamada and Y. Nakai: Monitoring Partial Updates in Web Pages using Relational Leaning, Proceedings of 2nd International Conference on Adaptive Hypermedia and Adaptive Web Based Systems (AH-2002), pp.452-455, Malaga, Spain (May, 2002)
- S. Yamada and F. Murase: Intelligent User Interface for a Web Search Engine by Organizing Page Information Agents, Proceedings of 2002 the International Conference on Intelligent User Interfaces (IUI-2002), pp.230-231, San Francisco, USA (January, 2002)
- D. Katagami and S. Yamada: Interactive Evolutionary Computation for Real Robot from Viewpoint of Observation, Proceedings of the 7th International Conference on Intelligent Autonomous (IAS-2002), pp.158-165, Marina del Rey, USA (March, 2002)
- D. Katagami and S. Yamada: Interactive Evolutionary Robotics from Different Viewpoints of Observation, Proceedings of IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS-2002), pp.1108-1113, EPFL, Switzerland (October, 2002)
- S. Yamada and T. Yamaguchi: Mutual Learning of Mind Reading between a Human and a Life-like Agent, Proceedings of the Fifth Pacific Rim International Workshop on Multi- Agents (PRIMA2002), pp.138-150, Tokyo, Japan (August, 2002)
- S. Yamada and T. Yamaguchi: Mutual Adaptation to Mind Mapping in Human-Agent Interaction, Proceedings of the IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive Communication (ROMAN-2002), pp.105-110, Berlin, Germany (September, 2002)
- T. Yamaguchi, Y. Ochi and S. Yamada: Mutual Adaptation in Communication Between a Human and a Life-like Agent by Sharing Context Dependent Facial Expressions, 4th Asia-Pacific Conference on Simulated Evolution And Learning (SEAL-2002), Singapore (November, 2002)
- T. Onoda, H. Murata and S. Yamada: Interactive Document Retrieval with Active Learning, International Workshop on Active Mining (AM-2002), pp.126-131, Maebashi, Japan (December, 2002)

講演・口頭発表等

榑野憲克, 山田誠二: ユーザの行動パターンに基づくブラウジングのナビゲーション, 第16回人工知能学会全国大会, 1C4-01 (2002)

片上大輔, 山田誠二: 対話型進化ロボティクスにおける教示者の視点の効果, 1D1-07, 第16回人工知能学会全国大会, 1C4-01 (2002)

氏名 佐藤 寛子 (さとう ひろこ)

博士号 博士(理学)

所属・役職 知能システム研究系 計算知能研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2501

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 化学情報学 計算機化学

研究概要

化学反応予測システムの開発: 化学反応データベースを主として利用した化学反応予測システムの開発を行っている。化学反応の支配因子の表現法の開発、化学反応の系統的分類、予測モデルの構築が研究の主軸である。

NMRスペクトル予測システムの開発: NMRスペクトルと化学構造データベースによるNMRスペクトル予測システムを開発している。立体化学情報を適確に表現・認識することで、精度の高い予測を行う点に特色がある。

学歴

お茶の水女子大学理学部化学科卒業

博士(理学)(お茶の水女子大学)

主要経歴

東レ株式会社

豊橋技術科学大学 知識情報工学系 研究生

理化学研究所 基礎科学特別研究員

科学技術振興事業団さきがけ研究 21「情報と知」研究領域 研究者

国立情報学研究所 情報メディア研究系 助手

理化学研究所 共同研究員

国立情報学研究所 知能システム研究系 助教授

理化学研究所 客員研究員

受賞等

日本薬学会第27回反応と合成の進歩シンポジウム ポスター賞

教育活動歴

1. お茶の水女子大学理学部化学科4年生の卒業研究指導
2. 総合研究大学院大学博士後期課程学生の所内サブアドバイザー(2名)

学協会活動

日本化学会、アメリカ化学会、有機合成化学協会、日本農芸化学会、日本人工知能学会、日本コンピュータ化学会、各正会員

社会貢献活動

1999~2001 先導調査研究「化学反応シミュレーター」(NEDO-PR-9911)(新エネルギー・産業技術総合開発機構、財団法人化学技術戦略推進機構)調査委員会 委員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

Satoh, H., Koshino, H., Funatsu, K., Nakata, T.: "Representation of Configurations by CAST Coding Method", J. Chem. Inf. Comput. Sci., 41, 1106-1112 (2001)

Satoh, H., Koshino, H., Nakata, T.: "Extended CAST Coding Method for Exact Search of Stereochemical Structures", J. Comput. Aided Chem., 3, 48-55 (2002)

(依頼原稿)佐藤寛子: "化学反応の地図と反応予測", 有機合成化学協会誌, 「特集号 今, 若

手研究者は何を目指しているか」, vol. 59, No. 5, 470 (2001)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

佐藤寛子: “化学情報学-化学反応の系図と反応予測”, 丸善(2003)

越野広雪, 佐藤寛子「立体化学を考慮した ^{13}C -NMR 化学シフト予測システムの開発と立体配置決定への応用」, 2001 年度文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「未解明生物現象を司る鍵化学物質」平成 13 年度成果報告書

佐藤寛子, 「化学反応のニューラルモデル化による定量的反応予測の実現」, さきがけ研究 21 最終報告書, p397-453, 科学技術振興事業団, 2002.

(新聞記事)佐藤寛子, 化学工業日報(2001 年 7 月 23 日付)

(新聞記事)佐藤寛子, 科学新聞(2002 年 3 月 22 日付)

講演・口頭発表等

(依頼講演)佐藤寛子: “実験化学と理論化学を繋ぐ情報化学～化学反応の体系化による反応予測へのアプローチについて”, 新化学発展協会 有機化学反応解析基礎講座, 東京, 1 月, 2002.

(依頼講演)越野広雪, 佐藤寛子: “立体化学を考慮した ^{13}C -NMR 化学シフト予測システム CAST/CNMR の開発と応用”, 文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「未解明生物現象を司る鍵物質」第 5 回公開シンポジウム, 大阪, 9 月, 2002.

佐藤寛子, 越野広雪, 中田 忠: “天然有機化合物の構造解析を指向した立体化学を考慮する ^{13}C -NMR 化学シフト予測システム CAST/CNMR の開発”, 第 43 回天然有機化合物討論会, 大阪, 10 月, 2001.

佐藤寛子, 船津公人, 鷹野景子, 中田 忠: “反応試薬の分類-モデル化-予測-実証-フィードバック”, 第 27 回反応と合成の進歩シンポジウム, 仙台, 11 月, 2001.

佐藤寛子, 船津公人, 中田 忠: “化学反応の類似性を識別する Reaction Similarity (ReacSim) Vector の提案と反応分類”, 第 24 回情報化学討論会, 徳島, 11 月, 2001.

越野広雪, 佐藤寛子, 中田 忠: “ ^{13}C -NMR 化学シフト精密予測システム CAST/CNMR の開発”, 第 24 回情報化学討論会, 徳島, 11 月, 2001.

塚本幸治, 佐藤寛子, 船津公人: “副反応評価システムによる合成経路設計システム AIPHOS の合成経路評価”, 第 24 回情報化学討論会, 徳島, 11 月, 2001.

越野広雪, 佐藤寛子, 中田 忠: “CAST/CNMR システムの開発と立体化学決定への応用”, 第 40 回 NMR 討論会, 京都, 11 月, 2001.

佐藤寛子: “化学者の記憶と思考の仕組みを模倣した「化学反応の地図」-定量的反応予測を目指して-”, 科学技術振興事業団さきがけ研究 21 最終報告会, 東京, 12 月, 2001.

越野広雪, 佐藤寛子: “CAST/CNMR システムの応用: 立体構造類似性と 1 次元 ^{13}C -NMR データに基づく帰属”, 第 41 回 NMR 討論会, 東京, 11 月, 2002.

佐藤寛子: “FRAU による立体化学環境の数値表現”, 第 25 回情報化学討論会, 豊橋, 11 月, 2002.

佐藤寛子, 越野広雪, 中田忠: “分子ツリー表現を利用した環構造情報の認識と線形表記法”, 日本化学会第 83 春季年会, 東京, 3 月, 2003.

佐藤寛子, 越野広雪, 中田忠: “環構造情報の考慮による CAST/CNMR システムの化学シフト予測精度の向上”, 日本化学会第 83 春季年会, 東京, 3 月, 2003.

Satoh, H., Koshino, H., Nakata, T.: “Canonical-representation of stereochemistry (CAST) Coding Method for Highly Accurate Prediction of ^{13}C NMR Chemical Shifts for Organic Molecules”, The 222th American Chemical Society National Meeting, Chicago, USA, August, 2001.

Satoh, H., Koshino, H.: “Canonical Structure Database with Stereochemical Information”, The 10th German-Japanese Workshop on Chemical Information, Potsdam, Germany, October, 2001.

Satoh, H., Koshino, H., Nakata, T. “Representation and Searching of Conformationally Flexible Molecules by Extended CAST Method”, 6th International Conference on Chemical Structures, Noordwijkerhout, Netherland, June, 2002.

Satoh, H., Funatsu, K., Nakata, T. “Systematic Representation and Classification of Chemical Reactions toward Quantitative Reaction Prediction”, International Symposium of Thirty-First Year of the Topological Index Z, Tokyo, October, 2002.

Satoh, H., Koshino, H., Nakata, T. “Canonical Representation of Stereochemistry and Application to ¹³C-NMR Chemical Shift Prediction”, International Symposium of Thirty-First Year of the Topological Index Z, Tokyo, October, 2002.

Satoh, H., “Utilization of Electronic Journal for Developing Scientific Research-Chemical Technical Journal and Chemical Compound and Reaction Database-”, The First NII International Symposium, Tokyo, March, 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13～14 年度文部省科学研究費補助金特定領域研究「未解明生物現象を司る鍵化学物質-生物現象の物質科学的理解をめざして-短寿命・希少性の克服-」, 「立体化学を考慮した¹³C-NMR 化学シフト予測システム CAST/CNMR の開発と応用」, 越野広雪(研究代表者, 理研), 佐藤寛子(研究分担者)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

平成 10～13 年 科学技術振興事業団さきがけ研究 21「情報と知」研究領域, 「化学反応のニューラルモデル化による定量的反応予測の実現」, 佐藤寛子

(3) その他の研究費

平成 14 年国立情報学研究所リーダーシップ支援経費「人間の知的活動を支援する数値特性解析・可視化ソフトウェアの開発」, 佐藤寛子

◆人間機械協調研究部門

氏名 上野 晴樹 (うえの はるき)
博士号 1971 年、工学博士(東京電機大学)
所属・役職 知能システム研究系・教授・研究主幹
電話番号 03-4212-2516
ファクシミリ 03-4212-2516
専門分野 知能システム、知能ロボット、遠隔教育

研究概要

シンビオティック情報システム(SIS): 来るべき高度情報社会では全ての人々が情報を活用する権利を有しているという考え方にに基づき、デジタルデバイドのない“いつでも、だれでも、どこでも”型情報環境の実現を目指した研究を行っている。

共生ロボットシステム: SIS の概念に基づき、人と共存する自律型人型福祉ロボットの研究開発を行っている。

SPAK(Software Platform based on Agent and Knowledge): 分散環境のもとで共生ロボットシステムのような自律行動システムを実現するために不可欠の、エージェント技術と汎用知識ベース技術を融合したソフトウェアプラットフォームの研究開発を行っている。

WebLS(Web-based Learning System): 高等教育や生涯教育を対象とした Internet による非同期型遠隔教育環境であり、e-TEXT エディタ、学習システム、掲示板システム等から構成されており、非専門化向きの e-TEXT 編集環境の研究開発を企業との共同研究で行っている。

Web サイト検索アドバイザー: 携帯端末から、レストラン、旅行などに関する Web サイトの検索を助ける知的アドバイザーシステムの研究開発を企業との共同研究で行っている。

学歴

1964 年 3 月 防衛大学校電気工学専攻卒業
1968 年 3 月 東京電機大学工学部電気工学専攻修士課程修了
1971 年 3 月 東京電機大学工学部電気工学専攻博士課程修了

主要経歴

- 1971年 青山学院大学工学部経営工学科 講師
- 1977年 東京電機大学工学部経営工学科 助教授
- 1981年 東京電機大学工学部経営工学科 教授
- 1998年 学術情報センター(文部省大学共同利用機関) 教授
- 2000年 国立情報学研究所(文部省大学共同利用機関) 教授
- 2001年 東京大学大学院情報理工学研究系研究科コンピュータ科学専攻 教授(併任)
- 2002年 総合研究大学院大学情報学専攻 教授(併任)

受賞等

- 2001年(社)電子情報通信学会フェロー称号

教育活動歴

- 1971年 青山学院大学工学部経営工学科講師 担当:プログラミング演習
- 1977年 東京電機大学工学部経営工学科助教授 担当:情報工学概論、データ構造論、ソフトウェア工学、知識工学卒業研究
- 1981年 東京電機大学工学部経営工学科教授、同システム工学専攻教授 担当:情報工学概論、データ構造論、ソフトウェア工学、知識工学卒業研究 ソフトウェア工学特論、知識工学特論、大学院特別輪講
- 1998年 東京電機大学工学部経営工学科非常勤講師、同システム工学専攻非常勤講師担当:情報工学概論、データ構造論、ソフトウェア工学、知識工学卒業研究 ソフトウェア工学特論、知識工学特論、大学院特別輪講
- 2001年 東京大学大学院情報理工学研究系研究科コンピュータ科学専攻教授(併任) 担当:知能コンピューティング特論、コンピュータ科学修士輪講、コンピュータ科学博士輪講、コンピュータ科学博士特別研究
- 2002年 総合研究大学院大学情報学専攻教授(併任) 担当:知能システム科学概論、知能システム論、知能システム特別実験研究

学協会活動

- 人工知能学会会員
- 情報処理学会会員
- 電子情報通信学会(研究会委員、英文論文誌特別号編集委員、論文査読委員)
- 日本総合検診医学会評議員
- 日本ロボット学会会員
- 教育システム情報学会会員
- JCKBSEC 常設委員会代表
- IEEE 会員
- INFO21(21世紀の情報環境と国際協力に関する国際会議)企画委員長

社会貢献活動

- 日本工学アカデミー会員(E&P作業部会部会長、広報委員会委員、国際委員会委員)
- ニューヨーク科学アカデミー会員
- (社)システム総合研究所理事
- (社)天田金属加工機械技術振興財団評議員
- 日本学術振興会先端技術と国際環境第149委員会情報WG専門委員
- 埼玉県狭山市公文書公開と個人情報保護審査会委員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

- Haruki Ueno: A Knowledge-Based Information Modeling for Autonomous Humanoid Service Robot, IEICE Trans. on Information & Systems, Vol. E85-D No.4, pp. 657-665, 2002.
- Haruki Ueno, A Knowledge-Based Information Modeling for Autonomous Humanoid Service Robot, IEICE Trans. on Information & Systems, Vol. E85-D No.4, pp. 657-665, 2002.
- Haruki Ueno, Internet-Based Distance Learning for Lifelong Engineering Education - A personal

view and Issues, The Journal of Information Systems in Education, Vol.1, No.1, pp.45-52, 2002.
井上智雄, 上野晴樹, 図書館員を対象とした専門研修のための遠隔教育支援システム
NACSIS-SL/ILL, 教育システム情報学会誌, Vol.19, No.1, pp.3-12, 2002.

井上智雄, 上野晴樹, 図書館業務遠隔教育システムの運用評価, NII Journal, No.4, pp.49-60,
2002.

S.Muto, V.Ampornaramveth, Md.A.Bhuiyan, H.Ueno, Research on Multi-Modal Control Interface
and Recording/Editing/Playback System for Multi-Robot Multi-Operator Symbiotic Information
Systems, RSJ, JSME, SICE 7th Robotics Symposia, pp.353-359, 2002.

Md. Al-Amin Bhuiyan and Hiromitsu Hama, Recovering the control points of Bezier curves for
line image indexing, Journal of Electronic Imaging, Vol. 11, No. 2, pp. 177-186, 2002.

Md. Al-Amin Bhuiyan and Hiromitsu Hama, Polar distribution analysis for image indexing,
Journal of Electronics and Computers, Vol. 4, No. 1, pp. 49-65, 2003.

Md. Al-Amin Bhuiyan, Vuthichai Ampornaramveth, Shin-yo Muto, and Haruki Ueno, Face
Detection and Facial Feature Localization for Human-machine Interface, NII Journal, Vol. 5, No.
1, 2003 (in press).

Md. Al-Amin Bhuiyan and Haruki Ueno, Face detection for human-robot symbiosis, Proceedings
of NCEIT-003, Vol. 14, No. 1, pp. 45-53, 2003.

上野晴樹, Intelligent システムとしての e-Learning -経験から学んだことを中心にして, 人工知能
学会研究会資料, SIG-J-A102-1, pp.1-6, 2001.(invited)

Vuthichai Ampornaramveth, Pattara Kiatisevi, Shizuka Kuromiya, Yoshinori Isoda, Shoji
Kurakake, Haruki Ueno, Intelligent Gourmet Advisor System for Mobile Users, IEICE Technical
Report, Vol. 102, No. 702, pp. 39-44, 2003.

Vuthichai Ampornaramveth, Pattara Kiatisevi, Haruki Ueno, Toward a Software Platform for
Knowledge Management in Human-Robot Environment, SIG-KBSE, Vol. ,No., pp., 2003.

上野晴樹, 自律共生ロボット-次世代ロボットのための統合化知識システム, SIG-KBSE, Vol. ,No.,
pp., 2003.(invited)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

科学研究費基盤 B「高次情報ネットワークによる高等教育を対象とした適応型遠隔教育システムの
研究」平成 13～14 年度, 9400 千円

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

NTTドコモ, 「モバイル向け知識処理の研究」, 2002～2003 年度

氏名 杉本 晃宏 (すぎもと あきひろ)

博士号 1996 年 東京大学博士(工学)

所属・役職 知能システム研究系人間機械協調研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2566

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 コンピュータビジョン、マン・マシン・インタラクション、アルゴリズム、類似画像検索

研究概要

1. 人間の意図・行動の理解に基づく柔軟なヒューマン・マシン・インタラクション

日常生活環境において人間と共生する情報システムの実現を目指して、(1)実世界環境に埋め込まれた視覚センサ群および人間が身につけた視覚センサからの情報によって、人間の意図や行動の意味を計算機に理解させること、(2)その結果に基づいて人間との動的インタラクションを自発的に行うシステムを構築することを目的とする。

2. 装着型能動視覚センサを用いた 3 次元物体の形状と表面情報の復元

視覚センサを備えた装着型コンピューティング環境のもとで必要となるヒューマン・コンピュータ・イ

インタラクションとして、ユーザの普段のなにげない動作を通して得られる視覚情報を加工・編集し、その結果を必要に応じてユーザに提示することによって、ユーザの日常生活における利便性を向上させるシステムの実現を目指す。

3. 量子化誤差存在下での多視点画像間の幾何学的な関係と3次元形状復元

デジタル画像を扱うためには避けては通れない量子化誤差に焦点を当て、量子化誤差が存在することを前提としてコンピュータビジョンにおける諸問題を定式化し直し、そのもとで成り立つ性質を明らかにする。そして、現実と遊離しない理論体系の構築を目指す。具体的には、量子化誤差存在下での、幾何特徴に関する多視点画像の関係、物体の3次元形状復元問題を取り扱う。

学 歴

1987年3月 東京大学工学部計数工学科卒業

1989年3月 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了(計数工学専攻)

1996年2月 東京大学博士(工学)

主要経歴

1989年4月 日立製作所基礎研究所

1991年10月～95年7月 ATRに出向

1999年4月 京都大学大学院情報学研究科 講師

2002年4月 国立情報学研究所 助教授

2003年4月 東京大学生産技術研究所協力研究員

受賞等

情報処理学会平成12年度論文賞(2001年5月)

教育活動歴

1998年 工学院大学電子工学科非常勤講師(アフィン幾何学、コンピュータビジョン)

1999年～2002年 京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻担当・京都大学工学部兼任

2002年 京都大学工学部非常勤講師(知能型システム論)、京都大学大学院情報学研究科非常勤講師(コンピュータビジョン)

2003年～ 京都大学大学院情報学研究科非常勤講師(コンピュータビジョン)

大学院担当講義

コンピュータビジョン(京都大学大学院情報学研究科)

学協会活動

日本応用数学会会員(1990～), 情報処理学会(1991～), 電子情報通信学会(1992～).

The 4th International Workshop on Cooperative Distributed Vision, local arrangement (2001.03).

The 4th International Workshop on Cooperative Distributed Vision, session chair (2001.03).

The 1st International Workshop on Man-Machine Symbiotic Systems, organizing committee (2002.11).

The 1st International Workshop on Man-Machine Symbiotic Systems, program chair (2002.11).

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

杉本, 谷内, 松山: 確信度つき仮説群の相互作用に基づく複数対象追跡, 情報処理学会 CVIM 研究会論文誌, vol.43, No.SIG-4(CVIM4), pp.69-84, 2002.

A. Sugimoto: Conic-Based Multiple View Geometry, Proc. of the workshop on Science of Computer Vision, pp. 109-116, Okayama, Japan, 2002. (Invited paper)

A. Sugimoto, A. Nakayama and T. Matsuyama: Detecting a Gazing Region by Visual Direction and Stereo Cameras, Proc. of The 16th International Conference on Pattern Recognition, Vol. 3, pp. 278-282, Quebec, Canada, 2002.

A. Sugimoto and T. Matsuyama: Active Wearable Vision Sensor: Detecting Person's Blink Points and Estimating Human Motion Trajectory, Proc. of the 1st International Workshop on Man-Machine Symbiotic Systems, pp. 85-108, 2002.

松山, 佐藤, 杉本: 人間の意図・行動に理解に基づく柔軟なヒューマン・マシン・インタラクション,

画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2002), Vol. I, pp. I-359-I-368, 2002. (招待講演)
杉本晃宏: 異種幾何特徴の相互乗り入れを目指して-ホモグラフィ-を介したコニックと点との接点-, 第45回自動制御連合講演会, pp. 517-520, 2002. (招待講演)
杉本, 長友, 松山: 装着型能動視覚センサを用いた人物の運動推定, 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2002), Vol. I, pp. I-215-I-222, 2002.
築澤, 杉本, 松山: 装着型視覚センサを用いた対象の3次元形状復元, 情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア研究会, SIG-CVIM-133, pp. 71-78, 2002.
山田, 杉本, 井宮: 零空間探索法によるレンジフローの計算, 情報処理学会コンピュータビジョンとイメージメディア研究会, SIG-CVIM-137, pp. 125-132, 2003.

講演・口頭発表等

杉本, 谷内, 松山: 確信度付き仮説群の相互作用を用いた複数対象追跡, 東北大学大学院情報科学研究科出口研究室セミナー, 2002.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成14年度科学研究補助金基盤研究(B)(平成14年度～平成16年度)「装着型能動視覚センサを用いた3次元物体の形状と表面情報の復元に関する研究」(14380161)

氏名 井上 智雄 (いのうえ ともお)
博士号 博士(工学)
所属・役職 知能システム研究系・助手
電話番号 03-4212-2583
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

情報環境におけるグループインタラクション・社会的インタラクションの理解と支援: 情報ネットワークインフラの普及に伴うネットワーク上での人の活動を、特にその集団的・社会的側面に着目して理解・支援する研究をおこなっている。情報環境における人間の社会活動の観察、分析による理解がひとつの軸で、この理解をもとにした工学的支援がもうひとつの軸である。具体的には協調作業、協調学習、ネットワークコミュニティ、を研究対象として分析し、そこで用いられる新たな情報メディア、情報システムの設計開発を通じて、知の源泉である人間の社会的インタラクションの効果的支援を研究している。

学歴

1992.3 慶應義塾大学理工学部卒業
1994.3 慶應義塾大学大学院理工学研究科前期博士課程修了
1998.3 慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程修了

主要経歴

1996～7 カリフォルニア大学アーバイン校 客員 情報計算機科学科
1998 東京電機大学 理工学部 助手
1999 学術情報センター 学術情報研究系 助手
2000 国立情報学研究所 知能システム研究系 助手
2000 同 国際・研究協力部研究成果普及推進室(併任)
2002 総合研究大学院大学 助手(併任)
2002 学習院大学 非常勤講師(兼任)

教育活動歴

1998年度 東京電機大学 理工学部 助手
2002年度～現在 学習院大学 非常勤講師(兼任)

学協会活動

情報処理学会会員(1993～)

電子情報通信学会会員(1994～)
ACM 会員(1996～)
情報処理学会グループウェア研究会運営委員 (1998～2001)
人工知能学会会員(2000～)
教育システム情報学会会員(2000～)
情報処理学会論文誌編集委員 (2000～現在)
情報処理学会論文賞委員(2000～)
情報処理学会第 62 回全国大会座長 (2001.3)
日本バーチャルリアリティ学会サイバースペースと仮想都市研究会会員(2001～)
情報処理学会第 62 回全国大会特別トラック 1 実行委員 (2001.3)
教育システム情報学会第 26 回全国大会座長 (2001.9)
IEEE IPSJ SAINT2001 プログラム委員(2001)
IFIP INTERACT2001 プログラム委員(2001)
日本バーチャルリアリティ学会サイバースペースと仮想都市研究会運営委員 (2001～現在)
情報処理学会インタラクション 2002 実行委員(2001～2)
情報処理学会論文誌「グループウェアとネットワークサービス」特集編集委員会委員 (2001～2)
ヒューマンインターフェース学会会員(2002～)
情報処理学会第 64 回全国大会座長 (2002.3.14～16)
情報処理学会論文誌応用グループ副査(2002)
情報処理学会平成 14 年度坂井記念特別賞選定委員会委員(2002)
情報処理学会インタラクション 2003 実行委員(2002～3)
日本教育工学会会員(2002～)
日本教育工学会第 18 回全国大会座長 (2002.11.2～4)
情報処理学会論文誌「コラボレーションの「場」とコミュニティ」特集編集委員会委員 (2002～3)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Tomo'o Inoue and Haruki Ueno, A Web-Based Distance Learning System to Support Professional Training for Librarians, Proceedings of WebNet2001, pp.574-579, Orlando, Florida, October 23-27, 2001.
井上智雄, 上野晴樹, 図書館員を対象とした専門研修のための遠隔教育支援システム NACSIS-SL/ILL, 教育システム情報学会誌, Vol. 19, No. 1, pp. 3-12, 2002.
井上智雄, 上野晴樹, 図書館業務遠隔教育システムの運用評価, NII ジャーナル, No.4, pp.49-60, 2002 年 3 月
井上智雄, 根本啓一, 重野寛, 岡田謙一, 季語を中心とした連句学習システムの開発, 教育システム情報学会誌, Vol.19, No.4, pp.235-239, 2002.
井上智雄, 神野敬行, 岡村拓朗, 岡田謙一, 緩やかな協調学習のためのネットワーク上での社会関係の構築, 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.11, pp.3395-3406, 2002.
井上智雄, 根本啓一, 重野寛, 岡田謙一, ウェブ連句環境 CREW の開発, 情報処理学会論文誌, Vol.44, No.2, pp.328-339, 2003.
井上智雄, 用語解説 共生, 教育システム情報学会誌, Vol. 19, No. 2, pp. 136, 2002.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

Tomo'o Inoue and Haruki Ueno, Launching WBT service for librarians, Proceedings of ED-MEDIA2001 (poster), Finland, June 25-30, 2001.
根本啓一, 井上智雄, 重野寛, 岡田謙一, ネットワークコミュニティを支援する連句作成支援システム用掲示板の開発, 情報処理学会シンポジウムシリーズ, Vol. 2002, No. 9, (マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO2002) シンポジウム論文集), pp. 437-440, July 3-4, 2002.
井上智雄, 上野晴樹, 図書館業務遠隔研修システムの利用者ログ分析, 情報処理学会研究報告, Vol.2002, No.6, pp.43-48, Jan 24, 2002.
関本寛仙, 根本啓一, 井上智雄, 重野寛, 松下温, 俳諧の知識を利用した連句作成支援システ

ム, 情報処理学会研究報告, Vol.2002, No.31, pp.43-48, (第 43 回グループウェアとネットワークサービス研究会, 43-8), 2002 年 3 月 22-23 日.

井上智雄, 用語解説 共生, 教育システム情報学会誌, Vol. 19, No. 2, pp. 136, 2002.

神野敬行, 井上智雄, 岡村拓朗, 岡田謙一, ウェブ利用個別学習における電子掲示板利用に基づく学習者グループの構成, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.102, No.65, pp.7-12, (教育工学研究会), 2002 年 5 月 17 日.

岡村拓朗, 井上智雄, 神野敬行, 小西沙耶香, 重野寛, 岡田謙一, 教育デジタルコンテンツの統合による教育環境支援, 情報処理学会研究報告, Vol.2002, No.96, pp.17-23, (コンピュータと教育 66-3), 2002 年 10 月 18 日.

井上智雄, デジタル指導書を利用する指導計画作成支援, 教育システム情報学会研究報告, Vol.2002, No.4, pp.23-30, (第 92 回研究会, インターネットとその教育応用研究部会), 2002 年 11 月 30 日.

香山瑞恵, 井上智雄, 岩崎公弥子, 田村恭久, 宮寺庸造, 岡本敏雄, 協調学習記述のためのメタモデルの検討, 教育システム情報学会研究報告, Vol.2002, No.5, pp.33-38, (第 93 回研究会, 言語・知識処理応用研究部会), 2002 年 12 月 21 日.

講演・口頭発表等

井上智雄, 上野晴樹, 情報化時代の教師支援環境の一提案, 第 26 回教育システム情報学会全国大会論文集, pp.295-296, 2001 年 8 月.

井上智雄, 上野晴樹, 図書館業務遠隔研修コースへの利用者アクセス分析, 情報処理学会第 63 回(平成 13 年後期)全国大会講演論文集, Vol.4, pp.149-150, 2001 年 9 月.

井上智雄, 神野敬行, 岡村拓朗, 岡田謙一, 学習者グループの動的構成のためのシミュレーション構想, 情報処理学会第 64 回(平成 14 年)全国大会講演論文集, Vol.4, pp. 351-352, 2002 年 3 月 12~14 日.

根本啓一, 関本寛仙, 井上智雄, 重野寛, 松下温, 俳諧の知識を利用した連句コミュニティ支援システム, 情報処理学会第 64 回(平成 14 年)全国大会講演論文集, Vol.4, pp. 459-461, 2002 年 3 月 12~14 日.

井上智雄, 情報環境における社会活動としての人間のインタラクション, 筑波大学機能工学系セミナー, 2002 年 6 月 18 日(依頼)

井上智雄, CSCW -組織, 人間, 技術の観点から-, 日本ソフトウェア科学会大学基礎講座, 2002 年 7 月 8~10 日(依頼)

岡村拓朗, 井上智雄, 神野敬行, 小西沙耶香, 重野寛, 岡田謙一, 教育デジタルコンテンツ統合のためのメタデータの一検討, 第 1 回情報科学技術フォーラム講演論文集, N-36, pp.309-310, 2002 年 9 月 25~28 日.

井上智雄, デジタルコンテンツを活用する教師の授業実施プロセス支援の提案, 日本教育工学会第 18 回大会講演論文集, pp.317-318, 2002 年 11 月 2~4 日.

山上祐樹, 根本啓一, 井前吾郎, 井上智雄, 重野寛, 岡田謙一, WEB ハイブリッドサイバースペースネットワーク空間におけるトータルコミュニケーションの実現, 情報処理学会第 65 回(平成 15 年)全国大会講演論文集, Vol.4, 5P-6, 2003 年 3 月 25~27 日.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

科学研究費補助金奨励研究(A) 平成 13~14

年度「WWW 型遠隔学習における効率的な質疑応答伝播のための柔軟な学習者グループ構成支援」, 210 万円(13780134)

科学研究費補助金特定領域研究「新世紀型理数科系教育の展開研究」 平成 14 年度「デジタルコンテンツを活用する教師の授業実施プロセス総合支援の研究」, 330 万円(14022265)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

総額 300 万円

◆ロボティクス研究部門

氏名 白井 良明 (しらい よしあき)
博士号 工学博士
所属・役職 大阪大学大学院工学研究科電子制御機械工学専攻 教授
電話番号 06-6879-7331
ファクシミリ 06-6879-4185
専門分野 知能ロボット、コンピュータビジョン

研究概要

障害者など補助するロボットに必要な環境認識機能を人とのインタラクションによって実現する研究を行なった。具体的には、自動物体認識とインタラクティブビジョンおよび音声やジェスチャによるインタラクションである。自動物体認識では、照明の変化による色の変化を学習によって推定する方法の開発とジェスチャー認識を行ない、音声関係では、認識できなかった単語を推定することにより、人の負担を減らすことができるようになった。

ジェスチャー認識のための手指形状の認識は、国立情報学研究所におけるロボットとジェスチャーで対話する研究に利用している。

学歴

昭和44年3月 東京大学大学院工学系機械工学専攻博士課程修了

主要経歴

昭和44年4月 電子技術総合研究所入所

昭和63年4月 大阪大学工学部教授

受賞等

平成14年3月26日 日本機械学会フェロー

学協会活動

平成13年度は日本人工知能学会の会長、電子情報通信学会の理事

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

白井良明, 三浦純: 複雑背景における人の追跡, 情報処理学会論文誌: コンピュータビジョンとイメージメディア, Vol. 43, No. SIG4, pp. 33-42 (June 2002)

滝澤正夫, 榎原 靖, 白井良明, 島田伸敬, 三浦 純: サービスロボットのための対話システム. システム制御情報学会誌, Vol. 16, No. 4, pp. 174-182 (2003)

Y. Makihara, M. Takizawa, Y. Shirai, J. Miura, and N. Shimada: Object Recognition Supported by User Interaction for Service Robots, Proc. of the 16th Int. Conf. on Pattern Recognition, pp. 561-564, Aug. 2002.

M. H. Jeong, Y. Kuno, N. Shimada and Y. Shirai: Recognition of Shape-Changing Hand Gestures, IEICE Trans. on Info. and Sys., Vol. E85-D-II, No. 8, pp. 1291-1299, 2002

先山卓朗, 原口一馬, 島田伸敬, 白井良明: 案内ロボットのための障害物回避と誘導 FIT2002(情報技術レターズ) LI-11, Vol.1, pp.145-146, 2002.

Inhyuk Moon, Jun Miura, and Yoshiaki Shirai: On-line Extraction of Stable Visual Landmarks for a Mobile Robot with Stereo Vision, Advanced Robotics Vol.16, No.8, pp.701-719, 2002.

競争的研究資金獲得状況

科研基盤B一般 「分散アクティブカメラからの部分情報に基づく複数人間の広域追跡」

平成13年度 6100 合計 14200(千円)

平成14年度 3900

科研基盤B展開 「時系列画像からの複数の不確実情報を用いた関節物体の形状と姿勢の実時間推定」平成13年度 6900 合計 13300

科研創成的基礎研究費 「言語理解と行動制御に関する研究」平成13年度 2200

科研萌芽 「インタラクティブ・ビジョン」平成14年度 1500

氏名 武藤 伸洋 (むとう しんよう)
学位 1990年3月 工学修士 早稲田大学大学院理工学部機械工学科
所属・役職 知能システム研究系 客員助教授
電話番号 03-4212-2656
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 機械工学

研究概要

シンビオティック情報システム、ヒューマンマシンインターフェース、ロボティックスの研究

学歴

1988.3 早稲田大学理工学部機械工学科卒業
1990.3 同大学院理工学部機械工学科修士課程修了

主要経歴

1990.4 日本電信電話株式会社入社、ヒューマンインタフェース研究所知能ロボット研究部
1999.12 日本電信電話株式会社サイバーソリューション研究所ビジネスイノベーション SE プロジェクト主任研究員
2000.11 国立情報学研究所知能システム系客員助教授(-2003.3)
2003.4 東日本電信電話株式会社研究開発センターサイバーシステム開発 PG 担当課長

学協会活動

日本ロボット学会正会員
日本機械学会正会員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

武藤, V.Ampornaramveth, Md.A.Bhuiyan, 上野, シンビオティック情報システムにおける多種ロボット・多操作者ネットワーク系, マルチモーダル操作系, 教示・再生系の検討, 日本ロボット学会, 日本機械学会, 計測自動制御学会主催第7回ロボティックスシンポジア, pp.353/359, 2002
Md.A.Bhuiyan, V.Ampornaramveth, S.Muto, H.Ueno, Eye Tracking and Gaze Direction for Human-robot Interaction, 日本ロボット学会, 日本機械学会, 計測自動制御学会主催第7回ロボティックスシンポジア, pp.209/214, 2002
武藤, V.Ampornaramveth, Md.A.Bhuiyan, 上野, シンビオティック情報システムにおける情報処理系・操作系の構築, 日本ロボット学会, 日本機械学会, 計測自動制御学会主催第8回ロボティックスシンポジア, pp.19/24, 2003

特許・公開ソフトウェア・作品等

特許 3369966 遠隔操作装置及び遠隔操作プログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な媒体
特許 3218553 ロボットのシステム制御方法及び装置
特許 3206775 加工・組立装置の倣い制御方法および倣い制御装置
特許 3196145 加工・組立装置における接触点および接触法線検出法
特許 3169174 作業経路追従式ロボットマニピュレータの教示データ修正方法
特許 3156230 位置情報信頼度の設定法
特許 3130016 ネックマウント型ウェアラブルディスプレイ装置
特許 3104839 ロボット診断方法

■人間・社会情報研究系

◆情報管理学研究部門

氏名 内藤 衛亮 (ないとう えいすけ)
博士号 1971年3月 慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻修士課程修了
1975年10月 ロンドン大学ユニバーシティカレッジ図書館情報学修士課程修了
所属・役職 人間・社会情報研究系 情報管理学研究部門 教授 研究主幹

専門分野 情報管理学

研究概要

「情報管理学」の確立を志向し、国際標準化機構第46技術委員会(ISO/TC46)の活動内容とそれに呼応する日本あるいはアジア各地の活動状況と課題の調査分析に努め、漢字コード標準化活動の初期における問題提起や情報技術の国際化(I18N)活動を推進した。大学紀要のインターネット出版の可能性を追求して国内6大学図書館と共同実験した。紀要電子化における社会的・技術的・運営的要因を探求した。個人・団体の著者名をはじめ各種の固有名やキーワード・件名の「泣き別れ」はデータベースの検索効率と直結している。「名寄せ」の手順すなわち「典拠コントロール」を複数のシステム間でのデータ共有課題として調査研究を進めてきた。

学歴

1971年3月 慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻修士課程修了

1975年10月 ロンドン大学ユニバーシティカレッジ図書館情報学修士課程修了

主要経歴

1971年4月 株式会社芙蓉情報センター入社

1973年2月 株式会社芙蓉情報センター退職

1975年11月 国文学研究資料館研究情報部助手

1980年4月 国文学研究資料館研究情報部助教授

1983年4月 東京大学文献情報センター助教授併任(昭和59年3月まで)

1984年4月 東京大学文献情報センター助教授

1986年4月 学術情報センター学術情報研究系助教授

1987年4月 学術情報センター学術情報研究系教授

1994年7月 学術情報センター学術情報研究系研究主幹併任

1994年10月 東京大学大学院教育学研究科教授併任(平成10年3月まで)

2000年4月 国立情報学研究所人間・社会情報研究系教授

2000年4月 国立情報学研究所人間・社会情報研究系研究主幹併任

2002年3月 国立情報学研究所退職

教育活動歴

1987年～ 青山学院女子短期大学(図書館概論)

1989,91,93年 東京大学大学院教育学研究科(学術情報論)

1990年～1997年 富士大学司書講習 講師(非常勤)(情報管理)

1992年～1994年 東洋大学(情報 / 図書館システム管理)

1994年～1998年 東京大学大学院教育学研究科(学術情報論)

1996年～ 清泉女子大学大学院人文科学研究科(情報処理研究)

2000年4月～2002年3月 国立情報学研究所運営協議員

学協会活動

1971年4月～ 三田図書館・情報学会会員(現在まで)

1975年10月～ 日本図書館情報学会会員(現在まで)

2000年4月～ 経営情報学会会員(現在まで)

2000年11月～ 情報メディア学会会員(現在まで)

社会貢献活動

1987年6月～ 日本原子力研究所国際原子力情報システム協議会委員(現在まで)

昭和67年6月 (財)国際情報化協力センターアジア情報技術標準化推進委員会委員(現在まで)

1997年10月～ Malaysian Journal of Library and Information Sciences, editor(現在まで)

2001年6月～ (財)国際情報化協力センター評議員(現在まで)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

内藤衛亮:「社会コミュニケーションの研究-意図, 方向, 組織」. 細部博史編. 国立情報学研究所共同研究「社会コミュニケーションの研究」2001年度研究報告書. pp. 1-3, (2002.03).

講演・口頭発表等

NAITO Eisuke: Japan InK - Distributing the Information Networked Knowledge (InK) Base to the Japanese Research Community. 67th IFLA Council and General Conference, August 16th - 25th 2001, Boston, USA. (99. Social Science Libraries with Government Libraries and Management and Marketing SI. 087-99-E). 6 p.

NAITO Eisuke & AKIYAMA Kazuo: "Data Standardization of Science & Technology Information - Status Report: NII, Japan". The 3rd Cooperative Program for the Exchange of Experiences, Expertise, Information in S&T in South East Asian Countries (CO-EXIST-SEA) Workshop, October 22-24, 2001, Organized by Japan Science and Technology Corporation (JST). 5 p., (2001.10.23).

NAITO Eisuke: "Identification, Integration and Links for Recorded Knowledge: standards, standard frameworks for accessing". AFSIT-15 November 7-8, 2001, Kathmandh, Nepal "Current Status and Issues of e-Government in Asia - Asian Requirements for Documentation Standards". 10 p., (2001.10.08).

競争的研究資金獲得状況

(1) 共同研究

平成 13 年度 共同研究「社会コミュニケーション(ビジネス情報基盤)の研究」

氏名 影浦 峽 (かげうら きょう)
博士号 PhD (学術博士)
所属・役職 人間・社会情報研究系情報管理学研究部門助教授
電話番号 03-4212-2518
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報メディア論・専門語彙論・情報管理学基礎論

研究概要

大きく二系統のテーマを扱っている。一つは、情報メディアの流通と存立構造についての分析を行うもので、これは社会的・歴史的な側面とメディア技術基盤の存立との相互作用を扱うものである。現在は、ネットワーク情報資源と印刷体とを主に扱っている。もう一つは専門語彙論で、計算・計量言語学的記述と基礎論記述とを統合的に扱う研究である。特に、語彙成長のモデリングと重要語抽出を、語彙論の語彙論としての理論構成のありかたという基礎論的な問題とあわせて進めてきた。

学歴

1986年3月 東京大学教育学部卒業
1988年3月 東京大学大学院教育学研究科修士課程終了
1988年10月 東京大学大学院教育学研究科博士課程退学
1993年6月 マンチェスター大学 学術博士

主要経歴

1988年11月 学術情報センター助手
1990年8月～1992年8月 マンチェスター大学科学技術研究所客員研究員
1994年3月 学術情報センター助教授
1996年3月～12月 シェフィールド大学計算機科学科客員研究員
1996年12月 ポンプ・ファブラ大学応用言語学研究所招待研究員
1998年4月～2001年3月 東京大学教育学研究科併任
2000年4月 国立情報学研究所助教授
2001年7月 ナント大学国立計算機科学研究所招待研究員

受賞等

2001年10月 日本図書館情報学会賞

教育活動歴

- 1994年～ 明治大学非常勤講師(文字情報論)
- 1994年～ 東洋大学非常勤講師(情報図書館学特論・計量情報学)
- 1994年～1996年 中央大学非常勤講師(自然言語処理論)
- 1994年～1996年 亜細亜大学非常勤講師(情報システム論)
- 1998年～2002年 新潟大学非常勤講師・併任
- 2002年～ 総合研究大学院大学兼任

大学院担当講義

情報言語学・情報社会論

学協会活動

- 1994年～ Terminology 誌編集委員
- 1999年～2001年 日本図書館情報学会研究委員
- 1999年～ 計量国語学会編集委員・理事
- 2000年 Workshop on Terminology Resources and Computation プログラム委員
- 2000年～ 国際計量言語学会(International Quantitative Linguistic Association)副会長
- 2001年 International Conference on Computer Processing of Oriental Languages プログラム委員
- 2001年 Natural Language Processing Pacific Rim Symposium プログラム委員・組織委員
- 2001年～ 言語処理学会誌編集委員
- 2001年 Traitement Automatique de Langue: Structuration de Terminologie 特集号招待編集委員
- 2002年～ 言語処理学会評議員
- 2002年 Computerm 2 Workshop 主催
- 2003年 First International Conference on Meaning Text Theory プログラム委員
- 2002年 ナント大学計算機科学研究所教授資格試験審査委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- 高須淳宏, 片山紀生, 大山敬三, 安達淳, 影浦峯: 学術文献画像の書誌情報の近似マッチング法, 情報処理学会論文誌: データベース, Vol. 42, No. SIG1 (TOD8), pp. 148-158 (2001)
- 内山清子, 竹内孔一, 吉岡真治, 影浦峯, 小山照夫: 専門分野における複合名詞解析のための名詞文法属性の分類について, 計量国語学, Vol. 23, No. 1, pp. 1-24 (2001)
- K. Tsuji and K. Kageura: Extracting Morpheme Pairs from Bilingual Terminological Corpora, Terminology, Vol. 7, No. 1, pp. 101-114 (2001)
- 影浦峯: 情報管理の前提からみた電子技術時代の資料, 電子図書館: シリーズ図書館情報学のフロンティア, Vol. 1, pp. 47-62 (2001)
- 大山敬三, 影浦峯, 神門典子, 木村優, 丸山勝巳, 吉岡真治, 高橋一道: 大規模学術情報データベースに適した情報検索システムの開発, 電子情報通信学会論文誌 D-I, Vol. J84-D-I, No. 6, pp. 658-670 (2001)
- 竹内孔一, 内山清子, 吉岡真治, 影浦峯, 小山照夫: 語彙概念構造を利用した複合名詞内の係り関係の解析, 情報処理学会論文誌, Vol. 43, No. 5, pp. 1446-1456 (2002)
- K. Tsuji, B. Daille and K. Kageura: Extracting French-Japanese Word Pairs from Bilingual Corpora based on Transliteration Rules, LREC2002, Las Palmas, Spain (May 2002), pp. 501-504.
- 影浦峯: 「専門用語の理論」に関する一考察, 情報知識学会誌, Vol. 12, No. 1, pp. 3-12 (2002)
- K-S. Lee, K. Kageura and K-S Choi: Implicit Ambiguity Resolution using Incremental Clustering in Korean-to-English Cross-Language Information Retrieval, COLING2002, Taipei, Taiwan (Aug, 2002) pp. 537-543.
- K. Takeuchi, K. Kageura and T. Koyama: An LCS-based Approach for Analysing Japanese Compound Nouns with Deverbal Heads, Computerm02, pp. 64-70, Taipei, Taiwan (Aug, 2002) pp. 64-70.

K. Kageura: The Dynamics of Terminology: A Descriptive Theory of Term Formation and Terminological Growth, Amsterdam, John Benjamins (2002)

講演・口頭発表等

影浦 峯: 専門語彙の構造の近さを計る, 計量国語学会第45回大会, September 2001.

K. Kageura: Measuring the Distance of Terminological Structures: A Preliminary Study, Asian-Pacific Workshop on Terminology, March 2002.

影浦 峯: 「図書館の将来像論」を巡って, 第50回日本図書館情報学会研究大会, November 2002, pp. 31-34.

影浦 峯: 「テキスト・コーパスからの語構成要素の語彙論的特徴の復元について」言語処理学会第9回年次大会, March 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

2002年4月 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C)

「情報理論的アプローチによる専門語彙構造の特徴解析とモデル化」

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

研究旅費: 総額 80 万円

氏 名 竹内 孔一 (たけうち こういち)

博士号 1998年 博士(工学) (奈良先端科学技術大学院大学)

所属・役職 人間・社会情報研究系 情報管理学部門 助手

電話番号 03-4212-2580

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 自然言語処理、語彙意味論、統計的自然言語処理、形態論

研究概要

主要研究テーマ「語彙意味論に基づく語構成解析モデルの構築」

語彙の意味をコンピュータ上でどう記述すれば言語をコンピュータ上で扱うことができるようになるか。この問題に対して言語学における語彙意味論をもとに語構成解析モデルや語彙獲得モデルの構築を行い実証による理論の検証を行う。同時に工学的視点から統計的言語モデルによる語彙意味記述法の応用を研究する。

学 歴

1991年3月 姫路工業大学 工学部 電子工学科 卒業

1995年9月 奈良先端科学技術大学院大学 博士前期課程修了

1998年3月 奈良先端科学技術大学院大学 博士後期課程修了 博士(工学)

主要経歴

1998年4月～2000年3月 学術情報センター 研究開発部 助手

2000年4月～2003年11月 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 情報管理学部門 助手

2002年10月～2003年5月 フランス LORIA(ロレーヌ情報工学研究所) 非常勤研究員

2003年12月 岡山大学工学部情報工学科 講師

教育活動歴

2000年4月～2001年3月 神奈川大学非常勤講師

2001年 東京理科大学大学院特別講座講師

学協会活動

電子情報通信学会会員(1991～)、言語処理学会会員(1997～)、情報処理学会会員(1994～)

情報処理学会会誌編集委員(2002～)

6th Natural Language Processing Pacific Rim Symposium 2001(NLPRS'01) 実行委員(2001)

情報処理学会自然言語処理研究会運営委員(2003)

経済産業省「遺伝子組換え体の産業利用におけるリスク管理に関する研究事業」におけるリスク管理システム分科会委員(2003)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

内山清子, 竹内孔一, 吉岡真治, 影浦峽, 小山照夫: 専門分野における複合名詞解析のための名詞文法属性の分類について, 計量国語学, Vol.23, No.1, pp. 1-24, 2001.

K. Takeuchi, K. Uchiyama, M. Yoshioka, K. Kageura, and T. Koyama: Analysis of Relations between Noun and Deverbal Nouns in Japanese Compounds Based on Lexical Conceptual Structure, Proceedings of Pacific Association for Computational Linguistics (PACLING'01), pp. 257-264, Kitakyuusyuu International Conference Center Kitakyusyuu, Kokura, Japan, (September, 2001).

K. Takeuchi, K. Uchiyama, M. Yoshioka, K. Kageura, and T. Koyama, Categorising Deverbal Nouns Based on Lexical Conceptual Structure for Analysing Japanese Compounds, Proceedings of the IEEE Systems, Man and Cybernetics 2001 (SMC 2001) Conference, pp. 904-909, Tucson Convention Center, Arizona, USA, (October, 2001).

M. Okada, K. Takeuchi, M. Yoshioka, K. Kageura, and T. Koyama: Defining Principled but Practically Manageable Lexical Units in Japanese Textual Corpora, Proceedings of the Workshop of Language Resources in Asia (6th Natural Language Processing Pacific Rim Symposium Post-Conference Workshop), pp. 47-53, National Center of Sciences, Tokyo, Japan, (November, 2001).

竹内孔一, 内山清子, 吉岡真治, 影浦峽, 小山照夫: 語彙概念構造を利用した複合名詞内の係り関係の解析, 情報処理学会論文誌, Vol.43, No.5, pp. 1446-1456, 2002.

K. Takeuchi, and N. Collier: Use of Support Vector Machines in Extended Named Entity Recognition. In 6th Conference on Natural Language Learning 2002 (CoNLL-2002), pp. 119-125, Academia Sinica, Nankang, Taipei, Taiwan, (September, 2002).

K. Takeuchi, K. Kageura, and T. Koyama: An LCS-based Approach for Analyzing Japanese Compound Nouns with Deverbal Heads, Second International Workshop on Computational Terminology. In Proceedings of the 2nd International Workshop on Computational Terminology (COMPUTERM2002), pp. 64-70, Academia Sinica, Nankang, Taipei, Taiwan, (August, 2002).

竹内孔一: 言語学を利用した複合名詞解析モデルの構築, 月刊日本語学 12月号, pp. 28-35, 2001.

竹内孔一, コリアーナイジェル: 生物学文献からの専門用語抽出における機械学習モデルの検討, 情報処理学会自然言語処理研究会, 2002-NL-150, pp. 185-190, 2002.

竹内孔一, 影浦峽, 小山照夫: 語彙概念構造を利用した「に」に関する複合名詞の分析, 情報処理学会自然言語処理研究会, 2002-NL-150, pp. 133-140, 2002.

講演・口頭発表等

司会: 今泉志奈子, 日高俊夫, 大月敦子, 高橋幸, 竹内孔一: 語彙意味論とコンピュータへの応用: 日本英語学会ワークショップ, 青山学院大学, 東京, (11月, 2002)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成14年度科学研究費補助若手研究(B) (平成14年～15年度:280万円)「日本語複合名詞解析における語彙の概念構造の構築」(14780313)

◆情報利用学研究部門

氏名 小山 照夫 (こやま てるお)

博士号 工学博士(機械工学、東京大学)

所属・役職 人間・社会情報研究系情報利用学部門、教授、研究主幹

電話番号 03-4212-2620

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 知識情報処理、データベース、専門用語構造解析

研究概要

専門分野複合語の意味解析

これまでに作成してきたコーパスを利用することにより、複合語の合成規則を明らかにしていく。同時に、複合語の意味カテゴリーを推定する方法を明らかにし、専門用語としての複合語の性質を明らかにする。

専門用語共起に基づく論述構造推定

専門用語道程結果を用いて、特定の記述単位(たとえば文章、パラグラフ等)における複合語の共起関係を解析する。専門用語共起関係を整理することにより、さまざまな分野における論文記述の構造を明らかにすることを試みる。

知識適用の状況を考慮した知識表現

複合語、特に動詞由来の複合語の構造解析を通して、論述の構造を明らかにし、論述の状況に応じた、対象モデルのあり方を整理する。また、この結果に基づき、実際にシステムの取り扱う状況に応じて、知識表現と推論方法を変更することが可能な知識表現の枠組みを提案し、知識処理システム構築環境として、整備をすすめる。

学歴

1968.4 東京大学教養学部理科I類入学

1972.4 東京大学工学部機械工学科卒業

1972.5 東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専門課程入学

1977.10 東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専門課程修了、工学博士

主要経歴

1977.11 東京都老人総合研究所非常勤研究員

1978.3 東京都老人総合研究所研究員

1982.3 浜松医科大学助教授、同大附属病院医療情報部副部長

1987.4 学術情報センター助教授

1989.4 東京大学大学院理学系研究科助教授併任

1994.7 学術情報センター教授、東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授併任

2000.4 国立情報学研究所教授

2001.7 東京大学大学院情報理工学専攻教授併任

教育活動歴

1982.3 浜松医科大学助教授

1989.4 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻助教授

1994.7 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻教授

2001.7 東京大学大学院情報理工学専攻教授

大学院担当講義

学術情報データベース特論(東京大学)

学協会活動

情報処理学会会員(1978～)

医療情報学会会員(1986～)

人工知能学会会員(1986～)

情報知識学会会員(1994～)

情報知識学会理事(1994～2002)

電子情報通信学会会員(1996～)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

竹内孔一, 内山清子, 吉岡真治, 影浦峯, 小山照夫, 語彙概念構造を利用した複合名詞内の係り関係の解析, 情報処理学会論文誌, vol.43, no.5, pp.1446-1456, 2002

Koichi TAKEUCHI, Kyo KAGEURA and Teruo KOYAMA, An LCS-based Approach for Analyzing

Japanese Compound Nouns with Deverbal Heads, 2nd International Workshop on Computational Terminology (COMPUTERM 2002), pp.64-70, Academia Sinica, Nankang, Taipei, Taiwan, Aug. 2002

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

臨床症例データベース(データベース公開促進, 1989~)

調和の取れた教育, 学術および科学技術の政策形成に関する調査研究(特別研究促進, 1999~2000)

氏名 後藤田 洋伸 (ごとうだ ひろのぶ)
博士号 1994年 博士(理学)(東京大学)
所属・役職 人間・社会情報研究系 情報利用学研究部門 助教授
電話番号 03-4212-2532
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 コンピュータ・グラフィックス

研究概要

実写映像を利用した三次元形状の変形過程のモデル化や、三次元形状の類似性判定などの、三次元形状の表現や認識に関する研究に取り組んでいる。また、情報検索技術の実証研究プロジェクトにも参加し、特に類似検索技術の電子出版物への適用可能性を研究している。

学歴

1989年3月 東京大学理学部情報科学科卒業
1991年3月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了
1994年3月 東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻博士課程単位取得退学

主要経歴

1996年1月 学術情報センター研究開発部 COE 研究員
1997年4月 学術情報センター研究開発部学術情報研究系助手
1997年10月 学術情報センター教育研修部学術情報システム教育室助手併任
1998年4月 学術情報センター中核的研究機関準備調査室助手併任
1999年4月 学術情報センター中核的研究機関創設準備室助手併任
2000年4月 国立情報学研究所人間・社会情報研究系助手
2000年11月 国立情報学研究所人間・社会情報研究系助教授

教育活動歴

1997年4月 法政大学第一教養部非常勤講師(2002年3月まで)
1999年4月 明治大学短期大学非常勤講師
2001年4月 東京工業大学大学院情報理工学研究科非常勤講師(2002年9月まで)
2002年4月 総合研究大学院大学数物科学研究科助教授併任

大学院担当講義

総研大 コンピュータ・グラフィックス

学協会活動

IEEE Computer Society 会員(1988~)
ACM 会員(1989~)
電子情報通信学会員(1990~)
情報処理学会員(1990~)
学術誌“The Visual Computer”Editorial Assistant(1992~1993)
国際会議“International Conference on Dublin Core and Metadata Applications”プログラム委員
および実行委員(2000~2001)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

後藤田 洋伸 「実写ベースのレンダリングのための近似幾何プロキシの最構成法」NII Journal,

no.4, pp.15-22, 2002.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

後藤田 洋伸「社会コミュニケーションにおける情報リテラシーの役割と課題」, 国立情報学研究所共同研究「社会コミュニケーションの研究」2001年度研究報告書, pp.64-71, 2002.

後藤田 洋伸「電子出版物の同定・識別技術の動向」, 平成 11～13 年度科学研究費補助金基盤研究「電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する研究」研究成果報告書(課題番号 11691160), 国立情報学研究所, pp.64-71, 2002.

後藤田洋伸「普通教科『情報』と図書館」ViewPoint, 第 3 号, CTC Academic User Association, pp.28-31, 2003.

講演・口頭発表等

後藤田洋伸「多視点画像を利用した三次元形状の類似性判定」電子情報通信学会総合大会講演論文集, 情報・システム 2, p.286, 2003.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12 年度科学研究費補助金奨励研究(A)(平成 12～平成 13 年度:190 万円)「多眼動画像からポリゴン表現モデルを抽出するための実時間処理システムに関する研究」(12780249)

平成 14 年度科学研究費補助金若手研究(B)(平成 14～16 年度:330 万円)「実写映像を利用した三次元形状の変形モデリングシステムに関する研究」(14780247)

氏名 植木 浩一郎 (うえき こういちろう)
博士号 理学修士
所属・役職 人間・社会情報研究系情報利用学研究部門助手
電話番号 03-4212-2572
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム

研究概要

ヒューリスティックを用いた遺伝的アルゴリズムを提案した。このアルゴリズムは、巡回セールスマン問題を高速かつ正確に解くことができた。この遺伝的アルゴリズムを用いると、音声や自然言語を用いたヒューマンインターフェイスを実現できる可能性が示唆された。また、非線型ニューラルネットワークの計算機シミュレーションによって海馬や視覚野の神経回路の持つ可塑性について調べた。

学歴

1989 年 3 月慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業
1991 年 3 月京都大学大学院理学研究科霊長類学専攻修士課程修了
1996 年 3 月京都大学大学院理学研究科霊長類学専攻博士課程退学

主要経歴

1996 年 4 月文部省学術情報センター研究開発部ネットワーク工学研究部門助手採用
2000 年 4 月国立情報学研究所情報利用学研究部門助手着任

学協会活動

American Association for the Advancement of Science Member 1994～
人工知能学会 会員 1996～
American Association for Artificial Intelligence Member 1996～
International Society for Genetic and Evolutionary Computation Member 2003～

◆情報図書館学研究部門

氏名 神門 典子 (かんど のりこ)
博士号 博士(図書館・情報学)
所属・役職 人間・社会情報研究系 情報図書館学研究部門 助教授

電話番号 03-4212-2529
ファクシミリ 03-3556-1619
専門分野 情報検索システムの評価、テキスト構造・ジャンル・リンク・コンテキスト・観点の分析、情報活用支援システム、言語横断検索

研究概要

人間の知的・芸術的創造の成果として生産され、蓄積、流通、活用されている多様な大量の文書の中から、利用者が必要ときに必要な情報を取り出し、活用するプロセスの解明、そのプロセスを支援する技術としての情報検索および文書中の情報活用を支援する技術、その評価について研究を進めている。

学歴

1983年 3月 慶應義塾大学 文学部 図書館・情報学科 (Robert L. Gitler 賞, 文学部副代表)
1991年 3月 慶應義塾大学大学院 文学研究科修士課程 図書館・情報学専攻 (小林賞, 文学研究科代表)
1994年 3月 慶應義塾大学大学院 文学研究科博士課程 図書館・情報学専攻

主要経歴

1983年 4月 東京慈恵会医科大学 医学情報センター
1986年 1月 東京慈恵会医科大学 情報処理研究室(1988年9月まで)
1993年 4月 日本学術振興会 特別研究員
1994年 7月 学術情報センター 研究開発部 学術情報系 助手(1998年3月まで)
1995年 10月 米国シラキウス大学情報学部 客員研究員(1996年1月まで)
1996年 8月 デンマーク王立図書館情報大学 客員研究員(1997年7月まで)
1998年 4月 学術情報センター 研究開発部 学術情報系 助教授
2000年 4月 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 助教授(現在に至る)
2000年 4月 図書館情報大学大学院 客員助教授(併任)(連携大学院)(2002年3月まで)
2002年 4月 総合研究大学院大学 数物研究科 情報学専攻 併任助教授(現在に至る)

大学院担当講義

情報検索
情報社会論

学協会活動

1994年～現在 三田図書館・情報学会編集委員
1998年～2002年 言語処理学会評議員
2000年～現在 ACM Transaction on Asian Language Information Processing (ACM-TALIP) 副編集長
2000年～現在 Information Processing and Management (IP&M)編集委員
2000年～現在 Cross-Language Evaluation Forum (CLEF), Steering Committee Member (国際会議主催、プログラム委員等)
1998年～現在 NTCIR (NACSIS-NII Test Collection for Information Retrieval Systems) Workshop プログラム委員長・組織委員
2000年～現在 Association for Computing Machinery. Special Interest Group on Information Retrieval (ACM-SIGIR) プログラム委員
2001年～現在 International Conference of Dublin Core Meta Data and Application プログラム委員
2002年 ACM-SIGIR Workshop on Cross-Language Information Retrieval, co. chair
2002年 European Conference on Research and Advance Technology for Digital Libraries (ECDL)プログラム委員
2002年 International Conference on Asian Digital Libraries(ICADL) プログラム委員 (特集号編集)
2002年～2003年 Information Processing and Management (IP&M). 特集号「言語横断検索」

Cross-Language Information Retrieval]共同ゲストエディタ

2002年 人工知能学会誌 特集「NTCIR:情報アクセス技術の評価ワークショップ」共同ゲストエディタ

2003年 人工知能学会誌 特集「デジタルアーカイブ」共同ゲストエディタ

社会貢献活動

1994年～2002年 データベース表記表現委員会 委員

1995年～現在 ISO/TC37 国内対策委員会 委員

2000年～現在 ISO/TC46 国内対策委員会 幹事

2000年～2003年 地理情報クリアリングシステム調査委員会 委員

2001年～2003年 データベース評価に関する調査研究委員会 委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- Kando, N. "NTCIR Workshop: Japanese- and Chinese-English cross-lingual information retrieval and multi-grade relevance judgments". In Proceedings of the first Cross-Language Evaluation Forum (CLEF2000), Sept.17-22, 2000, Lisbon, Portugal, Springer, 2001, pp.24-33 (Lecture Notes in Computer Science; 2069) (Invited)
- Kando, N. "CLIR system evaluation at NTCIR Workshops", In Results of the CLEF 2001 Cross-Language System Evaluation Campaign: Working Notes for the CLEF 2001 Workshop, Sept 3-4, 2001, Darmstadt, German, pp.243-252 (Invited)
- * Kando, N. "CLIR system evaluation at the second NTCIR workshop", In Proceedings of the second Cross-Language Evaluation Forum (CLEF2001), Sept 3-4, 2001, Darmstadt, German, Springer, 2002, pp.371-388 (Lecture Notes in Computer Science; 2406) (extended version of the above) (Invited)
- Kuriyama, K., Kando, N., Nozue, T., Eguchi, K. "Pooling for a large-scale test collection: An analysis of the search results from the first NTCIR Workshop." Information Retrieval, Vol.5, No.1, pp.41-59, Kluwer Academic Pub., January 2002.
- 江口浩二, 栗山和子, 神門典子.「検索課題の難易度を考慮したテキスト検索システムの評価」, 情報処理学会論文誌データベース, Vol.43, No. SIG2 (TOD13), pp.60-68, March 2002.
- 栗山和子, 吉岡真治, 神門典子.「大規模テストコレクション NTCIR-2 の構築: 対話型追加検索と言語横断的プーリングの効果」, 情報処理学会論文誌データベース, Vol.43, No. SIG2 (TOD13), pp.48-59, March 2002.
- Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kuriyama, K., Kando, K. "Evaluation design of web retrieval task in the third NTCIR Workshop", [Poster], In Proceedings of the 11th International World Wide Web Conference, May 7-11, 2002, Honolulu, HI, USA, (CD-ROM No.Poster-22)
- Eguchi, K. Kuriyama, K. and Kando, N. "Sensitivity of IR systems evaluation to topic difficulty", Proceedings of the 3rd International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2002), May 2002, Vol.2, Las Palmas de Gran Canaria, Spain, pp.585-589.
- Kando, N. "Evaluation of information access technologies", In Proceedings of the 4th DELOS Workshop on Evaluation of Digital Libraries, June 6-8, 2002, Budapest, Hungary (to appear) (Invited)
- Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kuriyama, K., Kando, N. "The web retrieval task and its evaluation in the third NTCIR Workshop", [poster] In Proceedings of the 25th Annual International ACM-SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval (SIGIR 2002), Aug. 11-15, 2002, Tampere, Finland, pp. 375-376.
- Kando, N. "Evaluation -- the way ahead: A case of the NTCIR", In Proceedings of 25th ACM-SIGIR Workshop on Cross Language Information Retrieval: A Research Roadmap, Tampere, Finland, Aug.15, 2002, pp. 72-77.
- Seki, Y., Kando, N. "Dynamic document generation based on tf/idf weighting", In Proceedings of 25th ACM-SIGIR Workshop on Mobile Personal Information Retrieval, Tampere, Finland,

Aug.15, 2002, pp.57-63.

- Kando, N. "Cross-culture and cross-genre information retrieval: Challenges in CLIR Evaluation at the third NTCIR Workshop", In Results of the CLEF 2002 Cross-Language System Evaluation Campaign. Working Notes for the CLEF 2002 Workshop, Rome, Italy, Sept. 19-20, 2002, pp. 385-394 (Invited)
- 江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子.「Web 検索のための評価ワークショップに適したシステム評価手法」, 日本データベース学会 Letters, Vol.1, No.2, pp.40-43. Mar. 2003
- 江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子.「NTCIR-3 WEB: Web 検索のための評価ワークショップ」, NII Journal, No.6, pp.31-56. Mar. 2003.
情報検索システム評価用大規模テストコレクション NTCIR-3(NTCIR-3CLIR, NTCIR-3PATENT, NTCIR-3WEB)(国立情報学研究所) <http://research.nii.ac.jp/ntcir/permission/perm-en.html>
- 吉岡真治, 神門典子(編集).「特集:NTCIR: 情報アクセスに関わるテキスト処理技術の評価ワークショップ」.人工知能学会誌 17 卷 3 号, pp.295-319, 2002 年 5 月.
- 神門典子.「NTCIR とその背景: 情報アクセス技術の評価ワークショップとテストコレクション」(特集:NTCIR: 情報アクセスに関わるテキスト処理技術の評価ワークショップ).人工知能学会誌 17 卷 3 号, pp.296-300, 2002 年 5 月.
- 神門典子, 安達淳, 岸田和明, 栗山和子, 岩山真, 藤井敦, 高野明彦, 福本淳一, 加藤恒明, 梶井文人, 奥村学, 福島孝博, 難波英嗣, 江口浩二, 大山敬三.「評価ワークショップによるテキスト処理研究:第 3 回 NTCIR ワークショップを例として」(特集:NTCIR: 情報アクセスに関わるテキスト処理技術の評価ワークショップ).人工知能学会誌 17 卷 3 号, pp.312-319, 2002 年 5 月.
- Kando, N. "Overview of the Second NTCIR Workshop". In Proceedings of the Second NTCIR Workshop on Research in Chinese & Japanese Text Retrieval and Text Summarization, Tokyo, Japan, May 2000-March 2001, National Institute of Informatics, pp. 35-43, July, 2001,
- Kando, N., Kuriyama, K., Yoshioka, M. "Overview of Japanese and English Information Retrieval Tasks (JEIR) at the Second NTCIR Workshop", . In Proceedings of the Second NTCIR Workshop on Research in Chinese & Japanese Text Retrieval and Text Summarization, Tokyo, Japan, May 2000-March 2001, National Institute of Informatics, pp.73-96, July, 2001,.
- Yoshioka, M., Kuriyama, K., Kando, N. "Analysis of the usage of Japanese segmented texts in NTCIR Workshop 2", In Proceedings of the Second NTCIR Workshop on Research in Chinese & Japanese Text Retrieval and Text Summarization., Tokyo, Japan, May 2000-March 2001, National Institute of Informatics, pp.291-296, July, 2001.
- Kuriyama, K., Yoshioka, M., Kando, N. "The effect of cross-lingual pooling on evaluation", In Proceedings of the Second NTCIR Workshop on Research in Chinese & Japanese Text Retrieval and Text Summarization., Tokyo, Japan, May 2000-March 2001, National Institute of Informatics, pp.297-310, July, 2001.
- Eguchi, K., Kando, N., Adachi, J. (eds). "NTCIR Workshop 2 : Proceedings of the Second NTCIR Workshop on Research in Chinese & Japanese Text Retrieval and Text Summarization", Tokyo, Japan, May 2000-March 2001. (ISBN: 4-924600-96-2) (オンライン版は <http://research.nii.ac.jp/ntcir/workshop/OnlineProceedings/>より入手可能)
- 神門典子, 栗山和子, 吉岡真治.多段階レlevance判定による評価. 平均可能な単一指標の検討.情報処理学会研究報告.第 63 回情報学基礎研究会, 東京, 2001 年 7 月 24 日・25 日, 2001-FI-63. Vol.2001, No.74, pp.105-112.
- 神門典子, 奥村学, 福島孝博.情報検索と要約の評価.第 2 回 NTCIR ワークショップ概要.情報処理学会研究報告.第 63 回情報学基礎研究会, 東京, 2001 年 7 月 24 日・25 日, 2001-FI-63. Vol.2001, No.74, pp.1-8.
- 栗山和子, 吉岡真治, 神門典子.「大規模テストコレクション NTCIR-2 の構築 :言語横断プーリン

- グの評価への影響」.情報処理学会研究報告.第 63 回情報学基礎研究会, 東京, 2001 年 7 月 24 日・25 日, 2001-FI-63. Vol.2001, No.74, pp.9-16.
- 江口浩二, 栗山和子, 神門典子.テストコレクションにおける検索課題の難易度予測への挑戦.情報処理学会研究報告.第 63 回情報学基礎研究会, 東京, 2001 年 7 月 24 日・25 日, 2001-FI-63. Vol.2001, No.74, pp.17-24.
 - 大山敬三, 神門典子, 江口浩二, 栗山和子.Web 検索チャレンジの課題.NTCIR ワークショップ 3 の新タスク.情報処理学会研究報告.Vol. 2001, No. 74, 2001-FI-63.2001 年 7 月 24-25 日, pp.41-48.
 - 岩山真, 藤井敦, 高野明彦, 神門典子.特許コーパスを用いた検索タスクの提案.情報処理学会研究報告.第 63 回情報学基礎研究会, 東京, 2001 年 7 月 24 日・25 日, 2001-FI-63. Vol.2001, No.74, pp.49-56.
 - 江口浩二, 神門典子.「電子図書館と情報検索: TREC10における情報検索の研究動向」1999～2001年度(平11～13)基盤研究(国際学術研究)「電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究」最終報告書, 2002年3月
 - Gey, F., Kando, N. Peters, C. (eds) "Proceedings of 25th ACM-SIGIR Workshop on Cross Language Information Retrieval: A Research Roadmap", Tampere, Finland, Aug.15, 2002, 80p.
 - Gey, F., Kando, N., Peters, C. "Cross-language information retrieval: A research roadmap". SIGIR Forum, Vol. 36, No.2, 2002
 - Kando, N. "Overview of the third NTCIR Workshop". In Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting,, Part 1: Overview, Tokyo, Japan, October 8-10, 2002, pp.1-16
 - Chen, K.H., Chen, H.H., Kando, N., Kuriyama, K., Lee, S.H., Myaeng, S.H., Kishida, K., Eguchi, K., Kim, H. "Overview of CLIR task at the third NTCIR Workshop", In Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting, Part 1: Overview,Tokyo, Japan, October 8-10, 2002, pp.23-60.
 - Iwayama, M., Fujii, A., Takano, A., Kando, N. "Overview of patent retrieval task at NTCIR -3", In Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting, Part 1: Overview,Tokyo, Japan, October 8-10, 2002, pp.77-86
 - Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kando, K., Kuriyama, K. "Overview of Web retrieval task at the third NTCIR Workshop", In Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting, Part 1: Overview,Tokyo, Japan, October 8-10, 2002, pp.77-86
 - Ishida, E., Oyama, K., Kando, N. (eds) "Working Notes of the Third NTCIR Workshop", Tokyo, Japan, Oct.8-10, 2002, (6 vol.) (ISBNs: 4-86049-010-X, 4-86049-011-8, 4-86049-012-6, 4-86049-013-4, 4-86049-014-2, 4-86049-015-0)
 - Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kando, K., Kuriyama, K. "Evaluation methods for web retrieval task", DBWeb2002, pp.415-422
 - Eguchi, K., Oyama, K., Ishida, E., Kando, K., Kuriyama, K. "Overview of the Web Retrieval Task at the Third NTCIR Workshop", NII Technical Report, No.NII-2003-002E, Jan. 2003, 29 p.
 - 江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子.「リンク関係と重複ページを考慮した Web 検索システムの評価手法」.情報アクセスのためのテキスト処理シンポジウム発表論文集, pp.9-16, Feb. 2003
 - 岩山真, 藤井敦, 神門典子, 丸川雄三.「特許検索の諸相 - 「NII テストコレクション 3 特許」を用いて -」 言語処理学会 第 9 回年次大会
 - 岩山真, 藤井敦, 神門典子, 丸川雄三.「特許検索の諸相- 「NII テストコレクション 3 特許」を用いて」.東京工業大学精密工学研究所第 40 回シンポジウム「知的財産と特許情報処理」特許情報処理 JAPIO 寄付研究部門の終了と新展開にあたり- 講演予稿集, 平成 15 年 3 月 14 日, 東京工業大学 (10.p)

講演・口頭発表等

- Kando, N., Chen, K.H. "Report from NTCIR Workshop 2: CLIR Systems Evaluation" [oral

presentation & poster], The 10th Text Retrieval Conference, Gaithersburg, MD, USA, Nov.13-16, 2001. (Invited)

•Kando, N. "Relevance Re-Examined: In the Context of Information Retrieval System Testing", International Symposium on the Logic of Real-World Interaction (LoRWI 2002), Tokyo, Japan, Jan. 30-31, 2002. (Invited)

•Kando, N. "Report from NTCIR Workshop 3" [oral presentation & poster], The 11th Text Retrieval Conference, Gaithersburg, MD, USA, Nov.13-16, 2002. (Invited)

•Kando, N. "Evaluation of Information Retrieval and Cross-Lingual Information Retrieval: History, Collaboration, and Implications", The 7th Korea Science and Technology Infrastructure Workshop, Dec. 12-13, 2002, Taejon, Korea (Invited)

•神門典子。「Beyond Documents, Beyond Queries, and Beyond Heterogeneity」.電子情報通信学会「言語理解とコミュニケーション」研究会「情報アクセスのためテキスト処理シンポジウム」, 鈴鹿, 2003年2月(特別講演)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

2001~2002 年度科学研究費補助金萌芽的研究「リンクの共引用・書誌結合分析を用いた分野構造分析」(研究代表者)

氏名 江口 浩二 (えぐち こうじ)
博士号 博士(工学)
所属・役職 人間・社会情報研究系 情報図書館学研究部門 助手
電話番号 03-4212-2584
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報学

研究概要

適応型情報アクセス手法に関する研究

クラスタに基づく適合フィードバック手法、利用者の興味を反映した文書クラスタリング手法など、利用者の振る舞いから情報要求を学習する対話型情報アクセス手法の実現を目指している。

Web情報アクセスシステムの評価手法とWebテストコレクションの構築に関する研究

Web 情報検索システム・分類システムに関する有効性評価手法の設計・分析、Web テストコレクションの構築・信頼性解析を行っている。

Web情報の組織化に関する研究

一般に組織化されていない Web 情報に対して、利用しやすい形に変換するためのテキスト処理手法の実現を目指している。

学 歴

1993年3月 同志社大学工学部電子工学科卒業
1995年3月 関西大学大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程修了
1999年3月 関西大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程修了

主要経歴

1999年4月 学術情報センター 学術情報研究系 助手(2000年3月まで)
2000年4月 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 助手(現在に至る)
2000年4月 国立情報学研究所 国際・研究協力部 研究成果普及推進室併任(2002年4月まで)
2002年4月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助手(併任)(現在に至る)

教育活動歴

2002年4月 総合研究大学院大学 数物科学研究科 助手(併任)(現在に至る)
2002年9月 芝浦工業大学 システム工学部 非常勤講師(現在に至る)

学協会活動

ACM(1999年～現在)、情報処理学会(1994年～現在)、電子情報通信学会(1996年～現在)、人工知能学会(2001年～現在)、日本データベース学会(2002年～現在)各会員

情報処理学会論文誌:データベース 編集委員(1999年～2003年)

電子情報通信学会英文論文誌D「情報アクセスのためのテキスト処理」小特集 編集委員(2002年～2003年)

Local Organizing Committee Member; International Conference on Dublin Core and Metadata Applications 2001 (DC-2001)(2001年)

情報処理学会情報学基礎研究会 運営委員(1998年～2002年)

情報処理学会データベースシステム研究会 運営委員(2002年～現在)

情報学シンポジウム 実行委員(2000年～2002年)

データベースとWeb情報システムに関するシンポジウム 一般プログラム委員(2002年)

「情報アクセスのためのテキスト処理」シンポジウム プログラムサポート委員会委員(2002年)

情報処理学会全国大会 座長(2001年9月、2002年3月)

Program and Organizing Committee Member; the 3rd NTCIR Workshop(2001年～2002年)

Executives Committee Co-chair; NTCIR Workshop WEB Task (NTCIR-WEB) (2001年～現在)

Executives Committee Member; NTCIR Workshop Cross-Language Retrieval Task(2001年～現在)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Koji Eguchi, and Shigeki Sugita: Automatically Editing Book Reviews on the Web'', Proceedings of the 3rd International Workshop on Web Information and Data Management (WIDM'01), Atlanta, Georgia, USA, pp.76-81 (Nov. 2001).

Kazuko Kuriyama, Noriko Kando, Toshihiko Nozue, and Koji Eguchi: Pooling for a Large-Scale Test Collection: An Analysis of the Search Results from the First NTCIR Workshop'', Information Retrieval, Vol.5, No.1, pp.41-59, Kluwer Academic Publishers (Jan. 2002).

江口浩二, 栗山和子, 神門典子: 検索課題の難易度を考慮したテキスト検索システムの評価'', 情報処理学会論文誌:データベース, Vol.43, No.SIG2(TOD13), pp.60-68 (Mar. 2002).

Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Kazuko Kuriyama and Noriko Kando: Evaluation Design of Web Retrieval Task in the Third NTCIR Workshop'', The 11th International World Wide Web Conference (WWW2002), No.poster-22, Honolulu, Hawaii, USA (May 2002).

Koji Eguchi, Kazuko Kuriyama, and Noriko Kando: Sensitivity of IR Systems Evaluation to Topic Difficulty'', Proceedings of the 3rd International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2002), Vol.2, Las Palmas de Gran Canaria, Spain, pp.585-589 (May 2002).

Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Kazuko Kuriyama and Noriko Kando: The Web Retrieval Task and its Evaluation in the Third NTCIR Workshop'', Proceedings of the 25th Annual International ACM SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval (SIGIR 2002), Tampere, Finland, pp.375-376 (Aug. 2002).

江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子: NTCIR-3 WEB: Web 検索のための評価ワークショップ'', NII Journal, No.6, pp.31-56 (Mar. 2003).

特許・公開ソフトウェア・作品等

江口浩二, 大山敬三: Web 検索評価用テストコレクション'', <<http://research.nii.ac.jp/ntcweb/>>, (2003).

大山敬三, 江口浩二: Web データコレクション'', <<http://research.nii.ac.jp/ntcweb/>>, (2003).

上記に含まれない論文・記事・著作物等

Koji Eguchi, Noriko Kando, and Jun Adachi (eds): Proceedings of the Second NTCIR Workshop on Research in Chinese & Japanese Text Retrieval and Text Summarization'', published by the National Institute of Informatics, Tokyo, Japan (Jul. 2001). ISBN: 4-924600-96-2, 381 p.

江口浩二, 栗山和子, 神門典子: テストコレクションにおける検索課題の難易度予測への挑戦”, 情報処理学会研究報告, No.2001-FI-63, pp.17-24 (Jul. 2001).

大山敬三, 神門典子, 江口浩二, 栗山和子: Web 検索チャレンジの課題: NTCIR ワークショップ 3 の新タスク”, 情報処理学会研究報告, No.2001-FI-63, pp.41-48 (Jul. 2001).

江口浩二, 大山敬三: 評価ワークショップによるテキスト処理研究: 第 3 回 NTCIR ワークショップを例として”, 第 6 章 Web 検索タスク, 人工知能学会誌, Vol.17, No.3, pp.317-319 (May 2002).

Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Noriko Kando, and Kazuko Kuriyama: Evaluation Methods for Web Retrieval Tasks”, Proceedings of DBWeb2002, pp.415-422 (Dec. 2002).

Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Noriko Kando, and Kazuko Kuriyama: Overview of the Web Retrieval Task at the Third NTCIR Workshop”, NII Technical Report, No.NII-2003-002E (Jan. 2003).

江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子: リンク関係と重複ページを考慮した Web 検索システムの評価手法”, 「情報アクセスのためのテキスト処理」シンポジウム発表論文集, pp.9-16 (Feb. 2003).

Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Noriko Kando, and Kazuko Kuriyama: Overview of the Web Retrieval Task at the Third NTCIR Workshop”, Proceedings of the Third NTCIR Workshop on Research in Information Retrieval, Automatic Text Summarization and Question Answering, Tokyo, Japan (Mar. 2003).

Kuang-hua Chen, Hsin-Hsi Chen, Noriko Kando, Kazuko Kuriyama, Sukhoon Lee, Sung Hyon Myaeng, Kazuaki Kishida, Koji Eguchi, and Hyeon Kim: Overview of CLIR Task at the Third NTCIR Workshop”, Proceedings of the Third NTCIR Workshop on Research in Information Retrieval, Automatic Text Summarization and Question Answering, Tokyo, Japan (Mar. 2003).

講演・口頭発表等

江口浩二, 杉田茂樹: 目録データベースを用いた WWW における図書情報自動編集システム”, 情報処理学会第 63 回全国大会講演論文集, Vol.3, No.3V-3, pp.43-44 (Sep. 2001).

寸田五郎, 江口浩二: Web 上の情報資源を利用した選書支援システム”, 情報処理学会第 64 回全国大会講演論文集, Vol.3, No.4Y-5, pp.125-126 (Mar. 2002).

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12 年度科学研究費補助金奨励研究(A)(平成 12 年度～平成 13 年度:180 万円)「情報検索支援を目的としたユーザ適応型クラスタリング法に関する研究」(12780322)

平成 14 年度科学研究費補助金若手研究(B)(平成 14 年度～平成 16 年度:330 万円)「Web 情報管理を目的とした情報検索と Web マイニングに関する研究」(14780339)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

総額 105 万円

氏名 辻 慶太 (つじ けいた)
博士号 2003 年、博士(教育学)、東京大学
所属・役職 人間・社会情報研究系 情報図書館学術研究部門助手
電話番号 03-4212-2571
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 自然言語処理, 図書館情報学
研究概要

新語として初めて現れた語の中から、今後専門用語として普及していく語を、自動的に判別する手法の開発に取り組んでいる。具体的には約 20 年分の論文テキストを時系列的に眺め、ある新語が現れた直前における語彙の状況から、予測が出来ないかを調べている。こうした予測が可能になると、専門用語辞書の更新に有用であり、また今後注目を集める研究が把握しやすくなるなど、トレン

ド分析的な面でも役に立つと思われる。

学 歴

1994年3月 東京大学教育学部教育行政学科卒業

1997年3月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻生涯教育計画コース修士課程修了

2001年3月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻生涯教育計画コース博士課程修了

主要経歴

2001年4月 国立情報学研究所

教育活動歴

2002年～2003年 東洋大学非常勤講師

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Tsuji, Keita (2002) "Automatic Extraction of Translational Japanese-KATAKANA and English Word Pairs from Bilingual Corpora," International Journal of Computer Processing of Oriental Languages, vol.15, no.3, p.261-280.

Tsuji, Keita (2001) "Automatic Extraction of Translational Japanese-KATAKANA and English Word Pairs from Bilingual Corpora," Proceedings of the 19th International Conference on Computer Processing of Oriental Languages (ICCPOL2001), p.245-250.

Tsuji, Keita and Kageura, Kyo (2001) "Extracting Morpheme Pairs from Bilingual Terminological Corpora," Terminology, vol.7, no.1, p.101-114.

Tsuji, Keita, Daille, Beatrice and Kageura, Kyo (2002) "Extracting French-Japanese Word Pairs from Bilingual Corpora based on Transliteration Rules," Proceedings of the Third International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC2002), p.499-502.

辻慶太 (2001)「対訳コーパスからの低頻度訳語対の抽出:翻字・頻度情報の統合的利用」第49回日本図書館情報学会研究大会発表要綱, p.59-62.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成15年度科学研究費補助金若手研究(B)

「専門用語における新語の寿命を予測するモデルの構築」(15700216)

◆情報制度論研究部門

氏 名 岡田 仁志 (おかだ ひとし)

博士号 博士(国際公共政策)

所属・役職 人間・社会情報研究系 情報制度論研究部門 助教授

電話番号 03-4212-2547

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 電子商取引論
電子通貨体制論
地域情報政策論

研究概要

電子商取引の制度的プラットフォーム構築に関する研究を推進する。米国、欧州、アジア各国における電子商取引、電子マネー、電子政府構築の最新動向と法制度整備の状況について調査・分析する。大学間の共同研究として「電子地域通貨システムにおける遠隔地間での貨幣流通の可否を明らかにする研究」「電子通貨体制およびモバイルコマースに関する国際比較研究」を実施する。研究成果をNII監修情報学シリーズ第4巻『サイバー社会の商取引ーコマース&マネーの法と経済』として刊行している。

学 歴

東京大学法学部第一類卒業(1988)
東京大学法学部第二類卒業(1989)
大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程修了(1998)
大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程中退(1999)

主要経歴

1999年4月 大阪大学大学院国際公共政策研究科 個人金融サービス寄附講座助手 就任
2000年10月 大阪大学大学院国際公共政策研究科 個人金融サービス寄附講座助手 退職
2000年11月 博士(国際公共政策、大阪大学)取得
2000年11月 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 情報制度論研究部門 助教授 着任
現在に至る

教育活動歴

2002年4月～ 総合研究大学院大学情報学専攻において博士後期課程院生2名のアドバイザーを担当

学協会活動

Organizing Committee member at the “Trilateral Seminar on Science, Society, and the Internet: Rationale and Objectives”, at the East-West Center in Honolulu, Hawaii, on December 2003, jointly sponsored by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), the National Science Foundation (NSF), and the National Natural Science Foundation of China (NSFC).

Assistant member for Workshop Chairs at the “The 2003 International Symposium on Applications and the Internet: SAINT 2003”, in Orland, Florida, USA, on January 27–31, 2003.
大阪大学・SIIT タマサート大遠隔教育プロジェクト(HIT Project、財団法人国際コミュニケーション基金(ICF)、放送文化基金(HBF) および財団法人電気通信普及財団(TAF)の資金助成によるタイ王国 Sirindhorn International Institute of technology (SIIT)との共同プロジェクト)講師 (2002年度、2003年度)

日米危機管理プロジェクト メンバー(米国外交問題研究所および大阪大学大学院国際公共政策研究科の共同研究、米日財団後援)(2000年度～)

情報通信総合研究所 地域通信市場研究会 委員 (2003年～)

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター レイア構造研究会メンバー (2002年～)

電子情報通信学会 技術と社会・倫理研究会 研究専門委員 (2002年度～)

電子情報通信学会 ネットワーク運用ガイドライン策定WG 幹事 (2001年度～2002年度)

電子情報通信学会 情報文化と倫理研究会 幹事 (2000年度～2001年度)

電子情報通信学会 会員 (1998年度～)

情報通信学会会員 (1999年度～)

経営情報学会会員 (1999年度～)

日本社会情報学会会員 (1998年度～)

日本公共政策学会会員 (1998年度～)

社会貢献活動

金融庁 電子金融研究会 メンバー (2002年～2003年)

財団法人日本情報処理開発協会 電子商取引推進センター モバイル EC ワーキンググループ 電子決済研究会リーダー (2001年度)

社団法人前払式証票発行協会 前払式 IC カードの標準化に向けた調査研究会(金融庁委託) アドバイザー (2001年度)

財団法人日本国際問題研究所 IT革命と安全保障研究会(外務省委託)委員 (2001年度)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

上記に含まれない論文・記事・著作物等

岡田仁志:サイバー社会の商取引-コマース&マネーの法と経済, 国立情報学研究所監修, 情報学シリーズ第4巻, 丸善株式会社 (2002)

岡田仁志:サイバー社会におけるコマース&マネーのインタプライズ考察, 電子情報通信学会技術研究報告, ソフトウェアインタプライズモデリング研究専門委員会(SWIM), 2002年12月

岡田仁志:インフラストラクチャーにおける歴史的経路依存性-アメリカの古都ボストンに見る磁気スライドの生活浸透度, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年4月

岡田仁志:大韓民国における交通 IC カード成功事例の観察-ヒューマンインターフェースを考え抜いたヨイド島の若き研究者, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年5月

岡田仁志:電子マネー実験を解剖する-利用者視点からの調査報告, 社団法人金融財政事情研究会, 月刊消費者信用, 6月号, pp.22-26 (2001)

岡田仁志:ブロードバンドは魅力的なコンテンツを提供できるか-ピラミッド構造からフラット構造へのネットワーク改革, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年6月

岡田仁志:統一通貨ユーロの実現と国産電子マネーの台頭-ドイツ連邦共和国にみる国家ブランドとインターオペラビリティの相克, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年7月

岡田仁志:ブランド管理ビジネスから電子財布ビジネスへの転換-欧州クレジットカード業界の新機軸展開を現地に探る, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年8月

岡田仁志:電子マネー導入のインセンティブとインパクト-宝くじ付き電子マネーよりも交通カードの匿名一人歩きが効果的, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年9月

岡田仁志:決済性に優れた新種金融資産としての電子マネー-カタチあるものの価値からカタチなきことの安心へ, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年10月

岡田仁志:ICチップを搭載するカードとモバイルのコスト比較-電子決済の本命・非接触 IC カードと赤外線携帯電話, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年11月

岡田仁志:電子マネーの幻想と現実-一步先のキャッシュレスな社会を展望する, 最新テクノロジー解体新書 Vol.3-脱技術オンチ宣言 (3), eX'MOOK 76, 日刊工業新聞社, vol.3, pp.60-63, 2001年12月

岡田仁志:電子政府マネーの展開と民間パワーの有効活用-韓国の法律とサービスは日本の電子政府構想に活かされるか, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2001年12月

岡田仁志:日韓ユニバーサルコマース対決-ケータイのディープユーザはペイメントビジネスに何を望むか, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年1月

岡田仁志:現金優位社会での電子マネー普及の可能性-ドイツ・ゲルトカルテ, 社団法人金融財政事情研究会, 月刊消費者信用, 2月号, pp.54-57 (2002)

岡田仁志:中央銀行が電子貨幣を発行することの是非を問う-クレジット優遇策からキャッシュレス優遇策への拡大がもたらすもの, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年2月

岡田仁志:韓国・交通 IC カード:ソウルとプサンにみる成功の条件, 社団法人金融財政事情研究会, 月刊消費者信用, 3月号, pp.56-59 (2002)

岡田仁志:欧州は上品な政策提言を厳しく日本に投げかける-電子マネー指令にみる欧州連合の政策形成と域外覇権, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年3月

岡田仁志:赤外線を利用した携帯電話決済システム ZOOP, 社団法人金融財政事情研究会, 月刊消費者信用, 4月号, pp.56-59 (2002)

岡田仁志:雷龍の高嶺ヒマラヤに電腦の魂は宿るか-山岳国家ブータンにおける電子商取引立国の可能性を探る, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年4月

日本経済新聞経済解説部, 定本周子:電子マネーどこに消えた-復活へ香港で早業磨く, エコノ探偵団, 日本経済新聞 2002年4月28日(取材記事).

岡田仁志:韓国銀行の主導による統一型電子マネー-韓国・K-Cash, 社団法人金融財政事情研究会, 月刊消費者信用, 5月号, pp.44-46 (2002)

岡田仁志:インターネット書店で本を売る術を徹底検証する-書評のつながりが生むポイントという名のブックマネー-, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年7月

岡田仁志:韓国における IC カードと IrFM モバイルによる決済システムの動向, 日本工業出版, 月刊バーコード 2002年9月号(第15巻第11号・通巻195号), pp. 37-40, 2002.

岡田仁志:コンテンツ規制とメディア再編がインターネットを揺るがす-モバイルと PC の選択がソフト

政策に依拠する韓国の事情, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年9月
岡田仁志:はるか彼方に存在する敵からデジタル金貨を守ることはできるか-ハッキングとクラッキングの嵐から国家基盤を防衛するために, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年10月
岡田仁志:未来型コミュニティ通貨は地方商店街にヒーローを生み出すか-カナダの電子地域通貨を日本流にアレンジする鹿児島大学グループの試み, NRI Online Journal, Capital Research Net, 2002年11月
岡田仁志:現金のハンドリングコストを消費社会に転化するフランスの国家的試み-電子通貨体制への確かな貨幣哲学と民衆普及への大時代的な戦略, 野村総合研究所 Capital Research Net, 電子マネー情報 No.32, 2002年12月
三島健稔ほか共編著:高等教育機関におけるネットワーク運用ガイドライン, 電子情報通信学会ネットワーク運用ガイドライン検討ワーキンググループ編, 高等教育機関におけるネットワーク運用ガイドライン, 社団法人 電子情報通信学会, 2003年1月
岡田仁志:再生への助走; e-ジャパンの功罪 第1回, 月刊商工会, 44巻, 1号, 2003年1月
岡田仁志:中央銀行総裁が発行量を把握しない地域通貨の流通する町, 野村総合研究所 Capital Research Net, 電子マネー情報 No.33, 2003年1月
岡田仁志:再生への助走; e-ジャパンの功罪 第2回, 月刊商工会, 44巻, 2号, 2003年2月
岡田仁志:フランスのTVメディアは若者文化を支配できるか; 高視聴率番組とトラム事情に携帯インターネットの可能性を探る, 野村総合研究所 Capital Research Net, 電子マネー情報 No.34, 2003年2月
岡田仁志:再生への助走; e-ジャパンの功罪 第3回, 月刊商工会, 44巻, 3号, 2003年3月
岡田仁志:地域型電子マネーは営利事業として地域経済をカバーできるか, 野村総合研究所 Capital Research Net, 電子マネー情報 No.35, 2003年3月

講演・口頭発表等

岡田仁志:電子商取引の制度的課題, NII 定例研究会, 2001年6月.
岡田仁志:電子決済の普及がもたらす経済的効果, 社会的意義, 電子商取引推進協議会モバイル EC Working Group 合同勉強会, 機械振興会館, 2001年10月.
岡田仁志:デジタル社会の未来を考える, 平成13年度学術講演会, 中京大学法学部, 2001年11月.
岡田仁志:電子決済の費用削減効果と制度的問題に関する考察-現金社会のコスト計算と普及インセンティブ失敗例の検証, 経営情報学会ビジネス情報基盤研究部会, 2001年11月.
岡田仁志:電子政府の実現に向けた政策的課題, 2001年情報学シンポジウム-情報社会のセマンティクス, 情報処理学会情報学基礎研究会を母体とするシンポジウム実行委員会, 日本学術会議講堂, 2002年1月.
岡田仁志:プライバシーポリシーの情報経済学, 第11回三者協議会(全国銀行協会, 日本クレジット産業協会, 全国信用情報センター連合会)特別研修会, 有楽町朝日ホール, 2002年1月.
岡田仁志:電子金融の現状と将来の可能性について-韓国の事例および政策の観察を出発点として, 電子金融研究会第1回会合報告, 金融庁特別会議室, 2002年6月.
岡田仁志:ユビキタス情報社会におけるセキュリティとプライバシーの制度分析, 第2回ヒューマンインターネットフェース技術調査委員会, 日本情報処理開発協会, 2002年12月

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

2002年度科学研究費特定領域研究「ITの深化の基盤を拓く情報学研究」A06-09「電子商取引の制度的プラットフォーム構築に関する研究」(2001年度～)

■ 学術研究情報研究系

◆ 人文社会系研究情報研究部門

氏名 根岸 正光 (ねぎし まさみつ)
博士号 経済学修士
所属・役職 学術研究情報研究系人文社会系研究情報研究部門教授
国際・研究協力部長
電話番号 03-4212-2620
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報学、計量書誌学

研究概要

主として学術情報基盤に関わる、システム、データベース、サービス方式、制度等、各側面に関する調査分析および国立情報学研究所における関連システムの開発研究。学術情報データベースの応用としての、ビブリオメトリックス的方法による研究水準、研究動向に関する調査分析。

学歴

1968年3月 東京大学経済学部経済学科卒
1972年3月 東京大学大学院経済学研究科経営学専門課程修士課程修了(経済学修士)
1976年11月 東京大学大学院経済学研究科経営学専門課程博士課程単位取得退学

主要経歴

1976年12月 東京大学助手(情報図書館学研究センター)
1978年2月 東京大学講師(同)
1983年3月 東京大学助教授(同)
1983年4月 東京大学助教授(文献情報センター)
1986年4月 学術情報センター教授(研究開発部学術情報研究系)
1994年7月 学術情報センター教授・研究主幹(研究開発部研究動向調査研究系)
2000年4月 国立情報学研究所教授・研究主幹(学術研究情報研究系)
2002年4月 国立情報学研究所教授(学術研究情報研究系)、国際・研究協力部長

受賞等

1977年 第12回丹羽賞学術賞(現科学技術振興事業団科学技術情報振興賞)
1977年 第9回市村賞貢献賞(新技術開発財団)

教育活動歴

図書館情報大学大学院客員教授(2000～2002)
東京大学経済学部非常勤講師(1978～1995、1999～2000)
図書館情報大学図書館情報学部非常勤講師(1980～1984)

学協会活動

情報処理学会会員(1975～)
情報科学技術協会会員(1976～)
情報知識学会理事(1983～)、副会長(1998～)、
American Society for Information Science and Technology 会員(1980～)
IFLA(国際図書館連盟)情報技術常任委員会委員(1995～2002)

社会貢献活動

科学技術・学術審議会専門委員(2001～)
(財)データベース振興センター「データベース白書」編集委員長(1993～)
(財)データベース振興センター評議員(1999～)
(財)地図情報センター評議員(2000～)
(財)日本学会事務センター評議員(2000～)
(財)施設・建設総合情報センター評議員(1997～)

科学技術振興事業団事業参与(情報事業参与)(2000～)

科学技術振興事業団支援データベース選定委員会・研究情報データベース化委員会委員(1999～)

広島大学高等教育研究開発センター客員研究員(2002～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

根岸正光, 山崎茂明編著「研究評価 - 研究者・研究機関・大学におけるガイドライン」, 丸善, 2001.5, 204p. ISBN4-621-04890-2

根岸正光「国際共著論文の統計調査による日本と EU 諸国間の学術研究協力の状況分析」, 学術月報, Vol.54, No.9, p.36-48 (2001.9)

根岸正光「経済学文献季報・経済学文献索引データベースと経済研究の動向」, 経済資料研究(経済資料協議会), No.32, p.16-28 (2001.12). ISSN:0385-3586

根岸正光「インターネットの歴史とガバナンスへの視角」, 情報管理, Vol.45, No.3, p.157-165 (2002.6)

Negishi, M., “Developments of Digital Libraries in Japan: Library Activities and Governmental Policies.” Sun Jiazheng, Editor-in-Chief, “The Proceedings of Digital Library - IT Opportunities and Challenges in the New Millennium,” Beijing Library Press, Beijing, China, 2002. p.267-278. ISBN:7-5013-1931-6

Negishi, M., “Mobile access to libraries: librarians and users experience for “i-mode” applications in libraries,” 68th IFLA General Conference and Council, August 18-24, 2002, Glasgow, UK, Paper Number: 105-095-E, 8p.

根岸正光「図書館とモバイル・アクセス:i モード対応システムにおける図書館員・利用者の経験」, 大学図書館研究, No.67, p.50-57 (2003.3)

Negishi, M., “Development of Mobile Phone Culture in Japan and Its Implications to Library Services: Prospecting Information Services in Coming ‘Ubiquitous Society’,” NII Journal, No.6, p.57-67 (2003.3)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

根岸正光「日本人研究者の論文 85 万件から分野別の研究勢力を探る」, 「大学ランキング 2002 年版」, 朝日新聞社, 2001.5. p.64-77. ISBN:4-02-272144-8

根岸正光「地図情報の将来」, 地図情報((財)地図情報センター), Vol.21, No.1,2, p.49-50 (2001.8) ISSN:0286-3111

小野欽司, 上野晴樹, 根岸正光, 坂内正夫, 安達淳「情報学とは何か」, 国立情報学研究所監修「情報学シリーズ 3」, 丸善, 2002.2, 115p. ISBN:4-621-07012-6(執筆分担「第 3 章:学術情報の流通と利用」, p.43-69.)

根岸正光「研究は評価できるか - ビブリオメトリックスをめぐって」, SCIENTIA((財)日本学会事務センター), No.15, p.1-6. (2002.3)

根岸正光「論文の引用度から分野別の研究勢力を測る」, 「大学ランキング 2003 年版」, 朝日新聞社, 2002.5, p.134-141. ISBN4-02-272153-7

根岸正光「学術系電子ジャーナルをめぐる技術と経営」, VEHICLE((社)日本印刷技術協会・通信&メディア研究会), Vol.13, No.12, p.17-20 (2002.3)

根岸正光「評価の時代:図書館・資料室の新たな役割」, 情報の科学と技術, 52 巻 6 号, p.347 (2002.6)

根岸正光「分野横断的研究の構想と実態:『情報学』の構成を事例として」, JST 異分野研究者交流促進事業フォーラム「横断型基幹科学技術:技術の新しい基礎を求めて」予稿集, (財)全日本地域研究交流協会, 2002.11.29-12.2, 6p.

根岸正光「学術情報発信における大学図書館の役割 - SPARC との連携可能性を含めて」, 大学図書館問題研究会「What's SPARC!?-学術コミュニケーションの新たな潮流:大学図書館問題研究会第 11 回オープンカレッジ報告集」(大図研シリーズ No.19), p.1-28 (2003.2.10)

根岸正光「評価の手法- 計量化の課題」, 「コリ-グ」(広島大学高等教育研究開発センター), 第

35号, p.1-2 (2003.3)

講演・口頭発表等

Negishi, M., "Collaboration in Scientific Research between Japan and European Union Countries as Seen from a Statistical Analysis on International Co-authorship of Papers." Japan - EU Workshop on Mobility of Researchers, Japan Society for the Promotion of Science, Association of International Education, Japan and Embassies of EU member countries and the delegation of the EC in Tokyo, June 11-12, 2001, Academic Park, Odaiba, Tokyo, 6p.

根岸正光「学術情報センターと国立情報学研究所:両研究所設立の経緯」,「第14回電気・電子情報学術振興財団ワークショップ『猪瀬博先生の御業績 - そして現在から未来へ』講演資料集」, 2002.3, p.49-50.

Negishi, M., "Economics of Information Services for Scientific and Technical Data in the Information Age: The view from a national data center in Japan," Keynote Speech, CODATA 2002: 18th International Conference, ICSU/CODATA, Montreal, Canada, 29 Sep - 3 Oct, 2002. 11p.

根岸正光「インターネットをフル活用する電子ジャーナルが文献活用の環境, 研究の効率を大きく変える:国立情報学研究所学術研究情報研究系教授 根岸正光氏に聞く」, 日経サイエンス, Vol.33, No.2 (通巻376号), p.124-126 (2003.2)

氏名 柴山 盛生 (しばやま もりお)

博士号

所属・役職 学術研究情報研究系人文社会系研究情報研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2540

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報システム学、政策科学、教育情報工学

研究概要

- ・研究動向に関する研究－論文データベース、学会誌、研究者ディレクトリなどによって、国、分野、年次などによる特徴を明らかにする研究動向の調査
- ・研究開発における創造性に関する研究－独創的な研究を生み出すための研究環境の分析、創造性の意味や識別の研究、科学技術や産業組織における創造性の育成に関する調査
- ・産学官連携に関する研究－共同論文や共同特許出願情報からみた産学官連携に関する状況と効果的な連携の形態についての研究

学歴

1975年3月 東京大学工学部精密機械工学科卒業

1977年3月 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻修士課程修了

主要経歴

1977年4月 文部省 事務官

1984年4月 放送教育開発センター 研究開発部 助教授

1988年4月 文部省 情報システム専門官

1993年7月 国立特殊教育総合研究所 総合企画調整官

1996年4月 文部省 情報処理室長

2000年4月 国立情報学研究所 学術研究情報研究系 助教授

2003年～現在放送大学客員助教授

教育活動歴

放送大学非常勤講師(1985-1989年)

明星大学非常勤講師(1989-1990年)

放送大学非常勤講師(1992年～現在)

学協会活動

日本高等教育学会会員(2000～)

日本創造学会会員(2002～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

柴山盛生, 「わが国の大学図書館における学術情報流通状況の分析」, 国立情報学研究所 NII Journal, Vol.4, pp.61-72, 2002.

M. SHIBAYAMA, Y. SUN, M. YANO, M. NISHIZAWA, "Current Trends of Creativity Research in Japan and US", China Creative Studies Institute, International Creative Studies Symposium in Shanghai Proceedings, 2002.

矢野正晴, 柴山盛生「企業組織および科学技術における創造性の考察」, 日本創造学会, 第6号, 2002

特許・公開ソフトウェア・作品等

柴山盛生, 放送大学面接授業補助教材(ビデオ教材), 「問題解決の発想と表現 1. 問題解決の技法」, 放送大学, 2002

上記に含まれない論文・記事・著作物等

柴山盛生, 「学術雑誌の国際流通状況-国際的な発行状況と大学図書館における普及状況の分析」, 科学研究費補助金基盤研究「電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究」報告書, pp.154-161, 2002.

矢野正晴, 柴山盛生, 孫媛, 西澤正己, 「創造性の概念と理論」, NII Technical Report, No.4, 2002.

講演・口頭発表等

柴山盛生, 「学術雑誌による研究評価の課題」, 日本高等教育学会第5回大会, 愛知学院大学, 平成14年5月25日

矢野正晴・西澤正己・柴山盛生・孫媛, 「創造的研究と情報学についての日米比較」, 平成14年国立情報学研究所オープンハウス, 2002.7.25

◆理工系研究情報研究部門

氏名 矢野 正晴 (やの まさはる)
博士号 1998年、博士(学術)(東京大学)
所属・役職 学術研究情報研究系理工系研究情報研究部門{助教授}
電話番号 03-4212-2620
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 経営学、科学技術政策、情報システム学

研究概要

創造性と多様性との関係をテーマにし、国内外の文献調査やアンケート・インタビューによる実証研究を行っている。また、特許から見た産学連携に関する研究、および Linux ビジネスモデルの組織論的研究を、他大学の教官と共同で推進している。

学歴

昭和50年3月 東京大学農学部農芸化学科卒業
昭和50年4月 同学教育学部教育行政学科学士入学
昭和51年3月 富士通株式会社入社のため同学科中退
平成元年4月 筑波大学大学院経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻修士課程入学
平成4年3月 同大学院同専攻修了(修士(経営学))
平成6年10月 東京大学大学院工学系研究科 先端学際工学専攻博士課程入学
平成10年3月 同大学院同専攻修了(博士(学術))

主要経歴

昭和51年4月 富士通株式会社入社
平成10年4月 東京大学先端科学技術研究センター 客員研究員(兼任)
平成12年4月 東京大学先端経済工学研究センター・客員研究員(平成13年3月まで)

平成 10 年 9 月 富士通株式会社退社

平成 10 年 10 月 文部省学術情報センター・助教授・研究動向調査研究系

平成 12 年 4 月 改組により国立情報学研究所・助教授・学術研究情報研究系となり、現在に至る。

教育活動歴

1998.4～2001.3 東京大学先端科学技術研究センター・先端経済工学研究センター客員研究員として、博士課程の院生を指導。

学協会活動

ビジネスモデル学会理事(2002～)、組織学会正会員、研究・技術計画学会正会員、情報知識学会正会員、ナレッジ・マネジメント学会正会員、日本創造学会正会員、科学・技術と社会の会正会員、科学技術社会論学会正会員、IEEE 正会員

社会貢献活動

東京大学先端科学技術研究センター客員研究員(1998～2000)、東京大学先端経済工学研究センター客員研究員(2000～2001)、科学技術と経済の会産業競争力評価委員会委員(2000)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

瀬尾雄三・矢野正晴「ネットニュースにおける対立の分析手法の提案」, 情報知識学会第 9 回(2001 年度) 研究報告会講演論文集, 情報知識学会, 2001, pp. 89-92.

西澤正己・孫媛・矢野正晴「研究者ディレクトリ・データベースからのキーワード抽出による分野間の関連分析」, 情報知識学会第 9 回(2001 年度) 研究報告会講演論文集, 情報知識学会, 2001, pp.85-88.

矢野正晴「研究の創造性を生むチームの多様性」, 青木昌彦他編『大学改革-課題と争点-』第 13 章, 東洋経済新報社, 2001, pp.309-328.

西澤正己・孫媛・矢野正晴「キーワードから見た我が国のゲノム関連研究の現況に関する研究」, NII Journal, 4, 国立情報学研究所, 2002, pp.83-93.

長野綾子・矢野正晴「行政官庁間の権限争議の定量的分析の試み」, NII Journal, 4, 国立情報学研究所, 2002, pp.73-81.

Yano, Masaharu, “Team Diversity and Creativity,” Innovation: management, policy & practice, 4, 1-3, 2002, 99-112.

矢野正晴・柴山盛生「企業組織および科学技術における創造性の考察-創造性と多様性を中心に-」, 日本創造学会論文誌, 6, 日本創造学会, 2002, pp.64-78.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

矢野正晴「会計士 2 次新試験委員 代表作から特徴をさぐる(経営学担当)河合忠彦新試験委員」, 税経セミナー, 46(2), 2001, p.30.

矢野正晴「研究評価と創造性」, 『電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究, 平成 13 年度科学研究費補助金(基盤研究(国際学術研究))研究成果報告書(研究代表者根岸正光)』, 2002, p.137-143.

矢野正晴・柴山盛生・孫媛・西澤正己・福田光弘『創造性の概念と理論』, NII テクニカルレポート, 国立情報学研究所, 2002.

Shibata, Tomoatsu and Masaharu Yano, “Dynamic Evolution of Product Architecture-Alternative view of Technical progress of Numerical controller,” NII Technical Report, National Institute of Informatics, 2002.

Shibata, Tomoatsu and Masaharu Yano, “Building the Concept of Learning by Decomposing,” NII Technical Report, National Institute of Informatics, 2002.

講演・口頭発表等

西澤正己・孫媛・矢野正晴「情報学研究の実態と日米比較」, 平成 13 年度国立情報学研究所オープンハウス. 2002. 2.

矢野正晴「学術研究情報と研究評価」(研究紹介), 平成 14 年度国立情報学研究所オープンハウス. 2002.7.25, p.1.

矢野正晴・西澤正己・柴山盛生・孫媛「創造性研究と情報学についての日米比較」, 平成 14 年度

国立情報学研究所オープンハウス, 2002. 7. 25, pp. 20-21.

Nishizawa, Masaki, Yuan Sun and Masaharu Yano, "Analysis on Genome-Related Research Fields in Japan," in Program and Collection of Abstracts of Gfkl 26th Annual Conference (Between Data Science and Everyday Web Practice), Mannheim, 2002, p.144.

Sun, Yuan, Masaki Nishizawa and Masaharu Yano, "Investigate into Genome-Related Research at Japanese Universities by Keyword Analysis," in Program and Abstracts of IFCS2002 (Data analysis, Classification and Related Methods), Cracow, 2002, p.171.

Yano, Masaharu, Yuan Sun and Masaki Nishizawa, "A Comparative Study of State of Information Science in Japan and United States," 6th International Conference on Technology Policy and Innovation, Kyoto, 2002.8.12-15.

Nishizawa, Masaki, Yuan Sun and Masaharu Yano, "Situation Analysys of the Genome-Related Research by Keywords of Reseach Themes," 6th International Conference on Technology Policy and Innovation, Kyoto, 2002.8.12-15.

Shibayama, Morio, Yuan Sun, Masaharu Yano and Masaki Nishizawa, "Current Trends of Creativity Research in Japan and U.S.," International Creative Studies Symposium, Shanghai, China, 2002.8.17-19.

競争的研究資金獲得状況

- (1) 科研費
- (2) 科研費以外の政府関係の研究費
- (3) その他の研究費

2002年度リーダーシップ支援経費 4,000千円

氏名 福田 光宏 (ふくだ みつひろ)

博士号

所属・役職 学術研究情報研究系 理工系研究情報研究部門・助教授

専門分野 情報法学、情報社会論

研究概要

現行の取引制度は、複製が不可能な物質の取引を前提にして作られているため、多くのものが情報化され、複製可能になると、その妥当性が疑われてくる。そこで、法学、経済学、社会学等の知見を用いて、新たな取引制度を探求している。

近代化とは、あらゆるものを明示化・記号化して、複製可能なものにしよう、言い換えれば、情報化しようという運動であり、情報社会は、その究極の姿であるという認識の下に、情報社会の方向性を探求している。

学歴

1983. 3 早稲田大学法学部卒業

主要経歴

1983. 4 文部省入省

1990. 7 衆議院法制局第二部第一課参事

1992. 6 九州大学庶務部庶務課長

1993. 9 科学技術庁科学技術政策局政策課専門調査官

1998.10 文部省文教施設部指導課企画調整官

1999. 4 学術情報センター研究動向調査研究系助教授

2000. 4 国立情報学研究所学術研究情報研究系助教授

2002. 4 信州大学経済学部教授(現在に至る)

学協会活動

情報文化学会会員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書 等

福田光宏: 外在化した情報に支配される人間, 情報文化学会誌, Vol.8, No.1, pp21-28,

(Nov.2001)

◆生物系研究情報研究部門

氏名 藤山 秋佐夫 (ふじやま あさお)
博士号 1983年 理学博士(名古屋大学)
所属・役職 学術研究情報研究系生物系研究情報研究部門・教授、情報学基礎研究系研究主幹
電話番号 03-4212-2558
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 分子生物学、実験・情報ゲノム科学

研究概要

ヒトゲノム、染色体の構造・情報解析研究を行っている。1998年から、国際ヒトゲノムコンソーシアムの一員である理化学研究所ゲノム科学総合研究センター、ゲノム地図開発チーム長(1998-2002、現在は客員主幹研究員)としてヒト21番染色体の全構造解読に貢献し、引き続きヒト11番染色体、18番染色体の解読計画を進めている。また、ヒト以外の霊長類ゲノムを対象に、実験的解析とバイオインフォマティクスを活用した比較解析研究を進めている。

学歴

1973年 北海道大学薬学部製薬化学科卒業
1978年 名古屋大学大学院理学研究科博士課程単位修得退学
1983年 名古屋大学理学博士

主要経歴

1980年 大阪大学医学部分子遺伝学研究施設教務員
1982年 大阪大学細胞工学センター遺伝子構造・機能調節部門助手
1984年 コールドスプリングハーバー研究所、Visiting Scientist,
1985年 シカゴ大学生化学、分子生物学部、Research Associate
1987年 国立遺伝学研究所総合遺伝研究系助教授
1990年 総合研究大学院大学生命科学研究科助教授(併任)
1998年 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター・チーム長(兼業)
2002年1月 総合研究大学院大学生命科学研究科助教授(併任解除)
2002年1月 国立情報学研究所学術研究情報研究系教授
2002年1月 国立遺伝学研究所教授総合遺伝研究系教授(併任、3月31日まで)
2002年4月 国立情報学研究所情報学基礎研究系研究主幹
2002年4月 理化学研究所ゲノム科学総合研究センター客員主幹研究員

教育活動歴

北海道大学薬学部非常勤講師(1988-89年)
司法修習生講習会講師(国立遺伝研)1995年)
AMBO講習会講師1998年)
バイオ産業講習会講師1999年)
生命科学夏期高校教員講習会講師(国立青年の家 2000年)
静岡大学非常勤講師(2001年)
特定領域C「ゲノム」公開講演会講師2002年)

学協会活動

日本生化学会会員
日本分子生物学会会員
日本バイオインフォマティクス学会会員
日本霊長類学会会員
HGM2005組織委員

国際ヒトゲノム会議組織委員、プログラム委員長
特定領域C「ゲノム」高速コンピューティング委員会委員

社会貢献活動

日本学術振興会産学協力研究委員会ゲノムテクノロジー第164委員会幹事委員(1996～)
日本DNAデータバンク運営委員会委員(1988～)
科学技術動向研究センター専門調査員(2000～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

Asao Fujiyama, Hidemi Watanabe, Atsushi Toyoda, Todd D. Taylor, Takehiko Itoh, Marie-Laure Yaspo, Hans Lehrach, Zhu Chen, Gang Fu, Hong-Seog Park, Naruya Saitou, Shih-Feng Tsai, Kazutoyo Osoegawa, Pieter J. de Jong, Yumiko Suto, Masahira Hattori, Yoshiyuki Sakaki: Construction and Analysis of a Human-Chimpanzee Comparative Clone Map. (2002) Science. 295, 131-134.

Yoshihisa Watanabe, Asao Fujiyama, Yuta Ichiba, Masahira Hattori, Tetsushi Yada, Yoshiyuki Sakaki and Toshimichi Ikemura: Chromosome-wide assessment of replication timing for human chromosomes 11q and 21q: disease-related genes in timing-switch regions. (2002) Human Molecular Genetics, 11, 13-21.

Takeshi Suda, Asao Fujiyama, Mitsuhiro Takimoto, Masato Igarashi, Takashi Kuroiwa, Nobuo Waguri, Hirokazu Kawai, Yusaku Mita, and Yutaka Aoyagi: Interchromosomal Telomere Length Variation. (2002) Biochem. Biophys. Res. Comm. 291, 210-214.

Kunihiko Takamatsu, Kohei Maekawa, Takushi Togashi, Dong-Kug Choi, Yutaka Suzuki, Todd Taylor, Atsushi Toyoda, Sumio Sugano, Asao Fujiyama, Masahira Hattori, Yoshiyuki Sakaki, Tadayuki Takeda: Identification of Two novel primate-specific genes in DSCR. (2002) DNA Research 9, 89-97.

上記に含まれない論文・記事・著作物等

藤山秋佐夫:ヒトゲノムの解読と初期解析について, (2002)日本物理学会誌 vol.57, 79-83.

藤山秋佐夫:ヒトとチンパンジー -ゲノムにかかれた進化の歴史-, (2002)科学 vol.72.

藤山秋佐夫:ゲノム地図におけるヒトとチンパンジーの違い, (2002)実験医学 vol.20, 1011-1014.

黒木陽子, 藤山秋佐夫, 榊佳之:ヒトゲノム解析の意義, (2002)BioClinica, 17, 5月号, 74-78.

渡邊日出海, 藤山秋佐夫, 服部正平, 榊佳之:ヒト・チンパンジー比較ゲノム地図(2002)蛋白質核酸酵素 47, 808-813.

藤山秋佐夫(監訳):ヒトゲノムの未来, (2002)徳間書店.

黒木陽子, 藤山秋佐夫:ポストゲノムシーケンス時代の霊長類研究 (2002)生体の科学 53, 566-571.

藤山秋佐夫:霊長類の比較ゲノム科学, 人工知能学会誌(2003) 18, 20-23.

藤山秋佐夫(監訳, 執筆);ヒトゲノムのユーザズガイド日本版(2002), ネイチャー・ジャパン.

Akira Iida, Kenji Oosawa, Asao Fujiyama: an application of special Function Units of the CRAY SV1 System to a contamination Problem of Human Chromosome21 and 11. (2002) Genome Informatics 13, 561-562.

講演・口頭発表等

特定領域C統合ゲノム公開講演会, 2002, 東京

横浜振興公社講演会, 2002, 横浜

Genome 2002, Taipei, Taiwan

AGBT Meeting, 2002, Marco Island, USA

Cold Spring Harbor meeting on Human Origin and Diseases, 2002, Cold Spring Harbor, USA

Genome 2002, Taipei, Taiwan

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成12年～ 科学研究費特定領域研究C「霊長類ゲノム解析」計画研究班員(平成15年度も継

続中), 1500 万円

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

平成元年度より, 民間との共同研究, 共同利用機関としての共同研究など約 10 件, 1000 万円程度

氏名 孫 媛 (そん えん)
博士号 1989 年、教育学修士(東京大学)
所属・役職 学術研究情報研究系生物系研究情報研究部門・助教授
電話番号 03-4212-2620
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 ビブリオメトリックス・心理統計学

研究概要

ビブリオメトリックスの手法による研究評価と創造性研究

- ・インパクトファクターを含めた雑誌引用測度指標・海外と国内の学術雑誌の引用測度の等化法に関する研究を行なう。
- ・創造性の操作的定義、測定・評価法の問題を検討し、研究評価研究と創造性研究の接点を探る。
- ・各分野の研究水準の国際比較や学術研究動向に関する研究を行なう。

情報学の体系化を目指す研究

- ・各種データベースにおけるキーワードの共起関係の解析を通じて、研究分野間の関連を分析するために最適な手法を開発する。

モデルの person-fit に関する研究

- ・多次元性、一般項目反応モデル(GIRT)、差異項目機能(DIF)など、モデルの person-fit に関連する諸理論間の関連を検討する。

学 歴

1985 年 7 月 中国北京師範大学心理学部卒業
1989 年 3 月 東京大学大学院教育心理学教育情報科学修士課程終了
1992 年 3 月 東京大学大学院教育心理学教育情報科学博士課程単位取得退学

主要経歴

1992 年 4 月 学術情報センター研究開発部学術情報系 助手
1994 年 2 月 米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教育学部 客員研究員(1994 年 12 月まで)
1998 年 4 月 学術情報センター研究開発部研究動向調査研究系 助教授
2000 年 4 月 国立情報学研究所学術研究情報研究系 助教授

教育活動歴

1996 年 4 月 東京家政大学非常勤講師(1997 年 3 月まで)
1997 年 4 月 文京女子大学非常勤講師(2001 年 3 月まで)
1997 年 4 月 放送大学非常勤講師(現在に至る)
2002 年 4 月 立教大学大学院非常勤講師(現在に至る)

学協会活動

日本行動計量学会会員
日本教育心理学会会員
日本心理学会会員
情報知識学会会員
情報処理学会会員
日本語教育学会会員

社会貢献活動

日本語能力試験分析委員会委員(2001年6月より)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

根岸正光, 孫媛「第3章 論文生産数の国際比較」;根岸正光, 孫媛, 西澤正己「第5章 わが国の大学の論文生産と引用数」, 根岸正光, 山崎茂明編著「研究評価－研究者・研究機関・大学におけるガイドライン」, 丸善株式会社, 2001年4月(ISBN:4-621-04890-2)

西澤正己, 孫媛, 矢野正晴 「研究者ディレクトリデータベースからのキーワード抽出による分野間の関連分析」, 第9回情報知識学会研究報告会講演論文集, pp.85-88, 2001年5月

西澤正己, 孫媛, 矢野正晴 「キーワードから見たわが国のゲノム関連研究の現況に関する調査研究」, NII Journal, No.4, pp.83-93, 2002年3月

山下泰弘, 西澤正己, 孫媛, 小林信一 「我が国における国際的産官学連携の構造分析」, 大学研究, Vol.24, pp.101-118, 2002年3月

孫媛 「古典的テスト理論」 渡部洋編著「心理統計の技法」, (第6章 pp.99-112), 福村出版, 2002年4月(ISBN:4-571-20587-2)

孫媛 「学術論文数データに関する分割表の対応分析」, 柳井晴夫ほか編「多変量解析実例ハンドブック」, (第64章 pp.715-725), 朝倉書店, 2002年6月(ISBN:4-254-12147-4)

山下泰弘, 孫媛, 西澤正己 「ビブリオメトリクスの活用事例－日本と諸外国の国際共著分析－」, 情報の科学と技術, 53巻, 1号, pp.9-15, 2003年1月

孫媛, 井上俊哉 「創造性に関する心理学的研究の動向」, NII Journal, No.5, pp.65-74, 2003年3月

上記に含まれない論文・記事・著作物等

小出慶一, 野口裕之, 青木惣一, 青山眞子, 伊藤祐郎, 大坪一夫, 河原崎幹夫, 三枝令子, 島田めぐみ, 孫媛, 鶴尾能子, 廣利正代, 福地務, 和田晃子「日本語能力試験分析評価に関する報告書-1990年度から1999年度までの分析報告書 10年度分析試験結果の分析」, 日本語能力試験実施委員会・日本語能力試験企画小委員会監修, 国際交流基金・(財団法人)日本国際教育協会発行, 250p, 2002年3月

孫媛 「中国にける研究評価の動向」 科学研究費補助金国際学術研究「電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究」報告書 (研究代表者:根岸正光), pp.162-169, 2002年3月

西澤 正己, 孫 媛, 矢野 正晴, 「情報学研究の実態と日米比較に関する調査研究」, 科学研究費補助金国際学術研究「電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究」報告書 (研究代表者:根岸正光), pp.170-187, 2002年3月

矢野正晴, 柴山盛生, 孫媛, 西澤正己, 福田光宏 「創造性の概念と理論」, NII Technical Report, 64p, June 2002

小出慶一, 野口裕之, 青木惣一, 青山眞子, 浅見かおり, 小柳かおる, 三枝令子, 島田めぐみ, 孫媛, 鶴尾能子, 廣利正代, 和田晃子「日本語能力試験の概要 2002年版(2001年度試験結果の分析)」, 日本語能力試験実施委員会・日本語能力試験企画小委員会監修, 国際交流基金・(財団法人)日本国際教育協会発行, 101p, 2003年3月

小出慶一, 野口裕之, 青木惣一, 青山眞子, 浅見かおり, 小柳かおる, 三枝令子, 島田めぐみ, 孫媛, 鶴尾能子, 廣利正代, 和田晃子「平成 13 年度日本語能力試験分析評価に関する報告書」, 日本語能力試験実施委員会・日本語能力試験企画小委員会監修, 国際交流基金・(財団法人)日本国際教育協会発行, 499p, 2003年3月

講演・口頭発表等

孫媛 「DIF とその検出法」 日本心理学会第 63 回大会 ワークショップ「項目反応理論の展開-DIF 分析の基礎」, 筑波大学, 2001年11月

Sun, Y., M. Nishizawa and M. Yano “Investigation into Genome-related Research at Japanese Universities by Keyword Analysis”, the 8th Conference of the International Federation of Classification Societies Societies on Data Science Classification and Related Methods. Cracow,

Poland: IFCS 2002, July 16-19, 2002

Nishizawa, M., Y. Sun and M. Yano, "Analysis on Genome-Related Research Fields in Japan", the 26th Annual Conference of the Gesellschaft für Klassifikation (GfKl). University of Mannheim, Germany, July 22-24, 2002.

Nishizawa, M., Y. Sun and M. Yano, "Situation Analysis of the Genome-Related Research by Keywords of Research Themes", the 6th ICTPI (International Conference on Technology Policy and Innovation) KANSAI'2002, Keihanna Plaza, Kyoto, Japan, August 12-15, 2002.

Yano, M., Y. Sun and M. Nishizawa, "A Comparative Study of State of Information Science Research in Japan and the United States", 6th ICTPI (International Conference on Technology Policy and Innovation) KANSAI'2002, Keihanna Plaza, Kyoto, Japan, August 12-15, 2002.

柴山盛生, 孫媛, 矢野正晴, 西澤正己「日米における最近の創造性研究の動向」, 国際創造性シンポジウム, 上海, 中国, 8月16日~18日, 2002年

孫媛, 井上俊哉「文献分析による創造性研究」第30回日本行動計量学会大会, 多摩大学, 9月19日~21日, 2002年

孫媛「ワークショップ WS18: 国際比較研究における特異項目機能(DIF)-翻訳等価性を超えて-」, 日本心理学会第66回大会ワークショップ, 広島大学, 9月25日, 2002年

孫媛「小講演 L10: 差異項目機能(DIF)研究について」, 日本心理学会第66回大会小講演, (司会者:野口裕之), 広島大学, 9月26日, 2002年

山下泰弘, 孫媛, 西澤正己, 小林信一「日本の各大学における国際研究ネットワーク形成過程」研究・技術計画学会第17回年次学術大会, pp. 141-144, 2002年10月24日~26日, 北九州

■実証研究センター

◆実証研究推進室

氏名 宮澤 彰 (みやざわ あきら)
博士号 理学修士
所属・役職 学術研究情報研究系研究主幹
電話番号 4212-2508
ファクシミリ 3556-1916
専門分野 情報学

研究概要

図書館情報システム論: 図書館を中心とした情報システムのあり方について実用的研究。特に今後の学術研究における図書館の役割の創生と、そのための情報システムの機能について考究する。

文字コード論: データベース作成の基礎である文字コードについて、言語学の文字論と情報処理のコード化理論とのつながりの観点から考究する。

D-データ処理用ユティリティ: 簡便で実用的なデータモデルに基づくファイル演算を定義し、これを実現するD-データ処理用ユティリティを開発、普及する。

学歴

1973 東京大学教養学科卒業
1975 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了

主要経歴

1975 国文学研究資料館助手
1980 国文学研究資料館助教授
1984 東京大学文献情報センター助教授
1986 学術情報センター助教授
1991 学術情報センター教授

2000 国立情報学研究所教授

教育活動歴

1977～1981 駿台電算専門学校 非常勤講師(データベースモデリングデザイン担当)

1995～1997 慶応大学大学院 図書館情報学系 非常勤講師(情報検索特別講義II)

2002～ 総合研究大学院大学情報学専攻教授

大学院担当講義

情報環境科学概論、学術情報環境論、情報社会論

学協会活動

情報処理学会所属

東洋音楽学会所属

社会貢献活動

1996.4～ 財団法人サウンド技術振興財団評議員

1998.06～2002.04 情報処理学会情報規格調査会文字コード標準体系検討専門委員会委員

2000.11～2003.10 日本学術会議第 18 期情報学研究連絡委員会学術文献情報専門委員会委員長

2001.02～ 経済産業省日本工業標準調査会情報技術専門委員会委員

2001.05～ 日本規格協会 ISO/TC46 国内対策委員会委員長

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

宮澤 彰, 図書館ネットワーク : 書誌ユーティリティの世界, (情報学シリーズ 5), 丸善, 2002

宮澤 彰, 書誌情報データベースから見た文字コード, インターネット時代の文字コード(bit 別冊), 2001

講演・口頭発表等

MIYAZAWA, Akira, Basic concept of authority control in NACSIS-CAT, Record of Workshop on Authority Control among Chinese, Korean and Japanese Languages, p. 7-12, Tokyo, NII, April 2001

宮澤 彰, 新しい図書館と図書館員像を求めて, 医学図書館大会基調講演, 2002.5.23

氏 名 阿部 俊二 (あべ しゅんじ)
博士号 工学博士(1996年、東京大学)
所属・役職 情報基盤研究系・助教授
電話番号 03-4212-2539
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報通信

研究概要

インターネット通信および移動 IP 通信における品質制御技術・ネットワーク設計技術やフォトニックネットワークアーキテクチャの研究を進めている。当研究所が開発・運用している SINET ならびに SuperSINET に実際に流れるトラフィックの測定データを使って、その自己相似性や長期依存性などの様々なトラフィックの性質の把握から、インターネット通信の品質制御方式やネットワーク設計手法の研究を行っている。将来期待されている光バーストスイッチで構成されるフォトニックパケットネットワークにおける波長パス割当制御技術等の研究も進めている。

学 歴

1980年 3月 豊橋技術科学大学工学部情報工学課程卒業

1980年 4月 豊橋技術科学大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程入学

1982年 3月 豊橋技術科学大学大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了(工学修士)

1996年 5月 工学博士(東京大学)

主要経歴

1982年 4月 株式会社富士通研究所入社、デジタル網研究部勤務

1987年 12月 同社統合通信網研究部勤務

1993年12月 同社システム研究部門情報網システム研究部勤務
1995年6月 学術情報センターシステム研究系助手
1998年4月 学術情報センター開発研究系助教授
2000年4月 国立情報学研究所実証研究センター助教授
2002年4月 総合研究大学院大学数物科学研究科助教授(兼任)
2003年4月 国立情報学研究所情報基盤研究系助教授(現在に至る)

教育活動歴

2000年7月、2002年7月 NII ネットワーク研修講師

大学院担当講義

高機能ネットワーク

学協会活動

1980年4月 電子情報通信学会会員(現在に至る)
1983年9月 The Institute of Electrical and Electronics Engineers 会員(現在に至る)
1996年4月 電子情報通信学会交換システム研究専門委員(幹事補佐, 1997年3月まで)

査読付き論文/それらに相当する論文・著書 等

阿部俊二, 藤野貴之, 計宇生, 松方純, 浅野正一郎, “学術情報ネットワークにおける自己相関トラヒックの解析”, インターネットコンファレンス 2001, pp.151-158, 11月, 2001.

藤野貴之, 浅野正一郎, 阿部俊二, 計宇生, 趙偉平, 松方純, 石松宏和, 橋本健, 田中伸哉, “情報提供システム及び情報提供方法”, 特願 2003-033940, 2003年2月.

藤野貴之, 上岡英史, 阿部俊二, 計宇生, 松方純, 山田茂樹, 浅野正一郎, “学術情報ネットワークへの IPv6 導入と今後の展開”, 電子情報通信学会技術研究報告, NS2001-253, pp.217-222, 2002.

計宇生, 藤野貴之, 阿部俊二, 趙偉平, 松方純, 浅野正一郎, “適正時間スケールを利用した長期依存性とラヒックの近似解析”, 電子情報通信学会技術研究報告, IN2002-185, pp.13-18, 2003.

講演・口頭発表等

計宇生, 浅野正一郎, 山田茂樹, 松方純, 趙偉平, 阿部俊二, 藤野貴之, 上岡英史, 「次世代ネットワークの研究」, NII オープンハウス, 2002年2月.

阿部俊二, 浅野正一郎, 山田茂樹, 米田友洋, 松方純, 計宇生, 趙偉平, 松本尚, 藤野貴之, 上岡英史, 「次世代ネットワークと計算機アーキテクチャの研究」, NII オープンハウス, 2002年7月25日.

競争的研究資金獲得状況

- (1) 科研費
- (2) 科研費以外の政府関係の研究費
- (3) その他の研究費

500,000 円

氏名 北本 朝展 (きたもと あさのぶ)

博士号 1997年、博士(工学)(東京大学)

所属・役職 情報メディア研究系・助手

電話番号 03-4212-2578

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 画像解析、画像データベース、パターン認識、データマイニング、メテオインフォマティクス、コンピュータグラフィクス

研究概要

研究テーマは「大規模科学画像データベースからのデータマイニング」であり、特に「データに基づくサイエンス」を目的とした科学目的の研究を進めている。最も中心的に進めている研究課題は「メテオインフォマティクス」、すなわち気象学への情報学的アプローチであり、大規模台風画像データ

ベースを対象としたデータマイニングを用いて、気象学的に意味のある情報を画像データベースから発掘するための研究を進めている。また画像データベースや統計的パターン認識などに関するモデルや理論の研究もおこなっている。最後にメテオインフォマティクスで得られた知見を、文化情報や生物情報にも適用する研究を展開しはじめている。

学 歴

1992.3 東京大学工学部電子工学科卒業

1994.3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻修士課程修了

1997.3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了

主要経歴

1997.4 学術情報センター システム研究系 助手

2000.4 国立情報学研究所 実証研究センター 助手

2003.4 国立情報学研究所 情報メディア研究系 助手

教育活動歴

東京工科大学 工学部 実験講師(1994-1996)

国立情報学研究所セミナー 指導(2001~2002)

学協会活動

電子情報通信学会正員(1991~)

情報処理学会正会員(1997~)

人工知能学会会員(1997~)

日本気象学会会員(1999~)

IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) Member (1999~)

電子情報通信学会 全国大会 座長(2001、2003)

電子情報通信学会 パターン認識とメディア理解研究会主催 若手の会 実行委員 (2002)

電子情報通信学会 画像工学研究会 専門委員 (2003~)

電子情報通信学会 常任査読委員 (2003~)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

Asanobu KITAMOTO, "Data Mining for Typhoon Image Collection", Proceedings of the 2nd International Workshop on Multimedia Data Mining, pp. 68-77, 2001-08 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "Spatio-temporal Data Mining for Typhoon Image Collection", Journal of Intelligent Information Systems, Vol. 19, No. 1, pp. 25-41, 2002-07 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "Fractional Component Analysis (FCA) for Mixed Signals", Proceedings of the 16th International Conference on Pattern Recognition (ICPR'02), Vol. 3, pp. 383-386, IEEE, 2002-08 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "Typhoon Analysis and Data Mining with Kernel Methods", Pattern Recognition with Support Vector Machines (SVM2002), Lecture Notes in Computer Science 2388, Lee, S.W., and Verri, A. (編), pp. 237-248, Springer, 2002-08 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "Evolution Map: Modeling State Transition of Typhoon Image Sequences by Spatio-temporal Clustering", Discovery Science (DS2002), Lecture Notes in Computer Science 2534, Lange, S., Satoh, K., and Smith, C.H. (編), pp. 283-290, Springer, 2002-11 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "IMET: Image Mining Environment for Typhoon Analysis and Prediction", Multimedia Mining, Djeraba, C. (編), pp. 7-24, Kluwer Academic Publishers, ISBN 1-4020-7247-3, 2002-11 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "FCA: The Fractional Component Analysis", 第4回情報論的学習理論ワークショップ (IBIS 2001), pp. 297-302, 2001-08 (in English)

Asanobu KITAMOTO, "Analysis and Prediction of the Typhoon from an Informatics Perspective", Proceedings of the 8th International Workshop on Academic Information Networks and Systems (WAINS), pp. 43-52, 2001-10 (in English)

北本 朝展, “台風画像コレクションからの予兆発見”, 人工知能学会研究会資料, Vol. SIG-FAI-A103, pp. 19-26, 2002-01

北本 朝展, 計 宇生, フレデリック・アンドレス, 小野 欽司, “ネットワークに基づく分散型地球環境データベースの構築に関する研究開発 最終成果報告書”, 通信・放送機構, pp. 1-118, 2002-05

北本 朝展, “台風時系列画像のマルチプルアラインメントに基づくデータマイニング”, 電子情報通信学会技術報告, Vol. PRMU2002-159, pp. 79-84, 2002-12

蔵田 武志, 岩井 儀雄, 川西 隆仁, 北原 格, 北本 朝展, 孟 洋, 斎藤 英雄, “PRMU 若手プログラム 2002 報告”, 電子情報通信学会技術報告, pp. 31-36, Vol. PRMU2002-134, 2002-12

北本 朝展, “リモートセンシング:画像情報処理から時空間情報処理へ”, 電子情報通信学会技術報告, Vol. PRMU2002-255, pp. 73-80, 2003-03

北本 朝展, “大規模台風時系列画像コレクションのためのマイニングとサーチング”, 情報処理学会 第 65 回全国大会 特別トラック, Vol. 5, pp. 255-258, 2003-03

Asanobu KITAMOTO, “Typhoon Data Mining for Disaster Management”, Japan-US Workshop on Annotation and Resource Discovery of Geographic Image Data, pp. (in press), 2003-03 (in English)

講演・口頭発表等

Asanobu KITAMOTO, “Digital Typhoon: From an Informatics Perspective”, A seminar at Department of Computer Science and Engineering, University at Buffalo, the State University of New York, 2002-08

北本 朝展, “情報学的視点による台風研究および台風画像データマイニング”, 気象衛星センター談話会, 2002-01

北本 朝展, “気象衛星の雲画像を用いた台風データマイニング”, 気象庁予報部予報課談話会, 2001-09

Asanobu KITAMOTO, “Analysis and Prediction of Typhoon From Informatics Perspective”, A Seminar at Institut de Recherche en Informatique de Nantes (IRIN), University of Nantes, 2001-06

北本 朝展, “大規模科学データベースからの知識発見:「デジタル台風」プロジェクトを例として”, NII 定例研究会, 2002-09

Asanobu KITAMOTO, “Open Annotation for Cultural Resources”, A seminar on Metadata Mediated Browsing and Retrieval in Semantic Rich Image Collection, 2003-03

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 12 年度科学研究費補助金奨励研究(A) (平成 12~平成 13 年度: 210 万円)「気象衛星画像を用いた台風の形態解析および台風画像データベースの構築」(12780300)

平成 15 年度科学研究費補助金奨励研究(A) (平成 15 年~平成 16 年度: 380 万円)「大規模台風時系列画像コレクションのデータマイニングによる台風発生の予兆発見」(15700142)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

(財)電気通信普及財団, 海外渡航旅費援助, 2002

(財)栢森情報科学振興財団 研究助成 (平成 14 年度~平成 16 年度)「大規模台風画像データベースに基づく台風に関する知識発見の研究」 2002

◆共同研究企画推進室

氏名 大山 敬三 (おおやま けいぞう)

博士号 1985 年、工学博士(東京大学)

所属・役職 実証研究センター 共同研究企画推進室・教授

電話番号 03-4212-2515

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報システム学／システム工学／計算機科学

研究概要

XMLによる構造化文書の作成・変換・検索技術、全文データベース検索技術、Web検索技術などのテキスト処理の研究、Web検索技術評価用テストコレクション構築と評価手法の研究、電子図書館、電子ジャーナル、引用リンクナビゲータなどの学術情報サービスシステムの研究などを行っている。

学歴

1980, 3 東京大学工学部電子工学科卒業

1982, 3 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻修士課程修了

1985, 3 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了

主要経歴

1985, 4 東京大学助手 文献情報センター

1986, 4 学術情報センター助手 学術情報研究系

1987, 4 学術情報センター助教授 学術情報研究系

1990, 7 米国スタンフォード大学 客員助教授(～1991, 4)

1990, 7 米国 SRI インターナショナル インターナショナルフェロー(～1991, 4)

1992, 4 文部省学術国際局 学術調査官(併任)(～1995, 3)

1998, 7 学術情報センター教授 開発研究系

1999, 4 学術情報センター教授 情報研究の中核的研究機関創設準備室

2000, 4 国立情報学研究所教授 実証研究センター

教育活動歴

2000, 4 図書館情報大学教授(併任)(～2002, 3)

2001, 4 慶應義塾大学非常勤講師(～2003, 3)

2002, 4 図書館情報大学非常勤講師(～2003, 3)

2002, 4 総合研究大学院大学教授(併任)(～現在)

大学院担当講義

総合研究大学院大学 デジタルパブリケーション

学協会活動

電子情報通信学会 正会員

情報処理学会 正会員, 会誌編集委員(1992,4～1995,3), 電子化専門委員会委員(2000,4～2002,3), 代表会員(2001,4～2003,3), 情報学基礎研究会 主査(2000,4～2002,3), 同 幹事(1998,4～2000,3,2002,4～), 同 研究連絡委員(1996,4～1998,3), 論文誌「データベース」共同編集委員長(2001,4～), 全国大会座長多数

情報メディア学会 正会員, 学会誌編集委員(2000～2003)

International Conference on Dublin Core and Metadata Applications 2001 実行委員(2001)

社会貢献活動

科学技術庁(現, 文部科学省) 科学技術情報流通技術基準検討会 委員(1992,4～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

- ・大山敬三, 影浦 峽, 神門典子, 木村 優, 丸山勝巳, 吉岡真治, 高橋一道: 大規模学術情報データベースに適した情報検索システムの開発, 電子情報通信学会論文誌, Vol.J84-D-1, No.6, pp.658-670 (2001).
- ・Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Kazuko Kuriyama, and Noriko Kando: "Evaluation Design of Web Retrieval Task in the Third NTCIR Workshop", The 11th International World Wide Web Conference (WWW2002), No.poster-22, Honolulu, Hawaii, USA (May 2002).
- ・Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Kazuko Kuriyama, and Noriko Kando: "The Web Retrieval Task and its Evaluation in the Third NTCIR Workshop", Proceedings of the 25th

Annual International ACM SIGIR Conference on Research and Development in Information Retrieval (SIGIR 2002), Tampere, Finland, pp.375-376 (Aug. 2002).

- Koji Eguchi, Keizo Oyama, Emi Ishida, Noriko Kando, and Kazuko Kuriyama: "Evaluation Methods for Web Retrieval Tasks", Proceedings of DBWeb2002, Tokyo, Japan, pp.415-422 (Dec. 2002).
- 江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子: "リンク関係と重複ページを考慮した Web 検索システムの評価手法", 情報アクセスのためのテキスト処理シンポジウム発表論文集, pp.9-16 (Feb. 2003).
- 江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子: "Web 検索のための評価ワークショップに適したシステム評価手法", 日本データベース学会 Letters, Vol.1, No.2, pp.40-43 (Mar. 2003).
- 江口浩二, 大山敬三, 石田栄美, 神門典子, 栗山和子: "NTCIR-3 WEB: Web 検索のための評価ワークショップ", NII Journal, No.6, p.31-56 (Mar. 2003).
- 江口浩二, 大山敬三: Web 検索評価用テストコレクション, (<http://research.nii.ac.jp/ntcweb/index.html>), 2003
- 大山敬三, 江口浩二: Web データコレクション, (<http://research.nii.ac.jp/ntcweb/index.html>), 2003

氏名 西澤 正己 (にしざわ まさき)

博士号 博士(理学)

所属・役職 人間・社会情報研究系 図書館情報学研究部門・助教授

電話番号 03-4212-2620

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 計量情報学、情報システム学、宇宙線物理学

研究概要

ISI の NCR-J 等引用索引データベースによる引用統計調査、情報科学分野の人的資源、予算、研究成果等の日米比較、キーワード分析を用いた分野間の関連分析、情報関連やゲノム研究等の特定のテーマに使用された予算の推定のための手法開発などの研究、その他ビブリオメトリックス的手法を用いた調査および分析

学歴

1993,3 甲南大学大学院自然科学研究科物理学専攻博士後期課程修了

1993,3 博士(理学)(甲南大学)

主要経歴

1993,3 東京大学 宇宙線研究所 研究員

1995,5 東京大学 宇宙線研究所 COE 研究員

1995,10 学術情報センター 研究動向調査研究系助手

1998,4 学術情報センター 学術情報研究系助手

2000,4 国立情報学研究所 実証研究センター助手

2000,11 国立情報学研究所 実証研究センター助教授

2003,4 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系助教授(現在に至る)

教育活動歴

1993,4~1999,9 横浜国立大学教育学部非常勤講師

1995,4~1995,9 湘南工科大学工学部非常勤講師

2000,4~2001,3 横浜国立大学工学部非常勤講師

学協会活動

(1) 情報処理学会正会員

(2) 情報知能学会正会員

(3) 情報メディア学会正会員

(4) 日本物理学会正会員

(5) 日本天文学会通常会員

(6) 日本創造学会正会員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

「研究評価 ～研究者・研究機関・大学におけるガイドライン～」, 根岸正光, 山崎茂明編著, 丸善, ISBN4-621-04890-2, 第5章部分担当 (2001)

西澤 正己, 孫 媛, 矢野 正晴, 「我が国の大学における情報学研究と他研究分野との関連分析」, NII Journal, No.2, pp. 45-58 (2001)

西澤 正己, 孫 媛, 矢野 正晴, 「キーワードから見た我が国のゲノム関連研究の現況に関する調査研究」, NII Journal, No.4, pp. 83-93 (2002)

M.Amenomori, S.Ayabe, S.H.Cui, L.K.Ding, X.Y.Ding, C.H.Feng, Z.Y.Feng, Y.Fu, X.Y.Gao, Q.X.Geng, H.W.Guo, M.He, K.Hibino, N.Hotta, J.Huang, Q.Huang, A.X.Huo, K.Izu, H.Y.Jia, F.Kajino, K.Kasahara, Y.Katayose, K.Kawata, Labaciren, G.M.Li, J.Y.Li, H.Lu, S.L.Lu, G.X.Luo, X.R.Meng, K.Mizutani, J.Mu, H.Nanjo, M.Nishizawa, M.Ohnishi, I.Ohta, H.Ooura, T.Ouchi, S.Ozawa, J.R.Ren, T.Saito, M.Sakata, T.Sasaki, M.Shibata, A.Shiomi, T.Shirai, H.Sugimoto, K.Taira, M.Takita, Y.H.Tan, N.Tateyama, S.Torii, H.Tsuchiya, S.Udo, T.Utsugi, C.R.Wang, H.Wang, X.Wang, X.W.Xu, L.Xue, X.C.Yang, Y.Yamamoto, Z.H.Ye, G.C.Yu, A.F.Yuan, T.Yuda, H.M.Zhang, J.L.Zhang, N.J.Zhang, X.Y.Zhang, Zhaxiciren and Zhaxisangzhu, “Observation of Multi-TeV Diffuse Gamma Rays from the Galactic Plane with the Tibet Air Shower Array”, to be published in ApJ Vol. 580, No. 2, December 1 (2002)

山下泰弘, 孫 媛, 西澤 正己, 「ビブリオメトリクスの活用事例 –日本と諸外国の国際共著分析–」, 情報の科学と技術, 53 巻, 1 号, (2003)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Upper limits of diffuse gamma rays from the Galactic plane using the data with the Tibet II and HD Arrays”, Proc. 27th ICRC, OG6, 2344-2347 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Multi-TeV gamma-ray emission from the Crab Nebula observed with the new Tibet-III air-shower array”, Proc. 27th ICRC, OG6, 2395-2398 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye,

G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Search for Multi-TeV gamma-rays from nearby SNRs with the Tibet air shower array”, Proc. 27th ICRC, OG6, 2481-2484 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “A wide sky survey to search for TeV gamma-ray sources by the Tibet air shower array”, Proc. 27th ICRC, OG6, 2544-2547 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Multi-TeV gamma-ray observation of several strong outbursts of Mrk 421 during 2000 and 2001 with the Tibet-III air-shower array”, Proc. 27th ICRC, OG7, 2661-2664 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Search for TeV burst-like events coincident with the BATSE bursts using the Tibet air shower array data”, Proc. 27th ICRC, OG7, 2753-2756 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Primary proton flux around the “knee” region deduced from the observation of air showers accompanied by gamma families”, Proc. 27th ICRC, HE1, 18-21 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta,

T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “The energy spectrum of all-particle cosmic rays around the knee region observed with the Tibet air shower array”, Proc. 27th ICRC, HE1, 92–95 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Heavy component of primary particles around the knee observed with the Tibet burst detector and air shower array”, Proc. 27th ICRC, HE1, 148–151 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Performance of the Tibet-III Air-Shower Array”, Proc. 27th ICRC, HE2, 573–576 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Sun’s shadow in a high state of solar activity detected with the Tibet air shower array”, Proc. 27th ICRC, SH9, 3795–3798 (2001)

M. Amenomori, S. Ayabe, S.W. Cui, L.K. Ding, X.Y. Ding, C.F. Feng, Z.Y. Feng, Y. Fu, X.Y. Gao, Q.X. Geng, H.W. Guo, M. He, K. Hibino, N. Hotta, J. Huang, Q. Huang, A.X. Huo, K. Izu, H.Y. Jia, F. Kajino, K. Kasahara, Y. Katayose, K. Kawata, Labaciren, G.M. Le, J.Y. Li, H. Lu, S.L. Lu, G.X. Luo, X.R. Meng, K. Mizutani, J. Mu, H. Nanjo, M. Nishizawa, M. Ohnishi, I. Ohta, T. Ouchi, S. Ozawa, J.R. Ren, T. Saito, M. Sakata, T. Sasaki, M. Shibata, A. Shiomi, T. Shirai, H. Sugimoto, K. Taira, M. Takita, Y.H. Tan, N. Tateyama, S. Torii, H. Tsuchiya, S. Udo, T. Utsugi, C.R.Wang⁵, H.Wang, X.Wang, X.W. Xu, L. Xue, X.C. Yang, Y. Yamamoto, Z.H. Ye, G.C. Yu, A.F. Yuan, T. Yuda, H.M. Zhang, J.L. Zhang, N.J. Zhang, X.Y. Zhang, Zhaxiciren, and Zhaxisangzhu, “Solar modulation of galactic cosmic-ray anisotropy observed by the Tibet II air shower array at $\sim 10\text{TeV}$ ”, Proc. 27th ICRC, SH10, 3919–3922 (2001)

M.Amenomori, S.Ayabe, P.Y.Cao, Danzengluobu, L.K.Ding, Z.Y.Feng, Y.Fu, H.W.Guo, M.He, K.Hibino, N.Hotta, J.Huan, Q.Huang, A.X.Huo, S.Inazumi, M.Inoue, K.Iwasaki, K.Izu, H.Y.Jia,

F.Kajino, K.Kasahara, Y.Katayose, T.Kobayashi, Labaciren, J.Y.Li, H.Lu, S.L.Lu, G.X.Luo, X.R.Meng, K.Mizutani,, J.Mu, H.Nanjo, M.Nishizawa, M.Ohnishi, I.Ohta, T.Ouchi, J.R.Ren, T.Saito, M.Sakata, T.Sasaki, Z.Z.Shi, M.Shibata, A.Shiomi, T.Shirai, H.Sugimoto, K.Taira, Y.H.Tan, N.Tateyama, T.Tateyama, S.Torii, T.Utsugi, C.R.Wang, H.Wang, P.X.Wang, X.W.Xu, Y.Yamamoto, G.C.Yu, A.F.Yuan, T.Yuda, C.S.Zhang, H.M.Zhang, J.L.Zhang, N.J.Zhang, X.Y.Zhang, Zhaxisangzhu, Zhaxiciren, W.D.Zhou, "Search for Multi-TeV Gamma-Ray Emission from Nearby SNRs with the Tibet Air Shower Array", CP558, High Energy Gamma-Ray Astronomy, American Institute of Physics, pp.761-766 (2001)

山下 泰弘, 西澤 正己, 孫 媛, 小林 信一, 「我が国における国際的産官学連携の構造分析」, 大学研究, 第 24 号 2002 年 3 月, pp. 101-117

矢野正晴, 柴山盛生, 孫 媛, 西澤 正己, 福田光宏, 「創造性の概念と理論」, NII Technical Report, NII-2002-001J, ISSN 1346-5597, Jun 2002

西澤 正己, 孫 媛, 矢野 正晴, 「情報学研究の実態と日米比較に関する調査研究」, 電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する調査研究, 科学研究費研究成果報告書(11691160), (代表: 根岸正光), 平成 14 年 3 月, p170-187

講演・口頭発表等

山下 泰弘, 西澤 正己, 小林 信一, 「日本を含む国際研究ネットワーク生成についてのビブリオメトリック分析」, 研究・技術計画学会 第 16 回年次学術大会講演要旨集, pp.383-386 (2001)

西澤 正己, 孫 媛, 矢野 正晴, 「研究者ディレクトリデータベースからのキーワード抽出による分野間の関連分析」, 情報知識学会 第 9 回研究報告会講演論文集, 2001 年 5 月, pp.85-88

西澤 正己 他 Tibet AS γ Collaboration, 「Tibet III 空気シャワーアレイによる太陽の影の観測」, 日本物理学会第 57 回年次大会(立命館大学), 2002 年 3 月, 25pWH-10

Masaki Nishizawa, Yuan Sun, and Masaharu Yano, "A SITUATION ANALYSYS OF GENOME-RELATED RESEARCH BY KEY WORDS OF RESEARCH THEMES, 6th International Conference onTechnology Policy and Innovation (ICTPI KANSAI 2002), Kyoto, P-59 (2002)

Masaharu Yano, Yuan Sun, and Masaki Nishizawa, "A COMPARATIVE STUDY OF THE STATE OF INFORMATION SCIENCE RESEARCH IN JAPAN AND THE UNITED STATES", 6th International Conference onTechnology Policy and Innovation (ICTPI KANSAI 2002), Kyoto, P-07 (2002)

Masaki Nishizawa, Yuan Sun, and Masaharu Yano, "Analysis on Genome-Related Research Fields in Japan", in Program and Collection of Abstracts of Gfkl 26th Annual Conference (Between Data Science and Everyday Web Practice), Mannheim, pp.144 (2002)

Yuan Sun, Masaki Nishizawa, and Masaharu Yano, "Investigate into Genome-Related Research at Japanese Universities by Keyword Analysis", in Program and Abstracts of IFCS2002 (Data Analysis, Classification, and Related Methods), Cracow, pp.171 (2002)

山下 泰弘, 西澤 正己, 孫 媛, 小林 信一, 「日本の各大学における国際研究ネットワーク形成過程」, 研究・技術計画学会 第 17 回年次学術大会講演要旨集, (2002)

西澤 正己 他 Tibet AS γ Collaboration, 「Tibet-III 空気シャワーアレイによる活動期の太陽の影」, 日本物理学会第 58 回年次大会(東北学院大学), 2003 年 3 月

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13 年度科学研究費補助金若手研究(B) (平成 13 年度～14 年度:230 万円)「情報科学分野の分野分類と他分野とのかかわりに関する調査研究」(13780345)

平成 15 年度科学研究費補助金基盤研究(C) (平成 15 年度～:140 万円)「情報科学関連研究のネットワーク構造とその動向把握に関する調査研究」(15500165)

氏名 日高 宗一郎 (ひだか そういちろう)
博士号 1999 年 3 月、博士(工学)(東京大学)

所属・役職 情報基盤研究系 情報流通基盤研究部門・助手

電話番号 03-4212-2586

ファクシミリ 03-3556-1916

専門分野 情報工学

研究概要

並列処理:文書蓄積・検索、離散事象シミュレーション等の非数値計算向け並列処理支援環境の構築を目指す

オペレーティングシステム:マイクロカーネルを用いたマルチサーバー型オペレーティングシステムのための割り込み管理方式

学歴

1994.3 東京大学工学部電気工学科 卒業

1996.3 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻修士課程 修了

1999.3 東京大学大学院工学系研究科電子情報工学専攻博士課程 修了

主要経歴

1999.4 学術情報センター助手 システム研究系

2000.4 国立情報学研究所助手 実証研究センター

2002.4 総合研究大学院大学助手 数物科学研究科(併任)

2003.4 国立情報学研究所助手 情報基盤研究系

学協会活動

電子情報通信学会会員(1993～)

情報処理学会会員(2001～)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

丸山勝巳, 児玉和也, 日高宗一郎, 橋爪宏達, 計宇生, 井手一郎, 中村明:高信頼制御システムのための拡張型分散 OS, NII journal, No. 3, pp.35-44(2001年11月)

S. Hidaka, K. Kodama, Y. Ji and K. Maruyama: A File Server Optimization Using Scatter/Gather IPC on L4 Based Multi-Server Operating System, Proceedings of the 6th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI2002), Vol.I, pp.184-189, Florida, USA,(Jul., 2002)

K. Maruyama, K. Kodama, S. Hidaka and H. Hashizume: Extensible Distributed Operating System for Reliable Control Systems, (to appear in) Proceedings of the Tenth ACM SIGOPS European Workshop (EW2002), Saint-Emilion, France,(Sep., 2002)

日高 宗一郎, 児玉 和也, 丸山 勝巳, 橋爪 宏達:マルチサーバー型制御用 OS の構成とタスク間通信性能, 電子情報通信学会論文誌, Vol. J86-B, No.3, pp.376-384(Mar. 2003)

特許・公開ソフトウェア・作品等

K. Maruyama, K. Kodama, S. Hidaka, H. Hashizume, Y. Ji, I. Ide and A. Nakamura:L4Minix Ver. E, <http://research.nii.ac.jp/H2O>, 2002

上記に含まれない論文・記事・著作物等

日高宗一郎, 児玉和也, 丸山勝巳, "実時間制御システム用のマルチサーバー型分散 OS の検討", 情報処理学会研究報告, Vol.2001, No. 65, pp.41-47(2001,6)

青木輝勝, 高橋由泰, 日高宗一郎, 木村徹, 加藤弘之, 安田浩:アニメ画像を対象とした電子透かし技術の一検討, 情報処理学会研究報告 EIP 電子化知的財産・社会基盤, Vol. 2001, No. 85 pp.11-16(2001年9月)

講演・口頭発表等

高橋由泰, 木村徹, 加藤弘之, 日高宗一郎, 青木輝勝:切り取り耐性を考慮した電子透かし方式の実現, 電子情報通信学会ソサイエティ大会講演論文集・情報・システム, pp.188(2001年8月)

日高宗一郎, 高橋由泰, 木村徹, 加藤弘之, 青木 輝勝:CG/アニメ画像に適した電子透かし方式の一検討, 第 63 回情報処理学会全国大会講演論文集, Vol. 3, pp.557-558(2001年9月)

高橋由泰, 木村徹, 加藤弘之, 日高宗一郎, 青木輝勝:画像オブジェクト型電子透かし方式の

評価, 電子情報通信学会総合大会講演論文集(2002)

日高宗一郎:大規模通信シミュレーションのハイブリッド並列環境への適用, 電子情報通信学会ソサエティ大会講演論文集, pp.480(2002年9月)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成12年度科学研究費補助金奨励研究(A)(平成12~平成13年度:190万円)「大規模並列離散事象シミュレーションにおけるプロセッサ割り当て支援方式」(12750372)

平成14年度科学研究費補助金若手研究(B)(平成14~平成15年度:210万円)「文書蓄積・検索等の非数値計算向け並列非同期入出力処理の高速化に関する研究」(14750339)

(2) 科研費以外の政府関係の研究費

(3) その他の研究費

2000年度 研究助成(2000年度:総額100万円)

◆超高速ネットワーク研究室

氏名 Angelino, Henri (あんじえりーの あんり)
生年月日 1935年09月25日
博士号 Docteur es Sciences 1964 Toulouse University (France)
所属・身分 実証研究センター 超高速ネットワーク研究室 客員教授
電話番号 03-4212-2537
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 Transfer & Transport Phenomena, Science Policy, International Cooperation in Higher Education, Technology Transfer [Acting Director of Global Liaison Office]

研究概要

2001-2002

- Promoted the PhD program among potential candidates from Vietnamese, Cambodian, Thai, French and UK Universities to promote cooperation with these countries
 - Analyzed the possibilities for NII to participate in Virtual University or Virtual laboratory,
 - Worked on Technology Transfer and organized conferences at NII on that subject (Prof M. Israel October 17, 2001, Prof R. Bowen April 23, 2002),
 - Promoted NII Research activities among the Diplomatic Circle of Science and Technology Counselors to the Embassies in Tokyo for developing cooperation with these countries (special day July 10, 2001, NII Open House February 27, 2002)
 - Had NII accepted as one of the founding members of the Japanese- French Doctoral College to benefit from new exchange program between the two countries
 - Prepared a draft for co-direction and co-thesis between NII and French Institutions which after NII internal approval has been sent to Prof. Kodaira, President of Sokendai, for endorsement
- 2002-2003

- Promoted the Sokendai PhD program among potential candidates from Vietnam, Thai and French Universities and visited those countries to promote cooperation,
- Worked on Technology Transfer and gave different conferences on that subject either in Japan (Tokyo France Telecom Seminar, Various Japanese Universities, etc) or in the USA (Univ. Washington-Seattle),
- Promoted the NII Research activities among the Diplomatic Circle of Science and Technology Counselors to the Embassies in Tokyo for developing cooperation with these countries (NII Open House July 25, 2002, Conference of Dr. Bourene Counselor to the European Commission October 16, 2002, visit of Dr. van Oorsmerssen director of CWI Netherlands March 25, 2003, etc)

-Acting Director of the Global Liaison Office from January 2003 and in that frame prepared a template of MOU that can be used by NII staff to promote the signature of MOU with different Institutions.

-Participated in the name of NII to various national or international Conferences/workshops/seminars.

- Participated in name of NII at different Board meetings of the Japanese- French Doctoral College,

- Participated at different Board of Administration of the Institute of Technology of Cambodia (Phnom-Penh)

学 歴

1956 Bachelor Degree in Sciences Toulouse Faculty of Sciences (France)

1958 Chemical Engineer (ENSIGC Toulouse)

1959 Petroleum Engineer (ENSPM Paris-Rueil Malmaison-France)

1964 Docteur es Sciences (Toulouse University)

主要経歴

March 1962 Adjunct Professor Toulouse University

September 1964 Associate Professor Toulouse University

September 1968 Professor Toulouse University

September 1970 Professor Toulouse National Polytechnic Institute (INPT- Toulouse University of Technology)

September 1977 Scientific Counsellor French Embassy Sweden, on leave from INP Toulouse

January 1981 Scientific Counsellor French Embassy Spain, on leave from INP Toulouse

September 1983 Director National School of Chemical Engineering Toulouse (ENSIGC)

April 1991 President Toulouse National Polytechnic Institute (INPT)

May 1996 Scientific Counsellor French Embassy Japan, on leave from INP Toulouse

September 2000 Professor INP Toulouse

December 2000 Visiting Professor National Institute of Informatics (NII), on leave from INP Toulouse

受賞等

- 2001 Japanese Order of the Sacred Treasure, Gold Rays with Neck Ribbon

教育活動歴

- September 1964/ September 1969 Adjunct Professor, Assistant Professor Faculty of Sciences Toulouse University

- October 1969/ September 1977 Associate Professor, Professor National Polytechnic Institute of Toulouse (INPT-Toulouse University of Technology)

- 1966/1977 Visiting Professor "Chulalongkorn University" 8 times 2 months each time from July to September

- 1972 and 1974 Visiting Professor "Mexico National Polytechnic Institute" 2 times November/ December

- April 1972 and 1973 Visiting Professor "Institute for Graduate Studies in Engineering (COPPE) University Federal Rio de Janeiro" 2 times

- 1973/1977 "Moderator" Department of Chemical Engineering - University of Sciences and Technology Kumasi (Ghana)

- 1983/1996 Professor National Polytechnic Institute of Toulouse (INPT)

- September-December 2000 Professor National Polytechnic Institute Toulouse (INPT)

- December 2000 / ... Visiting Professor NII, on leave from INP Toulouse

大学院担当講義

Transfer Phenomena :Heat Transfer, Mass Transfer, Fluidization, Reactors (Engineering level)

Physico-chemistry of interfaces (Postgraduate level)

R&D Policy (Postgraduate level)

学協会活動

2001～2004 Member of the Board of the Institute of Technology of Cambodia (ITC)
Phnom-Penh

社会貢献活動

2000～2002 Member of the Advisory Board of Autralian Magnesium Company (Brisbane)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

1. ANGELINO.H, Distance Education, Virtual University and Virtual Laboratory:What opportunities for NII in the future, NII Journal , 2002, 4, pp 37-47.

特許・公開ソフトウェア・作品等

1. HENGL G, GIBERT H, ANGELINO H, Procede et dispositif de distribution d'un fluide en vue de la fluidisation d'un lit, Brevet Francais no 73.14. 526

上記に含まれない論文・記事・著作物等

1. ANGELINO. H Evaluation of the CAPES-COFECUB Program (French-Brazilian Universities Cooperation Program) with the Brazilian Universities: Sao Paulo, Sao Carlos, Porto Alegre, Rio de Janeiro Report to the President of COFECUB pp 1-19, June 2001.

2. ANGELINO.H, Report on the Study Trip in Germany, France and United Kingdom on Engineering Education and Professional Development, Japan Federation of Engineers Societies (JFES), Tokyo, March,14, 2002, pp 1-81

講演・口頭発表等

1. ANGELINO. H Science and Technology Higher Education in Europe: does the European model exist ? NII seminar Mars 21.2001, NII News 2001, no 4 April .

2. ANGELINO. H Trends of the Research and Technological development in France in recent years and the Innovation Policy (Invited Conference Engineering Academy of Japan ,Tokyo, June 29 , 2001)

3. ANGELINO.H Will Virtual University and Virtual Laboratory take over reality in the future ? Invited conference Mlabnet Seminar and WAINS 8 Workshop, Karuizawa October 9-13, 2001

4. ANGELINO.H, Frederic ANDRES, Nigel COLLIER, Kinji ONO A proposal for a Virtual Laboratory for International Collaborative Research and Education Poster Session NII Open House February 2002, Poster session.

5. ANGELINO.H Intellectual Property in Private and Public Organisms in Japan and in France Invited Speaker France Telecom KK Seminar Tokyo March 12,2002

6. ANGELINO.H, Innovation and Technology Transfer in France from Public Organisms, Invited Conference Kyushu University Advanced Science and Technology Center, Fukuoka March 23, 2002

7. ANGELINO.H, Continuing Professional Development in France, Germany and United Kingdom, Invited Speaker 15th Conference of the Japan Federation of Engineers Societies, Tokyo, May 8,2002

8. ANGELINO H, Digital Silk Road :The daily life in caravanserais through cultural artefacts and ancient documents ,Meta Medatied Browsing and Retrivial in Semantic Rich Image Collection, Workshop Honolulu, March 3-5, 2003

9. ANGELINO H, The Paradigms of Japanese R&D Policy at the Beginning of 21 Century, Invited Conference, Washington Technology Center, University of Washington, Seattle USA, March, 6 , 2003

10. ANGELINO H, Invariants and Changes in the Japanese R&D Policy, Invited speaker, France Telecom KK Seminar Tokyo March 11, 2003

11. ANGELINO H, Technology Transfer in France from Public Organisms. Invited speaker

Forum Promotion of Coordinating Activities Industry-Academia-Government
Collaboration, Tottori University of Environmental Studies and Tottori Prefecture March 14,
2003

12. ANGELINO H, Higher Scientific and Technological Education in Europe Tottori-Tanki-
Daigaku March 14, 2003.

氏名 安田 靖彦 (やすだ やすひこ)
博士号 工学博士
所属・職名 実証研究センター研究 客員教授(早稲田大学理工学部教授)
電話 03-5286-3388
ファクシミリ 3-3200-9599
Email yasuda@yasuda.comm.waseda.ac.jp
専攻分野 画像符号化・処理、情報ネットワーク

研究概要

グレースフル・キャッシングによるインターネットの応答改善手法、インターネット上のコンテンツ配送
方式、インターネット応用、画像検索の高速化手法、アドホックネットワーク

学歴

1958年3月 東京大学工学部電気工学科卒業
1960年3月 東京大学大学院数物系研究科電気工学専攻修士課程修了
1963年3月 東京大学大学院数物系研究科電子工学専攻博士課程修了
1963年3月 工学博士(東京大学)

主要経歴

1963年4月 東京大学生産技術研究所助教授
1977年4月 東京大学生産技術研究所教授
1992年9月 早稲田大学理工学部電子通信学科(現在コンピュータ・ネットワーク工学科)教授
1994年1月～2000年3月 文部省学術情報センター客員教授
1996年5月 東京大学名誉教授
1996年10月～2003年9月 科学技術振興事業団理事(非常勤)
2000年11月 国立情報学研究所客員教授

教育活動

早稲田大学大学院:画像情報研究、画像情報演習、画像通信 学部:情報理論 A,B、画像処理

学協会等活動

IEEE Tokyo Section Chair(2003～)、IEEE Education Medal Nomination Committee Member
(1999年～2002年)、(財)電気通信端末機器審査協会会長(1998年～)、(社)電信電話技術委員
会理事長(1999年～2003年)、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム会長(1997年
～)、(財)国際科学技術財団日本国際賞審査委員(2001年～2002年)、(財)日本学会事務セン
ター評議員(2001年～)、(財)大川情報通信基金評議員・出版賞審査委員長(1997年～)、(財)
テレコム先端技術研究支援センター評議員(2001年～)、(社)電波産業会規格評議会委員長
(1999～)、他

社会貢献活動

情報通信審議会委員(2001～2002年)、同情報通信技術分科会会長(2001年～2002年)、電波
監理審議会委員(2002年～)、同会長(2003年～)、政府調達苦情検討委員会専門委員(2002
年～)、日本学術振興会 21世紀 COE プログラム委員会専門委員(2002年、2003年)、日本ビー
エス放送株式会社放送番組審議委員(2000年～)、他

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

引地 謙治, 森野 祐直, 福田 一郎, 松本 壮樹, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, "触覚を含む仮想空間
共有システムの構築と評価", 電子情報通信学会論文誌, vol.J86-B, 2003.02

Fukuda, S. Matsumoto, M. Iijima, K. Hikichi, H. Morino, K. Sezaki, and Y. Yasuda, "A Robust

System for Haptic Collaboration over the Network”, Touch in Virtual Environments, Prentice Hall, pp.137-157, 2002.

講演・口頭発表等

K. Hikichi, I. Arimoto, H. Morino, K. Sezaki, and Y. Yasuda, “Evaluation of Adaptation Control for Haptics Collaboration over the Internet”, IEEE Communications Quality & Reliability (CQR) International Workshop, 9-2, 2002.05

引地 謙治, 森野 祐直, 有本 勇, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, “触覚を含む仮想空間共有システムにおける伝送情報量削減手法の検討”, 電子情報通信学会ソサイエティ大会, B-11-10, 2002.09.

竹内 彰次郎, 山崎浩輔, 瀬崎 薫, 安田靖彦, “送信電力を考慮したBattery Cost Routingでのパケット伝送の一検討”, 電子情報通信学会ソサイエティ大会, SB-3-20, 2002,09

W. Creixell, K. Yamazaki, S. Takeuchi, and K. Sezaki, “Mobile Ad Hoc Network Routing: A Proposal of a Routing Algorithm for Mobile Multi-Hop Wireless Networks”, 電子情報通信学会ソサイエティ大会, SB-3-12, 2002,09

S. Takeuchi, K. Yamazaki, K. Sezaki, and Y. Yasuda, “A Proposal of Battery Cost Routing in Consideration of Transmission Power”, APCC, No.60, 2002.09

Zhou SU, Teruyoshi WASHIZAWA, Jiro KATTO and Yasuhiko YASUDA, “Hierarchical Image Caching in Content Distribution Networks”, Proceedings of IEEE TENCON2002, Peiking, 2002.10

Zhou SU and Yasuhiko YASUDA, “Research on Performance Improvement of Content Delivery over the Internet”, NII Seminar, 2002.10

Zhou SU, Jiro KATTO, Takayuki NISHIKAWA, Munetugu MURAKAMI, Teruyoshi WASHIZAWA and Yasuhiko YASUDA, “An integrated Scheme to Distribute Segmented Streaming Media over Hierarchical Caches”, Proceedings of ICITA2002, Australia, 2002.11

K. Hikichi, H. Morino, I. Arimoto, K. Sezaki, and Y. Yasuda, “The Evaluation of Delay Jitter for Haptics Collaboration over the Internet”, IEEE Global Telecommunications Conference (Globecom), 2002.11

引地 謙治, 森野 祐直, 福田 一郎, 松本 壮樹, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, “触覚を含む仮想空間共有システムの構築と評価”, 電子情報通信学会論文誌, vol.J86-B, 2003.02

有本 勇, 引地 謙治, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, “異種インタフェイスによる実時間協調作業の検討”, 電子情報通信学会技術研究報告[コミュニケーションクオリティ], 2003.02

竹内 彰次郎, 山崎 浩輔, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, “地理的経路制御における適応的電力制御手法”, 電子情報通信学会技術研究報告[情報ネットワーク], 2003.03

引地 謙治, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, “触覚コラボレーションにおける位置同期手法”, 電子情報通信学会総合大会, A-16-21, 2003.03

石黒 成輔, 安田 靖彦, “マルチホップ車車間通信に適したパケットスケジューリング”, 電子情報通信学会総合大会, A-17-23, 2003.03

Zhou SU, Atsushi FUJIMORI, Jiro KATTO, and Yasuhiko YASUDA, “Replication Algorithm for Hierarchical Streaming Media in Content Delivery Networks”, IEICE General Conference 2003, B-7-43, 2003.3

竹内 彰次郎, 山崎 浩輔, 瀬崎 薫, 安田 靖彦, “地理的経路制御における適応的電力制御手法”, 電子情報通信学会総合大会, B-5-339, 2003.03

木谷 篤太郎, 安田 靖彦, “Ad-Hoc NetworkにおけるTDMAslotの割り当て方式”, 電子情報通信学会総合大会, B-15-13, 2003.03

梶田 剛広, 高橋 英士, 田中 良明, 安田 靖彦, “ユーザ効用を考慮したマルチキャストコンテンツ配信スケジューリング”, 電子情報通信学会総合大会, B-6-76, 2003.03

鑰山 航, 三好 匠, 田中 良明, 安田 靖彦, “サービス適応多種トランスポートネットワークにおける特性”, 電子情報通信学会学生会「研究発表会」, 2003.03

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

「次世代マルチメディアインターネットに向けた動画像キャッシング技術に関する研究」
文部科学省科学研究補助金 基盤研究(C) (平成12年度～平成14年度)

氏名 漆谷 重雄 (うるしだに しげお)
博士号 工学博士
所属・役職 実証研究センター 超高速ネットワーク研究室 客員助教授
電話番号 03-4212-2620
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 通信工学

研究概要

次世代の超高速・大容量ネットワークのアーキテクチャ、システムアーキテクチャ、プロトコル等の研究を推進している、今後の学術系ネットワークの高度化に貢献したいと考えている。

学歴

1985年3月 神戸大学大学院電子工学専攻修士課程修了
2002年1月 工学博士(東京大学)

主要経歴

1985年4月 日本電信電話株式会社 電気通信研究所入社(ATM・光SW)
1992年2月 ネットワーク高度化推進本部・担当課長(NWアーキテクチャ)
1995年2月 ネットワークサービスシステム研究所(NW・ノード'アーキテクチャ)
1998年9月 学術情報センター 客員助教授(超高速NW)
2000年11月 国立情報学研究所 客員助教授(超高速NW)
2001年7月 ネットワークサービスシステム研究所 グループリーダー(現在)

学協会活動

電子情報通信学会英文論文誌B編集委員
電子情報通信学会フォトニックネットワーク研究会専門委員

査読付き論文あるいはそれらに相当する論文、著書等

- ・ Y. Matsuoka, T. Kurimoto, J. Nishikido, and S. Urushidani, "New routing method to use bandwidth effectively for Fast Reroute in MPLS Networks", APOC '2002, Oct. 2002.
- ・ M. Hirano, M. Aoki, N. Matsuura, T. Kurimoto, T. Miyamura, M. Goshima, and S. Urushidani, "A Scalable Switch Architecture for Ultra-large IP and Lambda Switch Routers", ICT '2003, Feb. 2003.
- ・ M. Aoki, M. Hirano, N. Matsuura, T. Kurimoto, T. Miyamura, M. Goshima, K. Kabashima, and S. Urushidani, "A Large scale IP and Lambda integrated Router Architecture", IEICE Trans. Commun. to be published.

特許・公開ソフトウェア・作品等

NTTとして国内外で特許多数出願

上記に含まれない論文・記事・著作物等

- ・ 松浦, 土井, 漆谷, "GMPLSネットワークにおける高信頼リンク管理方式", 信学全大, 2002.3
- ・ 栗本, 青木, 漆谷, 錦戸, "CS-RED方式を用いたサーバー間への公平な帯域割当に関する検討", 信学全大, 2002.3.
- ・ 松岡, 栗本, 錦戸, 漆谷, "MPLSネットワークにおける帯域効率を考慮したFast Rerouteパス設定法", 信学会NS研究会, 2002.7.
- ・ 青木, 栗本, 宮村, 松浦, 五島, 樺島, 漆谷, "マルチレイヤネットワークアーキテクチャの一検討", 信学全大, 2003.3.
- ・ 栗本, 宮村, 青木, 漆谷, "マルチレイヤネットワークにおけるプリエンプションに関する検討", 信学全大, 2003.3.

◆高品質ネットワーク研究室

氏名 川原崎 雅敏 (かわらさき まさとし)
所属・役職 実証研究センター 高品質ネットワーク研究室・客員教授
教官室所在 学術総合センター13階 1313号室
電話 03-4212-2658
ファクシミリ 03-3556-1916
生年月日 1952年3月3日
専門分野 情報通信工学

研究概要

メタデータとネットワークの連携に関する研究を中心に進めた。特に、ネットワーク上のコンテンツ流通に関して、P2P やユビキタス環境での端末適応や品質制御などを含めたネットワークサービスを、メタデータ(ポリシー制御、ルール、属性情報)を利用して行うことを研究調査した。すでに国際標準化を働きかけており、ITU-T SG16(マルチメディアサービス、システム、端末)において1993年度末にメタデータ基本勧告を策定する予定である。

学歴

1975年3月 京都大学工学部電気系学科卒業
1977年3月 京都大学大学院工学研究科終了
1981年11月 工学博士(京都大学)

主要経歴

1977年4月 日本電信電話公社(現NTT)入社
2000年11月 国立情報学研究所実証研究センター客員教授

学協会活動

電子情報通信学会
IEEE

査読付き論文／それらに相当する論文、著書等

M. Kawarasaki, J. Kishigami:
“Metadata associated Network Services and Capabilities”: Dublin-Core 2002 Conference,
pp.225-227, 2002.10

教育活動歴

東京理科大学 非常勤講師(情報基礎論)2003年～現在

社会貢献活動

経産省受託「ITS 情報識別タグビジネスチーム」委員、2002年6月～2002年11月
電気通信技術委員会(TTC)「メタデータ SWG」主査、2003年7月～現在

講演・口頭発表等

M. Kawarasaki: “Perspectives of Broadband and IT Driven Services –Metadata as an activator –” 第17回 日英ハイテク産業フォーラム～ 2002年6月
川原崎:【招待講演】[アクティブネットワークへの期待～メタデータと組み合わせたコンテンツ配信への適用例～], 電子情報通信学会 アクティブネットワークと応用時限研究会 2002年10月
川原崎:「光量子シミュレーションの高精彩画像伝送・表示と著作権保護」(NTT-日本原子力研究所共同研究成果報告), 第4回光量子科学研究シンポジウム 2002年11月

◆フルテキストコンテンツ研究室

氏名 五神 真 (ごのかみ まこと)
博士号 1985年 東京大学(理学博士)
所属・役職 実証研究センター フルテキストコンテンツ研究室・客員教授
電話番号

ファクシミリ

専門分野 固体物性(光物性・半導体・誘電体)、物理学一般、応用光学、量子光工学

研究概要

学歴

- 1980, 3 東京大学理学部物理学科卒業
- 1982, 3 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
- 1982, 4 東京大学大学院理学系研究科博士課程入学
- 1985, 4 理学博士(東京大学)

主要経歴

- 1983, 6 東京大学理学部物理学教室 助手
- 1988,12 東京大学工学部物理工学科 講師
- 1990,11 東京大学工学部物理工学科 助教授
- 1998, 8 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻 教授(現在に至る)
- 1993~1994 AT&T ベル研究所 客員研究員
- 1997 アリゾナ大学光科学センター adjunct professor(現在に至る)
- 1997,10 ~ 2002, 9 科学技術振興事業団創造科学推進事業 総括責任者
- 1998, 8 ~ 1999,10 学術情報センター 客員助教授
- 2000,11 国立情報学研究所 客員教授(現在に至る)
- 2001, 4~ 東京大学大学院工学系研究科付属 量子相エレクトロニクス研究センター センター長

受賞等

- 2001,11 第15回日本IBM科学賞

学協会活動

- 1999, 4 ~ 2002, 8 日本物理学会 オンラインジャーナル小委員会 委員

社会貢献活動

- 2000, 4 ~ 2002, 3 物理系学術誌刊行協会 理事
- 2001, 7 ~ 2003, 1 科学技術学術審議会 専門委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

- M. Ashida, T. Ogasawara, Y. Tokura, S. Uchida, S. Mazumdar and M. Kuwata-Gonokami: One-dimensional cuprate as a nonlinear optical material for ultrafast all-optical switching, *Appl. Phys. Lett.*, Vol.78, No.19, 2831-2833 (2001)
- M. Nagai, R. Shimano, and M. Kuwata-Gonokami: Electron-hole droplet formation in direct-gap semiconductors observed by mid-infrared pump-probe spectroscopy., *Phys. Rev. Lett.*, Vol.86, No.25, 5795-5798 (2001)
- N. H. Kwong, R. Takayama, I. Rumyantsev, M. Kuwata-Gonokami and R. Binder: Evidence of Nonperturbative Continuum Correlations in Two-Dimensional Exciton Systems in Semiconductor Microcavities., *Phys. Rev. Lett.*, Vol. 87, No. 2, 027402 (2001)
- N. H. Kwong, R. Takayama, I. Rumyantsev, M. Kuwata-Gonokami and R. Binder: Third-order exciton-correlation and nonlinear cavity-polariton effects in semiconductor microcavities., *Phys. Rev. B*, Vol.64, (2001)
- T. Aoki, G. Mohs, Yu. P. Svirko and M. Kuwata-Gonokami: Time-integrated four-wave mixing in GaN and ZnSe:Polarization-sensitive phase shift of the excitonic quantum beats., *Phys. Rev. B* 64, 045212 (2001)
- K. Kyhm, R.A. Taylor, J. F. Ryan, T. Aoki, M. Kuwata-Gonokami, B. Beaumont and P. Gibart: Quantum beats of Free and Bound excitons in GaN., *Appl. Phys. Lett.*, Vol.79, No.8, 1097-1099 (2001)
- K. Kyhm, R.A. Taylor, J.F. Ryan, T. Aoki, M. Kuwata-Gonokami, B. Beaumont and P. Gibart: Comparison of exciton-biexciton with bound exciton-biexciton dynamics in GaN: Quantum beats and temperature dependence of the acoustic-phonon interaction., *Phys. Status Solidi B*, Vol.228

(2) 475-479 (2001)

Ashida M, Ogasawara T, Motoyama N, Eisaki H, S. Uchida, Y. Taguchi, Y. Tokura, M. Kuwata-Gonokami, H. Ghosh, A. Shukla and S. Mazumdar: Interband two-photon transition in Mott insulator as a new mechanism for ultrafast optical nonlinearity., *Int. J. Mod. Phys. B*, Vol.15 (28-30) 3628-3632 (2001)

R. Shimano, M. Nagai, K. Horiuchi and M. Kuwata-Gonokami: Formation of a high T_c electron-hole liquid in diamond., *Phys. Rev. Lett.*, 88, (5) 057404 (2002)

M. W. Wu and M. Kuwata-Gonokami: Can D'yakonov-Perel' effect cause spin dephasing in GaAs(110)., *Solid State Comm.*, 121, (9-10) 509-512 (2002)

R. Takayama, N. H. Kwong, I. Romyantsev, M. Kuwata-Gonokami and R. Binder: T-matrix analysis of biexcitonic correlations in the nonlinear optical response of semiconductor quantum wells., *European Phys. J. B.*, 25, (4) 455-462 (2002)

M. Ashida, Y. Taguchi, Y. Tokura, R. T. Clay, S. Mazumdar, Yu. P. Svirko and M. Kuwata-Gonokami: T-matrix analysis of biexcitonic correlations in the nonlinear optical response of semiconductor quantum wells., Dimensionality dependence of optical nonlinearity and relaxation dynamics in cuprates., *Euro Phys. Lett.*, 58, (3) 455-461 (2002)

M. Kuwata-Gonokami, R. Shimano and A. Mysyrowicz: Phase-Coherent manipulation of cold biexcitonic waves., *J. Phys. Soc. Jpn.*, 71, (5) 1257 (2002)

K. Kyhm, R.A. Taylor, J.F. Ryan, T. Aoki, M. Kuwata-Gonokami, B. Beaumont and P. Gibart: Coherent exciton-biexciton dynamics in GaN., *Phys. Rev. B.*, 65 (19) 193102 (2002)

R. Shimano, Y. Ino, Yu. P. Svirko and M. Kuwata-Gonokami: Terahertz frequency hall measurement by magneto-optical Kerr spectroscopy in InAs., *Appl. Phys. Lett.*, 81, (2) 199-201 (2002)

M. Nagai, K. Ohkawa and M. Kuwata-Gonokami: Mid-infrared pump-probe reflection spectroscopy of the coupled phonon-plasmon mode in GaN., *Appl. Phys. Lett.*, 81, (3) 484-488 (2002)

M. Sakai, R. Nakahara, J. Kawase, H. Kunugita, K. Ema, M. Nagai and M. Kuwata-Gonokami: Polariton pulse propagation at exciton resonance in CuCl: Polariton beat and optical precursor., *Phys. Rev. B.*, 66 (3) (2002)

M. Nagai and M. Kuwata-Gonokami: Time-Resolved Reflection Spectroscopy of the Spatiotemporal Dynamics of Photo-Excited Carriers in Si and GaAs., *J. Phys. Soc. Jpn.*, 71, (9) 2276-2279 (2002)

R. Shimano, Yu. P. Svirko, A. Mysyrowicz and M. Kuwata-Gonokami: Efficient Two-Photon Light amplification by a Coherent Biexciton Wave., *Phys. Rev. Lett.*, 89, (23) 233601 (2002)

M. Nagai and M. Kuwata-Gonokami: Electron-hole liquid formation by exciton and biexciton resonant excitation in CuCl., *J. Lumin.*, 100, (1-4) 233-242 (2002)

X. Peng, F. Song, S. Jiang, N. Peyghambarian and M. Kuwata-Gonokami: Fiber-taper-coupled L-band Er³⁺-doped tellurite glass microsphere laser., *Appl. Phys. Lett.*, 82, (10) 1497-1499 (2003)

T. Mukaiyama, H. Katori, T. Ido, Y. Li and M. Kuwata-Gonokami: Recoil-Limited Laser Cooling of ⁸⁷Sr Atoms near the Fermi Temperature., *Phys. Rev. Lett.*, 90, (11) 113002-1-4 (2003)

講演・口頭発表等

M. Kuwata-Gonokami, R. Shimano and A. Mysyrowicz: Interference and Optical Manipulation of Degenerate Biexcitonic Waves., CLEO/Pacific Rim 2001, Makuhari Messe, Chiba, 2001-07. (invited)

M. Kuwata-Gonokami: Coherent Manipulation of the Cold Biexcitons in CuCl., AMPOPS-Conference, Alaska, 2001-08. (invited)

M. Kuwata-Gonokami: Optical manipulation of cold biexcitons., International Conference on

“photoinduced Phase Transitions, their Dynamics and Precursor Phenomena”, Tsukuba, 2001-11. (invited)

M. Kuwata-Gonokami: Time-resolved magneto-optical and THz spectroscopy in strongly correlated electron systems., CERC-ERATO 2002 International Workshop on “Phase Control of Correlated Electron Systems”, Waikoloa, Hawaii, May 2002. (invited)

M. Kuwata-Gonokami: Dynamic of cold and dense electron-hole ensemble in direct-and indirect-gap semiconductors., IQEC/LAT 2002, Moscow State Univ., June 2002. (invited)

M. Kuwata-Gonokami: Time-resolved magneto-optical spectroscopy in half-metals., OSA Annual Meeting & Exhibit 2002, Orlando, Sep 2002. (invited)

M. Kuwata-Gonokami: Optical manipulation of cold biexcitonic waves., The 6th BUTSUKO International Symposium, Yayoi Auditorium, The Uni. of Tokyo, Nov. 2002 (invited)

M. Kuwata-Gonokami, R Shimano, A. Mysyrowicz and Yu. P. Svirko: Two-photon parametric amplification with quantum-degenerate biexciton waves., The 8th International Symposium on Advanced Physical Fields (APF8), “Advanced Materials for Quantum Computing”, Tsukuba, Ja. 2003. (invited)

M. Kuwata-Gonokami, R Shimano, A. Mysyrowicz and Yu. P. Svirko: Efficient parametric two-photon amplification with coherent biexcitons., 2003 Photonics Initiative Workshop, The Univ. Arizona, Jan. 2003. (invited)

氏名 浦本 直彦 (うらもと なおひこ)

博士号 博士(工学)

所属・役職 実証研究センター フルテキストコンテンツ研究室・客員助教授

電話番号 03-4212-2662 (046-215-4564)

ファクシミリ 046-274-4282

専門分野 自然言語処理、情報統合、テキストマイニング

研究概要

自然言語処理、情報検索、データテキストマイニングシステムをコンポーネント化し、情報統合ミドルウェア構築するためのアーキテクチャ設計と XML/Web サービスを用いたツール化を行った。特に、ライフサイエンス分野における公共データベースとテキストマイニングシステムをどのように統合するかについて議論を行っている。また、国立情報学研究所 Cinii プロジェクトで開発されたデータベースに対する Web サービスを元にしたアクセス API の試作を行った。

学歴

1998年3月 九州大学工学部電子工学科卒業

1990年3月 九州大学工学部総合理工学研究科情報システム学専攻修了

2000年1月 九州大学より博士号(工学)授与

主要経歴

1990年4月 日本IBM(株)入社 東京基礎研究所配属

1999年10月 主任研究員

2001年10月 国立情報学研究所実証研究センター客員助教授

2003年4月 専任研究員(グループリーダー)

学協会活動

情報処理学会情報学基礎研究会幹事

情報処理学会 TOD 編集委員

人工知能学会評議委員

人工知能学会広報委員

日本規格協会将来型文書統合システム標準化調査研究委員会WG2 委員

査読付き論文/それらに相当する論文・著書等

(国際会議)

Takase, T., Uramoto, U. and Baba, K., XML Digital Signature System Independent of Existing Applications, Web Services Platform Engineering, Symposium on Applications and the Internet (SAINT), 2002

Harunobu Kubo, Hirofumi Matsuzawa, Stephan Grell, and Naohiko Uramoto, A Text Mining Middleware for Life Sciences, GIW 2002 (poster session), 2002

(国内会議)

浦本直彦、柔軟なテキストマイニングミドルウェアの構築、FIT2002 技術レターズ、情報処理学会、2002

上記に含まれない論文・記事・著作物等

(著書)

Maruyama, H., Tamura, K., Uramoto, N., Murata, M., Clark, A., Nakamura, Y., Neyama, R., Kosaka, K., Hada, S., XML and Java: Developing Web Applications, 2nd Edition, Addison Wesley, 2002

日本アイ・ビー・エム株式会社 jStart チーム, “丸ごと図解シリーズ 最新 Web サービスがわかる”, 項目「電子署名」, 2002

(訳書)

丸山, 田村, 浦本, 村田, クラーク, 中村, 根山, 小坂, 羽田, XML と Java による Web アプリケーション開発, ピアソンエデュケーション, 2002

講演・口頭発表等

浦本直彦, “Semantic Web は離陸する(か?)”, 「XML とメタデータ記述」チュートリアル, 電子情報通信学会, 4/13, 2001

浦本直彦, “オリックス様事例紹介-XML電子署名システム”, Java コンソーシアム Week, 2001

浦本直彦, “XML について”, 総合目録データベース実務研修(図書館システム担当者コース), 国立情報学研究所, 9/14, 2001

浦本直彦, “Knowledge Web Services に向けて”, 定例研究会, 国立情報学研究所, 9/17, 2001

浦本直彦, “Semantic Web の可能性”, NLC シンポジウム「ITとしての自然言語処理技術の応用」, 9/20, 2001

浦本直彦, “Web Services の事例”, XML コンソーシアム, 9/21, 2001

浦本直彦, “Web Services による動的な Web アプリケーションの構築にむけて”, 11/25, 第4回連続セミナー, サービスプラットフォーム技術, 情報処理学会, 2001

北村泰彦, 浦本直彦, 武田英明, 須栗裕樹, パネル討論「インターネット情報統合におけるエージェント技術の展望と課題」.連続セミナー2001 – 21世紀のネットサービス社会 – 「コンテンツ流通サービス」.情報処理学会, 11/25, 2001

浦本直彦, “Semantic Web と Web Services”, パネル「Semantic Web の展望」, 12/6, DBWeb 2001

浦本直彦, “次世代 Web を支える要素技術”, デジタルドキュメントシンポジウム 2002, 情報処理学会, 2/1, 2002

浦本直彦, “次世代 Web サービス”, パネリスト, デジタルドキュメントシンポジウム 2002, 情報処理学会, 2/1, 2002

浦本直彦, “Semantic Web と Web Services –情報統合の立場から–”, FIT2002 招待講演, 情報処理学会, 9/25, 2002

中村祐一, 浦本直彦, “XML と Web サービス入門”, 情報知識学会第7回 SGML/XML 研修フォーラム, 10/22, 2002

浦本直彦, “Semantic Web と Web Services –情報統合の立場から–”, OPSG 第5回開発技術研究部会, 2/5, 2003

■情報学資源研究センター

◆資源構築利用推進室

氏名 安達 淳 (あだち じゅん)
博士号 1981年 工学博士(東京大学)
所属・役職 ソフトウェア研究系・教授、センター長
電話番号 03-4212-2510
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 情報工学

研究概要

テキストを中心とする電子コンテンツを活用するための技術全般に関する研究を行っている。情報検索手法やデータ工学などの分野と、個人情報空間の構築と共有のためのシステムなどの情報システム構築の両面で実証的な研究を進めている。対象とするコンテンツとしてはXMLなどの半構造データやWWWコンテンツを中心に据えている。また電子図書館やNII学術ポータル構築に従事している。研究分野キーワードは、電子図書館、分散情報システム、データベース、情報検索など。

学歴

1976年 東京大学工学部電気工学科卒業
1978年 東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻修士課程修了
1981年 同 博士課程修了

主要経歴

1981年 東京大学助手(大型計算機センター)
1983年 東京大学講師(文献情報センター)
1985年 東京大学助教授(文献情報センター)
1986年 学術情報センター助教授(システム研究系)
1987年 東京大学大学院工学系研究科助教授併任、文部省学術国際局学術調査官併任(1990年まで)
1994年 学術情報センター教授(システム研究系)、東京大学大学院工学系研究科教授併任
1998年 学術情報センター教授(情報研究の中核的研究機関準備調査室長)
1999年 学術情報センター教授(情報研究の中核的研究機関創設準備室長)
2000年 国立情報学研究所教授(情報学資源研究センター)・情報学資源研究センター長
2001年 東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻教授併任
2003年 国立情報学研究所教授(ソフトウェア研究系)

教育活動歴

1987年から現在まで、東京大学大学院工学系研究科、改組後情報理工学系研究科電子情報学専攻教授併任
1999年から2001年まで、慶応義塾大学大学院文学研究科非常勤講師

大学院担当講義

情報システム開発論(東京大学大学院情報理工学研究科)

学協会活動

電子情報通信学会正会員(論文誌編集委員)
情報処理学会正会員(会誌編集委員、デジタルドキュメント研究会主査)
IEEE 正会員
ACM 正会員
IRAL (International Workshop on Information Retrieval of Asian Languages) Steering Committee Member
DCMI (Dublin Core Metadata Initiative) Advisory Board Member
DC2001 (International Conference on Dublin Core and Metadata Applications, 2001)

Organizing Chair

社会貢献活動

大学入試センター情報専門委員会委員 (1995年から2001年まで)

メディア教育開発センターデータベース事業委員会委員 (1998年から現在まで)

科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤 WG 専門委員 (2001年から2002年まで)

東京大学情報基盤センター全国共同運営委員会委員 (1999年から現在まで)

全国共同利用大型計算機センター将来構想委員会委員 (2002年から現在まで)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

日本図書館情報学会研究委員会編,「電子図書館 デジタル情報の流通と図書館の未来」(シリーズ 図書館情報学のフロンティア), 第三章 電子図書館 システム構築に見るその外延と内包, pp.71-86, 勉誠出版, ISBN 4-585-00226X, 2001.

安達淳, メタデータを中心に構成した文書画像の電子図書館システム, 信学論 D-I, Vol.J84-D-I, No.6, pp.768-776, June, 2001. (Digital Library System of Document Images Focusing on Metadata)

Teruhito Kanazawa, Akiko Aizawa, Atushiro Takasu, Jun Adachi, "The Effects of the Relevance-Based Superimposition Model in Cross-Language Information Retrieval", Proceedings, of 5th European Conference, ECDL 2001, Darmstadt, Germany, September 2001, LNCS 2163, pp.312 - 324.

金沢輝一, 相澤彰子, 高須淳宏, 安達淳, "日英言語横断検索における関連性の重ね合わせモデルの効果", "情報処理学会論文誌(データベース), No. 13, Feb. 2002. (Effectiveness of Relevance-based Superimposition Model for Cross-language Information Retrieval)

小島秀一, 高須淳宏, 安達淳, 「Web ページ群の構造解析とグループ化」, NII Journal, No.4, pp.23-35, March (2002). (Structural analysis and grouping of Web pages)

神門典子, 安達淳, 「評価ワークショップによるテキスト処理研究」, 人工知能学会誌, Vol. 17, No.3, pp.312-319, May (2002). (Research on Text Processing Technologies through on Evaluation Workshop - The Case of NTCIR Workshop 3 -)

Atsuhiko Takasu, Teruhito Kanazawa, Jun Adachi, "Statistical Phrase Extraction and Indexing for Music Retrieval", International Workshop on Entertainment Computing (IWEC2002), pp.278-285, May 14-17, Makuhari, Japan, 2002.

小野欽司, 上野晴樹, 根岸正光, 坂内正夫, 安達淳「情報学とは何か」, 国立情報学研究所監修「情報学シリーズ3」, 丸善, 2002.2, 115p. ISBN:4-621-07012-6(執筆分担「第4章:情報資源と情報学研究」, pp.71-90.)

安達淳, 「学術雑誌の電子化 - さまざまなアプローチ」, 「電子ジャーナルで図書館が変わる」情報学シリーズ6 第2章, pp.33-52, 丸善, ISBN4-621-07180-7, 2003.

板井久美, 高須淳宏, 安達淳, 「HTML からの情報抽出と統合」, NII Journal, No.6, pp.9-20, March(2003).

加藤弘之, 安達淳, 「XQuery での contains()の早期評価による XML 集約ビューへの問い合わせ最適化手法」, NII Journal, No.6, pp.21-30, March(2003).

Kumi Itai, Atsuhiko Takasu, Jun Adachi: Information Extraction from HTML Pages and its Integration, Proceedings of Workshop on AI Application of the Internet, The Symposium on Applications & the Internet (SAINT2003), pp .276-281, Orlando, Florida, 2003

松村敦, 高須淳宏, 安達淳, 情報検索における単語間の関係の効果, 情報処理学会データベース研究会資料, 125-34, pp.257-264, July 18th, 2001.

安達淳, 「デジタルアーカイブ:コンテンツ作成と検索」, 学術月報, Vol.54, No.4, pp.391-395, April, 2001.

金沢輝一, 高須淳宏, 安達淳, "関連性の重ね合わせモデルを用いた日英言語横断検索", "情報処理学会 情報学基礎研究会 (情報処理学会研究報告), 東京, July 2001.

高須淳宏, 金澤輝一, 安達淳, 音楽検索のためのMIDIデータの近似マッチング法, 情報処理学会音楽情報科学研究会資料, 42-3, pp.15-20, October 18, 2001.

馬場口登, 栄藤稔, 佐藤真一, 安達淳他, 映像処理評価用映像データベースについて, 電子情報通信学会, 信学技報, PRMU2002-30(2002-6), pp.69-74, June, 2002.

板井久美, 高須淳宏, 安達淳, HTML Table 情報のXMLによる統合, 情報処理学会データベースシステム研究会, 情処研報, Vol.2002, No.67, DBS-128-18, pp.131-138, July, 2002.

正田備也, 高須淳宏, 安達淳, パラメータ化された連結成分分解によるWebページのグループ化, 情報処理学会データベースシステム研究会, 情処研報, Vol.2002, No.67, DBS-128-40, pp.297-304, July, 2002.

正田備也, 高須淳宏, 安達淳: パラメータ化された連結性に基づくWebページのグループ化, 日本データベース学会 Letters Vol.1, No.1, pp.47-50, 2002.

正田備也, 高須淳宏, 安達淳: パラメータ化された連結性に基づくWebページのグループ化, 第1回情報科学技術フォーラム FIT2002, D-12, 2002.

正田備也, 高須淳宏, 安達淳: パラメータ化された連結性に基づくWebページのグループ化, 第14回データ工学ワークショップ DEWS2003 論文集, 1-A-03, 2003.

特許・公開ソフトウェア・作品等

RSモデルに基づくテキスト情報検索システム 第一版 (2002年)

講演・口頭発表等

安達淳, 「利用が広がる電子ジャーナル」, 電子情報通信学会専門講習会「IT社会とコンピュータ技術入門, いわき明星大学, 2001年11月13日.

平成13年度国立情報学研究所公開講演会 テーマ:電子ジャーナルに向けて:研究者・図書館・出版社の挑戦 「学術雑誌の電子化:さまざまなアプローチ」2001年12月18日 一橋記念講堂.

安達淳, 「情報ネットワーク時代の学術デジタルコンテンツ流通 電子ジャーナル・電子図書館の動向」, 電力館セミナー科学ゼミナール, 2002年2月2日.

安達淳「文献アーカイブ 原文書提供データベースの進展」, 「第14回電気・電子情報学術振興財団ワークショップ『猪瀬博先生の御業績 - そして現在から未来へ』講演資料集」, 2002年3月, pp.47-49.

安達淳, 「SPARC/Japan 活動と今後の取組」, 第15回国立大学図書館協議会シンポジウム特別講演, 東地区 千葉大学(平成14年11月26, 27日), 西地区 九州大学(平成14年12月5, 6日)

Jun Adachi, “Web Information Retrieval”, (keynote speech) the IASTED International Conference on Information Systems and Databases (ISDB), September 25, 2002, Tokyo (Titech), Japan.

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成13年度科学研究費補助金 特定領域研究(C)計画研究 2001年度から5年を予定 「不均質コンテンツに対する情報活用システムに関する研究」

氏名 加藤 弘之 (かとう ひろゆき)
博士号 1999年、博士(工学) 奈良先端科学技術大学院大学
所属・役職 ソフトウェア研究系データ工学研究部門・助手
電話番号 03-4212-2589
ファクシミリ 03-3556-1916
専門分野 データ工学

研究概要

XML データベースに対する問合せの最適化機構をマジックセット書き換え法に基づいて開発中。現在、XQueryにおける意味的 grouping の検出による集約より選択条件の早期評価による最適化を開発中。

学 歴

1991年3月 東京理科大学理学部物理学科卒業
1996年3月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了
1999年3月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了

主要経歴

1991年4月 日本ユニシス株式会社入社
1996年6月 Waterloo 大学計算機学科 visiting student(1996年8月まで)
1999年4月 学術情報センター助手 開発研究系
2000年4月 国立情報学研究所助手

教育活動歴

大阪電気通信大学非常勤講師(1999年、2000年、2001年、2002年)

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

上記に含まれない論文・記事・著作物等

日高宗一郎, 高橋由泰, 木村徹, 加藤弘之, 青木輝勝: 6G-06 CG/アニメ画像に適した電子透かし方式の一検討, 情報処理学会第63回全国大会講演論文集, Vol.3, pp.557-558(2001年9月)

高橋由泰, 木村徹, 加藤弘之, 日高宗一郎, 青木輝勝: 切り取り耐性を考慮した電子透かし方式の実現, 電子情報通信学会ソサエティ大会講演論文集・情報・システム, pp.188(2001年8月)

高橋由泰, 木村徹, 加藤弘之, 日高宗一郎, 青木輝勝: 画像オブジェクト型電子透かし方式の評価, 電子情報通信学会総合大会講演論文集(2002)

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成14年度科学研究費補助金若手研究(B)(平成16年度まで)「カジュアルなデータベース問合せの最適化手法に関する研究」(14780249)

氏 名 吉岡 真治 (よしおか まさはる)

博士号 1996年 東京大学 博士(工学)

所属・役職 情報学資源研究センター 助手

北海道大学大学院工学研究科電子情報工学専攻 助教授

電話番号 03-011-706-7107

ファクシミリ 03-011-706-7107

専門分野 人工知能、設計工学、自然言語処理の情報検索への応用

研究概要

専門用語研究のためのコーパス作成の研究に参加し、コーパスの仕様作成に関する議論に参加した。

情報検索のためのテストコレクション NTCIR のワークショップに参加し、第3回ワークショップの企画に関する議論に参加した。

学 歴

1991, 3 東京大学工学部精密機械工学科卒業
1993, 3 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻修士課程修了
1996, 3 東京大学大学院工学系研究科精密機械工学専攻博士課程修了
1996, 3 博士(工学)(東京大学)

主要経歴

1996, 4 学術情報センター 研究開発部 学術情報研究系 助手
2000, 4 国立情報学研究所 情報学資源研究センター 助手
2001, 6 北海道大学大学院工学研究科電子情報工学専攻 助教授

教育活動歴

北海道大学大学院工学研究科助教授(2001～)

大学院担当講義

計算機アーキテクチャ

学協会活動

地盤工学会：地盤と基礎の設計事例データベースの表現と利用に関する研究委員会委員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書 等

M. Yoshioka, Y. Nomaguchi and T. Tomiyama : Proposal of an Integrated Design Support Environment Based on the Model of Synthesis, Proceedings of the 2001 ASME Design Engineering Technical Conference & Computers and Information in Engineering Conference, DETC2001/DAC-21155 (CD-ROM), 2001

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

平成 13 年度 科学研究費補助金(奨励 A)(平成 13 年度:70 万円)「設計対象モデルを用いた設計文書の体系的な管理と再利用に関する研究」(課題番号 13750129)2001～2002 研究代表者:吉岡真治

◆データコレクション研究室

氏名 村上 征勝 (むらかみ まさかつ)
博士号 工学博士(北海道大学、1977 年)
所属・役職 文部科学省統計数理研究所・領域統計研究系・人文社会科学領域研究部門・教授、総合研究大学院大学・数物科学研究科教授併任
電話番号 03-5421-8766
FAX 03-5421-8766
専門分野 人文社会分野のデータ分析

研究概要

「文化を計る」というテーマのもと以下の 4 つの研究を進めた。

『源氏物語』、『うつほ物語』、井原西鶴作品などの古典のテキスト文章の数量的特質の計量分析を中心とした、従来の古典学の研究法とは異なる切り口による古典の分析法に関する研究。

浮世絵美人画の顔の計量分析に基づく江戸時代の庶民の美に対する意識の変化を探るための基礎研究。

前方後円墳などの考古学データの計量分析による古代社会の解明に関する研究。

中国などの諸外国における意識調査に基づく、ものの考え方の国際比較法に関する研究。

学 歴

1968 年 3 月:北海道大学工学部精密工学科卒業
1970 年 3 月:北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻修士課程修了
1970 年 4 月:北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻博士課程入学
1971 年 9 月:同 休学、米国 Stanford 大学大学院統計学専攻入学
1973 年 6 月:同 修了(理学修士) 北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻博士課程復学
1974 年 3 月:北海道大学大学院工学研究科精密工学専攻博士課程 単位取得退学

主要経歴

1974 年 4 月:文部省統計数理研究所研究員
1980 年 9 月:米国 Stanford 大学 客員研究員(1982 年 2 月まで)
1982 年 4 月:文部省統計数理研究所研究室長
1985 年 4 月:同 助教授(国立大学共同利用機関への改組に伴う組織変更による)
1989 年 4 月:総合研究大学院大学 助教授併任
1994 年 3 月:文部省統計数理研究所教授
1994 年 4 月:総合研究大学院大学 教授併任

教育活動歴

埼玉大学、中央大学、青山学院大学、石巻専修大学、早稲田大学、東京大学非常勤講師

大学院担当講義

人文社会科学領域研究 1、人文社会科学領域特別研究 1

学協会活動

日本統計学会(評議員(2001, 2002年),統計教育委員会委員長(2001, 2002年)統計教育分科会会長(2002年))

日本行動計量学会(理事,事務局長(2001年,2002年))

日本分類学会(運営委員(2001, 2002年))

日本情報考古学会(理事(2001, 2002年))

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

1. 村上征勝,「文化を計る－文化計量学序説－」,朝倉書店,2002
2. 金明哲,村上征勝,永田昌明,大津起夫,山西健司,「言語と心理の統計－言葉と行動の確率モデルによる分析」,岩波書店,2003
3. 山田奨治,早川聞多,村上征勝,埴原和郎(2002)「浮世絵における顔表現の科学」,日本研究,第25集,13-49

上記に含まれない論文・記事・著作物等

1. Murakami, M.(2001)「Technology in Statistical Education」, Bulletin of the International Statistical institute, 53 rd Session Proceedings, Book3, 58-59
2. 村上征勝(2002)「著者を探る古文書の計量分析」,電子情報通信学会誌, Vol. 85, No3, 158-161
3. 鄭躍軍,村上征勝,吉野諒三(2002)「仮想評価法(CVM)のバイアス問題に関する調査－東京湾中央防波堤内側埋立地の環境評価を例として－」,統計数理研究所研究レポート88
4. 村上征勝(2002)「文化を計る－『源氏物語』,古代寺院,浮世絵の計量分析－」,情報科学,第22号,1-10
5. 村上征勝(2002)「中学及び高等学校におけるデータ・サイエンス確立のための基礎研究」,文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)研究成果報告書
6. 村上征勝(2002)「文章を計る－新たな文献研究法－」,人工知能学会誌, vol.17, No.3, 331-334
7. Murakami, M.(2002)「Classical Texts, Real or Fake?」, Pacific Neighborhood Consortium Abstracts, A1-A4
8. 村上征勝(2002)「単純集計,属性別分析,相関表分析,コウホート分析」,社会調査ハンドブック
9. 村上征勝,高橋正樹(2002)「文化の調査について」,社会調査ハンドブック
10. 村上征勝(2002)「クラスター分析に基づく文献の真贋判定」多変量解析実例ハンドブック, 693-702
11. 村上征勝(2002)「ノーベル賞受賞作品『雪国』の文体解析」,文部科学省科学研究費補助金萌芽的研究成果報告書
12. 鄭躍軍,村上征勝,吉野諒三,馬場康維,前田忠彦(2003)「日本・中国の国民性比較のための基礎研究－中国北京市における意識調査－」,統計数理研究所研究レポート89
13. 高橋薫,村上征勝,山下淳子,伊藤彰浩(2003)「英語コーパスにおけるテキスト類型論」,統計数理研究所研究レポート162
14. 村上征勝(2003)巻頭言「心の切り口を探る」,よろん(日本世論調査協会報),第91号
15. 鄭躍軍,村上征勝,吉野諒三,前田忠彦(2003)「日本・中国の国民性比較のための基礎研究(2)－中国上海市における意識調査－」,統計数理研究所研究レポート90

講演・口頭発表等

1. 「文学を科学する－『源氏物語』の数量分析を中心にして」,2002年5月,日本音響学会特別講演

2. 「コンピュータで探る名作の謎ーシェイクスピア作品、『静かなドン』、『源氏物語』を中心に」,
2002年9月, 2002年度統計関連学会連合大会市民講演会

競争的研究資金獲得状況

(1) 科研費

文部省科学研究費補助金萌芽的研究(課題番号 11878048)「ノーベル賞受賞作品「雪国」の文体解析ー数量的分析による成立に関する疑惑の解明ー」(1999-2001)平成13年度60万
文部省科学研究費補助金基盤研究(B)(1)(課題番号 11480057)「中学校および高等学校におけるデータ・サイエンス確立のための基礎研究」(1999-2001)平成13年度260万
文部科学省科学研究費補助金基盤研究(課題番号 14380126)「電子社会における統計手法のニーズの把握と大学における統計教育の効果的展開」(2002-2005)平成14年度320万
文部科学省科学研究費補助金萌芽的研究(B)(1)(課題番号 14658084)「文体変化に基づく精神的疾患・痴呆症の予知に関する基礎研究-自殺作家における精神的疾患の進行と文体変化の統計的分析」(2002-2004)平成14年度120万
文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)(課題番号 14807)「西鶴作品全語彙索引データベース」(2003)平成14年度130万

氏名 岸田 和明 (きしだ かずあき)

博士号

所属・役職 情報学資源研究センター助教授

専門分野 情報検索、図書館情報学

研究概要

主として、情報検索の研究に従事し、特に、(1)適合フィードバック、(2)統計的な共起情報に基づく質問拡張、(3)情報検索実験における評価指標、(4)文書の自動分類、(5)大規模文書集合の階層的クラスタリング、(6)言語横断検索の6点について研究を進めた。また、国立情報学研究所が主催する検索実験プロジェクトである NTCIR に参加し、いくつかの活動をおこなった。

学歴

1987(昭62)年3月 慶應義塾大学文学部図書館・情報学科卒業
1987(昭62)年4月 慶應義塾大学文学研究科図書館・情報学専攻修士課程入学
1989(平1)年3月 同大学同研究科修士課程修了
1989(平1)年4月 慶應義塾大学文学研究科図書館・情報学専攻博士課程入学
1991(平3)年3月 同大学同研究科博士課程中退

主要経歴

1991年4月～1994年3月: 図書館情報大学図書館情報学部助手(文部教官)
1994年4月～2002年3月: 駿河台大学文化情報学部助教授
2002年4月～現在: 駿河台大学文化情報学部教授

学協会活動

日本図書館情報学会、日本統計学会、情報処理学会、情報知識学会、
ACM など各会員

査読付き論文／それらに相当する論文・著書等

岸田和明. 図書館情報学における自動分類と自動索引作成のための統計的手法: 文献レビュー. 日本図書館情報学会誌. Vol.47, No.1, p.17-28(2001.8)
岸田和明. 論文標題に基づく分類記号とディスクリプタの自動付与のための統計的手法. 日本図書館情報学会誌. Vol.47, No.2, p.49-66 (2001.11)
岸田和明. 検索実験における評価指標としての平均精度の性質. 情報処理学会論文誌: データベース. Vol.43, No.SIG2(TOD13), p.11-26(2002.3)

上記に含まれない論文・記事・著作物等

岸田和明. 検索結果の適合度順出力のための評価指標: 平均精度の再考. 情報の科学と技術. Vol.52, No.3, p.171-176 (2002.3)

岸田和明.第5章情報の蓄積と検索のための技術.安澤秀一・原田三朗編.文化情報学:人類の共同記憶を伝える.北樹出版, 2002.6(p.94-111)

岸田和明.次世代文書管理システム ADOMAS の開発に向けて.駿河台大学文化情報学研究所所報.No.2, p.77-90 (2002.7)

岸田和明.図書館経営の評価法:図書館パフォーマンス指標の利用について.現代の図書館.Vol.41, No.1, 34-39 (2003.3)

講演・口頭発表等

岸田和明.Mean Average Precision の再考:ランキング出力の評価尺度についての考察.INFOSTA シンポジウム 2001.2001年6月29日.総評会館

岸田和明.文書検索におけるクエリーの拡張方法:大域的分析と局所的分析の実証比較.情報処理学会 2001-CH-51(人文科学とコンピュータ), 2001年7月13日, 駿河台大学

岸田和明.検索実験における評価指標としての Mean Average Precision の性質.情報処理学会 2001-FI-63(情報学基礎), 2001年7月24, 25日(発表は25日), 国立情報学研究所

岸田和明.照合関数が線型である検索モデル一般に適用可能なレlevanceフィードバック手法.三田図書館.情報学会研究大会 2001年度, 2001年10月6日, 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール.

岸田和明.進化する情報検索技術:現状と将来の方向性.TP&D フォーラム 2002 第12回整理技術・情報管理等研究集会.2002年8月24日, 東京, 鳳明館(本館)

Kazuaki KISHIDA. Experiment on pseudo relevance feedback method using Taylor formula at NTCIR-3 (poster). NTCIR Workshop 3, 2002.10.8-10, Tokyo 学術総合センター

岸田和明.岩山真.江口浩二.検索実験の方法と実際:NTCIR における試み.NTCIR Workshop 3, 2002.10.8-10, Tokyo 学術総合センター(Pre-meeting Lecture)

岸田和明.図書館を取り巻く情報技術と図書館学教育.第88回全国図書館大会(群馬大会)第12分科会.2002年10月24日.群馬.群馬県庁 294 会議室.

岸田和明.大規模文献集合に対する階層型クラスタリング分析法の適用.日本図書館情報学会第50回研究大会(明星大学)2002年11月10日.

岸田和明.言語横断検索技術の最新動向.第65回情報処理学会全国大会(東京工科大学).2003年3月27日.

(9) 研究成果の普及

① 国立情報学研究所公開講演会

研究所が進めている研究開発や事業活動等に関連した今日的課題をテーマとして発表・討議する公開講演会(平成11年度まではシンポジウム)を毎年、関西会場と東京会場で開催している。

平成13年度は「電子ジャーナルに向けて－研究者・図書館・出版社の挑戦－」をメインテーマに、次のとおり実施した。

なお、本講演の記録は、情報学シリーズ6「電子ジャーナルで図書館が変わる」として刊行した。

期 日	会 場	参加者数
13年11月30日(金)	キャンパスプラザ京都	220名
13年12月18日(火)	一橋記念講堂	360名
合 計		580名

【プログラム】

- 主催者挨拶 国立情報学研究所長 末松安晴
- 電子ジャーナルと大学図書館 千葉大学附属図書館長 土屋俊
- 電子ジャーナル利用技術の研究動向 (関西会場のみ) 国立情報学研究所教授 高野明彦
- 学術雑誌の電子化：さまざまなアプローチ (東京会場のみ) 国立情報学研究所教授 安達淳
- 電子ジャーナル導入上の課題 (関西会場のみ) 北海道大学附属図書館事務部長 坂上光明
- 電子出版における海外の動向 (東京会場のみ) ユサコ株式会社マーケティングセンター長 増田豊
- 質疑応答 [司会] (東京会場) 国立情報学研究所教授 橋爪宏達
(関西会場) 国立情報学研究所 国際・研究協力部長 濱田喬

平成14年度は、財団法人国際高等研究所との共同主催により、「高度情報化社会の未来学－市民・大学・社会のあり方、変わり方」をメインテーマに、次のとおり実施した。

なお、東京会場では講演の様様をインターネットライブ中継で公開した。

期 日	会 場	参加者数
14年10月28日(月)	一橋記念講堂	216名
14年11月26日(火)	大阪国際会議場	169名
合 計		385名

【プログラム】

- 主催者挨拶
 - (東京会場)
国立情報学研究所教授 小野欽司
 - (関西会場)
財団法人国際高等研究所長 金森順次郎

- ユビキタス超環境での人類・組織・個人
 - 京都大学名誉教授 坂井利之

- ITは100年もつか？
 - 国立情報学研究所企画調整官 坂内正夫

- パネルディスカッション：多様な未来からの
選択と多様な未来の選択
 - 司会：林 敏彦(放送大学教授)
 - パネリスト：
(東京会場)
NEC 情報システムズ取締役 真名垣昌夫
神戸大学大学院法学研究科教授 山下淳
日本総合研究所専務取締役 三和正明
国立情報学研究所教授 山本毅雄
 - (関西会場)
独立行政法人通信総合研究所 CRL/TAO 統合
準備室長 福地一
文部科学省大臣官房審議官 有本建男
日本総合研究所専務取締役 三和正明
国立情報学研究所教授 宮澤彰

- 閉会挨拶
 - (東京会場)
財団法人国際高等研究所長 金森順次郎
 - (関西会場)
国立情報学研究所長 末松安晴

② 軽井沢土曜懇話会

軽井沢の国際高等セミナーハウスにおいて、各界で活躍中の方を講師に迎え、多岐に渡るジャンルの講演会を開催している。平成 13 年度は計 7 回、平成 14 年度は計 8 回開催した。

なお、講演の様相について、インターネットライブ中継(平成 14 年 9 月 7 日及び 10 月 26 日の 2 回)を実施すると同時に、文部科学省のエル・ネット(el-Net＝教育情報衛星通信ネットワーク)にて講演の記録(平成 14 年 3 月 23 日、5 月 11 日、7 月 13 日、7 月 27 日、9 月 7 日の 5 回分)を放映した。

また、平成 12 年度及び 13 年度の講演記録を講演集「知と美のハーモニー―猪瀬ロジからのメッセージ―」として刊行した。

○平成 13 年度

講演題目	講師	開催日	参加人数
21 世紀日本経済は何処へ行く	佐和 隆光 (国立情報学研究所企画調整官)	平成 13 年 7 月 14 日 15:00-16:30	31
わが国の英語教育の問題点	天満 美智子 (津田塾大学名誉教授)	平成 13 年 7 月 28 日 15:00-16:30	20
光エレクトロニクスの発展の歩みと将来	末松 安晴 (国立情報学研究所長)	平成 13 年 9 月 1 日 15:00-16:30	28

Longings－未来へ	大津 純子(ヴァイオリニスト) 岡田 知子(ピアニスト)	平成 13 年 9 月 8 日 15:00-16:30	42
ヒトゲノム計画と 21 世紀の生命科学	榊 佳之 (東京大学医科学研究所)	平成 13 年 9 月 29 日 15:00-16:30	21
物づくりと人づくり－長野の風土に根ざして	中村 恒也 (セイコーエプソン(株)相談役)	平成 13 年 11 月 17 日 15:00-16:30	38
文化財としてのクラシックカー	小林 彰太郎 (自動車ジャーナリスト)	平成 14 年 3 月 23 日 15:00-16:30	43
合 計			223

○平成 14 年度

講 演 題 目	講 師	開 催 日	参加人数
望ましい医療	森 亘 (日本医学会会長)	平成 14 年 5 月 11 日 15:00-16:30	45
空に浮かぶ聖母～西洋美術への招待	高階 秀爾 (元国立西洋美術館長)	平成 14 年 6 月 29 日 15:00-16:30	33
地震予測への挑戦	上田 誠也 (東京大学名誉教授、東海大学教授)	平成 14 年 7 月 13 日 15:00-16:30	24
映像メディアが拓く新しい情報通信の世界	坂内 正夫 (国立情報学研究所企画調整官)	平成 14 年 7 月 27 日 15:00-16:30	39
人づくり－新世紀日本の本質的課題	小林 陽太郎 (富士ゼロックス(株)代表取締役会長)	平成 14 年 9 月 7 日 15:00-16:30	43
激情と叙情～ハ短調が描くファンタジー	大津 純子(ヴァイオリニスト) 岡田 知子(ピアニスト)	平成 14 年 9 月 28 日 15:00-16:30	52
我が国の教育改革の軌跡と世界の動き	佐藤 禎一 (日本学術振興会理事長)	平成 14 年 10 月 26 日 15:00-16:30	39
歴史における暗号と現在の暗号	辻井 重男 (中央大学教授、東京工業大学名誉教授)	平成 15 年 3 月 15 日 15:00-16:30	33
合 計			308

③ DATABASE TOKYO 2001、2002への出展

研究所の活動紹介と提供する各種サービスの普及を目的として、我が国最大のデータベース総合展である「DATABASE 2001 TOKYO」(平成 13 年 10 月 30 日～11 月 1 日 東京国際フォーラム)及び「DATABASE 2002 TOKYO」(平成 14 年 10 月 9 日～11 日 東京国際フォーラム)に出展した。

④ 国立情報学研究所オープンハウス

第 1 回オープンハウスは、平成 14 年 2 月 27 日開催。当研究所が平成 14 年度に総合研究大学院大学情報学専攻博士課程を開設するに際し大学院生募集・紹介を行うために、社会一般への研究紹介も併せ行う形で、直前シンポジウム「未来を拓く先端情報学」と発表展示・デモンストレーションの内容で実施した。直前シンポジウムは、一橋講堂にて、午前に佐和隆光副所長の講演「社会を“科学”するということ」ほかの講演、午後は大学院情報学専攻の 4 つの教育・研究分野の研究紹介と大学院紹介が行われた。1 階特別会議室では、30 件の研究成果が発表展示・デモンストレーションの形式で行われた。(なお、直前シンポジウムはオープンハウスには含まないものであったが、以後のオープン

ハウスではここでの内容まで含めたものを意味するため併せ記載した。)

第2回は、平成14年7月25日開催。オープンハウスの主たる対象を、大学院進学希望者から広く社会一般に重心を移し、当研究所の活動全般を公開することとした。12階会議室にて、午前が坂内正夫副所長の特別講演「いわゆる“ITバブル崩壊”後の情報通信に新しい展開」と午後は各研究分野1名による研究紹介と在籍院生等による大学院紹介、1階アトリウムロビー及び14階講義室では午後、30件の発表展示・デモンストレーションが行われた。平成15年1月には実施要領が作成されて、オープンハウスの定例化が図られ、また、特別講演、研究紹介、大学院紹介、発表展示・デモンストレーション等、オープンハウスの骨格が定まった。

⑤ 出版物の刊行

研究所の研究活動に関連する研究論文等を掲載する論文誌「NII Journal」を年2回刊行し、関係各機関へ送付するとともに、電子図書館サービス(NACSIS-ELS)においても公開している。

なお、平成13年度、14年度の刊行は以下の通り。

平成13年度

・No.3 (2001.11) 特集「情報プラットフォーム」特集号エディター：小野欽司、丸山勝巳

・No.4 (2002.3)

平成14年度

・No.5 (2003.3)

・No.6 (2003.3) 特集「電子文書処理」特集号エディター：安達 淳

また、研究所の研究成果を広く社会全般に普及することを目的に、研究所教官の研究内容や研究所が開催する講演会等の発表内容をまとめた「情報学シリーズ」を刊行している。平成13年度及び14年度は、次のタイトルを出版した。

・「情報学とは何か」(小野欽司ほか著)

・「サイバー社会の商取引-コマース&マネーの法と経済-」(岡田仁志著)

・「図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界-」(宮澤彰著)

・「電子ジャーナルで図書館が変わる」(土屋俊ほか著)

・「化学情報学-化学反応の系図と反応予測-」(佐藤寛子著)

さらに、軽井沢土曜懇話会における講演記録をまとめた講演集「知と美のハーモニー-猪瀬ロッジからのメッセージ-」を平成14年度に刊行した。

⑥ 「デジタル・シルクロード」東京シンポジウム

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)及び日本ユネスコ国内委員会との共催により、文化とデジタル情報技術の融合による新たな視点でのシルクロード研究と文化遺産保存をテーマに、風化、破壊、資料埋没等の危機に瀕しているシルクロードの文化遺産の保存と世界的情報資源としての共有・公開を目指して、次のとおり実施した。本シンポジウムの成果として、「デジタル・シルクロード東京宣言」が採択された。また、会議と並行して12月11日から13日の期間にシンポジウムに関連したデジタル情報技術の展示及び12月14日にユネスコ関係者の東京国立博物館への施設見学を実施した。シンポジウムの実施に当たっては、プロポーザルの審査及びプログラムの検討等を行うため、運営委員会及び諮問委員会を開催した。

期 日	会 場	参加者数
平成13年12月11日(火)~13日(木)	学術総合センター-橋記念講堂、 中会議場、ほか	330名

【プログラム】

シルクロードとデジタル技術

12月11日(火) 公開セッション

開会式

主催者挨拶

基調講演：シルクロードの人々とその社会的文化的交錯

基調講演：Opening up Opportunities to Explore New Digital Technologies for Establishing Digital Silk Roads

総括講演：The Application of Digital Technology in the Protection and Renovation of Cultural Relics in China

総括講演：The Heritage and Multi Media Technologies

総括講演：Introduction to UNESCO Silk Roads Activities

総括講演：Petroglyphs as the Source of Information at the Great Silk Road

総括講演：アフガニスタンの文化遺産

総括講演：Outcomes of UNESCO HeritageNet Project (A network of cultural Institutions in Central Asia)

総括講演：Using Information and Communication Technologies for Preservation of Cultural Heritage in Iran

総括講演：DIS(Digital Image System)技術とデジタル・シルクロード・プロジェクトへの応用

国立情報学研究所長/日本ユネスコ国内委員会副会長 末松安晴

文部科学省国際統括官/日本ユネスコ国内委員会事務局長 白川哲久

Dr. Abdul Waheed Khan, Assistant Director-General for Communication and Information, UNESCO

日本学士院会員/東京大学名誉教授/元日本ユネスコ国内委員会会長 中根千枝

Dr. Abdul Waheed Khan, Assistant Director-General for Communication and Information, UNESCO

Prof. Zhanping Liang, Director General, Institute of Scientific and Technical Information of China (ISTIC)

Prof. Kapila Vatsyayan, President, India International Centre

Ms. Rosa Guerreiro, Programme Specialist, Division of Intercultural Dialogue, Culture Sector, UNESCO

Ms. Kadicha Tashbaeva, Institute of History, National Academy of Sciences, Kyrgyzstan

シルクロード学研究センター所長/京都大学名誉教授 樋口隆康

Mr. Sergey Karpov, Expert of HeritageNet, UNESCO-Almaty

Ms. Fetemeh Farahani, Iranian National Commission for UNESCO

株式会社日立製作所試作開発センター長/国立情報学研究所情報メディア研究系客員教授/国際日本文化研究センター客員教授 神内俊郎

12月12日(水) 専門セッション (New Aspects)

- Approaches in Virtual World Heritage (VWH)
- Caravanserais of the Silkroads: Towards an Inventory Available on Internet
- シルクロードを介しての本草学の相互交流
- 交河故城 城南墓地の調査報告
- The identification of historic roadway and human settlement of Khmer empire using remote

Dr. Altion Simo, Gifu University

Prof. Pierre Lebigre, Ecole d'Architecture Paris val de Seine

東京大学総合研究博物館教授 大場秀章
早稲田大学シルクロード調査研究所教授 岡内三眞

Dr. Surat Lertlum, Asian Institute of Technology

sensing / GIS and the development of historical and archaeological multi-media GIS: case study of Ankor Wat to Phimai.

- 文化財保存とデジタル処理 独立行政法人東京文化財研究所保存科学部長 三浦定俊
- Metadata Mediated Browsing and Retrieval in Semantically-Rich Cultural Image Collections Prof. William I. Grosky, University of Michigan-Dearborn / Visiting Professor of NII
- Cultural Heritage IPR Protection through Digital Watermarking Prof. Vito Cappellini, Università di Firenze

ポスター・セッション

12月13日(木) 専門セッション (Future Direction)

- European Networks of Excellence and Japanese Silk Roads Dr. Kim H. Veltman, Maastricht McLuhan Institute
- The Art Museum of the China Millennium Monument Multi-Media Digital Art Gallery Dr. Wei Shi, Beijing Gehua Cultural Development Group
- Mongolian Customs of use of Pasture Prof. Enkhtuvshin Bat-Bold, Director, International Institute for the Study of Nomadic Studies (IISNS)
- クムトラ石窟の保存と修復 独立行政法人東京文化財研究所美術部長 中野照男
- 文化遺産保存と新技術 都留文科大学教授 野口英雄
- Information Technology in the Tenth Five-Year Plan Concerning Nationwide Cultural Heritages and Museums Mr. Edmond Moukala, UNESCO China Office
- Surviving the Sands of Time: Preservation of digital and cultural objects Dr. Suzanne Keene, Institute of Archaeology, University College London
- 高度情報技術を応用した文化遺産のグローバルな保存と活用 国立情報学研究所研究総主幹/教授 小野欽司
- Semantic Web Infrastructure for Multimedia Content Prof. Mohand-Said Hacid, Université Claude Bernard Lyon 1
- Disciplines, Boundaries and Silk Road Networks: A Personal Account of Recent Work Prof. Isenbike Togan, Middle East Technical University
- Sri Lanka and the Silk Roads in the Digital Age Dr. Sunil Goonasekera, University of Peradeniya
- UNESCO Session (on the Digital Silk Roads Project) / Panel Session

シンポジウムの総括及び閉会

運営委員会及び諮問委員会の開催状況

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 第1回運営委員会 | 平成13年6月25日 |
| 第2回運営委員会 | 平成13年7月9日 |
| 第3回運営委員会 | 平成13年9月18日 |
| 第4回運営委員会及び第1回諮問委員会 | 平成13年11月29日 |
| 第5回運営委員会及び第2回諮問委員会
諮問委員会委員 | 平成13年12月5日 |

白川 哲久	文部科学省国際統括官、日本ユネスコ国内委員会委員/事務局長
末松 安晴	国立情報学研究所長、日本ユネスコ国内委員会副会長
野口 昇	(社)日本ユネスコ協会連盟理事長
平山 郁夫	画家/元東京芸術大学長、日本ユネスコ国内委員会会長
松村多美子	椋山女学園大学教授、日本ユネスコ国内委員会コミュニケーション小委員長
渡邊 明義	独立行政法人文化財研究所理事長、日本ユネスコ国内委員会委員
運営委員会委員	
〔委員長〕	
小野 欽司	国立情報学研究所研究総主幹
〔副委員長〕	
神内 俊郎	株式会社日立製作所試作開発センター長、国立情報学研究所情報メディア研究系客員教授
赤澤 威	国際日本文化研究センター研究部教授
浅井 孝司	文部科学省国際統括官補佐、(日本ユネスコ国内委員会事務局)
Frederic ANDRES	国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授
今里 讓	文部科学省大臣官房国際課企画調整室長、(日本ユネスコ国内委員会事務局)
井村 隆	文部科学省国際統括官付ユネスコ第三係長、(日本ユネスコ国内委員会事務局)
片山 紀生	国立情報学研究所情報メディア研究系助教授
Yong-Nam KIM	ユネスコ事務局コミュニケーション・情報部情報社会課
斎藤 英俊	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター長
佐藤 真一	国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授
野口 英雄	都留文科大学文学部教授 (ユネスコ・コーディネーター)
宮本 俊介	株式会社日立製作所試作開発センタ主管技師
Gail LARMINAUX	ユネスコ事務局文化部異文化対話課

⑦ NII国際シンポジウム

平成14年度から年1回定期的にNII国際シンポジウムを開催することとし、第1回として「電子図書館と電子ジャーナル：新しい挑戦」をテーマとして、電子ジャーナルに代表されるさまざまな学術コンテンツのデジタル化の進展と、大学・研究図書館や大学における研究・教育がそれに対しどのように対応していくべきかについて考えることを目的として、次のとおり実施した。

期 日	会 場	参加者数
平成15年3月5日(水) 10:00～17:00	国連大学ウ・タント国際会議場	180名

【プログラム】

開会

主催者挨拶 国立情報学研究所副所長 坂内正夫

基調講演：電子図書館、電子ジャーナルの最近の動向と今後の課題 国立情報学研究所教授 根岸正光

講演1：デジタル・コレクション：小惑星、Mooreの法則、スター・アライアンス Ms. Ann S. Okerson, Associate University Librarian, Yale University

講演2：電子図書館と電子ジャーナル：新しい挑戦 名古屋大学附属図書館長・教授 伊藤義人

講演3：SPARC 2003：インスティテューショナル・レポジトリとオープン・アクセス Dr. Raym Crow, Senior Consultant, SPARC

講演4：電子ジャーナルから広がる研究の可能性－化学系学術雑誌と化合物・化学反応データベースを例として－ 国立情報学研究所助教授 佐藤寛子

講演 5：電子時代における ISI のジャーナルの選定プロセス
 パネルディスカッション：5年後の学術コミュニケーション

Mr. James Testa, Director/Editor-in-Chief,
 Editorial Development, ISI

司会 国立情報学研究所教授 安達淳
 パネリスト 千葉大学教授 土屋俊

Dr. Raym Crow, Senior Consultant, SPARC
 東京学芸大学附属図書館事務部長 早瀬均
 国立情報学研究所教授 山本毅雄

[総合司会]

⑧ NII 定例研究会

情報学研究に関心のある研究者・技術者の交流の場として、「NII 定例研究会」を企画・運営している。「NII 定例研究会」は、月に 1 回定期的に関催し、研究所内外の研究者による研究発表を行っている。開かれた研究機関として、情報学研究に関心を有する研究者・技術者をはじめ幅広い人々が参加できるよう外部にも公開している。

回数	開催日	演 題	講 演 者
第 7 回	13. 4.18(水)	Bioinformatics の現況	菅原秀明 国立情報学研究所 情報学基礎研究系 生命情報科学研究部門 客員教授 / 国立遺伝学研究所 生命情報・DDBJ 研究センター 教授
		ハイパーリンクのグラフ構造に基づく Web コミュニティの発見	村田剛志 国立情報学研究所 情報学基礎研究系 認知科学研究部門 助教授
第 8 回	13. 5.16(水)	モバイルエージェント	佐藤一郎 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 プログラミング言語研究部門 助教授
		自然言語インタフェースの研究展開	絹川博之 国立情報学研究所 実証研究センター バーチャルライブラリ研究室 客員教授 / 東京電機大学 工学部 教授
第 9 回	13. 6.20(水)	電子商取引の制度的課題	岡田仁志 国立情報学研究所 人間・社会情報研究系 情報制度論研究部門 助教授
		パリ発コンテンツ (iFrench) 流通サービス実験	川原崎雅敏 国立情報学研究所 実証研究センター 高品質ネットワーク研究部 客員教授 / NTT サービスインテグレーション基盤研究所 主幹研究員
第 10 回	13. 7.18(水)	触覚情報を用いた人工空間共有とネットワーク	瀬崎薫 国立情報学研究所 実証研究センター 高品質ネットワーク研究部 客員助教授 / 東京大学 空間情報科学研究センター 助教授
		言語の詩的機能と身振りという観点からの指示管理理論の脱統語論化：日本語の談話に関する事例研究	古山宣洋 国立情報学研究所 情報学基礎研究系 認知科学研究部門 助教授

第 11 回	13. 9.19(水)	特異な系に対する反復法のふるまいについて	速水謙 国立情報学研究所 情報学基礎研究系情報数理研究部門教授
		Knowledge Web Services に向けて	浦本直彦 国立情報学研究所 実証研究センター フルテキストコンテンツ研究室 客員助教授 / 日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所 主任研究員
第 12 回	13. 10.19(金)	日本語文献の計量的研究	村上征勝 国立情報学研究所 情報学資源研究センター データコレクション研究室 客員教授 / 統計数理研究所 領域統計研究系 教授
		革新と技術移転:INRIA の目的と夢 (The Policy of INRIA for Technology Transfer and Research Valorization)	Michel Israel フランス大使館科学技術部 科学技術参事官 (Professor,Counsellor for Science and Technology,Embassy of France Tokyo)
第 13 回	13.11.21(水)	構造に基づいたウェブページ検索への包括的アプローチとウェブページセマンティクスへの応用 (Generic Approaches to Structure-Based Retrieval of Web Pages and Applications to Web Page Semantics)	William Irvin Grosky ミシガン大学ディアボーン校コンピュータサイエンス学部長/教授 (Chairman of Computer and Information Science Department The University of Michigan-Dearborn)
		知能情報メディアとしての映像メディア～知的撮影から対話的提示まで～	中村裕一 国立情報学研究所 情報メディア研究系 コンピュータビジョン研究部門 客員助教授 / 筑波大学機能工学系 助教授
第 14 回	13.12.19(水)	シマンテク・ウェブのための移植可能情報抽出システム (A Portable Information Extraction System for the Semantic Web)	Nigel Collier 国立情報学研究所 情報学基礎研究系 記号科学研究部門 助教授
		情報検索の性能評価の指標について	岸田和明 国立情報学研究所 情報学資源研究センター データコレクション研究室 客員助教授 / 駿河台大学 文化情報学部 助教授
第 15 回	14. 2.20(水)	情報空間における動的クラスタリングの枠組み	相澤彰子 国立情報学研究所 情報基盤研究系 情報流通基盤研究部門 助教授
		超高速ネットワークシステム～研究開発動向と我々の取り組み～	漆谷重男 国立情報学研究所 実証研究センター 超高速ネットワーク研究室 客員助教授 / NTT ネットワークサービスシステム研究所 研究グループリーダー

第 16 回	14. 3.20(水)	日常言語コンピューティングの発想	菅野道夫 理化学研究所 脳科学総合研究センター 言語知能システム研究チーム チームリーダー、東京工業大学 名誉教授
		製造業リモートファクトリマネージメントに関する研究開発	武藤伸洋 国立情報学研究所 知能システム研究系 ロボティクス研究部門 客員助教授/ NTT サイバーソリューション研究所 主任研究員
第 17 回	14. 4.17(水)	モバイルオブジェクト・システム Planet の経験とセキュア・ソフトウェア・サーキュレーションシステム SoftwarePot の設計	加藤和彦 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 高信頼ソフトウェア研究部門 客員助教授/ 筑波大学 電子・情報工学系 助教授
		DualNAVI による連想的情報アクセス	高野明彦 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 プログラミング言語研究部門 教授
第 18 回	14. 5.15(水)	情報通信ネットワークの高機能化、高信頼化に向けた取り組み	藤野貴之 国立情報学研究所 情報基盤研究系 ネットワークアーキテクチャ研究部門 助手
		Comparative Genomics の手法による、DNA 配列データからの生物情報の抽出	藤山秋佐夫 国立情報学研究所 学術研究情報研究系 生物系研究情報研究部門 教授
第 19 回	14. 6.26(水)	制約に基づくエージェントを用いた探索手法 (Constraint-based and Agent-centered Search)	Philippe Codognet 国立情報学研究所 情報学資源研究センター データコレクション研究室 客員教授/ パリ第 6 大学コンピュータ・サイエンス 教授(University of Paris 6 invited at NII until August 15,2002)
		テキスト・エンコーディング・イニシアティブ (TEI) と GENIA コーパス (The Text Encoding Initiative and the GENIA Corpus)	Tomaz Erjavec Jozef Stefan 研究所 インテリジェントシステム部門 (Department of Intelligent Systems Jozef Stefan Institute Ljubljana, Slovenia invited at Tokyo Univ. until July 7,2002)
第 20 回	14. 7.17(水)	ユビキタスコンピューティング・ネットワークにおける環境適応型パーソナル通信	上岡英史 国立情報学研究所 情報メディア研究系 統合メディア処理研究部門 助手
		インターネット時代の学術情報発信と日本の英文電子ジャーナル～物理系学術誌の取り組みと課題～	五神真 国立情報学研究所 実証研究センター フルテキストコンテンツ研究室 客員教授/ 東京大学 大学院工学系研究科 教授
第 21 回	14. 9.18(水)	大規模科学データベースからの知識発見:「デジタル台風」プロジェクトを例として	北本朝展 国立情報学研究所 実証研究センター 実証研究推進室 助手
		IP 網におけるトラフィック及び輻輳制御	米田進 国立情報学研究所 情報基盤研究系 ネットワークセキュリティ研究部門 客員助教授/ 日本テレコム(株)サービス開発本部情報通信研究所 副所長

第 22 回	14.10.16(水)	Performance Improvement of Content Delivery over the Internet (インターネット上のコンテンツ配送の性能向上)	安田靖彦 国立情報学研究所 実証研究センター 超高速ネットワーク研究室 客員教授 / 早稲田大学 工学部 電子・情報通信学科 教授、蘇洲(Su Zhou) 早稲田大学 助手
		ヨーロッパ第 6 次フレームワークプログラム(FP6):国際協力の機会(The European 6 th Framework Programme Opportunities for International Co-operation)	Maurice BOURENE 駐日欧州委員会代表部科学技術参事官 (Delegation of the European Commission)
第 23 回	14.11.20(水)	ユーザインタフェースを対象とした制約プログラミング	細部博史 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 プログラミング言語研究部門 助手
		プロトコル処理ハードウェアと高速インターネットへの適用	長谷川亨 国立情報学研究所 情報基盤研究系 ネットワークセキュリティ研究部門 客員教授 / (株)KDDI 研究所 ネットワーク管理グループリーダー
第 24 回	14.12.18(水)	特許から始まった研究ー泡箱からタンパク質解析へ	井宮淳 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 システムソフトウェア研究部門 教授
第 25 回	15. 2.19(水)	XML データベースの研究開発	吉川正俊 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 大規模ソフトウェア研究部門 客員助教授 / 名古屋大学 情報連携基盤センター 教授
		グリッドコンピューティングの現状と展望ーナショナル研究グリッドに向けて	松岡聡 国立情報学研究所 ソフトウェア研究系 高信頼ソフトウェア研究部門 客員教授 / 東京工業大学 学術国際情報センター 教授

3. 教育

国立情報学研究所は、その特色である情報学の包括的研究体制、学術情報サービス事業と研究開発を一体のものとして行う実践的教育環境を活かし、広い視野と高度な専門知識を持つ新しいタイプの情報学研究者・高度専門家を養成することを目的として、平成14年4月に総合研究大学院大学の数物科学研究科に情報学専攻を設置した。

(1) 総合研究大学院大学情報学専攻の設置及び受入実績

平成13年度

○情報学専攻設置に向けて準備を行った。

- H13. 6. 4 総研大が文部科学省へ説明(第3回)
- H13. 7. 3 総研大が文部科学省へ概算要求書提出
- H13. 7.19 大学院設置審査関係書類を提出
- H13. 9.12 大学院設置審査結果通知
- H13.11.13 第1回大学院情報学専攻開設準備WG開催
学生募集、入試、受入準備、指導体制等開設に必要な作業について担当する教官を割り振り。
- H13.11.21 第2回大学院情報学専攻開設準備WG開催
募集要項案、学生便覧、専攻委員会規程案、入学者選抜に係る採点・評価基準、各種委員会、指導体制、受入体制について審議。
- H13.12.11 第3回大学院情報学専攻開設準備WG開催
募集要項案、学生便覧、専攻委員会規程案、入学者選抜に係る採点・評価基準、各種委員会、創設直前シンポジウムについて審議。
- H13.12.26 第4回大学院情報学専攻開設準備WG開催
学生便覧、創設直前シンポジウム、専攻委員会規程案、各種委員会、学生募集のHP、ポスターについて審議。
- H14. 1.22 第5回大学院情報学専攻開設準備WG開催
総研大運営諮問会議委員等による見学、創設直前シンポジウム、専攻委員会規程案、各種委員会、総研大概要の原稿について審議。
- H14. 2.12 第6回大学院情報学専攻開設準備WG開催
開設直前シンポジウム、指導体制、神奈川県内の学术交流協定に基づく受講科目、各種委員会、その他について審議。
- H14. 3. 5 第7回大学院情報学専攻開設準備WG開催
各種委員会、神奈川県内の学术交流協定に基づく受講科目、平成14年10月入学に係る入学者選抜の実施、平成15年度学生募集要項及び平成14年度10月入学学生募集要項、メンタルヘルス体制、総研大各種委員会のTV会議について審議。
- H14. 3.11 第8回大学院情報学専攻開設準備WG開催
国際大学院コース・国費留学生選抜、専攻委員会規程案、カリキュラム編成、教育形態、講義室・セミナー室の設備備品、指導体制、入学希望者との接触状況、学生選抜方法について審議。
- H14. 3.11 第9回大学院情報学専攻開設準備WG開催
カリキュラム、奨学金を決定する手順、カウンセラーの内諾、面接試験、学力認定、総研大連絡委員会(仮称)の設置理由について審議。

平成14年度

○情報学専攻が設置され、学生受け入れを開始した。

- H14. 4. 1 情報学専攻設置
- H14. 4. 2~4 願書受付

- H14. 4.10 入学者選抜試験
 H14. 4.11 数物科学研究科運営委員会で合格者決定
 H14. 4.12 合格発表
 H14. 4.15～17 入学手続
 H14. 4.18 入学式
 H14. 4.22 情報学専攻ガイダンス
 H14. 7. 2 数物科学研究科教授会で平成 14 年度 10 月入学国際大学院コース(国費留学生)合格者決定
 H14. 7.15 平成 14 年度 10 月入学国際大学院コース願書(私費留学生)締切
 H14. 7.22 専攻委員会で平成 14 年 10 月入学国際大学院コース合否判定
 H14. 7.29～ 8. 2 平成 14 年度 10 月入学願書受付
 H14. 8. 5～ 8. 9 平成 15 年度 4 月入学願書受付(第1回)
 H14. 8. 7 数物科学研究科教授会で平成 14 年度 10 月入学国際大学院コース合格者決定
 H14. 8. 8～9.27 平成 14 年度 10 月入学国際大学院コース入学者入学手続
 H14. 9. 4 平成 14 年度 10 月入学及び平成 15 年度 4 月入学者選抜試験
 H14. 9. 4 専攻委員会で平成 14 年度 10 月入学及び平成 15 年度 4 月入学合否判定
 H14. 9.19 数物科学研究科教授会で平成 14 年度 10 月入学及び平成 15 年度 4 月入学合格者決定
 H14. 9.20 平成 14 年度 10 月入学及び平成 15 年度 4 月入学者合格発表
 H14. 9.24～27 平成 14 年度 10 月入学者入学手続
 H14.10. 4 平成 14 年度 10 月入学者入学式
 H14.10. 7 情報学専攻ガイダンス
 H14.12. 9～12.13 平成 15 年度 4 月入学願書受付(第 2 回)
 H15. 2. 4 平成 15 年度 4 月入学者選抜試験
 H15. 2. 4 専攻委員会で平成 15 年度 4 月入学合否判定
 H15. 2.27 数物科学研究科教授会で平成 15 年度 4 月入学合格者決定
 H15. 2.28 平成 15 年度 4 月入学者合格発表

平成 14 年度大学院担当教官氏名一覧

教授	日比野 靖	佐藤 健	井宮 淳	橋爪 宏達	上野 晴樹
	龍田 真	山田 茂樹	丸山 勝巳	山本 毅雄	宮澤 彰
	速水 謙	小野 欽司	羽鳥 光俊	山田 誠二	大山 敬三
助教授	鈴木 正人	村田 剛志	佐藤 一郎	Frederic Andres	後藤田洋伸
	宇野 毅明	古山 宣洋	佐藤 真一	片山 紀生	神門 典子
	新井 紀子	相澤 彰子	計 宇生	武田 英明	阿部 俊二
	Nigel Collier	渡部 卓雄	高須 淳宏	影浦 峡	
助手	兼岩 憲	孟 洋	上岡 英史	江口 浩二	
	児玉 和也	相原 健郎	市瀬龍太郎	日高宗一郎	
	細部 博史	井手 一郎	井上 智雄		

平成 14 年度情報学専攻入学状況

区 分		志願者数	合格者数	入学者数
4 月入学	一般	18(2)	14(1)	14(1)
10 月入学	一般	1	1	1

	国際大学院 コース	国費	2(2)	2(2)	2(2)
		私費	5(5)	5(5)	4(4)
合 計			26(9)	22(8)	21(7)

()内は外国人留学生数で内数。

外国人留学生出身国別内訳

出身国	人 数
タイ	3
中国	2
フランス	2
合計	7

国立情報学研究所外国人留学生奨学金(NII奨学金)受給者

平成14年度

受給者数	支給金額
6名	7,858,788円

平成14年度情報学専攻委員会開催状況

	開催年月日	議 題
第1回	H14. 4. 10(水)	・合格者の判定について
第2回	H14. 7. 22(月)	・国際大学院コース合格者の判定について
第3回	H14. 9. 4(水)	・平成14年度10月及び平成15年度4月入学者の合否判定について ・その他
第4回	H15. 2. 4(火)	・平成15年度4月入学者の合否判定について
第5回	H15. 3. 20(木)	・大学院教育連絡調整委員会について ・総研大教授会について ・総研大各種委員会委員の選出について ・平成15年度10月及び平成16年度4月入学者選抜日程について ・平成15年度学年暦について

平成14年度大学院教育連絡調整委員会開催状況

	開催年月日	議 題
第1回	H14. 4. 26(金)	・入試の今後の予定表 ・学生サービス等について ・平成14年度大学院設置審査(追加申請)について ・オープンハウスについて ・その他
第2回	H14. 6. 3(月)	・総研大各種委員会報告について ・数物科学研究科教授会の審議事項等について ・設置審追加申請等について ・専攻委員会決定過程について ・入試日程について ・大学院生室の施設整備について ・オープンハウスについて ・その他
第3回	H14. 6. 25(火)	・総研大各種委員会報告について

		<ul style="list-style-type: none"> ・総研大数物科学研究科副研究科長設置要綱(案)について ・学位審査基準及び手順、中間発表について ・その他
第4回	H14. 7. 22(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立情報学研究所外国人留学生奨学金支給者の判定について ・9月の入学試験(一般試験)の進め方について ・その他
第5回	H14. 7. 25(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立情報学研究所外国人留学生奨学金の支給に関する申合せについて
第6回	H14. 8. 26(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・総研大委員会報告について ・NII 外国人留学生奨学金受給者選考について ・平成14年度10月及び平成15年度4月入学者選抜試験について ・国際大学院コースカリキュラムについて ・日仏共同博士課程日本コンソーシアムへの加盟について ・主任指導教官の変更について ・その他
第7回	H14. 10. 9(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・総研大委員会報告について ・教育システムの改善について ・教育プログラムについて ・指導教官の変更について ・平成15年度講義科目割り当て(案)について ・情報学専攻概要パンフレットについて ・国際大学院コースについて ・大学院PRについて ・その他
第8回	H14. 11. 26(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・総研大委員会報告について ・NII 外国人留学生奨学金受給者選考について ・数物科学研究科教授会の審議事項等について ・新しい研究科の名称と教育理念について ・外国人留学生の入学者選抜について ・その他
第9回	H14. 12. 16(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回入学者選抜試験について ・長期履修学生制度について ・中期計画について ・研究科再編について ・NII 外国人留学生奨学金の給付について ・その他
第10回	H15. 2. 7(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度4月入学者選抜試験の可否結果について ・国立情報学研究所外国人留学生奨学金支給者の判定について ・総研大委員会報告について ・他大学との学術交流について ・入学志願者向け広報誌の専攻案内について ・入試広報の新規事業について

		<ul style="list-style-type: none"> 平成 14 年度教育関係経費追加配分の使途について その他
第 11 回	H15. 2. 24(月)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 15 年度国際大学院コース国費留学生の推薦順位について 教育実態調査について その他
第 12 回	H15. 3. 25(火)	<ul style="list-style-type: none"> NII 外国人留学生奨学金受給者継続審査について

(2) 特別共同利用研究員の受入

平成 13 年度受入状況(計 5 件)

氏 名	所 属	課 程	研 究 題 目	受入期間	指 導 教 官
小合 敬之	京都大学大学院 理学研究科	修士	プログラム理論	13.4.1 ~ 14.3.31	龍田 真 教授
中澤 巧爾	京都大学大学院 理学研究科	博士	プログラム理論	13.4.1 ~ 14.3.31	龍田 真 教授
山本 京司	北海道大学大学 院理工学研究科	博士	不完全情報環境下における マルチエージェントシステムの 研究	13.4.1 ~ 14.3.31	佐藤 健 教授
今井 聡	東京大学大学院 工学系研究科	修士	大規模疎行列の固有値問題 に関する研究	13.4.1 ~ 14.3.31	速水 謙 教授
鷹城 徹	東京大学大学院 工学系研究科	博士	状況的文脈に注目した個人 的知識の獲得	13.4.1 ~ 14.3.31	武田英明 助教授

平成 14 年度受入状況(計 17 件)

氏 名	所 属	課 程	研 究 題 目	受入期間	指 導 教 官
中澤 巧爾	京都大学大学院 理学研究科	博士	プログラム理論	14.4.1~ 14.11.25	龍田 真 教授
木村 大輔	京都大学大学院 理学研究科	修士	プログラム理論	14.4.1~ 15.3.31	龍田 真 教授
大前 寛子	慶應義塾大学大 学院理工学研究 科	博士	用例データベースのデータ 構造とデータ配置アルゴリズム に関する研究	14.4.1~ 15.2.28	F.Andres 助教授
間瀬 心博	東京工業大学大 学院総合理工学 研究科	博士	Web ページの推薦システム の開発	14.4.1~ 15.3.31	山田誠二 教授
椰野 憲克	東京工業大学大 学院総合理工学 研究科	博士	WWW におけるブラウジング パターンの推定	14.4.1~ 15.3.31	山田誠二 教授
川添 愛	九州大学大学院 文学研究科	博士	ドメイン及び言語間移植可能 情報アクセスシステムの研究	14.4.1~ 15.3.31	N.Collier 助教授
鷹城 徹	東京大学大学院 工学系研究科	博士	状況的文脈に注目した個人 的知識の獲得	14.4.1~ 15.3.31	武田英明 助教授
柳瀬 健吾	東京大学大学院 情報理工学研究科	修士	マルチメディアデータベース に関する研究	14.4.1~ 15.3.31	佐藤真一 助教授
斉藤 柁彦	千葉大学大学院 自然科学研究科	修士	ロボットビジョンのための最適 化問題の高速解法	14.5.1~ 15.3.31	井宮 淳 教授

山田 大輔	千葉大学大学院 自然科学研究科	修士	ロボットビジョンのための最適 化問題の高速解法	14.5.1～ 15.3.31	井宮 淳 教授
鳥居 秋彦	千葉大学大学院 自然科学研究科	修士	ロボットビジョンのための最適 化問題の高速解法	14.5.1～ 15.3.31	井宮 淳 教授
菅谷 裕信	千葉大学大学院 自然科学研究科	修士	ロボットビジョンのための最適 化問題の高速解法	14.5.1～ 15.3.31	井宮 淳 教授
多々良 健	千葉大学大学院 自然科学研究科	修士	ロボットビジョンのための最適 化問題の高速解法	14.5.1～ 15.3.31	井宮 淳 教授
伊藤 徳史	東京大学大学院 情報理工学研究 科	修士	逆問題の数値解析的研究	14.5.1～ 15.3.31	速水 謙 教授
北井 智也	東京工業大学大 学院情報理工学 研究科	博士	非同期式回路設計ツールの 開発に関する研究	14.7.1～ 15.3.31	米田友洋 教授
Denduang Pradubsu wun	東京工業大学大 学院情報理工学 研究科	博士	Efficient Trace Theoretic Verification of Timed Asynchronous Circuits	14.7.1～ 15.3.31	米田友洋 教授
村上 紘子	千葉大学大学院 自然科学研究科	修士	ロボットのための幾何学	14.10.1～ 15.3.31	井宮 淳 教授

(3) 他大学院教育への協力

平成 13 年度連携大学院

大 学	研 究 科
東京大学	大学院情報理工学研究科
図書館情報大学	大学院情報メディア研究科

平成 14 年度連携大学院

大 学	研 究 科
東京大学	大学院情報理工学研究科
図書館情報大学	大学院情報メディア研究科
東京工業大学	大学院情報理工学研究科

4. 大型プロジェクト

(1) スーパーSINET

スーパーSINETは、最先端研究が超高速通信を活用することにより研究を加速し、また新たな学術研究のスタイルを形成することを念願しつつ開始した情報通信網である。文部科学省では科学技術立国をめざして、全国規模で新たな通信網を形成する基盤整備事業を平成12年度に構想し、最初の「e-Japan重点計画」に取り上げられる事業として計画と準備を進めてきたものである。このようなスーパーSINETは、平成14年1月に運用を開始している。

スーパーSINETは、10Gbpsの速度の光伝送回線で大学や研究機関を結んでいる。平成14年10月に北海道から九州まで規模を拡大しており、同年度末の時点では23機関に回線が設置されている。e-Japan重点計画では2005年までに約30機関を接続するとされていることから、今後も拡大が見込まれている。尚、約770機関が加入するSINETの幹線の大半はスーパーSINETが担っており、この意味で多くの機関が超高速かつ高品質の通信を利用している。図にはスーパーSINETによる研究実施機関の配置が示されている。



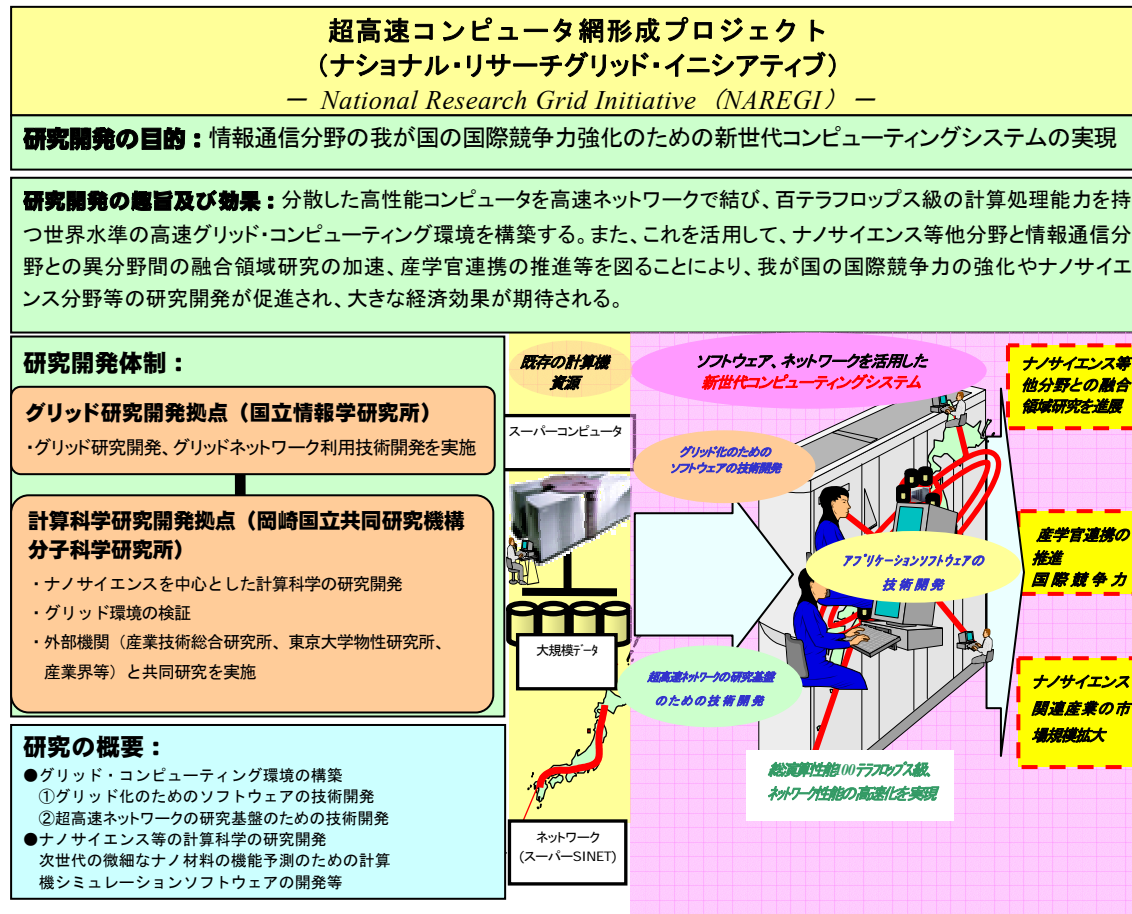
現在は、観測実験やシミュレーションを主体とする研究を行い超高速通信への要求が高い、高エネルギー・核融合科学、宇宙・天文学、遺伝子情報解析、ナノテクノロジー、GRIDの5分野を中心に整備している。10Gbpsの通信を有効に活用するため、光波長多重化装置(WDM)と光クロスコネクタを組み合わせた最新鋭のネットワークとなっており、これを拡大することで、日本の学術研究の更なる発展を支援していく。

(2) 超高速コンピュータ網形成プロジェクトNAREGI

我が国の情報通信分野での国際競争力強化のため、世界最高水準の高速コンピューティングシステム環境の実現をめざす「超高速コンピュータ網形成プロジェクト(ナショナル・リサーチグリッド・イニシアティブ)～グリッド基盤ソフトウェア研究開発～」が国立情報学研究所を中核拠点として平成15年4月から5カ年計画で開始されることになった。

これに関連して、研究開発・検証用ハードウェア等の環境整備に必要となる経費が、平成 14 年度補正予算で認められたことから、その調達作業を開始した。

また、平成 15 年度から開始する本プロジェクトによる研究を推進するため、リサーチグリッド連携研究センターの設置、諸規則制定及び研究拠点整備等の立ち上げ準備を行った。



5. 開発・事業

(1) 開発・事業活動の総括

本研究所では、情報学に関する総合研究並びに学術情報の流通のための学術情報基盤整備として、学術情報ネットワークの構築・運用、学術情報データベースの形成・提供や大学図書館職員に対する教育・研修等の学術情報サービスを提供し、研究成果の活用、社会への還元を実現する開発事業を展開しているところである。

これらの事業展開を円滑に遂行するため、所長の諮問に応じた各々の事項を審議する課金委員会、ネットワーク委員会、学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議、図書館情報委員会及びデータベース委員会が設置されている。

また運営会議の下には、国際事業委員会及び開発・事業全体委員会が設置されており、さらに開発・事業全体委員会の配下には、システム管理部会、ネットワーク部会、図書館情報部会、データベース部会、研究基準情報部会及びポータルサイト事業化プロジェクトが設置され、所管する各々の事業計画の策定及び実施等の検討を行っている。

上述の委員会及び部会では、学術情報基盤の整備にあたって極めて高い先端性を備えたものであることが求められていること、さらに情報学研究の成果を速やかに学術情報基盤の整備・充実に反映させる必要があることから、各研究系・研究施設の教官が積極的に参加する体制を整え、各事業との連携・協力を図りながら、学術情報基盤整備の高度化に努めているところである。

平成 13 年度及び 14 年度の開発・事業における詳細は次項以降に報告されているが、次表のような重点計画を掲げ執行がなされた。

事業名等	平成 13 年度重点計画項目
コンピュータシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期電子図書館システムの検討 ● システムレスポンスの改善(ロードバランサ導入)
学術情報ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● スーパー-SINET の構築 ● インターネット相互接続の増強 ● 日本国内及び国際回線増強 ● パケット交換網廃止 ● ネットワークセキュリティ対策
目録所在情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 新目録所在情報システムへの移行及び多言語対応の促進 ● REMARC の導入 ● ILL システムの海外連携 ● Z39.50 ゲートウェイサーバの公開 ● 学術雑誌総合目録欧文編の全国調査
情報検索サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報検索システムの機能改善 ● 「学術研究活動に関する調査」等の電子化推進及び研究情報データベース事業の改善・強化
電子図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 学協会の参加拡大及びコンテンツ拡充 ● 海外電子ジャーナルの試験提供
オンライン・ジャーナル編集・出版システム	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン・ジャーナル編集・出版システムの利用拡大
学協会情報発信システム	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加拡大に対応したシステムの改善
国際事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国との学術情報交流プロジェクトの推進 ● 海外における CAT 参加機関及び IR ユーザへのサポート強化
研修事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果普及活動の促進 ● ILL 自学修得システムの評価・普及 ● 目録/ILL システム講習会統一実習環境の提供

事業名等	平成 14 年度重点計画項目
コンピュータシステム	<ul style="list-style-type: none"> ● 電子図書館システムの更新 ● 電子ジャーナルサーバの導入
学術情報ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● SINET 及びスーパーSINET の拡充 ● インターネット相互接続の増強 ● 日本国内及び国際回線増強 ● IMnet との統合 ● IPv6 の運用開始 ● ネットワークセキュリティ対策
目録所在情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 新目録所在情報システムへの移行及び多言語対応の促進 ● ILL システムの海外連携 ● RLG とのシステム間リンク ● SPCAT の提供
情報検索サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 機関別定額制のサービスを開始 ● 情報検索システムの機能改善 ● コンテンツ拡充
電子図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 学協会の参加拡大及びコンテンツ拡充 ● 大学紀要の提供 ● 海外電子ジャーナルの試験提供 ● SPARC JAPAN
学協会情報発信システム	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加拡大に対応したシステムの改善
GeNii (NII 学術コンテンツ・ポータル)	<ul style="list-style-type: none"> ● CiNii(NII 引用文献情報ナビゲータ)の公開及び拡充 ● Webcat Plus(次世代 Webcat)の開発・提供 ● 研究紀要ポータルの開発・提供 ● 大学の学術情報資源ポータルの開発・提供
国際事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国との学術情報交流プロジェクトの推進 ● 海外における CAT 参加機関及び IR ユーザへのサポート強化
研修事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果普及活動の促進 ● ネットワークセキュリティ研修の実施 ● 国際研修の推進

(2) 科学技術振興事業団との情報関係事業の連携・協力

平成 12 年 12 月、総務庁「科学技術に関する行政監察結果に基づく勧告(第一次)」により、国立情報学研究所と科学技術振興事業団の情報関係事業の連携・協力のあり方について検討し、所要の措置を講じるよう指摘を受けた。平成 13 年 1 月から、文部科学省と両機関で検討を行い、平成 13 年 8 月に両機関の情報関係事業の連携・協力のあり方についてとりまとめが出され、両機関の情報関係事業の整理・統合について方針が示された。これに基づき、次のように各サービスの移行を行うこととなった。

従来のNIIのサービス		計 画
1.情報検索サービス (NACSIS-IR)	学会発表データベース	H14.3に更新終了 H15.3にサービス終了 平成14年度からJSTのJ-STAGEにより順次提供開始
	SCIE (Science Citation Index Expanded)	サービス継続
	COMPENDEX PLUS	H14.3にサービス終了 JSTのSTN Internationalから提供
	ISTP、ISTP&B	H14.3にサービス終了
	MathSci	
	Harvard Business Review	
	学術論文データベース	H14.3に更新終了
	臨床症例データベース	H15.3にサービス終了し、電子図書館サービスへ移行
	学術雑誌目次速報データベース	サービス継続
	研究者ディレクトリ	平成13年度調査分まで更新し、H15.3にサービス終了 平成14年度調査からJSTのReaDに統合 サービス終了後はJSTのReaDから提供 個別版データの提供サービスは、JSTが「データ交換標準仕様」を作成し、電子データのデータ受取り・提供を実施
上記以外のデータベース	サービス継続	
2.ディレクトリ系データベース	研究活動資源ディレクトリ (NACSIS-DiRR)	平成13年度調査分まで更新し、H15.3にサービス終了 平成14年度調査からJSTのReaDに統合 サービス終了後はJSTのReaDから提供 個別版データの提供サービスは、JSTが「データ交換標準仕様」を作成し、電子データのデータ受取り・提供を実施
3.学会等情報発信支援事業	オンラインジャーナル編集・出版システム (NACSIS-OLJ)	H14.3にサービス終了 平成14年度からJSTのJ-STAGEにより提供
	電子図書館サービス (NACSIS-ELS)	サービス継続 大学紀要については、平成14年度から収録・公開を開始 また、公開支援システムも順次開発・提供予定
4.ネットワーク事業	SINET スーパーSINET	JSTのIMnetを平成15年度を目途にNIIのSINET及びスーパーSINETに段階的に統合
5.研究者公募情報提供サービス (NACSIS-CIS)		H13.10にJSTのJREC-INへ移管
6.目録所在情報サービス(NACSIS-CAT / ILL 及び Webcat)		サービス継続
7.学協会情報発信サービス(Academic Society Home Village)		サービス継続
8.オンライン学術用語集(NACSIS-Sciterm)		サービス継続

注) は JST のサービスへ移行。

(3) コンピュータシステムの概要

① 目録所在情報サービス及び情報検索サービス用システム

平成 12 年 1 月に機種更新を行ったシステムで、従来のシステムとの互換性を保ちつつサービスの充実を図ったものになっており、利用者がアクセスするためのフロントエンドサーバとデータベース機能を提供するためのバックエンドサーバに分離した構成としている。

(ア) 目録所在情報サービス用システム

ハードウェアは、新 CAT/ILL に対応したフロントエンドサーバ(HitachiVT850)3 台と従来の CAT/ILL に対応したフロントエンドサーバ(MP5800/310、MP5600/210E)に対し、総合目録データベースを構築するバックエンドサーバ(HitachiVT850)1 台の構成である。

また、新 CAT/ILL のレスポンス向上を図る目的で、平成 13 年 10 月にロードバランサを追加した。

(イ) 情報検索サービス用システム

情報検索サービス用システムは、全面的にオープンシステムへ移行しており、WWW ブラウザを利用したグラフィカルな検索をソフトウェアで実現している。

ハードウェアは、提供するデータベースの種類が 53 種類と多いこと、平成 14 年 4 月から機関別定額制のサービスを開始したことから、フロントエンドサーバを追加し、フロントエンドサーバ(Sun Enterprise 4500)2 台に、バックエンドサーバ(Sun Enterprise 4500)4 台、ファイルサーバ(Sun Enterprise 6500)1 台の構成としている。

② 電子図書館システム

平成 15 年 1 月に更新したシステムで、フロントエンドサーバ(Fujitsu PRIMEPOWER 200)2 台と、バックエンド側にデータベースサーバ(Fujitsu PRIMEPOWER 8CPU モデル)2 台及び情報検索サーバ(Fujitsu PRIMEPOWER 8CPU モデル)の合計 5 台による構成となっている。ディスクはコンテンツの増大や pdf ファイルの提供開始に対応するため、従来機種の 3.5 倍の容量となる 14TB を有している。

また、電子図書館サービスでは画像ファイル等サイズの大きなファイルを取り扱うことから、ギガビットネットワークによるシステムを構成し、高速通信を可能とした。

③ 研究基準情報サーバシステム

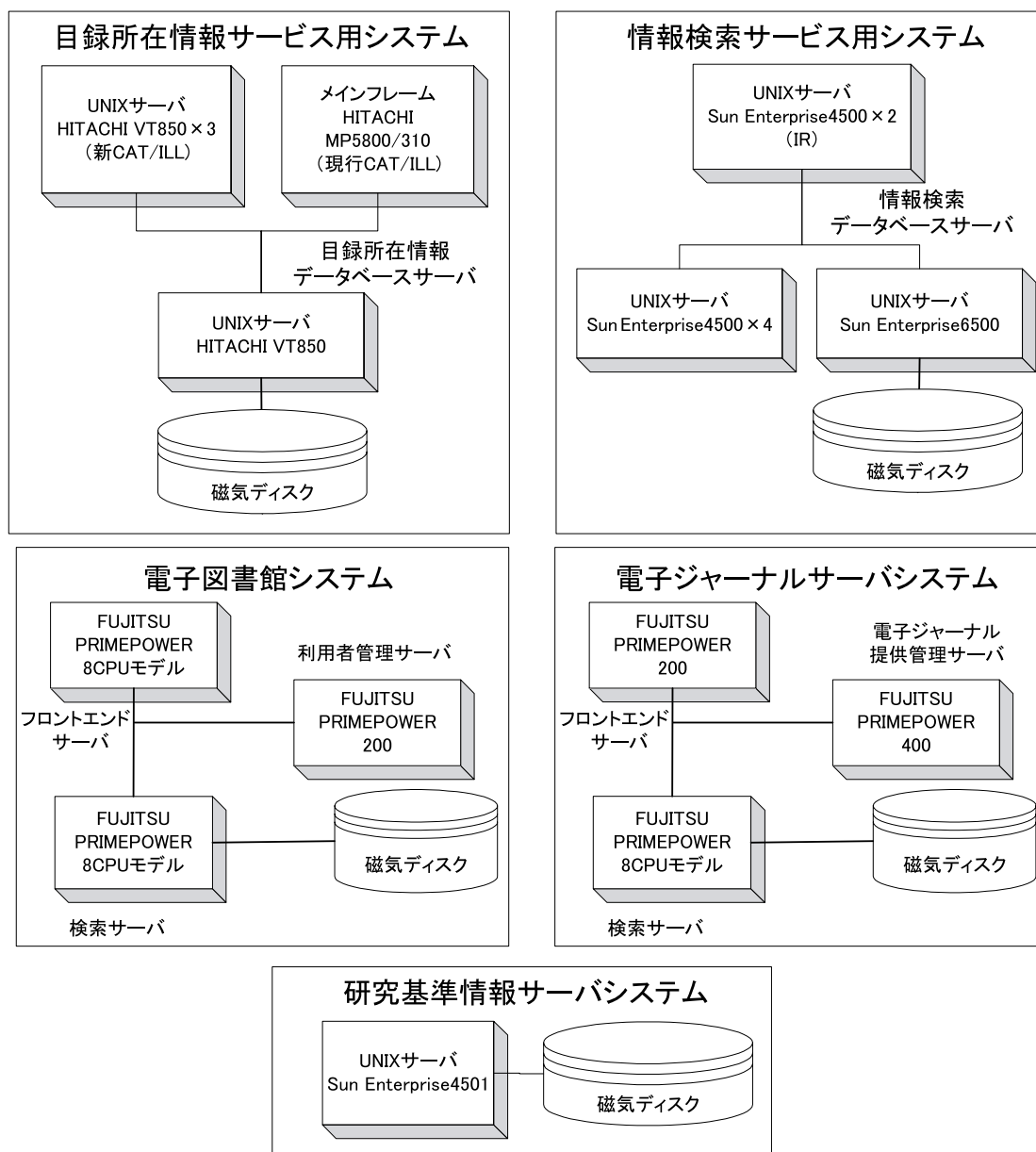
情報学研究の基準となる標準情報(画像処理の品質測定に使用する標準画像や情報検索における標準テキストなど)を収集蓄積、利用することにより、研究活動の促進を支援するためのシステムで、平成 13 年 1 月に導入した。このシステムは、UNIX サーバ(Sun Enterprise 4501)、ディスクアレイ装置(6TB の RAID ディスク)、バックアップ装置及び画像入出力装置等で構成されている。

④ 電子ジャーナルサーバシステム

大学等で利用する電子ジャーナルを蓄積し、研究者に提供するシステムで、平成 15 年 1 月に導入した。現在、Oxford University Press のミラーサーバが稼働中である。

また、電子ジャーナル共同利用支援事業(NII-Reo NII 電子ジャーナルリポジトリ)により電子ジャーナルコンテンツを横断検索するサービスを公開するため準備を行っている。

システム構成は、フロントエンドサーバ(Fujitsu PRIMEPOWER 200)2 台と、バックエンドに、データベース検索用サーバ(Fujitsu PRIMEPOWER 8CPU モデル)及び電子ジャーナル提供管理サーバ(Fujitsu PRIMEPOWER 400)等による構成となっている。



国立情報学研究所コンピュータシステム

(4) 学術情報ネットワーク (SINET) / スーパーSINET

① 概要

学術情報ネットワーク(SINET)は、日本全国の大学、研究機関における研究及び学術情報の流通の促進を図るため、全国にノード(ネットワーク接続拠点)を設置し、大学等の研究機関を接続した学術研究のための情報ネットワークである。

スーパーSINETは、先端的学術研究機関間の連携を強化して、日本の学術研究を飛躍的に発展・増進させることを目的とする超高速ネットワークである。

② 国内ネットワーク

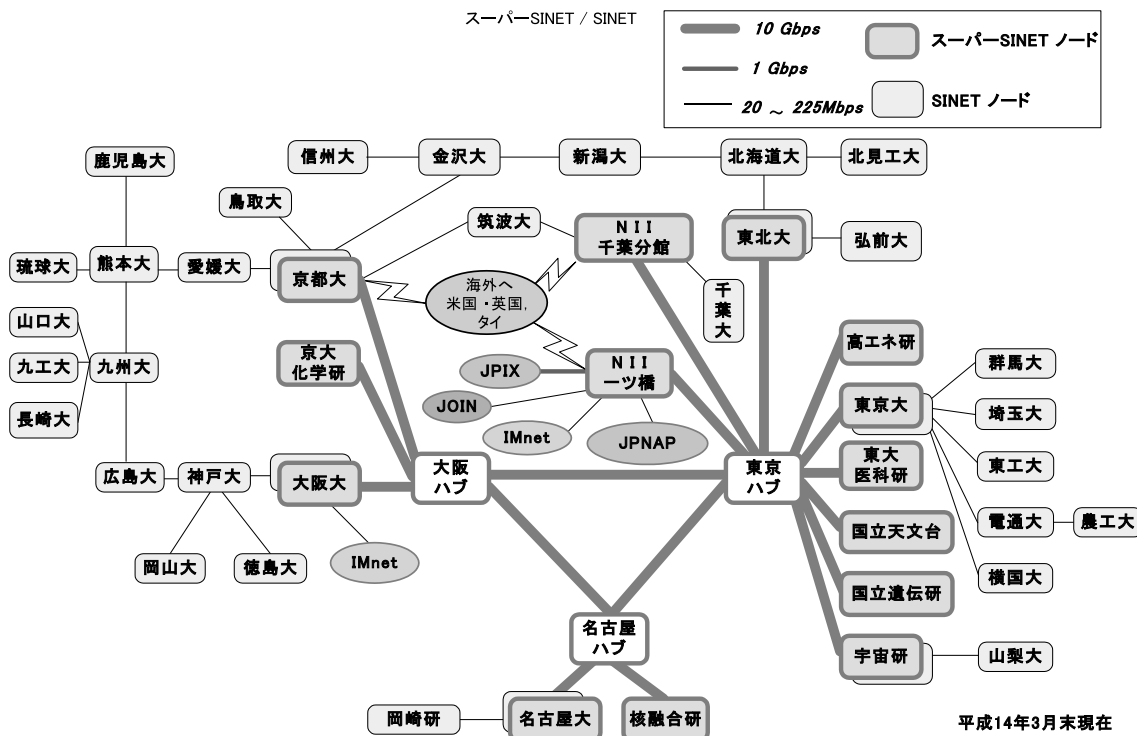
学術情報システムを支える基盤伝送路として、全国にSINETノード 36 箇所(H13 時点)、43 箇所(H14)にノードを設置している。

スーパーSINETの運用開始に伴いバックボーンの回線構成をATM交換機によるループ構成から超高速ルータを中心としたスター構成にし、研究環境に提供するネットワークの高速化を行った。

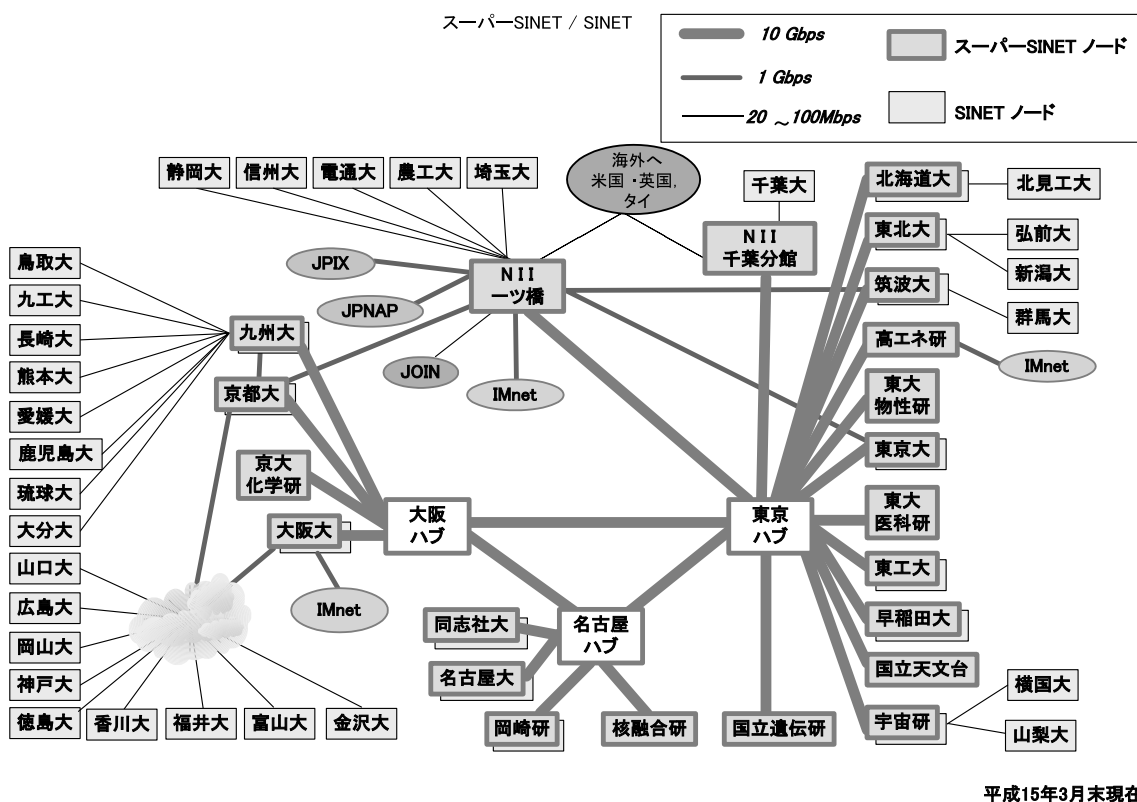
(a) SINETノード及び回線網の整備

平成15年1月に早稲田大学^{※1}、同志社大学^{※1}、静岡大学、福井大学、富山大学、香川大学、大分大学にSINETノードを設置した(※1：早稲田大学、同志社大学は、スーパーSINETノードと同時期の平成14年10月に運用を開始した)。

学術情報ネットワーク回線構成図



学術情報ネットワーク回線構成図



(b) 他ネットワークとの相互接続の強化

平成 13 年 10 月から、IMnet (省際研究情報ネットワーク) 国際 NOC と東京大学ノード、大阪 NOC と大阪大学ノード間で相互接続を開始した。平成 14 年 7 月から国際 NOC と国立情報学研究所 (一橋)、大阪 NOC と大阪大学ノード、筑波 NOC と高エネルギー加速器研究機構ノード間をそれぞれ 1Gbps で相互接続を開始した。

また、民間ネットワーク相互接続速度を JPIX は平成 13 年 5 月から 1Gbps、JPNAP は平成 14 年 3 月から 1Gbps とした。

(c) ATM LAN 接続の整備

各大学等の学内 ATM LAN と SINET ルータ間の接続は各大学の学内 LAN が GigabitEthernet に高速化されたことにより、ATM LAN 接続環境を終了し、今後は GigabitEthernet での接続環境の整備に移行する。

(d) パケット交換網廃止

パケット交換網は、インターネットの急速な進展により利用が急速に減少しているため、平成 13 年度末に廃止した。

(e) ノード無停電化工事

学術情報ネットワークの信頼性向上のため、建物の電気設備の法定点検等に伴う停電時の対応として、屋外に設置した可搬型発電機による給電により、ネットワーク機器について停電を回避しネットワークが停止しない環境を平成 13 年度から随時整備した。平成 14 年度末で 20 ノードの整備を行った。

(f) ATM 交換網廃止

ATM 交換網は、スーパーSINET で利用する超高速回線(1Gbps 以上の速度)に対応していないため、平成 14 年度末に廃止した。

(g) 加入機関数

平成 14 年 3 月末における加入機関数を次表に示す。

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等専門 学校	共同利用 機関	その他	計
加入機関数	97	52	304	99	44	15	171	782
今年度増減 (内数)	2	0	14	-1	1	0	-14	30

平成 15 年 3 月末における加入機関数を次表に示す。

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等専門 学校	共同利用 機関	その他	計
加入機関数	92	47	275	95	44	15	198	766
今年度増減 (内数)	-5	-5	-29	-4	0	0	27	-16

③ 国際ネットワーク

国際的な研究情報の流通の促進及び研究ネットワークとの連携を図るため、海外の超高速テストベッドネットワークである米国の Abilene や欧州の DANTE 等と相互接続しており、米国、英国、タイ王国と専用回線により接続している。

④ スーパーSINET

平成 13 年度より、学術研究の新たな展開として、高エネルギー物理学、宇宙・天文科学、遺伝子情報及びスーパーコンピュータ連動 (GRID) 等の先端的学術研究の中心的な研究機関を、10Gbps の超高速・広帯域で接続するスーパーSINET の運用を平成 13 年度は平成 14 年 1 月から開始し、次

のノードの設置を行った。

東北大学、東京大学、東京大学医科学研究所、名古屋大学、京都大学、京都大学化学研究所、大阪大学、宇宙科学研究所、国立遺伝学研究所、国立天文台、核融合科学研究所、高エネルギー加速器研究機構、国立情報学研究所。

平成 14 年度は、次のノードの増設を行った。

北海道大学、東北大学金属材料研究所／流体科学研究所、筑波大学、東京大学物性研究所、東京工業大学、岡崎国立共同研究機構、九州大学、早稲田大学、同志社大学。

⑤ ネットワークセキュリティ対策

ネットワークを運用・管理する上で、ネットワークセキュリティ対策は重要な課題になっており、外部ネットワークからの攻撃やコンピュータの不正利用等へ対応するため、学術情報ネットワークのアクセス履歴を採集して不正アクセスの状況を分析する。不正アクセス検知システム及び加入機関向けにセキュリティ情報を公開するための検索システムの構築を行った。

⑥ IPv6 の運用

平成 13 年度に IPv6 の IP アドレスの sTLA を取得し、ネットワークの設計、試行サービスを開始し、平成 14 年 9 月から正式サービスとして運用を開始した(平成 14 年度末時点で国立情報学研究所を含め、31 機関・研究室に IPv6 の IP アドレスの割り当てを行った)。

(5) 目録所在情報サービス

目録所在情報サービスは、目録システム(NACSIS-CAT)と図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL)からなっており、我が国の研究者の研究活動を支援することを目的としている。目録システム(NACSIS-CAT)は、全国の大学図書館等にどのような学術文献(図書・雑誌)が所蔵されているかが即座に分かる総合目録データベースを作成するシステムであり、図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL)は、図書館同士が図書や雑誌論文を相互に利用し合うための連絡業務を支援するシステムである。

① 目録システム(NACSIS-CAT)

(ア) 参加状況及び運用状況

(i) 参加状況

平成 13 年度は 126 機関、平成 14 年度は 29 機関の新たな参加があり、平成 14 年度末における目録所在情報サービスへの参加機関数は合計 1,010 機関となった。大学図書館については、全大学数の約 90%に相当する参加率となっている。近年は、短期大学・高等専門学校やその他の機関の参加が多い。年度毎の設置主体別の参加機関数及び新規参加機関数は、次のとおりである。

目録所在情報サービス参加機関数の推移

平成 15 年 3 月末現在

区 分	国立大学	公立大学	私立大学	共同利用 機関等	短期大学 高専	その他	計	新規参加 機関数
昭 59	3	0	0	0	—	0	3	3
昭 60	12	0	0	0	—	0	12	9
昭 61	25	0	4	0	—	0	29	17
昭 62	49	0	12	0	—	0	61	32
昭 63	70	0	17	4	—	0	91	30
平元	82	3	36	5	—	0	126	35
平 2	93	4	49	5	—	2	153	27
平 3	95	9	78	8	—	2	192	39
平 4	96	16	111	11	9	9	252	60
平 5	97	23	147	12	15	18	312	60
平 6	97	29	186	12	26	26	376	64
平 7	98	35	225	12	33	43	446	70
平 8	98	35	254	12	58	54	511	65
平 9	98	41	283	12	84	79	597	86
平 10	99	46	313	14	116	82	670	73
平 11	99	55	342	14	136	89	735	65
平 12	99	70	413	14	151	108	855	120
平 13	99	72	455	14	172	169	981	126
平 14	97	73	466	15	175	184	1,010	29

* 平成 5 年 8 月から目録所在情報サービスの利用者の範囲を、国公立試験研究機関の図書館・図書室、学会の図書館・図書室及び公共図書館(都道府県・政令指定都市立)等に拡大した。また、平成 7 年度には、英国の図書館 6 機関が正式に参加し、平成 15 年 3 月末現在、海外から 44 機関が参加している。

(ii) データベースの形成状況

図書データベースの所蔵データの合計は、平成 14 年 5 月に 6,000 万件を突破し、それ以降も順調に増加している。平成 13 年度は 692 万件、平成 14 年度は 657 万件が新たに追加され、平成 15 年 3 月末に累計で 6,590 万件を超えた。また書誌データは、平成 13 年度に約 45 万件、平成 14 年度には約 48 万件が追加された。

雑誌データベースの所蔵データは、平成 13 年度には約 11 万件、平成 14 年度には約 18 万件増加している。

総合目録データベース及び参照ファイルの収録件数を次に示す。

総合目録データベース収録件数

データベース名		件数(平成 14 年 3 月末)	件数(平成 15 年 3 月末)
図 書	書 誌	6,155,753	6,638,045
	所 蔵	59,372,712	65,939,643
雑 誌	書 誌	243,335	263,967
	所 蔵	3,674,427	3,850,294
著 者 名 典 拠		1,197,785	1,244,891
統 一 書 名 典 拠		19,612	20,472
雑誌変遷マップ		31,177	33,637

データベース名	件数	収録範囲	
参照 LC (USMARC)	洋図書	7,188,307	1968 年～最新分
	非文字資料	268,147	1984 年～最新分
	洋著者名典拠	3,400,010	1977 年～最新分
	洋統一書名典拠	275,251	1977 年～最新分
	洋雑誌	937,681	1973 年～最新分
参照 JP(JAPANMARC)	和図書	2,981,694	1868 年～最新分
	和著者名典拠	325,315	1969 年～最新分
	和雑誌	116,835	1989 年～最新分
参照 UK(UKMARC)	洋図書	2,251,949	1950 年～最新分
参照 DN(DNMARC)	洋図書	3,372,190	1945 年～最新分
参照 TRC(TRCMARC)	和図書	1,129,289	1985 年～最新分
参照 GPO(GPOMARC)	洋図書	519,348	1976 年～最新分
参照 CH(CHMARC)	洋図書	874,344	1988 年～最新分
参照 RE(REMARC)	洋図書	4,198,432	1890 年～1967 年(完結)

(iii) 総合目録データベース品質管理の状況

総合目録データベースの蓄積量の急速な増加に伴い、データベースの品質管理、書誌レコード等の調整がますます重要度を増している。年間、約 10,000 件の書誌レコードを調整し、処理を行っている。

また、「目録情報に関する質問書/回答書」は、従来 FAX を活用していたが、平成 12 年 8 月から WWW で受け付けるようにし、質問手続きの簡素化、回答の迅速化を図り、活発に利用されている。平成 14 年度は、質問・回答システムの改造を行い、さらに事務手続きの簡便化を図った。

(iv) 入力規則及びマニュアルの整備

総合目録データベースの入力規則やコーディングマニュアル等を整備するために、大学図書館等の目録実務担当者による小委員会を組織している。平成 13 年度は、韓国・朝鮮語資料の取扱い、古籍の取扱いの検討を行った。平成 14 年度は、和漢古書資料等の取り扱い、アラビア文字資料の取扱い及びネットワーク情報資源のメタデータ・データベース(仮称)の共同構築について検討を行った。

また、ネットワーク情報資源の取り扱いについては、小委員会の設置に先立ち、平成 13 年度から 14 年度にかけて「ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する検討会議」、「メタデータデータベース検討会議」、「メタデータ・データベース試行運用連絡会議」等を開催し、検討を重ねた。

(イ) 遡及入力の推進

各図書館における総合目録データベースへの遡及入力を支援するため、REMARC(米国議会図書館の 1890 年～1967 年までの目録データ)を参照ファイルとして導入し、平成 14 年 9 月から運用を開始した。

(ウ) Webcat の提供

総合目録データベースをインターネット上で WWW により検索できるサービス Webcat を公開している。Webcat 年間利用回数(検索件数)は、1,800 万回を超えている。平成 14 年度は、Webcat の高度発展サービスとして、Webcat Plus を GeNii のコンポーネントとして公開した。

(エ) 個別版 CD-ROM、SPCAT の提供

総合目録データベースに登録された各参加機関の書誌・所蔵データを CD-ROM として提供する個別版 CD-ROM システム提供サービスを平成 7 年度から平成 13 年度まで運用した。サービスを提供した機関の累計は 263 機関であった。平成 14 年度からは、その後継サービスとして SPCAT サービスを開始した。

② 学術雑誌総合目録編集事業

学術雑誌総合目録和文編 2000 年版の刊行に引き続き、平成 13 年度から平成 14 年度にかけて欧文編 2002 年版のデータ更新を実施した。なお、冊子体の刊行は前記和文編 2000 年版をもって終了した。

今回の欧文編データ更新では、平成 13 年 10 月 1 日を基準日とし、平成 14 年 3 月までを更新作業期間とした。更新方法では、目録システム、WebUIP を利用したオンラインでの更新が急増し、全体の 9 割以上を占めている。WebUIP とは、新たに用意した所蔵登録専用クライアント WebUIP による更新方法である。なお、CD-ROM データ作成システムによる更新方法の提供は、中止した。

更新方法別の参加組織数を以下に示す。

学術雑誌総合目録欧文編 2002 年版データ更新の参加組織数

更新方法	参加組織数
オンライン(目録システム)	1,023
オンライン(WebUIP)	170
磁気テープ	43
データシート	80
その他	2
計	1,318

③ ILLシステム(NACSIS-ILL)

(ア) 参加状況及び運用状況

(i) 参加状況

①目録システム(ア)を参照。

(ii) 処理件数

平成 13 年度、平成 14 年度に ILL システムでの処理が完了したレコード件数は、以下のとおりである。レコード作成件数は 1 日平均で約 4,200 件であった。ILL システムを利用した ILL 処理の件数は、大学図書館全体の ILL 処理件数(ILL システムによらない文書等での ILL 処理を含む)の約 8 割を占めている。

	平成 13 年度	平成 14 年度
複写件数	1,037,974 件	1,043,529 件
貸借件数	81,717 件	87,133 件
合計件数	1,119,691 件	1,130,662 件

(イ) NACSIS-IR からの申込みサービス

平成 5 年度に開始した NACSIS-IR からの ILL 申込機能は、平成 14 年度末現在、70 機関(96 窓口)で利用されている。

(ウ) 英国図書館原報提供センター(BLDSC)への依頼機能サービス

平成 6 年度から開始した BLDSC への文献複写現物貸借依頼機能サービスは、平成 14 年度末現在、289 機関(395 窓口)で利用されている。平成 13 年度の依頼件数は 11,544 件、平成 14 年度の依頼件数は 12,114 件であった。

(エ) 国立国会図書館への依頼機能サービス

平成 8 年度から開始した国立国会図書館への文献複写現物貸借依頼機能サービスは、平成 14 年度末現在、506 機関(721 窓口)で利用されている。平成 13 年度の依頼件数は、26,498 件、平成 14 年度の依頼件数は、24,927 件であった。

(オ) 複写データ処理センター

平成 9 年度から、国立大学等図書館間の文献複写料金を予算振替するための複写経費データの集計処理を行う複写データ処理センター業務を大阪大学附属図書館から引き継ぎ、処理を行っ

ている。平成 13 年度前期・後期分の合計では、NACSIS-ILL 分 561,124 件、マニュアル分 1,411 件、平成 14 年度は、NACSIS-ILL 分 503,859 件、マニュアル分 1,329 件と、全体に占めるマニュアル処理の割合が約 0.3%に減少している。

④ 新目録所在情報サービスの展開

(ア) 多言語対応システムの運用環境整備

平成 12 年 1 月から多言語対応目録システムの運用を開始したことに伴い、クライアント側の入力環境整備として、多言語対応ゲートウェイ WebUIP を開発して、平成 13 年 1 月から提供を開始した。併せて多言語対応システムを利用して登録された中国語資料を Webcat 上でも表示できるようにシステム改造を実施した。

平成 12 年 1 月から中国書の登録の運用を開始した。また平成 14 年 9 月からは、韓国・朝鮮語資料の登録の運用を開始した。

(イ) 検索専用 Z39.50 ゲートウェイサーバ、検索専用 CATP サーバの公開

CULCON(日米文化教育交流会議)等からの要請を受け、日本の書誌データベースのアクセス改善を図るため、海外等の機関から、総合目録データベースの検索利用を可能とするため、国際標準である情報検索プロトコル Z39.50(JIS X 0806)に対応した総合目録データベース検索専用のプロトタイプ(Z39.50 ゲートウェイサーバ)を開発した。Z39.50 ゲートウェイサーバは平成 13 年 6 月から試行運用を開始し、平成 14 年度から本運用を開始した。

また、各図書館 OPAC(オンライン目録検索システム)での横断検索等の目的に供するため、新 CAT システムの独自プロトコル(CATP)による総合目録データベースの検索専用サーバを開発し、平成 14 年 6 月に公開した。

(ウ) システム間のリンクの実現

海外の書誌ユーティリティとのシステム間リンクを実現するために、目録システム及び ILL システムの開発を行った。

目録システムでは、国際標準である Z39.50 プロトコルに基づいて、平成 14 年 6 月から RLG(The Research Libraries Group Inc.)との目録システム間リンクの運用を開始し、NACSIS-CAT を通じて、RLG の総合目録(RLG Union Catalog)を参照できるようにした。

ILL システムにおいては、国際標準である ISO ILL プロトコル(JIS X 0808/0809)に基づいて、平成 14 年 1 月から OCLC との ILL システム間リンクの試行運用を開始した。その後、運用にかかる整備を行い、平成 14 年 4 月から OCLC との ILL システム間リンクを本格運用した。

(エ) 説明会の開催

平成 13 年度は、全国 5 か所で「新 CAT/ILL システム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会」を開催し、約 900 名の参加があった。説明会では、新目録所在情報サービスの普及促進のため、国際対応の一環として開発を行った ILL システムの ISO ILL プロトコル対応及び目録システムの Z39.50 対応を紹介した。

平成 14 年度は、ネットワーク上の情報資源の組織化を推進するため、「メタデータ・データベース共同構築事業説明会」を全国 5 か所で開催し、約 1,200 名の参加があった。説明会では、入力システムの紹介を行うとともに、データ作成対象の選定やデータ記述方法等、実際のデータ作成にあたって必要な事項を説明した。

(6) 情報検索サービス

情報検索サービス(NACSIS-IR : Information Retrieval)は、学術研究情報を迅速かつ的確に研究者等に提供することを目的として、人文・社会・自然科学の分野にわたる約 1 億件の学術情報を蓄積し、インターネットにより提供している。

本研究所におけるデータベースは、本研究所が企画・作成したもの(作成データベース)、海外等のデータベース作成機関から導入したもの(導入データベース)、他の機関・研究者等が作成したものを受入れたもの(受入データベース)の 3 種類に分類される。

作成データベースでは、次の変更があった。

- ・平成 13 年度・平成 14 年度ともに、学術雑誌目次速報データベースの参加機関等の拡充、引用文献索引データベースの収録対象誌の拡大を図った。
- ・平成 13 年 8 月に「現行法令データベース」のサービスを終了した。
- ・平成 14 年 9 月に「学術関係会議等開催情報(日本学術会議編)」のサービスを終了した。
- ・平成 15 年 3 月に「学術論文データベース(第一系、第二系、第五系)」、「臨床症例データベース」、「学会発表データベース」及び「研究者ディレクトリ」のサービスを終了した。

導入データベースでは、次の変更があった。

- ・平成 14 年 3 月に「Math Sci」、「COMPENDEX PLUS」、「Harvard Business Review」、「ISTP & B」及び「ISTP」のサービスを終了した。
- ・平成 14 年 10 月から「雑誌記事索引データベース」の 1948-1974 年(人文社会編)を追加収録した。

受入データベースでは、次の更新があった。

- ・平成 13 年 9 月から「東南アジア関係文献目録データベース」のサービスを開始した。
- ・平成 14 年 9 月に「学協会集会スケジュール(日本工学会編)」のサービスを終了した。

① データベース検索サービス

平成 12 年度に引き続き、平成 13 年度は 58 種類、平成 14 年度には、53 種類のデータベースサービスを行った。

データベースサービス一覧

作成データベース(15)

データベース名称	12 年度末 データ	13 年度末 データ	14 年度末 データ	概 要
現行法令データベース	件 4,159	件 4,159	件 —	我が国の現行法令の全文情報
経済学文献索引データベース	187,766	202,758	214,400	我が国の経済学分野の学術文献の索引情報
学術論文データベース 第五系(理学)	19,576	24,279	24,333	理学分野の学会論文の全文情報
学術論文データベース 第二系(化学)	28,255	31,960	31,960	化学分野の学会論文の全文情報
学術論文データベース 第一系(電子)	19,595	24,065	24,065	電子分野の学会論文の全文情報(一部抄録のみ)
臨床症例データベース	15,898	18,099	20,383	我が国の臨床医学分野の症例報告の全文情報
科学研究費補助金研究成果概要データベース	330,986	423,146	470,148	科学研究費補助金による研究成果報告の概要情報(抄録付)
科学研究費補助金採択課題データベース	186,090	229,250	269,826	文部科学省が科学研究費補助金の交付を決定した研究課題の索引情報
学位論文索引データベース	211,110	243,208	246,346	博士学位論文の索引情報
学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	24,235	24,235	—	日本学術会議に登録している学協会が関係している国際会議等の開催予定情報

学術雑誌目次速報データベース	296,788	330,237	385,535	国内で刊行される大学紀要類、学協会誌、商業雑誌等の学術雑誌に掲載される記事情報
引用文献索引データベース	181,532	338,690	549,445	我が国の理工学・農学・医学分野の主要な学術雑誌に掲載された記事の索引及び引用情報
学会発表データベース	482,576	580,752	597,828	我が国の学協会の全国大会・研究会の発表の概要情報(抄録付)
研究者ディレクトリ	164,059	161,968	158,509	大学等の研究者の研究課題・発表論文等の情報
データベース・ディレクトリ	3,371	3,544	4,178	我が国の大学等で作成又は検索サービスされているデータベースのディレクトリ
民間助成研究成果概要データベース	10,695	12,720	13,393	民間助成財団等の研究補助金により行われた研究成果の概要情報
目録所在情報データベース(図書)	書誌 5,708,297 所蔵 52,421,362	書誌 6,160,322 所蔵 59,443,654	書誌 6,628,340 所蔵 65,961,765	我が国の大学図書館等が所蔵する図書の総合目録情報
目録所在情報データベース(雑誌)	書誌 236,591 所蔵 3,568,070	書誌 243,400 所蔵 3,676,170	書誌 264,216 所蔵 3,854,675	我が国の大学図書館等が所蔵する雑誌の総合目録情報

導入データベース(15)

データベース名称	12年度末データ	13年度末データ	14年度末データ	概要
Arts & Humanities Citation Index	2,115,943	2,216,126	2,325,423	人文科学分野の論文及び引用情報の二次情報
Social Sciences Citation Index	2,426,620	2,564,651	2,713,479	社会科学分野の論文及び引用情報の二次情報(抄録付)
Harvard Business Review	3,227	3,383	—	Harvard Business Review誌の全文情報
Science Citation Index Expanded	15,454,148	15,454,148	16,518,299	自然科学分野の論文及び引用情報の二次情報(抄録付)
国立国会図書館科学技術欧文会議録データベース	61,073	63,406	63,500	国立国会図書館が所蔵する科学技術分野の国際会議・各種シンポジウム等の欧文会議録の書誌情報
ISTP&B	109,314	109,314	—	科学技術分野の会議録等文献の二次情報

ISTP	441,185	644,544	—	科学技術分野の会議録等文献の二次情報(抄録付)
MathSci	1,896,778	1,957,292	—	数理科学分野の文献の二次情報(抄録付)
COMPENDEX PLUS	4,405,526	4,633,275	—	工学分野の文献の二次情報(抄録付)
国立国会図書館洋書目録データベース	199,621	205,651	213,443	国立国会図書館が所蔵する洋書の書誌情報
雑誌記事索引データベース	3,894,097	4,235,127	5,687,711	我が国の学術雑誌等に掲載された学術文献の索引情報
民間助成決定課題データベース	30,204	36,010	41,538	助成財団等が助成金の交付を決定した助成課題の索引情報
JPMARC	2,596,866	2,728,883	2,981,694	国立国会図書館作成の図書目録情報
LCMARC (Books)	6,577,725	6,577,725	7,207,878	米国議会図書館作成の図書目録情報
LCMARC (Serials)	827,449	827,449	938,681	米国議会図書館作成の雑誌目録情報

受入データベース(26)

データベース名称	12年度末データ	13年度末データ	14年度末データ	概要
大型コレクションディレクトリ	558	566	566	国立大学附属図書館が収集している人文・社会科学系の特別資料の目録所在情報
文化財科学文献データベース	20,489	24,314	24,314	文化財を対象とした自然科学的測定・分析に関する国内論文等の文献情報
印度学・仏教学研究ディレクトリ	759	812	812	我が国で研究活動をしている東洋史研究者の印度学・仏教学研究関係研究者のプロフィール及び発表論文情報
現代邦楽作品データベース	1,665	1,665	1,665	主として戦後に作曲された現代邦楽の目録情報
社会学文献情報データベース	53,043	53,043	64,372	日本人研究者が発表した／日本国内で発表された社会学関連の文献情報
教科教育実践学関係資料(国語科)データベース	23,000	23,000	30,637	鳴門教育大学附属図書館で所蔵する教科教育実践学(国語教育)に関する資料の書誌・所蔵情報

維新史料綱要データベース	28,667	28,667	28,667	「維新史料綱要」(全10巻)の全文情報及び「大日本維新史料」の索引情報
古文書目録データベース	52,676	52,676	52,676	東京大学史料編さん所が所蔵する史料複本(影写本等)に収録された古文書の目録情報
北海道大学北方資料総合目録データベース	43,801	43,801	43,801	北海道大学北方資料室が収集・所蔵する北方研究に関する文献の目録情報
アジア歴史研究者ディレクトリ	1,799	1,799	2,007	我が国で研究活動をしている東洋史研究者のプロフィール及び発表論文情報
中央アジア研究文献索引データベース	17,558	17,558	22,349	我が国における中央アジア文化圏に関する学術文献の索引情報
中東・イスラーム研究文献索引データベース	18,205	21,021	24,602	我が国における中東及びイスラーム文化圏に関する学術文献の索引情報
スラブ地域研究文献データベース	11,773	13,232	15,020	我が国のスラブ地域に関する論文等の文献情報
日本独文学会文献情報データベース	30,884	30,884	30,884	日本独文学会寄贈文献及び「ドイツ文学」掲載論文等の文献情報
ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース	5,466	5,466	7,600	ロシア外交史料館で所蔵する日本関連文書のファイルの目録情報
日本アメリカ研究文献情報データベース	18,074	19,661	19,661	日本国内で刊行されたアメリカ合衆国とカナダに関する文献情報
東南アジア関係文献目録データベース	—	10,636	10,636	日本国内で刊行された東南アジアに関する書籍及び学術雑誌の文献情報
化学センサーデータベース	27,163	27,163	31,729	化学センサーの作成法・特性及び文献情報
化学と教育誌データベース	3,537	3,537	3,537	日本化学会「化学と教育」誌掲載論文等の抄録付き文献情報
RAMBIOS	13,652	13,652	16,351	分子生物学諸分野のレビュー文献の索引情報
霊長類学文献情報データベース	95,880	95,880	95,880	世界各国の霊長類学に関する文献の書誌情報

学協会集会スケジュール (日本工学会編)	14,384	14,384	—	日本工学会所属の学協会が関係している大会・研究会等のスケジュール情報
日本建築学会文献索引データベース	71,781	71,781	71,781	日本建築学会が発行する雑誌に掲載された論文の索引情報
日本の医学会会議録データベース	32,908	32,908	32,908	日本国内で開催された医学・薬学に関する学会、研究会の予稿集、抄録集、会議録の書誌情報
地理学文献データベース	13,897	13,897	13,897	日本国内で刊行された、地理学及び隣接関連分野に関する文献情報
家政学文献索引データベース	155,902	164,525	171,294	我が国の家政学分野の学術文献の索引情報

合 計	105,898,308 件 49,908,876 件 (所蔵を除く)	115,220,128 件 52,100,304 件 (所蔵を除く)	119,228,637 件 49,412,197 件 (所蔵を除く)	
-----	--	--	--	--

② 利用状況

平成 13・14 年度における利用実績は、以下のとおりである。

年度	登録者数(従量制)	登録機関(定額制)	利用回数	接続時間	表示件数
13 年	8,717 人	—	61 千回	156 千分	1,900 千件
14 年	9,673 人	374 機関	222 千回	381 千分	2,915 千件

③ その他

(ア) 情報検索サービスの改善として、新たに以下を実施した。

- ・ 機関別定額制の開始

平成 14 年 4 月から、『機関別定額制』のサービスを開始した。これにより、機関が一定額の支払いをすることで当該機関に所属する全ての構成員が情報検索サービスを簡便に利用することができる。

- ・ Webcat へのリンク

平成 14 年 7 月から、「引用文献索引データベース」、「雑誌記事索引データベース」、「経済学文献索引データベース」及び「学術雑誌目次速報データベース」では、Webcat へのリンク機能の提供を開始した。これにより、検索した論文が掲載されている雑誌の所蔵図書館を簡単に調べることができる。

(イ) データベース作成協力機関への電子化データ提供

国立情報学研究所が大学等の機関から原データの提供を受けて作成しているデータベース(「科学研究費補助金研究成果概要データベース」、「学位論文索引データベース」、「研究者ディレクトリ」等)について、提出情報の電子化データを当該大学等に提供した。

データベース名	13 年度	14 年度
科学研究費補助金研究成果概要データベース	機関数 16	機関数 9
科学研究費補助金採択課題データベース	13	7
学位論文索引データベース	15	6

研究者ディレクトリ	49	20
データベース・ディレクトリ	9	4
研究活動資源ディレクトリ	13	4

(7) 電子図書館サービス

① 概要

電子図書館事業は、学術雑誌のページをそのまま電子化し、書誌情報とともに検索できるようにした情報サービスで、インターネット上で利用可能である。研究者がコンピュータ上で、標題や著者名等の情報を手がかりに論文を得ることができるほか、雑誌の表紙や目次から記事を探し、ページをめくるように読むことも可能である。

情報内容(コンテンツ)としては、画像データ及び書誌データを提供している。画像データは、雑誌の表紙から裏表紙までをイメージデータとして収録している。書誌データは、雑誌に掲載される主な記事(掲載記事の標題、著者名、掲載雑誌情報、抄録等)を文字データとして収録している。また、画像データは、プリンタへの高品質の印刷も可能である。

収録雑誌は、日本の学術団体(学協会)の発行する学会誌・論文誌を対象としており、平成 13 年 10 月には、収録論文数が 100 万件を超えた。平成 15 年 3 月末現在の収録状況は 212 学協会の刊行する 530 誌、収録論文数は 160 万件である。

平成 14 年度は、参加学会が希望する雑誌のフリーアクセスを可能とする機能を追加し、また、「研究紀要ポータル」と連動し、大学等の発行する研究紀要の全文データの収録を開始した。さらに平成 14 年度より TIFF 形式による本文提供に加えて PDF 形式をサポートし、Acrobat Reader による本文閲覧を可能とした。

② 提供ソフトウェア

電子図書館サービスを利用するための専用のソフトウェアとして、平成 13 年度、平成 14 年度は次のとおり提供した。

パーソナルコンピュータ用電子図書館プラグイン・ソフトウェア

	OS	ブラウザ	プラグイン
Windows	Windows98SE, 2000sp2, Me	Netscape Communicator 4.7 (Netscape 6, 7)	els-np4.0.exe
	Windows98SE, 2000sp2, Me, XP	Microsoft Internet Explorer 6 (5.5SP2)	els-ie4.1.0.exe
Macintosh	MacOS 9.2, 10.1	Netscape Communicator 4.7 (Netscape 6)	els-mac4.0.hqx

ワークステーション用電子図書館専用クライアント・ソフトウェア

・ Solaris 2.6, 7, 8 (SPARC/Intel), RedHat 6.2, 7.0, FreeBSD 3.5.1, 4.2 対応電子図書館専用クライアント・ソフトウェア

③ 利用説明会

電子図書館サービスに未参加の学協会に対して、参加勧誘のための説明会を実施した。(平成 13 年度:93 学会、114 名参加、平成 14 年度:75 学協会、87 名参加)

④ 連絡会議

平成 13 年度、14 年度には、電子図書館サービスに参加の学会を対象とした連絡会議を開催した。

⑤ 海外電子ジャーナル

電子図書館事業の一環として、海外の学協会及び学術出版社が提供する電子ジャーナルをナショナルサイトライセンスで提供するサービスを試行的に行っている。平成 13 年度、平成 14 年度は、Oxford University Press 社 (OUP) が刊行する電子ジャーナルを試験提供し、年間約 176 万回の利用があった(平成 14 年度)。

平成 14 年度に、電子ジャーナルサーバシステムを導入した。このサーバ上で、電子ジャーナルのアーカイブを行うための電子ジャーナルリポジトリサービスを展開するための開発を進めている。

(8) オンラインジャーナル編集・出版システム (NACSIS-OLJ)

我が国の学術論文誌の編集から出版までの工程を電子化し、論文執筆者の投稿から学術論文誌の刊行までを迅速化するとともに、インターネットを通じて広く国内外への学術研究成果の提供を支援することを目的として、平成 10 年度から開発・構築を行ってきたが、平成 14 年度に科学技術振興事業団の科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)へ整理・統合された。

(9) 研究者公募情報提供サービス (NACSIS-CIS)

教員の流動性を高め、多様な経歴・経験等を持つ優れた人材を確保する方法として有効な公募制を推進するため、研究者の公募情報を収集・提供するサービスを平成 9 年度から実施してきたが、平成 13 年 10 月に科学技術振興事業団の研究者人材データベース(JREC-IN)へ移管された。

サービス終了までに、664 機関 14,236 名分の公募情報を収集・提供した。

(10) 学協会情報発信サービス

本研究所が提供する WWW サーバに日本国内の学協会等の学術研究情報を収集し、インターネットを通じて広く情報発信することにより、我が国の学術研究を支える重要な研究者コミュニティである学協会の活動を支援することを目的としたサービスである。

本サービスではこれらの学術研究情報を一元化したホームページである「Academic Society Home Village」から、インターネットを通じて広く一般に情報提供している。

収録状況

年度 (3月31日現在)	参加学協会数	内訳	
		ホームページ構築サービス	ホームページリンクサービス
平成 13 年度	714	571	143
平成 14 年度	783	639	144

利用状況

年度 (3月31日現在)	年間アクセス回数(トップページの参照件数)
平成 13 年度	461,996
平成 14 年度	597,195

(11) GeNii (ジーニイ : NII学術コンテンツ・ポータル)

本研究所がこれまで手がけてきた目録所在情報サービス、情報検索サービス、電子図書館サービス等で提供するコンテンツをはじめとして、国内外の有用な学術情報資源を連携させることにより、研究者等が必要とする情報を統合的に利用できる環境の提供を目標として、平成 14 年度から構築・提供を開始した。

平成 14 年度は、論文情報や図書情報を提供するための各コンポーネントを開発・公開した。

① CiNii (サイニイ : NII引用文献情報ナビゲータ)

論文の書誌情報から、引用・被引用関係や本文へのリンクをたどる機能をもつ。

平成 14 年度は、日本の情報系学会の 120 誌 220,000 件に限定して、試験的に公開を行った。

② Webcat Plus (ウェブキャット プラス : NII図書情報ナビゲータ)

求めるテーマに関連する図書を簡単に探せる連想検索機能をもち、図書の書誌情報だけでなく、目次や内容紹介及び所蔵図書館情報を参照できるサービスとして、平成 14 年 10 月 8 日から開始した。

平成 14 年度末時点で、250 万件の図書情報を提供した。

③ 研究紀要ポータル

各大学等が刊行する研究紀要の目次情報を収録する「学術雑誌目次速報データベース」を発展させ、抄録や本文も参照できるサービスとして、平成 15 年 3 月 17 日から開始した。

《研究紀要公開支援事業》

各大学の図書館等が作成したデータを集約し、本研究所でデータベースの構築・公開を行う。また、一部の大学等から冊子の提供を受け、本研究所でデータ作成を支援している。

平成 14 年度末時点で、560 機関が参加し、3,966 誌を収録対象とした。

④ 大学Webサイト資源検索 (JuNii : 大学情報メタデータ・ポータル試験公開版)

各大学等がインターネット上で発信する学術情報資源を対象に、その索引情報を記録したメタデータに基づき学術情報の総合的な検索を可能とするもので、平成 15 年 3 月 17 日から試験的に公開を行った。

《メタデータ・データベース共同構築事業》

各大学の図書館等が作成したメタデータを集約し、本研究所でデータベースの構築・公開を行う。

平成 14 年度末時点で、196 機関が参加した。

⑤ Scitern (サイターム : オンライン学術用語集)

学術研究の成果を広く流通させ、正しく評価・検証等が行われるために、学協会が中心になって専門的用語(学術用語)の標準化が進められており、その成果として各学問分野の「学術用語集」が刊行されている。著作権者である文部科学省及び各学協会の許諾を得て、「学術用語集」に収録されている学術用語を収録したデータベースを構築し、平成 12 年度から公開している。

22 分野 128,000 語の用語を提供し、平成 13 年度は 190,000 回、平成 14 年度は 290,000 回のアクセスがあった。

(12) 学術研究活動等に関する調査/研究活動資源ディレクトリ (NACSIS-DiRR)

① 学術研究活動に関する調査の実施/研究者ディレクトリ

「研究者ディレクトリ」の更新・充実のため、「平成 13 年度学術研究活動に関する調査」の事前調査を平成 13 年 4 月から 5 月にかけて、本調査を 7 月から 9 月にかけて実施した(調査対象:国公立大学・短大・高専及び大学共同利用機関等、計 1,483 機関)。また、平成 12 年度と同調査に基づく研究者約 16 万人の情報を、「研究者ディレクトリ」で公開した。なお、平成 12 年度と同調査結果は、報告書「我が国における学術研究活動の状況－平成 12 年度学術研究活動に関する調査－」としてまとめられた。

「国立情報学研究所と科学技術振興事業団との情報関係事業の連携・協力の基本的なあり方について」(平成 13 年 8 月)に基づき、「研究者ディレクトリ」は平成 15 年度から科学技術振興事業団(JST)の ReaD(研究開発支援総合ディレクトリ)に統合されることとなった。このため、平成 14 年 6 月には JST ヘデータの移管を行う一方、平成 13 年度と同調査に基づく研究者約 16 万人の情報を「研究者ディレクトリ」で公開した。なお、本研究所からのデータベースの提供は、平成 14 年度末で終了し

た。

② 大学等の研究活動を総覧するデータベース構築のための調査/大学等の研究活動を総覧する情報提供サービス (NACSIS-DiRR)

研究活動資源ディレクトリ(NACSIS-DiRR)の更新・充実のため、「平成13年度大学等の研究活動を総覧するデータベース構築のための調査」を6月から7月にかけて実施した(調査対象:国公立大学・短大・高专及び大学共同利用機関等、計1,481機関)。また、平成12年度と同調査と「学術研究活動に関する調査」に基づき「研究活動資源ディレクトリ」を作成し、公開した。このうち、研究者データベースは、「学術研究活動に関する調査」の調査結果から Web 上へのデータ公開の許諾が得られた研究者の一般公開項目のみを抽出したものである。このディレクトリは Web 上で無料で一般公開した。この事業は、本研究所と科学技術振興事業団(JST)との連携協力により実施していたものであるが、「国立情報学研究所と科学技術振興事業団との情報関係事業の連携・協力の基本的なあり方について」(平成13年8月)に基づき、「研究活動資源ディレクトリ」は平成15年度からJSTのReaD(研究開発支援総合ディレクトリ)に統合されることとなった。このため、平成14年6月にはJSTへのデータの移管を行う一方で、平成13年度と同調査に基づき「研究活動資源ディレクトリ」を作成し公開した。

なお、本研究所からのデータベースの提供は、平成14年度末で終了した。

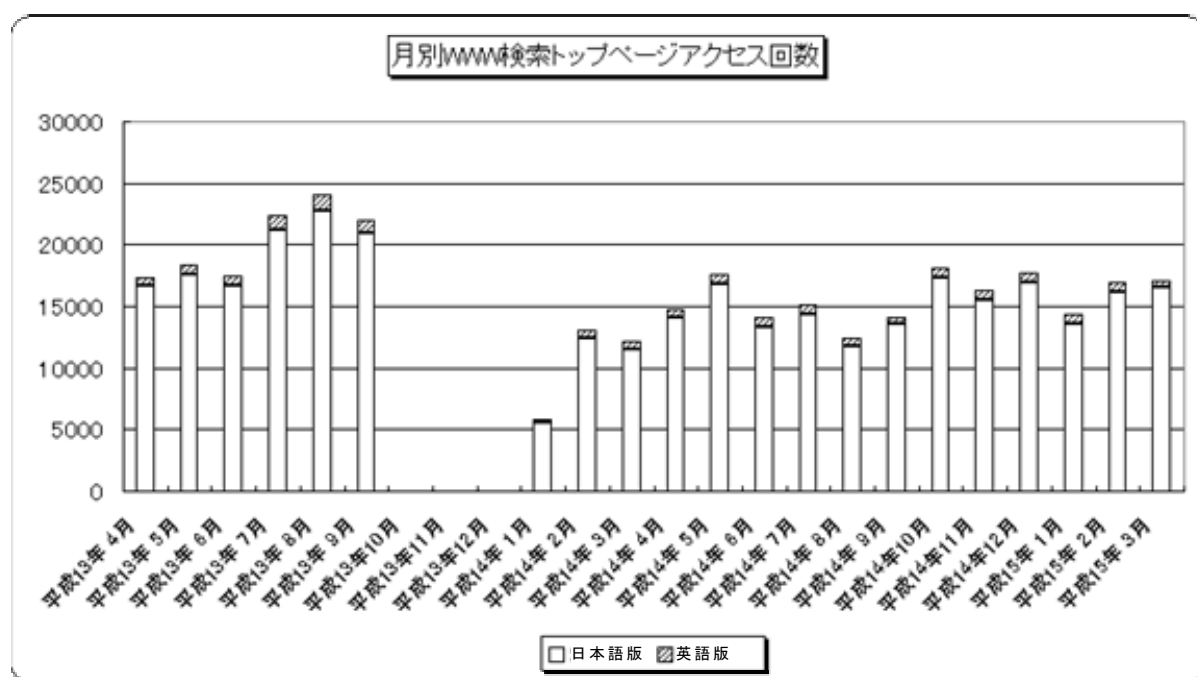
各年度の利用状況は次の通りである。

大学等の研究活動を総覧する情報提供サービス 利用状況

【平成13年4月1日～平成15年3月31日】

トップページアクセス回数

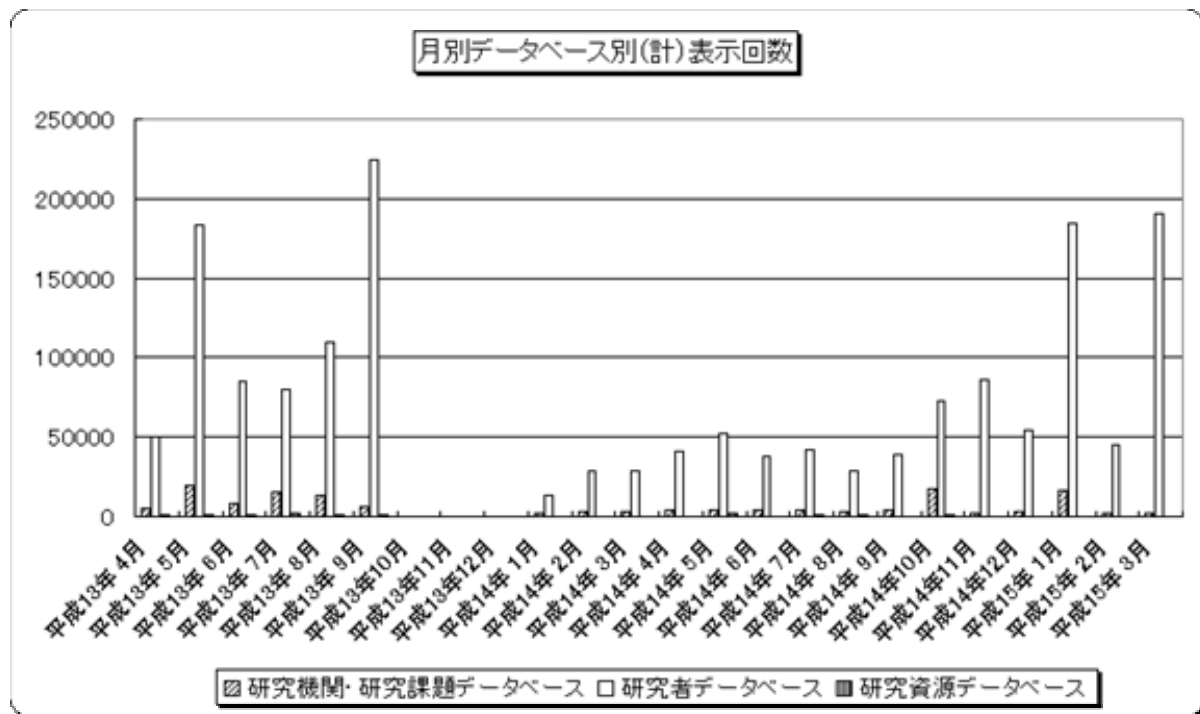
	WWW 検索			横断検索		
	計	日本語版	英語版	計	日本語版	英語版
平成13年度	191,999	184,799	7,200	4,426	4,201	225
平成14年度	222,526	213,973	8,553	4,372	4,172	200



注 平成13年9月27日～平成14年1月20日はログ採取不可のため、平成13年9月は9月27日まで、平成14年1月は1月21日以降のデータである。

表示回数

	研究機関・研究課題データベース			研究者データベース			研究資源データベース		
	計	日本語版	英語版	計	日本語版	英語版	計	日本語版	英語版
平成 13 年度	72,591	66,377	6,214	756,723	736,507	20,216	6,869	6,169	700
平成 14 年度	69,115	64,408	4,707	875,903	843,970	31,933	6,074	5,761	313



注 平成 13 年 9 月 27 日～平成 14 年 1 月 20 日はログ採取不可のため、平成 13 年 9 月は 9 月 27 日まで、平成 14 年 1 月は 1 月 21 日以降のデータである。

③ 学術情報データベース実態調査の実施/データベースディレクトリ

「データベースディレクトリ」の更新・充実のため、平成 13 年度及び平成 14 年度ともに、「学術情報データベース実態調査」を実施した(調査対象：国公立大学・短大・高専、大学共同利用機関及び国公立試験研究機関等。平成 13 年度：計 2,307 機関、平成 14 年度：計 2,278 機関)。さらに、この結果をまとめた報告書「平成 13 年度学術情報データベース実態調査報告書」及び「平成 14 年度学術情報データベース実態調査報告書」を作成した。また、平成 12 年度及び平成 13 年度のそれぞれの同調査に基づき「データベースディレクトリ」を作成し公開したほか、大学等の機関で作成されたデータベースを分野別にリストアップした各年度の「作成データベース一覧(分野別)」を Web 上で公開し、URL が報告されたものとリンクを張った。

各年度のデータ件数は、次の通りである。

	データベースディレクトリ		作成データベース一覧(分野別)	
	公開データ	件数	データ件数	リンク数
平成 13 年度	平成 12 年度調査結果	3,544	2,754	1,005
平成 14 年度	平成 13 年度調査結果	3,907	2,892	1,206

(13) 事業の国際展開

学術情報の国際流通の促進を図ることは、本研究所の重要な任務の一つである。このため、昭和 63 年度から順次、米国、英国、タイ王国との間に国際専用回線を敷設し、回線速度の増強を行うとともに、情報検索サービス、電子図書館サービス及び目録所在情報サービスを海外にも提供し、国際間での学術情報の交流に貢献している。特に、英国との間では英国図書館原報提供センターの相互

貸借システムとの接続、中国との間では国際交流基金との協力による北京日本学研究中心の情報化支援、米国との間ではOCLCとのILLシステム間リンクの運用を開始し、国際ILL(図書館間相互貸借)によるドキュメント・デリバリー・サービスの環境整備を進めている。

① 目録所在情報サービス

学術情報センターと英国図書館(BL)及び主要 5 研究図書館(Cambridge、Oxford、Sheffield、Stirling、London の各大学図書館)との間で、英国内の日本語資料の総合目録を目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)を利用して作成することを目的としたパイロットプロジェクトを行っていたが、これらの機関は平成7年度より正式参加館となった。また、平成8年度は、ストックホルム大学、及びチューリッヒ大学でパイロットプロジェクトを開始し、平成12年度より正式参加館となった。平成13年度は16機関、平成14年度は4機関が参加し、平成14年度末現在の参加館は表のとおり44機関となっている。

機 関 名	承認日付	所蔵登録件数	
		図書	雑誌
英国 9 機関			
英国図書館オリエンタル・コレクション部	1996. 3.31	19,990	1,940
ケンブリッジ大学図書館	1996. 3.31	43,521	1,325
オックスフォード大学ボドリアン図書館	1996. 3.31	52,416	1,258
シェフィールド大学日本研究センター	1996. 3.31	11,514	366
スターリング大学図書館	1996. 3.31	4,128	0
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学部図書館	1996. 3.31	19,480	841
国際交流基金ロンドン日本語センター	1998. 3.10	2,045	18
大英博物館日本美術部門	1998.12.21	488	26
日本貿易振興会(JETRO)ロンドン・センター	2002. 7. 8	315	0
ドイツ 8 機関			
デュースブルク大学東アジア研究所	1999. 6.30	1,076	0
ハイデルベルク大学日本学研究室	1999. 6.30	0	0
ミュンヘン大学日本学科	2000.12.21	4,717	0
国際交流基金ケルン日本文化会館	2001. 5. 9	14,268	195
ベルリン日独センター	2001.10.11	140	0
ドイツ「恵光」日本文化センター	2002. 3.27	0	0
マルブルク大学日本研究センター図書館、宗教学図書館	2002. 3.29	7,361	2
ベルリン国立図書館	2003. 3.17	0	0
ベルギー 1 機関			
ルーバンカトリック大学東アジア図書館	1999. 6.30	669	0
スイス 1 機関			
チューリッヒ大学東洋学部日本学科図書館	2001. 3. 7	1,996	0
スウェーデン 1 機関			
ストックホルム大学図書館	2001. 1.19	4,348	0
米国 2 機関			
アラスカ大学地球物理研究所	2001. 6.13	21	0
コロンビア大学ティーチャーズカレッジ(在日機関)	2001.12.21	819	51
タイ 1 機関			
国際交流基金バンコック日本文化センター	1997. 6.16	13,374	0
中国 20 機関			
北京日本学研究中心図書資料館	1998.11. 5	46,878	171
中国農業大学図書館	2000. 4.25	787	0
大連理工大学図書館	2000.10.12	2,137	0
北京大学図書館	2000.10.12	1,269	0

武漢大学図書館	2000.10.12	2,251	0
南京大学図書館	2000.10.12	1,900	0
中山大学図書館	2000.10.12	1,238	0
吉林大学図書館	2000.10.12	2,276	0
天津図書館	2001.12.21	41,271	0
中国東北大学図書館	2002. 2. 7	0	0
遼寧省図書館	2002. 2. 7	0	0
華東師範大学図書館	2002. 2. 7	0	0
中国人民大学図書館	2002. 2. 7	0	0
清華大学図書館	2002. 2. 7	0	0
大連外国語学院図書電教館	2002. 2. 7	0	0
厦門大学図書館	2002. 2. 7	0	0
復旦大学図書館	2002. 2. 7	0	0
上海交通大学図書館	2002. 2. 7	0	0
中国社会科学院文献情報センター	2002. 5.28	0	0
中国国家図書館	2002.11.11	0	0
韓国 1 機関			
翰林大学校翰林科学院日本学研究所	2000. 3.31	1,518	0
合計 44 機関		304,211	6,193

欧州の NACSIS-CAT 参加館が多くなってきており、各参加館の担当者への教育とサービスの広報のため、NACSIS-CAT 参加館及び利用を希望している機関を対象に、ドイツにおいて下記のとおり目録システム講習会を開催した。

平成 13 年度

期間：平成 13 年 10 月 10 日～12 日

場所：ケルン(ケルン大学電算機センター、国際交流基金ケルン日本文化会館)

受講者：11 機関 15 名(途中棄権 1 名含む)

平成 14 年度

期間：平成 14 年 7 月 22 日～24 日(初級コース)、7 月 25 日～26 日(上級コース)

場所：ミュンヘン(ライプニッツ計算機センター(LRZ)、ミュンヘン大学)

受講者：13 機関 20 名(うち初級コース 7 機関 13 名、上級コース 6 機関 7 名)

② ILLサービス

平成 6 年 4 月から、英国図書館原報提供センター(BLDSC)の運用する相互貸借システム(ARTTel)と図書館間相互貸借システム(NACSIS-ILL)を接続し、BLDSC への文献複写及び現物貸借の申し込みを開始した。

また、平成 6 年 4 月から、国際日本文化研究センターの協力により、ケンブリッジ大学及びオックスフォード大学からの NACSIS-ILL の試行利用を開始した。平成 8 年度から本研究所が窓口となっている。

平成 14 年 4 月 15 日からグローバル ILL(OCLC との ILL システム間リンク)の運用を開始した。

③ 情報検索サービス

平成 5 年 8 月から、海外の大学及び学術研究機関への情報検索サービス(NACSIS-IR)の提供を開始した。海外からより有効に利用してもらうため、WWW に英文による案内ページの整備、英文によるヘルプの掲載、英文版によるマニュアル等の掲載を行っている。平成 13 年度及び平成 14 年度末現在の利用者は表のとおりである。

平成 13 年度末の利用者

機 関 名	登録日付	利用回数
米国 11 機関		
カリフォルニア大学バークレー校	1997.02.17	16
ピッツバーグ大学	1997.03.05	0
カリフォルニア大学ロサンゼルス校	1997.04.10	5
カリフォルニア大学サンディエゴ校	1998.07.17	3
カリフォルニア大学サンタバーバラ校	1998.10.09	0
ワシントン大学	1998.10.14	0
コロラド大学	1998.11.09	0
アイオワ大学	1999.06.07	2
コロンビア大学	2000.03.26	2
スタンフォード大学	2000.07.11	16
米国議会図書館(LC)	2001.09.27	11
英国 3 機関		
オックスフォード大学	1995.05.25	12
英国図書館(BL)	1995.08.15	0
ケンブリッジ大学	1995.08.15	0
ドイツ 1 機関		
フンボルト大学	1999.06.07	10
オランダ 1 機関		
ライデン大学	1998.07.17	9
ベルギー 1 機関		
ルーバンカトリック大学	2000.01.27	8
スウェーデン 1 機関		
ストックホルム大学	1999.07.23	0
オーストラリア 1 機関		
オーストラリア国立大学	1995.08.15	3
韓国 4 機関		
漢陽大学校	1997.11.25	4
ソウル大学	1998.07.17	14
韓国国立中央図書館	1999.10.05	0
東亜大学校	2001.02.21	6
中国 1 機関		
中国公安部信息通信局	2002.02.21	1
台湾 2 機関		
銘傳大学	2000.06.16	0
淡江大学	2000.08.14	0
合 計 26 機関		122

平成 14 年度末の利用者

機 関 名	登録日付	利用回数
米国 11 機関		
カリフォルニア大学バークレー校	1997.02.17	1
ピッツバーグ大学	1997.03.05	1
カリフォルニア大学サンディエゴ校	1998.07.17	0
カリフォルニア大学サンタバーバラ校	1998.10.09	0
ワシントン大学	1998.10.14	0
コロラド大学	1998.11.09	0

アイオワ大学	1999.06.07	0
コロンビア大学	2000.03.26	37
スタンフォード大学	2000.07.11	3
米国議会図書館(LC)	2001.09.27	10
カルフォルニア州立大学サクラメント校	2003.01.29	0
英国 3 機関		
オックスフォード大学	1995.05.25	23
ケンブリッジ大学	1995.08.15	2
オープン大学	2002.06.12	0
ドイツ 1 機関		
フンボルト大学	1999.06.07	10
オランダ 1 機関		
ライデン大学	1998.07.17	3
オーストラリア 3 機関		
オーストラリア国立大学	1995.08.15	11
アデレード大学	2003.02.26	1
ウェスタンオーストラリア大学	2003.02.26	0
韓国 5 機関		
漢陽大学校	1997.11.25	0
ソウル大学	1998.07.17	13
韓国国立中央図書館	1999.10.05	0
東亜大学校	2001.02.21	2
中央大学校	2003.02.26	0
中国 2 機関		
中国公安部信息通信局	2002.02.21	0
聊城大学	2002.09.13	0
台湾 3 機関		
台湾大学	2000.06.16	0
淡江大学	2000.08.14	1
大葉大学	2003.02.17	0
合計 29 機関		118

海外機関へ提供しているデータベースは、研究所が作成もしくは他機関との共同製作、又は他機関から導入したもののうち、次の表のとおりである。なお、平成 13 年度末の提供データベースは 47 データベース、平成 14 年度末の提供データベースは 45 データベースである。

データベース名	データベースでの使用言語
科学研究費補助金研究成果概要データベース	日本語、英語
学位論文索引データベース	日本語
学会発表データベース	日本語、英語
学術論文データベース第一系(電子)	英語
学術論文データベース第二系(化学)	日本語、英語
学術論文データベース第五系(理学)	英語
民間助成研究成果概要データベース	日本語、英語
経済学文献索引データベース	日本語、その他
臨床症例データベース	日本語、英語
学術雑誌目次速報データベース	日本語、その他
科学研究費補助金採択課題データベース	日本語
引用文献索引データベース	日本語、その他
雑誌記事索引データベース	日本語

民間助成決定課題データベース	日本語
維新史料綱要データベース	日本語
古文書目録データベース	日本語
研究者ディレクトリ	日本語、英語
データベース・ディレクトリ	日本語
家政学文献索引データベース	日本語
RAMBIOS	英語
化学センサーデータベース	英語
日本独文学会文献情報データベース	日本語、独語
スラブ地域研究文献データベース	日本語
文化財科学文献データベース	日本語
化学と教育誌データベース	日本語
現代邦楽作品データベース	日本語
日本建築学会文献索引データベース	日本語
北海道大学北方資料総合目録データベース	日本語
中東・イスラーム研究文献索引データベース	日本語
中央アジア研究文献索引データベース	日本語
アジア歴史研究者ディレクトリ	日本語
印度学・仏教学研究ディレクトリ	日本語
ロシア外交史料館日本関連文書目録データベース	ロシア語、その他
教科教育実践学関係資料(国語科)データベース	日本語
社会学文献情報データベース	日本語
地理学文献データベース	日本語
日本アメリカ研究文献情報データベース	日本語、英語
霊長類学文献索引データベース	英語、日本語
東南アジア関係文献目録データベース 注1	日本語
目録所在情報データベース(図書)	日本語、その他
目録所在情報データベース(雑誌)	日本語、その他
JPMARC	日本語
大型コレクションディレクトリ	日本語
日本の医学会会議録データベース	日本語、英語
国会図書館洋図書目録データベース	英語、その他
学術関係会議等開催情報:日本学術会議編 注2	日本語、その他
学協会集会スケジュール:日本工学会編 注2	日本語、その他

注1)「東南アジア関係文献目録データベース」は平成13年9月1日からサービスを開始した。

注2)「学術関係会議等開催情報:日本学術会議編」及び「学協会集会スケジュール:日本工学会編」は平成14年9月30日でサービスを終了した。

利用可能時間は、原則として24時間いつでも利用可能である。ただし、以下の時間帯(日本時間)はサービスを休止している。

- ・毎週月曜日 8:00～9:00(休日の場合は翌日)
- ・3月31日(土曜・日曜・休日の場合は年度末日)
- ・システム保守のため必要な日時

④ 電子図書館サービス

平成11年から、海外の大学及び学術研究機関への提供を開始した。平成13年度及び平成14年度末現在の利用者は、下記のとおりである。

平成 13 年度末の利用者

機 関 名	登録日付	利用回数	表示頁数	印刷頁数
米国 5 機関				
米国議会図書館(LC)	1999.09.13 2001.09.28	4	9	19
アリゾナ大学	1999.12.15	0	0	0
カリフォルニア大学ロサンゼルス校	1999.12.24	0	0	0
クラーク大学	2000.05.31	2	1	28
マサチューセッツ大学アマースト校	2001.03.16	0	0	0
ドイツ 1 機関				
アーヘン工科大学	1999.12.03	0	0	0
ベルギー 1 機関				
ルーバンカトリック大学	2000.01.31	0	0	0
スイス 1 機関				
ジュネーブ大学	1999.07.26	0	0	0
オーストラリア 2 機関				
オーストラリア国立大学	1999.03.25	35	121	56
ニューサウスウェールズ大学	1999.08.09	9	1	28
韓国 7 機関				
高麗大学校	1999.07.19	0	0	0
延世大学校	1999.09.20	0	0	0
韓国国立中央図書館	1999.10.25	0	0	0
ソウル大学	2000.02.25	0	0	0
延世大学校文科大学	2000.04.26	0	0	0
東亜大学校	2001.05.02	27	147	455
大韓民国嶺南農業試験場	2002.03.04	0	0	0
中国 3 機関				
蘇州医学院	1999.10.25	0	0	0
遼寧大学	2000.05.01	0	0	0
中国公安部信息通信局	2002.03.07	0	0	0
台湾 4 機関				
徳明商業高等専門学校	1999.09.24	0	0	0
国家科学委員会科学技術資料センター	2000.01.31	37	108	411
徳明技術学院	2000.05.01	0	0	0
淡江大学	2000.08.14	0	0	0
シンガポール 1 機関				
シンガポール国立大学	1999.09.20	0	0	0
タイ 6 機関				
CRL Asia Research Center	1999.09.24	0	0	0
カセサート大学	2001.03.14	0	0	0
タイ国立技術情報アクセス・センター	2001.03.14	22	31	2
チュラロンコーン大学	2001.03.14	0	0	0
国際交流基金バンコク日本語センター	2001.03.14	0	0	0
タマサート大学	2001.03.14	0	0	0
合 計 31 機関		136	418	999

平成 14 年度末の利用者

機 関 名	登録日付	利用回数	表示頁数	印刷頁数
米国 7 機関				
アリゾナ大学	1999.12.15	0	0	0

カリフォルニア大学ロサンゼルス校	1999.12.24	0	0	0
クラーク大学	2000.05.31	0	0	0
マサチューセッツ大学アマースト校	2001.03.16	1	3	0
米国議会図書館(LC)	2001.09.28	0	0	0
カリフォルニア州立大学サクラメント校	2003.02.06	0	0	0
ピッツバーグ大学	2003.02.25	3	0	2
ドイツ 1 機関				
アーヘン工科大学	1999.12.03	0	0	0
ベルギー 1 機関				
ルーバンカトリック大学	2000.01.31	0	0	0
スイス 1 機関				
ジュネーブ大学	1999.07.26	0	0	0
フィンランド 1 機関				
ユバスキュラ大学	2002.09.02	0	0	0
オーストラリア 4 機関				
オーストラリア国立大学	1999.03.25	5	33	22
ニューサウスウェールズ大学	1999.08.09	0	0	0
アデレード大学	2003.02.26	4	11	95
ウェスタンオーストラリア大学	2003.02.26	6	9	1
韓国 7 機関				
延世大学校	1999.09.20	0	0	0
韓国国立中央図書館	1999.10.25	0	0	0
ソウル大学	2000.02.25	1	0	9
延世大学校文科大学	2000.04.26	0	0	0
東亜大学校	2001.05.02	23	0	352
大韓民国嶺南農業試験場	2002.03.04	4,891	9,619	36,270
中央大学校	2003.02.26	0	0	0
中国 4 機関				
蘇州医学院	1999.10.25	0	0	0
遼寧大学	2000.05.01	0	0	0
中国公安部信息通信局	2002.03.07	0	0	0
聊城大学	2002.09.17	1	2	0
台湾 5 機関				
徳明商業高等専門学校	1999.09.24	0	0	0
国家科学委員会科学技術資料センター	2000.01.31	74	126	780
徳明技術学院	2000.05.01	0	0	0
淡江大学	2000.08.14	0	0	0
大葉大学	2003.02.18	0	0	0
シンガポール 1 機関				
シンガポール国立大学	1999.09.20	0	0	0
タイ 6 機関				
CRL Asia Research Center	1999.09.24	0	0	0
カセサート大学	2001.03.14	0	0	0
タイ国立技術情報アクセス・センター	2001.03.14	0	0	0
チュラロンコン大学	2001.03.14	0	0	0
国際交流基金バンコク日本語センター	2001.03.14	0	0	0
タマサート大学	2001.03.14	0	0	0
合計 37 機関		5,009	9,803	37,531

⑤ 中国との学術情報交流プロジェクト

平成10年6月から、日本と中国との間の学術情報流通の促進を図ることを目的として、中国との学術情報交流プロジェクトを開始し、国際交流基金との協力により、北京日本学研究中心の情報化支援を行っている。

平成13年度は、6月と10月及び11月の3回にわたり本研究所の職員を派遣して、データ入力状況確認及びデータ作成指導、講習会の実施を北京日本学研究中心で行った。また、北京日本学研究中心からは、11月と1月及び2月の3回にわたり研修生を日本に招聘して、図書業務の研修のほか、日本国内の大学・研究機関の図書館施設の視察及び図書館サービスの状況調査を行った。こうした支援の結果、平成15年3月末における同センターの図書及び雑誌の所蔵登録件数は約47,000件となった。また、平成14年5月から国際交流基金を經由し、NACSIS-ILLの利用を開始している。プロジェクトの成果については「中国との学術情報交流プロジェクト 2001 年度報告」として報告書にまとめ、平成14年3月に刊行した。

平成13年度における支援・協力の実績は以下のとおりである。

- 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援に関する協力支援確認
日程：平成13年6月17日～28日
場所：北京日本学研究中心等
派遣者：北村明久国際・研究協力部成果普及課長、櫻井美智雄国際・研究協力部広報調査課国際事業係長、米澤誠開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長
- 第1回中国との学術情報交流プロジェクト会議
日程：平成13年7月25日
場所：国立情報学研究所
出席者：国立情報学研究所：内藤衛亮人間・社会情報研究系研究主幹(主査)、宮澤彰実証研究センター長、高野茂開発・事業部次長ほか関係者、国際交流基金：高橋耕一郎日本研究部企画開発課ほか関係者、北京日本学研究中心：徐一平主任ほか関係者
- 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援に関する講習会の実施
日程：平成13年10月9日～20日
場所：北京日本学研究中心等
派遣者：細川聖二国際・研究協力部成果普及課企画調査係長、米澤誠開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長
- 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援に関する現地調査
日程：平成13年11月4日～11日
場所：北京日本学研究中心等
派遣者：宮澤彰実証研究センター長、京藤貫開発・事業部コンテンツ課長、鈴木玲国際交流基金日本研究部企画開発課
- 北京日本学研究中心図書資料館員招聘研修(図書館サービス研修)
日程：平成13年11月15日～23日
場所：国立情報学研究所ほか日本国内の大学・研究機関図書館等
招聘研修者：北京日本学研究中心 洪慶華図書資料館主任、張淑栄図書資料館職員
- 北京日本学研究中心図書資料館員招聘研修(情報化研修)
日程：平成14年1月20日～2月2日
場所：国立情報学研究所ほか日本国内の大学・研究機関図書館等
招聘研修者：北京日本学研究中心 苗華建図書資料部副主任
- 第2回中国との学術情報交流プロジェクト会議
日程：平成14年1月28日
場所：国立情報学研究所
出席者：国立情報学研究所：内藤衛亮人間・社会情報研究系研究主幹(主査)、宮澤彰実証研究センター長、大埜浩一開発・事業部次長ほか関係者、国際交流基金：清水陽一日本研究部長ほか関係者、北京日本学研究中心：徐一平主任ほか関係者

- ・北京日本学研究中心図書資料館員招聘研修(実務研修)

日程：平成 14 年 2 月 17 日～3 月 9 日

場所：国立情報学研究所、明治大学ほか

招聘研修者：北京日本学研究中心 袁紅図書資料館司書、李琳図書資料館司書

平成 14 年度における支援・協力の実績は以下のとおりである。

- ・第 1 回中国との学術情報交流プロジェクト会議

日程：平成 14 年 7 月 31 日

場所：国立情報学研究所

出席者：国立情報学研究所：山本毅雄情報メディア研究系研究主幹(主査)、大埜浩一開発・事業部次長ほか関係者、国際交流基金：大塚善人日本研究部長ほか関係者、北京日本学研究中心：徐一平主任ほか関係者

⑥ アジア情報調査活動

アジア地域における日本の学術情報の需要を調査・把握し、学術情報センターのサービスの国際展開を図るため、平成 7 年度からアジア情報調査活動を開始した。平成 8 年度からは、その一環として、学術情報センターの学術情報ネットワークの国際接続を行っているタイとの間で「タイーオンラインプロジェクト」を実施し、タイの研究者や図書館等に対し NACSIS-IR、NACSIS-CAT の研修を行うとともに、これらサービスの試行利用を提供し、利用に関するモニタリングを行っている。

平成 13 年度は、チュラロンコーン大学、タマサート大学、カセサート大学、国際交流基金バンコック日本文化センター及びタイ技術情報アクセス・センター(TIAC)の 5 大学・機関の参加を得て、情報検索サービス(NACSIS-IR)の試行利用とモニタリングを行った。なお、この試行利用とモニタリングは平成 13 年度で終了した。

平成 13 年度の文献複写依頼の利用件数は、以下のとおりである。

参加機関名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
チュラロンコーン大学	71	9	30	99	163	46	30	40	104	73	25	8	698
タマサート大学	29	0	0	6	1	0	10	62	0	7	4	7	126
カセサート大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際交流基金バンコック日本文化センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タイ技術情報アクセス・センター(TIAC)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	100	9	30	105	164	46	40	102	104	80	29	15	824

⑦ 在日海外機関へのサービス

日本に事務所を設置している外国機関のうち、国立情報学研究所の情報検索サービス及び電子図書館サービスの利用を希望する下記の機関に対してサービスを提供している。

情報検索サービス

機 関 名	登録日付	平成 13 年度 利用回数	平成 14 年度 利用回数
米国 1 機関			
テンプル大学 JAPAN	1994.02.08	2	1
フランス 1 機関			
(財)日仏会館	1994.07.21	0	0

ドイツ 2 機関			
ドイツ日本研究所	1994.07.08	0	0
ドイツ国立情報処理研究所	1997.08.18 1999.05.17	0	0
合 計 4 機関		2	1

電子図書館サービス

機 関 名	登録日付	平成 13 年度 利用回数	平成 14 年度 利用回数
米国 1 機関			
ニューポート・アジア・パシフィック大学	2000.06.21	0	0

⑧ 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト

平成 9 年(1997 年)の第 18 回日米文化交流会議(カルコン)の共同声明において、日米間のドキュメント・デリバリー・サービスの改善の必要性が提起されたことを受けて、日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクトを設置している。

平成 13 年度は、国際 ILL における文献複写料金の決済方法について検討を行い、ドキュメント・デリバリー・サービスの実施に向けて、文部科学省及び国立大学図書館協議会と協議を行った。こうした検討を進めるため、国立情報学研究所では国立大学図書館協議会との連携の下にプロジェクト会議を設置しており、平成 13 年度は 7 月 6 日に第 1 回、3 月 4 日に第 2 回会議を開催した。また、具体的な検討を行うため、プロジェクト会議の下にワーキンググループを設置しており、平成 13 年度は 8 月 2 日に会議を開催した。これら会議での検討結果に基づき、平成 14 年 3 月 17 日から 24 日の日程で、宮澤彰実証研究センター長、大埜浩一開発・事業部次長及び鶴澤和往同部コンテンツ課計量情報係長を米国に派遣し、ARL(研究図書館協会)、LC(米国議会図書館)、マサチューセッツ大学及びワシントン大学を訪問して、日米間 ILL の促進に関する打ち合わせを行った。平成 14 年 4 月 15 日からは、OCLC と合意文書を交換しグローバル ILL(OCLC との ILL システム間リンク)の運用を開始した。

プロジェクトの成果については「日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト 2001 年度報告」として報告書にまとめ平成 14 年 3 月に刊行した。

⑨ 海外モニター

平成 14 年 7 月から、海外への情報発信を強化するにあたり、広く海外の研究者等から本研究所のサービスについての意見や要望をまとめ、事業に反映させることを目的に、情報検索サービス及び電子図書館サービスを無料で提供しモニターを行う事業を下記のとおり実施している。

対象：海外の大学、外国政府機関(在日機関を含む)、海外の図書館、国立情報学研究所の提供するサービスに登録している機関、日本学術振興会、科学技術振興事業団、国際交流基金等の在外施設に勤務する職員、海外の大学に在籍する大学院学生

提供の範囲：(1)情報検索サービス：現在、海外利用者へ提供するすべてのデータベース、(2)電子図書館サービス：機関別定額制で提供対象としている著作権使用料が無料で学会から許諾が得られた論文誌等

平成 14 年度末までに 294 件の申し込みがあり、258 件が承認されモニターを行った。

	機関	個人	計
申込件数	106 件	188 件	294 件
承認件数	93 件	165 件	258 件
取消、確認・手続き中など	13 件	23 件	36 件

平成 15 年 1 月からモニター結果の提出を受け付け、4 月以降の受付分を含めて機関から 65 件、個人から 63 件の回答があった。提出された意見や要望については、可能なものから順次事業に反映

させる予定である。

(14) 研修事業

平成 13 年度及び 14 年度の教育研修事業を以下のとおり実施し、各研修・講習会において所定の課程を修了した者は、合計で 976 名(平成 13 年度)及び 1,751 名(平成 14 年度)であった。

各研修・講習会の実施内容等は次のとおりである。

① 国立情報学研究所セミナー

大学等の図書館、計算機センター等の情報処理関連機関に勤務する職員を対象に、実際の研究活動の体験を通して学術研究支援活動の中核となる人材の養成を目的に、次のとおり実施した。

○平成 13 年度

会 場	開 催 期 間	受講者数
国立情報学研究所他	13.6.18(月)～13.12.14(金)	3 名

○平成 14 年度

会 場	開 催 期 間	受講者数
国立情報学研究所他	14.7.1(月)～14.12.13(金)	2 名

② 情報ネットワーク担当職員研修

大学等のネットワークシステムの運用管理を担当する職員を対象に、機関内 LAN 等の構築・運用管理等の業務に係る最新かつ高度の知識及び専門技術の習得を目的とした研修であり、ネットワーク管理Ⅰコース(平成 13 年度は 3 日間、14 年度は 3.5 日間)、ネットワーク管理Ⅱコース(平成 13 年度は 3 日間、14 年度は 3.5 日間)を次のとおり実施した。

○平成 13 年度

区 分	会 場	回数	開 催 期 間	受講者数
ネットワーク管理Ⅰ	外部会場	①	13. 7. 11(水)～13. 7. 13(金)	20 名
		②	13. 8. 8(水)～13. 8. 10(金)	20 名
		③	13.11.14(水)～13.11.16(金)	20 名
ネットワーク管理Ⅱ	外部会場	①	13. 8. 1(水)～13. 8. 3(金)	16 名
		②	13. 9. 5(水)～13. 9. 7(金)	16 名
		③	13.12. 5(水)～13.12. 7(金)	16 名
合 計				108 名

○平成 14 年度

区 分	会 場	回数	開 催 期 間	受講者数
ネットワーク管理Ⅰ	外部会場 国立情報学研究所	①	14. 7. 8(月)～14. 7. 11(木)	19 名
		②	14. 8. 5(月)～14. 8. 8(木)	20 名
		③	14.11.11(月)～14.11.14(木)	20 名
ネットワーク管理Ⅱ	外部会場 国立情報学研究所	①	14. 7. 29(月)～14. 8. 1(木)	16 名
		②	14. 9. 2(月)～14. 9. 5(木)	15 名
		③	14.12. 2(月)～14.12. 5(木)	16 名
合 計				106 名

③ 情報セキュリティ担当職員研修

大学等のネットワークシステムの運用管理を担当する職員を対象に、情報セキュリティに関する最新かつ高度な知識・技能を教授し、資質と能力の更なる向上を図ることを目的とした研修であり、平成 13

年度に試行として実施(2日間)した後、平成14年度から本格実施(5日間)している。

また、本研修とは別に大学等のネットワークシステムの運用管理者等を対象に、情報セキュリティポリシーの策定ならびにセキュリティに関する最新の動向に関するセミナー「情報セキュリティポリシー入門講座」(0.5日間)を平成14年度に全国7カ所の会場で開催した。

○平成13年度(試行)

会 場	開 催 期 間	受講者数
外部会場	14. 2. 18(月)～14. 2. 19(火)	20名

○平成14年度

会 場	回数	開 催 期 間	受講者数
外部会場	①	14. 7. 15(月)～14. 7. 19(金)	20名
	②	14. 7. 22(月)～14. 7. 26(金)	15名
	③	14. 8. 26(月)～14. 8. 30(金)	19名
	④	14. 9. 9(月)～14. 9. 13(金)	18名
	⑤	14.10.21(月)～14.10.25(金)	14名
	⑥	14.11.18(月)～14.11.22(金)	14名
合 計			100名

○情報セキュリティポリシー入門講座(平成14年度)

会 場	開 催 期 間	受講者数
北海道大学学術交流会館	14. 11. 8(金)	82名
厚生年金ハートピア山形	14. 11. 6(水)	80名
一橋記念講堂	14. 12. 2(月)	160名
富山国際会議場	15. 1. 31(金)	76名
名古屋大学シンポジオン	14. 9. 25(水)	81名
大阪大学銀杏会館	14. 12.16(月)	140名
九州大学附属図書館	14. 11. 8(金)	70名
合 計		689名

④ 情報処理軽井沢セミナー

大学等の職員を対象に、高度化する学術情報基盤の環境に対応できる情報処理の最新技術・理論を修得し、学術研究活動を支援する要員の育成を目的とした研修。軽井沢国際高等セミナーハウスを会場に合宿セミナー形式で実施した。

○平成13年度

テーマ	会 場	開 催 期 間	受講者数
Linux 活用	国際高等セミナーハウス	13. 8.27(月)～13. 8.31(金)	8名

○平成14年度

テーマ	会 場	開 催 期 間	受講者数
D と SPSS	国際高等セミナーハウス	15. 2.18(火)～15. 2.21(金)	8名

⑤ 総合目録データベース実務研修

総合目録データベースの構築を推進するため、目録所在情報サービスに参加している図書館等の目録業務担当者を対象に、参加図書館での中核的役割を担う人材の養成を目的とした2週間の研修を次のとおり実施した。

○平成 13 年度

区 分	会 場	開 催 期 間	受講者数
図書館システム担当者 コース	国立情報学研究所	13. 9.10(月)～13. 9.21(金)	11 名
目録担当者コース	国立情報学研究所	13.10.29(月)～13. 11. 9(金)	12 名
合 計			23 名

○平成 14 年度

区 分	会 場	回 数	開 催 期 間	受講者数
目録担当者コース	国立情報学研究所	①	14. 10.21(月) ～14. 11. 1(金)	12 名
		②	14.11.18(月) ～14. 11. 29(金)	11 名
合 計				23 名

⑥ NACSIS-IRデータベース実務研修

NACSIS-IR の基本的な検索技術を有する業務担当者を対象に、NACSIS-IR をはじめとする情報検索サービスの利用説明会や学内講習会の講師などを担当できる人材の養成を目的とした3日間の研修を次のとおり実施した。

○平成 13 年度

会 場	回 数	開 催 期 間	受講者数
国立情報学研究所	①	13.6.20(水)～13.6.22(金)	18 名
	②	13.9.26(水)～13.9.28(金)	14 名
合 計			32 名

○平成 14 年度

会 場	回 数	開 催 期 間	受講者数
国立情報学研究所	①	14.6.19(水)～14.6.21(金)	16 名
	②	14.9.18(水)～14.9.20(金)	20 名
合 計			36 名

⑦ 目録システム講習会

目録所在情報サービスを利用している大学等の図書館における目録業務担当者を対象に、目録システムの運用に関する知識・技術の習得を目的として、図書コース(3日間)、雑誌コース(3日間)の講習会を、次のとおり実施した。

○平成 13 年度

区 分	会 場	回 数	開 催 期 間	受講者数
図書コース	国立情報学研究所	①	13. 5.30(水)～13. 6. 1(金)	34 名
		②	13. 6.27(水)～13. 6.29.(金)	33 名
		③	13. 7.25(水)～13. 7.27(金)	34 名
		④	13. 9.19(水)～13. 9.21(金)	34 名
		⑤	13.11. 7(水)～13.11. 9(金)	33 名
		⑥	13.12.12(水)～13.12.14(金)	34 名
雑誌コース	国立情報学研究所	①	13. 6. 6(水)～13. 6. 8(金)	34 名
		②	13. 7. 4(水)～13. 7. 6(金)	34 名
		③	13.11.28(水)～13.11.30(金)	33 名
合 計				303 名

○平成 14 年度

区 分	会 場	回数	開 催 期 間	受講者数
図書コース	国立情報学研究所	①	14. 5.29(水)～14. 5.31(金)	34 名
		②	14. 6.26(水)～14. 6.28(金)	34 名
		③	14. 7.24(水)～14. 7.26(金)	34 名
		④	14. 9.25(水)～14. 9.27(金)	34 名
		⑤	14.10.30(水)～14.11. 1(金)	27 名
		⑥	14.11.27(水)～14.11.29(金)	22 名
雑誌コース	国立情報学研究所	①	14. 6. 5(水)～14. 6. 7(金)	33 名
		②	14. 7.17(水)～14. 7.19(金)	34 名
		③	14.11. 6(水)～14.11. 8(金)	34 名
		④	15. 1.22(水)～15. 1.24(金)	34 名
合 計				320 名

⑧ 目録システム地域講習会

目録システム講習会の受講機会の拡大を図るため、センターで実施しているものと同等の講習会を目録システム地域講習会として、図書コース(3 日間)の講習会を各大学図書館と共催で、次のとおり実施した。

○平成 13 年度

区 分	会 場	開 催 期 間	受講者数
図書コース	北海道大学	13.10. 3(水)～13.10. 5(金)	9 名
	東北大学	13. 6.27(水)～13. 6.29(金)	12 名
	新潟大学	13. 9. 4(火)～13. 9. 6(木)	19 名
	名古屋大学	13.10. 3(水)～13.10. 5(金)	27 名
	京都大学	13. 7. 2(月)～13. 7. 4(水)	20 名
	立命館大学	13. 9.12(水)～13. 9.14(金)	29 名
	神戸大学	13. 6.19(火)～13. 6.21(木)	15 名
	関西大学	13. 9.18(火)～13. 9.20(木)	28 名
	岡山大学	13. 8.29(水)～13. 8.31(金)	20 名
	九州大学	13. 6. 6(水)～13. 6. 8(金)	31 名
	宮崎大学	13.10.10(水)～13.10.12(金)	16 名
合 計			226 名

○平成 14 年度

区 分	会 場	開 催 期 間	受講者数
図書コース	北海道大学	14. 7. 3(水)～14. 7. 5(金)	16 名
	東北大学	14. 7.10(水)～14. 7.12(金)	19 名
	金沢大学	14. 9. 3(火)～14. 9. 5(木)	12 名
	名古屋大学	14.10. 2(水)～14.10. 4(金)	20 名
	京都大学	14. 7. 1(月)～14. 7. 3(水)	20 名
	立命館大学	14. 9.11(水)～14. 9.13(金)	30 名
	大阪市立大学	14. 8.27(水)～14. 8.29(金)	20 名
	神戸大学	14. 6.19(水)～14. 6.21(金)	14 名
	関西大学	14. 9.18(水)～14. 9.20(金)	25 名
	愛媛大学	14. 8.21(水)～14. 8.23(金)	16 名
	鹿児島大学	14. 8.28(水)～14. 8.30(金)	14 名
	琉球大学	14.11.11(月)～14.11.13(水)	17 名
合 計			223 名

⑨ ILLシステム講習会

大学等の図書館におけるILLシステムの業務担当者を対象に、ILLシステムの運用に関する知識・技術の習得を目的として、2日間の講習会を、次のとおり実施した。

○平成13年度

会場	回数	開催期間	受講者数
国立情報学研究所	①	13.5.24(木)～13.5.25(金)	34名
	②	13.6.14(木)～13.6.15(金)	34名
	③	13.7.12(木)～13.7.13(金)	34名
合計			102名

○平成14年度

会場	回数	開催期間	受講者数
国立情報学研究所	①	14.5.23(木)～14.5.24(金)	33名
	②	14.6.13(木)～14.6.14(金)	34名
	③	14.7.4(木)～14.7.5(金)	33名
合計			100名

⑩ ILLシステム地域講習会

ILLシステム講習会の受講機会の拡大を図るため、センターで実施しているものと同等の講習会を、ILLシステム地域講習会として、2週間の講習会を各大学図書館と共催で、次のとおり実施した。

なお、平成14年度は実施していない。

○平成13年度

会場	開催期間	受講者数
京都大学	13.7.5(木)～13.7.6(金)	20名
合計		20名

⑪ NACSIS-IR利用説明会

国立情報学研究所の情報検索サービス(NACSIS-IR)の利用者及び代行検索を行う担当者を対象に、Web版のインターフェースによる検索方法等に関する基本的な知識・技術の習得を目的として、半日間の利用説明会を次のとおり実施した。

○平成13年度

会場	回数	開催期間	受講者数
国立情報学研究所	①	13.5.23(水)	24名
	②	13.6.20(水)	16名
	③	13.7.18(水)	18名
	④	13.9.26(水)	21名
	⑤	13.10.24(水)	10名
合計			89名

○平成14年度

会場	回数	開催期間	受講者数
国立情報学研究所	①	14.5.22(水)	21名
	②	14.6.19(水)	20名
	③	14.7.10(水)	23名
	④	14.9.18(水)	15名
	⑤	14.10.16(水)	20名
合計			99名

⑫ 大学等主催講習会支援事業

センターの各種サービスを利用するための講習会等を独自に企画・実施した大学・学協会等の団体に対して、次のとおり資料の提供や講習会用利用者番号貸与等の支援・協力を行った。

○平成13年度

機関名	日程	サービス	対象	受講者数
北海道大学附属図書館情報システム新任担当者実務研修	13.4.11(水)	NACSIS-ILL	図書館職員	7名
	13.4.16(月)～17(火)	NACSIS-CAT (雑誌)		12名
	13.4.18(水)～20(金)	NACSIS-CAT (図書)		6名
熊本大学附属図書館	13.5.18(金)～25(金) (8日間)	NACSIS-IR	学部学生	82名
日本大学文理学部	13.5.24(木)～6.14(木)、 6.28(木)～7.5(木)の間で 6日間	NACSIS-IR	学部学生	29名
図書館情報大学	13.6.6(水)、6.13(水)、 7.4(水)(3日間)	NACSIS-IR	学部学生	198名
東洋大学社会学部	13.6.11(月)～7.16(月)の 間で6日間	NACSIS-IR	学部学生	200名
フェリス女学院大学附属図書館	13.6.20(水)	NACSIS-IR	教員、院生	10名
東京水産大学附属図書館	13.7.4(水)	NACSIS-IR	教員、学生	10名
京都大学附属図書館	13.7.6(金)	NACSIS-IR	学部学生	82名
桃山学院大学エクステンション・センター	13.7.25(水)～27(金)、 30(月)(4日間)	NACSIS-IR	学生等	195名
フェリス女学院大学附属図書館	13.7.27(金)	NACSIS-IR	図書館職員、教員、院生	5名
京都橘女子大学	13.9.3(月)、9.13(木)、 9.20(木)、12.17(月) (4日間)	NACSIS-IR	学部学生	201名
富士大学	13.9.4(火)～6(木) (3日間)	NACSIS-IR	学生等	80名
敬愛大学図書館	13.10.3(水)～31(木)の間 で12日間	NACSIS-IR	学部学生	400名
立命館大学総合情報センター	13.10.31(水)	NACSIS-IR	図書系職員	34名
愛知淑徳大学図書館 長久手本館	13.11.6(火)～7(水)、 11.14(水)～15(木) (4日間)	NACSIS-CAT	図書館員	3名
梅花女子大学	13.11.8(木)、22(木) (2日間)	NACSIS-IR	学部学生	71名
近畿大学短期大学部司書課程	13.11.19(月)～12.5(水)の 間で4日間	NACSIS-IR	学部学生	71名
敬愛大学図書館	13.11.29(木)	NACSIS-IR	図書館職員	11名
梅花女子大学文学部	13.11.30(金)、12.7(金) (2日間)	NACSIS-IR	学部学生	16名

玉川大学文学部	13.11.30(金)、12.7(金) (2日間)	NACSIS-IR	学部学生	39名
兵庫大学附属図書館	13.12.18(火)、12.20(木) (2日間)	NACSIS-IR	教職員	6名
静岡文化芸術大学	13.12.19(水)～22(土)、 14.1.10(木)～26(土)の間 の17日間	NACSIS-IR	学部学生	155名
藤女子大学	14.2.27(水)	NACSIS-IR	職員	3名
釧路工業高等専門学校	14.3.27(水)	NACSIS-IR	職員	2名
合 計				1,928名

○平成14年度

機 関 名	日 程	サービス	対 象	受講者数
北海道大学附属図書館	14.4.10(水)～4.19(金)	NACSIS-CAT NACSIS-ILL	図書館職員	30名
三重大学附属図書館(1)	14.4.24(水)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	大学院生	4名
鳴門教育大学附属図書館 (1)(2)	14.4.22(月)	NACSIS-IR	大学院生	55名
	14.5.13(月)	NACSIS-IR	大学院生	60名
宮崎大学附属図書館	14.5.10(金)、16(木) 22(水)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	教職員	17名
京都大学東南アジア研究センター	14.5.13(月)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	大学院生 教職員	15名
三重大学附属図書館(2)	14.5.13(月)～5.24(金)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	学部学生、 大学院生	37名
埼玉大学附属図書館	14.5.23(木)、6.27(木)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	教職員、 学生	20名
静岡県立大学附属図書館	14.5.13(月)、6.27(木)	NACSIS-IR	学部学生	50名
新潟国際情報大学	14.5.28(火)～6.18(火) の毎火曜(4日間)	NACSIS-IR	学生	223名
立命館大学総合情報センター	14.5.29(水)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	教職員、院 生、学部生	36名
昭和女子大学図書館(1)	14.5.29(水)	NACSIS-IR	学生	25名
梅花女子大学	14.5.30(木)、6.6(木)	NACSIS-IR	学生	30名
図書館情報大学	14.6.5(水)、6.12(水) 6.25(火)	NACSIS-IR	学生	195名
日本大学文理学部	14.6.6(木)～7.4(木)の 間の5日間	NACSIS-IR	「図書館学 特別演習」 受講者	9名
近畿大学短期大学部	14.6.10(月)、6.17(月)	NACSIS-IR	学生	11名
東洋大学	14.6.11(火)～7.9(火)の 毎火曜(5日間)	NACSIS-IR	学部生	30名
甲南大学図書館	14.6.13(木)	NACSIS-IR	学部生・ 大学院生・ 教職員等	15名

福井大学	14.7.19(金)、26(金)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	学生、教官	27名
京都大学附属図書館	14.7.5(金)	NACSIS-IR	学部学生	50名
鈴鹿工業高等専門学校	14.7.4(木)	NACSIS-IR	教官、院生	8名
	14.7.10(水)	NACSIS-ELS	教職員、 学生	40名
昭和女子大学図書館(2)	14.7.22(月)～7.31(水)	NACSIS-IR	教員	38名
大阪樟蔭女子大学(1)	14.7.23(火)、7.25(木)	NACSIS-IR		63名
京都橘女子大学	14.8.17(土)、8.21(水) 31(土)、9.2(月)、9.13 (金)、9.17(火)、9.21(土)	NACSIS-IR	学生	150名
桃山学院大学エクステンションセンター	14.8.8(木)	NACSIS-IR	司書講習受 講者	169名
兵庫教育大学附属図書館	14.8.7(水)	NACSIS-IR	大学院生	20名
私立短期大学図書館協議会	14.8.23(金)	NACSIS-IR	図書館員	19名
	14.9.11(水)～9.13(金)	NACSIS-IR	図書館員	20名
富士大学	14.9.3(火)～9.4(水)	NACSIS-IR	司書講習受 講者	63名
東京家政大学	14.9.5(木)～9.12(木) の6日間	NACSIS-IR	学部学生	90名
鹿屋体育大学	14.9.24(火)	NACSIS-IR	大学院生	35名
京都大学附属図書館	14.9.5(木)、9.13(金)、 9.17(火)、9.25(水)他 12日間	NACSIS-IR	教職員、 学生	60名
佐賀医科大学	14.10.2(水)	NACSIS-IR	教職員	149名
昭和女子大学図書館(3)	14.10.16(水)～11.13 (水)の毎水曜(5日間)	NACSIS-IR	英米文学科 3年生	217名
三重大学附属図書館(3)(4)	14.10.21(月)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	学部学生	56名
熊本大学附属図書館	14.10.25(金)、11.8(金)	NACSIS-IR	学部学生	50名
関西学院大学図書館	14.11.1(金)	NACSIS-IR	図書館職員	13名
昭和女子大学図書館(4)	14.11.6(水)、13(水)、 20(水)	NACSIS-IR	学部学生	99名
常葉学園大学附属図書館	14.11.15(金)、29(金)、 12.6(金)	NACSIS-IR	学部学生	57名
大阪樟蔭女子大学関屋図書館	14.11.19(火)、11.22(金)	NACSIS-IR	大学教員	30名
北陸先端科学技術大学院大学	14.12.11(火)	NACSIS-IR	教官、 大学院生	18名
梅花女子大学	14.12.17(水)、15.1.14 (火)	NACSIS-IR	学部学生	39名
静岡文化芸術大学	14.12.18(水)、15.1.15 (水)、22(水)、27(月)、 28(火)	NACSIS-IR	学部学生	175名
名古屋工業大学附属図書館	14.11.5(火)～8(金)	NACSIS-CAT	派遣社員 (遡及入力)	3名
金沢星稜大学図書館	15.1.7(火)	NACSIS-IR	図書館員	7名

平安女学院大学情報メディアセンター(1)	14.11.24(日)～12.6(金)、 15.1.24までの8日間	NACSIS-IR	学部学生	233名
富山大学附属図書館	14.12.10(火)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	教職員・ 学生	31名
星稜女子短期大学	14.12.9(月)	NACSIS-IR	教職員	8名
東洋大学社会学部	15.1.9(木)	NACSIS-IR	学部学生	40名
活水女子大学図書館	15.1.29(水)	NACSIS-IR	学部学生	30名
平安女学院大学情報メディアセンター(2)	15.2.12(水)	NACSIS-IR	教職員	14名
昭和女子大学図書館(5)	15.2.12(水)～14(金)	NACSIS-IR NACSIS-ELS	教職員	25名
合 計				3,008名

⑬ 教育研修用ビデオ教材の作成・配布

研究所が提供するサービスに関するビデオを作成しており、サービス利用機関における内部研修や自学用の教材としての利用を目的に配布している。平成13年度は、目録システム講習会での各講の概論部分を動画・文章・音声で説明する教材「NACSIS-CAT 解説」のCD-ROMを作成し、各機関に配布した。

⑭ NACSIS-ILL自習システムの提供

インターネットブラウザを使用して、NACSIS-ILL システムの概要・運用方法を各人が習得できるサービスを平成13年2月から提供している。平成13年度は自習システムの評価を行い、ナレーションなしのバージョンを選択できるようシステムの改善を実施した。

⑮ 国際研修事業

事業の国際展開に伴い、国際交流基金や海外関連機関と協力して、海外において日本研究情報をサービスしている図書館員等に対し、本センターで提供するサービスに関する最新の知識・技術を習得する研修を次のとおり実施した。

○平成13年度

研修名	内 容	日 程	受講者数
北京日本学研究中心図書資料館 図書資料館員研修	北京日本学研究中心図書資料館の 情報化支援のために設置された「中 国との学術情報交流プロジェクト」の一 環として北京及び国立情報学研究所等 で実施	13.11.16(金)～ 13.11.22(木) 14.1.21(月)～14.2.1(金) 14.2.18(月)～14.3.8(金)	5名
天津図書館への目 録システム講習会	国際交流基金、北京日本学研究中心 との共催により、天津図書館職員に 対して目録講習会を実施	13.10.15(月)～ 13.10.17(水)	4名
ドイツでの目録シス テム講習会	国際交流基金ケルン日本文化会館、日 本資料図書館連絡会との共催により、ド イツを中心とした欧州の NACSIS-CAT 参加機関を対象とした目録システム講 習会を実施	13.10.10(水)～13.10.12 (金)	15名
CO-EXIST-SEA 研修	科学技術振興事業団が実施する CO-EXIST-SEA(東南アジア科学技術 情報・流通促進プログラム)参加機関に おける情報担当の人材育成を目的とす る研修への協力	14.3.26(火)～14.3.28(木)	18名
合 計			42名

○平成 14 年度

研 修 名	内 容	日 程	受講者数
ドイツでの目録システム講習会	ミュンヘン大学東アジア研究所日本学科、国際交流基金、日本資料図書館連絡会との共催により、ドイツを中心とした欧州の NACSIS-CAT 参加機関を対象とした目録システム講習会を実施	14.7.22(月)～14.7.26(金)	20 名
CO-EXIST-SEA研修	科学技術振興事業団が実施するCO-EXIST-SEA(東南アジア科学技術情報・流通促進プログラム)参加機関における情報担当の人材育成を目的とする研修への協力	14.9.3(火)～14.9.5(木)	16 名
日本研究情報専門家研修	海外で日本研究資料を提供する図書館員等に資料・情報に関する知識・技術の向上を図る研修(主催:国際交流基金、国立国会図書館、3 週間)。期間中の 2 日間を担当	14.12.10(火)～ 14.12.11(水)	9 名
合 計			45 名

6. 広報

① 概要

研究所内の委員会として Web・広報委員会を設置し、研究所の Web(インターネット上の情報提供サービス)をはじめとする広報活動を展開している。

② ホームページ

平成 12 年 4 月から国立情報学研究所のホームページを立ち上げ、研究活動に関する情報、各種学術情報サービスを提供しており、平成 13 年 4 月及び平成 14 年 4 月にそれぞれトップページデザインの刷新を行った。平成 14 年度には、総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻の開設にあわせ、大学院案内のページを発足させ、大学院教育に関する情報提供の拡充・強化を図っているところである。また、公開講演会などの催し物情報を集めたイベント案内のページ、及び、文部科学省等関係機関へのリンクを集めた学術研究リンクのページの追加、さらに、画面表示の可変幅化への対応を行った。

ホームページの作成・編集については、Web・広報委員会の下に Web 部会を設置し、ホームページを通じた広報・情報提供に関する企画及び調整を行っている。

③ NII News の刊行

本研究所の研究及び開発・事業等の活動を紹介する広報誌として、「NII News」を刊行し、和文版については年 6 回隔月で、英文版については年 2 回刊行している。和文版については第 4 号～第 15 号を平成 13 年 4 月、6 月、9 月、10 月、平成 14 年 1 月、3 月、6 月、8 月、10 月、11 月、平成 15 年 1 月、3 月に刊行した。英文版については平成 13 年度及び平成 14 年度に第 2 号～第 5 号を刊行した。

刊行部数については、和文版は 4,500 部を発行し、国内の大学、研究所、情報関連の企業・団体や海外の学術機関に配布するとともに、英文版については 1,000 部を発行し、主として海外の関係機関に配布している。また、こうした配布分以外に、NII News の各号を電子化してホームページからも閲覧できるようにしているほか、NII News の各記事に関連するホームページの URL を掲載してホームページからより詳細かつ最新の情報が得られるように案内するなど、広報誌とホームページのメディアミックス的展開を推進している。

④ 定例記者会見

本研究所における研究・事業の内容や成果を一般に広報するため、平成 14 年度から記者会見を定期的(2 ヶ月に 1 回程度)に開催している。平成 14 年度における開催状況は下記のとおりである。記者会見の資料については、ホームページに掲載している。

回	開催日	テーマ	担当
1	平成 14 年 10 月 7 日(月)	図書検索サイト「Webcat Plus」のサービスを開始 —連想検索機能でベストの本探し—	高野 明彦 教授 開発・事業部 アプリケーション課
2	平成 14 年 12 月 17 日(火)	情報アクセス技術の評価会議 NTCIR ワークショップ —サーチエンジンの力くらべ—	安達 淳 教授 神門 典子 助教授
3	平成 15 年 1 月 20 日(月)	次世代オペレーティングシステム SSS-PC を開発 —オフィスの PC を束ねて高性能高信頼システムを 構築する新 OS—	松本 尚 助教授
4	平成 15 年 3 月 10 日(月)	NetCommons: インターネット時代のネット教育・市民活動支援システム —国立情報学研究所がモニター 100 団体を募集—	新井 紀子 助教授

⑤ 各種広報資料の作成

本研究所の研究及び開発・事業等の活動を紹介する概要資料として「国立情報学研究所要覧」の和文版及び英文版を、それぞれ平成 13 年度及び平成 14 年度に作成し、国内外の大学・研究機関等に配布したほか、来訪者や会議等での説明資料として広く配布した。このほか、平成 14 年度にはより幅広く配布できる広報資料として、要覧の簡略版として研究所紹介の概要パンフレット(A4 判 4 つ折 8 頁、日英併記)を作成した。

また、平成 14 年度には、研究所紹介のために「国立情報学研究所が目指すもの -The Mission of NII-」(約 14 分)の DVD(和・英)を作成した。このビデオについては、ホームページ上でも視聴できるようになっている。

7. 図書室

① 概要

本研究所の図書室では、情報学の研究・教育に必要な図書・雑誌等の資料の収集、整理、保存を行うこととし、情報学の専門図書室として、情報学関係の資料の整備を進めている。

平成 14 年 4 月本研究所が総合研究大学院大学(総研大)に参加し、数物科学研究科情報学専攻を開設したことに伴い、同大学の基盤機関図書室に加わった。

② 電子ジャーナル整備

平成 13 年度においては、実験期間としてオンラインジャーナルの積極的導入を行った。平成 14 年度においては、総合研究大学院大学の一基盤機関図書室となったことで、国立大学図書館協議会のコンソーシアムによるオンラインジャーナル共同購入のうち 5 つに参加した。

③ 利用サービス及び図書館相互協力

平成 13 年度においては、国立情報学研究所図書室利用規程を制定し、閲覧関係の規則整備を行った。国立国会図書館との図書館間貸出に加入、国際 ILL の試行運用に参加した。

また前年度末に導入した図書館業務システムを活用し、OPAC を所内に公開した。またこれにより、図書購入、他機関から資料の借出、複写依頼、が図書室ホームページを経由して行えるようになった。

平成 14 年度においては、国際 ILL に正式に参加した。また、総研大大学院生向け図書室利用説明会を 4 月、10 月の 2 回開催した。図書室ホームページから、オンラインジャーナルのデータにアクセスできるよう整備した。

④ 研究所出版物等の保存管理

研究所刊行物の ISBN 及び ISSN の管理を行っており、平成 13 年度図書 6 冊、雑誌 2 冊、平成 14 年度図書 20 冊、雑誌 1 冊を研究所の出版物として受け入れた。教官の協力を得て、学術情報センター時代を含む国立情報学研究所の教官・研究者の研究成果の収集と情報提供を行っている。

⑤ 国立大学図書館協議会への参加についての検討

オンラインジャーナルの契約等新たな図書館活動の推進のため、国立大学図書館協議会への参加について平成 14 年度第 1 回図書室運営委員会において検討の結果、同協議会への参加を申請することが承認され、加入の申請を行った。

・ 図書所蔵冊数・雑誌所蔵タイトル数

平成 13 年度(平成 14 年 3 月現在)

資料種別	図書所蔵冊数	雑誌所蔵タイトル数	前年度比 (図書)	前年度比 (雑誌)
国内資料	11,360	1,212	+367	+9
国外資料	7,069	539	+546	+36
計	18,429	1,751	+ 913	+45

平成 14 年度(平成 15 年 3 月現在)

資料種別	図書所蔵冊数	雑誌所蔵タイトル数	前年度比 (図書)	前年度比 (雑誌)
国内資料	12,067	1,225	+707	+13
国外資料	7,695	578	+626	+39
計	19,762	1,803	+ 1,333	+52

・購入雑誌 プリント版・オンライン版タイトル数

平成 13 年度(平成 14 年 1 月)

資料種別	プリント版ジャーナル	オンラインジャーナル
国内資料	188	1
国外資料	218	4,065
計	406	4,066

平成 14 年度(平成 15 年 3 月)

資料種別	プリント版ジャーナル	オンラインジャーナル
国内資料	201	1
国外資料	247	4,999
計	456	5,000

・出版社別オンラインジャーナル一覧

平成 13 年度

	出版社	サービス名称	タイトル数	
1	ACM	ACM Digital Library	31	ACM からの案内 (+over50 Conf. Proc.)
2	Academic Press	IDEAL	176	コンソーシアム資料
3	Blackwell	Synergy, Ingenta	677	コンソーシアム資料、HP
4	Elsevier	Science Direct	875	コンソーシアム資料
5	IEEE Computer Society	CSLSP-e	19	HP (+over500 Conf. Proc.)
6	JSTOR	JSTOR	287	HP (+35 サービス準備中)
7	Springer	SpringerLink	502	HP
8	Wiley	WileyInterScience	408	HP
9	EBSCO	EBSCOhost BSE	1,090	HP
10	OCLC	OCLCFirstSearch		70 以上のデータベース(HP)
	合計		4,065	

平成 14 年度

	出版社	サービス名称	タイトル数	
1	ACM	ACM Digital Library	31	ACM からの案内 (+over50 Conf. Proc.)
2	Blackwell	Synergy, Ingenta	605	コンソーシアム資料、HP
3	EBSCO	EBSCOhost BSE	1,105	HP
4	Elsevier	Science Direct	994	コンソーシアム資料
5	IEEE Computer Society	CSLSP-e	19	HP (+over500 Conf. Proc.)
6	IEEE Communications Society	COMSOC DL	5	
7	JSTOR	JSTOR	427	HP
8	Kluwer	Kluwer Online	802	
9	Nature	Nature 及び姉妹誌	15	
10	OCLC	OCLC FirstSearch ECO	58	
11	Springer	SpringerLINK	514	HP
12	Wiley	WileyInterScience	424	HP
	合計		4,999	

・施設・設備現況

	図書閲覧室	書庫
面積	180 m ²	271 m ²
書架	単式書架:7段23連 大型図書用書架:単式2段4連 雑誌60誌用書架:10台 雑誌30誌用書架:5台 地図用書架:2台	集密電動書架:単式5段5連4台、複式5段5連20台、複式5段8連26台 展示用書架:1台 CD-ROM・ビデオ用書架:1台
閲覧席	8席(情報コンセント付)	3席(情報コンセント付)
検索用PC	2台	1台
主要設備	複写機(富士ゼロックス製 DC601CP)、自動貸出返却装置(住友3M製 ABC-II)、入室システム(マコム製 InfoWin)、ブックディテクション(住友3M製 M3501)、監視カメラ(国際電子工業製 UDC9N)	デジタルリーダープリンタ(スキャナ機能付)(ミノルタ製 MicroSP7000)

○図書館業務システム:NTTデータ製 NALIS(新 NACSIS-CAT/ILL 対応 多言語版 サーバ/クライアント型システム)

・図書館間相互貸借サービス件数(平成13~14年度)

平成13年度	文献複写	資料貸借	計
依頼	170	84	254
受付	123	11	134
計	293	95	

平成14年度	文献複写	資料貸借	計
依頼	229	71	300
受付	286	29	315
計	515	100	

・ISBN/ISSN発行状況(平成13~14年度)

ISBN発行 平成13年度 6冊

ISBN	タイトル
4-924600-97-0	Record of Workshop on Authority Control among Chinese, Korean and Japanese
4-924600-98-9	Proceedings of the International Conference on Dublin Core and Metadata Applications 2001
4-924600-99-7	情報学とは何か(情報学シリーズ3)
4-86049-000-2	サイバー社会の商取引(情報学シリーズ4)
4-86049-001-0	図書館ネットワーク(情報学シリーズ5)
4-86049-002-9	Record of Workshop on Authority Control among Chinese, Korean and Japanese Language

ISBN発行 平成14年度 20冊

4-86049-003-7	電子学術コンテンツの形成と学術電子図書館拡大の国際動向に関する研究
---------------	-----------------------------------

4-86049-004-5	Proceedings of the 8th International Workshop on Academic Information Networks and Systems
4-86049-005-3	中国との学術情報交流プロジェクト 2001 年度報告
4-86049-006-1	日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト 2001 年度報告
4-86049-007-x	Proceedings of the Tokyo Symposium for Digital Silk Roads
4-86049-008-8	共同研究「社会コミュニケーションの研究」
4-86049-010-X	Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting Part1: Overview
4-86049-011-8	Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting Part2: Cross-Lingual Information Retrieval Task
4-86049-012-6	Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting Part3: Patent Retrieval Task
4-86049-013-4	Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting Part4: Question Answering Challenge (QAC1)
4-86049-014-2	Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting Part5: Text Summarization Challenge 2 (TSC2)
4-86049-015-0	Working Notes of the Third NTCIR Workshop Meeting Part6: Web Retrieval Task
4-86049-016-9	Proceedings of the Third NTCIR Workshop on Research in Information Retrieval, Automatic Text Summarization and Question Answering
4-86049-017-7	電子ジャーナルで図書館が変わる(情報学シリーズ 6)
4-86049-018-5	国立情報学研究所が目指すもの The Mission of NII (DVD)
4-86049-019-3	目録システム利用マニュアル 第 5 版
4-86049-020-7	ILL システム利用マニュアル 第 5 版
4-86049-021-5	化学情報学(情報学シリーズ 7)
4-86049-022-3	Proceedings of the International Workshop on SWFAT
4-86049-023-1	知と美のハーモニー 猪瀬ロジからのメッセージ

ISSN 発行 平成 13 年度 2 タイトル

ISSN	タイトル
1346-5597	NII Technical Report
1346-8332	NII News (英文)

ISSN 発行 平成 14 年度 1 タイトル

1347-6025	国立情報学研究所年報
-----------	------------

ISBN 付与図書(26 件)

ISSN 付与逐次刊行物(3 件)

8. 予算・決算

○平成13年度事業費予算事項別の概要

(単位:千円)

区 分	前年度 予算額	平成13年度 予算額	対前年度 比較 増△減額	備 考
学術研究に必要な経費				
データベース作成等経費	801,128	769,666	△ 31,462	
a. データベース作成経費	734,509	734,509	0	
b. データベース購入費	66,282	34,820	△ 31,462	
c. 研究報告出版費	337	337	0	
特別研究経費				
a. 研究施設管理経費(学術総合センター管理運営費)	0	520,431	520,431	統一調整 電気△3.9% △5,706 ガス2.1%1,140
設備の更新充実に必要な経費				
図書購入費	1,636	2,372	736	研究部門の増 20 部門→29 部門
特別事業等に必要な経費				
附属施設経費	12,193	45,234	133,041	
a. 実証研究センター	12,193	69,569	57,376	
①センター運営費	12,193	12,228	35	外国旅費航空賃改定 35
②デジタルコンテンツ統合プラットフォーム開発経費	0	57,341	57,341	(新規)
b. 情報学資源研究センター	0	75,665	75,665	
①センター運営費	0	15,423	15,423	(新規) 外国旅費航空賃改定 62
②情報検索システム評価用テストコレクション研究開発経費	0	60,242	60,242	(新規) 外国旅費航空賃改定 26
共同利用研究施設運営費 (特別経費)	6,728,041	7,250,113	522,072	
a. 学術情報ネットワーク構築経費	6,324,643	6,847,194	522,551	学術情報ネットワークの整備
b. 二次情報サービス事業経費	93,245	93,245	0	
c. 一次情報データベースシステム経費	1,023	1,023	0	
d. 情報資料室運営費	4,553	4,553	0	
e. 目録所在情報遡及入力経費	68,666	68,666	0	
f. 学術雑誌総合目録全国所蔵調査経費	7,037	7,037	0	
g. 電子図書館構築経費	149,869	149,869	0	
h. 研究者公募情報データベース経費	4,201	3,722	△ 479	科学技術振興事業団との融合・連携に伴う減
i. オンラインジャーナル編集出版システム構築経費	74,804	74,804	0	
電子計算機経費	1,294,404	1,267,002	△ 27,402	
a. メインシステム	1,083,603	1,080,416	△ 3,187	統一調整 電気△3.9% △3,187
b. 電子メールシステム	61,319	0	△ 61,319	廃止
c. 研究基準情報サーバシステム	16,395	53,723	37,328	平年度化 37,440 統一調整 電気△3.9% △112
d. 電子図書館システム	133,087	132,863	△ 224	統一調整 電気△3.9% △224
合 計	8,837,402	9,954,818	1,117,416	12.6%増

○平成 14 年度事業費予算事項別の概要

(単位:千円)

区 分	前 年 度	平成 14 年度	対前年度	備 考
	予 算 額	予 算 額	比 較 増△減額	
学術研究に必要な経費				
データベース作成等経費	769,666	385,091	△ 384,575	
a. データベース作成経費	734,509	358,108	△ 376,401	JST との事業調整に伴う廃止 (3 件) 学会発表データベース △92,312 研究者デルタリー総合データベース △140,702 研究資源デルタリーデータベース △143,387
b. データベース購入費	34,820	26,983	△ 7,837	JST との事業調整に伴う廃止 (2 件) COMPENDEX △4,605 ISI/ISTP&B △3,232
c. 研究報告出版費	337	0	△ 337	見直しによる廃止
特別研究経費				
a. 研究施設管理経費(学術総合センター管理運営経費)	520,431	545,116	24,685	電気設備保守等 34,486 統一調整(電気△5%、ガス△5%) △9,801
設備の更新充実に必要な経費				
図書購入費	2,372	1,008	△ 1,364	積算方法変更に伴う減
特別事業等に必要な経費				
附属施設経費	145,234	145,234	0	
a. 実証研究センター	69,569	69,569	0	
①センター運営費	12,228	12,228	0	
②デジタルコンテンツ統合プラットフォーム開発経費	57,341	57,341	0	
b. 情報学資源研究センター	75,665	75,665	0	
①センター運営費	15,423	15,423	0	
②情報検索システム評価用テストコレクション研究開発経費	60,242	60,242	0	
共同利用研究施設運営費	7,250,113	7,667,879	417,766	
(特別経費)				
a. 学術情報ネットワーク構築経費	6,847,194	7,202,847	355,653	学術情報ネットワークの整備
b. 二次情報サービス事業経費	93,245	239,460	146,215	学術コンテンツポータルシステムの開発(新規)
c. 一次情報データベースシステム経費	1,023	0	△ 1,023	見直しによる廃止
d. 情報資料室運営費	4,553	0	△ 4,553	見直しによる廃止
e. 目録所在情報遡及入力経費	68,666	68,666	0	
f. 学術雑誌総合目録全国所蔵調査経費	7,037	7,037	0	
g. 電子図書館構築経費	149,869	149,869	0	
h. 研究者公募情報データベース経費	3,722	0	△ 3,722	JST との事業調整に伴う廃止
i. オンラインジャーナル編集出版システム構築経費	74,804	0	△ 74,804	JST との事業調整に伴う廃止
電子計算機経費	1,267,002	1,311,649	44,647	
a. メインシステム	1,080,416	1,076,489	△ 3,927	統一調整(電気△5%) △3,927
b. 研究基準情報サーバシステム	53,723	53,585	△ 138	統一調整(電気△5%) △138
c. 電子図書館システム	132,863	126,602	△ 6,261	電子計算機の更新(平成 15 年 1 月)△5,985 統一調整(電気△5%) △276
d. 電子ジャーナルミラーサーバ	0	54,973		新規(3 月分)
合 計	9,954,818	10,055,977	101,159	1.0%増

○平成 13 年度決算額の概要

■収 入

(単位:千円)

区 分	金 額
産学連携等研究収入	32,527
雑 収 入	61,491
科学研究費補助金	296,501
計	390,519

■支 出

(単位:千円)

区 分	金 額
人 件 費	1,214,919
物 件 費	9,041,290
研 究 費 等	8,633,751
産学連携等研究費	32,181
施 設 費	78,857
科学研究費補助金	296,501
計	10,256,209

○平成 14 年度決算額の概要

■収 入

(単位:千円)

区 分	金 額
産学連携等研究収入	94,824
雑 収 入	99,437
科学研究費補助金	296,927
計	491,188

■支 出

(単位:千円)

区 分	金 額
人 件 費	1,306,037
物 件 費	9,159,028
研 究 費 等	8,754,271
産学連携等研究費	93,404
施 設 費	14,426
科学研究費補助金	296,927
計	10,465,065

9. 施設

(1) 学術総合センター

学術総合センターは、我が国の学術研究基盤の充実強化を図るため、情報学の研究、学術の交流、学術情報の発信、社会との連携の拠点施設として建設され、平成 11 年 12 月に竣工した。高層棟は、国立情報学研究所をはじめ、一橋大学大学院国際企業戦略研究科、国立学校財務センター（一部）及び大学評価・学位授与機構（一部）での 4 機関が入居し、各機関が有する学術に関する諸機能を総合的に発揮することにより、高度の知的創造拠点の形成を目指している。また、低層棟は、一ツ橋記念講堂などの会議施設となっており、国立大学等による国際会議や学会、講演会等に幅広く対応している。この施設の概要は以下のとおりである。

所在地：東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1 番 2 号

建物目的：事務所、研究施設、寄宿舍

敷地面積：6,842 m²

建築面積：3,521 m²

延床面積：40,418 m²

階数：地上 23 階、地下 2 階、塔屋 2 階

(2) 千葉分館

平成 6 年 11 月、事業の拡大及びサービス内容の充実に伴いマルチメディア多重化装置、パケット交換機等及びホスト計算機システムの性能アップが必要となったが、現有施設が極めて狭隘であったため、東京大学生産技術研究所千葉実験所（千葉市稲毛区）の土地を借用し、電子計算機棟（千葉分館）を新設した。

鉄筋コンクリート造 3 階建の建物で、メインシステムコンピュータ室をはじめとするコンピュータ関連諸室のほか、実験研究室、図書室等を備え研究活動の場としても利用している。この施設の概要は以下のとおりである。

所在地：千葉県千葉市稲毛区弥生町 1 番 8 号

建物目的：電子計算機棟

敷地面積：1,782 m²（借地分）

建築面積：1,254 m²

延床面積：3,943 m²

階数：地上 3 階

(3) 国際高等セミナーハウス

平成 7 年 11 月、猪瀬博前所長から長野県北佐久郡軽井沢町に土地 3,339 m²を、研究所に寄贈いただいた。研究所としては「国際的な研究交流の場として役立てたい」との猪瀬所長の意向から、この土地に「国立情報学研究所（旧学術情報センター）国際高等セミナーハウス」を建設することとし、平成 9 年 3 月 28 日に竣工した。

国際高等セミナーハウスは、軽井沢駅に近い別荘が散在する閑静な自然環境の中にあり、日本の伝統的な家屋の雰囲気をもつ建物（設計は、建築家の芦原義信氏、工事は清水建設）で、46 人収容できるセミナー室、10 人の宿泊室を設け、研究所で実施する国際会議や研修をはじめ、評議員会等の会議も開催できるよう設備を整えている。この施設の概要は以下のとおりである。

所在地：長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢字長倉往還南原 1052-471

建物目的：セミナーハウス（研修施設）

敷地面積：3,339 m²

建築面積：662 m²

延床面積：667 m²

階数：地上 2 階

平成 14 年 5 月 11 日、国際高等セミナーハウス五周年記念式典・記念講演会を開催し、記念植樹を行った。

10. 会議等

(1) 参与会

情報学に関する研究並びに学術情報の流通のための基盤の開発及び整備等に関する諸問題について所長の諮問に応ずるため、参与会を置いている。参与会は、所長が委嘱する参与によって組織されている。

参与：

(任期：平成12年5月17日～平成14年5月16日)

天城 勲 財団法人高等教育研究所理事長
井内慶次郎 財団法人日本視聴覚教育協会会長
稲田 獻一 大阪大学名誉教授
岡村 總吾 国際大学理事長
岡本道雄 財団法人国際高等研究所特別顧問
川崎雅弘 科学技術振興事業団顧問
木田 宏 財団法人新国立劇場運営財団顧問
小山弘志 国文学研究資料館名誉教授
清水 司 東京家政大学長
戸張正雄 国立国会図書館長
長倉三郎 財団法人神奈川科学アカデミー理事長
福村晃夫 名古屋大学名誉教授
松田達郎 国立極地研究所名誉教授

Lewis M. Branscomb ハーバード大学名誉教授(任期：10.11.1～12.10.31,12.11.1～14.10.31)

Edward E. David, Jr. 元米大統領科学顧問(任期：10.11.1～12.10.31,12.11.1～14.10.31)

Lotfi A. Zadeh カリフォルニア大学バークレイ校教授(任期：10.11.1～12.10.31,12.11.1～14.10.31)

James L. Flanagan ラトガース大学副学長(任期：10.11.1～12.10.31,12.11.1～14.10.31)

Arno A. Penzias 元ルーセントテクノロジー社ベル研究所技術最高顧問(任期：11.11.1～13.10.31)

Walter L. Engl ドイツ・アーヘン工科大学名誉教授(任期：12.2.1～14.1.31)

John M. Thomas ケンブリッジ大学教授(任期：12.11.1～14.10.31)

(任期：平成14年5月17日～平成16年5月16日)

天城 勲 財団法人高等教育研究所理事長
井内慶次郎 財団法人日本視聴覚教育協会会長
岡村 總吾 国際大学理事長
木田 宏 財団法人新国立劇場運営財団顧問
清水 司 東京家政大学長
天満美智子 津田塾大学名誉教授
戸張正雄 前国立国会図書館長
長倉三郎 日本学士院長
福村晃夫 中京大学特別顧問

Walter L. Engl ドイツ・アーヘン工科大学名誉教授(任期：14.2.1～16.1.31)

平成13年度は、次のとおり開催した。

第1回(平成13年7月3日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 国立情報学研究所の概要について
2. 研究活動状況について
3. 平成13年度事業計画について
4. 平成13年度予算の概要について
5. 総合研究大学院大学への参加について

6. 独立行政法人化への対応について

平成 14 年度は、開催されなかった。

(2) 評議員会

大学共同利用機関組織運営規則(昭和 52 年文部省令第 12 号)に基づき、評議員会を置いている。評議員会は、研究所外の学識経験者 20 人以内で構成され、研究所の事業計画その他の管理運営に関する重要事項について所長に助言することとされている。評議員会は、文部科学大臣が任命する評議員によって構成されている。

評議員：

(任期：平成 12 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)

- | | |
|-------|---------------------|
| 青木利晴 | 株式会社 NTT データ代表取締役社長 |
| 井口洋太 | 東京大学名誉教授 |
| 石井米雄 | 神田外語大学長 |
| 植之原道行 | 多摩大学名誉教授 |
| 大崎仁 | 国立学校財務センター所長 |
| 大塚正徳 | 東京医科歯科大学名誉教授 |
| 大野公男 | 北海道情報大学長 |
| 奥島孝康 | 早稲田大学長 |
| 木村孟 | 大学評価・学位授与機構長 |
| 久保正彰 | 東京大学名誉教授 |
| 熊谷信昭 | 大阪大学名誉教授 |
| 古在由秀 | 群馬県立ぐんま天文台長 |
| ○末松安晴 | 高知工科大学長 |
| 菅原寛孝 | 高エネルギー加速器研究機構長 |
| 高橋潤二郎 | 慶應義塾常任理事 |
| 天満美智子 | 津田塾大学名誉教授 |
| 西田龍雄 | 学術情報センター名誉教授 |
| 松野陽一 | 国文学研究資料館長 |
| ◎森亘 | 東京大学名誉教授 |
| 吉川弘之 | 放送大学長 |

(任期：平成 14 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日)

- | | |
|-------|---------------------|
| 青木利晴 | 株式会社 NTT データ代表取締役社長 |
| 安西祐一郎 | 慶應義塾長 |
| 池端雪浦 | 東京外国語大学長 |
| 石井米雄 | 神田外語大学長 |
| 井口洋夫 | 宇宙開発事業団宇宙環境利用システム長 |
| 植之原道行 | 多摩大学名誉教授 |
| ○大崎仁 | 国立学校財務センター所長 |
| 大塚正徳 | 東京医科歯科大学名誉教授 |
| 沖村憲樹 | 科学技術振興事業団理事長 |
| 梶原拓 | 岐阜県知事 |
| 木村孟 | 大学評価・学位授与機構長 |
| 久保正彰 | 日本学士院第一部長 |
| 熊谷信昭 | 大阪大学名誉教授 |
| 佐和隆光 | 京都大学経済研究所長 |
| 菅原寛孝 | 高エネルギー加速器研究機構長 |

長尾 眞 京都大学長
野依 良治 名古屋大学大学院理学研究科教授
松野 陽一 国文学研究資料館長
◎森 亘 日本医学会長
吉川 弘之 独立行政法人産業技術総合研究所理事長
(注)◎は会長、○は副会長

平成 13 年度は 2 回開催し、次のような審議・報告を行った。

第 1 回(平成 13 年 7 月 19 日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 研究所の研究活動について
2. 予算の概要について
3. 教官公募について
4. 総合研究大学院大学への参加について
5. 独立行政法人化への対応について

第 2 回(平成 14 年 3 月 20 日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 教官人事について
2. 研究活動状況について
3. 平成 13 年度共同研究等について
4. 国立情報学研究所と科学技術振興事業団との連携協力の調整結果について
5. スーパーSINET の運用開始について
6. 平成 13 年度事業報告について
7. 平成 14 年度予算案について
8. 総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻について
9. 法人化について

平成 14 年度は 1 回開催し、次のような審議・報告を行った。

第 1 回(平成 14 年 7 月 2 日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 教官人事について
2. 研究活動状況について
3. 平成 14 年度共同研究等について
4. 平成 14 年度事業計画について
5. 平成 14 年度予算の概要について
6. 平成 15 年度概算要求の概要について
7. 法人化について

(3) 運営協議員会

大学共同利用機関組織運営規則(昭和 52 年文部省令第 12 号)に基づき運営協議員会を置いている。運営協議員会は、広く研究所外の意見を取り入れるため、研究所の教員及び研究所の目的たる研究と同一の研究に従事する研究者 21 人以内で構成され、共同研究計画に関する事項その他の機関の運営に関する重要事項で所長が必要と認めるものについて、所長の諮問に応じることとされている。運営協議員会は、文部科学大臣が任命する運営協議員によって組織されている。

運営協議員

(任期：平成 12 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)

有川 節夫 九州大学附属図書館長
稲垣 康善 名古屋大学大学院工学研究科教授
井上 如 学術情報センター名誉教授
黒田 晴雄 東京理科大学総合研究所教授

坂内正夫	東京大学生産技術研究所長
○清水龍瑩	東京国際大学商学部教授(13.9.15 逝去)
高木幹雄	東京理科大学基礎工学部教授
土居範久	慶應義塾大学理工学部教授
○山田尚勇	中京大学情報科学部教授
六本佳平	放送大学教授
若林克己	群馬大学名誉教授
◎佐和隆光	国立情報学研究所企画調整官(副所長)
小野欽司	国立情報学研究所研究総主幹
濱田 喬	国立情報学研究所国際・研究協力部長
羽鳥光俊	国立情報学研究所開発・事業部長
浅野正一郎	国立情報学研究所情報基盤研究系研究主幹
丸山勝己	国立情報学研究所ソフトウェア研究系研究主幹
上野晴樹	国立情報学研究所知能システム研究系研究主幹
内藤衛亮	国立情報学研究所人間・社会情報研究系研究主幹
根岸正光	国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹

(任期：平成14年4月1日～平成16年3月31日)

有川節夫	九州大学副学長・附属図書館長
稲垣康善	名古屋大学大学院工学研究科教授
井上 如	国立情報学研究所名誉教授
○黒田晴雄	東京理科大学総合研究所教授
高木幹雄	東京理科大学基礎工学部教授
田中英彦	東京大学大学院情報理工学系研究科長
田中穂積	東京工業大学大学院情報理工学研究科教授
土居範久	慶應義塾大学教授
六本佳平	放送大学教授
若林克己	群馬大学名誉教授
◎坂内正夫	国立情報学研究所企画調整官(副所長)
小野欽司	国立情報学研究所研究総主幹
根岸正光	国立情報学研究所国際・研究協力部長
羽鳥光俊	国立情報学研究所開発・事業部長
浅野正一郎	国立情報学研究所研究主幹
丸山勝己	国立情報学研究所研究主幹
山本毅雄	国立情報学研究所研究主幹
上野晴樹	国立情報学研究所研究主幹
小山照夫	国立情報学研究所研究主幹
宮澤 彰	国立情報学研究所研究主幹
山田茂樹	国立情報学研究所実証研究センター長

(注)◎は会長、○は副会長

平成13年度は3回開催し、次のような審議・報告を行った。

第1回(平成13年6月12日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 平成12年度事業報告について
2. 平成13年度事業計画について
3. 平成13年度共同研究について
4. 平成13年度予算について
5. 教官人事について

第2回(平成13年11月5日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 副会長の選任について
2. 教官人事について
3. 平成14年度概算要求の概要について
4. スーパーSINETについて
5. 平成13年度共同研究について
6. 国立情報学研究所と科学技術振興事業団の連携協力について
7. 独立行政法人化について

第3回(平成14年3月18日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 教官人事について
2. 平成13年度共同研究等について
3. 国立情報学研究所と科学技術振興事業団との連携協力の調整結果について
4. 平成13年度事業報告について
5. 平成14年度予算案について
6. 総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻について
7. 法人化について

平成14年度は2回開催し、次のような審議・報告を行った。

第1回(平成14年7月1日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 教官人事について
2. 研究活動状況について
3. 平成14年度共同研究等について
4. 平成14年度事業計画について
5. 平成14年度予算の概要について
6. 平成15年度概算要求の概要について
7. 法人化について

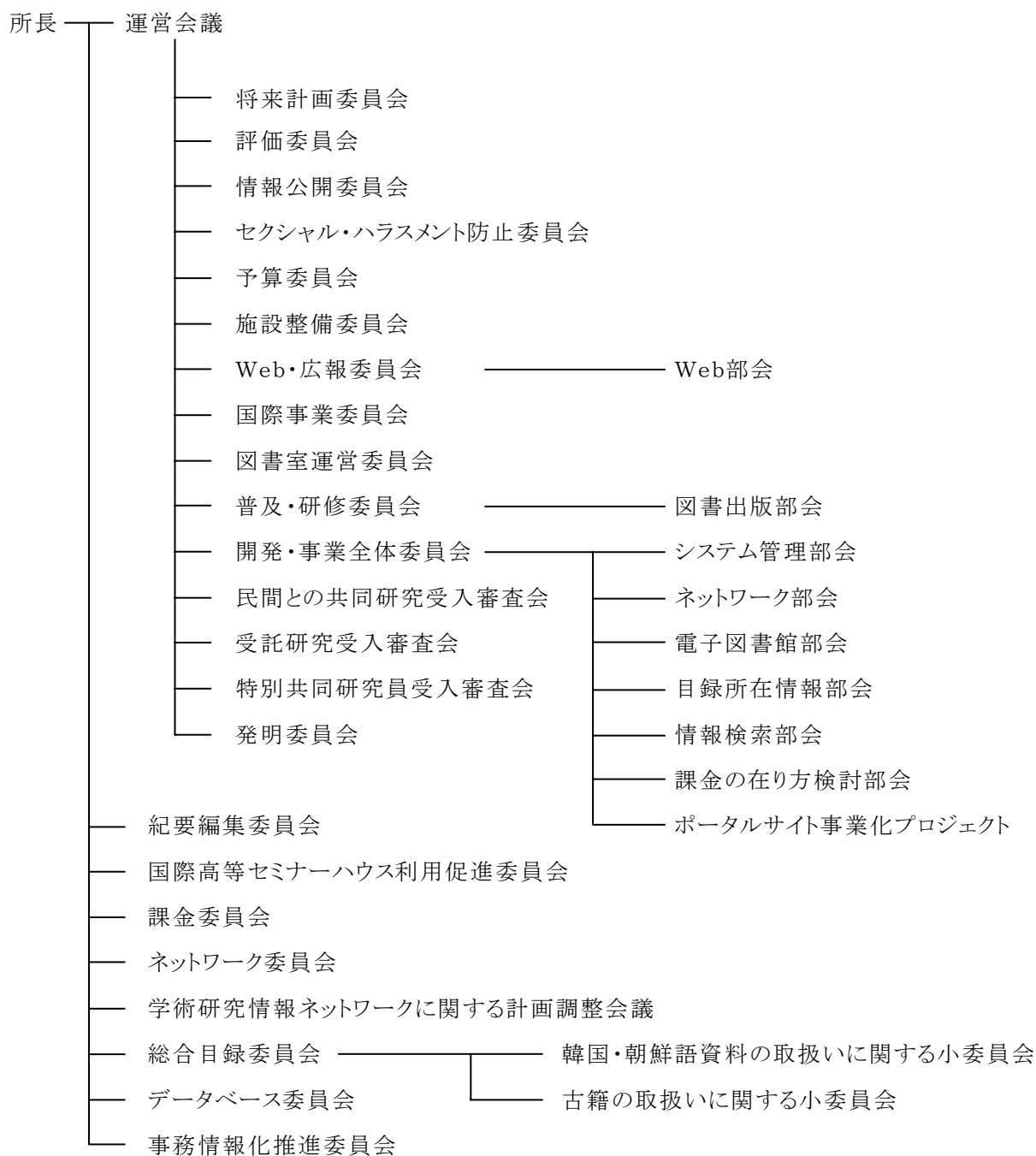
第2回(平成14年1月31日)於：国立情報学研究所(学術総合センター)

1. 教官人事について
2. 研究活動状況について
3. 平成14年度共同研究等について
4. 平成14年度事業報告について
5. 平成15年度予算案について

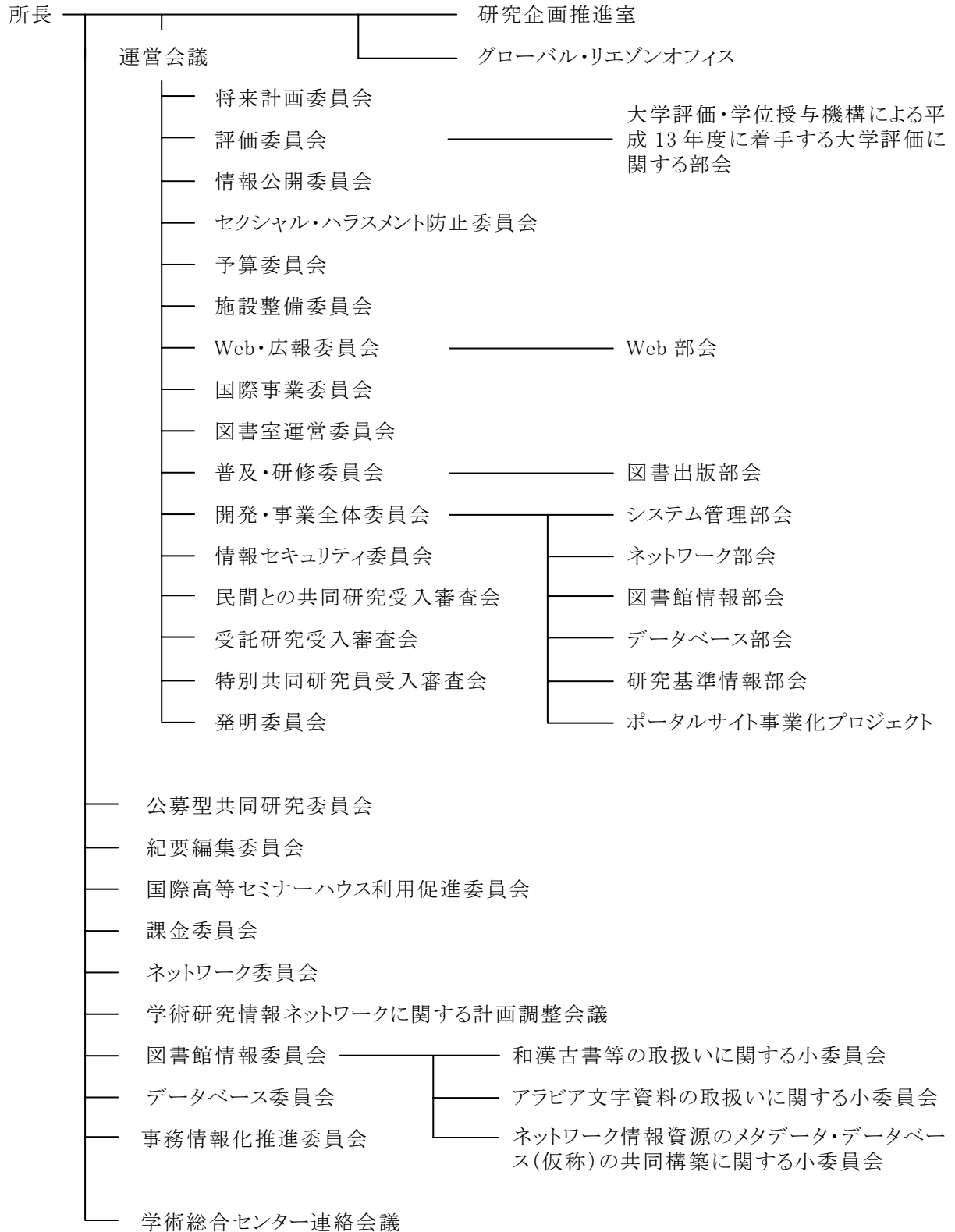
(4) 各種委員会等

研究所の円滑な管理・運営を図るため、各種委員会を設置している。

各種委員会等(平成13年度)



各種委員会等(平成 14 年度)



① 研究企画推進室会議

任務：

1. 研究プロジェクト等の企画・立案等に関する事項
2. 産学官の連携協力に関する事項
3. 競争的研究資金の獲得方策に関する事項
4. その他研究・教育の活性化に関する事項

構成：

- ◎ 坂内正夫 企画調整官(副所長)
- 根岸正光 国際・研究協力部長
- 安達 淳 情報学資源研究センター教授
- 高野明彦 ソフトウェア研究系教授
- 武田英明 知能システム研究系助教授
- 佐藤寛子 知能システム研究系助教授
- 藤山秋佐夫 学術研究情報研究系(情報学基礎研究系研究主幹)教授
- 山田茂樹 情報基盤研究系教授
- 佐藤真一 ソフトウェア研究系助教授
- 大山敬三 実証研究センター教授
- 千葉秀夫 管理部長
- 大埜浩一 開発・事業部次長
- 常盤勝己 管理部総務課長

(注)◎は室長

開催状況：

- 第1回 (平成14年10月1日)
- 第2回 (平成14年10月10日)
- 第3回 (平成14年10月30日)
- 第4回 (平成14年11月8日)
- 第5回 (平成14年11月25日)
- 第6回 (平成14年12月11日)
- 第7回 (平成15年1月7日)
- 第8回 (平成15年1月17日)
- 第9回 (平成15年1月27日)
- 第10回 (平成15年2月6日)
- 第11回 (平成15年3月26日)

● NII中期計画タスクフォース

任務：中期計画の原案の策定

構成：

- ◎ 坂内正夫 企画調整官(副所長)
- 根岸正光 国際・研究協力部長
- 安達 淳 情報学資源研究センター長
- 高野明彦 ソフトウェア研究系教授
- 武田英明 知能システム研究系助教授
- 佐藤寛子 知能システム研究系助教授
- 千葉秀夫 管理部長
- 大埜浩一 開発・事業部次長
- 常盤勝己 管理部総務課長

(注)◎は主査

開催状況：

- 第1回 (平成14年8月15日)
- 第2回 (平成14年8月27日)
- 第3回 (平成14年9月5日)
- 第4回 (平成14年9月19日)
- 第5回 (平成14年10月1日)
- 第6回 (平成14年10月10日)
- 第7回 (平成14年10月30日)
- 第8回 (平成14年11月8日)
- 第9回 (平成14年11月25日)
- 第10回 (平成14年12月11日)
- 第11回 (平成15年1月7日)
- 第12回 (平成15年1月17日)
- 第13回 (平成15年1月27日)
- 第14回 (平成15年2月6日)
- 第15回 (平成15年3月26日)

② 運営会議

任務：

- ・所内規則等の制定及び改廃に関すること
- ・各種委員会等の設置及び改廃に関すること
- ・予算に関すること
- ・事業に関すること
- ・大学院教育に関すること
- ・その他研究所の運営に関する重要事項

平成13年度

構成：

- ◎末 松 安 晴 所長
- 佐 和 隆 光 副所長(企画調整官)
- 小 野 欽 司 研究総主幹
- 濱 田 喬 国際・研究協力部長
- 羽 鳥 光 俊 開発・事業部長
- 浅 野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山 本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 内 藤 衛 亮 人間・社会情報研究系研究主幹
- 根 岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹
- 宮 澤 彰 実証研究センター長
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長
- 龍 田 真 教授
- 山 田 茂 樹 教授
- 小 山 照 夫 教授
- 高 野 明 彦 教授
- 橋 爪 宏 達 教授
- 大 山 敬 三 教授

佐藤 健 教授
本位田 真一 教授(～13.9.4)
速水 謙 教授(～13.9.4)
松岡 憲雄 管理部長(～13.9.30)
千葉 秀夫 管理部長(13.10.1～)
高野 茂 開発・事業部次長(～13.8.31)
大埜 浩一 開発・事業部次長(13.9.1～)
常盤 勝己 総務課長(～13.9.4)
福治 友英 会計課長(～13.9.4)
松井 一澄 研究協力課長(～13.9.4)
秋山 和男 広報調査課長(～13.9.4)
北村 明久 成果普及課長(～13.9.4)
藤川 俊三 企画調整課長(～13.9.4)
猪瀬 一夫 ネットワークシステム課長(～13.9.4)
京藤 貫 コンテンツ課長(～13.9.4)
川瀬 正幸 アプリケーション課長(～13.9.4)

(注)◎は議長

※ 平成13年9月4日付け国立情報学研究所運営会議規程の改正に伴い、構成員の変更が行われた。

開催状況：

第1回：平成13年4月10日

議題は無し

第2回：平成13年4月25日

1. 平成13年度新設組織の英文名称について
2. 研究所テクニカル・レポートの立上げについて
3. 奨学寄附金の受け入れについて
4. 大学等の研究活動を総覧する情報提供サービスの実施状況について
5. 電子図書館サービスの実施状況について
6. 研究者公募情報提供事業の実施状況について
7. 国立情報学研究所の広報関係について

第3回：平成13年5月15日

1. 情報学基礎研究系各研究部門及び管理部会計課の英文名称について
2. 研究所の運営について
3. テクニカル・レポートの進捗状況について
4. 科学研究費の間接経費について
5. 共同研究員の受入について
6. 客員助教授(外国人研究員)の招へいについて
7. 外国人研究者(中国政府派遣研究員)の受入について
8. 科学研究費補助金の応募(申請)・採択状況等について

第4回：平成13年5月29日

1. 共同研究員の追加受入について
2. 国立情報学研究所職員の中国派遣について
3. 「DATABASE 2001 TOKYO」への出展について

第5回：平成13年6月26日

1. NIIとJSTとの連携・協力に関する方向性について(案)
2. 外国人研究者の受入について
3. 平成13年度成果普及課新規予定事業等について

4. 研究基準情報部会の設置について
5. 汎用ドメイン名について
6. NACSIS-CAT Z39.50 ゲートウェイサーバの試行運用開始について
7. ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する検討会議の開催について
8. 「現行法令データベース」のサービス終了について

第 6 回：平成 13 年 7 月 24 日

1. 国立情報学研究所 公開講演会の開催について
2. 研究所の運営について
3. 客員助教授(外国人研究員)の受入について
4. 共同研究員の追加受入について
5. 個別版 CD-ROM サービスの廃止及び SPCAT の試験提供の開始について

第 7 回：平成 13 年 9 月 4 日

1. 国立情報学研究所の規則について

第 8 回：平成 13 年 9 月 11 日

1. 教官候補者推薦委員会の設置について
2. 平成 13 年度運営会議(下半期)開催日程について
3. ドイツでの目録システム講習会の開催について
4. 「東南アジア関係文献目録データベース」の公開について
5. 学協会とのデータベース等連絡会議の開催について
6. NII と JST との連携・協力に関する方向性について

第 9 回：平成 13 年 9 月 25 日

1. 国立情報学研究所の規則について
2. 国立情報学研究所来訪者のための研究室の使用について(案)
3. 教官候補者推薦委員会の設置について
4. NII/JST の連携・協力に関する調整部会について

第 10 回：平成 13 年 10 月 9 日

1. 非常勤職員の選考について
2. 「奨学寄附金の受入について」他 1 件
3. 「デジタル・シルクロード」東京シンポジウムの開催計画の概要について
4. Dublin Core とメタデータに関する研修の実施について
5. 今後の国立情報学研究所のサービスについて —JST との調整結果の報告—

第 11 回：平成 13 年 10 月 30 日

1. 教官人事について
2. 国立情報学研究所の規則について
3. 平成 13 年度リーダーシップ支援経費の配分方針について
4. 国立情報学研究所における旧姓使用の取扱い及び手続き等について
5. 学術コミュニケーションの最新動向に関するワークショップの開催について

第 12 回：平成 13 年 11 月 13 日

1. 国立情報学研究所の規則について
2. 平成 13 年度リーダーシップ支援経費の配分方針について
3. 施設整備に係る検討事項について
4. 大学院情報学専攻開設準備 WG の設置について
5. SPARC JAPAN について

第 13 回：平成 13 年 11 月 27 日

1. 総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻に係る平成 14 年度学生募集要項(博士後期課程)(案)について
2. 研究 Web の整備について
3. アンジェリノ客員教授の受入期間更新について

4. セキュリティ監査の実施について

第14回：平成13年12月10日

1. 客員教授の採用について
2. 情報学専攻学生募集要項について
3. 情報学シリーズ平成13年度出版計画について
4. 教職員懇談会について
5. 御用納めの会及び賀詞交換会について
6. 共同研究員の追加受入について

第15回：平成13年12月25日

1. 国立情報学研究所の規則について
2. 平成13年度補正予算に係る設備費の配分について
3. 競争的資金による間接経費の取扱いについて
4. JSTとの各調整部会の調整結果について
5. 平成14年度予算案について
6. ホームページ上における教官紹介について

第16回：平成14年1月15日

1. 大学院情報理工学専攻開設直前シンポジウムについて
2. 平成13年度ネットワークセキュリティ研修の実施について
3. 国立情報学研究所平成14年度概算要求査定結果
4. スーパーSINET 開通式について
5. 平成13年度リーダーシップ支援経費について

第17回：平成14年1月28日

1. 教官総覧の今後の取扱いについて
2. 施設整備計画について(第一次報告)
3. 留学生のための研究教育振興基金について

第18回：平成14年2月12日

1. 国立情報学研究所と統計数理研究所の統合について
2. 今後の大学共同利用機関の在り方等に関する懇談会の報告について
3. JSTとの各調整部会の調整結果について
4. 学術コンテンツポータルサイトについて
5. 平成14年度運営会議(上半期)開催日程について
6. 国立情報学研究所シンポジウムの開催について

第19回：平成14年2月26日

1. 奨学寄附金の受入について
2. 外国人研究員の受入について
3. 共同研究員の追加受入について
4. 平成14年度「国立情報学研究所要覧」構成案について
5. OCLCとILL システム間リンク運用開始について
6. 平成14年度運営会議開催日程について
7. 平成14年度行事予定について

第20回：平成14年3月12日

1. 教官人事について
2. 国立情報学研究所の規則について
3. 総合研究大学院大学数物科学研究科情報学専攻委員会規程について
4. 総合研究大学院大学の各種委員会委員について
5. 総合研究大学院大学平成14年10月入学国際大学院コース外国人留学生の推薦について
6. 非常勤研究員の候補について
7. 外国人研究者の受入について

8. 共同研究員の追加受入について
 9. 国立情報学研究所ホームページの改訂(平成14年4月)について
- 第21回：平成14年3月26日

1. 国立情報学研究所の規則について
2. 平成14年度ネットワーク・セキュリティ関連研修の実施について
3. 総合研究大学院大学平成14年10月入学国際大学院コース外国人留学生の推薦変更について
4. 外部資金等の受入状況について
5. 奨学寄附金の受入状況について
6. 平成13年度成果・普及及び教育・研究協力教官について
7. NII学術コンテンツ・ポータル“GeNii”の公開について

平成14年度

構成：

- ◎末松安晴 所長
- 坂内正夫 副所長(企画調整官)(14.7.1～)
- 小野欽司 研究総主幹
- 根岸正光 国際・研究協力部長
- 羽鳥光俊 開発・事業部長
- 藤山秋佐夫 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅野正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸山勝巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本毅雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上野晴樹 知能システム研究系研究主幹
- 小山照夫 人間・社会情報研究系研究主幹
- 宮澤彰 学術研究情報研究系研究主幹
- 山田茂樹 実証研究センター長
- 安達淳 情報学資源研究センター長
- 速水謙 教授
- 橋爪宏達 教授
- 大山敬三 教授
- 本位田真一 教授(～14.4.10)
- 高野明彦 教授(～14.4.10)
- 龍田真 教授(～14.4.10)
- 佐藤健 教授(～14.4.10)
- 阿部俊二 助教授(14.4.24～)
- 高須淳宏 助教授(14.4.24～)
- 武田英明 助教授(14.4.24～)
- 矢野正晴 助教授(14.4.24～)
- 千葉秀夫 管理部長
- 大埜浩一 開発・事業部次長

(注)◎は議長

開催状況：

- 第1回：平成14年4月10日
1. 国立情報学研究所の規則について
 2. 平成14年度国立情報学研究所研究分野別所属について
 3. 大学院教育連絡調整委員会(案)の設置について
 4. 平成14年度情報学専攻入学者選抜の合否判定について

5. 奨学寄附金の受入状況について
- 第2回：平成14年4月25日
1. 客員教授の採用について
 2. 平成14年度以降の教育研究基盤校費等の配分について
 3. 国際高等セミナーハウス5周年記念式典・講演会の開催について
 4. RLGとの目録システム間リンクの実施について
- 第3回：平成14年5月14日
1. 国立情報学研究所と統計数理研究所の統合について
 2. 会計検査の結果報告について
- 第4回：平成14年5月28日
1. 国立情報学研究所の規則について
 2. 平成14年度予算の配分及び平成15年度概算要求について
 3. 平成14年度国立情報学研究所オープンハウス(仮称)の開催について
 4. 学術情報ネットワークにおけるIPv6の整備について
- 第5回：平成14年6月11日
1. 平成14年度新設組織の英文名称について
 2. 文部科学大臣の国立情報学研究所御視察について
 3. 奨学寄付金の受入について
 4. 外国人招へい研究者及び特別研究員の受入について
- 第6回：平成14年6月18日
1. 外国人研究者の受入について
 2. 情報検索・電子図書館サービスの海外からの利用の取扱いについて
 3. 平成14年度軽井沢土曜懇話会の開催予定について
- 第7回：平成14年7月9日
1. 大学共同利用機関の法人化について
 2. 個人調書の作成について
- 第8回：平成14年7月23日
1. 国際大学院コース及び国立情報学研究所外国人留学生奨学金の選考結果について
 2. 平成14年度新設組織の英文名称について
 3. 平成14年度国立情報学研究所公開講演会の開催について
 4. Super SINET 公募について
 5. 全学テーマ別評価自己評価書(研究活動面における社会との連携及び協力)について
 6. 共同研究員の受入について
- 第9回：平成14年9月10日
1. 平成14年10月及び平成15年4月入学者選抜の合否判定について
 2. 共同研究公募型の応募審査について
 3. 平成14年度新設組織の英文名称について
 4. 平成15年度概算要求について
 5. 日仏共同博士課程日本コンソーシアムへの加盟について
 6. 情報学専攻(国際大学院コース)合格者の入学辞退について
 7. 外国人研究者の受入について
 8. 奨学寄付金の受入について
- 第10回：平成14年9月20日
1. 国立情報学研究所の規則について
 2. NII 中期計画タスクフォースの検討状況について
 3. 平成14年度リーダーシップ支援経費について
 4. Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲーター)の公開について
- 第11回：平成14年10月8日

1. 教官候補者推薦委員会委員の決定について
 2. 共同研究員の追加受入について
- 第12回：平成14年10月22日
1. 教官候補者推薦委員会委員の決定について
 2. 評価委員会外部評価部会の設置について
 3. 「学術雑誌総合目録」冊子体の刊行終了について
- 第13回：平成14年11月11日
1. 国立情報学研究所の規則について
 2. 「実世界インタラクションの論理」第2回国際シンポジウムの共催について
 3. 共同研究員の追加受入について
 4. 外国人研究員(客員教授)の受入について
- 第14回：平成14年11月25日
1. 海外モニターの申込及び利用状況について
- 第15回：平成14年12月10日
1. 国立情報学研究所の規則について
 2. 御用納めの会及び賀詞交換会について
- 第16回：平成15年12月24日
1. 教官候補者推薦委員会の設置について
 2. 教官の所属研究部門変更について
 3. 教官候補者推薦委員会委員の決定について
 4. 国立情報学研究所平成15年度概算要求査定結果
 5. 外国人研究員の受入について
- 第17回：平成15年1月14日
1. 教官人事について
 2. 国立情報学研究所オープンハウス実施要領(案)について
 3. 教官候補者推薦委員会委員の決定について
 4. 平成15年度予算の内示状況について
 5. 平成14年度リーダーシップ支援経費について
 6. ナショナル・リサーチグリッド・イニシアティブ(NAREGI)対応組織について
- 第18回：平成15年1月28日
1. 教官人事について
 2. 国立情報学研究所の規則について
 3. 国立情報学研究所グローバル・リエゾンオフィスについて
 4. 国立情報学研究所研究企画推進室設置規程の修正について
 5. 中期目標・中期計画について
- 第19回：平成15年2月12日
1. 平成15年度情報学専攻入学選抜の合否判定について
 2. 国立情報学研究所外国人留学生奨学金の選考結果について
 3. 非常勤研究員の候補について
 4. 平成13年度着手の大学評価の評価結果(評価報告書(案))について
 5. 外国人研究者の受入について
 6. 共同研究員の追加受入について
 7. 講義自動収録システム等について
 8. 平成15年度普及・研修事業実施方針
 9. 平成15年度国立情報学研究所オープンハウス実施要領
- 第20回：平成15年2月25日
1. 教官の所属研究部門変更について
 2. 教官候補者選考委員会委員の決定について

3. 中期目標・中期計画について
4. 平成 14 年度予算の適正な執行について
5. 共同研究員の追加受入について
6. 第 1 回 NII 国際シンポジウムについて

第 21 回：平成 15 年 3 月 11 日

1. NII と ISI との協力関係について
2. 奨学寄附金受入について
3. GeNii (学術コンテンツ・ポータル) へのコンテンツ追加について
4. 平成 15 年度運営会議開催日程について

第 22 回：平成 15 年 3 月 24 日

1. 客員教授の称号授与について
2. 国立情報学研究所の規則について
3. 国立情報学研究所セキュリティポリシーの制定について
4. デジタルシルクロードイニシアチブへの協力に関するユネスコとの覚書について
5. JSPS サマープログラム研究者の受入について
6. 平成 14 年度外部資金受入実績について
7. “NetCommons”公募要領について

③ 将来計画委員会

任務：研究所の法人化を視野においた組織、運営及び施設等の将来計画に関する事項

平成 13 年度

構成：

- ◎末 松 安 晴 所長
- 佐 和 隆 光 企画調整官
- 小 野 欽 司 研究総主幹
- 浅 野 正 一 郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山 本 毅 雄 情報メディア系研究主幹
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 内 藤 衛 亮 人間・社会研究情報研究系研究主幹
- 根 岸 正 光 学術研究情報系研究主幹
- 宮 澤 彰 実証研究センター長
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長
- 千 葉 秀 夫 管理部長
- 濱 田 喬 国際・研究協力部長
- 羽 鳥 光 俊 開発・事業部長
- 大 埜 浩 一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：

平成 13 年度

第 1 回(平成 13 年 11 月 27 日)

大学共同利用機関の法人化骨子案について

第 2 回(平成 13 年 12 月 10 日)

委員長から、平成 13 年 12 月 6 日開催の大学共同利用機関所長懇談会タスクフォースの会議内容及び同会議に「大学共同利用機関の法人化骨子(思案)平成 13 年 11 月 30 日所長末松安晴」を提出し、説明した旨の報告。

第 3 回(平成 13 年 12 月 25 日)

統計数理研究所・国立情報学研究所統合検討会議(仮称)の設置について

第4回(平成14年1月15日)

1. 平成14年1月14日開催の平成13年度大学共同利用機関所長懇談会(非公式)での法人化の審議についての報告
2. 国立情報学研究所と統計数理研究所の統合協議会での検討状況の報告及び質疑応答
3. 研究部門の新設について

第5回(平成14年1月28日)

国立情報学研究所と統計数理研究所の統合協議会での検討状況

第6回(平成14年2月4日)

- 1 国立情報学研究所と統計数理研究所の統合問題について
- 2 今後の大学共同利用機関の在り方等に関する懇談会について

第7回(平成14年2月12日)

国立情報学研究所と統計数理研究所の統合協議会での検討状況について

第8回(平成14年2月26日)

国立情報学研究所と統計数理研究所の統合協議会での検討状況について

第9回(平成14年3月12日)

国立情報学研究所と統計数理研究所の統合協議会での検討状況について

第10回(平成14年3月26日)

- 1 統合委員会について
- 2 統合推進委員会要項の改正について

平成14年度

構成:

- ◎末松安晴 所長
- 坂内正夫 企画調整官
- 小野欽司 研究総主幹
- 藤山秋佐夫 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅野正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸山勝巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本毅雄 情報メディア系研究主幹
- 上野晴樹 知能システム研究系研究主幹
- 小山照夫 人間・社会研究情報研究系研究主幹
- 宮澤彰 学術研究情報系研究主幹
- 山田茂樹 実証研究センター長
- 安達淳 情報学資源研究センター長
- 千葉秀夫 管理部長
- 根岸正光 国際・研究協力部長
- 羽鳥光俊 開発・事業部長
- 大埜浩一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長、○は副委員長

開催状況:

第1回 (平成14年4月9日)

- 3月29日開催の第6回統合推進委員会について(報告)
- 本省への説明資料について

第2回 (平成14年4月24日)

- 1 統合推進委員会論点整理(案)について
- 2 統合推進委員会における検討状況報告について

第3回 (平成14年5月20日)

大学共同利用機関所長懇談会での大学共同利用機関の法人化の検討状況について
(報告)

第4回 (平成14年5月21日)

本研究所としての法人化への対応について

第5回 (平成14年6月11日)

大学共同利用機関の法人化対応について

第6回 (平成14年6月18日)

学術分科会大学共同利用機関特別委員会(第7回 平成14年6月14日開催)の報告と質疑応答

第7回 (平成14年9月10日)

NII 中期計画タスクフォースの検討状況について

④ 評価委員会

任務：大学評価・学位授与機構による評価等、研究所の評価に関する事項

平成13年度

構成：

- ◎佐 和 隆 光 企画調整官
- 小 野 欽 司 研究総主幹
- 浅 野 正 一 郎 情報基盤研究系主幹
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系主幹
- 山 本 毅 雄 情報メディア研究系主幹
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系主幹
- 内 藤 衛 亮 人間・社会情報研究系主幹
- 根 岸 正 光 学術研究情報研究系主幹
- 宮 澤 彰 実証研究センター長
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長
- 千 葉 秀 夫 管理部長
- 濱 田 喬 国際・研究協力部長
- 羽 鳥 光 俊 開発・事業部長
- 大 埜 浩 一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長、○は副委員長

開催状況：

第1回(平成14年3月12日)

1. 副委員長の選出について
2. 大学評価・学位授与機構による平成13年度に着手する大学評価に関する部会の設置について

平成14年度

構成：

- ◎坂 内 正 夫 企画調整官
- 小 野 欽 司 研究総主幹
- 藤 山 秋 佐 夫 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅 野 正 一 郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山 本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 小 山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹
- 宮 澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹

山田茂樹 実証研究センター長
安達 淳 情報学資源研究センター長
千葉秀夫 管理部長
○根岸正光 国際・研究協力部長
羽鳥光俊 開発・事業部長
大埜浩一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長、○は副委員長

開催状況：

第1回(平成14年4月24日)

1. 大学評価・学位授与機構による平成13年度に着手する大学評価の全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」の目的及び目標の事前調査について
2. 平成12年度着手の大学評価に関する意見について

第2回(平成14年5月14日)

1. 全学テーマ別評価「研究活動における社会との連携及び協力」について
2. 部会の構成員について

第3回(平成15年2月12日)

1. 平成13年度着手の大学評価の評価結果(全学テーマ別評価「研究活動面における社会との連携及び協力」)について
2. 平成14年度に着手する大学評価(「国際的な連携及び交流活動」)に関する部会の設置について
3. その他

● 大学評価・学位授与機構による平成13年度に着手する大学評価に関する部会

任務：部会は、平成13年度評価の実施方針に基づく自己評価書の作成及びヒアリングへの対応等の事項について検討する。

構成：

小野 欽 司 研究総主幹
丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
◎根岸 正 光 国際・研究協力部長
安達 淳 情報学資源研究センター長
常盤 勝 己 管理部総務課長
青木 雄 二 国際・研究協力部研究協力課長
藤川 俊 三 開発・事業部企画調整課長
藤野 貴 之 情報基盤研究系助手
倉西 美由紀 国際・研究協力部広報調査課長
猪瀬 一 夫 開発・事業部ネットワークシステム課長
大場 高 志 開発・事業部コンテンツ課長
川瀬 正 幸 開発・事業部アプリケーション課長

開催状況：

第1回(平成14年4月16日)

1. 大学評価の進め方について
2. その他

第2回(平成14年5月27日)

1. 大学評価の進め方について
2. その他

第3回(平成14年6月17日)

1. 目的及び目標に関する事前調査結果について
2. 自己評価書の作成について
3. その他
4. 大学評価の進め方について
5. その他

第4回（平成14年7月4日）

1. 大学評価の進め方について
2. 次回の開催予定について

第5回（平成14年7月15日）

1. 大学評価の進め方について
2. 次回の開催予定について

⑥ 予算委員会

任務：

- ・ 概算要求に関する事項について審議する
- ・ 予算の執行計画に関する事項について審議する
- ・ その他予算に関する重要事項について審議する

平成13年度

構成：

- 一 所長
- 二 企画調整官
- 三 研究総主幹
- 四 各研究主幹
- 五 各研究施設長
- 六 各部長及び開発・事業部次長

◎末 松 安 晴 所長

- 佐 和 隆 光 企画調整官
- 小 野 欽 司 研究総主幹
- 小 野 欽 司 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅 野 正 一 郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山 本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 内 藤 衛 亮 人間・社会情報研究系研究主幹
- 根 岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹
- 宮 澤 彰 実証研究センター長
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長
- 松 岡 憲 雄 管理部長
- 濱 田 喬 国際・研究協力部長
- 羽 鳥 光 俊 開発・事業部長
- 高 野 茂 開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：平成13年度は1回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成13年6月11日

1. 平成13年度の予算配分について
 - ① 教育研究基盤校費及び教官研究旅費の予算配分について
 - ② 研究所内予算配分について
2. 平成14年度概算要求について

3. 平成 14 年度以降の教育研究基盤校費及び外部資金の間接経費について

平成 14 年度

構成：

- 一 所長
- 二 企画調整官
- 三 研究総主幹
- 四 各研究主幹
- 五 各研究施設長
- 六 各部長及び開発・事業部次長

- ◎末 松 安 晴 所長
企画調整官
- 小 野 欽 司 研究総主幹
- 藤 山 秋 佐 夫 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅 野 正 一 郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山 本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 小 山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹
- 宮 澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹
- 山 田 茂 樹 実証研究センター長
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長
- 根 岸 正 光 国際・研究協力部長
- 羽 鳥 光 俊 開発・事業部長
- 千 葉 秀 夫 管理部長
- 大 埜 浩 一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：平成 14 年度は 1 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：平成 14 年 5 月 24 日

1. 平成 14 年度の予算配分について
2. 平成 15 年度概算要求について
3. その他

⑦ 施設委員会

任務：

- ・ 施設等の整備計画に関する事項について審議する
- ・ その他施設整備に関する事項について審議する

平成 13 年度

構成：

- 一 研究総主幹
- 二 各研究主幹
- 三 各研究施設長
- 四 各部長及び開発・事業部次長
- 五 その他所長が必要と認めた者

- ◎小 野 欽 司 研究総主幹
- 小 野 欽 司 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅 野 正 一 郎 情報基盤研究系研究主幹

丸山勝巳 ソフトウェア研究系研究主幹
山本毅雄 情報メディア研究系研究主幹
上野晴樹 知能システム研究系研究主幹
内藤衛亮 人間・社会情報研究系研究主幹
根岸正光 学術研究情報研究系研究主幹
宮澤 彰 実証研究センター長
安達 淳 情報学資源研究センター長
千葉秀夫 管理部長
濱田 喬 国際・研究協力部長
羽鳥光俊 開発・事業部長
大埜浩一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：平成 13 年度は 1 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：平成 14 年 1 月 15 日

1. 新たな研究部門の配置(部屋割り)について
2. 学生(留学生を含む)研究室等の配置について
3. 将来構想に係る施設整備の検討について

平成 14 年度

構成：

- 一 研究総主幹
- 二 各研究主幹
- 三 各研究施設長
- 四 各部長及び開発・事業部次長
- 五 その他所長が必要と認めた者

◎小野 欽 司 研究総主幹

藤山秋佐夫 情報学基礎研究系研究主幹
浅野正一郎 情報基盤研究系研究主幹
丸山勝巳 ソフトウェア研究系研究主幹
山本毅雄 情報メディア研究系研究主幹
上野晴樹 知能システム研究系研究主幹
小山照夫 人間・社会情報研究系研究主幹
宮澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹
山田茂樹 実証研究センター長
安達 淳 情報学資源研究センター長
根岸正光 国際・研究協力部長
羽鳥光俊 開発・事業部長
千葉秀夫 管理部長
大埜浩一 開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：平成 14 年度は 1 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：平成 15 年 2 月 25 日

1. 教官研究室等の整備について

⑧ Web・広報委員会

任務：研究所の Web(インターネット上の情報提供サービス)及び広報に関する事項について審議する。

構成：

- 一 国際・研究協力部長

- 二 研究系及び研究施設の教官 若干人
- 三 管理部の職員 若干人
- 四 国際・研究協力部の職員 若干人
- 五 開発・事業部の職員 若干人
- 濱田 喬 国際・研究協力部長(～平成14年度第3回)
- 根岸 正光 国際・研究協力部長(平成14年度第4回～)
- ◎小野 欽司 研究総主幹・情報基盤研究系教授
(～14.3.31 情報学基礎研究系研究主幹)
- 宮澤 彰 実証研究センター教授
(～14.3.31 実証研究センター長, 14.4.1～ 学術研究情報研究系研究主幹)
- 速水 謙 情報学基礎研究系教授
- 山田 茂樹 情報基盤研究系教授
(14.4.1～ 実証研究センター長)
- 橋爪 宏達 情報メディア研究系教授
- 本位田 真一 知能システム研究系教授(～14.3.31)
- 上野 晴樹 知能システム研究系研究主幹・教授(14.4.1～)
- 米田 友洋 情報基盤研究系教授(14.4.1～)
- 相澤 彰子 情報基盤研究系助教授(～14.3.31)
- 武田 英明 知能システム研究系助教授
- 神門 典子 人間・社会情報研究系助教授(～14.3.31)
- 柴山 盛生 学術研究情報研究系助教授(～14.3.31)
- Frederic Andres ソフトウェア研究系助教授(14.4.1～)
- 西澤 正己 実証研究センター助教授(14.4.1～)
- 岡田 仁志 人間・社会情報研究系助教授(14.4.1～)
- 常盤 勝己 管理部総務課長
- 藤川 俊三 開発・事業部企画調整課長
- 松井 一澄 国際・研究協力部研究協力課長(～14.3.31)
- 青木 雄二 国際・研究協力部研究協力課長(14.4.1～)
- 秋山 和男 国際・研究協力部広報調査課長(～14.3.31)
- 倉西 美由紀 国際・研究協力部広報調査課長(14.4.1～)
- 北村 明久 国際・研究協力部成果普及課長(～14.10.14)
- 大場 秀穂 国際・研究協力部成果普及課長(14.10.15～)

(注)◎は委員長

開催状況：平成13年度は6回、平成14年度は5回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成13年度第1回：平成13年5月9日(水)

1. 平成13年度国立情報学研究所要覧の作成について
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第5号の構成案及び広報案件について
3. 報道機関向け発表資料について
4. 平成12年度国立情報学研究所年報の作成について
5. 広報ビデオの制作について(報告)
6. その他
 - (1) ホームページリニューアル(報告)

平成13年度第2回：平成13年6月27日(水)

1. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第6号の構成案及び広報案件について
2. 平成13年度国立情報学研究所要覧の作成について
3. 平成13年度第1回Web部会報告
4. その他

平成13年度第3回：平成13年9月4日(火)

1. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 7 号の構成案及び広報案件について
2. 平成 13 年度第 2 回 Web 部会報告
3. 平成 12 年度国立情報学研究所年報の作成について
4. 「DATABASE 2001 TOKYO」への出展について
5. その他
 - (1) 平成 13 年度国立情報学研究所公開講演会について
 - (2) 国立情報学研究所要覧和文版の完成について

平成 13 年度第 4 回：平成 13 年 10 月 30 日(火)

1. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 8 号の構成案及び広報案件について
2. 平成 13 年度第 3 回 Web 部会報告
3. 平成 12 年度国立情報学研究所年報の作成について
4. その他
 - (1) Web 部会構成員の変更について

平成 13 年度第 5 回：平成 13 年 12 月 25 日(火)

1. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 8 号の構成案及び広報案件について
2. 研究 Web の整備について
3. Web 部会構成員の変更について
4. 平成 12 年度国立情報学研究所年報の状況報告
5. 大学院情報学専攻の設置と学生募集のホームページへの掲載について
6. その他

平成 13 年度第 6 回：平成 14 年 2 月 21 日(木)

1. 平成 14 年度国立情報学研究所要覧の作成について
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 9 号の構成案及び広報案件について
3. 平成 13 年度第 4 回及び第 5 回 Web 部会報告
4. ホームページの改訂について
5. その他

平成 14 年度第 1 回：平成 14 年 5 月 20 日(月)

1. 平成 14 年度 WEB・広報委員会構成員及び Web 部会構成員について
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)のデザイン・レイアウトについて
3. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 10 号の構成案及び広報案件について
4. 平成 14 年度国立情報学研究所概要パンフレットについて
5. 平成 14 年度国立情報学研究所要覧の作成について
6. ホームページの改訂について
7. その他

平成 14 年度第 2 回：平成 14 年 7 月 11 日(木)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 11 号, 第 12 号の構成案及び広報案件について
3. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 11 号表紙デザインについて
4. 平成 14 年度国立情報学研究所要覧の作成について
5. 国立情報学研究所広報ビデオの改訂について
6. その他

平成 14 年度第 3 回：平成 14 年 9 月 12 日(木)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 12 号表紙デザインについて
3. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 12 号の構成、第 13 号の構成案及び広報案件について
4. 平成 14 年度国立情報学研究所英文要覧の作成について

5. 国立情報学研究所ニュース(NII News)英文版第 4 号の構成案
6. 平成 13 年度国立情報学研究所年報の作成について
7. 平成 14 年度第 1 回 Web 部会報告
8. その他

(1) 平成 12 年度国立情報学研究所年報の刊行について(報告)

平成 14 年度第 4 回：平成 14 年 11 月 19 日(火)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 13 号表紙デザインについて
3. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 14 号について
4. 平成 14 年度第 2 回及び第 3 回 Web 部会報告
5. その他

- (1) 教官個人調書について
- (2) 大学院に関する広報についての報告
- (3) 英文要覧、英文 NII News の状況報告
- (4) Webcat Plus プレスリリース報告

平成 14 年度第 5 回：平成 15 年 1 月 8 日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所ニュース(NII News)第 15 号について
3. 平成 15 年度国立情報学研究所和文要覧の作成について
4. 記者会見について
5. 科学技術・学術関係機関との会合を踏まえた広報の充実方策について
6. 平成 14 年度第 4 回 Web 部会報告
7. その他

● Web部会

任務：国立情報学研究所のホームページの作成、編集に関し検討する。

構成：

- | | |
|--------|---|
| ◎武田 英明 | 知能システム研究系助教授 |
| 相澤 彰子 | 情報基盤研究系助教授(～平成 13 年度第 3 回) |
| 村田 剛志 | 情報学基礎研究系助教授(平成 13 年度第 4 回～) |
| 佐藤 一郎 | ソフトウェア研究系助教授(平成 13 年度第 4 回～) |
| 北本 朝展 | 実証研究センター助手(～平成 13 年度第 3 回) |
| 塚瀬 幸雄 | 管理部総務課企画法規係長(～平成 13 年度第 3 回) |
| 涌井 隆 | 管理部総務課総務係長(平成 13 年度第 4 回～) |
| 笹島 伊三美 | 管理部会計課総務・監査係長(～14.3.31) |
| 押木 久雄 | 管理部会計課総務・監査係長(14.4.1～) |
| 武川 利代巳 | 開発・事業部企画調整課企画調整係長 |
| 永井 善一 | 開発・事業部ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長
(～平成 13 年度第 1 回) |
| 坂本 朝治 | 開発・事業部ネットワークシステム課課長補佐(平成 13 年度第 2 回～14.3.31) |
| 小林 一男 | 開発・事業部ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長(14.4.1～) |
| 米澤 誠 | 開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長(～14.3.31) |
| 茂出木 理子 | 開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長(14.4.1～) |
| 木村 優 | 開発・事業部アプリケーション課課長補佐(～14.3.31) |
| 山西 秀幸 | 開発・事業部アプリケーション課課長補佐(14.4.1～) |
| 鈴木 誠 | 国際・研究協力部研究協力課研究協力係長 |
| 細川 聖二 | 国際・研究協力部成果普及課企画調査係長 |
| 秋山 和男 | 国際・研究協力部広報調査課長(～14.3.31) |

倉西 美由紀	国際・研究協力部広報調査課長(14.4.1～)
船渡川 清	国際・研究協力部広報調査課課長補佐
中田 多美	国際・研究協力部広報調査課広報調査係長(14.4.1～)
藤井 眞樹	国際・研究協力部広報調査課広報調査係員(14.4.1～)
櫻井 美智雄	国際・研究協力部広報調査課国際事業係長
佐藤 大明	国際・研究協力部広報調査課国際事業係員

(注)◎は主査

開催状況：平成13年度は5回、平成14年度は6回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成13年度第1回：平成13年6月6日(水)

1. ホームページに掲載する記事について
2. ホームページの改訂について
 - (1) 情報公開
 - (2) 研究協力
 - (3) NII テクニカル・レポート
3. ホームページデザインの作成について
4. その他
 - (1) 国立教育政策研究所からのホームページへのリンクについて
 - (2) 地域情報サイト時空からの URL 登録について

平成13年度第2回：平成13年7月17日(火)

1. ホームページに掲載する記事について
2. WWW サーバの運用・管理の分担について
3. ホームページ改ざん対策ソフトの導入について

平成13年度第3回：平成13年9月20日(木)

1. ホームページに掲載する記事について
2. ホームページの改訂について
3. ホームページのディレクトリ構成の変更について
4. HTML 講習について

平成13年度第4回：平成14年1月28日(月)

1. Web 部会構成員の変更について
2. ホームページに掲載する記事について
3. ホームページの改訂について
4. 研究 Web の整備について
5. ホームページの整備のあり方について
6. その他

平成13年度第5回：平成14年2月18日(月)

1. ホームページの改訂について
2. 国立情報学研究所ホームページの整備について
3. ホームページに掲載する記事について

平成14年度第1回：平成14年7月15日(月)

1. 前回議事要旨確認
2. 平成14年度 Web 部会構成員について
3. ホームページに掲載する記事について
4. ホームページの改訂について
5. NII 内部公開用 Web ページの移設について
6. その他
 - (1) WWW サーバの運用・管理の分担について

平成14年度第2回：平成14年9月9日(月)

1. 前回議事要旨確認
2. ホームページに掲載する記事について
3. NII 内部公開用 Web ページの移設について
4. Research サーバについて
5. その他

平成 14 年度第 3 回：平成 14 年 10 月 10 日(木)

1. 前回議事要旨確認
2. ホームページのトップページ・記事について
3. メタデータ・データベース共同構築事業のホームページの開設について
4. イベント案内ページの掲載について
5. その他
 - (1) Web サーバ(NII 公式ページ)の入力フォームに関する脆弱性について
 - (2) 研究系 Web-WG のメンバー交替

平成 14 年度第 4 回：平成 14 年 11 月 18 日(月)

1. 前回議事要旨確認
2. ホームページのトップページ・記事について
3. イベント案内ページについて
4. WWW アクセスログについて
5. その他
 - (1) 英訳したホームページの更新状況

平成 14 年度第 5 回：平成 14 年 12 月 20 日(金)

1. 前回議事要旨確認
2. ホームページのトップページ・記事について
3. 研究紀要ポータルホームページの開設について
4. その他

平成 14 年度第 6 回：平成 15 年 2 月 5 日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. ホームページのトップページ・記事について
3. 「情報サービス」ページのデザインの改訂について
4. Staff Login のページについて
5. その他
 - (1) 英訳したホームページの更新状況
 - (2) 軽井沢土曜懇話会講演ビデオの Web での公開について
 - (3) トップページから研修ページへのリンクについて
 - (4) 研究系 Web サーバについて
 - (5) Web セキュリティ関連ソフトウェアについて

⑨ 国際事業委員会

任務：研究所における各種情報サービス及び教育研修等の事業活動の国際展開に関する事項について審議する。

構成：

- | | | |
|---|--------------|-----|
| 一 | 国際・研究協力部長 | |
| 二 | 研究系及び研究施設の教官 | 若干人 |
| 三 | 管理部の職員 | 若干人 |
| 四 | 国際・研究協力部の職員 | 若干人 |
| 五 | 開発・事業部の職員 | 若干人 |

平成 13 年度構成員

小野 欽 司 研究総主幹・情報学基礎研究系研究主幹・教授

濱田 喬 国際・研究協力部長・教授
 ◎内藤 衛亮 人間・社会情報研究系研究主幹・教授
 根岸 正光 学術研究情報研究系研究主幹・教授
 宮澤 彰 実証研究センター長・教授
 高野 茂 開発・事業部次長(～平成13年8月31日)
 大埜 浩一 開発・事業部次長(平成13年9月1日～)
 坂本 朝治 開発・事業部ネットワークシステム課課長補佐
 酒井 清彦 開発・事業部コンテンツ課課長補佐
 木村 優 開発・事業部アプリケーション課課長補佐
 松井 一澄 国際・研究協力部研究協力課長
 秋山 和男 国際・研究協力部広報調査課長
 北村 明久 国際・研究協力部成果普及課課長

平成14年度構成員

小野 欽司 研究総主幹・教授
 根岸 正光 国際・研究協力部長・教授
 ◎山本 毅雄 情報メディア研究系研究主幹・教授
 宮澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹・教授
 山田 茂樹 実証研究センター長・教授
 安達 淳 情報学資源研究センター長・教授
 Nigel Henry Collier 情報学基礎研究系助教授
 大埜 浩一 開発・事業部次長
 羽田 和久 開発・事業部企画調整課課長補佐(～平成14年9月30日)
 大山 貢 開発・事業部企画調整課課長補佐(平成14年10月1日～)
 坂本 朝治 開発・事業部ネットワークシステム課課長補佐
 木村 優 開発・事業部コンテンツ課課長補佐
 山西 秀幸 開発・事業部アプリケーション課課長補佐
 青木 雄二 国際・研究協力部研究協力課長
 倉西 美由紀 国際・研究協力部広報調査課長
 北村 明久 国際・研究協力部成果普及課課長(～平成14年10月15日)
 大場 秀穂 国際・研究協力部成果普及課課長(平成14年10月16日～)

(注)◎は委員長

開催状況：平成13年度は5回、平成14年度は6回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成13年度

第1回：平成13年5月17日(木)

1. 平成13年度における国際事業プロジェクトの確認・整理について
2. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
3. 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト会議について
4. ドイツにおけるNACSIS-IR/ILL利用評価実験プロジェクトの状況について
5. タイ・オンライン・プロジェクトの今後の取り扱いについて
6. 海外からの利用統計及び状況報告について
7. その他
 - (1) 学術雑誌総合目録和文編2000年版冊子体の送付について
 - (2) 「大学図書館研究」への投稿について
 - (3) 「中国語・朝鮮語・日本語間の典拠コントロール」国際会議について

第2回：平成13年7月11日(水)

1. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
2. 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト会議について

て

3. ドイツにおける NACSIS-IR/ILL 利用評価実験プロジェクトの状況について
4. ユネスコ「デジタル・シルクロード・プロジェクト」東京シンポジウムについて
5. ドイツにおける NACSIS-CAT 講習会の開催及び要員派遣について
6. 海外における情報提供事業の在り方について
7. 海外からの利用統計及び状況報告について

第 3 回：平成 13 年 9 月 12 日(水)

1. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
2. ドイツでの目録システム講習会の開催について
3. 海外における情報提供事業の在り方について
4. ユネスコ「デジタル・シルクロード・プロジェクト」東京シンポジウムについて
5. タイ・オンライン・プロジェクトについて
6. 海外からの利用統計及び状況報告について
7. その他

(1) 「日中図書館情報サービス」セミナーについて

第 4 回：平成 13 年 11 月 28 日(水)

1. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
2. ドイツでの目録システム講習会について
3. 「デジタル・シルクロード東京シンポジウム」について
4. 海外からの利用統計及び状況報告について
5. その他

第 5 回：平成 14 年 2 月 7 日(木)

1. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
2. OCLC との ILL システム間リンクについて
3. アメリカ合衆国出張について
4. 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト会議について
5. 今後の国際事業展開について
6. 国際事業委員会の今後の在り方について
7. 海外からの利用統計及び状況報告について
8. タイ・オンライン・プロジェクトの今後の取り扱いについて
9. その他

(1) 日本語, 中国語, 韓国語の名前典拠ワークショップ

(2) JST CO-EXIST-SEA 研修

平成 14 年度

第 1 回：平成 14 年 5 月 22 日(水)

1. 平成 14 年度国際事業委員会構成員について
2. 平成 14 年度における国際事業プロジェクトの確認・整理について
3. 国際事業展開経費の配分について
4. ドイツでの目録システム講習会開催について
5. 情報検索・電子図書館サービスの海外からの利用について
6. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
7. 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクトについて
8. アメリカ合衆国出張報告について
9. 5 月 7 日の KERIS との打合せについて
10. 海外からの利用統計及び状況報告について
11. タイ・オンライン・プロジェクトの利用統計及び状況報告について

12. その他

- (1) 日本語, 中国語, 韓国語の名前典拠ワークショップ
- (2) JST CO-EXIST-SEA 研修
- (3) ドイツ出張報告

第 2 回：平成 14 年 6 月 10 日(月)

1. 前回議事要旨確認
2. 平成 14 年度国際事業展開に係る海外派遣計画について
3. 情報検索・電子図書館サービスの海外からの利用の取扱いについて

第 3 回：平成 14 年 9 月 18 日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. 韓国との対応について
3. 中国との学術情報交流プロジェクトについて
4. ドイツ出張報告について
5. 海外モニター申込・利用状況について
6. CO-EXIST-SEA について
7. 海外からの利用統計及び状況報告について
8. その他

- (1) 中国国家図書館からの来訪について
- (2) 国際事業展開経費執行状況について

第 4 回：平成 14 年 11 月 11 日(月)

1. 前回議事要旨確認
2. 海外モニター申込・利用状況について
3. 海外モニターへのアンケートについて
4. 国際事業展開経費について
5. 韓国との目録データ交換及びシステム間リンクに関する協議にかかる要員派遣について
6. ILL システム間リンク利用状況
7. CO-EXIST-SEA について
8. 海外からの利用統計及び状況報告について
9. その他

- (1) 9 月 26 日の中国国家図書館との打合せ報告

第 5 回：平成 15 年 1 月 15 日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. 海外モニター申込・利用状況について
3. 海外モニターへのアンケートについて
4. NII 国際シンポジウムについて
5. 韓国出張報告について
6. 各 WWW サービスの海外からの利用状況について
7. 海外からの利用統計及び状況報告について

第 6 回：平成 15 年 3 月 12 日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. 海外モニター申込・利用状況について
3. 海外モニターのアンケート結果について
4. 北米日本研究資料調整協議会(NCC)との相互協力協定について
5. NII と ISI との協力関係について
6. 平成 15 年度目録所在情報サービスの国際展開について
7. 海外からの利用統計及び状況報告について
8. 各 WWW サービスの海外からの利用状況報告について
9. その他

(1) 第1回 NII 国際シンポジウム開催報告

(2) CEAL 年次総会への参加について

● 中国との学術情報交流プロジェクト会議

任務：日中間の学術情報流通を促進する。

構成：国立情報学研究所、国際交流基金、北京日本学研究中心

開催状況：平成13年度は2回、平成14年度は1回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成13年度

第1回：平成13年7月25日(水)

1. 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援の現状について

- (1) 情報化支援出張報告(平成13年6月出張)
- (2) EXCEL ファイルから NALIS への登録について
- (3) NACSIS-CAT を利用したデータベース作成
- (4) 意見交換

2. 平成13年度活動計画について

- (1) 中国との学術情報交流プロジェクト第2期中・長期的活動目標
- (2) 訪日研修について

3. その他

- (1) 他図書館との連携について
- (2) 学習情報リソースプロジェクトについて
- (3) 新館開館に向けての問題点について

第2回：平成14年1月28日(月)

1. 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援の現状について

- (1) 情報化支援出張報告(平成13年10月出張)
- (2) 情報化支援出張報告(平成13年11月出張)
- (3) 天津図書館日本文庫登録状況報告
- (4) 訪日研修について(平成13年11月)
- (5) 訪日研修について(平成14年1月)
- (6) 意見交換

2. 今後の情報化支援について

- (1) 北京日本学研究中心からの ILL 依頼方式について
- (2) 新館建設及び新図書館システムの導入について
- (3) 北京日本学研究中心からの情報発信について

3. その他

- (1) 訪日研修(平成14年2月)について
- (2) CALIS からの NACSIS-CAT 参加状況について

平成14年度

第1回：平成14年7月31日(水)

1. 前回議事要旨(案)の確認

2. 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援の現状について

- (1) 北京日本学研究中心図書資料館所蔵登録状況
- (2) 北京日本学研究中心図書資料館 ILL 利用状況
- (3) 天津図書館日本文庫登録状況報告

3. 今後の情報化支援について

- (1) 新館建設及び新図書館システムの導入について
- (2) 今後の情報化支援計画について

4. その他

- (1) CALIS からの NACSIS-CAT 参加状況について

(2) NACSIS-IR 及び NACSIS-ELS の海外モニターについて

● 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービス改善に関するプロジェクト会議

任務：日米間の学術情報流通を促進する。

構成：国立情報学研究所、北海道大学附属図書館、群馬大学附属図書館、千葉大学附属図書館、東京大学附属図書館、富山大学附属図書館

開催状況：平成 13 年度は 2 回開催し、以下の議題について報告・審議した。なお、平成 14 年度は開催していない。

第 1 回：平成 13 年 7 月 6 日(金)

1. 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関する活動の現状について
2. 日米 DDS 運用関係及びシステム開発全体スケジュールについて
3. 本格運用に向けての調整事項について
4. ワーキンググループでの検討事項について

第 2 回：平成 14 年 3 月 4 日(月)

1. 日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関する活動の現状について
2. 平成 13 年度日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するワーキンググループ活動報告
3. 日米 DDS の今後のスケジュールについて
4. 海外機関とのシステム間リンクについて

⑩ 図書室運営委員会

任務：研究所における図書資料の収集及び図書室の運営等に関する事項について審議する。

構成：

- 一 国際・研究協力部長
- 二 研究総主幹
- 三 研究系及び研究施設の教官 若干人
- 四 国際・研究協力部の職員 若干人
- 五 開発・事業部の職員 若干人

濱 田 喬 国際・研究協力部長(～14.3.31)

根 岸 正 光 国際・研究協力部長(14.4.1～)

小 野 欽 司 研究総主幹・情報基盤研究系教授
(～14.3.31 情報学基礎研究系研究主幹)

◎宮 澤 彰 実証研究センター教授
(～14.3.31 実証研究センター長, 14.4.1～ 学術研究情報研究系研究主幹)

古 山 宣 洋 情報基盤研究系助教授

相 澤 彰 子 情報基盤研究系助教授

高 野 明 彦 ソフトウェア研究系教授

片 山 紀 生 情報メディア研究系助教授

武 田 英 明 知能システム研究系助教授

佐 藤 寛 子 知能システム研究系助教授(14.4.1～)

岡 田 仁 志 人間・社会情報研究系助教授(～14.3.31)

影 浦 峡 人間・社会情報研究系助教授(14.4.1～)

矢 野 正 晴 学術研究情報研究系助教授

西 澤 正 己 実証研究センター助教授(14.4.1～)

安 達 淳 情報学資源研究センター教授(～14.3.31)

加 藤 弘 之 情報学資源研究センター助手(14.4.1～)

京 藤 貫 開発・事業部コンテンツ課長(～14.3.31)

大 場 高 志 開発・事業部コンテンツ課長(14.4.1～)

秋山和男 国際・研究協力部広報調査課長(～14.3.31)

倉西美由紀 国際・研究協力部広報調査課長(14.4.1～)

(注)◎は委員長

開催状況：平成13年度は4回、平成14年度は3回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成13年度第1回：平成13年5月18日(金)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所図書室利用規程(案)について
3. オンラインジャーナル・データベースサービスについて
4. その他

OPAC デモンストレーション

平成13年度第2回：平成13年6月13日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所図書室利用規程(案)について
3. 第1回電子ジャーナル・情報検索サービス導入検討WG報告
4. その他

平成13年度第3回：平成13年10月3日(水)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所図書室利用規程(案)
3. 2002年度外国雑誌リニューアル
4. オンラインジャーナル・2次情報データベース導入状況
5. 電子ジャーナルコンソーシアムについて
6. その他

平成13年度第4回：平成13年12月20日(木)

1. 前回議事要旨確認
2. 国立情報学研究所図書室利用規程の取扱いに関する申合せ等
3. 2002年度購読和雑誌リニューアルについて
4. 図書選定(基本図書・参考図書の選書)
5. 2002年外国雑誌予約について
6. 電子ジャーナルコンソーシアムについて
7. 国立国会図書館の図書館間貸出サービス加入について

平成14年度第1回：平成14年6月6日(木)

1. 前回議事要旨確認
2. 図書館関係経費の配分について
3. オンラインジャーナル・データベースサービスの利用について
4. 国立大学図書館協議会への加盟について
5. 図書室の現況について
6. 平成13年度間接経費購入図書について

平成14年度第2回：平成14年10月21日(月)

1. 前回議事要旨確認
2. 2003年度外国雑誌リニューアルについて
3. オンラインジャーナル・データベースサービスの利用について

平成14年度第3回：平成14年12月13日(金)

1. 前回議事要旨確認
2. 2003年度和雑誌リニューアルについて
3. 電子ジャーナル・コンソーシアムについて
4. 大学院向け基本図書・参考図書の選定について
5. 2003年外国雑誌発注

6. 国立情報学研究所文献複写料金徴収猶予の許可に関する細則の改正について

⑪ 普及・研修委員会

任務：普及活動及び研修事業の計画立案、評価及び将来計画について審議する。

構成：

- 一 国際・研究協力部長
- 二 研究成果普及推進室の教官
- 三 研究系及び研究施設の教官 若干人
- 四 開発・事業部及び国際・研究協力部の職員 若干人

平成 13 年度

- ◎濱 田 喬 国際・研究協力部長・教授
- 宮 澤 彰 国際・研究協力部研究成果普及推進室長・教授
- 橋 爪 宏 達 国際・研究協力部研究成果普及推進室教授
- 計 宇 生 国際・研究協力部研究成果普及推進室助教授
- 井 上 智 雄 国際・研究協力部研究成果普及推進室助手
- 江 口 浩 二 国際・研究協力部研究成果普及推進室助手
- 北 本 朝 展 国際・研究協力部研究成果普及推進室助手
- 上 野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹・教授
- 相 澤 彰 子 情報基盤研究系助教授
- 羽 田 和 久 開発・事業部企画調整課課長補佐
- 坂 本 朝 治 開発・事業部ネットワークシステム課課長補佐
- 酒 井 清 彦 開発・事業部コンテンツ課課長補佐
- 木 村 優 開発・事業部アプリケーション課課長補佐
- 北 村 明 久 国際・研究協力部成果普及課課長
- 富 田 健 市 国際・研究協力部成果普及課課長補佐
- 細 川 聖 二 国際・研究協力部成果普及課係長
- 三 浦 圭 子 国際・研究協力部成果普及課係長
- 相 原 雪 乃 国際・研究協力部成果普及課係長

(注)◎は委員長

開催状況：平成 13 年度は 3 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：平成 13 年 6 月 4 日(月)

- 1. 平成 13 年度国立情報学研究所公開講演会について
- 2. 成果普及課の新規予定事業について

第 2 回：平成 13 年 12 月 21 日(金)

- 1. 平成 14 年度普及・研修事業の実施方針について
- 2. 目録システム講習用教材の作成について
- 3. ネットワークセキュリティ研修(試行)の実施について

第 3 回：平成 14 年 3 月 13 日(水)

- 1. 平成 14 年度普及・研修事業計画について
- 2. 平成 14 年度セキュリティ関連研修の実施について
- 3. 平成 15 年度概算要求事項について

平成 14 年度

- ◎根 岸 正 光 国際・研究協力部長・教授
- 山 田 茂 樹 国際・研究協力部研究成果普及推進室長・教授
- 橋 爪 宏 達 国際・研究協力部研究成果普及推進室教授
- 相 澤 彰 子 情報基盤研究系助教授
- 井 上 智 雄 国際・研究協力部研究成果普及推進室助手

北本朝展 国際・研究協力部研究成果普及推進室助手
 辻慶太 国際・研究協力部研究成果普及推進室助手
 宮澤彰 学術研究情報研究系研究主幹・教授
 高野明彦 ソフトウェア研究系教授
 新井紀子 情報学基礎研究系助教授
 羽田和久 開発・事業部企画調整課課長補佐
 坂本朝治 開発・事業部ネットワークシステム課課長補佐
 木村優 開発・事業部コンテンツ課課長補佐
 山西秀幸 開発・事業部アプリケーション課課長補佐
 尾方浩一 国際・研究協力部研究協力課課長補佐
 倉西美由紀 国際・研究協力部広報調査課長
 北村明久 国際・研究協力部成果普及課課長(～H14.10.15)
 大場秀穂 国際・研究協力部成果普及課課長(H14.10.16～)
 仲和子 国際・研究協力部成果普及課課長補佐
 細川聖二 国際・研究協力部成果普及課係長
 清水あゆ美 国際・研究協力部成果普及課係長
 河村扶美 国際・研究協力部成果普及課係長

(注)◎は委員長

開催状況：平成14年度は4回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成14年6月12日(水)

1. 平成14年度国立情報学研究所公開講演会について
2. 「e-教室 夏のワークショップ」の開催について

第2回：平成14年12月9日(月)

1. 国立情報学研究所オープンハウス実施要領(案)について
2. NII市民講座(仮称)実施計画(案)について
3. 千代田区との連携について
4. 国立大学図書館協議会からNIIへの要望について

第3回：平成15年1月22日(水)

1. 平成15年度普及・研修事業実施方針(案)について
2. 平成16年度概算要求について
3. オープンハウス実行委員会について

第4回：平成15年3月18日(火)

1. 平成15年度普及・研修事業計画について
2. 展示会等への出展について
3. NIIテクニカルレポートの発行手続きについて
4. NetCommons100本プロジェクト・モニター募集要項について

⑫ 開発・事業全体委員会

任務：開発・事業の円滑な遂行を図るため、研究活動と開発・事業の連携の下に、開発・事業計画の立案及び評価・検討、開発・事業活動の将来計画の検討を行う。

構成：

- 一 開発・事業部長
 - 二 研究系及び研究施設の教官 若干人
 - 三 国際・研究協力部の職員 若干人
 - 四 開発・事業部の職員 若干人
- 羽鳥光俊 開発・事業部長(委員長)
 根岸正光 データベース部会主査
 浅野正一郎 ネットワーク部会主査

宮澤 彰 目録所在情報部会主査
丸山 勝巳 システム管理部会主査
内藤 衛亮 国際事業委員会委員長(H13.3回～H13.3回)
山本 毅雄 国際事業委員会委員長(H14.1回～)
山本 毅雄 研究基準情報部会主査(H13.3回～)
大山 敬三 実証研究センター教授
安達 淳 情報学資源研究センター長
松井 一澄 国際・研究協力部研究協力課長(H13.1回～H13.3回)
青木 雄二 国際・研究協力部研究協力課長(H14.1回～)
秋山 和男 国際・研究協力部広報調査課長(H13.1回～H13.3回)
倉西 美由紀 国際・研究協力部広報調査課長(H14.1回～)
北村 昭久 国際・研究協力部成果普及課長(H14.1回～)
高野 茂 開発・事業部次長(H13.1回～H13.2回)
大埜 浩一 開発・事業部次長(H13.3回～)
藤川 俊三 開発・事業部企画調整課長
猪瀬 一夫 開発・事業部ネットワークシステム課長
京藤 貫 開発・事業部コンテンツ課長(H13.1回～H13.3回)
大場 高志 開発・事業部コンテンツ課長(H14.1回～)
川瀬 正幸 開発・事業部アプリケーション課長

開催状況：

平成13年4月27日(金) 平成13年度第1回開発・事業全体委員会
平成13年6月19日(火) 平成13年度第2回開発・事業全体委員会
平成14年1月30日(水) 平成13年度第3回開発・事業全体委員会
平成14年5月17日(金) 平成14年度第1回開発・事業全体委員会

議事等：

平成13年度

第1回

1. 平成12年度進捗状況について
2. 開発・事業に係る平成13年度執行計画及び平成14年度概算要求について

第2回

1. 研究基準情報部会の設置について
2. 開発・事業全体委員会に関する申し合わせの変更について
3. NIIとJSTの連携・協力の方向性について

第3回

1. 今後の開発・事業について
2. 開発・事業全体委員会のあり方
3. 「分野別推進戦略」(総合科学技術会議)の施策等について
4. ポータルサイト事業化プロジェクトの設置について

平成14年度

第1回

1. データベース部会の設置について
2. 学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)
3. スーパーSINET整備計画について
4. 平成14年度執行計画及び平成15年度概算要求について
5. JSTとのデータの貸借について
6. 法人化に向けた中期目標・中期計画の内容
7. 本研究所データ関連事業の将来について(山本委員私案)

8. 委員会の見直しについて

● システム管理部会

任務：公開用システムの機能・性能の評価及びリソースの検討、セキュリティシステム(所内LAN含む)の評価、検討

構成：

- 一 研究系及び研究施設の教官 若干名
- 二 開発・事業部職員 若干名
- 丸山勝巳 教授(主査)
- 橋爪宏達 教授
- 相澤彰子 助教授
- 佐藤真一 助教授
- 吉岡真治 助手
- 児玉和也 助手
- 井手一郎 助手
- 藤川俊三 企画調整課長
- 羽田和久 企画調整課課長補佐
- 坂本朝治 ネットワークシステム課課長補佐
- 武川利代 企画調整課企画調整係長
- 山西秀幸 企画調整課情報基盤整備係長
- 樋口秀樹 企画調整課共同利用係長
- 小林一男 ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長
- 米澤誠 コンテンツ課コンテンツ形成管理係長(H13.1回～H13.3回)
- 茂出木理子 コンテンツ課コンテンツ形成管理係長(H14.1回～)
- 石原栄一 アプリケーション課システム開発管理係長

開催状況：

- 平成13年6月14日(木) 平成13年度第1回システム管理部会
- 平成13年11月7日(水) 平成13年度第2回システム管理部会
- 平成14年3月6日(水) 平成13年度第3回システム管理部会
- 平成14年9月3日(金) 平成14年度第1回システム管理部会

議事等：

平成13年度

第1回

- 1. 目録システムへのロードバランサ導入について
- 2. 「2001年9月9日」特異日問題について
- 3. ドメイン移行計画(案)について
- 4. 汎用ドメイン名について(案)

第2回

- 1. 電子図書館システムの機種更新について(案)
- 2. 電子ジャーナルミラーサーバの導入について(案)
- 3. 所内LANシステムの調達について(案)
- 4. セキュリティ監査の実施について(案)
- 5. 所内LANの現状について
- 6. ドメイン移行について

第3回

- 1. 千葉分館の事務体制について
- 2. セキュリティ監査の実施について
- 3. 所内LANの現状と整備計画について

平成 14 年度

第 1 回

1. 電子図書館システム・電子ジャーナルサーバシステム調達報告
2. 所内 LAN の現状について
3. 無線 LAN の運用開始について
4. NII 情報セキュリティポリシー策定について(案)

● ネットワーク部会

任務：学術情報ネットワーク(SINET)の整備、運用及び次世代の超高速ネットワークの整備について審議する。

構成：

- ◎浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹・教授
- 山田 茂樹 情報基盤研究系教授
- 松方 純 情報基盤研究系助教授
- 相澤 彰子 情報基盤研究系助教授(～H13 年度第 8 回)
- 計宇 生 ソフトウェア研究系助教授
- 趙偉 平 情報メディア研究系助教授
- 阿部 俊二 実証研究センター助教授
- 藤野 貴之 情報基盤研究系助手
- 相原 健郎 ソフトウェア研究系助手(～H13 年度第 8 回)
- 上岡 英史 情報メディア研究系助手
- 猪瀬 一夫 開発・事業部ネットワークシステム課長
- 坂本 朝治 開発・事業部ネットワークシステム課課長補佐
- 郷原 正好 開発・事業部ネットワークシステム課ネットワーク開発企画係長
- 中尾 実 開発・事業部ネットワークシステム課ネットワーク整備運用係長
- 永井 善一 開発・事業部ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長(～H13 年度第 1 回)
- 小林 一男 開発・事業部ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長(H13 年度第 8 回～)

(注)◎は主査

開催状況：平成 13 年度は 8 回、平成 14 年度は 12 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成 13 年度第 1 回：平成 13 年 4 月 24 日(火)

1. 平成 13 年度執行計画(案)について
2. 平成 14 年度概算要求(案)について
3. IPv6 のコネクティビティ確保と今後の進め方について
4. その他

平成 13 年度第 2 回：平成 13 年 6 月 29 日(金)

1. SINET ノードルータ仕様書(案)について
2. SuperSINET /SINET の IPv6 導入検討 WG 設立について
3. その他

平成 13 年度第 3 回：平成 13 年 8 月 3 日(金)

1. 「スーパーSINET 推進協議会」の設置について
2. スーパーSINET 推進協議会及びシンポジウムの開催について
3. 学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議の開催について
4. 平成 13 年度スーパーSINET ノード設置機器等説明会の開催について
5. 研究情報ネットワーク(IMnet,ITBL)との統合について
6. 国際回線の調達について
7. JPIX 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について

8. その他

平成 13 年度第 4 回：平成 13 年 9 月 19 日(水)

1. SuperSINET /SINET の IPv6 導入検討 WG 進捗報告について
2. JPIX 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
3. 米英国際回線の調達について
4. SINET ノードルータ仕様策定について
5. その他

平成 13 年度第 5 回：平成 13 年 11 月 20 日(火)

1. 国立情報学研究所学術情報ネットワーク加入規程/加入細則の改正について
2. 平成 13 年度国立情報学研究所ネットワーク委員会の開催について
3. 平成 13 年度学術情報ネットワークノード担当者会議の開催について
4. 第 2 回スーパーSINET 推進協議会の開催について
5. SINET 国内回線の増強・変更及びノード機器の調達について
6. ネットワーク運用整備計画
7. セキュリティ監査の仕様について
8. その他

平成 13 年度第 6 回：平成 14 年 2 月 7 日(木)

1. SuperSINET /SINET の IPv6 導入検討 WG の進捗状況
2. JPIX 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
3. 平成 14 年度概算要求の内示結果について
4. JPIX 及び 3 月からの国内回線の増速について
5. 平成 15 年度概算要求事項について
6. SINET ノード機器構成の標準化モデルについて
7. SINET 国内回線の見直しについて
8. SINET のホームページデザインについて

平成 13 年度第 7 回：平成 14 年 3 月 4 日(月)

1. SuperSINET/SINET の IPv6 導入検討 WG 進捗状況報告及び審議依頼
2. 不正アクセス検知システム・プローブの設置場所
3. 学術情報ネットワーク加入規程及び同細則の改正について
4. SINET 国内回線の見直しについて
5. JPIX 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
6. その他

平成 13 年度第 8 回：平成 14 年 3 月 27 日(水)

1. スーパーSINET に係る公募型共同研究取扱要領
2. 各研究部会、ノード大学からのスーパーSINET への接続希望状況
3. 平成 15 年度以降のスーパーSINET について
4. その他

平成 14 年度第 1 回：平成 14 年 4 月 9 日(火)

1. 各研究部会及び新ノード大学からのスーパーSINET への接続希望状況
2. SINET の回線構成の検討
3. IPv6 サービスの運用開始について
4. 平成 15 年度以降のスーパーSINET について
5. その他

平成 14 年度第 2 回：平成 14 年 4 月 17 日(火)

1. SINET の回線構成の検討
2. 各研究部会及び新ノード大学からのスーパーSINET への接続希望状況
3. 平成 15 年度以降のスーパーSINET について

4. その他

平成 14 年度第 3 回：平成 14 年 5 月 1 日(水)

1. 平成 14 年度執行計画
2. 平成 15 年度概算要求について
3. JPIX 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
4. その他

平成 14 年度第 4 回：平成 14 年 6 月 5 日(水)

1. 国内回線の提案確認
2. 平成 14 年 10 月以降のスーパーSINET ルータの構成案について
3. IPv6 アドレス割り当てに関する要領(案)について
4. 平成 14 年度ネットワーク関係委員会等の日程について
5. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
6. その他

平成 14 年度第 5 回：平成 14 年 7 月 2 日(火)

1. 平成 14 年度米・英国際回線の調達について
2. IPv6 サービス開始のアナウンスについて
3. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
4. (財)京都高度技術研究所の BGP peer の依頼について
5. その他

平成 14 年度第 6 回：平成 14 年 8 月 5 日(月)

1. SINET ノード設備用／機関用ルータ技術審査について
2. 学術情報ネットワーク(SINET) IPv6 アドレスの利用に係る承諾書について
3. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
4. その他

平成 14 年度第 7 回：平成 14 年 8 月 19 日(月)

1. 平成 14 年度米・英国際回線の技術審査について
2. 第3回スーパーSINET 推進協議会(10/9 開催)について
3. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
4. NII の情報セキュリティポリシー作成の進め方

平成 14 年度第 8 回：平成 14 年 9 月 6 日(金)

1. 「研究室」区分からの IPv6 アドレス割り当て申請について
2. 第 14 回 APNIC Open Policy Meeting 出張報告について
3. 米・英国際回線技術審査について
4. その他

平成 14 年度第 9 回：平成 14 年 10 月 4 日(金)

1. 第 3 回スーパーSINET 推進協議会開催について
2. 「研究室」区分からの IPv6 アドレス割り当て申請について
3. IPv6 導入検討 WG 活動報告について
4. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について
5. 「今後の回線増強計画」アンケート調査結果について
6. その他

平成 14 年度第 10 回：平成 14 年 12 月 26 日(木)

1. SINET ノード接続用専用回線速度の見直しについて
2. 異常トラフィック対策ワーキンググループ報告
3. 「研究室」区分からの IPv6 アドレス割り当て申請について
4. セキュリティ情報検索システムについて
5. 国際高等セミナーハウス接続変更について
6. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について

7. InternetWeek2002 報告について

8. その他

平成 14 年度第 11 回：平成 15 年 1 月 10 日(金)

1. 平成 16 年度概算要求について

2. 平成 14 年度ネットワーク委員会及び計画調整会議議事要旨について

3. JPIX, JPNAP 経由にて BGP peer の依頼がある ISP について

4. その他

平成 14 年度第 12 回：平成 15 年 2 月 24 日(月)

1. SINET/スーパーSINET 整備計画について

2. 各研究部会及び新設ノード機関からの接続希望状況について

3. 沖縄地域 IX の接続について

4. その他

● 電子図書館部会

任務：電子図書館サービス(NACSIS-ELS)、オンラインジャーナル編集・出版システム(NACSIS-OLJ)の運用及びコンテンツの充実と次世代電子図書館、次世代電子ジャーナル等システムの高度化についての検討を行う。

構成：

- ◎根 岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹・教授
- 宮 澤 彰 実証研究センター長・教授
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長・教授
- 大 山 敬 三 実証研究センター教授
- 高 須 淳 宏 ソフトウェア研究系助教授
- 神 門 典 子 人間・社会情報研究系助教授
- 片 山 紀 生 情報メディア研究系助教授
- 相 原 健 郎 ソフトウェア研究系助手
- 井 手 一 郎 ソフトウェア研究系助手
- 京 藤 貫 開発・事業部コンテンツ課長
- 酒 井 清 彦 開発・事業部コンテンツ課課長補佐
- 小 林 一 男 開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ係長
- 樋 口 秀 樹 開発・事業部企画調整課共同利用係長
- 小 陳 左 和 子 開発・事業部アプリケーション課ネットワークソフトウェア技術係長

(注)◎は主査

開催状況：平成 13 年度は 11 回開催し、以下の議題について報告・審議した。なお、平成 12 年度第 9 回部会から電子図書館部会と情報検索部会(現データベース部会)は合同開催している。

● 情報検索部会

任務：開発・事業全体委員会の規定に基づき、学術情報データベース等に関する具体的な事項を検討する。

構成：

- ◎根 岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹・教授
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹・教授
- 宮 澤 彰 実証研究センター長・教授
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長・教授
- 小 山 照 夫 人間・社会情報研究系教授
- 大 山 敬 三 実証研究センター教授
- 神 門 典 子 人間・社会情報研究系助教授

孫 媛 学術研究情報研究系助教授
孟 洋 ソフトウェア研究系助手
井 手 一 郎 ソフトウェア研究系助手
竹 内 孔 一 人間・社会情報研究系助手
江 口 浩 二 人間・社会情報研究系助手
加 藤 弘 之 情報学資源研究センター助手
中 田 多 美 国際・研究協力部広報調査課広報調査係長
三 浦 圭 子 国際・研究協力部成果普及課成果普及係長
樋 口 秀 樹 開発・事業部企画調整課共同利用係長
鵜 澤 和 往 開発・事業部コンテンツ課計量情報係長
川 瀬 正 幸 開発・事業部アプリケーション課課長
木 村 優 開発・事業部アプリケーション課課長補佐
石 原 栄 一 開発・事業部アプリケーション課システム開発管理係長
嶋 邦 宏 開発・事業部アプリケーション課データ処理技術係長
小 陳 左和子 開発・事業部アプリケーション課ネットワークソフトウェア技術係長

(注)◎は主査

第 1 回：平成 13 年 4 月 24 日(火)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 機関別定額制の導入に伴う NACSIS-IR の対応について
- (3) 研究情報に関する調査及びデータベース作成事業の在り方について
- (4) アプリケーション課事業計画及び概算要求について
- (5) 電子図書館サービス事業計画及び概算要求について
- (6) 電子図書館サービスの課題について
- (7) 「現行法令データベース」のサービス終了について
- (8) オンラインジャーナル編集・出版システムの現況について
- (9) 電子図書館サービスの実施状況について
- (10) その他

第 2 回：平成 13 年 5 月 30 日(水)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 機関別定額制対応 W.G.報告
- (3) NII・JST の連携・協力に関する方向性について
- (4) 「COMPENDEX PLUS」の取扱いについて
- (5) 全文系データベースの取扱いについて
- (6) 学術研究活動に関する調査等の電子化及び見直し方策について
- (7) 平成 13 年度科学研究費補助金対象事業について
- (8) オンラインジャーナル編集・出版システムの現況について
- (9) 電子図書館サービスの実施状況について
- (10) その他

・ IR 利用説明会, IRDB 実務研修の開催報告

第 3 回：平成 13 年 6 月 28 日(木)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 機関別定額制導入に向けてのスケジュールについて
- (3) NACSIS-IR の機関別定額制への対応について
- (4) 「政府研究開発データベースの構築」への対応について
- (5) 電子図書館サービスの収録対象範囲の拡大について
- (6) 電子図書館著作権使用料に関する今後の取扱いについて
- (7) オンラインジャーナル編集・出版システムの現況について
- (8) 電子図書館サービスの実施状況について

(9) その他

第4回：平成13年7月26日(木) 15:00～

- (1) 前回議事の確認
- (2) 日本化学会全文データベースの作成中止について
- (3) 「東南アジア関係文献目録データベース」(受入データベース)の公開について
- (4) 研究者公募情報提供サービスの現況について
- (5) 機関別定額制利用者管理システムについて
- (6) オンラインジャーナル編集・出版システムの現況について
- (7) 電子図書館サービスの実施状況について
- (8) その他

第5回：平成13年9月4日(火)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 国立情報学研究所と科学技術振興事業団の情報関係事業の連携協力の基本的なあり方について
- (3) 学協会とのデータベース等連絡会議の開催について
- (4) 国立情報学研究所データベース委員の委嘱について
- (5) 電子図書館サービスの実施状況について
- (6) その他

第6回：平成13年10月16日(火)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 今後の国立情報学研究所のサービスについて -JSTとの調整結果の公開-
- (3) JSTとの連携協力に関する調整部会の検討状況
- (4) 機関別定額制導入について
- (5) 学会発表DB・学術論文DB 合同連絡会議及び臨床症例DB 連絡会議報告
- (6) 電子図書館サービス連絡会議開催報告
- (7) 海外導入データベースの終了について
- (8) 平成14年度科学研究費補助金対象事業について
- (9) 平成13年度国立情報学研究所データベース委員会の開催について
- (10) 平成13年度NACSIS-IR モニターの実施について
- (11) OUP(Oxford University Press)の試験提供の継続について
- (12) 電子図書館サービスの実施状況について
- (13) その他
 - ・ SPARC JAPAN について
 - ・ IR 利用説明会, IRDB 実務研修の開催報告

第7回：平成13年11月22日(木)

- (1) 前回議事の確認
- (2) JSTとの連携協力に関する調整部会の検討状況
- (3) 平成13年度NACSIS-IR モニター説明会の実施について
- (4) 機関別定額制及びデータベース終了の広報について
- (5) 電子図書館サービスの実施状況について
- (6) その他

第8回：平成13年12月21日(金)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 機関別定額制の試験利用について
- (3) データベース委員会の開催について
- (4) 平成14年度データ入力等の仕様策定委員会及び技術審査会の設置について
- (5) 電子図書館サービス説明会の実施について
- (6) JSTとの連携協力に関する調整部会の検討状況

- (7) 内閣府構想政府研究開発データベースへの対応について
- (8) 平成 13 年度図書館情報化支援会議の開催について
- (9) NACSIS-IR 受入相談中のデータベースについて
- (10) 引用文献リンクシステムの開発状況
- (11) 電子図書館サービスの実施状況について
- (12) その他

第 9 回：平成 14 年 1 月 25 日(金)

- (1) 前回議事の確認
- (2) データベースディレクトリの取扱いについて
- (3) データベース委員会の開催について
- (4) 情報検索及び電子図書館サービス利用規程の改定について
- (5) 国立情報学研究所におけるデータベース等を対象とした研究におけるデータ等の利用規程
- (6) 平成 15 年度概算要求項目について
- (7) ポータルサイト事業化プロジェクト年次計画について
- (8) 大学紀要の電子化及び情報発信への支援について
- (9) 大学紀要の NACSIS-ELS への収録計画について
- (10) 電子ジャーナルサーバの導入について
- (11) SPARC JAPAN(仮称)の事業化について
- (12) 情報検索部会及び電子図書館部会の在り方について
- (13) JST との連携協力に関する調整について
- (14) 平成 13 年度課金委員会の開催について
- (15) 機関別定額制試験利用の利用方法について
- (16) 大学等が刊行する紀要の状況に関するアンケート(結果報告)
- (17) 電子図書館サービスの実施状況について
- (18) その他

第 10 回：平成 14 年 2 月 25 日(月)

- (1) 前回議事の確認
- (2) JST との連携協力について
- (3) 情報検索サービス利用規程の改定について
- (4) 国立情報学研究所におけるデータベース等を対象とした研究におけるデータ等の利用規程
- (5) 平成 13 年度データベース委員会開催報告
- (6) 平成 13 年度 NACSIS-IR モニター報告
- (7) 機関別定額制試験利用の中間報告
- (8) 平成 13 年度大学図書館情報化支援会議開催報告
- (9) 電子図書館サービスの実施状況について
- (10) その他

第 11 回：平成 14 年 3 月 25 日(月)

- (1) 前回議事の確認
- (2) 平成 14 年度アプリケーション課事業計画について
- (3) 平成 14 年度コンテンツ課事業計画について
- (4) 利用制限のあるデータベースの取り扱いについて
- (5) 学術雑誌目次速報リストの公開について
- (6) 平成 14 年度データ入力等の仕様策定委員会及び技術審査会の設置について
- (7) NII 学術コンテンツ・ポータル“GeNii”の公開について
- (8) 機関別定額制の利用申請状況について
- (9) 機関別定額制の利用状況について
- (10) 平成 13 年度電子図書館サービス説明会開催報告
- (11) 電子図書館システム及び電子ジャーナルサーバシステム仕様策定委員会について

(12) 電子図書館サービスの実施状況について

(13) その他

● 目録所在情報部会

任務：目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL、Webcat)の運用、総合目録データベースの充実及び資源共有を支援するシステムの高度化・国際化についての検討を行う。

構成：

内 藤 衛 亮 人間・社会情報研究系主幹

◎宮 澤 彰 実証研究センター長(主査)

影 浦 峽 人間・社会情報研究系情報管理学研究部門助教授

孫 媛 学術研究情報研究系研究情報研究部門助教授

神 門 典 子 人間・社会情報研究系情報図書館学研究部門助教授

江 口 浩 二 人間・社会情報研究系情報図書館学研究部門助手

栗 林 久美子 国際・研究協力部広報調査課情報資料係長

相 原 雪 乃 国際・研究協力部成果普及課専門研修係長

樋 口 秀 樹 開発・事業部企画調整課共同利用係長

京 藤 貫 開発・事業部コンテンツ課長

酒 井 清 彦 開発・事業部コンテンツ課課長補佐

米 澤 誠 開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長

山 下 智 久 開発・事業部コンテンツ課文字情報係長

鵜 澤 和 往 開発・事業部コンテンツ課計量情報係長

(注)◎は委員長

開催状況：平成13年度は11回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成13年4月24日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 平成14年度概算要求事項について
3. OCLCとのシステム間リンクについて
4. NACSIS-CAT/ILL Z39.50 ゲートウェイサーバの運用について
5. 平成13年度第1回総合目録委員会の開催について
6. メタデータ・データベースの構築方針について
7. 平成13年度教育研修事業について
8. その他

第2回：平成13年5月31日(木)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. NII・JSTの連携・協力に関する方向性について
3. メタデータ・データベース検討会議の開催について
4. 平成13年度新CAT/ILLシステム説明会及び学総目説明会の開催について
5. その他

(1) 平成13年度第1回総合目録委員会の開催報告

(2) 学総目予備調査の中間報告

(3) アラビア文字文献データベースWGの開催報告

第3回：平成13年6月26日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. WWW対応個別版CD-ROMシステムの試験提供について
3. 会議報告
 - (1) 平成13年度 国立大学図書館協議会と国立情報学研究所との業務連絡会
 - (2) 第1回 アラビア文字文献入力規則ワーキング
 - (3) 京都大学東南アジア研究センターとの打合わせ

(4) 国立国会図書館とのメタデータ打合わせ

4. その他

(1) NACSIS-CAT/ILL ニュースレター 4号掲載記事について

(2) その他

第4回：平成13年7月24日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認

2. ネットワーク上の情報資源の取り扱いに関する検討会議について

3. 韓国・朝鮮語資料の取り扱い案に対する意見聴取状況について

4. 各種報告

(1) 第2回アラビア文字文献入力規則ワーキング

(2) 新CAT/ILLシステム説明会及び学術総合目録欧文編データ更新説明会の開催

(3) 学術雑誌総合目録欧文編データ更新方法調査報告

5. その他

(1) 今後の海外ドキュメントデリバリーサービスについて

(2) SPCATの名称について

第5回：平成13年9月18日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認

2. 平成13年度第2回国立情報学研究所総合目録委員会の開催について

3. ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する枠組み(案)について

4. 外国語図書の蔵書に関する調査の実施について

5. 各種報告

(1) 平成13年度第1回韓国・朝鮮語資料の取扱いに関する小委員会の開催報告

(2) 平成13年度第2回古籍の取扱いに関する小委員会の開催報告

(3) 第3回アラビア文字文献入力規則ワーキンググループの開催報告

(4) その他

第6回：平成13年10月30日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認

2. 韓国・朝鮮語資料の取扱(最終案)について

3. 今後の多言語対応計画(案)について

4. ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する検討会議の開催について

5. 外国雑誌センター館関連システムの開発依頼について

6. 電子ジャーナルでのILL対応情報記述について

7. 教育用データベースの内容見直しについて

8. 各種報告

(1) 平成13年度新CAT/ILLシステム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ更新説明会の実施報告

(2) OCLCとのILLシステム間リンク試行運用について

(3) 平成13年度NDL-NII業務連絡会の開催について

(4) ロードバランサーの導入について

(5) 学術雑誌総合目録でのWebUIP利用に伴う新規参加館について

(6) その他

第7回：平成13年11月27日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認

2. メタデータ・データベース検討WGの設置について

3. 平成13年度図書館情報化支援会議の開催について

4. NACSIS-CAT/ILLシステムニュースレター5号記事案について

5. OCLC及びRLG対応状況報告

6. 平成13年度第2回国立情報学研究所総合目録委員会の開催報告

7. 平成 13 年度第 2 回ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する検討会議の開催報告
8. NDL アジア関係機関懇談会への参加報告
9. NDL 第 2 回書誌調整連絡会議への参加報告
10. その他

第 8 回：平成 13 年 12 月 25 日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 総合目録データベースへの主題情報付与について
3. 電子メールによるレコード調整について
4. 平成 13 年度目録システム担当者連絡会議の開催について
5. 静岡大学遡及入力報告
6. 日米両国 ILL/DD 担当者協議の開催報告
7. 平成 13 年度 NDL 電子図書館全国連絡会議の開催報告
8. 平成 13 年度第 3 回古籍の取扱いに関する小委員会の開催報告
9. 平成 13 年度第 2 回韓国・朝鮮語資料の取扱いに関する小委員会の開催報告
10. 第 1 回メタデータ・データベース検討会議の開催報告
11. その他

第 9 回：平成 14 年 1 月 29 日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 平成 15 年度概算要求事項について
3. 平成 14 年度事業計画・システム開発事項について
4. 電子ジャーナル所蔵調査について
5. 海外図書館との ILL 運用方式について
6. 目録所在情報サービス利用規定の改正について
7. 部会の在り方について
8. OCLC との ILL システム間リンク試行運用について
9. 外国雑誌センター館へのデータ提供について
10. 全国漢籍データベース協議会総会の開催について
11. その他

第 10 回：平成 14 年 2 月 26 日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 新 CAT/ILL システムへの移行促進計画について
3. 平成 13 年度第 3 回総合目録委員会の開催について
4. 韓国・朝鮮語資料の取扱いの運用開始について
5. NACSIS-CAT/ILL ニュースレター 6 号記載記事について
6. 平成 13 年度新 CAT/ILL システム移行アンケート調査報告
7. 平成 13 年度目録システム担当者会議の開催報告
8. 平成 13 年度大学図書館等情報化支援会議の開催報告
9. その他

第 11 回：平成 14 年 3 月 26 日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. RLG との目録システム間リンクについて
3. メタデータ共同構築システムの試行運用について
4. 中国語資料に関するコーディングマニュアルについて
5. 米国出張報告
6. 上海 MARC について
7. その他

● 図書館情報部会

任務：目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL、Webcat)の運用、総合目録データベースの充実、資源共有を支援するシステムの高度化・国際化及びネットワーク上の情報資源の組織化についての検討を行う。

構成：

- | | |
|---------|--------------------------|
| ◎宮 澤 彰 | 学術研究情報研究系研究主幹(主査) |
| 影 浦 峽 | 人間・社会情報研究系情報管理学研究部門 助教授 |
| 孫 媛 | 学術研究情報研究系生物系研究情報研究部門 助教授 |
| 神 門 典 子 | 人間・社会情報研究系情報図書館学研究部門 助教授 |
| 江 口 浩 二 | 人間・社会情報研究系情報図書館学研究部門 助手 |
| 三 浦 圭 子 | 国際・研究協力部広報調査課情報資料係長 |
| 河 村 扶 美 | 国際・研究協力部成果普及課専門研修係長 |
| 樋 口 秀 樹 | 開発・事業部企画調整課共同利用係長 |
| 大 場 高 志 | 開発事業部コンテンツ課長 |
| 木 村 優 | 開発事業部コンテンツ課課長補佐 |
| 茂出木 理子 | 開発事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長 |
| 杉 田 茂 樹 | 開発事業部コンテンツ課文字情報係長 |
| 鵜 澤 和 往 | 開発事業部コンテンツ課計量情報係長 |

(注)◎は委員長

開催状況：平成 14 年度は 9 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：14 年 4 月 23 日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 平成 15 年度概算要求事項について
3. 平成 14 年度事業計画について
4. 図書館情報委員会の設置について
5. OCLC との ILL システム間リンクの運用開始について
6. 検索専用サーバの公開について
7. RLG との目録システム間リンクの実施について
8. MARC の更新状況について
9. 平成 14 年度教育研修事業について
10. その他

(1) 上海 MARC

第 2 回：14 年 5 月 29 日(水)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 東京大学東洋文化研究所 現代中国書遡及データについて
3. 検索専用サーバ 利用ガイドラインについて
4. NACSIS-CAT/ILL ニュースレター 7 号の掲載記事について
5. 学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会(仮称)について
6. RLG とのシステム間リンクの進捗状況および技術仕様について
7. 漢籍データベース 京都大学との打合わせについて
8. メタデータ・データベース構築システムの試行運用について
9. MARC 更新状況について
10. 海外機関との連携について—KERIS(韓国)
11. その他

(1) 中国書登録状況と China MARC について

(2) 天津図書館 目録講習会について

第 3 回：14 年 6 月 25 日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認

2. 図書館情報委員会の開催について
3. メタデータ・データベース共同構築事業説明会の開催について
4. 中国資料コーディングマニュアル(案)検討会議の開催について
5. 漢籍データベース 京都大学との打合せについて
6. 第1回メタデータ・データベース構築システム試行運用連絡会議の報告
7. KOMARCとNIIMARCの交換について
8. ドイツにおける目録システム講習会の実施について

第4回：14年9月18日(水)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. メタデータ・データベース共同構築事業の開始について
 - (1) 実施要領について
 - (2) 全国説明会の実施について
3. 学術雑誌総合目録の冊子体出版について
4. 参加組織データ調査の実施について
5. 総合目録 DBZ39.50 ゲートウェイ・サーバの利用について
6. KOMARCとNIIMARCの交換について
7. CAT懸案事項について
8. 平成14年度第1回 図書館情報委員会の開催報告
9. 中国書資料コーディングマニュアル検討会議の開催報告
10. 漢籍データベース京都大学との打合せについて
11. ドイツSBBとの打合せについて
12. 韓国・朝鮮語資料の運用開始について
13. Webcat Plusの公開について
14. その他
 - (1) 中期計画タスクフォースについて
 - (2) 東京大学東洋文化研究所現代中国書遡及データについて
 - (3) NACSIS-CAT/ILL ニュースレター 8号の発行について
 - (4) OCLCとのILLシステム間リンクの合意文書締結について

第5回：14年10月22日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. アラビア文字資料の取扱いに関する小委員会の検討事項について
3. 漢字統合インデクス提供に関するガイドラインについて
4. LCからの日本語雑誌整理に関する協力依頼について
5. メタデータ・データベース全国説明会の開催報告
6. 「学術雑誌総合目録」冊子体の刊行終了について
7. レコード調整メール連絡ツール(mokuren)の運用開始について
8. 国際対応事業の状況について
9. システム間リンクの利用状況について(OCLC,RLG)

第6回：14年11月19日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. CAT運用に関する最近の懸案事項について
3. コーディングマニュアル改訂方針(案)について
4. 漢籍データベースの受入について
5. 平成14年度第2回図書館情報委員会の開催について
6. NACSIS-CAT/ILL ニュースレターNo. 9の刊行について
7. LC日本語雑誌整理の協力要請について
8. メタデータ・データベース共同構築事業の現状報告
9. 中国国家図書館の参加について

10. 韓国出張について
11. 目録データ未登録館について

第7回：14年12月24日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 所蔵レコード一括更新作業について
3. 現物によらない新刊書の注記について
4. 平成14年度第2回図書館情報委員会開催報告
5. 戦後検定教科書書誌作成基準プロジェクトについて
6. 病院系図書室 NACSIS-ILL 利用状況
7. 韓国との目録データ交換及びシステム間リンクに関する協議報告

第8回：15年2月25日(火)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 遡及入力計画について
3. 平成14年度第3回図書館情報委員会の開催について
4. SPCAT の運用について
5. 平成15年度事業計画・システム開発事項について
6. 平成15年度国際事業展開
7. NACSIS-CAT/ILL ニュースレターNo.10 の刊行について
8. メタデータ・データベース利用者向け検索システムの試験公開
9. 重複レコードチェックシステムについて
10. CAT/ILL ホームページのリニューアルについて
11. 米国出張について
12. 全国漢籍データベース協議会第3回総会の開催

第9回：15年3月31日(月)

1. 前回議事要旨(案)確認
2. 第3回図書館情報委員会開催報告
3. KERIS からの ILL システム間リンク等に関する質問への回答について
4. 目録業務の外注化に関するアンケートについて
5. 和文雑誌所蔵レコード更新計画について
6. MARC の更新状況について
7. 平成14年度のレコード調整結果
8. その他

● データベース部会

任務：開発・事業全体委員会の規定に基づき、学術情報データベース等に関する具体的な事項を検討する。

構成：

- ◎根 岸 正 光 国際・研究協力部長・教授
- 丸 山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹・教授
- 山 本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹・教授
- 小 山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹・教授
- 宮 澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹・教授
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長・教授
- 大 山 敬 三 実証研究センター教授
- 高 須 淳 宏 ソフトウェア研究系助教授
- 片 山 紀 生 情報メディア研究系助教授
- 神 門 典 子 人間・社会情報研究系助教授
- 孫 媛 学術研究情報研究系助教授

孟 洋	ソフトウェア研究系助手
相原 健郎	ソフトウェア研究系助手
井手 一郎	ソフトウェア研究系助手
竹内 孔一	人間・社会情報研究系助手
江口 浩二	人間・社会情報研究系助手
加藤 弘之	情報学資源研究センター助手
中田 多美	国際・研究協力部広報調査課広報調査係長
清水 あゆ美	国際・研究協力部成果普及課成果普及係長
樋口 秀樹	開発・事業部企画調整課共同利用係長
大場 高志	開発・事業部コンテンツ課長
木村 優	開発・事業部コンテンツ課課長補佐
杉田 茂樹	開発・事業部コンテンツ課文字情報係長
奥村 小百合	開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ係長
川瀬 正幸	開発・事業部アプリケーション課課長
山西 秀幸	開発・事業部アプリケーション課課長補佐
石原 栄一	開発・事業部アプリケーション課システム開発管理係長
嶋 邦宏	開発・事業部アプリケーション課データ処理技術係長
小陳 左和子	開発・事業部アプリケーション課ネットワークソフトウェア技術係長

(注)◎は主査

開催状況：平成 14 年度は、情報検索部会と電子図書館部会を統合し、データベース部会とした。11 回開催し、以下の議題について審議・報告を行った。

平成 14 年度第 1 回：平成 14 年 4 月 26 日(金)

1. 情報サービス利用促進委員会の設置について
2. アプリケーション課概算要求事項について
3. コンテンツ課概算要求事項について
4. 情報検索・電子図書館サービスの海外からの利用について
5. 電子図書館の紀要ポータル対応について
6. 電子図書館専用クライアントの機関別定額制対応について
7. 電子図書館収録 JJAP 誌の書誌データ提供依頼について
8. 学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)
9. 本研究所データ関連事業の将来について
10. 機関別定額制試験利用の結果報告
11. 機関別定額制申請状況について
12. 平成 14 年度科学研究費補助金対象事業について
13. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 2 回：平成 14 年 5 月 27 日(月)

1. 雑誌記事索引データベースの重複レコードについて
2. NII における OUP のサイトライセンスについて
3. データベース関連事業の将来について
4. 学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会(仮称)について
5. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 3 回：平成 14 年 6 月 24 日(月)

1. 電子図書館サービスの PDF ファイルの取り扱いについて
2. 共同プロジェクト NII-OUP e-journal licensing trial program について
3. データベース関連事業の将来について
4. 機関別定額制の参加状況について
5. 研究者データベースおよび NACSIS-DiRR のデータの JST への引渡しについて
6. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 4 回：平成 14 年 7 月 26 日(金)

1. 学術関係会議等開催情報(日本学術会議編)及び学協会集会スケジュール(日本工学会編)のサービス終了について
2. 冊子「我が国における学術研究活動の状況」について
3. データベース関連事業の将来について
4. NII-JST 業務連絡会について
5. SPARC Japan Pilot Project について
6. 電子図書館PDF化アンケートの実施
7. 機関別定額制の参加状況について
8. 電子図書館サービスの実施状況について
 - ・ 電子図書館システム, 電子ジャーナルサーバ調達の状況

平成 14 年度第 5 回：平成 14 年 9 月 12 日(木)

1. 国立情報学研究所における研究紀要公開支援について
2. OUP ナショナルサイトライセンス実施条件について
3. 電子ジャーナルサーバへのコンテンツ搭載に係る手続について
4. 学術関係会議等開催情報及び学協会集会スケジュール(KAIGI1, KAIGI2)の代替サービスについて
5. NII 中期計画タスクフォースについて
6. 国立情報学研究所が電子化する紀要に関する調査結果報告
7. 電子図書館サービスでの PDF ファイル対応について
8. Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲータ)の公開について
9. 機関別定額制の利用者が自宅等から情報検索サービスを利用する方法について
10. 情報検索サービスの実施状況について
11. 電子図書館サービスの実施状況について
12. その他
 - ・ 研究者ディレクトリ, DBDR の更新及び DBDR の今年度調査について
 - ・ 電子図書館システム, 電子ジャーナルサーバ調達状況
 - ・ データベース委員会について

平成 14 年度第 6 回：平成 14 年 10 月 24 日(木)

1. OUP 電子ジャーナルの 2004 年以降のアレンジについて
2. 雑誌記事索引データベースにおける NDL-ID:NCID テーブルの外部提供について
3. データベース委員会委員について
4. 機関別定額制導入機関のプロキシサーバ等運用状況
5. 情報検索サービスの実施状況について
6. 電子図書館サービスの実施状況について
7. その他
 - ・ 平成 14 年度学術情報データベース実態調査について

平成 14 年度第 7 回：平成 14 年 11 月 18 日(月)

1. NACSIS-IR における Telnet 版の凍結について
2. 電子ジャーナル・コンテンツの受入搭載に係る要領について
3. OUP 電子ジャーナル 2004 年以降のアレンジに関する打ち合わせについて
4. 日本動物学会への電子図書館収録データの提供について
5. 電子図書館サービス連絡会議・電子図書館サービス説明会の実施について
6. JST との連携協力について
7. 経済学文献索引データベースの作成終了について
8. 平成 15 年度科学研究費補助金対象事業について
9. 研究紀要電子化の平成 14 年度対象誌について
10. 芝浦工大からの JJAP データ提供依頼について

11. 機関別定額制の利用状況について
12. 研究者ディレクトリデータベースの研究利用に対するデータ提供について
13. 情報検索サービスの実施状況について
14. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 8 回：平成 14 年 12 月 20 日(金)

1. データベース委員会の開催について
2. ISI との協力協定案について
3. 電子ジャーナル・コンテンツの受入に係る要領について
4. 電子ジャーナル共同利用支援事業(仮称)の名称について
5. データベースディレクトリ, 学術情報データベース実態調査のメタデータ・データベース共同構築事業への移行について
6. 平成 15 年度データ入力等の仕様策定委員会及び技術審査会の設置について
7. 電子図書館システム/電子ジャーナルサーバシステム導入状況
8. 海外モニターの申込及び利用状況について
9. 国立国会図書館科学技術欧文会議録データベース及び洋図書目録データベース更新の一時的な中断について
10. 情報検索サービスの実施状況について
11. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 9 回：平成 15 年 1 月 14 日(火)

1. 情報検索サービスの見直しについて
2. データベース委員会について
3. 電子図書館サービス連絡会議の開催について
4. 電子図書館サービス著作権使用料の徴収・支払について
5. データベースディレクトリ, 学術情報データベース実態調査のメタデータ・データベース共同構築事業への移行について
6. NII 電子ジャーナルリポジトリ(NII-REO)システム及びコンテンツ導入状況
7. 情報検索サービスの実施状況について
8. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 10 回：平成 15 年 2 月 20 日(木)

1. NII と ISI との協力関係について
2. OUP 刊行電子ジャーナル試験提供の終了について
3. 電子図書館サービスのフリーアクセス機能提供開始等に伴う「申合せ」の変更について
4. 電子図書館サービスへの学協会以外の団体の参加について
5. 文部科学省情報課, JST, NII 三者打合せの結果について
6. 平成 14 年度データベース委員会開催報告
7. NII 電子ジャーナルリポジトリ(NII-REO)のトライアル開始について
8. 電子図書館サービス連絡会議開催について
9. 学術雑誌目次速報データベースシステムの改造と研究紀要ポータルについて
10. 情報検索サービスの実施状況について
11. 電子図書館サービスの実施状況について

平成 14 年度第 11 回：平成 15 年 3 月 20 日(木)

1. 平成 15 年度アプリケーション課事業計画について
2. 平成 15 年度コンテンツ課事業計画について
3. 電子ジャーナルリポジトリへの搭載に伴う LICENSE AGREEMENT (IEEE/CS) について
4. データベースディレクトリのメタデータ・データベースへの移行について
5. NACSIS-IR-JOIS 間のゲートウェイ廃止に伴う利用者の救済措置について
6. NDL との業務連絡会について
7. 受入データベースの現況について

8. 学術論文データベース・臨床症例データベースの NACSIS-ELS への移行状況
9. 平成 14 年度電子図書館サービス説明会開催報告
10. 情報検索サービスの実施状況について
11. 電子図書館サービスの実施状況について

● 研究基準情報部会

任務：情報学の基準となる標準情報の調査、収集、蓄積及び利用についての計画立案等ならびに研究基準情報サーバシステムの運用管理についての検討

構成：

- 一 研究系及び研究施設の教官 若干名
- 二 開発・事業部職員 若干名
 - 山本 毅 雄 教授(主査)
 - 橋爪 宏 達 教授
 - 高野 明 彦 教授
 - 影浦 峡 助教授
 - 佐藤 真 一 助教授
 - Nigel Henry Collier 助教授
 - Andres Frederic 助教授
 - 佐藤 寛 子 助教授
 - 北本 朝 展 助手
 - 藤川 俊 三 企画調整課
 - 京 藤 貫 コンテンツ課長
 - 川瀬 正 幸 アプリケーション課長
 - 羽田 和 久 企画調整課課長補佐
 - 山西 秀 幸 企画調整課情報基盤整備係長

開催状況：

- 平成 13 年 7 月 13 日(金) 平成 13 年度第 1 回研究基準情報部会
- 平成 13 年 10 月 3 日(水) 平成 13 年度第 2 回研究基準情報部会
- 平成 14 年 3 月 4 日(月) 平成 13 年度第 3 回研究基準情報部会
- 平成 14 年 5 月 13 日(金) 平成 14 年度第 1 回研究基準情報部会

議事等：

平成 13 年度

第 1 回

1. 研究基準情報部会の設置について
2. 研究基準情報サーバシステムの経緯について
3. 平成 13 年度システム運用計画(案)について
4. 研究基準情報サーバシステムの中期計画(案)について

第 2 回

1. 試験データのロード進捗状況
2. 蓄積データ選定の基本方針(案)

第 3 回

1. 平成 13 年度研究プロジェクト進捗状況
2. 平成 14 年度研究プロジェクト計画

平成 14 年度

第 1 回

1. 平成 13 年度執行状況について
2. 平成 14 年度システム運用計画について
3. 中期計画について

● ポータルサイト事業化プロジェクト

任務：引用文献索引データベースを核として、研究者情報、研究成果情報、学術論文情報など所内の各種研究情報を有機的にリンクした統合的なアクセス環境を提供するとともに、他機関の提供する学術研究情報についてもアクセス対象とする学術情報デジタルコンテンツのポータルサイトサービスの事業化を図るため必要となる各種システムの設計・開発を行う。

構成：

- ◎根 岸 正 光 国際・研究協力部長・学術研究情報研究系教授
(～14.3.31 学術研究情報研究系研究主幹・教授)
- 小 山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹・教授
(～14.3.31 人間・社会情報研究系教授)
- 宮 澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹・実証研究センター教授
(～14.3.31 実証研究センター長)
- 安 達 淳 情報学資源研究センター長・教授
- 高 野 明 彦 ソフトウェア研究系教授
- 大 山 敬 三 実証研究センター教授
- 高 須 淳 宏 ソフトウェア研究系助教授
- 片 山 紀 生 情報メディア研究系助教授
- 武 田 英 明 知能システム研究系助教授
- 神 門 典 子 人間・社会情報研究系助教授
- 後藤田 洋 伸 人間・社会情報研究系助教授
- 岡 田 仁 志 人間・社会情報研究系助教授
- 西 澤 正 己 実証研究センター助教授
- 相 原 健 郎 ソフトウェア研究系助手
- 井 手 一 郎 ソフトウェア研究系助手
- 江 口 浩 二 人間・社会情報研究系助手
- 日 高 宗 一 郎 実証研究センター助手
- 加 藤 弘 之 情報学資源研究センター助手
- 絹 川 博 之 実証研究センター客員教授(～14.3.31)
- 浦 本 直 彦 実証研究センター客員助教授
- 中 田 多 美 国際・研究協力部広報調査課広報調査係長
- 羽 田 和 久 開発・事業部企画調整課課長補佐(平成 13 年度)
- 樋 口 秀 樹 開発・事業部企画調整課共同利用係長(平成 14 年度)
- 京 藤 貫 開発・事業部コンテンツ課長(平成 13 年度)
- 大 場 高 志 開発・事業部コンテンツ課長(平成 14 年度)
- 酒 井 清 彦 開発・事業部コンテンツ課課長補佐(平成 13 年度)
- 木 村 優 開発・事業部コンテンツ課課長補佐(平成 14 年度)
- 米 澤 誠 開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長(平成 13 年度)
- 茂出木 理 子 開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長(平成 14 年度)
- 山 下 智 久 開発・事業部コンテンツ課文字情報係長(平成 13 年度)
- 杉 田 茂 樹 開発・事業部コンテンツ課文字情報係長(平成 14 年度)
- 小 林 一 男 開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ係長(平成 13 年度第 1 回～第 8 回)
- 奥 村 小百合 開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ係長(平成 13 年度第 9 回～)
- 川 瀬 正 幸 開発・事業部アプリケーション課長
- 木 村 優 開発・事業部アプリケーション課課長補佐(平成 13 年度)
- 山 西 秀 幸 開発・事業部アプリケーション課課長補佐(平成 14 年度)
- 石 原 栄 一 開発・事業部アプリケーション課システム開発管理係長(平成 14 年度)
- 小 陳 左和子 開発・事業部アプリケーション課ネットワークソフトウェア技術係長
- 大 綱 浩 一 開発・事業部アプリケーション課ネットワークソフトウェア技術係員

(注)◎は主査

開催状況：平成 13 年度は 10 回(準備会を含む)、平成 14 年度は 6 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成 13 年度準備会：平成 13 年 7 月 31 日(火)

1. ポータルサイト事業化プロジェクト(仮称)の概要について
2. 今後の進め方について

平成 13 年度第 1 回：平成 13 年 9 月 7 日(金)

1. ポータルサイト事業化プロジェクト年次計画について
2. ポータルサイト事業化プロジェクト(仮称)の課題について
3. 課題の分担について

平成 13 年度第 2 回：平成 13 年 9 月 17 日(月)

1. 課題の分担について
2. 各課題の概要について
3. その他

平成 13 年度第 3 回：平成 13 年 10 月 12 日(金)

1. ISI の事業展開について
2. 各課題の検討状況報告
 - (1) 引用リンクシステム
 - (2) アーキテクチャ
3. その他
 - (1) JST 案内情報システム懇談会について

平成 13 年度第 4 回：平成 13 年 10 月 31 日(水)

1. 各課題の検討状況報告
 - (1) データベース統合・スキーマ設計
 - (2) ID の基本設計
 - (3) 認証方式
 - (4) 平成 14 年 9 月公開のサービス機能設計
2. 今後の進め方
3. その他
 - (1) プロジェクト及び公開サイトの名称について

平成 13 年度第 5 回：平成 13 年 11 月 19 日(月)

1. 今後の進め方について
2. メタデータ・データベースの構築について

平成 13 年度第 6 回：平成 14 年 1 月 10 日(木)

1. 各課題の検討状況報告
 - (1) 2002 年度に向けた作業の検討
 - (2) スキーマ設計
2. 引用文献リンクシステム開発状況報告

平成 13 年度第 7 回：平成 14 年 1 月 31 日(木)

1. 懸案事項について
2. 各課題の検討状況報告
 - (1) 引用文献リンク公開システム
 - (2) 名寄せシステムについて
 - (3) 研究者 DB の設計について
 - (4) 図書情報のポータルについて
 - (5) 引用文献リンクシステムの機能拡張について

平成 13 年度第 8 回：平成 14 年 2 月 14 日(木)

1. サービス名称について

2. 被引用文献同定用データベースシステムの拡張について
3. 統合プラットフォームプロジェクトの所内向けページについて
4. 引用文献索引データベース作成システムの構築について
5. 図書情報ポータルについて
6. 研究者情報ポータルについて

平成 13 年度第 9 回：平成 14 年 3 月 4 日(月)

1. サービス名称について
2. 被引用文献同定用データベースシステムの状況
3. 引用文献リンク公開システムの機能拡張について
4. 図書情報ポータルについて
5. 研究者情報ポータルについて
6. 平成 14 年度事業計画(案)について

平成 14 年度第 1 回：平成 14 年 4 月 5 日(金)

1. 平成 14 年度の課題分担について
2. GeNii の公開について
3. CLS の課題と展開について
4. 図書情報ポータルについて
5. メタデータ共同構築システムについて

平成 14 年度第 2 回：平成 14 年 4 月 22 日(月)

1. CLS 平成 14 年度主要改造項目(案)
2. CiNii 平成 14 年度計画(案)
3. 紀要ポータル開発計画(案)
4. 図書情報ナビゲータ開発計画(案)
5. 大学の学術情報資源ポータル開発計画(案)
6. 研究者情報ポータル開発計画(案)
7. GeNii サービススケジュール(案)

平成 14 年度第 3 回：平成 14 年 6 月 4 日(火)

1. 各課題の検討状況報告
 - (1) CLS(被引用文献同定用データベースシステム)
 - (2) CiNii(NII 引用文献情報ナビゲータ)
 - (3) 紀要ポータル
 - (4) Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲータ)
 - (5) 大学の学術情報資源ポータル
 - (6) 研究者情報ポータル
2. その他
 - (1) JST リンクセンターの概要

平成 14 年度第 4 回：平成 14 年 9 月 25 日(水)

1. 各課題の検討状況報告
 - (1) CLS(被引用文献同定用データベースシステム)
 - (2) CiNii(NII 引用文献情報ナビゲータ)
 - (3) 研究紀要ポータル
 - (4) Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲータ)
 - (5) 大学の学術情報資源ポータル
 - (6) 研究者情報
2. その他
 - (1) JST からの提案：JST 統合検索システムと GeNii との連携

平成 14 年度第 5 回：平成 14 年 12 月 3 日(火)

1. 各課題の検討状況報告

- (1) CLS(被引用文献同定用データベースシステム)及び CiNii(NII 引用文献情報ナビゲータ)
- (2) 研究紀要ポータル
- (3) Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲータ)
- (4) 大学情報メタデータ・ポータル
- (5) 研究者情報

平成 14 年度第 6 回：平成 15 年 3 月 4 日(火)

1. 各課題の検討状況報告

- (1) CLS(被引用文献同定用データベースシステム)及び CiNii(NII 引用文献情報ナビゲータ)
- (2) 研究紀要ポータル
- (3) Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲータ)
- (4) JuNii(大学情報メタデータ・ポータル)
- (5) NII-REO(NII 電子ジャーナルリポジトリ)
- (6) 研究者情報

2. 今後の GeNii の展開について

3. その他

- (1) 文化遺産ポータルについて

⑬ 情報セキュリティ委員会

任務：情報セキュリティポリシーの策定及び運用、情報セキュリティに関する重要事項の決定・啓発及び教育。

構成：

1. 構成員

坂内副所長(委員長)
小野研究総主幹
浅野研究主幹
橋爪教授
岡田助教授
千葉管理部長
根岸国際・研究協力部長
羽鳥開発・事業部長
大埜開発・事業部次長

2. 開催状況

平成 14 年度は以下のとおり 2 回実施。

①第 1 回：平成 14 年 10 月 8 日(火)15:15～16:00

- ・ 情報セキュリティポリシー策定の進め方について
- ・ ポリシー策定部会の設置について

②第 2 回：平成 15 年 2 月 19 日(水)13:00～14:30

- ・ 前回議事要旨の確認
- ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について

● 情報セキュリティポリシー策定部会

任務：情報セキュリティポリシー案の作成、ならびに情報セキュリティポリシーについての評価及び改定案の作成等を行なう。

構成：

1. 構成員

橋爪教授(主査)
武田助教授

岡田助教授
藤野助手
相原助手
塚瀬総務課企画法規係長
武川企画調整課企画調整係長
小林ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長

2. 開催状況

平成 14 年度は以下のとおり 10 回開催。

- ①第 1 回：平成 14 年 10 月 17 日(木)13:30～15:00
 - ・ 情報セキュリティポリシー策定部会について
 - ・ 情報セキュリティポリシー策定の進め方について
- ②第 2 回：平成 14 年 10 月 31 日(木)13:30～15:00
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
 - ・ セキュリティ監査の実施について
- ③第 3 回：平成 14 年 11 月 13 日(水)13:30～15:00
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ セキュリティポリシー入門講座(北海道、九州地区)の報告
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
- ④第 4 回：平成 14 年 11 月 28 日(木)13:30～15:00
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
将来のネットワーク構成について
セキュリティポリシーの骨格について
- ⑤第 5 回：平成 14 年 12 月 10 日(火)13:30～15:00
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ セキュリティポリシーセミナーの報告
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
- ⑥第 6 回：平成 14 年 12 月 26 日(木)14:00～15:50
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ Internet Week2002 の報告
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
- ⑦第 7 回：平成 15 年 1 月 17 日(金)10:00～11:55
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
- ⑧第 8 回：平成 15 年 1 月 20 日(月)13:30～15:30
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
- ⑨第 9 回：平成 15 年 2 月 3 日(月)14:00～15:15
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について
- ⑩第 10 回：平成 15 年 2 月 26 日(水)10:30～12:05
 - ・ 前回議事要旨の確認
 - ・ 情報セキュリティ委員会の報告について
 - ・ ファイヤウォールの導入について
 - ・ 国立情報学研究所セキュリティポリシー策定について

⑭ 民間との共同研究受入審査会

任務：民間等との共同研究受入等について審査する。

平成 13 年度

構成：

- 小野 欽 司 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- ◎丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 内藤 衛 亮 人間・社会情報研究系研究主幹
- 根岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹
- 宮澤 彰 実証研究センター長
- 安達 淳 情報学資源研究センター長

◎ は、主査又は委員長

開催状況：

第 1 回：平成 13 年 4 月 13 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 2 回：平成 13 年 6 月 4 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 3 回：平成 13 年 7 月 17 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 4 回：平成 13 年 7 月 24 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 5 回：平成 13 年 8 月 24 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

平成 14 年度

構成：

- 小野 欽 司 研究総主幹
- 藤山 秋佐夫 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- ◎丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 小山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹
- 宮澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹
- 山田 茂 樹 実証研究センター長
- 安達 淳 情報学資源研究センター長

◎ は、主査又は委員長

開催状況：

第 1 回：平成 14 年 4 月 25 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 2 回：平成 14 年 7 月 19 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 3 回：平成 14 年 8 月 12 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第 4 回：平成 14 年 10 月 3 日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

第5回：平成15年2月6日

- ・ 民間等との共同研究の受入について

⑮ 受託研究受入審査会

任務：受託研究の受入等について審査する。

平成13年度

構成：

- 小野 欽 司 情報学基礎研究系研究主幹
- ◎ 浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 内藤 衛 亮 人間・社会情報研究系研究主幹
- 根岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹
- 宮澤 彰 実証研究センター長
- 安達 淳 情報学資源研究センター長

◎ は、主査又は委員長

開催状況：

第1回：平成13年4月10日

- ・ 間接経費負担のあり方について
- ・ 受託研究の受入について

第2回：平成13年4月27日

- ・ 受託研究の受入について

第3回：平成13年10月5日

- ・ 受託研究の受入について

第4回：平成13年10月25日

- ・ 受託研究の受入について

第5回：平成13年12月4日

- ・ 受託研究の受入について

第6回：平成14年1月29日

- ・ 受託研究の受入について

第7回：平成14年3月5日

- ・ 受託研究の受入について

平成14年度

構成：

- 小野 欽 司 研究総主幹
- 藤山 秋佐夫 情報学基礎研究系研究主幹
- ◎ 浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 小山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹
- 宮澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹
- 山田 茂 樹 実証研究センター長
- 安達 淳 情報学資源研究センター長

◎ は、主査又は委員長

開催状況

- 第1回：平成14年5月28日
 - ・ 受託研究の受入について
- 第2回：平成14年7月5日
 - ・ 受託研究の受入について
- 第3回：平成14年9月4日
 - ・ 受託研究の受入について
- 第4回：平成14年10月22日
 - ・ 受託研究の受入について
- 第5回：平成14年12月26日
 - ・ 受託研究の受入について
- 第6回：平成15年2月12日
 - ・ 受託研究の変更受入について
- 第7回：平成15年2月26日
 - ・ 受託研究の受入について

⑩ 特別共同利用研究員受入審査会

任務：特別共同利用研究員の受入等について審査する。

平成13年度

構成：

- ◎小野 欽 司 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- 山本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹
- 上野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
- 内藤 衛 亮 人間・社会情報研究系研究主幹
- 根岸 正 光 学術研究情報研究系研究主幹
- 宮澤 彰 実証研究センター長
- 安達 淳 情報学資源研究センター長

◎ は、主査又は委員長

開催状況：

- 第1回：平成13年4月10日
 - ・ 特別共同利用研究員の受入について
- 第2回：平成13年4月27日
 - ・ 特別共同利用研究員の受入について
- 第3回：平成14年2月14日
 - ・ 特別共同利用研究員の受入について
- 第4回：平成14年3月19日
 - ・ 特別共同利用研究員の受入について
- 第5回：平成14年3月25日
 - ・ 特別共同利用研究員の受入について

平成14年度

構成：

- 藤山 秋佐夫 情報学基礎研究系研究主幹
- 浅野 正一郎 情報基盤研究系研究主幹
- 丸山 勝 巳 ソフトウェア研究系研究主幹
- ◎山本 毅 雄 情報メディア研究系研究主幹

上野 晴 樹 知能システム研究系研究主幹
小山 照 夫 人間・社会情報研究系研究主幹
宮澤 彰 学術研究情報研究系研究主幹
山田 茂 樹 実証研究センター長
安達 淳 情報学資源研究センター長

◎ は、主査又は委員長

開催状況：

- 第1回：平成14年4月8日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第2回：平成14年4月26日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第3回：平成14年5月1日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第4回：平成14年5月16日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第5回：平成14年5月27日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第6回：平成14年6月26日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第7回：平成15年2月28日
・ 特別共同利用研究員の受入について
第8回：平成15年3月12日
・ 特別共同利用研究員の受入について

⑰ 発明委員会

任務：研究所の教官等の発明に係る権利の帰属等に関し審議する。

平成14年度

構成：

Nigel Collier 情報学基礎研究系 助教授
松方 純 情報基盤研究系 助教授
佐藤 一郎 ソフトウェア研究系 助教授
趙 偉 平 情報メディア研究系 助教授
山田 誠 二 知能システム研究系 教授
後藤田 洋 伸 人間・社会情報研究系 助教授
柴山 盛 生 学術研究情報研究系 助教授
◎山田 茂 樹 実証研究センター 教授
安達 淳 情報学資源研究センター 教授

◎ は、主査又は委員長

開催状況：

- 第1回：平成14年5月14日
・ 委員長の選出について
・ 研究所の教官の発明に係る権利の帰属について
第2回：平成14年8月21日
・ 研究所の教官の発明に係る権利の帰属について
第3回：平成15年2月24日
・ 研究所の教官の発明に係る権利の帰属について

⑱ 紀要編集委員会（平成14年度第2回よりNII Journal編集委員会に名称変更）

任務：国立情報学研究所 NII Journal の編集に関する事項について審議する。

構成：

- 一 研究系及び研究施設の教官 若干人
- 二 学識経験者 若干人

平成 13 年度

- 井上 如 学術情報センター名誉教授
- 枝川 明 敬 名古屋大学先端技術共同研究センター教授
- 加藤 誠 巳 上智大学理工学部電子基礎工学科教授
- 田中 良 明 早稲田大学国際情報通信研究センター教授
- 牧之内 顕 文 九州大学大学院システム情報科学研究院教授
- 松村 多美子 椙山女学園大学文化情報学部教授
- 安永 尚 志 国文学研究資料館研究情報部教授
- ◎小野 欽 司 国立情報学研究所研究総主幹
- 浅野 正一郎 国立情報学研究所情報基盤研究系主幹
- 丸山 勝 巳 国立情報学研究所ソフトウェア研究系主幹
- 橋爪 宏 達 国立情報学研究所情報メディア研究系教授
- 本位田 真 一 国立情報学研究所知能システム研究系教授
- 小山 照 夫 国立情報学研究所人間・社会情報研究系教授
- 根岸 正 光 国立情報学研究所学術研究情報研究系主幹
- 大山 敬 三 国立情報学研究所実証研究センター教授
- 安達 淳 国立情報学研究所情報学資源研究センター長

◎は、主査又は委員長

開催状況：平成 13 年度は 2 回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：平成 13 年 9 月 14 日（金）

- 1. No.3 掲載論文の採択について
- 2. No.3 の構成について
- 3. 今後のスケジュールについて

第 2 回：平成 14 年 2 月 8 日（金）

- 1. No.4 掲載論文の採択について
- 2. No.4 構成について
- 3. 今後のスケジュールについて
- 4. 任期満了にともなう委員の改選について

平成 14 年度

- 枝川 明 敬 名古屋大学先端技術共同研究センター教授
- 田中 良 明 早稲田大学国際情報通信研究センター教授
- 土屋 俊 千葉大学文学部教授
- 中川 裕 志 東京大学情報基盤センター教授
- 牧之内 顕 文 九州大学大学院システム情報科学研究院教授
- 安永 尚 志 国文学研究資料館研究情報部教授
- ◎小野 欽 司 国立情報学研究所研究総主幹
- Nigel Henry Collier 国立情報学研究所情報学基礎研究系助教授
- 計 宇 生 国立情報学研究所ソフトウェア研究系助教授
- 高野 明 彦 国立情報学研究所ソフトウェア研究系教授
- 橋爪 宏 達 国立情報学研究所情報メディア研究系教授
- 山田 誠 二 国立情報学研究所知能システム研究系主幹
- 小山 照 夫 国立情報学研究所人間・社会情報研究系教授

矢野正晴 国立情報学研究所学術研究情報研究系助教授
阿部俊二 国立情報学研究所情報基盤研究系助教授
安達 淳 国立情報学研究所情報学資源研究センター長

◎は、主査又は委員長

開催状況：平成14年度は2回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成14年7月16日(火)

1. 委員長の選出について
2. No.5掲載論文の採択について
3. No.5の構成について
4. No.6の刊行について
5. 国立情報学研究所紀要編集委員会の名称について

第2回：平成15年3月31日(月)

1. No.6掲載論文の採択について
2. No.6の構成について
3. 著者抄録利用許諾依頼について
4. NII Journal 平成15年度年間スケジュール(案)について

⑱ 国際高等セミナーハウス利用促進委員会

任務：国際高等セミナーハウスの利用促進及び管理・運営上の諸問題を審議する。

構成：

- 一 所長
- 二 企画調整官
- 三 研究総主幹
- 四 国際・研究協力部長
- 五 管理部長及び開発・事業部次長
- 六 学識経験者 若干人
- 七 その他所長が必要と認めた者

平成13年度

井上 如 学術情報センター名誉教授
餌取 章 男 日本科学技術振興財団理事
大塚 信一 株式会社岩波書店代表取締役社長
尾林 賢治 株式会社日経事業出版社代表取締役社長
加藤 幹雄 財団法人国際文化会館常務理事
軽部 征夫 東京大学国際・産学共同研究センター長
坂内 正夫 東京大学生産技術研究所長
榊 裕之 東京大学生産技術研究所教授
末吉 哲郎 財団法人新国立劇場運営財団常務理事
村上 陽一郎 国際基督教大学教授
安田 靖彦 早稲田大学理工学部教授

◎末松安晴 国立情報学研究所長

佐和隆光 国立情報学研究所企画調整官
小野 欽司 国立情報学研究所研究総主幹
濱田 喬 国立情報学研究所国際・研究協力部長
松岡 憲雄 国立情報学研究所管理部長(～13.9.30)
千葉 秀夫 国立情報学研究所管理部長(13.10.1～)
高野 茂 国立情報学研究所開発・事業部次長(～13.8.31)
大埜 浩一 国立情報学研究所開発・事業部次長(13.9.1～)

(注)◎は委員長

開催状況：平成13年度は2回開催し、以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成13年5月18日(金)

1. 軽井沢土曜懇話会の実施状況報告
2. 国際高等セミナーハウスの今後の利用計画について

第2回：平成14年2月4日(月)

1. 軽井沢土曜懇話会・公開講演会の実施状況報告
2. 国際高等セミナーハウスの今後の利用計画について
3. 講演会記録の取り扱いについて
4. 任期満了に伴う委員の交代について

平成14年度

- | | |
|--------|-------------------------|
| 井上 如 | 学術情報センター名誉教授 |
| 猪瀬 満利子 | |
| 餌取 章男 | 日本科学技術振興財団理事 |
| 大塚 信一 | 株式会社岩波書店代表取締役社長 |
| 尾林 賢治 | 株式会社 QUICK 監査役 |
| 加藤 幹雄 | 財団法人国際文化会館常務理事 |
| 軽部 征夫 | 東京工科大学片柳研究所教授 |
| 榊 裕之 | 東京大学生産技術研究所教授 |
| 村上 陽一郎 | 国際基督教大学教授 |
| 安田 靖彦 | 早稲田大学理工学部教授 |
| 依田 靖彦 | 軽井沢町教育長 |
| ◎末松 安晴 | 国立情報学研究所長 |
| 坂内 正夫 | 国立情報学研究所企画調整官(H14.7.1～) |
| 小野 欽司 | 国立情報学研究所研究総主幹 |
| 根岸 正光 | 国立情報学研究所国際・研究協力部長 |
| 丸山 勝巳 | 国立情報学研究所ソフトウェア研究系教授 |
| 千葉 秀夫 | 国立情報学研究所管理部長 |
| 大埜 浩一 | 国立情報学研究所開発・事業部次長 |

(注)◎は委員長

開催状況：平成14年度は一回開催し、以下の議題について報告・審議した。

平成14年9月10日(火)

1. 軽井沢土曜懇話会の実施状況報告
2. 国際高等セミナーハウスの今後の利用計画について

⑳ 課金委員会

任務：所長の諮問に応じ、国立情報学研究所提供サービスの課金のあり方、その他課金に関することを審議する。

構成：

- 一 開発・事業部長
 - 二 管理部長及び開発・事業部次長
 - 三 研究系及び研究施設の教官 若干人
 - 四 学識経験者 若干人
- | | |
|---------|--------------------|
| 羽 鳥 光 俊 | 開発・事業部長 |
| 千 葉 秀 夫 | 管理部長 |
| 大 埜 浩 一 | 開発・事業部次長 |
| 内 藤 衛 亮 | 人間・社会情報研究系研究主幹 |
| 根 岸 正 光 | 学術研究情報研究系研究主幹(委員長) |

宮 澤 彰 実証研究センター長
細 野 公 男 慶應大学メディアネット所長
石 川 徹 也 図書館情報大学教授
大 江 和 彦 東京大学医学部附属病院中央医療情報部長
小 田 忠 雄 東北大学附属図書館長
落 合 卓 四 郎 東京大学附属図書館長
菅 原 秀 明 国立遺伝学研究所教授
鈴 木 健 二 郎 京都大学大型計算機センター長
西 尾 章 治 郎 大阪大学サイバーメディアセンター長
松 尾 文 碩 九州大学情報基盤センター長
朝 倉 徳 浩 文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室長

開催状況：

平成 14 年 3 月 5 日(火) 平成 13 年度第 1 回課金委員会

議事等：

平成 13 年度

第 1 回

報告事項

1. 科学技術振興事業団との情報関係事業の連携・協力について
2. 情報検索サービスの概況について
3. 電子図書館サービスの概況について
4. 情報検索サービスの新規データベースについて
5. 情報検索サービスの機関別定額制の導入について

審議事項

1. 情報検索・電子図書館サービスの利用者範囲について

平成 14 年度は開催されなかった。

⑳ ネットワーク委員会

任務：学術情報ネットワークの運営、将来計画及びネットワークに係る研究開発に関することについて審議する。

構成：

一 開発・事業部長

二 開発・事業部次長

三 研究系及び研究施設の教官 若干人

四 学識経験者 若干人

羽 鳥 光 俊 国立情報学研究所開発・事業部長

大 埜 浩 一 国立情報学研究所開発・事業部次長

小 野 欽 司 国立情報学研究所研究総主幹

濱 田 喬 国立情報学研究所国際・研究協力部長(～H13 年度第 1 回)

根 岸 正 光 国立情報学研究所国際・研究協力部長(H14 年度第 1 回～)

◎浅野 正一郎 国立情報学研究所情報基盤研究系研究主幹

山 田 茂 樹 国立情報学研究所情報基盤研究系教授(～H13 年度第 1 回)

松 方 純 国立情報学研究所情報基盤研究系助教授

阿 部 俊 二 国立情報学研究所実証研究センター 助教授

計 宇 生 国立情報学研究所ソフトウェア研究系 助教授(H14 年度第1回～)

伊 土 誠 一 日本電信電話(株)常務理事情報流通基盤総合研究所長
(H13.2.1～H14.3.31)(H14.7.1～H15.3.31)

金 澤 正 憲 京都大学大型計算機センター教授

- (H13.2.1～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)
- 金子 敏 信 東京理科大学理工学部教授
(H13.2.1～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)
- 荻 田 幸 雄 高エネルギー加速器研究機構計算科学センター 助教授
(H13.2.1～H16.3.31) (H14.7.1～H15.6.30)
- 北 川 一 豊田工業大学 教授 (H13.2.1～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)
- 齊 藤 忠 夫 東京大学情報基盤センター長 (H13.2.1～H13.3.31)
- 岡 部 洋 一 東京大学情報基盤センター長 (H13.4.1～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)
- 斎 藤 恒 雄 筑波大学電子・情報工学系 教授
(H13.2.1～H14.3.31) (H14.7.1～H15.3.31)
- 林 英 輔 麗澤大学国際経済学部 教授 (H13.2.1～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)
- 安 田 靖 彦 早稲田大学理工学部電子・情報通信学科 教授 (H13.2.1～H14.3.31)
- 村 岡 洋 一 早稲田大学メディアネットワークセンター長 (H14.7.1～H15.3.31)
- 安 永 尚 志 国文学研究資料館研究情報部情報処理室長
(H13.2.1～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)
- 六 本 佳 平 放送大学 教授 (H13.2.1～H14.3.31)
- (注)◎は委員長

開催状況：以下の議題について、報告・審議した。

平成 13 年度第 1 回：平成 14 年 3 月 1 日(金)

1. 学術情報ネットワークの整備状況について
2. 国立情報学研究所と科学技術振興事業団の情報関係事業の連携協力の基本的なあり方について
3. 学術情報ネットワーク加入規程及び同細則の改正について
4. 大学における情報セキュリティポリシーの検討状況
5. その他

平成 14 年度第 1 回：平成 14 年 12 月 18 日(水)

1. 学術情報ネットワークの整備状況について
2. 国際ネットワークの構成について
3. その他

② 学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議

任務：学術研究情報ネットワークに関する整備の計画・調整について審議する。

構成：

- 一 所長
- 二 研究系及び研究施設の教官 若干人
- 三 国立大学大型計算機センター及び国立大学総合情報処理センター等関係者 若干人
- 四 大学共同利用機関関係者(国立情報学研究所関係者を除く。) 若干人
- 五 私立大学情報教育協会関係者 若干人
- 六 研究ネットワーク関係者 若干人

- ◎末 松 安 晴 国立情報学研究所長
- 羽 鳥 光 俊 国立情報学研究所開発・事業部長
- 小 野 欽 司 国立情報学研究所研究総主幹
- 浅 野 正 一 郎 国立情報学研究所情報基盤研究系研究主幹
- 嘉 数 侑 昇 北海道大学大型計算機センター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H15.3.31)

根元 義章 東北大学情報シナジーセンター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

岡部 洋一 東京大学情報基盤センター長 (H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

稲垣 康善 名古屋大学大型計算機センター長 (H13.8.7～H14.3.31)

阿草 清滋 名古屋大学大型計算機センター長 (H14.7.1～H16.6.30)

鈴木 健二郎 京都大学大型計算機センター長 (H13.8.7～H14.3.31)

松山 隆司 京都大学大型計算機センター長 (H14.7.1～H16.6.30)

西尾 章治郎 大阪大学サイバーメディアセンター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H15.8.25)

松尾 文碩 九州大学情報基盤センター長 (H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

美宅 成樹 東京農工大学総合情報処理センター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H15.3.31)

渡辺 義明 佐賀大学学術情報処理センター (H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

竹中 康之 北海道教育大学教育学部 助教授
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

田中 博 東京医科歯科大学情報医科学センター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

向殿 政男 明治大学理工学部 教授 (H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

井上 靖 東海大学電子計算センター所長 (H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H15.3.31)

渡瀬 芳行 高エネルギー加速器研究機構計算科学センター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

近田 義広 国立天文台電波天文学研究系 教授
H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

舘野 義男 国立遺伝学研究所生命情報研究センター 教授
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

安永 尚志 国文学研究資料館研究情報部情報処理室長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

長瀬 文昭 宇宙科学研究所宇宙科学企画情報解析センター長
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

齋藤 公彦 科学技術振興事業団システム・基盤整備室長 (H13.8.7～H14.3.31)

下平 一晴 科学技術振興事業団システム・基盤整備室長 (H14.7.1～H16.6.30)

金子 敏信 東京理科大学理工学部電気工学科 教授
(H13.8.7～H14.3.31) (H14.7.1～H16.6.30)

福田 正大 日本原子力研究所計算科学推進センター並列処理基本システム開発
グループリーダー・課長 (H14.7.1～H16.6.30)

関口 智嗣 産業技術総合研究所グリッド研究センター長 (H14.7.1～H16.6.30)

後藤 滋樹 早稲田大学理工学部情報学科 教授 (H14.7.1～H16.6.30)

(注)◎は委員長

開催状況：以下の議題について、報告・審議した。

平成 13 年度第 1 回：平成 13 年 9 月 19 日(水)

1. 平成 12 年度学術情報ネットワークの整備状況について
2. 平成 13 年度学術情報ネットワークの整備計画について
3. その他

平成 14 年度第 1 回：平成 14 年 12 月 5 日(木)

1. 学術情報ネットワークの整備状況について
2. 研究ネットワークの状況

3. その他

㊸ 総合目録委員会

任務：目録所在情報サービス(図書館間相互貸借システムによるサービスを含む)の運用に関すること、目録情報の入力基準に関すること、学術雑誌総合目録の編集に関すること及びその他総合目録に関することについて審議すること。

構成：

- 一 開発・事業部長
 - 二 開発・事業部次長
 - 三 研究系及び研究施設の教官 若干名
 - 四 目録専門家及び学識経験者 若干名
- 上 田 修 一 慶應義塾大学文学部教授
海 後 陽 三 青山学院女子短期大学図書館・課長
海 谷 利 明 東京都立中央図書館資料部収書整理課長
加 藤 好 郎 慶應義塾大学三田メディアセンター事務次長
北 克 一 大阪市立大学学術情報総合センター教授
小 出 いずみ 国際文化会館企画部長
児 玉 史 子 国立国会図書館図書館協力部国内協力課長
田 村 潤 二 東京大学附属図書館事務部長
近 内 丈 巳 横浜市立大学学術情報センター事務長
永 田 治 樹 図書館情報大学図書館情報学部教授
福 田 洋 一 財団法人東洋文庫研究員
(所内)
羽 鳥 光 俊 国立情報学研究所開発・事業部長
◎宮 澤 彰 国立情報学研究所実証研究センター長
影 浦 峽 国立情報学研究所人間・社会情報研究系助教授
神 門 典 子 国立情報学研究所人間・社会情報研究系助教授
高 野 茂 国立情報学研究所開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成13年5月17日(木)

1. 平成12年度第1回総合目録委員会議事要旨(案)の確認
2. 目録所在情報サービスの現況について
3. 平成13年度教育研修事業について
4. 平成12年度小委員会の審議経過について
5. 韓国・朝鮮語資料の取扱いについて
6. 総合目録委員会の今期の検討事項について
 - (1) ネットワーク上の情報資源の取扱いについて
 - (2) 劣化資料の取扱いについて
7. その他

第2回：平成13年11月14日(水)

1. 前回以降の各種状況報告について
 - (1) OCLC との ILL システム相互接続について
 - (2) 総合目録データベース Z39.50 ゲートウェイサーバの公開状況について
 - (3) 個別版 CD-ROM サービスの廃止及び SPCAT の試験提供の開始について
 - (4) ネットワーク上の情報資源の取扱いに関する検討会議について
 - (5) 海外機関の目録所在情報サービス参加状況について
 - (6) 科学技術振興事業団との情報関係事業の連携協力について

2. 平成 13 年度小委員会の審議状況について
3. 韓国・朝鮮語資料の取扱いについて
4. 今後の多言語対応計画について
5. その他

(1) 電子ジャーナルに関するコーディングマニュアルの改訂について

第 3 回：平成 14 年 3 月 8 日(金)

1. 韓国・朝鮮語資料に関する取扱いについて
2. 和漢古書に関する取扱いについて
3. アラビア文字資料に関する取扱いについて
4. 平成 13 年度小委員会の審議状況について
5. 科学技術振興事業団との情報関係事業の連携協力について
6. OCLC との ILL システム間リンクについて
7. ネットワーク上の情報資源の取扱いについて

⑭ 図書館情報委員会

任務：目録所在情報サービス(図書館間相互貸借システムによるサービスを含む)の運用に関すること、目録情報の入力基準に関すること、図書館における学術情報の形成と流通に関すること、その他総合目録及び図書館等との連携に関することについて審議すること。

構成：

- 一 開発・事業部長
 - 二 開発・事業部次長
 - 三 研究系及び研究施設の教官 若干名
 - 四 目録専門家及び学識経験者 若干名
- 上 田 修 一 慶應義塾大学文学部教授
 加 藤 好 郎 慶應義塾大学三田メディアセンター事務長
 金 森 実 東京都立中央図書館資料部資料管理課長
 北 克 一 大阪市立大学学術情報総合センター教授
 高 田 時 雄 京都大学人文科学研究所教授
 田 村 潤 二 東京大学附属図書館事務部長
 近 内 丈 巳 横浜市立大学学術情報センター事務長
 永 田 治 樹 図書館情報大学図書館情報学部教授
 長 野 由 紀 国際基督教大学図書館長
 西 田 元 子 国立国会図書館図書館書誌部主任司書
 福 田 洋 一 大谷大学文学部助教授(兼)財団法人東洋文庫兼任研究員
 羽 鳥 光 俊 国立情報学研究所開発・事業部長

- ◎宮 澤 彰 国立情報学研究所学術研究情報研究系研究主幹
 影 浦 峽 国立情報学研究所人間・社会情報研究系助教授
 神 門 典 子 国立情報学研究所人間・社会情報研究系助教授
 大 埜 浩 一 国立情報学研究所開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：以下の議題について報告・審議した。

第 1 回：平成 14 年 7 月 12 日(金)

1. 平成 13 年度第 3 回総合目録委員会議事要旨(案)の確認
2. 平成 14 年度小委員会の設置について
3. 目録所在情報サービスの現況について
4. 平成 13 年度小委員会の審議状況について
5. コーディングマニュアルの改訂について
6. メタデータ・データベース共同構築事業について

7. 全国漢籍データベース協議会との連携について
8. 海外書誌ユーティリティとの連携について
9. 平成14年度教育研修事業について

第2回：平成14年11月29日(金)

1. 平成14年度第1回総合目録委員会議事要旨(案)の確認
2. コーディングマニュアル改訂方針について
3. 漢籍データベースの受入について
4. 平成14年度小委員会の審議状況について
5. 目録所在情報サービスに関する報告
6. メタデータ・データベース共同構築事業の現状報告
7. その他関連サービスに関する報告

第3回：平成15年3月10日(月)

1. 平成14年度第2回図書館情報委員会議事要旨(案)の確認
2. 和漢古書に関するコーディングマニュアルについて
3. アラビア文字資料の取扱いについて
4. 平成14年度小委員会の審議状況について
5. メタデータ・データベース共同構築事業の現状について
6. 国立情報学研究所遡及入力計画について
7. 大韓民国国立中央図書館との目録データの交換について
8. システム間リンクサービスの現状について
9. 研究紀要ポータル開始について
10. その他

㊦ データベース委員会

任務：データベース委員会は、所長の諮問に応じ、学術情報データベース等の運営に関する事、学術情報データベース等の形成に関する事、その他学術情報データベース等について審議する。

構成：開発・事業部長、開発・事業部次長、研究系及び研究施設の教官若干名、学識経験者から構成される。

任期：平成12年4月1日～平成14年3月31日

- | | |
|----------|--------------------------|
| 原 田 公 子 | 国立国会図書館図書部長 |
| 宇津野 宏 二 | 科学技術振興事業団専務理事 |
| 落 合 卓四郎 | 東京大学附属図書館長 |
| 小 山 正 樹 | 奈良先端科学技術大学院大学附属図書館長 |
| 岡 部 洋 一 | 東京大学情報基盤センター長 |
| 佐々木 丞 平 | 京都大学附属図書館長 |
| 杉 田 繁 治 | 国立民族学博物館企画調整官(副館長) |
| 高 橋 一 | 一橋大学経済学研究科教授 |
| 土 屋 俊 | 千葉大学附属図書館長 |
| 名 和 小太郎 | 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター |
| 八 村 広三郎 | 立命館大学総合情報センター副センター長 |
| 細 野 公 男 | 慶應義塾大学文学部教授 |
| 安 永 尚 志 | 国文学研究資料館研究情報部情報処理室長 |
| 山 本 毅 雄 | 国立情報学研究所情報メディア研究系研究主幹・教授 |
| ◎根 岸 正 光 | 国立情報学研究所学術研究情報研究系主幹・教授 |
| 安 達 淳 | 国立情報学研究所情報学資源研究センター長 |
| 大 山 敬 三 | 国立情報学研究所実証研究センター教授 |
| 羽 鳥 光 俊 | 国立情報学研究所開発・事業部長 |

大 埜 浩 一 国立情報学研究所開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成14年2月6日(水)

1. 学術情報データベース等の整備計画について
2. 科学技術振興事業団との連携協力について
3. 学術情報データベース等の運営について
 - (1) 情報検索サービスの現況について
 - (2) 電子図書館サービスの現況について
 - (3) 機関別定額制の導入について
 - (4) オンラインジャーナル編集・出版システムの現況について
 - (5) オンライン学術用語集の現況について
 - (6) 大学等の研究活動を総覧する情報提供サービスの現況について
 - (7) 情報検索サービスの研修報告・研修計画
4. その他
 - (1) 科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤ワーキング・グループについて
 - (2) SPARC(Scholarly Publishing & Academic Resources Coalition)について

任期：平成14年12月1日～平成16年11月30日

原 田 公 子 国立国会図書館書誌部長

佐 原 卓 科学技術振興事業団理事

廣 渡 清 吾 東京大学附属図書館長

大 江 和 彦 日本医療情報学会理事

(東京大学医学部附属病院中央医療情報部教授)

西 尾 章治郎 大阪大学サイバーメディアセンター長

杉 田 繁 治 国立民族学博物館企画調整官(副館長)

土 屋 俊 千葉大学文学部教授

名 和 小太郎 国際大学グローバル・コミュニケーション・センター

八 村 広三郎 立命館大学総合情報センター副センター長

細 野 公 男 慶應義塾大学メディアネット所長

安 永 尚 志 国文学研究資料館研究情報部情報処理室長

長 塚 隆 日本データベース協会会長

◎根 岸 正 光 国立情報学研究所国際・研究協力部長・教授

山 本 毅 雄 国立情報学研究所情報メディア研究系研究主幹・教授

安 達 淳 国立情報学研究所情報学資源研究センター長

大 山 敬 三 国立情報学研究所実証研究センター教授

羽 鳥 光 俊 国立情報学研究所開発・事業部長

大 埜 浩 一 国立情報学研究所開発・事業部次長

(注)◎は委員長

開催状況：以下の議題について報告・審議した。

第1回：平成15年1月17日(金)

1. 学術情報データベース等の整備計画について
2. 学術情報データベース等の運営について
 - (1) 情報検索サービスの現況について
 - (2) 電子図書館サービスの現況について
 - (3) 海外モニター制度について
3. GeNii 学術コンテンツ・ポータル事業について

- (1) CiNii : 引用文献情報ナビゲータ
 - (2) Webcat Plus : NII 図書情報ナビゲータ
 - (3) 研究紀要ポータル、大学情報メタデータポータル ほか
4. 科学技術振興事業団との連携協力について
 5. その他
 - (1) 学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)について
 - (2) 国際学術情報流通基盤整備事業について
 - (3) オンライン学術用語集の現況について
 - (4) 大学等の研究活動を総覧する情報提供サービスの現況について
 - (5) 情報検索サービスの研修報告・研修計画

11. 記録

(1) 人事異動

平成13年4月1日から平成15年3月31日までの間における異動は、下記のとおりである。

発令日	氏名	異動内容(新官職)	旧官職等名
13.4.1	末松 安晴	所長 (採用)	高知工科大学長
13.4.1	古山 宣洋	情報学基礎研究系助教授	国立国会図書館総務部情報システム課 副主査
13.4.1	兼岩 憲	情報学基礎研究系助手	
13.4.1	辻 慶太	人間・社会情報研究系助手	
13.4.1	嶋 邦宏	開発・事業部アプリケーション課データ 処理技術係長	
13.4.1	成富 孝	管理部会計課用度第二係	
13.4.1	佐山 純一	開発・事業部ネットワークシステム課ネット ワークセキュリティ係	
13.5.14	井上 弥生	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成 管理係	
13.10.1	福嶋有希子	開発・事業部企画調整課企画調整係	
13.10.1	前川 晶子	開発・事業部企画調整課共同利用係	
14.1.1	照井 一成	情報学基礎研究系助手	
14.1.16	梶山 郁子	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成 管理係	
14.4.1	奈良 高明	情報学基礎研究系助手	
14.4.1	柳 真介	国際・研究協力部研究協力課国際交流係	
14.5.1	平山 均	管理部会計課用度第一係	
		(転入)	
13.4.1	龍田 真	情報学基礎研究系教授昇任	京都大学大学院理学研究科助教授
13.4.1	佐藤 健	情報学基礎研究系教授昇任	北海道大学大学院工学研究科助教授
13.4.1	山本 毅雄	情報メディア研究系教授	図書館情報大学図書館情報学部教授
13.4.1	佐藤 一郎	ソフトウェア研究系助教授	お茶の水女子大学理学部助教授
13.4.1	藤川 俊三	開発・事業部企画調整課長	東京大学附属図書館情報サービス課長
13.4.1	猪瀬 一夫	開発・事業部ネットワークシステム課長	愛媛大学附属図書館情報管理課長
13.4.1	川瀬 正幸	開発・事業部アプリケーション課長	九州大学附属図書館情報システム課長
13.4.1	屋代 究	管理部総務課人事係長昇任	東京大学医科学研究所管理課人事掛主任
13.4.1	山本 浩	管理部会計課経理係長昇任	東京大学工学系研究科等経理課経理掛 主任
13.4.1	細川 聖二	国際・研究協力部成果普及課企画調査 係長昇任	東京医科歯科大学附属図書館文献情報掛
13.4.1	恵飛須智子	管理部総務課人事係人事主任昇任	東京医科歯科大学庶務部人事課職員掛
13.4.1	大綱 浩一	開発・事業部アプリケーション課ネット ワークソフトウェア技術係	京都大学附属図書館情報サービス課 資料運用掛
13.9.1	大埜 浩一	開発・事業部次長	東京工業大学附属図書館事務部長
13.10.1	千葉 秀夫	管理部長	独立行政法人文化財研究所総務部長
13.10.1	涌井 隆	管理部総務課総務係長昇任	東京外国語大学研究協力課総務・企画 係主任
14.1.1	藤山秋佐夫	学術研究情報研究系教授昇任	国立遺伝学研究所総合遺伝研究系助教授
14.3.1	奥村小百合	開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ 係長昇任	名古屋大学大型計算機センター
14.4.1	日比野 靖	情報学基礎研究系教授	北陸先端科学技術大学院大学情報科学 研究科教授
14.4.1	米田 友洋	情報基盤研究系教授昇任	東京工業大学大学院情報理工学研究科 助教授

14.4.1	井宮 淳	ソフトウェア研究系教授	千葉大学総合メディア基盤センター教授
14.4.1	山田 誠二	知能システム研究系教授昇任	東京工業大学大学院総合理工学研究科 助教授
14.4.1	鈴木 正人	情報学基礎研究系助教授	北陸先端科学技術大学院大学情報科学 研究科助教授
14.4.1	松本 尚	情報基盤研究系助教授昇任	東京大学大学院情報理工学系研究科助手
14.4.1	渡部 卓雄	ソフトウェア研究系助教授	東京工業大学大学院情報理工学研究科 助教授
14.4.1	杉本 晃宏	知能システム研究系助教授昇任	京都大学大学院情報学研究科講師
14.4.1	青木 雄二	国際・研究協力部研究協力課長	山形大学医学部医事課長
14.4.1	倉西美由紀	国際・研究協力部広報調査課長昇任	文部科学省大臣官房国際課国際機関 第一係長
14.4.1	大場 高志	開発・事業部コンテンツ課長	千葉大学附属図書館情報サービス課長
14.4.1	川久保 亨	管理部総務課課長補佐昇任	東京大学農学系総務課人事掛長
14.4.1	押木 久雄	管理部会計課総務・監査係長昇任	東京大学法学部・法学政治学研究科 会計掛主任
14.4.1	仲 吉司	管理部会計課用度第二係長昇任	東京大学柏地区物性研究所附属中性子 散乱研究施設事務室主任
14.4.1	松下 冬樹	国際・研究協力部研究協力課国際交流 係長	東京大学海洋研究所総務課国際交流掛長
14.4.1	河村 扶美	国際・研究協力部成果普及課専門研修 係長昇任	東京大学医学部・医学系研究科図書 受入掛
14.4.1	茂出木理子	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成 管理係長	東京大学情報基盤センター学術情報 リテラシー掛長
14.4.1	杉田 茂樹	開発・事業部コンテンツ課文字情報係長 昇任	北海道大学工学研究科・工学部総務課 図書整理掛
14.4.1	阪口 幸治	開発・事業部コンテンツ課文字情報係	香川大学附属図書館情報システム係
14.4.1	小林 幸志	開発・事業部アプリケーション課データ処 理技術係	東京大学社会科学研究所資料雑誌掛
14.7.1	坂内 正夫	企画調整官	東京大学生産技術研究所附属概念情報 工学研究センター教授
14.10.1	小山 大輔	管理部会計課長	愛知教育大学経理部主計課長
14.10.1	大山 貢	開発・事業部企画調整課課長補佐	独立行政法人国立科学博物館普及部 普及課博物館情報専門官
14.10.1	久保田 稔	管理部会計課総務・監査係総務・監査主任昇任	東京大学農学系経理課用度掛
14.10.16	大場 秀穂	国際・研究協力部成果普及課長	愛媛大学附属図書館情報管理課長
		(所内異動)	
13.4.1	羽田 和久	開発・事業部企画調整課課長補佐	開発・事業部ネットワークシステム課課長 補佐
13.4.1	坂本 朝治	開発・事業部ネットワークシステム課課長 補佐昇任	開発・事業部ネットワークシステム課ネット ワーク開発企画係長
13.4.1	木村 優	開発・事業部アプリケーション課課長補佐 昇任	開発・事業部アプリケーション課システム 開発管理係長
13.4.1	田原 裕治	管理部会計課司計・管財係長	管理部会計課司計係長
13.4.1	野村 透	管理部会計課用度第一係長	管理部会計課用度係長
13.4.1	金丸 敏眞	管理部会計課用度第二係長	管理部会計課管財係長
13.4.1	郷原 正好	開発・事業部ネットワークシステム課ネット ワーク開発企画係長	開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ 係長
13.4.1	小林 一男	開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ 係長昇任	管理部会計課施設係
13.4.1	石原 栄一	開発・事業部アプリケーション課システム 開発管理係長	開発・事業部アプリケーション課データ 処理技術係長
13.4.1	早川 英岐	管理部総務課総務係	開発・事業部ネットワークシステム課ネット ワークセキュリティ係
13.4.1	内間 邦夫	管理部会計課総務・監査係	管理部会計課管財係
13.4.1	金子 修	管理部会計課司計・管財係	管理部会計課司計係

13.4.1	木村 和則	管理部会計課用度第一係	管理部会計課用度係
13.4.1	鈴木 陽子	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係	開発・事業部企画調整課共同利用係
14.1.1	佐藤 寛子	知能システム研究系助教授昇任	情報メディア研究系助手
14.3.1	小林 一男	開発・事業部ネットワークシステム課ネットワークセキュリティ係長	開発・事業部コンテンツ課画像コンテンツ係長
14.4.1	笹島伊三美	管理部会計課課長補佐昇任	管理部会計課総務・監査係長
14.4.1	仲 和子	国際・研究協力部成果普及課課長補佐昇任	東京大学社会科学研究所図書主任
14.4.1	木村 優	開発・事業部コンテンツ課課長補佐	開発・事業部アプリケーション課課長補佐
14.4.1	山西 秀幸	開発・事業部アプリケーション課課長補佐昇任	開発・事業部企画調整課情報基盤整備係長
14.4.1	織田 康信	管理部総務課人事係長	国際・研究協力部研究協力課国際交流係長
14.4.1	三浦 圭子	国際・研究協力部広報調査課情報資料係長	国際・研究協力部成果普及課成果普及係長
14.4.1	清水あゆ美	国際・研究協力部成果普及課成果普及係長昇任	管理部総務課総務係総務主任
14.4.1	荻原 寛	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係	開発・事業部コンテンツ課文字情報係
13.4.10	山本 毅雄	(併任) 情報メディア研究系研究主幹	情報メディア研究系教授
13.7.16	塚瀬 幸雄	管理部総務課総務係長	管理部総務課企画法規係長
14.4.1	羽田 和久	開発・事業部企画調整課情報基盤整備係長	開発・事業部企画調整課課長補佐
14.4.1	小野 欽司	研究総主幹	情報基盤研究系教授
14.4.1	羽鳥 光俊	開発・事業部長	情報メディア研究系教授
14.4.1	根岸 正光	国際・研究協力部長	学術研究情報研究系教授
14.4.1	藤山秋佐夫	情報学基礎研究系研究主幹	学術研究情報研究系教授
14.4.1	浅野正一郎	情報基盤研究系研究主幹	情報基盤研究系教授
14.4.1	丸山 勝巳	ソフトウェア研究系研究主幹	ソフトウェア研究系教授
14.4.1	山本 毅雄	情報メディア研究系研究主幹	情報メディア研究系教授
14.4.1	上野 晴樹	知能システム研究系研究主幹	知能システム研究系教授
14.4.1	小山 照夫	人間・社会情報研究系研究主幹	人間・社会情報研究系教授
14.4.1	宮澤 彰	学術研究情報研究系研究主幹	実証研究センター教授
14.4.1	山田 茂樹	実証研究センター長	情報基盤研究系教授
14.4.1	安達 淳	情報学資源研究センター長	情報学資源研究センター教授
14.4.1	山田 茂樹	研究成果普及推進室長	情報基盤研究系教授
14.4.16	相澤 彰子	研究成果普及推進室	ソフトウェア研究系助教授
14.4.16	辻 慶太	研究成果普及推進室	人間・社会情報研究系助手
14.10.1	大山 貢	開発・事業部企画調整課情報基盤整備係長	開発・事業部企画調整課課長補佐
13.4.1	渡辺 博	(転出) 日本芸術文化振興会総務部情報推進室長	開発・事業部企画調整課長
13.4.1	瀧上 光明	京都大学附属図書館情報サービス課長	開発・事業部ネットワークシステム課長
13.4.1	布施 勇	大阪大学経理部情報処理課長	開発・事業部アプリケーション課長
13.4.1	平野 榮三	岡山大学医学部学務課長	管理部総務課課長補佐
13.4.1	松原 康夫	富山医科薬科大学教務部図書課長	開発・事業部企画調整課課長補佐
13.4.1	加徳 健三	旭川医科大学教務部図書課長	開発・事業部アプリケーション課課長補佐
13.4.1	植木 祐輔	東京大学医学部人事掛長	管理部総務課人事係長
13.4.1	千葉 栄夫	東京大学医学部附属病院管理課給与掛長	管理部会計課経理係長
13.4.1	熊渕 智行	東京工業大学附属図書館情報サービス課電子情報掛長	国際・研究協力部成果普及課企画調査係長

13.4.1	石塚 泰史	東京大学医科学研究所経理課用度第一掛主任	管理部会計課総務・監査係総務・監査主任
13.4.1	石井 保志	東京医科歯科大学附属図書館文献情報掛	管理部総務課総務係
13.4.1	野村 賢一	東京医科歯科大学経理部経理課情報処理掛	管理部総務課人事係
13.4.1	土井 光広	大学評価・学位授与機構管理部情報課ネットワーク管理係	開発・事業部企画調整課企画調整係
13.4.1	計良 広幸	北海道大学大型計算機センターHINES運用室	開発・事業部ネットワークシステム課ネットワーク整備運用係
13.4.1	上村 順一	国立国会図書館総務部情報システム課	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係
13.4.1	山崎みどり	東京学芸大学附属図書館情報管理課目録情報係	開発・事業部アプリケーション課ネットワークソフトウェア技術係
13.6.1	吉岡 真治	北海道大学大学院工学研究科助教授	情報学資源研究センター助手
13.7.16	管野 三男	東京医科歯科大学総務部人事課専門職員	管理部総務課総務係長
13.9.1	高野 茂	文部科学省大臣官房政策課情報化推進室長	開発・事業部次長
13.10.1	松岡 憲雄	広島大学経理部長	管理部長
14.4.1	福田 光宏	信州大学経済学部教授	学術研究情報研究系助教授
14.4.1	松井 一澄	東北大学研究協力部研究協力課長	国際・研究協力部研究協力課長
14.4.1	秋山 和男	文部科学省研究開発局海洋地球課地球・環境科学技術推進室室長補佐	国際・研究協力部広報調査課長
14.4.1	京藤 貫	千葉大学附属図書館情報管理課長	開発・事業部コンテンツ課長
14.4.1	村田 正一	愛知教育大学経理部経理課長	管理部会計課課長補佐
14.4.1	富田 健市	長岡技術科学大学教務部図書館課長	国際・研究協力部成果普及課課長補佐
14.4.1	酒井 清彦	埼玉大学附属図書館情報サービス課長	開発・事業部コンテンツ課課長補佐
14.4.1	屋代 究	東京大学地震研究所人事掛主任	管理部総務課人事係長
14.4.1	金丸 敏眞	東京大学生産技術研究所経理課契約第一掛長	管理部会計課用度第二係長
14.4.1	栗林久美子	東京大学東洋文化研究所図書館第二掛長	国際・研究協力部広報調査課情報資料係長
14.4.1	相原 雪乃	北海道大学附属図書館情報管理課雑誌受入掛長	国際・研究協力部成果普及課専門研修係長
14.4.1	米澤 誠	東北大学附属図書館総務課情報企画掛長	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係長
14.4.1	山下 智久	東京大学情報基盤センター図書館情報掛長	開発・事業部コンテンツ課文字情報係長
14.4.1	木村 和則	東京大学経理部契約課特定調達第一掛	管理部会計課用度第一係
14.4.1	鈴木 陽子	東京大学法学部継続資料班	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係
14.4.1	平野 裕志	東京大学教養学部等図書課受入掛	開発・事業部アプリケーション課データ処理技術係
14.4.1	蓑毛堅一郎	文部科学省政策課情報化推進室情報システム第二係主任	開発・事業部アプリケーション課データ処理技術係
14.10.1	福治 友英	文部科学省高等教育局学生課大学入試室室長補佐	管理部会計課長
14.10.1	羽田 和久	独立行政法人国立科学博物館普及部普及課博物館情報専門官	開発・事業部企画調整課課長補佐
14.10.1	内間 邦夫	宇宙科学研究所管理部契約課契約第二係長	管理部会計課総務・監査係総務・監査主任
14.10.16	北村 明久	名古屋大学附属図書館情報管理課長	国際・研究協力部成果普及課長
13.12.31	井上 弥生	(退職) 退職	開発・事業部コンテンツ課コンテンツ形成管理係
14.3.31	内藤 衛亮	退職	人間・社会情報研究系教授
14.8.31	玉光 真人	退職	開発・事業部アプリケーション課システム開発管理係

14.10.15	濱田 喬	死亡	ソフトウェア研究系教授
----------	------	----	-------------

(2) 国際交流

① 外国人研究者の受入れ

平成 13 年度

氏名	国籍	期間	身分	所属
Oria, Vincent	コートジボアール	13. 6. 1-13. 8.31	外国人研究員	ニュージャージー工科大学
Mangeot-Lerebours, Mathieu	フランス	13. 9. 1-15. 8.31	JSPS 外国人特別研究員	グルノーブル大学
Daille, Beatrice	フランス	13.10. 1-13.12.31	外国人研究員	ナント大学
張 小萍	中国	13.10. 1-14. 3.31	中国政府派遣研究員	公安部信息通信局
Grosky, William	米国	13.10. 1-14. 3.31	研究所受入外国人研究者	ミシガン大学
Angelino, Henri	フランス	13.12. 1-14.11.30	外国人研究員	トゥールーズ国立理工科学院
Waiyamai, Kitsana	タイ	14. 2.11-14. 5.10	JSPS 外国人招へい研究者	カセサート大学

平成 14 年度

氏名	国籍	期間	身分	所属
Ampornaramvet, Vuthichai	タイ	14. 4. 1-16. 3.31	外国人研究員	国立情報学研究所 COE研究員
Thevenin, David	フランス	14. 4. 1-16. 3.31	JSPS 外国人特別研究員	グルノーブル第1大学大学院
Jones, Gareth	イギリス	14. 5.13-14. 7.11	JSPS 外国人招へい研究者	エクセター大学
Codognet, Philippe	フランス	14. 5.15-14. 8.15	外国人研究員	パリ第6大学
Heinrich, Eva	ドイツ	14. 9.16-14.12.15	JSPS 外国人招へい研究者	マッセイ大学
李 衛寧	中国	14.10. 1-15. 9.30	中国政府派遣研究員	陝西嘉利塑電開発株式会社
Quint, Julien	フランス	14.11 1-16.10.31	JSPS 外国人特別研究員	グルノーブル第1大学大学院
Angelino, Henri	フランス	14.12. 1-15.11.30	外国人研究員	トゥールーズ国立理工科学院
Apel, Ulrich	ドイツ	15. 1. 6-15. 3.20	研究所受入外国人研究者	ミュンヘン大学大学院
Mullen, Anthony James	米国	15. 3.31-17. 3.30	JSPS 外国人特別研究員	Expeditior International of Washington

② 主な海外からの来訪者

平成 13 年度

年月日	来訪者名	所 属
平成 13 年 5 月 23 日	坂口和子	米国ハーバード大学ライシャワー日本研究所 現代日本研究資料センター所長
平成 13 年 6 月 1 日	Lorne Bouchard	ベトナム・フランコフォン計算機科学研究所長
平成 13 年 6 月 13 日	宝成関	中国吉林大学図書館長
平成 13 年 6 月 19 日	孫成権	中国科学院資源環境科学信息中心所長
平成 13 年 8 月 29 日	Park Kyung-Ja	韓国高麗大学校中央図書館長
平成 13 年 12 月 3 日	Sul H. Lee	米国オクラホマ大学図書館長
平成 14 年 2 月 12 日	パイヴィ・キュタマキ	フィンランド・オウル大学図書館長
平成 14 年 2 月 20 日	Ekaterina Genieva	ロシア連邦外国文献図書館長
平成 14 年 3 月 13 日	Willis King	IEEE コンピュータ協会会長

平成 14 年度

年月日	来訪者名	所 属
平成 14 年 4 月 19 日	Ko Hyoung Gon	韓国科学技術情報研究所情報資源センター所長
平成 14 年 5 月 7 日	Yury Kulchin	ロシア・極東国立工科大学研究担当副学長
平成 14 年 7 月 5 日	楊炳延	中国国家図書館副館長
平成 14 年 7 月 15 日	Luis Guillermo Martinez Mora	メキシコ・ハリスコ州政府教育庁長官
平成 14 年 7 月 16 日	Diane Pershek	米国ハワイ大学マノア校図書館長
平成 14 年 10 月 23 日	Angelika Viets	ドイツ・ベルリン日独センター事務総長
平成 14 年 12 月 19 日	El Zubeir Beshir Taha	スーダン科学技術大臣
平成 15 年 1 月 9 日	Stephane Grumbach	フランス国立情報・自動制御研究所国際部長
平成 15 年 3 月 25 日	Gerald van Oortmerssen	オランダ国立数学・計算機科学研究所長

③ 海外渡航実績

平成 13 年度

	北米	中南米	欧州	アジア	中近東	アフリカ	豪州	計
国際研究集会派遣研究員				1				1
科学研究費補助金	25		21	14			3	63
委任経理金	6		3	3				12
受託研究費	3		1					4
民間等との共同研究	4		3	5				12
在外研究員等旅費	7		8	1				16
文部科学省以外の官公庁	6		3	1				10
国内の財団、特殊法人等(国際 交流基金、日本学術振興会)	6		6	9				21
外国政府、外国の財団等	1	1	8	1			2	13
その他外国旅費	1		1					2
私費(海外研修)	5		7	5		1	1	19
合計人数	64	1	61	40	0	1	6	173

平成 14 年度

	北米	中南米	欧州	アジア	中近東	アフリカ	豪州	計
国際研究集会派遣研究員			1					1
科学研究費補助金	26	1	30	15			1	73
委任経理金	2		4	3				9
受託研究費	1							1
民間等との共同研究	6							6
在外研究員等旅費	6		11	2				19
文部科学省以外の官公庁	3		2	3				8
国内の財団、特殊法人等(国際交流基金、日本学術振興会)	10		2	3			2	17
外国政府、外国の財団等	2		10	4			1	17
その他外国旅費	5			3				8
私費(海外研修)	2		6	4				12
合計人数	63	1	66	37	0	0	4	171

④ 国際交流協定締結状況(2003年3月末現在)

相手方機関名	国名	締結年月
清華大学マイクロ波デジタル通信国家重点実験室	中国	2002年8月
UNESCO(デジタル・シルクロード・イニシアチブへの協力)		2003年3月
ミンガン大学計算機・情報科学科	米国	2003年3月
チュラロンコン大学	タイ	2003年3月

*平成14年度からのため、平成13年度はなし

(3) 表彰・受賞

月日	名称	受賞者
平成13年		
5月24日	第15回人工知能学会全国大会 優秀論文賞	相澤彰子 情報基盤研究系助教授
5月24日	第15回人工知能学会全国大会 優秀論文賞、人工知能学会 研究奨励賞	村田剛志 情報学基礎研究系助教授
7月17日	勲三等瑞寶章受賞	アンリ・アンジェリノ 実証研究センター客員教授
9月19日	電子情報通信学会フェロー称号授与	小野欽司 研究総主幹
9月19日	電子情報通信学会フェロー称号授与	上野晴樹 知能システム研究系教授
10月21日	日本図書館情報学会賞	影浦峯 人間・社会情報研究系助教授
11月3日	地方自治等功労者表彰(高知県)	末松安晴 所長
11月5日	日本薬学会第27回反応と合成の進歩シンポジウムポスター賞	佐藤寛子 知能システム研究系助教授
平成14年		
3月12日	情報処理学会フェロー称号授与	小野欽司 研究総主幹
5月	電子情報通信学会 功績賞	羽鳥光俊 情報メディア系教授
5月20日	第44回情報処理学会通常総会 論文賞	相澤彰子 情報基盤研究系助教授
5月30日	第16回人工知能学会 研究奨励賞	山田誠二 知能システム研究系教授
〃	第16回人工知能学会全国大会 優秀論文賞	村田剛志 情報学基礎研究系助教授

〃	第 16 回人工知能学会 2001 年度人工知能学会全国大会ベストプレゼンテーション賞	武田英明 知能システム研究系助教授
6 月	電波の日総務大臣個人表彰	坂内正夫 企画調整官(副所長)
7 月 19 日	第 17 回情報処理学会規格総会 標準化功績賞受賞	浅野正一郎 情報基盤研究系教授
8 月 7 日	計測自動制御学会 Young Author's Award 受賞	奈良高明 情報学基礎研究系助手
9 月 11 日	電子情報通信学会フェロー称号授与	浅野正一郎 情報基盤研究系教授
11 月 13 日	紫綬褒章受賞	小野欽司 研究総主幹
12 月 17 日	2002 Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing 国際シンポジウムにおける Best Student Paper Award 受賞	北井智也 情報基盤研究系 特別共同利用研究員

(4) 活動記録

平成 13 年

- 4 月 1 日 国立情報学研究所長に末松安晴前高知工科大学長/元東京工業大学長が就任
- 4 月 18 日 第 7 回 NII 定例研究会を開催(於: 学術総合センター)
- 4 月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第 4 号を刊行
- 5 月 16 日 第 8 回 NII 定例研究会を開催(於: 学術総合センター)
- 5 月 17 日 平成 13 年度第 1 回国立情報学研究所総合目録委員会開催(於: 学術総合センター)
- 6 月 1 日 平成 13 年度国立大学図書館協議会と国立情報学研究所との業務連絡会
- 6 月 17 日~28 日 北京日本学術研究センター図書資料館情報化支援における現地指導(於: 北京日本学術研究センターほか)
- 6 月 20 日 第 9 回 NII 定例研究会を開催(於: 学術総合センター)
- 6 月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第 5 号を刊行
- 6 月 NACSIS-CAT Z39.50 ゲートウェイサーバの試行運用開始
- 7 月 2 日 平成 13 年度国立情報学研究所要覧を刊行
- 7 月 5 日 平成 13 年度第 1 回古籍の取り扱いに関する小委員会(於: 学術総合センター)
- 7 月 6 日 平成 13 年度第 1 回日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト会議(於: 学術総合センター)
- 7 月 10 日 在京大使館科学担当アタッシェ懇談会を開催
- 7 月 14 日 軽井沢土曜懇話会「21 世紀日本経済は何処へ行く」(講師: 佐和隆光 国立情報学研究所企画調整官)を開催(於: 国際高等セミナーハウス)
- 7 月 18 日 第 10 回 NII 定例研究会を開催(於: 学術総合センター)
- 7 月 25 日 平成 13 年度第 1 回中国との学術情報交流プロジェクト会議(於: 学術総合センター)
- 7 月 28 日 軽井沢土曜懇話会「わが国の英語教育の問題点」(講師: 天満美智子 津田塾大学名誉教授)を開催(於: 国際高等セミナーハウス)
- 7 月 31 日 ネットワーク上の情報資源の取り扱いに関する検討会議(於: 学術総合センター)
- 8 月 2 日 平成 13 年度第 1 回日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するワーキンググループ(於: 学術総合センター)
- 8 月 20 日 科学実験教室「インターネットはどこでもドア」を開催(共催: 電子情報通信学会、科学技術館サイエンス友の会)
- 8 月 27 日~31 日 平成 13 年度情報処理軽井沢セミナー「Linux 活用」を開催(於: 国際高等セミナーハウス)
- 8 月 31 日 NII 及び JST の連携・協力に関する連絡協議会にて「国立情報学研究所と科学技術振興事業団の情報関係事業の連携協力の基本的なあり方について」を策定

- 8月31日 情報検索サービス(NACSIS-IR)「現行法令データベース」のサービスを終了
- 8月31日 第1回スーパーSINET推進協議会(於:学術総合センター)及び
シンポジウム「スーパーSINETの構築と活用」を開催(於:学術総合センター)
- 9月1日 情報検索サービス(NACSIS-IR)「東南アジア関係文献目録データベース」(作成
機関:霊長類学文献索引データベース作成委員会)のサービスを公開開始
- 9月1日 軽井沢土曜懇話会「光エレクトロニクスの発展の歩みと将来」(講師:末松安晴
国立情報学研究所長)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
- 9月4日~27日 平成13年度新CAT/ILLシステム説明会及び学術雑誌総合目録欧文編データ
更新説明会の開催(北海道大学、学術総合センター、名古屋大学、京都大学、
九州大学)
- 9月5日~7日 国立情報学研究所公開講座「Mathematicaと数式処理演習」を開催
- 9月8日 軽井沢土曜懇話会「Longing 未来へ・・・」(演奏:大津純子(ヴァイオリン)/岡田知
子(ピアノ))を開催(於:国際高等セミナーハウス)
- 9月13日 平成13年度第1回韓国・朝鮮語資料の取り扱いに関する小委員会(於:学術総
合センター)
- 9月14日 平成13年度第2回古籍の取り扱いに関する小委員会(於:学術総合センター)
- 9月19日 第11回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
- 9月19日 学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議を開催(於:学術総合センター)
- 9月29日 土曜懇話会「ヒトゲノム計画と21世紀の生命科学」(講師:榊佳之 東京大学医
科学研究所附属ヒトゲノム解析センター教授)を開催(於:国際高等セミナーハウ
ス)
- 9月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第6号を刊行
- 10月1日 研究者公募情報提供サービス(NACSIS-CIS)を科学技術振興事業団(JST)の研究
者人材データベース(JREC-IN)へ移管
- 10月3日 国立国会図書館との業務連絡会(於:学術総合センター)
- 10月5日 学協会とのデータベース等連絡会議(於:学術総合センター)
- 10月9日~20日 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援における現地指導(於:北京日
本学研究中心ほか)
- 10月10日~12日 ドイツにおける目録システム講習会を開催(共催:国際交流基金ケルン日本文化
会館および日本資料図書館連絡会、於:ケルン大学ほか)
- 10月10日~13日 第1回Mlabnet(仮想マルチメディア研究所)及び第8回WAINS(学術ネットワ
ークとシステムに関する国際ワークショップ)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
- 10月17日 第12回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
- 10月22日~26日 「2001年ダブリンコアおよびメタデータおよびその応用に関する国際会議」を開催
(於:一橋記念講堂 ほか)
- 10月23日~26日 「東南アジア科学技術情報流通促進プログラム(CO-EXIST-SEA)」ワークショップ
(主催:科学技術振興事業団)に参加(於:サイエンスプラザほか)
- 10月25日 Dublin Coreとメタデータに関する研修を実施(於:一橋記念講堂)
- 10月30日~11月1日 「DATABASE 2001 TOKYO」出展(主催:財団法人データベース振興センター、
日本データベース協会)(於:東京国際フォーラム)
- 10月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第7号を刊行
- 11月1日~2日 数値シミュレーションへの入門コース(Tutorial 2001)を開催(於:学術総合センター)
- 11月4日~11日 北京日本学研究中心図書資料館情報化支援における現地指導(於:北京日
本学研究中心ほか)
- 11月7日 ワークショップ「学術コミュニケーションの最新動向」を開催(於:学術総合センター)
- 11月14日 平成13年度第2回国立情報学研究所総合目録委員会開催(於:学術総合セ
ンター)
- 11月15日 平成13年度第2回ネットワーク上の情報資源の取り扱いに関する検討会議
(於:学術総合センター)
- 11月16日~22日 北京日本学研究中心図書資料館職員訪日招聘研修(於:国立情報学研究
所ほか)

- 11月17日 軽井沢公開講演会「物づくりと人づくり-長野の風土に根ざして-」(講師:中村恒也
セイコーエプソン(株)相談役)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
- 11月20日 第23回全国共同利用大型計算機センター研究開発連合発表講演会(於:学術
総合センター)
- 11月21日 第13回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
- 11月29日 講演会「学術コミュニケーション活動の構成要素(政策、制度、技術)の一段面」を
開催(於:東京大学総合図書館)
- 11月30日 国立情報学研究所公開講演会「電子ジャーナルに向けて:研究者・図書館・出版
社の挑戦」を開催(西地区)(於:キャンパスプラザ京都)
- 11月30日 NII Journal 第3号を刊行
- 12月5日 平成13年度第3回古籍の取り扱いに関する小委員会(於:学術総合センター)
- 12月11日 平成13年度第2回韓国・朝鮮語資料の取り扱いに関する小委員会(於:学術総
合センター)
- 12月11日~13日 「デジタル・シルクロード」東京シンポジウムを開催(於:学術総合センター)
- 12月14日 学術情報ネットワークノード担当者会議を開催(於:学術総合センター)
- 12月19日 第14回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
- 12月18日 国立情報学研究所公開講演会「電子ジャーナルに向けて:研究者・図書館・出版
社の挑戦」を開催(東地区)(於:一橋記念講堂)
- 12月20日 平成13年度第1回メタデータデータベース検討会議(於:学術総合センター)
- 平成14年
- 1月4日 スーパーSINET ノード運用開始・国際回線の増速
- 1月9日 スーパーSINET 開通式及び第2回スーパーSINET 推進協議会を開催(於:学術
総合センター)
- 1月9日 講演会「SPARCと日本の学術コミュニケーション」を開催(於:学術総合センター)
- 1月21日~2月1日 北京日本学術センター図書資料館職員訪日招聘研修(於:国立情報学研究
所ほか)
- 1月22日 平成13年度第2回メタデータデータベース検討会議(於:学術総合センター)
- 1月28日 平成13年度第2回中国との学術情報交流プロジェクト会議(於:学術総合
センター)
- 1月30日 総合研究大学院大学運営諮問会議
- 1月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第8号を刊行
- 2月4日 情報検索サービス(NACSIS-IR)の機関別定額制の試験運用開始
- 2月6日 平成13年度データベース委員会を開催(於:学術総合センター)
- 2月7日 平成13年度目録システム担当者連絡会議(於:学術総合センター)
- 2月12日 学術情報ネットワーク加入資格の拡大
- 2月13日 平成13年度第4回古籍の取り扱いに関する小委員会(於:学術総合センター)
- 2月18日~3月8日 北京日本学術センター図書資料館職員訪日招聘研修(於:国立情報学研究
所ほか)
- 2月19日 平成13年度大学図書館情報化支援会議(於:学術総合センター)
- 2月20日 第15回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
- 2月25日 平成13年度第3回メタデータ・データベース検討会議(於:学術総合センター)
- 2月27日 NIIシンポジウム「未来を拓く先端情報学」及びオープンハウスを同時開催(於:学
術総合センター)
- 2月27日 電子図書館サービス説明会を開催(於:学術総合センター)
- 2月28日 平成13年度第3回韓国・朝鮮語資料の取り扱いに関する小委員会(於:学術総
合センター)
- 2月28日 情報学シリーズ3『情報学とは何か』を刊行
- 3月1日 ネットワーク委員会を開催(於:学術総合センター)

- 3月4日 平成13年度第2回日米両国におけるドキュメント・デリバリー・サービスの改善に関するプロジェクト会議(於：学術総合センター)
- 3月5日 課金委員会(於：学術総合センター)
- 3月8日 平成13年度第3回国立情報学研究所総合目録委員会開催(於：学術総合センター)
- 3月8日 全国漢籍データベース協議会総会(於：学術総合センター)
- 3月11日 平成13年度第5回古籍の取り扱いに関する小委員会(於：学術総合センター)
- 3月14日～18日 第3回「日中韓国語の名前典拠ワークショップ」を開催(於：国際高等セミナーハウスほか)
- 3月20日 第16回NII定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 3月23日 軽井沢公開講演会「文化財としてのクラシックカー」(講師：小林彰太郎 自動車ジャーナリスト、自動車史研究者、日本クラシックカー・クラブ会長)を開催(於：国際高等セミナーハウス)
- 3月25日～29日 「東南アジア科学技術情報流通促進プログラム(CO-EXIST-SEA)」研修(主催：科学技術振興事業団)を開催(於：科学技術振興事業団、国立情報学研究所)
- 3月29日 NII Journal 第4号を刊行
- 3月25日 情報学シリーズ4『サイバー社会の商取引ーコマース&マネーの法と経済-』を刊行
- 3月31日 情報検索サービス(NACSIS-IR)「COMPENDEX PLUS」、「ISTP」、「ISTP&B」、「MathSci」及び「Harvard Business Review」のサービスを終了
- 3月28日 情報学シリーズ5『図書館ネットワークー書誌ユーティリティの世界ー』を刊行
- 3月 所内LANの増速化
- 3月 NACSIS-CAT Z39.50 ゲートウェイサーバの本格運用開始
- 3月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第9号を刊行
- 4月1日 佐和隆光前企画調整官(現京都大学経済研究所長)に、本研究所名誉教授の称号授与
- 4月1日 オンラインジャーナル編集・出版システム(NACSIS-OLJ)を科学技術振興事業団の科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)へ整理・統合
- 4月9日 機関別定額制サービス開始
- 4月10日 CiNii [サイニイ](NII引用文献情報ナビゲータ)の試験公開を開始
- 4月15日 グローバルILL(OCLCとのILLシステム間リンク)の運用開始
- 4月17日 第17回NII定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 4月18日 大学院情報学専攻(博士後期課程)入学式(於：総合大学院大学)
- 4月22日 大学院情報学専攻入学生ガイダンスを開催(於：国立情報学研究所)
- 4月23日 特別講演「大学からの研究成果の技術移転ーウイスコンシン州立大学マディソン校とワシントン州立大学シアトル校を例として」(講演：Ray BOWEN氏)
- 4月 GeNii [ジーニイ](NII学術コンテンツポータル)事業を開始
- 5月11日 「国際高等セミナーハウス5周年記念式典」及び軽井沢土曜懇話会「望ましい医療」(講師：森亘 日本医学会会長、東京大学名誉教授、国立情報学研究所評議員)を開催(於：国際高等セミナーハウス)
- 5月13日 目録システム(NACSIS-CAT)における図書所蔵レコード登録件数が6000万件を突破
- 5月15日 第18回NII定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 5月23日～27日 「数値解析と応用数学に関するセミナー」を開催(主催：日本応用数理学会、国立情報学研究所)(於：学術総合センター)
- 6月7日 学術講演会「量子コンピューティング研究の現状と課題」(講師：山本喜久 国立情報学研究所客員教授/スタンフォード大学教授)を開催(於：学術総合センター)
- 6月12日 学術研究セミナー(第1回)ー学術研究フォーラムーを開催(於：一橋記念講堂)
- 6月14日 第1回メタデータ・データベース試行運用連絡会議(於：学術総合センター)

6月19日～20日	科学研究費補助金(特定領域研究)「ITの深化の基盤を拓く情報学研究」領域全体研究会を開催(於:国立情報学研究所)
6月26日	第19回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
6月29日	軽井沢土曜懇話会「空に浮かぶ聖母—西洋美術への招待」(講師:高階秀爾元国立西洋美術館長)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
6月	RLGとの目録システム間リンクの運用開始
6月	検索専用CATPサーバの公開
6月	メタデータ・データベース構築システムの試行運用開始
6月	NII News(国立情報学研究所ニュース)第10号を刊行
6月	学術情報データベース実態調査報告書(平成13年度)を刊行
7月1日	坂内正夫企画調整官(副所長)就任
7月2日	内藤衛亮前人間・社会情報研究系主幹・教授(現東洋大学社会学部教授)に、本研究所名誉教授の称号授与
7月12日	平成14年度第1回国立情報学研究所図書館情報委員会開催(於:学術総合センター)
7月13日	軽井沢土曜懇話会「地震予測への挑戦」(講師:上田誠也 東京大学名誉教授、東海大学教授)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
7月16日～18日	パピヨン会議2002を開催(於:国立情報学研究所)
7月17日	第20回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
7月19日	第2回メタデータ・データベース試行運用連絡会議(於:学術総合センター)
7月22日～26日	ドイツにおける目録システム講習会を開催(共催:ミュンヘン大学東アジア研究所日本学科、日本資料図書館連絡会及び国際交流基金、於:ミュンヘン大学ほか)
7月23日	機関別定額制の申し込みが300機関を突破
7月24日	科学技術振興事業団との業務連絡会(於:学術総合センター)
7月25日	国立情報学研究所オープンハウス(一般公開)を開催
7月27日	軽井沢土曜懇話会「映像メディアが拓く新しい情報通信の世界」(講師:坂内正夫国立情報学研究所企画調整官[副所長])を開催(於:国際高等セミナーハウス)
7月31日	平成14年度第1回中国との学術情報交流プロジェクト会議(於:学術総合センター)
8月2日	国立情報学研究所要覧を刊行
8月5日	特別講義「量子コンピューティングの基礎」(講師:山本喜久教授 スタンフォード大学教授、NII客員教授)の開催(於:学術総合センター)
8月	NII News(国立情報学研究所ニュース)第11号を刊行
9月2日	学術情報ネットワーク(SINET)IPv6サービスを開始
9月2日～6日	「東南アジア科学技術情報流通促進プログラム(CO-EXIST-SEA)」研修(主催:科学技術振興事業団)を開催(於:科学技術振興事業団、国立情報学研究所)
9月7日	軽井沢土曜懇話会「人づくり-新世紀日本の本質的課題」(講師:小林陽太郎富士ゼロックス(株)代表取締役会長)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
9月13日	汎用連想計算エンジンGETAの公開開始
9月13日	日仏共同博士課程協定の締結
9月18日	第21回NII定例研究会を開催(於:学術総合センター)
9月20日	研究企画推進室(室長 坂内企画調整官[副所長])の設置
9月27日	平成14年度第1回ネットワーク情報資源のメタデータ・データベース(仮称)の共同構築に関する小委員会(於:学術総合センター)
9月28日	軽井沢土曜懇話会ヴァイオリンコンサート「激情と叙情～ハ短調が描くファンタジー」(演奏:大津純子(ヴァイオリン)岡田知子(ピアノ)を開催(於:国際高等セミナーハウス)
9月30日	学術関係会議等開催情報(日本学術会議編)及び学協会集会スケジュール(日本工学会編)のサービス終了
10月1日	メタデータ・データベース共同構築事業の開始

- 10月 1日 新規スーパーSINET ノード運用開始
SINET 国内回線増速
- 10月 1日～16日 メタデータ・データベース共同構築事業説明会を開催(北海道大学、学術総合センター、名古屋大学、京都大学、九州大学)
- 10月 4日 平成14年度第1回アラビア文字資料の取り扱いに関する小委員会(於：学術総合センター)
- 10月 7日 第1回定例記者会見「図書検索サイト「Webcat Plus」のサービスを開始—連想検索機能でベストの本探し—」を開催
- 10月 8日 Webcat Plus(NII 図書情報ナビゲータ)の公開開始
- 10月 8日～9日 「東南アジア科学技術情報流通促進プログラム(CO-EXIST-SEA)」ワークショップ(主催：科学技術振興事業団)に参加(於：ジャカルタ)
- 10月 8日～10日 NTCIR ワークショップ(情報検索、質問応答、テキスト要約の評価ワークショップ)成果報告会を開催(招待講演：Donna Harman 氏(米国 NIST), Amit Singhal 氏(Google)(於：一橋記念講堂 ほか)
- 10月 9日 第3回スーパーSINET 推進協議会を開催
- 10月 9日～11日 DATABASE 2002 TOKYO への出展(於：東京国際フォーラム)
- 10月 14日～16日 ADTACARA2002(文化遺産及びアーカイブ修復をサポートする高度デジタル技術に関するワークショップ)への参加(於：アゼルバイジャン共和国 バーク科学トレーニングセンター)
- 10月 16日 第22回 NII 定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 10月 24日 平成14年度第1回和漢古書の取り扱いに関する小委員会(於：学術総合センター)
- 10月 26日 軽井沢土曜懇話会「我が国の教育改革の軌跡と世界の動き」(講師：佐藤禎一 日本学術振興会理事長)を開催(於：国際高等セミナーハウス)
- 10月 28日 公開講演会「高度情報化社会の未来学—市民・大学・社会のあり方、変わり方」を開催(共催：財団法人国際高等研究所、於：一橋記念講堂)
- 10月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第12号を刊行
- 11月 5日 「学術雑誌総合目録」冊子体の刊行終了
- 11月 20日 第23回 NII 定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 11月 22日 平成14年度第2回和漢古書の取り扱いに関する小委員会(於：学術総合センター)
- 11月 26日 公開講演会「高度情報化社会の未来学—市民・大学・社会のあり方、変わり方」を開催(共催：財団法人国際高等研究所、於：大阪国際会議場)
- 11月 29日 平成14年度第2回国立情報学研究所図書館情報委員会開催(於：学術総合センター)
- 11月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第13号を刊行
- 12月 2日 日本バーチャルリアリティ学会サイバースペースと仮想都市シンポジウムを開催(於：学術総合センター)
- 12月 4日 学術情報ネットワークノード担当者会議を開催(於：学術総合センター)
- 12月 5日 学術研究情報ネットワークに関する計画調整会議を開催(於：学術総合センター)
- 12月 10日～11日 平成14年度日本研究情報専門家研修への協力(於：国立情報学研究所)
- 12月 16日～19日 韓国との目録データ交換及びシステム間リンクに関する協議(於：韓国国立中央図書館、韓国教育学術情報院(KERIS))
- 12月 17日 第2回定例記者会見「情報アクセス技術の評価会議 NTCIR ワークショップ—サーチエンジンの力くらべ—」を開催
- 12月 18日 第24回 NII 定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 12月 18日 ネットワーク委員会を開催(於：学術総合センター)
- 12月 20日 平成14年度第3回和漢古書の取り扱いに関する小委員会(於：学術総合センター)
- 12月 26日 国立情報学研究所要覧(英語版)を刊行
- 平成15年

- 1月 6日 新規 SINET ノード(5 機関)運用開始・国際回線の増速
- 1月 15日 グローバル・リエゾンオフィス(室長 根岸国際・研究協力部長)の設置
- 1月 15日 第 25 回 NII 定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 1月 17日 第 1 回 NII イブニングフォーラム「情報・通信の将来展望」(講師：坂内正夫 企画調整官(副所長)/小野欽司 研究総主幹/藤山秋佐夫 情報学基礎研究系主幹/山田茂樹実証研究センター長)を開催(於：学術総合センター)
- 1月 17日 平成 14 年度データベース委員会を開催(於：学術総合センター)
- 1月 20日 第 3 回定例記者会見「次世代オペレーティングシステム SSS-PC を開発—オフィスの PC を束ねて高性能高信頼システムを構築する新 OS—」を開催
- 1月 21日 平成 14 年度第2回ネットワーク情報資源のメタデータ・データベース(仮称)の共同構築に関する小委員会(於：学術総合センター)
- 1月 22日 公開講演会「IT の深化の基盤を拓く情報学研究」を開催(於：学術総合センター)
- 1月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第 14 号を刊行
- 2月 14日 平成 14 年度第 2 回アラビア文字資料の取り扱いに関する小委員会(於：学術総合センター)
- 2月 18日～21日 平成 14 年度情報処理軽井沢セミナー「D と SPSS」を開催(於：国際高等セミナーハウス)
- 2月 19日 特別講演会「シルクロード中央アジア地帯における隊商の活動のデジタル保存の試みについて」を開催(講演：パリ・バルド・セヌ建築大学 ピエール ルビーグル教授)(於：国立情報学研究所)
- 2月 19日 第 26 回 NII 定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 2月 19日 電子図書館サービス連絡会議(於：学術総合センター)
- 2月 25日 電子図書館サービス説明会(於：学術総合センター)
- 2月 28日 国立国会図書館との業務連絡会(於：国立国会図書館)
- 2月 28日 情報学シリーズ 6 『電子ジャーナルで図書館が変わる』を刊行
- 3月 5日 第 1 回 NII 国際シンポジウム「電子図書館と電子ジャーナル：新しい挑戦」を開催(於：国連大学ウ・タント国際会議場)
- 3月 5日 NII Journal 第 5 号を刊行
- 3月 10日 第 4 回定例記者会見「NetCommons：インターネット時代のネット教育・市民活動支援システム—国立情報学研究所がモニター100 団体を募集—」を開催
- 3月 10日 平成 14 年度第 3 回国立情報学研究所図書館情報委員会開催(於：学術総合センター)
- 3月 13日 リサーチグリッド連携研究センター事務所開き(於：学術総合センター)
- 3月 15日 軽井沢土曜懇話会「歴史に見る暗号・現代の暗号」(講師：辻井重男 中央大学教授、東京工業大学名誉教授)を開催(於：国際高等セミナーハウス)
- 3月 17日 大学 Web サイト資源検索(JuNii 大学情報メタデータ・ポータル試験提供版)の公開
- 3月 17日 研究紀要ポータル公開
- 3月 17日～18日 「実世界インタラクションの論理」第 2 回国際シンポジウムを開催(主催：北陸先端科学技術大学院大学、共催：国立情報学研究所、産業技術総合研究所サイバーアシストセンター)(於：学術総合センター)
- 3月 19日 第 2 回スーパーSINET シンポジウム「スーパーSINET を用いた研究の現状」を開催(於：一橋記念講堂)
- 3月 19日 第 27 回 NII 定例研究会を開催(於：学術総合センター)
- 3月 24日 国立情報学研究所セキュリティポリシー(基本方針)の制定
- 3月 25日～30日 CEAL 年次総会及び NCC オープン会合へ参加(於：米国・ニューヨーク)
- 3月 25日 「NetCommons 100 本プロジェクト」開始
- 3月 25日 情報学シリーズ 7『化学情報学—化学反応の系図と反応予測—』を刊行
- 3月 26日 学術研究セミナー(第 2 回)～独創性の源を探る～(於：一橋記念講堂)

- 3月31日 情報検索サービス(NACSIS-IR)「学会発表データベース」、「学術論文データベース(第一系、第二系、第五系)」、「臨床症例データベース」及び「研究者ディレクトリ」のサービスを終了
- 3月31日 研究活動資源ディレクトリ(NACSIS-DiRR)のサービスを終了
- 3月31日 情報検索サービス(NACSIS-IR)とJST オンライン情報システム(JOIS)との間のゲートウェイを廃止
- 3月31日 NII Journal 第6号を刊行
- 3月 学術情報データベース実態調査報告書(平成14年度)を刊行
- 3月 NII News(国立情報学研究所ニュース)第15号を刊行

平成 13・14 年度
国立情報学研究所年報

平成 16 年 2 月 27 日発行

発行者 国立情報学研究所
〒101-8430
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
03-4212-2000
印刷者 日本印刷株式会社

NII